独占激白!! 橋本真也が帰ってきた!!

紙のプロレス RADICAL 33

2001

宇宙で唯一の
“マット界の総合誌”
創刊4周年
記念号

ここがエライ!!
桜庭和志
髙田延彦

秋山準

谷津嘉章

前田日明

斉藤彰俊

ミスター・ヒト

アレクサンダー大塚

コマンド・サンボの真実

小川直也

展望特集
12・22 リングス大阪
12・23『PRIDE.12』
12・31『猪木祭り』

山本宜久

船木誠勝
引退記念語録

21世紀型プロレスの行方
ノア/バトラーツ
DDT/FMW
クラブファイト
コンテンダーズ 他

ANTON

なんでもいいから 凄工試合をやってくれ!!

不安だらけのマット界だから……
ちょっと足を止めて考えてみた……

紙のプロレスRADICAL NO.033 凄工試合をやってくれ!!
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188

新世紀のマット界へ
本誌からの提言!!
（または希望）

ANTON

なんでもいいから凄ェもんを見せてくれ!!

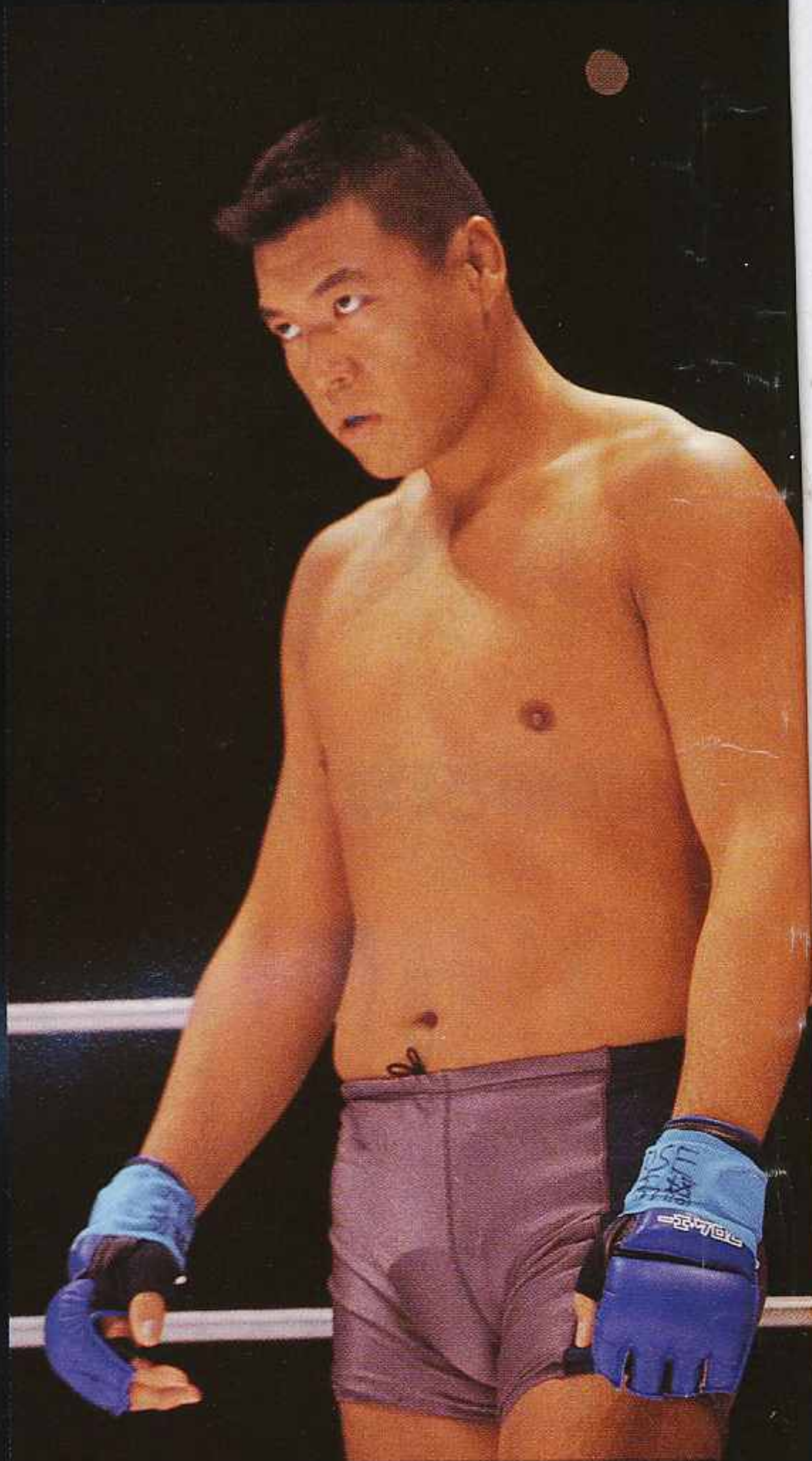
小川よ、キミの戦う場所にゃ
海より大きな夢がある

一体、誰がこんなことを予想しただろう

FOOL ON THE RING
馬鹿になれ!!
21

小川直也

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／森鷹博
photographs by Morry

悪いことばっかりしてる奴が、一回でもいいことをすると光るんだよ

一体、誰がこんなことを予想しただろうか？

10・31『PRIDE．11』――vs佐竹雅昭戦2R2分1秒裸絞め、小川直也の勝利！

という結果のことではない。むしろ、元K―1戦士の佐竹雅昭のパンチをかわし、顔面にジャブを叩き込んでいく、小川の吸収力と対応力を見せつけられるとは！

さすが五輪銀メダリストである。その身体能力には驚かされるばかりだ。

「何で小川は試合に出ないんだ？」

「小川はチキンハートだ！」

「逃げてばっかりでホントは弱いんじゃないの？」

誰だ、そんなこと言ったヤツは!? オーちゃんに謝れ！

とは言いませんが、まあ、もう少しバッシングするならするで、面白ェバッシングをすればいいというか。

いまも、オーちゃんの飛行高度はとてつもなく高くなっている！

そして、向かうは〝グレイシー〟最後のボスキャラ、ヒクソン！

ヒクソン戦実現は秒読みに入ったとも言われているが、ヒクソン戦前にも、何でもいい

から、凄ェ試合をやってくれというか!!　それがオーちゃんへの要望である。では、佐竹戦勝利後初のオーちゃんインタビュー、行きま～す。

――さっき、モーリー（カメラマン）が「小川さんの撮影だから緊張して眠れなかった」って言ってましたよ。

モーリー　お、小川さんの撮影は毎回凄い作品が撮れるんで、緊張するんですよ。

小川　ま～た、そんな嘘ついて（笑）。

モーリー　（真剣に）いや、本当ですよ。

小川　モーリーはUFOから唯一の出入り禁止のカメラマンにしよう。いいじゃない？（笑）。

モーリー　（必死に）そ、それはシャレ抜きで、やめてくださいよ！

小川　試合になったら彼だけ出入り禁止。それをブチ破ってこないといけないというね（笑）。

――プロとして、より高い壁に挑む（笑）。

小川　「そんなもの聞いてなるものか！」って、こっちが言うと（笑）。

――ガハハハハ！　それじゃ、本番よろしくお願いします。佐竹戦をキッチリと勝ちました。おめでとうございます。

小川　ありがとうございます。キッチリとじゃないけどね。けっこう危なかったですからね。

――それは後ほど。佐竹戦前後に、「おめでとう」が重なりましたね。

小川　は？　なんですか？

――村上選手の結婚が発覚しました（笑）。

小川　（わざとらしく）あ～、そんなこともありましたね（笑）。佐竹戦で勝ったのが「村上の結婚で消されたかな？」みたいな（笑）。

――ガハハハハ！　話題的に（笑）。

小川　ひどい奴だね、あいつは。結婚発表するなら、俺の試合の前にしておけって（笑）。佐竹戦やって「勝ったぜ。イエーイ！」って喜んで「あ～、怪我してどうしよう?」って悩んでるときに、ブッたまげたニュースが出ちゃってさ。「村上入籍！」だって（笑）。

――ガハハハハ！　日刊スポーツでデカデカと。

小川　まるで図ったような奴だなあいつは。俺への嫌がらせだね（笑）。きっと、嫉妬だったんだろうね。

――きっと、嫉妬?　なんだかわからないけど、韻を踏んでますね（笑）。

小川　村上は佐竹選手に負けちゃったでしょ（8・27『PRIDE.10』）。だから「なんで小川の野郎、俺が負けた佐竹に勝ったんだ！」みたいな感じで、「あいつの話題を消してやれ！」って思ったんじゃない？「だから俺、結婚発表する！」みたいな感じがあったのかもしれないね（笑）。

&ス・ンダルで消されたかな?」みたいな（笑）

――ガハハハハ！　相手は一部ではカリスマ的人気を誇る女性ラッパーのRIMちゃんですよ。

小川　村上の嫁さんには悪いけど「ちょっと知りませんでした」って感じだね（笑）。知ってました？

――いや、ボクも知りませんでした（笑）。RIMちゃんのラジオ番組のブッキングをお手伝いして、初めて知りました。

小川　でも、日本女性初のラッパーなんでしょ。この機会にボクは知ったんで、みなさんもこれで知ったんじゃないですかね。

――元々、小川直也のファンって聞いてたんですけどね（笑）。

小川　（大声で）ウソッ⁉　だって新聞には好きなレスラーの欄に「アントニオ猪木」とあって、それはいいんだけど、そこからがダメ。次見ると、「橋本真也」って書いてあるんだもん（笑）。一応、当ホームページの『不定期日記』で〝驚いた事件〟として載せさせてもらいました（笑）。

――ガハハハハ！　それは驚くでしょう。

小川　結婚に対しては「おめでとう」なんだけど、村上も「ダメだよ、それを言っちゃ！　小川さんに怒られちゃうよ」って言えよ！（笑）。「カミさんぐらい教育しとけよ！」みたいな感じだね、間違っても言っちゃいけないレスラーの名前でしょ。「ハ・

シ・モ・ト・シ・ン・ヤ」なんて。

10.31BOUT REVIEW

○小川直也　2R2分1秒 チョークスリーパー　佐竹雅昭●

ゴジラの咆哮とともに入場してきた佐竹を睨みつける試合開始前のオーちゃんは、まさにゴジラそのもの！　こ、怖い……

元K－1戦士・佐竹の顔面に的確に右ジャブを叩き込んでいた小川。恐るべき対応力に会場内からは驚きの声があがる

佐竹のハイキックもスウェーでかわす。連日の伊原ジム通いで磨かれた打撃に対する対応力は、こうした並々ならぬ動体視力に支えられているのだ

元K－1ファイターの顔面に左ジャブをヒットさせてしまうプロレスラーは他にいるのか？　佐竹はこれで目尻をカット

FOOL ON THE RING
馬鹿になれ!!
21

小川　ひどい奴だね、あいつは。結婚発表

シ・モ・ト・シ・ン・ヤ」なんて。
——ガハハハハ！　しかも、結婚が発覚した後に、スキャンダルまで発覚（『FLASH』誌上で元AV女優の青山ちはるに告発された＝P54参照）ですからね（笑）。
小川　でもあいつは師匠の教えを守ってないね。会長（アントン総帥）はいつも言うんですよ。「俺がいまでも悔しいと思うのは、『フライデー』に（女性スキャンダルを）やられたときに、なぜピース・サインが出来なかったのか？」って。（笑）。
——ガハハハハ！　さすがだ（笑）。
小川　「だから、おまえら、そういうスキャンダルに巻き込まれたときは、大手を振ってピースをして男を上げろよ」と、常々そうおっしゃってたんですよ。
——UFOにはそういう社訓があると（笑）。
小川　考えてみたら、とんでもない奴ですよ、村上は。俺の佐竹戦の勝利を揉み消すような結婚&スキャンダルでしょ。そしてピースサインはしない（笑）。だから、『紙のプロレス』で2回連続に分けて企画やりましょうよ。前半は「村上の精力分析」（笑）。普通、プロレス雑誌だったら、技とかテクニックの分析ってあるでしょ。でも、彼の場合は精力の分析（笑）。
——図解付きですね、当然（笑）。なんだか村上選手は、〝1回3時間〟で3〜4回するらしいですね、『FLASH』によれば（笑）。
小川　『FLASH』では赤裸々に綴られてるけどね。男の俺としたら「凄い奴だな」って。うらやましい！（キッパリ）。俺の睡眠時間より上だからね（笑）。俺が「おやすみなさ〜い」と言うと同時にスタートしたとしても、あいつ、俺が起きてもまだやってるわけでしょ（笑）。
——ネットへの書き込みで「試合でもそれぐらいのスタミナを見せろ！」って書いてあるのを発見しましたけどね（笑）。
小川　ガハハハハ！　ごもっともな意見だね、本当に（笑）。一部では「試合では5分で息上がるのに、なんであっちは1日9時間もやってんだ！」って言われてるらしいから（笑）。テクニックも凄いらしいし。「彼は大きくて自信がありました」って元AV嬢に言われちゃってさ。凄いよねえ（笑）。
——村上一成の〝男〟が上がりましたね（笑）。

佐竹戦で勝ったのが「村上の結婚&スキャンダ

小川　（即座に）うらやましい！　もう、あいつの肩書きは『平成のテロリスト』じゃないね。俺が命名するよ。これからは『平成のバイアグラ』!!（笑）。
——ガハハハ。直球だ！（笑）。『FLASH』問題の後は村上選手と話しました？
小川　まじめな話、最近はなんか緊張してますよ、いつもより。伊原道場に毎日行ってるっていう話も聞きますしね。
——しおらしくなっちゃった？
小川　彼らしくないね。このまま行ってほしかったね（笑）。
——でもね、村上選手のお陰で『FLASH』に、『紙プロ』もデビューすることが出来たんですよ（笑）。「彼（村上）が私の部屋に置いていったプロレス雑誌」として、写真に写ってましたね。
小川　彼の賢いところは、なぜか『週プロ』と『紙のプロレス』しか読んでないところだね（笑）。なぜだろう？（笑）。もう1誌あるはずけど、なかったね。
——『週刊・長州力』は読んでなかったってことですね（笑）。
小川　判明したね！　彼も『週プロ』と『紙プロ』信者ですよ！　あ！　最近のHPの日記にも書いたけど『紙プロ』を読みたいって人がいるにも関わらず、コンビニに売ってないって苦情が非常に多い！
——いや、ら、来年こそはコンビニに置こうと思ってますので、もうしばらくお待ち下さい。
小川　後輩にも「これはどこで売ってるんですか？」って聞かれるんですよ（笑）。
——本屋です（笑）。

小川は横四方の体勢から、すぐにマウント・ポジションへ移行。もう、ここまで来ると佐竹は完全になす術なしか

2Rに入ると、小川は片足タックルから足を刈ってテイクダウン。"オーちゃんの庭"へと導くことに成功した。

こんな顔の佐竹は何度も見たことはあるが、今回ばかりはわけが違う。相手は柔道家でK－1戦士ではない。凄いぞ、オーちゃん！

小川のパンチがヒットするも、佐竹のローもしっかりと小川にダメージを与えていた。後日、佐竹が「なんで倒れないんだろう？」と首を傾げていたという

小川　やっぱコンビニですよ！　だってどこにでもあるでしょ。『週プロ』は置いてあるでしょ。『紙のプロレス』だけないっておかしいでしょ。

――（咄嗟に話題を変えるように）さ、村上ネタとコンビニネタはともかく！（笑）。

小川　あれ？　終わっちゃうの？　まだいけるのに（笑）。

――ガハハハハ！　ところで、佐竹戦前までは「いい加減に試合しろ！」とか「小川は『PRIDE』から逃げている」とか言ってた人もいましたが、そういう人たちに、いま言いたいことはありますか？

小川　その人たちにはもう言いたいことはない！　そういう人たちは、こっちへの応援の裏返しだから。素直に「試合を見たい」って言ったらいいのに、なんで「この野郎！」とか言うのかな？　でも、よく言えばお客さんですからね。

――悪く言えば？

小川　悪く言えば騒ぎ屋っていうんですか？（笑）。競馬の世界でもいたんですよ、関係ないのに騒ぐ奴が。ただ騒ぐのが好きなんでしょうね。騒ぎに加勢する奴がいるんですよ。『遠山の金さん』に出てくる「どうなんだ！　そこの女」とか言う奴みたいな（笑）。そういうのに対して俺が「控え～い」と言ったりね。そんな感じです（笑）。勝った後は「一件落着」みたいなね（笑）。

――ガハハハ！　あの佐竹戦を見て改めて思ったのは、イザとなった時に「もう、どうにでもなれ」と腹を括れる強さを持った人なんだな、ということですね。

小川　あれぐらいの準備は、常にしてますから。辛いですけどね、試合をやるかやんないか決まんないのに準備だけはしてる状態って。

――まさに「いつ何時、誰の挑戦でも受ける」ですね（笑）。

小川　会長の教えがよくわかりますよ。その試合のために練習するのではなく、日々の鍛錬で、いつでもどんなことにでも対応出来るようにするという。実際に佐竹戦が正式に決まったのは（アントン総帥の）詩集出版記念パーティーのときでしょ。それまで全くわからなかったし。

――佐竹戦に照準を絞って練習してたわけじゃないですからね。小川さんの凄いところは「どうにでもなれ」って気持ちの裏側に〝根拠〟があるんですよ。

小川　プロレスはストーリーを自分で作っていくものだから。みんな、歴史は勝手に作られてるものだと思ってるんでしょうけど、自分で作るものだから!!

11・15付の「スポーツ報知」の一面に「小川vsヒクソン実現か」の文字が躍った。11月末、「コロシアム」側はヒクソンの相手をオーちゃんに絞ると明言した

――なるほど。大口を叩くにしても、ハードな練習してるという〝根拠〟がある。小川さんは練習もあまり見せないし、本心もなかなか言わないから見えにくいけど。

小川　いやいや、今回は試合の後に言ったじゃないですか。手品師みたいに（笑）。

――ガハハハ！　ネタばらし（笑）。

小川　「打撃で勝とうとバカな考えを起こしてしまいました」って（笑）。試合後、打ち上げで、桑田佳祐さんにお褒めを預かりましてね。「最後のコメントが痺れましたです」って（笑）。「新しいものじゃなくて、昔の80年代を思わすような感じでしたね」って。

――でも、あのコメントは抜群ですね。

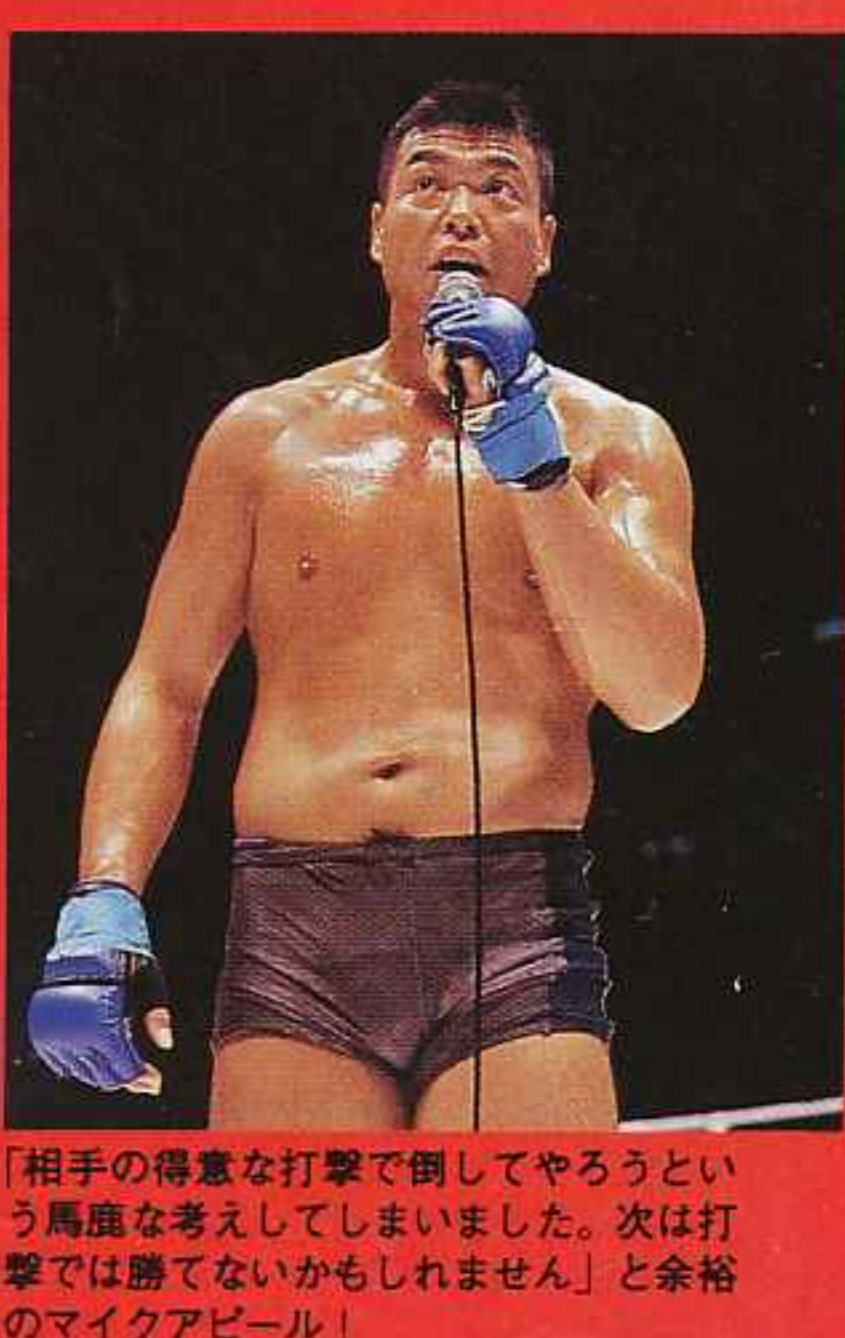
小川　いや、言いたくないんですよ、ボクは！　ボクだって爽やかに「大学の関係者のみなさんありがとうございました。またボクの試合ぜひ見に来てください。よろしくお願いしま～す」で終わっちゃえばいい。だけど、それだとブーイングだと思うから、ああいうマイクで締めたんですよ（笑）。試合後には、「小川が何か言ってくれるだろ？」っていう雰囲気で、「帰っていいよ」っていう拍手が始まってくれないから、「何か言わなきゃいけねえのかな？」って思って（笑）。雰囲気を察知して言わざるを得ない状況に追い込まれてしまった（笑）。ボクって可哀想じゃないですか？

――ズコッ！　自分で言わないでください（笑）。

小川　端から見てると偉そうかもしれないけど、ボク自身は可哀想なんですよ。何か言わないとお客さんが満足して帰してくれないっていうね。俺はそれでもよかったんだけどね。爽やかなイメージでいきたかったから。そっちのほうがいいよ、みんな応援してくれるし。

――なんか含みがあるな（笑）。

小川　（『PRIDE．11』の）ビデオを見

この日の飛行機ポーズは、手のひらをパタパタ。UFOというよりもバタフライ。蝶のように舞い、蜂のように刺す！　ホラ吹きオーちゃん、ボンバイエ！

「相手の得意な打撃で倒してやろうという馬鹿な考えしてしまいました。次は打撃では勝てないかもしれません」と余裕のマイクアピール！

佐竹はマウントパンチを嫌って、腹這いに逃げる。すると小川は亀になろうとする佐竹を潰す。そして裸絞めに。この連携はさすがだった

元柔道世界王者・小川の裸絞めにさすがの佐竹も即座にタップ。この後、小川はリングの上で大の字に寝ころんで、勝利の味を噛みしめていた

FOOL ON THE RING 馬鹿になれ!! 21

小川直也

関係者も、お客さんの意向を察知して少しぐらい応援してくれればいいのに

てたら「○○選手、タックルに入りました！　このタックルをするには何万回、何億回のタックルの練習が……」とかいう実況あったでしょ？　誰の闘いかは敢えて言わないけど。

――ああ、ありましたね。

小川　「みんな誉めて、なんで俺のときだけはケナすのかな？」っていうのはありますよ。

――ケナしてはないですよ（笑）。

小川　俺の実況は何一つ褒めるってことがなかったからね。もうサイコーだったよ、あれ。

――確かに佐竹選手のことばっかりしゃべってましたよね。

小川　「ロー効いてますよ。ロー！」だって。「ロー」しか印象に残ってないよ（笑）。いかに俺を突き落とそうかっていうのが見えるよね（笑）。佐竹選手の目尻から血が出てるにもかかわらず「ロー効いてますよ」って言い続けるんだから（笑）。（アッサリと）ま、そういうこともありました。

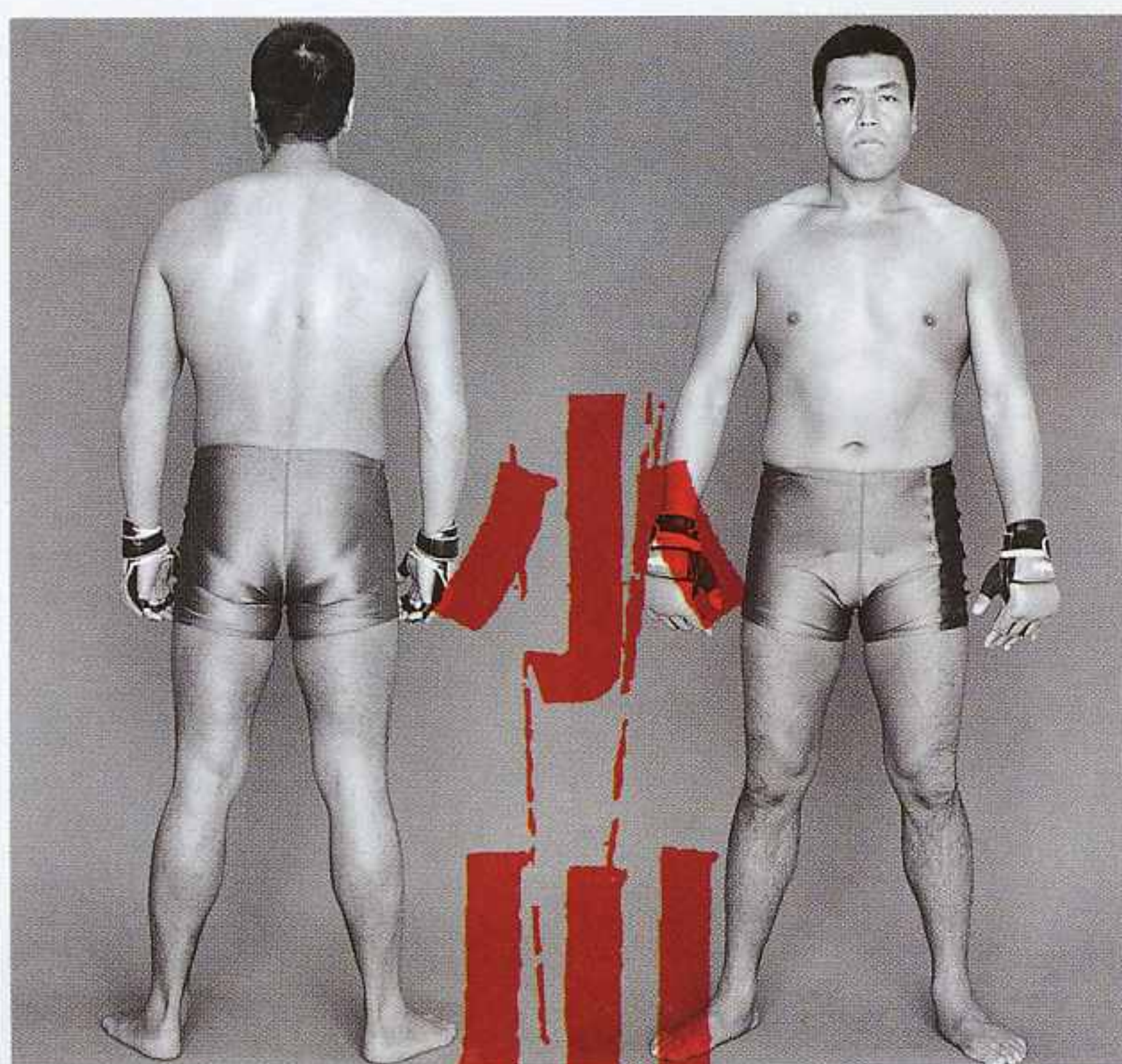
――ガハハハハ！　確かに小川さんは、関係者からの応援は極端に少ないですよね（笑）。

小川　だから、お客さんの声援が本当にありがたいですよ。関係者も、お客さんの意向を察知して、少しぐらい応援してくれればいいのにさ。でも、逆にこういう状況がいいのかもしれないね。いまの政治だってそうじゃないですか？　目立つのは無党派とかそういう層だから。

――もし、関係者がみんな小川直也を誉めだしたら怖いですね。

小川　（即座に）危ないね！（笑）。

――ガハハハハ！　小川さんがまず、イの一番に嫌になっちゃうと思うけど（笑）。

小川　俺も誉められ慣れてないから（笑）。関係者も「この人はいくらケナしても大丈夫だから、ケナしちゃえ！」っていう人が多くない？　「こいつはケナすためにいるんだ」みたいなパターンでしょ（笑）。

――ケナされ屋（笑）。でも試合開始前の睨み合いの目は、実に凄い目をしてましたね。

小川　目じゃなくて、人間これから「殺る！」って時には、やっぱりあれぐらいいね。そういうのは必要ですからね。

――相手に合わせてのシュミレーションうんぬんじゃなくて、いつ何時でも誰でも出来るっていう対応ですね。

小川　そう？　やる以上は、もうしょうがないじゃないですか。開き直らないといけないし。「殺るんだったら殺ってみろ！」みたいな感じでいかないとダメだと思うし。「殺るか、殺られるか」だったら、やっぱり「殺る」しかないじゃない。そういう気持ちは絶対大切だと思う。

――でも、プロレスラーの中にも「殺るか、殺られるか」「あいつを殺る」って言う人に限って、〝根拠〟がなくて、試合に殺気が立ち昇らないっていうパターンもありますよね（笑）。

小川　人のことはよくわかんない（笑）。でもさ、『PRIDE』の文句は言いたくないけど、方向性っていうのがイマイチ掴めないっていう感じがあるんだよね。

――どういった点ですか？

小川　関係者はスポーツライクにしたいんだろうけど、谷津（嘉章）選手の試合を例に取っちゃうと、俺は「絶対にやり過ぎじゃねえか？」って思っちゃったね。

――あの試合は凄かったですね。もっと早く止めてもいいと。

小川　大会の趣旨がスポーツライクなものだったら、ボクシングなんてもっと止めるの早いでしょ。ましてやボクシングより薄い皮のグローブで、おまけにヘビー級がバシバシやって。見てたら（ゲーリー・）グッドリッジも困ってたよね。「これ以上やったらヤバいよ」って顔してたよ。で、実は俺、そのときちょうどお客さんの方を見てたんですよ。

――観客の反応をリサーチ！

小川　やっぱお客さんあっての俺じゃない（笑）。「こういう場合、マニアのファンはどうなるのかな？」って思ったら、みんな「もっとやれ！」って目をしてましたね。その瞬間、「こいつら人殺しの共謀者だな」って思ったよ、本当に（笑）。誰ひとり「止めろよ！」って奴はいなかったもん。残酷だなって思ったね。そういうのを見て「『PRIDE』はスポーツライクな場所じゃない」と思ったよね。

――とすると、小川さんとしたら『PRIDE』はスポーツライクな場所になって欲しいんですか？

小川　でも、あの場所にはプロレスの図式が出てるなと。「vsプロレス」という立場の『PRIDE』なのに。

――最近は特にプロレス的ですよ、雰囲気が。

小川　だから、いまいち方向性がよくわからない。

――小川さんは『PRIDE』の方向性がよくわからない、『PRIDE』から見ると小川さんの方向性がよくわからないってことになるんでしょうね（笑）。

小川　ダーッハッハ。ああいう試合内容もOKだけど、逆に『PRIDE』だったら、スポーツライクなものがOKなんじゃないの？　ファンもさ、あの橋本真也vs俺の闘いでさえ、「もういいよ！」っていうファンはいたけど、谷津選手の試合では「もういいよ！」っていうのがいなかったからね。

――確かに残酷ですよね、ファンの存在というのは。

小川　あの声援は「谷津選手、勝って！」の声援じゃないもん。矢吹丈がもうヘロヘロなのに「立つんだ、ジョー」っていう感じだもんね（笑）。

――要は「絶対に倒れないという気迫を見た」ことへの声援ですよね。

小川　だから、そういう部分では方向性が見えなかったね、この前の大会は。あのときのお客さんの目を見た時には寒気がしたね。だからある意味、ローマ時代の『パンクラチオン』だっけ？　あの牢獄に入ってる者同士が闘って殺し合いをする。

――それを貴族が見るんですよ。

小川　そう、お客さんはみんな貴族だった。

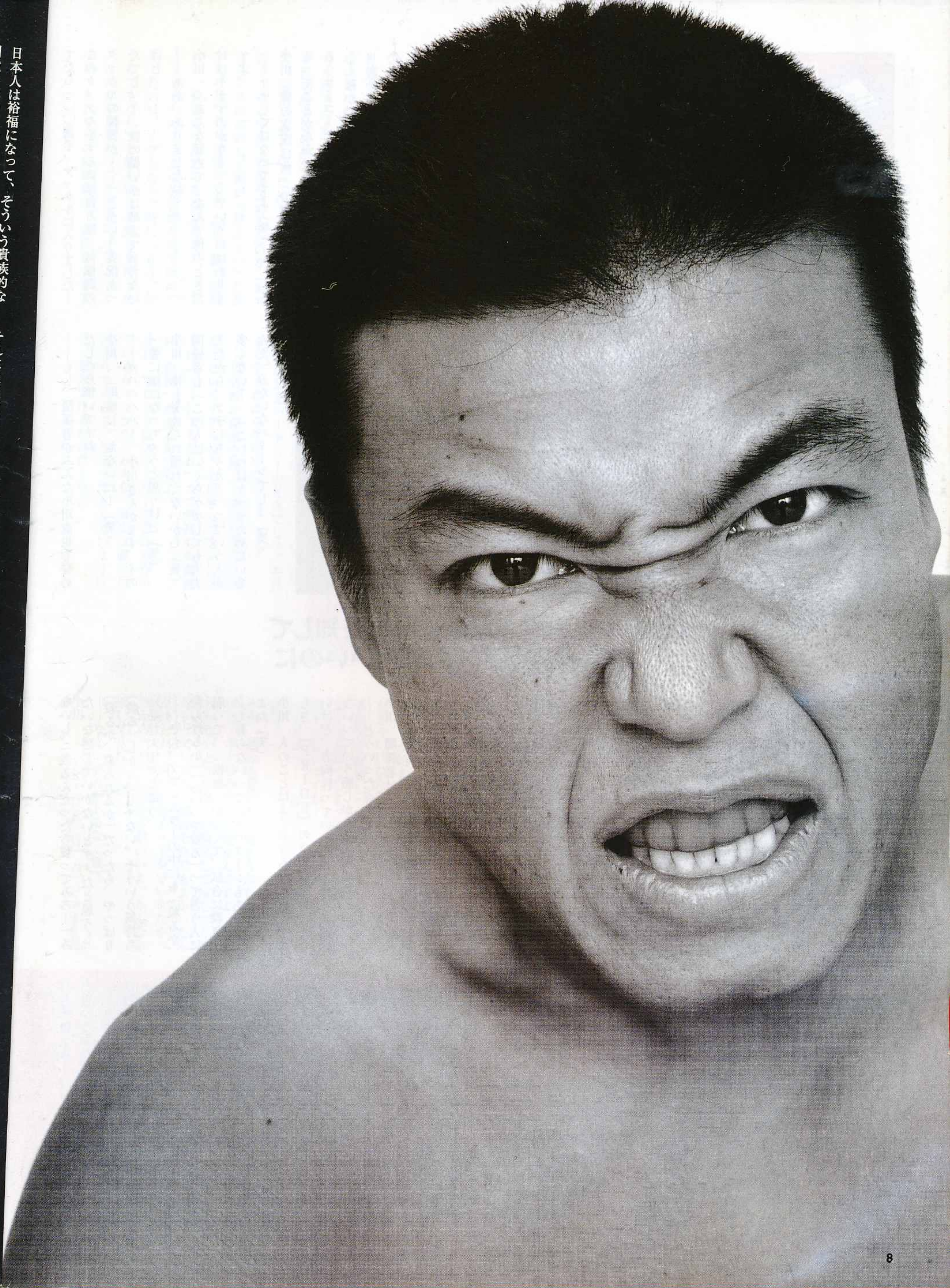
日本人は裕福になって、そういう貴族的な
刺激を求めるようになってきたのかなって。
そういう難

それに主催者側も一緒になって乗ってやっ
ちゃてるから

しかったですよね。

FOOL ON THE RING
馬鹿になれ!!
21

小川直也

なぁ〜んで、そこに佐竹選手の名前が入ってくるんだよ〜

日本人は裕福になって、そういう貴族的な刺激を求めるようになってきたのかなって。そういう難しい話をすると、俺らしくないんだけどさ（笑）。

——佐竹戦で凄いと思ったのは、小川さんが陣地取りの方法を本能的に身につけてるってことですよね。必ず、小川さんが中心にいて佐竹選手がグルグル回るという。よく「強い者が真ん中にいて、弱い方が回りをグルグルまわるんだ」とか言われますけど、陣地取りとプレッシャーのかけ方っていうのが本能的ですよね。

小川　だけど最初の方、掴みに行って掴めなかったのは事実だし、1Rの残り4分ぐらいから、「もういいや」って思っちゃってね。「掴めねぇもんは掴めない。ちょっと作戦変えるしかねえな」って思って。

——元K—1選手相手に打撃で挑もうと（笑）。

小川　当然向こうは、（タックルを）切る練習はしてきただろうしね。『ＰＲＩＤＥ．10』で村上一成と試合をやったことで進歩してたよね。こっちも、試合をやる予定はなかったけど「小川、遊んでないでやれよ、試合を！」っていうような人たちに対して、なんらかの返答ができる試合が出来たってことは、よかったね。

——残酷なファンの目、つまり「対観客」というのは最終着地点じゃないとしても、プロとしてはくぐり抜けなきゃならないものですからね。

小川　ファンは谷津選手の試合を見て応援しちゃうし、逆に俺みたいな試合しても応援しちゃうし、お客さんはどっちにしろ怖いなって思って（笑）。それに主催者側も一緒になって乗ってやっちゃてるから「怖いとこだな、ここは」って（笑）。第2試合（ギルバート・アイブルvsヴァンダレイ・シウバ：シウバのローブローで試合中断。そのままノーコンテスト決着）なんかは、自分が抱えてる選手同士だから、金蹴りだけでノーコンテストになっちゃうのにね。かたや、他のところから選手が来たら「殺すまでやれ！」みたいな雰囲気でさ。ま、そんなようなことを言いたかったのね、最後は。ちょっと皮肉を込めて（笑）。

——そういう小川さんの方が怖いですね、ボクは（笑）。それにしても、桑田さんの登場は盛り上がってましたね。

小川　本当にね。桑田さんも、今回歌をつくっていただいたんだけど、これもホントはいろいろ経緯があるんだよ。（しみじみと）それにしても、あの歌はよかったなぁ。

——あの歌は出番を待つときには聞こえました？

小川　（嬉しそうに）聞こえましたぁ！『音楽寅さん』でも見てたんですけど、桑田さんも心配してたんだねぇ。お客さんに受け入れられるかどうかって。俺なんか「桑田さんだったら大丈夫ッスよ」みたいな感じだったから以外だったね。桑田さんも、ほら、格闘技ファンだから、その気持ちが余計にわかるじゃないですか？

——でも、エンターティナーとしてやっぱり凄いですよね。昔だったら芸能人がリングの上に上がればもうブーイングの嵐。10年以上前ならビートたけしが出てきたって、物が飛んでたわけですから（笑）。いまは時代が変わったとはいえ、本質的にそういう客層が集まる中で1万何千人をちゃんと掌の上に乗せちゃいましたからね。

小川　ギター持ってきただけでも、「ウワーッ」てなる人だからね。歌も断然、素晴らしかったですよね。それがアドレナリンが一番出ましたからね！　あの歌を聞いてるときが！

——小川さんは熱狂的な『サザン』ファンですからね。小川選手が「なんで佐竹の名前が入ってるんだ！　俺の歌なのに」となって、モチベーションが断然上がったっていう噂もあるんですけど（笑）。

小川　まあね（笑）。元々はね、俺がサザンの茅ヶ崎球場のライブに飛び入りしたお返しにということで実現したことだったから。

——それで小川さんがあんな目になっちゃったんですか？（笑）。

小川　「なぁ〜んで、そこに佐竹選手の名前が入ってくるんだよ〜」みたいな気持ちもなきにしもあらずなんですけどね（笑）。まあ、試合の応援歌ってことで来れば当然ねぇ……。まあ、最初の企画段階で漏れちゃって、ちょっと歌詞が変わっちゃったところがあるみたいですね。裏話ですけど。

——試合後のコメントでは、「プロレスラーだから相手の土俵にのる。元K—1戦士に打撃で挑む。そういうロマンがあってもいいんじゃないか」って言ってましたよね。やっぱり相当の自信と天賦の才と根拠がないとああいう発言はできないと思うんですよ。

小川　試合後の共同インタビューしてても、非常にプロレスの会場とは違って、リアクションが跳ね返ってこないっていうか、キャッチボールが出来ないんですよ。全然リアクションもないし、笑いもないし（笑）。

——ガハハハハ！　笑えよって（笑）。

小川　「ウケてないんだ！　俺、やっちゃったかな？」みたいなね（笑）。記者もああいうときは、一歩引いて見てるじゃない。もうちょっと記者が前面にきてほしかったなっていうのはあるよね。じゃないと話せないじゃないですか（笑）。

——知ってる人いないし（笑）。

小川　全然アザだらけでもなんでもないんだけど、「顔中傷だらけで、体中アザだらけで」ってコメントしたら、その瞬間みんなサラサラサラって（メモしているジェスチャー）。それが、次の日には記事になってるんだもん。「アチャー！　真面目に受け取ってるよ」って（笑）。

——ガハハハハ！　今回、試合前には、かなりナーバスになってたという報道があったんですけど、実際、試合のプレッシャーはどうだったんですか？

小川　券が売れた後は快調にいったんですけどね、券が売れる前はね……。

——そのプレッシャーか！（笑）。

小川　プロですから！　『ＰＲＩＤＥ』も素敵だよね。「今回は記者会見しないんですか？」って聞いた瞬間に、「券が売れたからいいです」だって（笑）。ということは、いつも券が売れてね〜んじゃないの？　って思った小川直也でした（笑）。

——ガハハハハ！　でも、今回も当然ルールミーティングは出ない。当然、最後のリング上での記念撮影にもいない（笑）。そういう意味でも面白いですよね、小川さんの『ＰＲＩＤＥ』での存在の仕方は。

小川　（寂しそうに）だ〜って、『ＰＲＩＤＥ』の選手じゃないんだもん、俺。

——イジけてる転校生じゃないんですから（笑）。

小川　いつも冷や汁だから……あっ！　間違えた！　冷や飯だ。ごめんなさい、冷や汁はおいしいうどんでした。

——ガハハハハ！　冷や汁のように冷めた視線を感じるわけですか（笑）。

小川　基本的にね、みんな優等生じゃ成り立たないじゃないでしょ？　バラバラな方が面白いでしょ。プロなんだから。うちの村上にも「優等生になるな！」っ言ってるんですよ。あっ！　また村上の話しちゃっ

桑田佳祐作

「PRIDEの唄」

輝く未来と引き替えに
孤独に耐え抜く人がいる
小川よ、君の闘う場所にゃ
海より大きな夢がある
涙の数だけ勝ちなさい
笑顔の分まで負けなさい
佐竹よ　君の心の底にゃ
誰より綺麗な花が咲く
選ばれし者よ　偉大なる友よ
長い道のりに
嗚呼　泣かないで
嗚呼　折れないで
乗り越えて　互いに……
己のプライドを賭けて闘おう
大きな人生を共に勝ち取ろう
今宵はこの唄を君に捧げよう

この日、格闘技ファンに受け入れられるかどうか心配しながらも、「小川vs佐竹戦」への応援歌を歌い上げた桑田佳祐。最後まで気を抜かない見事なパフォーマーぶりに圧倒され、観衆も大歓迎ムードだった

小川直也

俺はターザン山本だって無視しないから! 忙しい時は忙しいってハッキリ言うけど、無視はしない!

たよ。なんかそっちいっちゃうんだよなぁ（笑）。

——佐竹戦の日は、試合後に打ち上げで猪木さんと飲んだそうですけど、どんな話をしたんですか?

小川　やっぱり12月31日のことですかね。

——あ、なるほど。これはどうなるんですか、小川さん的には?

小川　「なんか面白いことをやろうよ」っていう感じですね。俺も怪我さえ治れば出たいと思うし。でも、怪我が治んなかったら、シンドイですけどね。

——怪我は左中指ですよね?

小川　佐竹戦が終わった後、「なんか指がおかしいな?」って思ったんだよね。フッと見たら指が第一関節だけ90度に曲がってるんですよ。動かそうと思ってもウンともスンとも言わない。先生に見てもらったら「切れてるよ」って。ボクシングだとグローブに肉があるからいいけど、あれ薄いからね。（実際に取材当日には、まだ指が曲がらない状態で、かなり痛そうだった）

——そのケガの回復さえ間に合えば12月31日は出場?

小川　出たいですよ、会長の企画だったら。

——「夢のアントニオ猪木対小川直也、ポエム対決」とかどうですか（笑）。

小川　いやいや、もう惨敗!　まだポエムやってないもん、俺。会長は詩集がバカ売れしてる詩人ですからね。かたや俺なんか『反則ですか?』って本ですよ（笑）。あれって、どれくらい売れたんだろう?（笑）。

——ガハハハハ!　その指の怪我についてケチをつける人間がいるんですよ。元『週プロ』編集長でターザン山本ってキ●ガイなんですけど（笑）。それが自分のホームページに、「小川はビッグマッチの後に負傷をアピールする。あれはいただけない。次の試合に出る気持ちがないことを暗にアピールして不愉快。そういうところが小川人気が本当に出てこない原因のような気がする」って書いてるんです。

小川　だってさ、後でさ「やっぱ怪我でした」って言うより、プロである以上「怪我しました」って正直に言う方が迷惑かかんないじゃないですか。だってチケット買うお客さんは、仮に俺が出るかもしれないっていう期待を持って来て、そこで「ケガしてます」って言ったら、「なんだよ!」ってなるでしょ。治りゃいいんですけど、早めに言っとくべきだと思うしね。お客さんに試合間近でキャンセルっていったら、それこそ迷惑だし。でも、ターザン山本に会ったとき、「いや〜、小川さんはいいよォ!」って言ってたよ。

——あのオヤジはそういうオヤジです（笑）。

小川　いいんじゃないですか。ボクのことが好きなんですよ、きっと（笑）。好きでもなく嫌いでもなかったら、たぶん何も書かないもん。

——そうですね、無視されたらプロとして終わりですからね。

小川　俺はターザン山本だって無視しないから!（笑）。

——いや、ぜひ無視してやってください（笑）。

小川　そういう心の小さいことはしない（笑）。忙しい時は忙しいってハッキリ言うけど、無視はしない!　うん（キッパリ）。

——ガハハハハ!　小川言語の方が一枚も二枚も上手ですよ（笑）。

小川　ターザン山本だけじゃなくて、ファンが何も言ってくれなくなったらつまんないもんね。「馬鹿野郎!」でも「テメェなんかいらねぇんだ!」でもなんでも言ってくれればいいんだけど。俺の存在を知ってくれてる以上は、なに言われてもありがたいじゃないですか。

——そういえば、小川さん周辺にはいろいろ話題がありますけど、「橋本真也解雇」というのもありますよね。

小川　（乗り出して）それだよ。その問題ね。疑問点をね、ホームページに書こうと思ったんですけどね。ちょっと書く時間なくてね、いろいろ忙しくて。

——ガハハハハ！　じゃあここで語ってください（笑）。

小川　あの人のコメントで「俺も動いたぞ、お前も動け！」っていうのがあったんだけどさ。俺に向かって（笑）。

——ガハハハハ！　凄いな、破壊王は（笑）。

小川　その記事、あとで渡しますよ、資料として。「こりゃ面白い。ぜひ分析してもらいたい！」って思って持ってきたんだから（笑）。「辞表を叩きつけた」っていうならわかるよ。でも「解雇」っていうのは「動いた」っていうのと違うんじゃねえのかな？って（笑）。「俺は動かされた」だろ！　そうじゃない？

——ガハハハ！　そりゃそうですね（笑）。「俺は動かされた。おまえも動かされろ」って言いたいんですかね（笑）。

小川　一般社会では「解雇」っていうのは、「辞めさせられる」ことを言うわけでしょ、一方的に（笑）。俺、辞書調べましたからね。

——調べたんですか？（笑）

小川　ホントに調べました。あれはどう解釈したらいいのかな。ひと言「あれは解雇じゃねえ。俺から辞めてやったんだ！」ぐらいのこと言ってくれたら、一発でファンになるんですけどねぇ。

——橋本選手とまた闘うということはありえるんですか？

小川　本当に「解雇」なのかどうかわかんないしね。だって本人解雇された意識がないんだもん（笑）。俺、調べたもん。一般社会で「解雇」っていうのは……。

——もういいです（笑）。

小川　（急に頭を掻きながら）解雇になった人間が笑みを浮かべるっていうのは俺には理解できない。新聞見たら晴れ晴れした笑顔なんだもん（笑）。「俺が一般常識ねえのかな？」って思っちゃった（笑）。「それともプロレス界の中での常識が俺にはねえのかな？」ってね。世間は黙って見過ごしてるけど「俺だけかな？」ってちょっと素朴な疑問だったんですけどね。

——確かに団体を飛び出て「自分で何かをやる！」って人はスターになってますよね、マット界では。

小川　それは自分から飛び出た場合でしょ？（念を押して）自分から飛び出た場合でしょ！

——はい、そうです（笑）。

小川　（また頭を掻きながら）あれは本当にどういう意味なんですかね、本当に……。わかんないなあ……。（唐突に）これ、金田一耕助なんですけどね、いまやってるの。

——へ？　ああ、金田一だったんだ（笑）。それでさっきから頭掻いてるんですか！

小川　いまパズルを組み合わせてるんですよ！　大変なんですよ、いま！　自分で説明しないと誰もツッコんでくれないからさ（笑）。似てねえのかな？

——ガハハハハ！　金田一耕助だとは全然気づきませんでした（笑）。

小川　あああ〜、（大きな声で）なぁぁんだよ、もう！　みんな2回目ぐらいで気づいてくれたんだけどなぁ〜。

——ガハハハハ！　すいません（笑）。

小川　もう〜。山口さんはパタンと返してくれるかなと思ってたんだけどな。「金田一耕介みたいに頭掻かないでくださいよ！」とかさ（笑）。

——全然頭に浮かびませんでした、短髪だから（笑）。

小川　カツラ被りゃよかったな、汚い格好して（笑）。

——ガハハハハ！　今度お願いします。

小川　だから橋本選手解雇の件は……いまは謎を解いてる最中ですよ。これ、駄ジャレじゃない世界だからわかんなかったのかなぁ……でも、おそらく読者もこれで金田一のビデオ見ちゃうかもしれないよ！

——見ますとも、それは（笑）。そういえば、10・31のマイクでは、「UFOの自主興行を来年は再開したいと思いま〜す」って断言してくれましたが。いや、「思う」だから断言じゃないのか（笑）。

小川　来年は、やりたいなあと。

——一部ではボクシングの世界王者級の人と闘うって噂が流れてますね。

小川　（ぽつりと）いやいや、危ないよ。死にたくないよ。

——ガハハハハ！　また始まった（笑）。それも何度も言ってると「そう言った時の小川は自信がある」って聞こえますよ。

小川　いや、ないよ！　全然。佐竹選手であれだけ危なかったんだもん。世界級のボクシングの選手でしょ。危ないよ、打撃でいこうなんて思わないよ、それこそ（笑）。

——また打撃で行くつもりなんですか！（笑）。

小川　危ないですよ。ホントに。（マイク・）タイソンなんかきたら危ないよね。ダイナマイト・フックなんてきたらボーンと吹っ飛んじゃうよ。その上、薄皮のグローブなんかだったら死んじゃうよ、本当に。そうなったら「参った」だね。リングに上がっ

小川直也

て、すぐに！　もう「上がっただけで満足」みたいな（笑）。もう睨まないもん、タイソンだったら。睨めない。「許してくれ」ってお願いして（降参ポーズで）「は、はー」ってなるよ。「お納めくださ〜い」って、そういう世界だね、もう（笑）。

——どんな世界ですか（笑）。

小川　耳噛まれるだけなら、まだいいけどさ。耳なんかちぎられても生きてんだから。おまけに反則勝ちじゃない（笑）。耳なくなるのは嫌だけど、また作ってもらえばいいんだし。

——作ってもらう（笑）。

小川　自主興行には、やっぱりいろんな選手に上がってもらいたいですよ。ボクシングの世界王者でもなんでもいいけど、無理にでも盛り上げて盛り上げて、こんな膨らんじゃってさ、「誰だ！」と思ったら橋本選手だったりね（笑）。

——ガハハハ！　「なんでもいいから、凄ぇ試合をやってくれ！」というのがファンの願いでしょうね。

小川　凄ェと言うか、面白い試合をね。

——ところで、ヒクソン戦は『週刊プレイボーイ』（11・28号）の小川さんのインタビューを読むと「80％ぐらいは実現するんじゃないでしょうか」って言ってましたね。

小川　え？　そんなこと言ってましたっけ？

——言ってますよ、思いきり（笑）。

小川　わけわからないこと言ってますね、俺は（笑）。それは、だいぶ飛ばしたなぁ。まあ、夢が広がればいいんじゃないですか。だからいつも言ってるでしょ。「ホラ吹きでもいい」って。ホラ吹いてりゃいいんですよ（笑）。

——ガハハハ！　「ホラ吹きでもいい、たくましく育ってほしい」（笑）。モハメド・アリも「ホラ吹きクレイ」と言われてましたからね。

小川　「本当です、本当です」って言ってたら嘘くさいでしょう。「嘘、嘘」って言ってりゃみんな本当くさいんですよ（笑）。だから最近は「嘘、嘘」って言っときゃいいやって（笑）。

——じゃ、嘘にしときますか（笑）。

小川　嘘にしときゃいいんですよ。それで「あの嘘が、本当になっちゃったよ」って瞬間には喜ばれるじゃないですか。本当のことばっかり言ってて、1回でも嘘ついたらその嘘が光っちゃうけど、嘘ばっかり言ってて本当のことが1個でもあれば本当が光るんですよ。

——はっはー、それは真理ですね（笑）。

小川　お役所に勤めてるね、いいこととしてる人が1回でも嘘をつくとドツボにはまっちゃう。だけど悪いことばっかりしてる奴が、1回でもいいことすると光るんですよ。

——ガハハハ！　でも、その『プレイボーイ』のインタビューで面白かったのは「ヒクソン戦が実現するかしないかは、俺が頑張るだけだ」って言ってるんですよね。「世間の関心と興味を集めておいて、キッチリと勝利するのがいいじゃないですか」と。

小川　俺が言ったの？　何度も言うけど、勝ち負けじゃないですからね。勝つのが一番いいんだろうけど、勝負ですから。別に弱気というわけじゃなくて、勝ってもつまんない試合しちゃったら困るし。「面白い」って世間が見てくれる、そういうのが一番いいでしょ。だからプロレスラーである以上は、面白い試合を常に目指してやってるし。そういう点では、この間の佐竹戦は良かったんじゃねえのかなぁと。世間に広められたんじゃないかなぁと思いますね。でも、今回はたまたまいい方向に行ったんですけど、コケたら後がないですからね。コケないように頑張りま〜す。でもコケたら「ごめんね」みたいな（笑）。勝負ですからね。勝負の世界で絶対はないっていうのは、オリンピックの負けが教訓になってますから。

コケたら後がないですからね。コケないように頑張りま〜す！

——それはプロ入りしてからも言ってますよね、以前から。

小川　だから、本当にお客さんが一番ありがたいんですよ。媚び売るわけじゃないけど。柔道の時は、なぜか相手への声援が多いんですよ、絶対的に。『PRIDE』でも2回出さしてもらったんですけど、2回とも俺への声援が多くて。あれは、やっぱ凄い力だなって思うんですよ。自分にない「風」ってあるんですよね。後押ししてくれるっていうか、みんなが「勝ってくれ」っていう願いですか。願いが集中するじゃないですか。気の世界とかじゃなく、なんかそういうのがあるんですよ。

——エネルギーですかね？

小川　そう。エネルギーみたいなものをもらえる。俺はオカルト的な世界なんて信じないけど、それは確かにあるなぁと。

——さらに『プレイボーイ』で、小川さんはもっと凄いこと言ってるんですよ。

小川　え！　まだ凄いこと言ってますか？（笑）。

——「（ヒクソン戦は）殺るか殺られるか、命の取り合いになる」って言ってますね。

小川　彼は「サムライだ」って言ってますけど常にこっちは「特攻隊」ですからね（笑）。UFO基地に会長がいればそうなるよね。前線に行くのは俺たちだから。

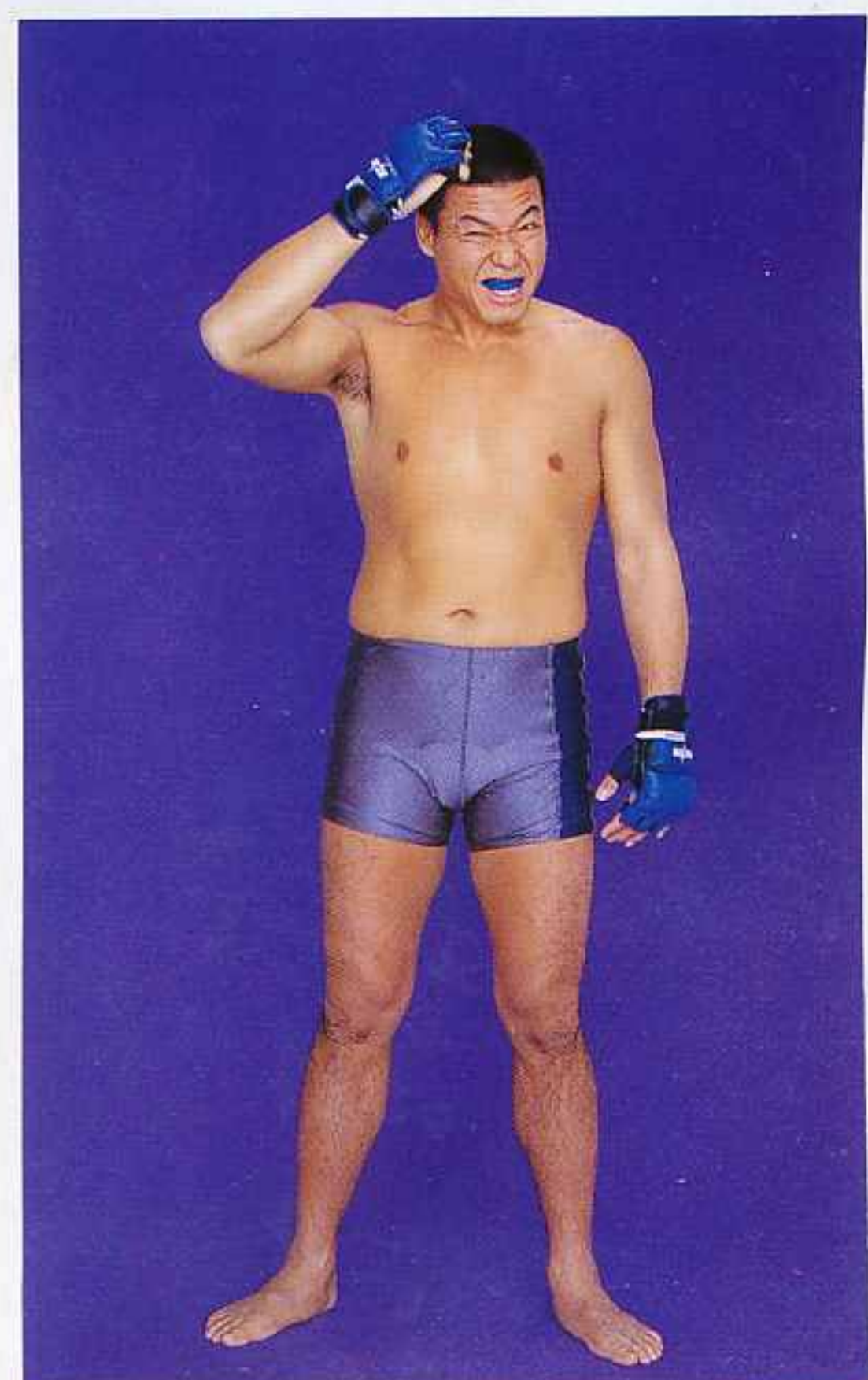
——この『プレイボーイ』のインタビューは小川さんカッコいいこと言ってるんですよ。言ってることが真面目だし。うちのインタビューでは、なんで真面目になんねえんだろうなあと思いましたね（笑）。

小川　『プレイボーイ』はやっぱコンビニに置いてあるもん！（キッパリ）。コンビニとなりゃボクだって変わりますよ（笑）。

——くっそー、意地でもコンビニに入れてやろう、来年（笑）。

小川　コンビニに入ったら、つまんない記事になっちゃたりして（笑）。コンビニ発売になったらおとなしくしないと、コンビニの店長怒っちゃうから。「こんな雑誌入れらんない！」ってあっちこっちで言われちゃったら困るでしょ（笑）。

——お気遣いありがとうございます（笑）。それにしても、「負けられない立場であるヒクソンの、プレッシャーをはねのけて結果を出せることについては素晴らしいと思う」ですよ。

小川　それは真面目にね、そうですよ。だって「絶対」ってないでしょ。当日になって体調崩すかもしれないし、それはこの世界の常識。「勝てる相手しか選ばない」とか言われてるけど、仮にテストで「お前、絶対受かるよ。東大間違いない」って言われたって厳しいでしょ。加えて選ばれた者の一対一の勝負なんだから。「1人だけしか受

突如、金田一耕助バージョンの特写！　それにしても、これが金田一耕助だとは世界中の誰が気づくと思ってるのだろうか？　どうみても小川直也だ（？）

FOOL ON THE RING 馬鹿になれ!! 21

からないけど、絶対お前がその1人だよ」って言ったって、絶対当日は緊張するからね。１人しか受かんない世界ですから、俺らの世界は。

――特にヒクソンなんて、いまはこういう立場だから絶対負けられないですからね。

小川　特にね。４００戦無敗って言ってるから。そういうプレッシャーってあると思いますよ。

――そういうことをウチのインタビューでもバンバン言ってくださいよ（笑）。

小川　『紙プロ』は『紙プロ』でさ、ちょっと金田一になったりしてればいいの！（笑）。

――なぜだ（笑）。なぜ、金田一。

小川　橋本選手の発言によって金田一になったんだから、しょうがないでしょ（笑）。

――『紙プロ』的には21世紀にはコンビニに入れるという抱負を掲げますんで、最後に小川直也の21世紀への抱負は、なんですかーーーッ！

小川　コンビニ発言はしない！

――は？

小川　コンビニ用の発言はしない。変えればいつでもコンビニモードに変えられますよ。「小川、大暴言！」とか書いてあっても、よく読むと「何にもねえじゃねえかよ！」っていうモードに。

それがコンビニ用だから（笑）。

――ガハハハハ！　「小川直也暴言！　俺も動いた、お前も動け！」（笑）。21世紀も「暴走柔道王」で行くわけですか？

小川　あれもちょっとヒドイよね。付けたのは、東スポのＨ山という記者だというのは判明してるから（笑）。

――「格闘サイボーグ」というのも以前、ありましたね。

小川　あった。なにがいいのかな、キャッチフレーズ。「暴言マシーン」ってどうですか？　あ、あとは「口だけ男」とか（笑）。

――ガハハハハ！　昔、プロレス界では「言うだけ番長」という言葉が流行りましたけどね（笑）。

小川　「言うだけの番人」がいいじゃないですか（笑）。「『ＰＲＩＤＥ』の番人」がいるから「言うだけの番人」！「俺より吠える奴はちょっと待てよ」っていうキャラ。

――ああ、口では負けないという意味で。舌戦王ですね。

小川　何かいい名前ないかな？　それ『紙プロ』の読者に募集しますか、いいニックネームを。でも、どうせふざけたのばっか集まるからな（笑）。あ！「ホラ吹き屋」でもいいじゃないですか。

――「ホラ吹き屋」（笑）。シンプルですね。「ホラッパー」とかどうですか？　ＲＩＭちゃんにかけて（笑）。

小川　やめようよ、もう、村上ネタ（笑）。

――というわけでありがとうございました。

小川　終了！

モーリー　い、いや、終わりじゃないッスよ。最後に目線の写真を撮らせていただきたいってさっき言ったじゃないですか……。

――さ、小川さん、とっとと帰りましょう（笑）。

モーリー　ち、ちょっと、何言ってるんですか。

小川　じゃ、明日茅ヶ崎に来て。お疲れ！

モーリー　ち、ちょっと、待ってくださいよ。小川さ～ん。

【00年11月17日東京六本木アートセンターにて収録】

と、〝生きるコント〟カメラマンのモーリーをオーちゃんがからかっているうちに、またもや、オーちゃんの周辺が慌ただしくなってきた。

左の囲み記事へＧＯ！

ヒクソン来日！『コロシアム2001』は、ヒクソンの相手を小川一本に絞ると明言!!

オーちゃんの周辺が、文字通りの世紀末に慌ただしくなってきた。

11月28日（現地時間）、ロスでヒクソンが来秋『コロシアム２００１』に出場を明言。この日、日刊スポーツの取材に応じたヒクソンは、『コロシアム２００１』開催を計画中のテレビ東京との良好な関係を強調。「プロモーターの選出した相手と戦う」と話し、小川直也を有力候補に挙げたという。

オーちゃんについては、「小川との体格差はハンディにならない。わたしがベストコンディションで闘えば、納得した試合内容、結果になるだろう。彼は暴走王と呼ばれているの？それはプロレスラーでもあるからだろう（笑）」と余裕あり、の模様。

『コロシアム２００１』の実行委員会側は、今夏（00年）からヒクソンと交渉を続けてきたわけだが、年末にも最終契約を結びたい意向で、最高責任者の年内直接交渉を決断。実行委員会側も、対戦相手は「小川直也選手１本でいきたい」と明言した。

ヒクソンはこの号が出ているときには来日済み（12月3日or5日に来日）で、ここで参戦決定の直接交渉に臨む模様だ。

〝最終戦争〟小川vsヒクソン戦が実現に向けて、いよいよ本格的に動きが出てきた。

今後の動向から、一時たりとも目を離すな！

オーちゃん、サクに灯る
〝希望の光〟
髙田、佐竹が持つ
〝挑む心〟

この2つを併せ持ったのが〝猪木〟だ

語り／山口日昇

20世紀最後の号なので、今回も、往年の―編集長の「喫茶店トーク」の形をパクって進めたいと思います。ええ、原稿なんて書きたくないときは、よくこういう手を使うんですね、私は。ンムフフフ。

昨日勤めていたキャバクラの女の子が、今日行ったらもういない。そんな、時の移ろいの早い現代では、もうすでに古い話になるんでしょうけど、『PRIDE.11』から、なんとなく見えたお話です。

元気ですかーーーーッ！　燃えてるかーーーーッ！

えー、俺もまだ燃えています。

と叫んだアントン総帥も、相変わらず元気でしたけど、10月に行われたプロ野球の日本シリーズでは「ON」対決を「N」が制しました。

長嶋監督も、やっぱり〝元気が一番〟な人です。その長嶋監督と王監督は永遠のライバル関係と言われてますよね。

長嶋監督は【天才型】、王監督は【努力型】。その対比が面白いから2人はライバルと言われた。でもよく考えれば、王だって、現役時代に868本もホームランを打った〝世界のホームラン王〟で、ナボナな人なわけですから、やっぱり天才です。でも、どうしても、長嶋監督の破天荒なエピソードや行動のほうが【天才型】に見えて、王監督は現役時代、夜中に日本刀で素振りをしていたエピソードや普段のカタめの言動などから、【努力型】の親玉というイメージで見られてしまうわけですよね。

プロの世界が【努力型】ばかりだから息苦しいことこの上なし！

だから、この区分けはあまりにもアバウトなわけなんですが、ここはこの区分けを前提にしないと話が進まないので、そうします。

繰り返すけど、20世紀最後のON対決は長嶋監督が制し、【天才型】が【努力型】に勝った。

【天才型】が、その才能を観客に突き刺すときというのは、【努力型】が勝ったときのカタルシスとはまた違う種類の解放感を生むものです。「ON」対決が決まっただけで大騒ぎでしたけど、巨人が勝ったときなんて、もう、お祭り騒ぎになったことこの上なしです。

10・31に行われた『PRIDE.11』も、【天才型】が目立った興行でした。この日、勝った日本人は、小川直也、桜庭和志、アレクサンダー大塚、小路晃の4人。つまり【天才型】の人たちです。

小路は【努力型】の典型のように見られますが、あの小さな身体でヘビー級と堂々と渡り合える身体能力&適応力は、やはり飛び抜けている。彼は隠れた【天才型】といえるでしょうね。

でも、やっぱり、その才能の片鱗を一番見せつけたのは、オーちゃんですよ。打撃では一枚も二枚も上手の佐竹相手に、敢えてスタンドでやり合ったオーちゃんの対応力には目を見張りました。まだ不格好だし、打撃の専門家に言わせれば穴だらけ、いや素人にだってそのアラはすぐに見えるようなスタンドでの攻防だった。でも、それよりも、本格的に打撃を始めてまだ1年半くらいの間で、〝ツボ〟を見抜いて吸収し、「本番」で活かすだけの対応力を見せつけたことが凄いわけです。

吸収力と対応力、この2つが嚙み合って、初めて才能は発揮されるというもんです。

サクも、シャノン・〝ザ・キャノン〟・リッチなんていう、キャラ的には面白そうだというだけの男を相手に、よくメインを締めました。サクは試合後、物足りないなんて言ってたけど、あの瞬殺劇でOKなんですよ。高田vsボブチャンチン、小川vs佐竹で、かなり観客はエネルギーを使っていましたから、緊張感が張りつめた試合のあとに『PRIDE.7』のアンソニー・マシアス戦のように〝遊んで〟いたら、きっと逆効果だったでしょう。私の中では、そういう空気を敏感に察知したサクが、プロとして確信犯的な瞬殺劇を演じたという物語はありますね。

とにかくサクの持ってるポテンシャルは、いつ何時でも衰えないし、バーリ・トゥードという危険な場でも安心して見られるというのも、やっぱりサクの吸収力&対応力の高さが、リング上に安定感を立ち昇らせてるからなんでしょうね。

最近『PRIDE』のリングでは停滞気味のアレクにしても、30キロ近く違う未知の相手とぶつかって、まったくひるむことなく、しかもダブルアームバーなんていう変わった技で決めてしまうのだから、この男の身体能力も半端じゃない。アレクvsボブチャンチン、アレクvsヘンゾの2試合と、ボブチャンチンやヘンゾがアレク以外の選手と闘った試合を比べれば、いかにアレクの身体能力が優れているのかがわかりますよね。んむはぁ。

そのアレクは、2年前に、当時〝ヒクソンが最も恐れる男〟と言われたマルコ・ファスを破りましたよね。

サクは、ホイラー、ホイス、ヘンゾとグレイシー一族を3タテした。オーちゃんは、橋本戦で問題提起をして、グッドリッジ、佐竹を破り、ヘビー級の中でのポテンシャルを示した。

つまり、この3人の印象に残る闘い、つまり才能を持った人たちの舞台の頭上には〝希望の光〟が照らされていたということです。

想像してみてくださいよ。プロの世界が、【努力型】ばかりだったら、息苦しいことこの上ないでしょう。ズバリ言って、この努力型を好む傾向が「格闘技」の世界を「プロ」に昇華させず、天井を見せていた理由です。かつての「プロレス」には光が溢れてたから隆勢を誇ったんです。

観客は、強烈な才能の前にはひれ伏すものです。いや、観客はお金を払って才能を見に行っているといってもいい。決して努力のみを見に行

ってるわけじゃないんだ。
【天才型】のオーちゃん、サク、アレクの3人は、状況や相手は異なるものの、『PRIDE．11』のリング上に〝希望の光〟を灯しました。「プロ」の世界には強烈な光が必要なんですよ。
つまり、「プロの世界には天才が似合う」（8・27のアントン調）ということですね。
そんな至極当たり前のことを『PRIDE．11』を見て再確認しましたね。

●

『PRIDE．11』で負けた日本人は、高田延彦、佐竹雅昭、谷津嘉章の3人です。
まず、ボコボコになっても倒れなかった谷津嘉章44歳ですが、さっきまでの話に照らし合わせると、谷津はかつて【天才型】だったといえる。ところがアントン総帥も言ってたように、谷津はかなり長い間サボッていたと見える。谷津は44歳という年齢に負けたわけじゃない。いくら【天才型】でも、3ヶ月やそこらでツケを払うことはできません。そのツケというのは、その才能にあぐらをかいてきたツケですよ。
この谷津を見てもわかる通り、例え【天才型】でも〝素振り〟をしなければ、天才ではなくなります。
むしろ、【天才型】のほうが努力している場合が往々にしてある。オーちゃんにしても、サクにしてもそうです。陰では【努力型】の人に負けない〝素振り〟をしている。長嶋選手が夜な夜な〝素振り〟をしている数は王選手に勝るとも劣らないでしょう。でも、〝素振り〟をしている姿をあまり見せないからこそ、その天賦の才が際立つということです。長嶋監督は「プロなら練習していることを売りにするな」とも言ってことがありますよね。
つまり、長嶋監督は王監督を含む、ということです。
そして、王監督は長嶋監督にもなりえるということです。
【天才型】と【努力型】はメビウスの輪で繋がっているんですよ。
高田、佐竹というのは【努力型】の典型。ただ、結果が出ていないから【天才型】の範疇には、まだ入っていない。しかし、なにかのタイミングがあれば、【天才型】の仲間入りをすることもあるはずです。
結果が出ていないとはいえ、高田と佐竹には〝挑む心〟がある。あの年齢で、新しいフィールドの闘いへと挑んだ2人は、プロレスとK—1それぞれの世界で、一度は頂点に立ったこともある人たちでしょう。挑まないことで守れるはずの〝名誉〟を捨て、いままでとは違う世界に飛び込んだのだから、これは賞賛できますよ。
【努力型】の人間は〝挑む心〟を持つと、とたんにその能力を発揮していくもんです。〝挑む心〟がないのに努力してもムダです。
それでね、結果は出ていないものの、人々はなぜ高田に声援を送り続けるのか考えていたとき、糸井重里さんのこんな文章にたまたまアクセスしてしまったんですよ。
『ほぼ日刊イトイ新聞』というサイトの中にあったもので、これは私が要約するよりも、意味をシッカリ把握してほしいので全文載っけます。あ？　載っけていいのか、これ？　まあ、プロレスには5カウントまで許されるということで、載せますかーーーー！
こっからは長いし深すぎるので、眠い人は寝てください。

人々はなぜ高田延彦に声援を送り続けるのか？ ちょっと考えてみました

【冷蔵庫を探すな】　糸井重里

何もすることが思いつかないとき、あるいは、やるべきことがあって、やらなくてはいけないこともわかっているとき、人は皆、冷蔵庫を開けるものだ。
と、まるでセフティ・マッチ氏のように書いてしまいましたが、ま、「人は皆」っていうより、「私は」ってことだね。
冷蔵庫という場には、基本的に腐りやすいものが入っていたり、食べきれなくて余ったものがしまってあったり、すぐに食べたり飲んだりするための冷やしたものがキープされている。
で、冷蔵庫をなんとなく開けたときに、冷蔵庫のなかに、なにか素晴らしい発見があったためしはない。特に、単身の所帯ではこんなとき、「やったーっ」というようなうれしさは、ほとんどないものだろう。
自分でいれたはずの、「たかがしれているもの」が、冷蔵庫のなかに入っているのを、知っているのに、開けてしまうのだ。
退屈して、何度も冷蔵庫を開けるときほど、その「なんにもない」感は露骨になる。
これ、なにかに似ていると思わないかい。
アイディアに詰まるときのパターンにそっくりだ。
仕事でもそうだし、彼女とか彼とかとの関係でも、職業の道についての悩みでも、家族のことでも、なにか「考えを生み出さなきゃいけない」時って、もーのすごくいっぱいあるよね。
その時に、たいていは、みんな、冷蔵庫を開けちゃうんだよなぁ。
「なんか、ないかなぁ」
と、いちおうは何かを探しているつもりでね。
冷蔵庫のなかに入っているのは、過去の自分がストックして置いた

「あまりもの」なんだよね、だいたいは。
古いタマゴ、賞味期限の切れた牛乳、酸化したしょうゆ、少し乾きはじめた味噌、水気のなくなったリンゴ、缶入りのトマトジュース、しなしなしたレタス。
それを上手に工夫すれば、なにかできると思っていたからそれらは冷蔵庫のなかにあったのだろうか？
あることさえ忘れられていたから、捨てるタイミングを失っていたから、ただ単に捨てるにはしのびないから置きざりにされていた、のではなかったろうか？
ぼくは、仕事がらなんだけれど、アイディアの出し方について、よく訊ねられたりする。
その都度、なんかしら答えてきたつもりなのだけれど、ぼくだけの方法と、みんなができるはずの方法が、まったく違っていたら、ぼくの「答え」は質問者の彼にとって意味を持たない。
そのことが、いつも気になっていたのだけれど、この冷蔵庫の比喩を思いついたおかげで、誰にも共通するような答えが見つかったような気がする。
きっと、今回のタイトルのとおりなんだ。
「冷蔵庫を探すな」が答えなんだ。
ぼくにとっても、あなたにとっても、冷蔵庫を開ける時がある。
「天井から金がぱらぱら降ってこねぇかなぁ」と望むことよりも、なんかない？という気持で冷蔵庫を開くことのほうが、よっぽど悪いような気がする。
冷蔵庫の内容をメモに書き出して新しい料理を考えるのも工夫のひとつなんだろうけれど、それは、たいていは、ほんとうに求めているものじゃないのだ。
廃物利用の手芸みたいなものが、自分以外の他人を決してよろこばせないことに、それは表れている。
優秀な、と言われる人たちは、とてつもなく大型の冷蔵庫を、どんどん買い足していく。
なんでも入っているから、どんな料理も作れるだろうと思うのだ。
これは、これでたいしたものだけれど、「冷蔵」ってのは、新鮮さが失われていく速度を遅れさせることしかできなんだよなぁ、残念ながら。
すばらしい板前さんや料理人は、日々の仕入れに命を賭けているのであって、食料品問屋のような冷蔵庫を持っているわけじゃない。

桜庭和志は「冷蔵庫を探さない」プロレスラー。（ニコニコ）

ブレイクスルー、とかいくらかけ声をかけても、冷蔵庫のなかの食材で、問題解決はできない。
庭の柿の葉が、柿の葉寿司になるかもしれないし、街の女の子たちが「みんなアユになっていた」と知ることで、アユのできるまでを考えて何か新しいことが見えてくるかもしれない。
本屋に行ったら、知らないコーナーに、悩んでいることにぴったりの本があるかもしれない。
「冷蔵庫を探すな」というのは、いままで問題解決できなかった馬鹿な頭をたいしたものだと思うな、ということかもしれない。（自分の耳も痛てぇなぁ）

〈後　略〉

●

どうですかーーーーッ！
高田延彦が結果を出せなくても、なぜか注目してしまうのは、もしかしたら高田のやっていることは、この「冷蔵庫を探さない」ことをしてるからじゃないでしょうかね。本来「冷蔵庫を探す」タイプのはずの高田が、「冷蔵庫を探さない」方向にシフトできたのは、きっと高田の心の中に、真の意味での〝挑む心〟が芽生えたからでしょう。

●

考えてみれば【天才型】であるサクも、楽しみながら技を開発したり、セオリー以外の闘いを開発したりと、やっぱり「冷蔵庫を探さない」人です。
【天才型】はその〝才能〟によって冷蔵庫を探さない。
【努力型】はその〝挑む心〟を持つと冷蔵庫を探さない。
つまり、いまの『PRIDE』が面白いのは、きっと【天才型】【努力型】に関わらず、「冷蔵庫を開けない」人たちが集まってるからでしょう。今後、歴史を積んで「冷蔵庫を開ける」人たちが増えていくと、アッという間につまらなくなるでしょう。そうならないように、【天才型】も【努力型】も常にアクセスしていってほしいもんです。いろんなものに。
20世紀もう終わりです。
マット界は、アントン総帥が総合プロデューサーの『猪木祭り』で幕を閉じ、アントン総帥のカウントダウンを挟んで、21世紀の幕を開ける。
そのアントニオ猪木は【才能】と【努力】の二つを併せ持っていた。
つまり、〝希望の光〟を観客席に照らし続け、〝挑む心〟で精神の旅を続けていたということです。
まあ、そういうわけで、なんでもいいから、マット界＆レスラーには、〝希望の光〟と〝挑む心〟を見せてほしいというお願いでした。
いでよ！　21世紀の〝イノキ〟!!
では、この続きは、また機会があったら21世紀に。
行きますかーーーーッ！（だからどこへ）

4年ぶり本誌登場!!

橋本真也

[ZERO-ONE]

「新日を辞めないと業界を巻き込めないよ」

復活

破壊王
栄光への独白 *Special*

FOOL ON THE RING 馬鹿になれ!! 21

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

ついに、橋本真也が『紙プロ』に帰ってきた！　本誌4周年記念スペシャルにタイミングを合わせたかのような、突然の解雇やノア参戦問題など、とにかく動けば話題になる紛れもないマット界のトップスターである。平成・新日本プロレスが手放した、日本マット界の至宝に本誌が創刊号以来の涙の邂逅！　今回は、解雇された新日本のことはもちろん、小川のこと、猪木のこと、ノアのこと、『PRIDE』のこと、とにかくたっぷり語ってもらったぞ。4年ぶりの破壊王はやっぱり、豪快でカッコいい、僕らの破壊王だった！

—ご無沙汰してます！

橋本　飯食いに行ったの、いつだったっけ？

—まったく覚えてません（笑）。今日は久しぶりに橋本選手に会えるんでメチャクチャ嬉しいですよ！

橋本　よく言うよ（笑）。

—最後に会ったのが4年前ですからね。

橋本　長いねぇ（しみじみ）。

—そうですね。『紙プロ』もサイズが大きくなって、その創刊号で橋本さんに出てもらったんですよ。

橋本　その頃は、俺が一番いいときだったね、きっと。

—まだ丸々と太ってた頃ですね（笑）。

橋本　ガハハハハ！　体重はだいぶ絞ったんだけどな。あの頃は140キロいってたよ。いまはもう120キロ台の後半だから。15キロぐらい落としたから。

—あの頃、140キロ超えてたんですか!!

橋本　あったかな？　最高で142キロまでいったから（笑）。

—ガハハハ！　じゃあ、いまは体調的にはバッチリですか？

橋本　いやいや、バッチリじゃないよ！　全然ダメですね、忙しくて。いまはなんでも一人で切り盛りしなきゃいけないから。

—いま橋本さんいくつでしたっけ？

橋本　当年とって35歳！　やっぱり、いまでも若いつもりだから、「若さ」という言葉は使いたくはないけど、あの頃は何も考えずに突っ走ってただけだから！

—ガハハハ！　何も考えず（笑）。

橋本　怪我もヒザだけだったし。

—まさか、年齢を感じるんですか？　橋本さんらしくない。

橋本　いやいや、感じるんじゃなくて、ここ2年ぐらいでね、バシバシッといろんなことがあったんでね。肉体的にも精神的にもキツかったから。かなり体も傷んでるし……………（本誌新人・幸田珍の顔を見るなり）……そこのお前ッ！　怒るなよ？

珍　は、は、はい？

橋本　お前、凄い顔してるなぁ。●バ●してるやろ！

—ガハハハ！　橋本さん、抜群ですけど、それはさすがに活字に出来ません。

橋本　書けないか？（笑）。

—ウチは、ここ何年かは、新日本さんから取材拒否だったんですよ。

橋本　また、永島（勝司取締役）がへんな文句言ってんじゃないの？（笑）。

これぞ破壊王！　プレートに記された『ZERO－ONE』のイカしたロゴの前だと自然と格好いいポーズも出る。破壊王完全復活の証拠写真だ！

―ガハハハ！　いや、なんで取材できなくなったのか、もはや覚えてもないですね（笑）。だから、橋本さんには会いたくても会えない立場だったんです。

橋本　ただね、勘違いしてほしくないんだけど、俺は新日本を悪くしようと思ってやってるわけじゃないから。すべて新日本のためにやったことだからね。

―もちろん、そうでしょう。

橋本　その意向は変わらないよ。なぜかって言うとね、新日本を辞めないことには、業界を巻き込めないよ！

―業界を巻き込む！

橋本　そう！　小っちゃく、小っちゃくやってたら、時代に置いてかれるぞ。だから、新日本をいかにリフレッシュさせるか、なんだよ。

―新日本はフレッシュじゃなかったと。

橋本　最初っから、その目的だから。ただ、それがこうなったけど、やむを得ずの解雇だと俺は思ってるしね。

―「温情解雇だと思ってる」って昨日出演してた『サンデージャングル』では言ってましたよね？

橋本　解雇に温情もクソもありゃしないよ！

―ガハハハ！　昨日、言ってたじゃないですか（笑）。

橋本　解雇に温情も何もないだろう！　まあ、会社からすりゃ、一応そういう気持ちだろうね。自由にしてくれたっていうか。

―いまズバリ言って、橋本さんは気持ち的に晴れ晴れしてるんですか？

橋本　晴れ晴れしてる部分とね、あまりにもいろんなことがありすぎて……いま一番キツイ！

―どっちなんですか（笑）。でも、新しいことを始めるときって楽しくないですか？

橋本　楽しいよ。楽しいけど一人で切り盛りしなきゃいけないから、いまのところはね。手伝ってくれる人は何人もいるんだけど、会社組織として見た場合ね。だから、誰を引き抜こうとか考えてるからさ（笑）。

―（パチパチパチ）いいなあ、それでこそ破壊王！

橋本　社員も引き抜かないと（笑）。プロレスの仕事っていうのはね、急に始めたって無理なんですよ、営業も必要だし。

―プロレスには時間と歴史が必要ですからね。それにしてもボクの好きな橋本さんは、やっぱり豪快で豪放ってイメージの橋本さんですね。

橋本　たしかに最近は"細心の橋本"かもしれないね（笑）。

―99・1・4のvs小川直也戦のあと、ずいぶん橋本さんはおとなしくなっちゃいましたからね。

橋本　おとなしくなったっていうか、きっかけが掴めなかったね。俺の気持ちが追っつかないまんまに、「再戦！再戦！」って持ってかれた。それでまた俺は利用されたでしょ。まあ利用されてもよかったんだけど……だから自分の意志で再戦をやったのは今年の4・7だけだろうね。

―その試合は内容的には納得してるんですか？

橋本　そうですね、自信あったんですよ。俺自身が恐れてなかったから。だから、たまたま一発いいのが入ってやられちゃったぐらいの感じしかないから。ただ、あのときは周りも巻き込んでいろいろやっちゃったからさ（笑）。

―ゴールデンタイムで生中継されて、プロレスにとっては久々のチャンスだった。橋本さんは負けちゃいましたけど、あの闘いに挑むことによって、橋本真也の知名度は上がりましたよね。

橋本　なんか知らないけどさ、こんなに試合してねえのにさ、この1～2年、名前だけ上がっちゃったよな（笑）。ただ、巡業に出て試合をやってる人は、俺のことを「試合もしないで」って言うけどさ。それが全てじゃないんだよね。逆に言うと、一試合一試合にあれだけ集中できたことはなかったな。そういうものを感じ取れれば、凄い時間を過ごせたなと思いますよ。意味のある時間を過ごせた。

―新日本で以前やっていた試合に、意味のない試合が多かったということですか？

橋本　いや、意味のない試合なんて一つもないんだよ。やっぱり興行会社としてはね、しょうがないんですよ。ただ、小川戦のような大一番があった場合、シリーズが長く続いて最終戦で臨むとなると、リスクは大きいな。その試合だけ一本に集中してくるヤツと、巡業に出てるヤツではコンディションも差が出てくるし。そのへんがね、興行会社としての弱みはあるかもしれない。

―シリーズ形態というのは本気で見直す時期なのかもしれないですね、プロレスの将来のことを考えると。

橋本　まあ、あれはあれでいいんだと思いますよ。ただ新日本プロレスがすべてああいう試合をする必要ないじゃない？　そんな気持ちで俺は子会社を作ったんだよ。だいたい選手が多すぎるんだよ。「2リーグに割れ」って言ったんだけどさ。

―いろいろ構想はあったんですね。

橋本　一大会につき、たった8～9試合。その中で、みんなのいいとこを全て見せようというのは無理ですよ、あんなに人数がいるんじゃ。

―ファンのニーズも「意味のある試合を集中して見たい」というふうになってますからね。

Shinya Hashimoto

『桃太郎侍』を見たら今の俺にピッタリだと思った。みんなに見てくれと言いたい!!

俺を切ったのは永島

橋本解雇の真相を独白

三つ醜い浮世の古ダヌキを退治てくれよう破壊王―

2人に根深い確執

悪代官が窓口なら新日との関係修復は不可能

橋本らしさが大爆発の永島取締役批判。新日を誰よりも愛する男だからこそあえて辛口。よく読むと最近橋本がハマってる『桃太郎侍』から引用している点にも注目したい。どんな時も遊び心を忘れない、さすが破壊王！

FOOL ON THE RING
馬鹿になれ!!
21

栄光への独白 Special

橋本 それはテレビマッチであり、大会場なんだけどね。でも地方のいいところもあるし。そのへんを上手にローテーション組めれば、選手の負担も減るしね。なんか、試合に集中できるようになるし。なんか、ここ最近は新日内部に牛耳りたい人が多すぎて。権力の争いみたいな感じだったからね。俺は……我慢できないタイプなんだよ（笑）。

――ガハハハ！ 突っ走るタイプですからね。

橋本 どうしても我慢できなくて……言いたいことを言ったから、こういうことになっちゃったでしょ？ 98年暮れの出場停止処分は、ポカーンとしちゃったよ。

――〃1・4事変〃の前ですね。

橋本 で、小川戦を通過して、特に去年の暮れ頃かな？ あの頃は気分がマイナスに働いてたから、いい状態じゃなかったんだけどね。やっぱりバカじゃないんだから、会社の要望も受け入れなきゃいけないし。でも一連の事で、弱気になる時期があってよかったかな、と。怖さを知らないと、人間、前に進めないしね。

――ところで、猪木さんが橋本さんに贈った詩は見ました？

橋本 読んだよ！ なんか、詩集を出したでしょ。あれを出版する前に「どうだ、これ？」っつって、見せられたんだけどさ（笑）。「恥かいて、恥かいて」ってヤツ。

――ああっ、「掻いて掻いて　恥かいて　裸になったら見えてくる　本当の自分の姿」ってヤツですね。

橋本 掻きすぎたよ、恥！

――掻きすぎましたか。

橋本 本を出す前の原稿は猪木さんに見せてもらった。

99年1月4日、伝説の『1・4事変』勃発！小川のエゲツナイ攻めになす術のなかった橋本。最後は、両陣営が入り乱れての大乱闘にまで発展。破壊王の苦悩はここから始まった!

――ほー。感想は？

橋本 「俺のほうがいい文章書ける」とか思ったけどな（笑）。

――ガハハハハ！ それですよ！ みんなが橋本さんに求めてるのは（笑）。沈んでる橋本さんじゃないですからね。

橋本 やっとこさだね、ここまで来たのは！ ホントはね、新日本を辞めるなんて思わなかった。辞めてよかったとも思わないし。

――そうなんですか。

橋本 みんなね、俺が新日本を潰そうとしてると思ってるみたいだけど、潰せるもんじゃないですよ。これだけ歴史のあるものを無駄にしたらいけないですよ。利用していかないと。そこを拠点にしなきゃいけないと思うし。

――橋本さんが言うように、新日本っていうのはマット界の盟主じゃないですか。でも、例えば、蝶野選手からフロント批判が出たり、藤田選手が抜けたり、そういうことは、なぜ起こるわけですか（P20参照）？

橋本 舵取りができないんでしょ。巨大な船だと思ったらね、急にハンドル切ったところで、すぐには曲がれないんですよ。

――タイタニックみたいなもんなんですか？

橋本 そうそう！

――あっ、タイタニックじゃ、じきに沈んじゃいますね（笑）。

橋本 ヤバイね（笑）。

――大型戦艦くらいにしときますか。

橋本 でも、ホントそういう感じでさ。ただ、俺の問題がこういう結果になってから、組織をあげて反省してるんじゃないかな。そんな話を新日の社員からも聞くしね。そういう声がいっぱい挙がって、やっとこさ、新日本が変わるきっかけになったんだなって。そうなったら、俺だって「よかったな」と思うじゃないですか。

――新日本のことを悪く言う人がいたとしても、それは新日本に期待してる、あるいはしてたから、という部分はあるでしょうね。

橋本 俺もそう思いますよ。だから、それを受け入れなかったこともいけないかもしれないし。そういう批判はね、一部の人間でシャットアウトしてしまってるから。その頃から危機感みたいなものは感じてね。一部の人たちがサボるようになってきたから。

――どういうことですか？

橋本 周りの言うことに聞く耳を持たなくて、交渉事になると「俺を通せ」みたいなこと言ってきてね。世の中の役所の悪い体質ってあるじゃないですか？ そんなものに見えたね、一部のフロントが。

――あっ、それが『東スポ』に出てた「詩」に現れてるわけですか。

橋本 あれは久々に、前の日に『桃太郎侍』見たら「ピッタシだ！」と思ってな（笑）。俺はね、みんなに「『桃太郎侍』を見てくれ」って言いたいよ。

――『一つ　人の世の生き血を吸う　二つ　不埒な悪行ざんまい　三つ　醜い浮世の古狸を　退治てくれよう破壊王』ですね。お見事です！（笑）。

橋本 『退治（たいじ）てくれよう、桃太郎』っていうんだよ、ホントは。

――じゃあ、東スポには「詩」って書いてあったけど、詩じゃないですね（笑）。

橋本 『桃太郎侍』そのものだよ（笑）。なんでこういうことを言い出したのかというと、別に急になったわけじゃなくてね。一番最初の小川戦っていうのが、いいきっかけになったんだよね。あれを機に、「これでもか、これでもか」と足を引っ張る輩がいてね、それが陰気なやり方なんですよね。そういう体質が始まって、俺は選手会長も引きずり降ろされるというか、辞めないといけないように追い込まれてね。人がそうやって弱ったときにさ、「これでもか」って来たから、けっこう嫌な思いはしましたよ。

――悪行三昧に巻き込まれたということですか。

橋本 そうですね。悪に屈することもあったけど、でも俺の気持ちをファンの人たちがやる気にさせてくれたわけだよね。そしたらパーッと開けちゃってさ。戻るまでは時間がかかったんだけど、「戻ったからには、いままでと一緒じゃいけねぇな」と思ってね。「じゃあ言いたいこと言ったろう」と思って。それが俺の愛社精神であり、プロレスに対する愛情ですよ。

――新日本にいた頃から一人ぼっちって感覚はずっとあったんですか？

橋本 いやいや。選手はずっと陰ながら付いててくれたんでね。全然平気だったんですけど。病気でもなんでもそうだけど、例えば澄んだ水の中にさ、一滴の墨を落とす

だけで濁っちゃうというかね。ほんのちょっとしたことですけど、あの輩のお陰でね。

――輩（笑）。じゃあ、墨がたくさん澄んだ水の中に入ってしまったと。

橋本 墨っていうよりもヘドロだ！（笑）。

――ヘドロ！

橋本 でも、膿が出たんじゃないですかね、新日本から。それが新日本の凄いとこなんですよね。

――ああ、圧倒的な生命力ですね。

橋本 体質を変えようという努力が見え始めたから。ダメだったら、（外部から）潰されることもあったかもしれないですよ。でもそこで若い社員たちが立ち上がって、「変えよう、変えよう」と頑張ってましたから。あとは選手だけ。いつまでも押さえ付けられてね、「クビにするぞ！」って言われてビビリながら生活するのも、そろそろやめなさいって言いたいね。

――やっぱり「クビにするぞ」って言われるとビビッちゃうもんですか？

橋本 そりゃ、普通、ビビんないか？

――プロレスラーでも？

橋本 新日本の高額なギャラというのは、自分の命を預けるのに見合った金とまでは言わないけども、自分を一番高く買ってくれるとこじゃない？

――この業界では一番ですよね。

橋本 『PRIDE』とかは、また違うかもしれないけど。そうした場合ね、そこをクビにされたら、自分の価値が下がってしまうっていう怖さがあるんじゃないの。金銭面だけじゃなく、自分の価値を一番高く買ってくれるところから切られるのは怖いやろ。でも、そこを突いて、そういうことを簡単に言うっていうのは許せなかったですね。

――「クビにするぞ」って言葉は、そんなに簡単に出てくるもんなんですか？

Shinya Hashimoto

橋本 会社に反旗を翻せばね。それでみんなが、「ハイッ」ってなるからね。だから、そういう発言を乱発するんじゃない？

――なるほど。でも、いままで一番反旗を翻してるのは猪木さんですよね（笑）。

橋本 言うこと聞かないっていうか、あの人は、いまだに「俺の会社だ」って言ってるからね（笑）。猪木さんっていうのは、それでいいんじゃないの？ ただ、猪木さんがいまの新日本に戻って、これだけの人数を、責任被るっていったら、あんな動き取れないからね。無責任っていったら無責任だし、面白いっていったら面白いしね。ズルイっていったらズルイし。ただ、いまでも新日本という母体が、猪木さんの生活の母体なんだろうな。

――豆腐パンじゃなくて（笑）。

橋本 豆腐パン？ 知ってるよ。3年前に俺も売ろうと思ったもん！（キッパリ）。

――そうなんですか！

橋本 味はまあまあなんだけどね、高い！ だけどね、マグネシウムという日本人が一番欠けてるものが摂れるんですよ。

――それ、橋本さんが売ろうとしたんですか？

橋本 なんでかって言うと、本当に身体にいいから。カルシウムを摂ったって全然意味ないから。マグネシウムを摂らないことには、カルシウムが全然活きてこない。癌になる一方なんだよ。それを知らないから、厚生省は「牛乳飲め、牛乳飲め」って言ってるけど、どんどん不健康な人が増えてるんだよ。

――はっはー。じゃあ、新日本はカルシウムを摂りすぎたんだな。

橋本 そう！ 骨ばっかになっちゃってどうすんだってね。ガーッハッハッハ。

――橋本さんと長州力監督との間でプロレス観の違いはあったんですか？

橋本 プロレス観の違いは、多分ないよ。考えてることは、そんなに変わんないと思う。ただ……人間性の違いや！

――ガハハハ！ それはわかりやすい。

橋本 いいとか悪いとかじゃなくて、俺は「ここをこうしたほうがいい」とか思うんだけど、人の意見をまず聞いてくれないっていうのがね……。

――聞かなそうですよね（笑）。

橋本 まず人の話を聞かないっていうのは、いいときはいいけど、歯車が狂ってきたときには、みんな不信感を抱くから。

――プロレスへのプライドの持ちかたは、確かに長州監督も凄いと思うんだけども、やろうとしてる方向性は橋本さんとは違うんじゃないんですか？

橋本 俺もわかんないな、いまのとこは。一緒に歩んできたし、一緒に名勝負を繰り返してきたし。その頃と、選手を引退なさったあの人の考えっていうのは、俺とは、どっかでズレが出てきたんだね、きっと。攻撃的な人と、保身的になってる人の違いっていうのは、絶対出てくるから。

――橋本さんはずっと攻撃的でいたいわけですよね、攻めの姿勢というか。

橋本 そうですね。Mになったら俺は終わりだ！

――ガハハハ！ いきなりだ。

橋本 ちょっとリップサービスだな（笑）。

――いいなぁ、やっぱり。橋本さんはバツグンです（笑）。新日本は素材という面から言えば、世界一じゃないですか。

橋本 だから、どんなに下でもできるものを持ってんだから、それを「なんでこんな宝の持ち腐れしてんの？」と思うんだよ。

――小川選手もそう言ってましたね。

橋本 だから、自分のやりたいこととかね、そういうのをみんなで相談すればいいんだよ。俺は小原（道由）はね、子泣きジジイみたいになればいいと思う！

――は？ またいきなり（笑）。ところで橋本さんはWWFとか見てます？

橋本 全然！ だって、怖さを感じるヤツがいないもん。みんな同じ身体して、なんでもかんでもボディビルやってさ。ホントにね、スタン・ハンセンも辞めちゃうけど、

今年4・7東京ドーム「橋本真也34才小川直也に負けたら即引退！ スペシャル」として実に8年3ヶ月ぶりにゴールデンタイムに生放送された一戦で敗れてしまった破壊王は以後、苦悩する日々を過ごすこととなる。

FOOL ON THE RING
馬鹿になれ!!
21

ハンセンの往年の時代とか、ベイダーとか、ああいうナチュラルなヤツっていうのは、ホントに強く見えるんですよ。いまは、昔のトニー・アトラスとか、ああいうのばっかになっちゃったから気持ち悪い！ 以上！

――いや、いまのWWFはエンターテインメントの最高峰、しかも大企業ですよ。

橋本 なんか、男のストリップみたいやな！

――男のストリップ（笑）。

橋本 俺は「また戻してくれよ」と思う。

――「戻す」というのは？

橋本 WWFは牛耳り方を間違えたんじゃないかと思うよ。アメリカってあんなに広いんだし。テキサスとか、テネシーとか、いろいろあったでしょ。どこの州に行ってもプロレスっていうのはあってね。あれがアメリカの面白みだったじゃないですか。だから俺たちは修行しに行くっていったら、アメリカは大体どこのテリトリーでも入れたんですよ。ああいう武者修行ができなくなっちゃったもんな。もし、カルガリーが空いてるんだったら、俺はカルガリーが欲しいと思うよ！

――ガハハハ！ 「カルガリーが欲しい」（笑）。スケールがデカイなぁ。でも、いまのWWFなんかは、「プロレス」とは謳ってますけど、プロレスじゃないですからね、実際（笑）。

橋本 やっぱり猪木さんが言ってる「プロレスの緊迫感」っていうのがなくなっちゃってますよね。だから難しいかも。

――WWFとは違うけど、ノアも、いまは「今風」な演出を取り入れたりしてますよね。

橋本 多分ね、ノアと俺がやるのが、みんなの願いかって言ったら、そうじゃないと思うんですよ。

――そうじゃない？

橋本 俺とは、きっと路線的には合わない！

――ズバリ言っちゃうと、カラーは合ってはいないですよね。

橋本 武藤とか蝶野のほうがしっくりいくと思うよ。

――スタイル的にはそうですよね。

橋本 だけど、俺はこういうタイミングで解雇になったわけだし、窓口としては俺しかいないし。元気いっぱいの小橋選手とか、峠を越えたかもしれないけど三沢社長もいる。背負ったヤツというのは強いんですよ。そういうものをぶつけ合わないとダメですよね。

――ノアのいまのカラーを考えると、橋本さんのカラーは違う。それが際立てば、俄然、面白みは増しますね。

橋本 まあ、新しいものが来るということに対して、問題が多くある。（参戦を）即決できないっていうのは、よくわかるんだけど、この時代の流れと、これだけマスコミがついてきてるものをね、自分たちがどれだけ注目されてるかっていうことを考えれば、タイミングを逃しちゃいけないってことですよね。

――確かに、ここ1ヶ月くらいは橋本さんのノア参戦の話題が多いですからね。

橋本 でも俺さ、今年、ぎょうさん一面に出さしてもらったけどさ、「引退」だの「解雇」だの、そんなのばっかだよ（笑）。

――ガハハハ！ それにしても今年は4試合しかしてませんよね。

橋本 そのかわり、会社に儲けさせたよ。巡業に出ない分は。それは自負できるんですよ。大一番のときにお客さんを入れられるっていうのは、トップとしての証だから！

――トップの橋本さんに聞きます。新日本とは完全に切れてるんですか？

橋本 辞めたっていうか、辞めさせられたというか。ただし、俺は新日本と友好関係は持ってるつもりですよ。なぜかと言うと、もともと新日本に対して、新たにノアというソフトを持ち込んで対抗戦をすることが俺の目論見だったわけですから。その窓口が俺たちしかなかったんで。本当は馬場さんのいるときの全日本プロレスに出向くことが団体のお互いのステータスを見せつけるときだった。なおかつ、いろんな格闘技が出てきて、俺たちがやらなきゃいけない緊迫感を持ってかれちゃった。でも、それを持ってかれたら、俺たちはインディーと一緒になっちゃう。そういう危機感もあるんだよ。

――なるほど。業界の中では、「解雇という形は取っても、結局あの道場は新日本からお金は出てる」とか、そういう話も出てるじゃないですか。

橋本 この器具からなにから、全部自腹ですよ、自腹！

――自腹！

橋本 ここの倉庫（『ZERO－ONE』の道場がある）に限っては、もともと「新日本の橋本を応援してる」ってことなんだけど、わかって頂いてね。藤波社長が「俺が用意してやった」とか言ってたけど、あの人が本当に用意してたら、俺はいまここにいませんよ。

――これからは個人で動いてく時代と言われてますよね。

橋本 だけど、個人じゃ限界がある！（キッパリ）。一人じゃなにもできないですよ。あとは紳士的に話をして、新日本から誰か分けてもらうか。それを内緒でやっちゃうか（笑）。

――物騒だな（笑）。

橋本 新日本の人間っていうのは、何年も

WWFは牛耳り方を間違えた!! テリトリーがあいてるならカルガリーが欲しい!!

10・9復帰の恩人藤波社長に愛と涙のグーパンチ。藤波社長がノックダウンされて、凍ったのは記憶に新しいところ。もう二人の恩人折り鶴兄弟とも仲良く記念写真。涙もろくて人間くさいのも破壊王の魅力の一つである。

栄光への独白
Special

かかって作り上げたから、もったいない。

——橋本さんは前から「プロレスの危機を感じてた」ってよく言ってましたけど、具体的に言うとどういうことなんですか？

橋本　単純に、お客さんにインパクトを与えるということが薄れてるっていうか、伝え辛くなったんですよね。そういうシチュエーションの試合ができなくなってきたっていうか。これだけはわかってもらいたいのは、受身も技もね、「死ぬんじゃねえか？」っていうような技ばっかりやってんだよ、俺たち。「それがなぜ伝わらないの？」っていうことだよね。

——大きな問題ですよね。

橋本　それをお客さんが安心して見ちゃう。その一発で首の骨折れるかもしれないのに。

——どんなに激しい試合をしても下手したら笑いながら見てますからね、いまのファンは。求めてる激しさが違うんでしょうね。

橋本　例えば、小川の大外刈り（ＳＴＯ）一発で、ファンは「アーッ！」っとなるわけだよね。なんでそうなるのかっていうことだよ。試合をやるまでのシチュエーションというか、そこができてないからなんですよ。（大技でもなんでも）やりすぎ。

——それはありますね。乱発ですね。

橋本　あれは凄いんだけど、飽きちゃったんだろうね、「受けのプロレス」って言うけど、受けもね、いい加減にしとかないと。

——最近、「猪木さんとはプロレスの危機を感じるという部分では共通してる」って言ってましたよね。その猪木さんはいま『ＰＲＩＤＥ』のプロデューサーですけど。

橋本　猪木さんは、多分取り込むだけですよ。だって、いま『ＰＲＩＤＥ』自体がプロレスラー中心になってるじゃないですか。ゴッソリいなくなるかもよ（笑）。

——猪木さんが引き抜くんですか？

橋本　あり得るよ。わかるだろ？（笑）。

栄光への独白

俺は　自分のことを　弱虫だと思う
だから　闘うことが　怖い
でも　怖いから　いつも命がけで勝負ができる
怖いから　今日も誰かに挑戦して行く
さぁ～がしてる～　い～まもぉ～　熱い胸のまま～
めぇ～ぐりあう～　い～つかぁ～　涙流しても～
誰もみなぁ～　夢をきしませ傷つきぃ～
生きて行くぅ～　今日も　出会いを信じてぇ～

——まあ、あり得ますよね、猪木さんだったら（笑）。

橋本　それはともかく、プロレスとはルールが違いすぎるからアレだけど、あの雰囲気を、なぜプロレスのリングでやれないか。それがね、毎日じゃなくてもいいんですよ。大一番のときとかに、そういうものをどっかでポイントを置いとけば、プロレスっていうのは成り立っていくんですよ。毎日やることも凄いですよ、それは。チョップ入れて、胸腫れ上がらせて、ミミズ腫れになってね。でも、みんな、そんなに凄いと感じてないんですよ。ひとつの試合が注目されて、「どうなっちゃうんだろう？」ってワクワクする感じが少ないじゃないですか。

——橋本さんの言う通りですよ。『紙プロ』が取材拒否の原因になったと思われる新日本への批判にしても、結局そういうことが言いたいわけですから。

橋本　全て誰かの意思に合わないというか、そういうプロレスは嫌いだって言うから。プロレスラーっていうものに対しては、何やったって、結局ケチつける人はケチつけるんですよ。でも「ケチつけるヤツは見てるんだろ」って。それでこっちの勝ちなんですよ。

——見なくなったら何も言わなくなりますよ。最近の新日本は見てないですから。

橋本　もっと真剣にケチつけさせるような試合をやんなきゃダメだよ。

——もっとケチつけろ！（笑）。バツグンです。

橋本　ケチがつけたくなるっていうのはね、試合に対してマニアックだということでもあるし。でもそれにプラスしてね、もっと多くの人が「ワーッ!!」ってなるようなものがあればいいですよ。

——橋本さん、いま『ＰＲＩＤＥ』に対してはどう思ってるんですか？

橋本　面白いと思ってますよ。

——見てます？

橋本　藤田の試合は見てますよ。

——石澤選手の試合は見ました？

橋本　見た。あれは、しょうがないよ。やってることのタイミングの取り方が違うから。俺たちは受けもあるからね。あっちに出る選手は半年から１年練習しないと、タイミングがズレちゃってるから。『ＰＲＩＤＥ』の選手がウチに来たら、全然違うし。だから石澤はしょうがないと思うな。石澤自身が力出す前にやられちゃったから、あれは悔しいと思う。だから俺と一緒で、そのリングで受けた恥はそこでしか返せないから！　まだあそこでやったほうがいいんじゃないかな。

——なるほど。いいアドバイスです。

橋本　ただ、あれが本当に面白いとは俺は思わないから。

——本当に面白いのは「プロレス」だと。

橋本　『ＰＲＩＤＥ』は脚光浴びてるけどね。あれがプロレスに取り込まれたらキツイと思う。

——実際プロレスラーが全部引いちゃったらどうなるかですよね。

橋本　石澤のいいところが、そこで出ればいいんでしょうけどね。高田さんも力出しきれずにああなっちゃってるから。面白いね、やる競技、やる競技で違うから。

——ボクなんかは、逆に『ＰＲＩＤＥ』もプロレスの一部だと思って見てるんですよ。新日本の旗印である「ストロング・スタイル」。それは試合スタイルのことじゃなくて、要は「旅から旅へ」というか、簡単に言うと、生きてく上での冒険精神だと思うんですよ。それをいまは、いまの時代の中では

FOOL ON THE RING 馬鹿になれ!! 21

Shinya Hashimoto

『PRIDE』に出てる選手に感じますね。

橋本 俺も「ストロング・スタイルってなんですか?」って言われたら「なんだろうな?」ってなっちゃうけど。結局、その人間の人生を見せなきゃいけないんじゃないですか? 生き方というか。その背景を切り取って見てくれればいいけど、切り取れない人には、それをリング上でたったの何分間で、どうやって見せるかなんですよね。

——そうですね。だから、なんでもかんでもプロレスラーが『PRIDE』に出ればいいとは僕も思ってないんですよ。

橋本 逆にギチギチに縛られちゃうからね。妥協点がなんにもないから、ギスギスになっちゃうでしょ。それはそれでいい意味もあると思うし。だけど、プロレスラーは反則も許される、だけど最低限のルールはある。こっちもも難しいですよね。

——浮気は許されるけど、本気になっちゃいけないとか、世の中にはいろいろありますからね。

橋本 う~~ん、難しいなぁ、それは。俺は、去年浮気したときは、「ホントにこのまま別れてもいいかな」って思ったもんな。これはマズイか。

——ガハハハ!

橋本 でもな、俺は最初にゴチャゴチャ言わないようにカマしあげたから!

——カマしあげる! 凄い言葉だな。

橋本 いまの話は冗談だぞ(笑)。

——でも、いまの『PRIDE』には一番迫力があったころの新日本の雰囲気を見てる人もいますよ。

橋本 うん。でも、昔の新日本って言っても、全員があんな試合してたわけじゃないじゃない。(ドン)荒川さんだっていたんだから(笑)。

——ダスティ・ローデスもいましたしね(笑)。

橋本 だから、一つ、二つはね、そういう意味を醸し出せば、あとは自由でいいと思うんですよ。

——つまり、試合スタイルだけじゃなくて、精神性を見たいわけですよね、ファンは。冒険精神、チャレンジ精神という言葉に置き換えられる。

橋本 結局、ここ何年かの『ワールド・プロレスリング』を見てたらさ、試合中継が、みんな途中から始まるんだよ。いいとこだけ見せてるんだろうけど、「あれでなにが伝わるんだ」って思う。だったらね、テレビに出れないヤツがいっぱいいたっていいんですよ。

——それ、前から言ってますよね。「若手はテレビに出すな」って(笑)。

「ストロングスタイル」っていうのは、結局その人間の人生を見せなきゃいけない!!

橋本 だって、伝わらない試合いくら見せたって、しょうがないよ。それだったら試合の前の緊迫感から見せていって、1~2試合だけを集中して見せて、それを伝えていけば、次につながってくんだよ。それが毎週、毎週、平均的に同じようなの見せちゃって、いきなり「ピューン」とか音がして画面が変わってさ(笑)。

——ああ、そういう音が入りますね、「ビューン」っていう音(笑)。

橋本 「なんだ、コリャ? 把握できねぇじゃねえか」って。大技だけ繋いで見せたってしょうがねえだろ。あんなの見たって、なにが面白いの?ってなるよ。

——そういう試合の中では、橋本さんのドームでの復帰戦(10・9藤波戦)なんかは異質でしたよね。

橋本 そうだね。それまでの背景がついてきて、そういう撮り方してくれると、一番伝えやすいんですよ。あれで引退問題が絡まなかったら、面白くなかったかもしれないよね。「いい試合」で終ってたかもしれない。俺が切羽詰まっちゃって、(小川に)3回も連続で負けるっていうことは、選手生命絶たれたのと一緒ですよ。それがなんで死ななかったんだろうというね。

——橋本さんが、今後冒険心を持って「マット界を面白くしていこう」という気持ちで行動を起こせば、ファンは絶対ついてくると思いますよ。いまの新日本は内へ、内へと向かってますからね。

橋本 安心を求めるばっかりじゃしょうがないよな。確かに喧嘩ファイトを仕掛けるようなこと(99・1・4)は、いつまでたってもいけないことだと思うよ。俺はそれで追い込まれたけど、小川がそれをしてきたという部分で、あいつも勇気がいったと思うし。

——ああ。

橋本 俺という未知の人間を相手にね。あれが最初からわかってたら、マジで違っちゃってるから。あのファイトはやるほうも勇気がいることなんですよ。それによって、それからいろいろなもんが動いたし、結果として俺もクサんなかったから。

——あの試合のあと「アントニオ猪木は絶対許さないぞ」というコメントが出てましたよね。

橋本 (ニヤッと笑って)よく言ったよなぁ。

——いま思うと(笑)。

橋本 でも、それがあのときのホントの気持ちだからな。「クソ猪木」とか言ってたからね(笑)。そういう気持ちがあっても、猪木さんとどっかで繋がったときに、小川に繋げていけるかもしれないしね。

——この先、小川選手とはやらないとも限らないわけですしね。

橋本 でも、一つの流れは終ったから、簡単にやったらダメだね。いまやったら「ハァ?」って感じするでしょ? また凄いものが出るような場面を作ってかなきゃいけない、俺たちは。それがプロだよ!

——ノアとはそういう闘いはできそうなんですか?

橋本 これからだね。これからお互いを見せ合える試合をしようと。みんなそれぞれ自分を背負ってて、やっぱり未知の人間は怖いだろうし、変な問題がありすぎるから。でも、もう時代が変わったわけだから。それをひとつ飛び越えてやっちゃったときにね、新しいものが生まれると思うから。

——三沢社長とは、直接話してるんですよね。三沢社長の印象は?

Special 宗光の独白

橋本　非常に話をしやすい人だし、話を聞ける人だから。「う〜〜ん」て黙ってるけどね（笑）。

——ガハハハ！　それ、話を聞いてないんじゃないですか？（笑）。

橋本　いや、だから冷静なんですよ、向こうが。俺はイケイケだから、「ああだ、こうだ」ってどんどんしゃべってるんだけど、三沢社長は受け入れるほうだからね。話を聞いてくれないと、話が始まんないから。あの人のああいう冷静さっていうのが、みんながついてきた理由じゃないのかな。

——そういえば秋山準選手が噛みついてましたよ。

橋本　あ、そう。いいことだよ。噛みつかない方がおかしいんだよ。やっと噛みついてきたか。

——橋本さんの「もっと実績を積んでから来い」っていうコメントに、「あの人は『ZERO』って言ってるんだから、ゼロから始めろ。ゼロから始める人間が実績云々て言うのはおかしい」って。

橋本　なんか、よくわかんないですね。『ZERO』は、俺の生き方をこれからまた始めるっていう意味で、俺のプロレスでの実績っていうのは消えやしないんだから。そんなことよりも、気に入らないんだったら闘いを挑んで来いよ。それだけだよ！　やる自信があるかないか、それだけだから。

——いつ何時でも、男らしいなぁ、橋本さんは。

橋本　そんなことないよ（笑）。

——否定しますか（笑）。でもね、橋本さんが人生に保険を賭けない生き方というか、そういうものをリングで見せてくれれば面白くなりますよ。

橋本　いまでも変わんないね、冒険精神を持って生きたいというのは。だって俺はプライドを持ってずっと闘ってきたし。それは消え去るもんじゃないし。『ZERO—ONE』ってものは新日本の遺伝子を継いだもう一つの形だと思うから。

——ところで、『ZERO—ONE』っていうのは団体なんですか？

橋本　団体ですよ！（キッパリ）。じゃあなんなのよ、新興宗教じゃないんだから（笑）。

——ガハハハ！　そういう意味じゃなくて。

橋本　団体というか、グループっていうかね。T2000と違うところは、ちゃんとした株式会社として登記をして作るから。

——いろんなリングに出て行くということではないんですか？

橋本　いろんなリングに上がるのは最初だよね。やっぱりこっちに引き込むためには、まず討って出ないと。俺はなんで新日本を解雇になったかって言ったら、ノアさんとやるからクビになったわけだから。他だったら、こんなことになってねぇよ。

——例えばの話、橋本さんが言うところの悪代官がいなくなって、新日本の組織が活性化されたら、もう一度新日本に戻ることもあり得るんですか？

橋本　いや、戻るったって、俺はもう『ZERO—ONE』としてしか戻れないから。それは、こういう結論を下した会社として線を引いちゃったから。でも、例えば将来的に『新日本プロレス／ZERO—ONE』っていうのは、あるかもしれない。だから、オタッキー的に言えば……。

——オタッキーって（笑）。

橋本　まぁ、メルスデス・ベンツがあって、BMGがあるとすれば、俺はAMGだな！

——……全然わかりません！

橋本　わかるやん！　チューニング・マシンだよ。つまり、純正じゃないから、暴走もするんだよ。

——ガハハハ！　チューンナップして、どんどん暴走してほしいですね。

橋本　ただね、荷物運べなくなっちゃったり、オーバーヒートしちゃったり、いろいろあるんだよ。

——大変ですね（笑）。ところで橋本さん、来年は具体的にはノアに参戦して、それ以外はなにをやっていくつもりなんですか？

橋本　自主興行。1月はちょっと難しいと思うけど。向こうに参戦して、今度はこっちに引き連れてきて。そこで新日本から何人かこっちにもらっとけば。

——もらっとく（笑）。新日本とはそういう交渉の場は設けられるんですね。

橋本　もちろん。だって新日本には牙を剥くとかじゃなくて、利用しないと。俺、一つだけ言いたいのは、昔、新日本を辞めてった人と俺が違うとこは、そこなんだよ。新日本をどうこうしようっていうんじゃないの。新日本をさらに大きくするためにやったことで、こういうことされたから、怒りは一部の人間にはあるけど、あとは新日本に対しては、いくらでもお互いにシノギ

橋本が私財１千万円をなげうって購入した最新トーレーニング器機が続々と搬入中の道場。来年には新弟子募集も予定、最新器機と破壊王の熱血指導で破壊王二世がここから生まれることは必至！

FOOL ON THE RING 馬鹿になれ!! 21

Shinya Hashimoto

宗光への独白 Special

もう二度と「引退」という言葉は使えない『橋本真也65歳頼むから引退してくれスペシャル』とかやってくれれば別だけど

を削っていきましょうっていうか。

——自主興行も打っていくというのは面白いですね。

橋本 もちろん、やるよ! それと、プロレスをもう一回見直す。例えば、プロレスサミットっていうのがあるんであれば、そういうところの話ができる人だけを集めて、もう一回「プロレスっていうのはこうじゃないか?」って討論すべきだよ。それで喧嘩になってもいいじゃん。プロレスっていうのは答えがねぇんだから。

——「プロレス」は「プロレス」なんだけど、答えはそう簡単には出ないですよね。

あ! そういえば、ユセフ・トルコさんが、「いまはあんまり八百長って言われないだろ。俺らの頃は一升瓶飛んできたからな。『この八百長!』って。だから気が抜けないんだよ。いまはそういうのないだろ?」と言ってました(笑)。

橋本 ユセフ・トルコみたいな人がいるから「八百長」って言われんだよ(笑)。

——ガハハハ! そうきますか(笑)。

橋本 名前からしてヤバイじゃねえか。俺なんか、子ども心にさ、「ユセフ・トルコ」って言ったあとに、考えるもんがあったんよ。「言っていいのかなぁ?」って(笑)。みんな「トルコさん」とか普通に呼んでて、俺は「いいのかなぁ?」って。

——ガハハハ! なんでそこだけ敏感になるんですか(笑)。

橋本 だって知らない人が聞いたら変だろ(笑)。「そんなこと言うんじゃない!」って。

——ガハハハハ! 最高です、橋本さんは。今回、以前、新日本プロレスを解雇された者同士ということで前田日明さんと対談を組もうと思ったんですけどね(笑)。

橋本 前田さんともタイミングがズレたね。いまだからこそ、たぶん前田さんと意見合わないと思う。

——いまだからこそ?

橋本 うん。前田さんも人の話聞ける人じゃないから。押しつけ型だから(笑)。

——押しつけ型(笑)。

橋本 トラブッちゃう人とはやりたくないよ。長州さんもそんなとこあるんだよ。そうすると話す気もなくなっちゃう。

——いやぁ、それでも前田さんと橋本さんが話をしてるとこは見たいですね。仕事うんぬんじゃなくて(笑)。

橋本 アッ! そういえば、前田さんからクラッシュ・ギャルズのビデオまだ返してもらってないぞ!『東京爆発娘』が入ってるヤツ!!

——ガハハハ! そういう話がいいなぁ。そういう話で対談やってくださいよ(笑)。

橋本 まあ、時期を見てね。

——こないだどこかでRINGSの山本宜久選手に会ったらしいですね。

橋本 あと成瀬選手にも会ったよ。なんか、いきなり「KOKに出てください」って言ってた(笑)。俺、知らないから「KOKってなに?」って聞いたら、「こういう人間が出て、こういうトーナメントなんです」って真面目に説明してくれた(笑)。

——前田さんの話も出たので、ついでに聞きますけど、同期の船木(誠勝)さんが引退しちゃいますね。

橋本 やっぱり、燃えちゃったんだから、しゃあないね。

——燃えちゃったら大変ですよ(笑)。

橋本 そうか、燃え尽きたや(笑)。あいつの生き方っていうのは、俺たちとは違うから。「船木に許されて、俺はなんで許されなかったんだろう?」って考えたことあるよ。あいつの試合を見に行った後。

——は? どういうことですか?

橋本 船木が「引退する」って言っても誰も文句言わずに、なんで俺が引退するって言ったらグダグダ言われたのかと思ってな。

——そういう意味ですか。

橋本 俺に期待して言ってくれるのもあるだろうけどね。船木だってまだまだ闘える体なのに。でも、一つの生き方として、灰になるまで闘うのも男だし、余裕を残して「下がった俺を見せたくない」っていう気持ちで辞めるのも男だと思うしね。彼は自分の一番いいタイミングを見つけたんだと思うよ。

——橋本さんは灰になるまで闘うタイプですよね。

橋本 そうせざるを得ないだろ。もう二度と自分の口から「引退」って言葉は言えないから。『頼むから引退してくれスペシャル』かなんかやってくれれば別だけどな。

——ガハハハ! 65歳くらいまでありますかー一ッ!

橋本 頼むから、鶴折るからって。辞めてくれって(笑)。

——『橋本真也65歳、頼むから引退してくれスペシャル』(笑)。

橋本 そうなったら、いかりや長介になっちゃうよ。

——は?

橋本 「ダメだ、こりゃ」ってね(笑)。

——ダーッハッハ。

橋本 とにかくもう一度プロレスを考えて、掻き回すよ! 以上!!

【00年11月28日、東京・『ZERO-ONE』道場にて収録】

新日本を解雇された

格闘王 前田日明が

新日本解雇の大先輩

橋本真也が新日本プロレスを解雇となり、新たに『ZERO-ONE』を設立。今から遡ること13年前、長州顔面襲撃事件により、橋本と同じく新日本を解雇された"格闘王"前田日明。新日本解雇の大先輩・前田日明が、解雇されたてホヤホヤの"破壊王"橋本真也の今後を考える！

——前田さん、ズバリ言って、橋本選手の新日本解雇についてどう思われますか？

前田 全然知らない！（キッパリ）。

——ズコッ！（笑）。

前田 今月は忙しかったんだよ。先月ハワイに2泊4日で行って、日本に4日くらいいて、ロスに2泊行って帰って来て、また、ロス2週間行って帰って来てでしょ。また、26日からロス行かないといけないしね。

——ハァ！ 一体、何やってるんですか？

前田 来年に向けてのマッチメイク。リングス10周年だから。それでな、ブラジルでKOKの放映が決まったんだよ。

——凄いですね。で、新日本を解雇になった大先輩として、これから橋本選手はどうしたらいいと思いますか？

前田 橋本は、俺より大変だと思うよ。なぜかと言うと、あいつは全く一人になっちゃったからね。誰か周りにいるの？

——う〜ん、どうでしょうね。

前田 あとは、ノバに……。

——ノアです！（笑）。

前田 ああ、ノアか。だから、ノアに行くか、全日本に行くかなんでしょ？ まあ、拾ってくれるとこがあればいいけど、収入的にはどうなのかな。

——もし、紐付き解雇じゃないなら橋本選手は食っていくのも辛い。そういう立場からすると、前田さんからコメント聞くのが一番いいなと思ったんですよ。

前田 う〜ん、どうなんかな。俺はアングルのような気がするんやけど。橋本の周りから何も噂聞こえて来ないやんけ。もし、本当に解雇とかなったら何か聞こえてくるでしょ。辞めさせられたら、この先どうやって食っていくにしても、動かなあかんしね。

——ノア参戦の動きはありますけどね。前田さんが新日を解雇になった時は、新生UWFを旗揚げした引き金になりましたよね。

前田 あの時はね、俺からしてみれば、ちゃんと合図して蹴ってんのに、長州力がビビッて避けてるから目に当たったんだよ。猪木のおっさんは、「プロレス道にもとる」って、わけわからんこと言ってな。何言うてんねん！っていう話だよ。俺がプロレス道にもとるって、それじゃ、猪木さんはグレート・アントニオに何やったって話でしょ。「アホかっつーの」って感じやね（笑）。

——ガハハハ！ プロレス道にもとった前田さんは、UWFを旗揚げして、いまの総合格闘技の種を蒔いた。そんな進むべき道を見つけた先輩の目、もしくはプロモーターとして橋本選手はどうしたらいいと思いますか？

前田 橋本もな、狭い日本でクビになったらなったで、ゴチャゴチャ言ってないで、アメリカ行けばいいんだよ、アメリカに。WWFでもWCWでもいいから。とにかく行って、そこで頑張って道作ってやればいいんだよ。バッと名前が上がってきたら、嫌でも新日本から電話掛かってくるよ、「頼むから上がってくれ」って。

——そういう戦略もありますね。

前田 そうだよ。あとはノアとかいろんなところに選手送ったりしてさ。もしくは全日本を助けてやって新日本よりデカくするとか、いろんな方法があるやんけ。つまり、リベンジの手段はいくらでもあるんだよ。

——リベンジ（笑）。

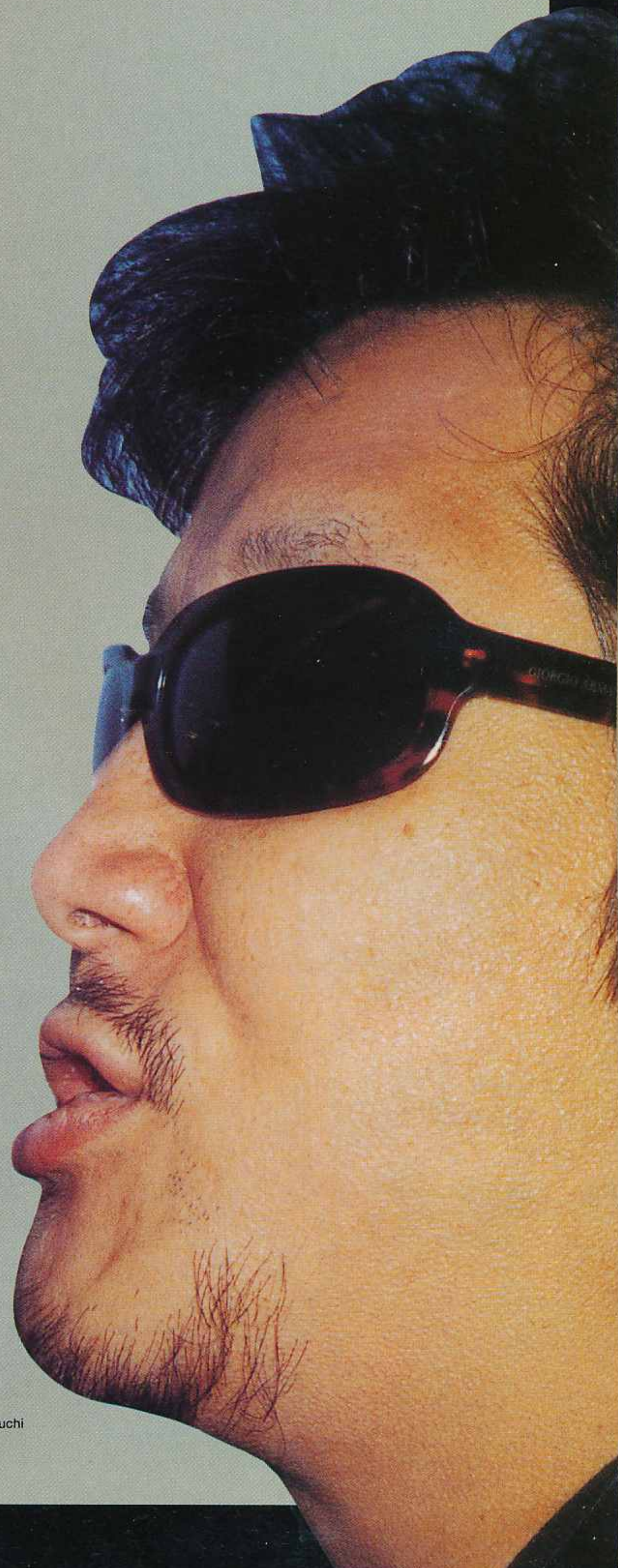
狭い日本でクビになったって、ゴチャゴチャ言わんと、アメリカ行けばいいんだよ！

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
構成／チョロ
text by Choro

新日本を解雇された 破壊王 橋本真也を語る!

前田　「長州このヤロー!」なんて言ってるだけじゃダメだけどね。それでもリベンジできなかったら、家まで行って卵ぶつけるほかないよ。

――でも、橋本選手は、前田さんのように方向性がハッキリ見えない部分もありますよね。

前田　いまの橋本見てるとね、グズってイジけてるようにしか見えないよ。それは最悪なパターンだよね。だから、本当はこういうことしたかったのに、こういうような妨害があったっていうのを、もっと周りにわからせないとダメだよ。「橋本、何でイジけてんだ」なんて思わせたら橋本のイメージ丸潰れやんけ。でも、新日本はそういう風にしか見えないイメージにもっていくからね。俺の時もそうだったから。

――人生相談風に言うと、自分のやるべき方向をしっかり決めた方がいいということですか?

前田　自分のやるべき方向を決めるのと、自分の陣地固めをシッカリ決めることやね。誰が敵で誰が味方かわかんないんだよ、いまは。味方だと思ってたヤツが敵だったんで「みんな敵なんだ」ってなっちゃってんじゃない? でも逆に言うと敵だと思ったヤツが味方だったってことも有りえるから。だから、まず陣地固めをして、誰が味方で誰が敵かを明らかにした方がいいよ。

――橋本選手を、選手としてどう見てますか?

前田　ユニバーサル(第一次UWF)設立の時に、高田(延彦)が橋本を連れて来て「コイツ、UWFに来たいんですよ」って言ったんだけど、その程度しか知らないんだよ。あとは、上のヤツに殴られて頭にきてブロック持ち出して「この野郎! 殺してやる!」って試し割りしてたとかいう話は聞いたね。「へぇ〜」って思ったよ(笑)。

――一回、喧嘩ファイトで、ヒロ斉藤の指を骨折させて、長州力とマサ斉藤に怒られて欠場になってますよね(笑)。

前田　指折ってもしゃあないやんけ。ヒロ斉藤がキャバレーのお姉ちゃん口説こうと思って、かわいく見せようとして「指切り」とか言って骨折したかもしれないでしょ。指切りのし過ぎかもわかんないし。

――まぁ、総合格闘技方面は出る気ないみたいですけど、WWF方面では橋本選手は素質があると思いますか?

前田　一度捨てて、割り切るんならいいと思うよ。俺がプロレスやってた頃は、強さを追い求めるしか方向がなかったからね。でも、いまから総合格闘技をやるのはハッキリ言って辛いと思うよ。だから、割り切って、アメリカで頑張るのもいいと思うね。WWFのトップ選手の給料なんて、グッズの契約料だけで年間4億円やで、4億!

――よ、4億!?

前田　それから試合のギャラがあって、ペイ・パー・ビューの収益の何%か貰えるんだよ。俺が橋本のマネージャーになってもいいよ。25%貰うけどね(笑)。

――前田さんがマネージャーだったら最高ですよ(笑)。

前田　だから橋本見てると1ヶ月前から身体付きも変わってないよね。何に本気になってて、何をやりたくて、それをやるためにどんな妨害があって、こんなことになったのか、自分の言葉と行動でわからせていくべきだろうね。

さらに1・28東京ドームで引退が決まった スタン・ハンセンとの思い出!

デストロイヤーは本当は"ザ・センーショナル・インテリジェント・デストロイヤー"っていうリングネームでしょ。ハンセンもそんな感じで、インテリジェントもあって、肉体面や闘い方もセンセーションだったよね。

ハンセンが全盛期の頃って、俺はグリーンボーイだったから、試合でもセコンドでもハンセンのラリアットよく受けたよ。

乱闘になると、ハンセンがいかに強いかをアピールするために若手がそういう役割するんだよ。でも、みんなビビッちゃって、ロープに振られても「あぁ、怖いッ!」って縮こまって走るんだよね。俺はハンセンめがけて一直線に走って行ったよ。テレビに映るのが嬉しかったから(笑)。

あと、ハンセンは客席でブルロープ振り回すでしょ? 俺ら若手は客を守るためにいるんだけど、俺らのことを思いっきり蹴飛ばしたりしてくるんだよね。それも手加減しないで(笑)。その辺の切り替えはしっかりしてたよ。プロフェッショナルだよ! 大したもんだよ、やっぱりね。

あと、ハンセンは俺のことを「グラスアッパー」って呼んでたね。グラスホッパーって言ったらバッタだけど、いま考えると「グラスアッパー」って言ったら、「麻薬中毒」じゃない? ハンセンに会ったら、俺の写真見せて、「『グラスアッパー』ってコイツのこと呼んでたのは、どういう意味なんだ?」って聞いといて(笑)。

「元気ですかーーーッ!! 燃えてるかーーーッ!!（一泊置いて）えー、俺もまだ燃えています」

10・31大阪城ホール、『PRIDE.11』のリングに登場するやいなや、初っぱなに、いつも通り観客席をビックリさせたアントニオ猪木。

続いて、アントン総帥自身が総合プロデュースを務める、12・31『猪木祭り』（正式名称『Millennium Fighthing Arts INOKI BON-BA-YE』）の話へとマイクはなだれ込んでいった。

「えー、関係者から、とんでもない要望が出てきました。12月31日、新世紀に向けて……」

新世紀に向けて一体どんなイベントをカマシてくれるのか、その具体的な内容を知らされていないマスコミ陣も、アントン総帥の次の言葉を聞き逃すまいと色めきだった。そんな空気の中、アントン総帥は、〝元気〟な声で、こう言い放つ。

「〝なんでもいいから、凄ェイベントをやってくれ!!〟と言われまして……」

ズコッ！ いや、な、なんでもいいからって……。

〝最後の晩餐か〟？ 〝希望の光〟が差し込むか？

不確定情報が飛び交う中では、『PRIDE』に上がってる選手がプロレスをやるところなど、いまさら見たくない」というマニアもいれば、当然「いや、だからこそ見たい」という声も多数あった。

こういった声やら、「いったい何をやるつもりなんだ？」と訝しげな一部マスコミ陣に対して、アントン総帥がどんな発表の仕方をするのか、と期待されていた中で出てきたのが、「なんでもいいから、凄ェイベントを――」と圧倒的にアバウトなもの！

素敵すぎるゼ、アントン!!

いや、でも確かに、細かいことよりも、「凄ェ」イベントor試合を見せてくれれば、ファンもマスコミも文句はないのである。さすがアントン総帥の言葉は、相変わらずベタだが、実に奥深い。

と思ってるうちに、なんだかホントに「凄ェ」ことになりそうだ。

このイベントは、アントン総帥がエグゼブティブ・プロデューサーという位置づけで関わっている『PRIDE』の開催元、ドリーム・ステージ・エンターテインメントが「実施運営」する。その関係から、なんと『PRIDE』に上がっている選手が大挙出場し、プロレスルールで一夜限りの超豪華ワンナイト・タッグ・トーナメントを行うという情報が入ってきた。それも、出場予定のチーム編成は、まさに仰天ものなのである。

桜庭和志&ケンドー・カシン（石澤常光）組、マーク・ケアー&マーク・コールマン組、アレクサンダー大塚&イゴール・ボブチャンチン組。

そして、ヘンゾ&ハイアンのグレイシー・ブラザース！ 加えてハルク・ホーガン&ランディ・サベージ組!! ここまででも、プロレスと格闘技が融合することこの上なし!! まさに世紀替わりに相応しいドリーム・マッチが次々に実現するかもしれないのだからたまらない。一時代前とはいえ、アメプロのスーパースター、ホーガン&サベージ組が、グレイシー・ブラザースと異次元対決をするという、夢のような空間をあなたは想像できますか？

さらに、藤田和之&ドン・フライ組、小路晃&安田忠夫組といった、『PRIDE』と新日本の越境タッグもプランニングされているという。そして、この越境タッグのスペシャル・バージョンとして浮上しているのが、高田延彦&武藤敬司組だ。

かつて、「新日本vsUインター」の頂上対決で話題を呼んだ両者だが、20世紀の最後にタッグ結成というのも華があって夢がある。

Millennium Fighting Arts INOKI BON-BA-YE で超ド級のドリーム・タッグ・トーナメント実現!?

もいいから
ェ試合をやってくれ!!

しかし、高田は以前から、「純プロレスのリングに戻るんだったら、キラキラした気持ちで、最高のポテンシャルの相手と、完全燃焼したい」と語っている。『PRIDE』のリングであれ、プロレスのリングであれ、より高い山に登りたいという高田の欲求は変わらないようなのだ。この欲求から推察すると、高田の出場はシングルマッチという目も出てくる。一部で報道されている高田vs武藤の激突となるのか、高田の去就は一番の注目と言える。

他には、ケン・シャムロック、ゲーリー・グッドリッジ、さらに意外なところでは、TV番組を絡めたプロレス団体・「WTW」に参加しているバス・ルッテンも、この大会の出場に名乗りを挙げているという。

そして、タッグ結成を一部で報道された小川直也と橋本真也の出場に関しては、小川が佐竹戦で左手負傷、橋本がノア参戦で揺れている時期だけに、実に微妙なところだ。

諸条件がクリアされれば、スペシャル・マッチとして小川vs佐竹の再戦が『猪木祭り』で組まれる可能性も残されている。

11・29にパラオのイノキ・アイランドにアントン総帥の指導を受けに旅行った佐竹雅昭は、帰国する翌日の12・5に会見を開く予定で、この号が出る頃には参加か不参加かは明らかになっているだろう。

つまり、これを書いている12・1の時点では100%の確定マークを打てる情報はない。

藤田も「プロレスのリングに戻るのはまだ早い。『PRIDE』一本で行きたい」と語っており出場は微妙という話も伝わってきている。

アントン総帥とのロス会談を終えて帰国した藤波辰爾社長は「俺も出たい！」と自ら出陣宣言をし、「新日本の全面協力」を明言していたが、『PRIDE』が主催なら、ウチにも面子があるし、この話はない」というふうに、数日のうちに、またまた揺れるドラゴンとなってしまった。

12・23の『PRIDE.12』に出場す

『イノキ・ボンバイエ』バスツアー決定！

元気ですかーーッ！ 燃えてるかーッ!!
ということで、12・31『イノキ・ボンバイエ』のバスツアーが決定ーッ!!

●日　程：2000年12月31日（日）～2001年1月1日（月）
●出発地：東京・横浜・名古屋・富山・金沢・岡山・広島・博多　全8主要都市
Aプラン／会場直行バス（チケットなし）　Bプラン／会場直行バス＋スタンドS席チケット付き
●料　金：出発地・プランによって異なる
●問い合わせ：近畿日本ツーリスト　東京企画旅行支店　TEL.03・5467・8306
担当：黒田、小池、田井まで　HPアドレス　http://www.knt.co.jp/tkr/fight

12・31　大阪ドーム
『Millennium Fighthig Arts INOKI BOM-BA-YE』
19：00試合開始
チケットは、チケットぴあ、ローソンチケット他で、闘魂発売中!!
VIP　50000円～スタンドA　5000円

●問い合わせ●
（株）ステージア　06・6344・4441
（株）DSE　03・5775・5700

る選手の負傷欠場ということも十分ありえるし、これからの状況の変化によっては、タッグ・トーナメント開催自体が消滅という事態になっているかもしれない。

まさに、猪木が行くところ、いつ何時でも何が起こるかわからない！　すべては猪木の口から決定事項が飛び出してくるのを待つしかない。

「人は闘いを忘れたときに老いてゆく」とアントン総帥は言うが、これは「プロレス」も一緒。「プロレスは闘いを忘れたときに老いてゆく」のだ。

しかし、ここで予想している面子が集まれば、『PRIDE』とはまた違う、「プロレス」にしか醸し出せない華やかさと凄みを醸し出す「闘い」が繰り広げられるだろう。

むしろ、それが立ち昇ってこそ、プロレスの未来に大きな意味での希望の光が灯るとも言える。

『PRIDE』に出ている選手が、プロレス・ルールで闘うという部分では夢は広がるが、逆に、もしこれで「『PRIDE』の試合の方が面白い」という評価が下されれば「プロレス」の存在そのものが揺らぐことにもなりかねない。

圧倒的な面白さになるのか、思い切りハズすのか。これは選手にとってもそうだが、どうやら見る方にとってもギャンブルになってきそうだ。しかし、そのギャンブル性が、本来プロレス観戦の醍醐味でもある。

12・31は、〝最後の晩餐〟になるのか、プロレスの未来形を示す巨大なヒントと刺激を与えることになるのか、いずれにしても、現時点では「なんでもいいから凄ェ試合をやってくれ!!」というしかない。

20世紀と21世紀をギリギリで綱渡りする、超ド級の蜃気楼イベント『イノキ・ボンバイエ』はすぐそこだ。

行きますかーーーーッ!!

何でも
凄

12.31 大阪ドームは
〝20世紀プロレス〟と
〝21世紀プロレス〟の
究極の綱渡りか!?

高田延彦&武藤敬司 ?

桜庭和志&ケンドー・カシン ?

マーク・ケアー&マーク・コールマン ?

藤田和之&ドン・フライ ?

小路 晃&安田忠夫 ?

ヘンゾ&ハイアン グレイシー・ブラザース ?

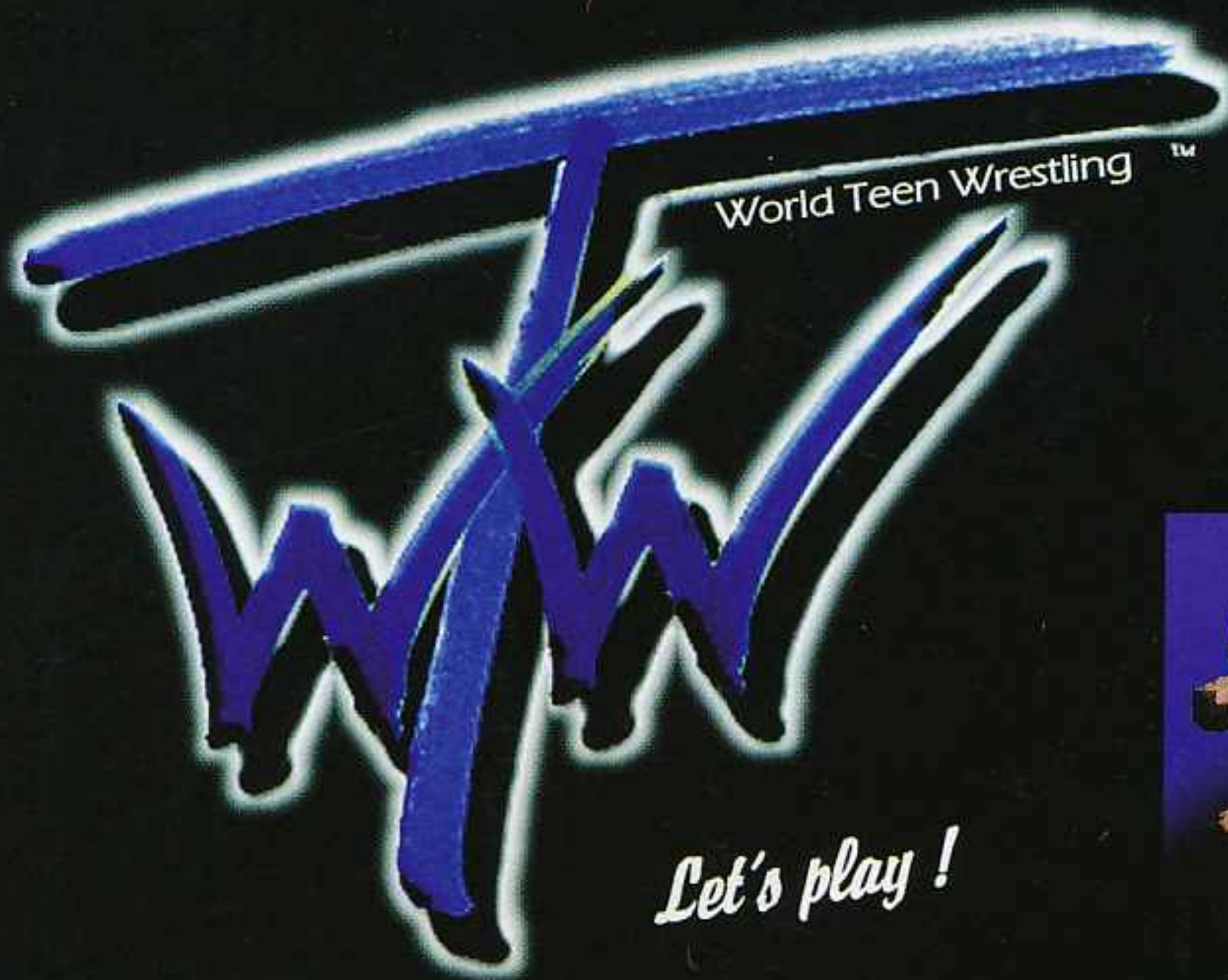
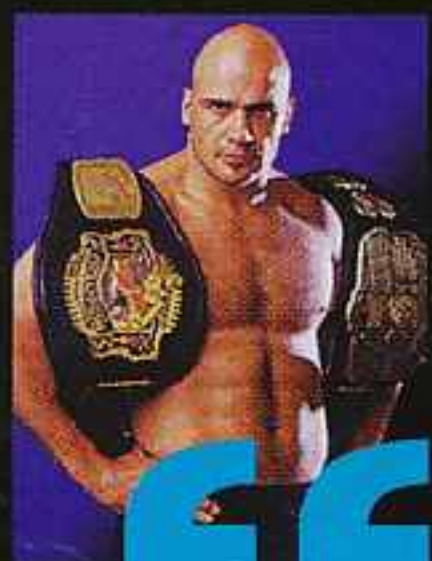
ハルク・ホーガン&ランディ・サベージ ?

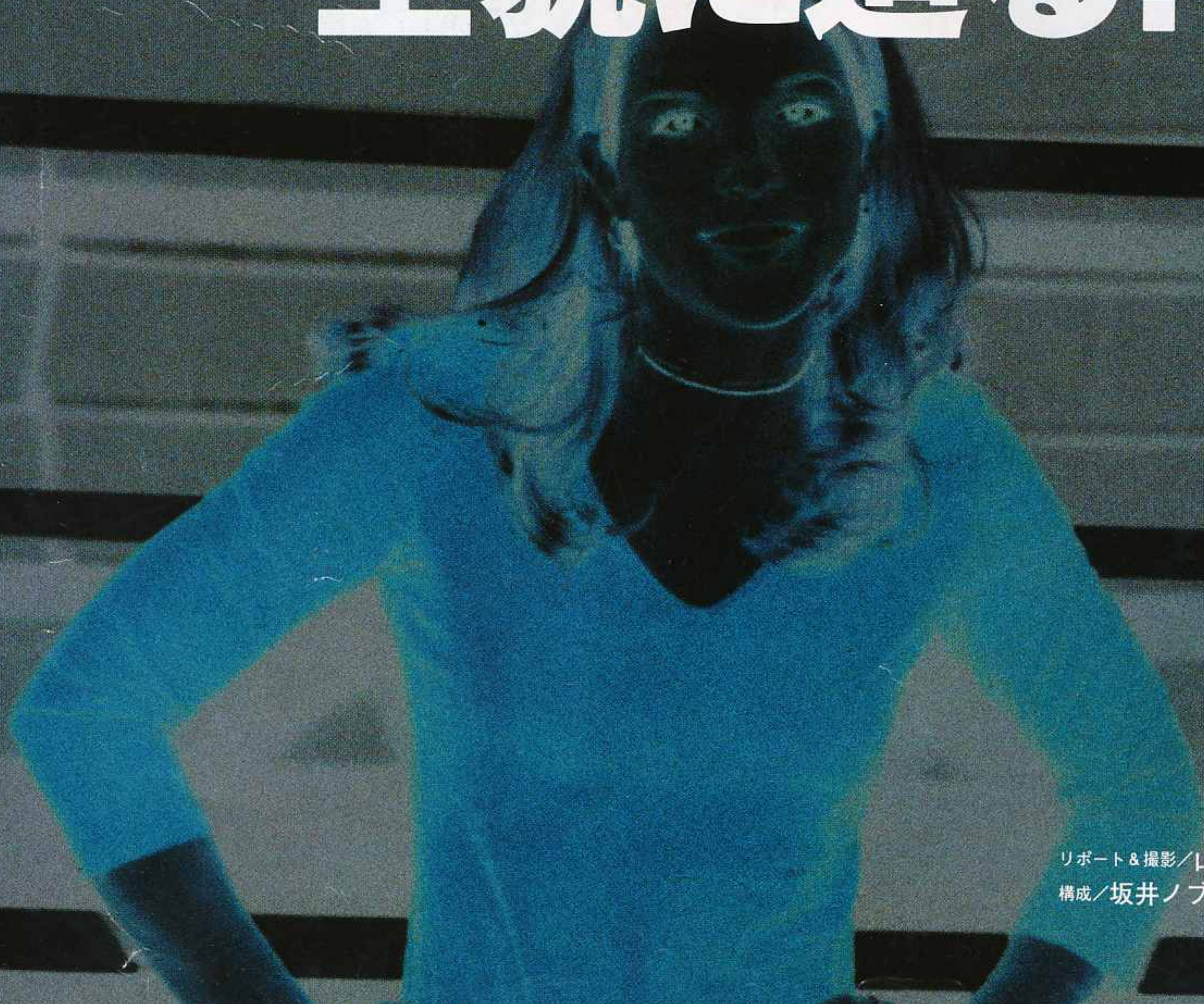
●その他の出場候補選手

小川直也　橋本真也　佐竹雅昭　バス・ルッテン　ケン・シャムロック　ゲーリー・グッドリッジ

World Teen Wrestling™

wTw

Let's play !

Pro-wrestling minus the STEROIDS minus the WRINKLES = World Teen Wrestling

今、プロレスとバーリ・トゥードと『ビバリーヒルズ青春白書』がひとつになる！

本誌完全独占スクープ！謎の新団体・“wTw”の全貌に迫る！

リポート＆撮影／山根由里（本誌アメリカ通信員）
構成／坂井ノブ

本誌前号のパンクラス企画の中で少し触れたバス・ルッテンによる新団体……「総合格闘技の技術とプロレスのドラマが売り」という、その謎の新団体にメスを入れるべく、本誌はさっそく調査を開始した。すると、なんとこの団体、ただのプロレス団体ではないことが判明した。ハリウッドの大資本が裏で糸を引く一大プロジェクトだったのだ！　しかも関わっているのは、ルッテンだけじゃなく、ウゴ、コールマン、ペレといった完全にバーリ・トゥードな側のスペシャリストたち！　そんな強い人たちがアメプロ？　そんな「ナニがナンだか？」（by芳賀元太）なWTWに、本誌アメリカ通信員・山根由里が突撃取材を敢行してまいりました！

一部WEB上で話題になった バス・ルッテンの新団体(?) に突撃取材、敢行ーッ!?

この格闘銀座ことロサンゼルスに、またまた新しいプロレス団体が誕生したらしい。日本から「至急、チェックするように」との連絡を受け、ウェブサイトを覗いてみれば……「10代の若者のための唯一の団体！」などと書いてあるわりに、きわどい姿のおねえちゃんの写真が載っている。で、何が書いてあるのかと思ったら……「次世代のエンターテインメントはプロレス―ステロイド―シワ」？？？「プロレスのドラマとNHBのアクションを融合」？？？
な、なんじゃこりゃー！

表紙にはバス・ルッテンの写真があるのに、彼の名前はレスラーのコーナーにはない。メンターのコーナーに、マーク・コールマンやウゴ・デュアルチ、フランシスコ・ブエノなどと並んで掲載されている。メンターということは、彼らは指導者なのか？　しかし表紙には「トレーニングスクールじゃないよ」と書いてある。

他にも「スーパースターになろう」とか「キャスト募集中」といったセリフも、何やら映画の出演者募集みたいで、どうにも怪しい。

なんだかさっぱりわからないので、直接行くしかないな、ということで私はビバリーヒルズのど真ん中にある（資本力が伺われる）WTWのオフィスまで突撃取材を敢行した。

実際に話をしてみると、どうやらこれはルッテンの団体ではないということが判明した。そのルッテンも、現在は映画の撮影で年内はカナダに行っており、戻りそうにないらしい。

というわけで、今回はオーナーの1人であるキアビ・パトリック氏に話を聞いた。いかにも業界人っぽい、年齢不詳で怪しい雰囲気が実にいい感じだった。

一部WEB上で話題になった バス・ルッテンの新団体(?) に突撃取材、敢行ーッ!?

Chapter1 オーナーに聞け! キアビ・パトリック氏 プチ・インタビュー

Q まず、あなたは一体、何者なのでしょうか？

A キアビ・エンターテインメントのオーナーです。映画のプロデュースや、小室哲哉のエグゼクティブアシスタント兼共同プロデューサーを努めたこともあります。

Q WTWを旗揚げしたきっかけは？

A WTWを共同運営している私のパートナーは、種々の格闘技イベントをプロデュースしています。WTWのアイデアは、パートナーが思いつきました。彼なら、多くの実力派ファイターに参加を呼びかけられる。格闘技の部分はパートナーが、エンターテインメントの部分はハリウッドスタイルのプロである私が提供する、我々は最強のタッグです（笑）。

Q WTWのコンセプトは？

A 世界中の若者に夢とチャンスを与えることです。アメリカのメジャープロレス界は、非常に閉鎖的な世界です。関係者に知り合いがいるとか、体が飛び抜けて巨大であるとか、とにかく普通の若者にはメジャーのリングに上がるチャンスすら与えられない。リングを見れば、ステロイドを使ったとしか思えないような肉体ばかり（うんざ

りした表情）。さらに、プロレスは若者に人気のスポーツで、ファン層の中心は13〜15歳。それなのに、レスラーは平均で35歳ぐらい？　ホーガンは49歳だし、フレアなんか51歳！　あと4年で年金がもらえる歳ですよ（笑）。若者が見るショウなのだから、登場人物も若者であるべきでしょう？　我々のショウの登場人物は、すべてありのままの若者です。必ずしも背が高い必要はないし、さまざまな人種、出身地、体格の、バラエティに富んだ選手を登場させます。プロレスファンの少年たちに、自分もレスラーになれるという夢を与えたいんです。

Q 選手はどうやって選ぶのですか？

A. 我々のウェブサイトを通じて、世界中から「我こそは！」と思う若者を募っています。応募用紙に、自分の写真もしくはビデオを添えて応募してもらっています。もちろん、日本からの応募も大歓迎ですよ。応募には30ドルのエントリーフィー（＝登録料）が必要ですが、我々は別に応募者からお金が欲しいわけではないんです。キャスティングには非常にお金がかかりますし、30ドルもらったからといって、まかなえるような金額ではありません。ひやかしを避け、彼らが本気かどうか確かめるためにお金を取っているのです。その代わりに、応募者全員に我々が35ドル程度で販売しているグッズをプレゼントしていますからね。応募者が１００人になった時点で募集を締め切り、送られてきたプロフィールによる審査、電話インタビューなどを経て36人まで絞ります。選考には、メンターはもちろん、我々のイベントに関わるプロデューサー、演出家、脚本家が加わります。選考の過程は、ウェブサイトで逐一、発表します。36人の中から、さらに選ばれた16人がトレーニングキャンプに参加し、メンターから指導を受けられるという展開です。残る20人はスタンバイ選手として登録され、16人の中からけが人や脱落者が出た場合は代わりにイベントに参加できます。

Q メンターはどんなことをするんですか？

A. メンターの役目は、若者のトレーニングのバックアップですが、ＰＰＶイベントでは彼らも試合を行います。

Q WTベイブと呼ばれる女の子も同様に募っていますが、彼女たちの役目は？

A. プロレスとアルティメットファイトと『ビバリーヒルズ９０２１０（邦題：ビバリーヒルズ青春白書）』が合体したと思ってください。最終選考に残った女の子たちも、トレーニングキャンプに参加します。10代の女の子と男の子がいれば、10代特有のドラマがいろいろと起こるでしょう（笑）。誰が誰を好きだとか、誰の恋人を取ったとか……時には女の子のことを忘れないとチャンピオンになれなかったり……（遠い目）。ＷＴＷのショウの半分はプロレス、半分はドラマです。トレーニングキャンプでも撮影を行い、彼らの間に起こるドラマも試合と一緒に放送します。テレビシリーズは、来年の3月か4月の開始を予定しています。

Q ライブイベントの予定は？

A. トレーニングが終了したら、全米各地で興行を行う予定ですが、ここでも現地の若者に夢とチャンスを与えます。各地でのショウの前に必ずプレショウを行い、その土地の若者の中からメインショウに出場できる選手を選びます。メインショウでは、地元の若者のために必ず2試合の枠を設けます。優秀だと判断される選手がいればメインキャストに抜擢する可能性もある。そうじゃなくても彼らは地元のヒーローになれるし、観ているほうも応援のしがいがあるでしょう。

Q 応募者の集まり具合はどうですか？

A. 順調です。おそらく最初のショウが始まれば、皆これは現実に起こりうる夢だと理解するから、応募者もぐっと増えるでしょう。今は皆、半信半疑なんじゃないかな。応募者だけではなく、支援者も増えています。ファンレターがたくさんくるし、その中の一部はウェブサイトでも紹介しています。「今週の記事」で紹介している文章は、14歳の男の子が自主的に書いて送ってくれたんですよ。我々の理念をちゃんと理解して、こうした原稿を送ってくれて、本当に嬉しいですね。

Q こういうファン参加型の団体はほかにもある？

A 我々が最初で、唯一です。

Q 試合のスタイルは？

A. 現在のいわゆるアメプロから不要な部分を抜き、動きをもっと素早くし、格闘技色を強くします。

Q TEAM WTWってなぁに？

A. ファンクラブです。会員になると、すべてのチケットやグッズなどが20％割引になります。メンバーシップカードは、名刺サイズのＣＤ-ＲＯＭにしようと思ってるんです。カードをパソコンで再生すると、選手の情報などを見られる。いいアイデアでしょう？（笑）

Q 2回目以降の募集予定は？

A. 現在はすべてが初めての試みなので、次回以降の予定はまだ決まっていないし、方式も変わるかもしれません。前シリーズからのメンバーが登場するものと、ニューフェイスのみが登場するものと、2シリーズのショウを設けることも検討しています。

Q 目標とする団体はありますか？

A. 新日本など、日本スタイルのプロレスには非常に敬意を表しています。動きが多く、空中技もテイクダウンもある。ハードで、上質で、なおかつエンターテインメント性も非常に高い。

Q 答えがわかりきった質問かとは思いますが、成功する手応えは？

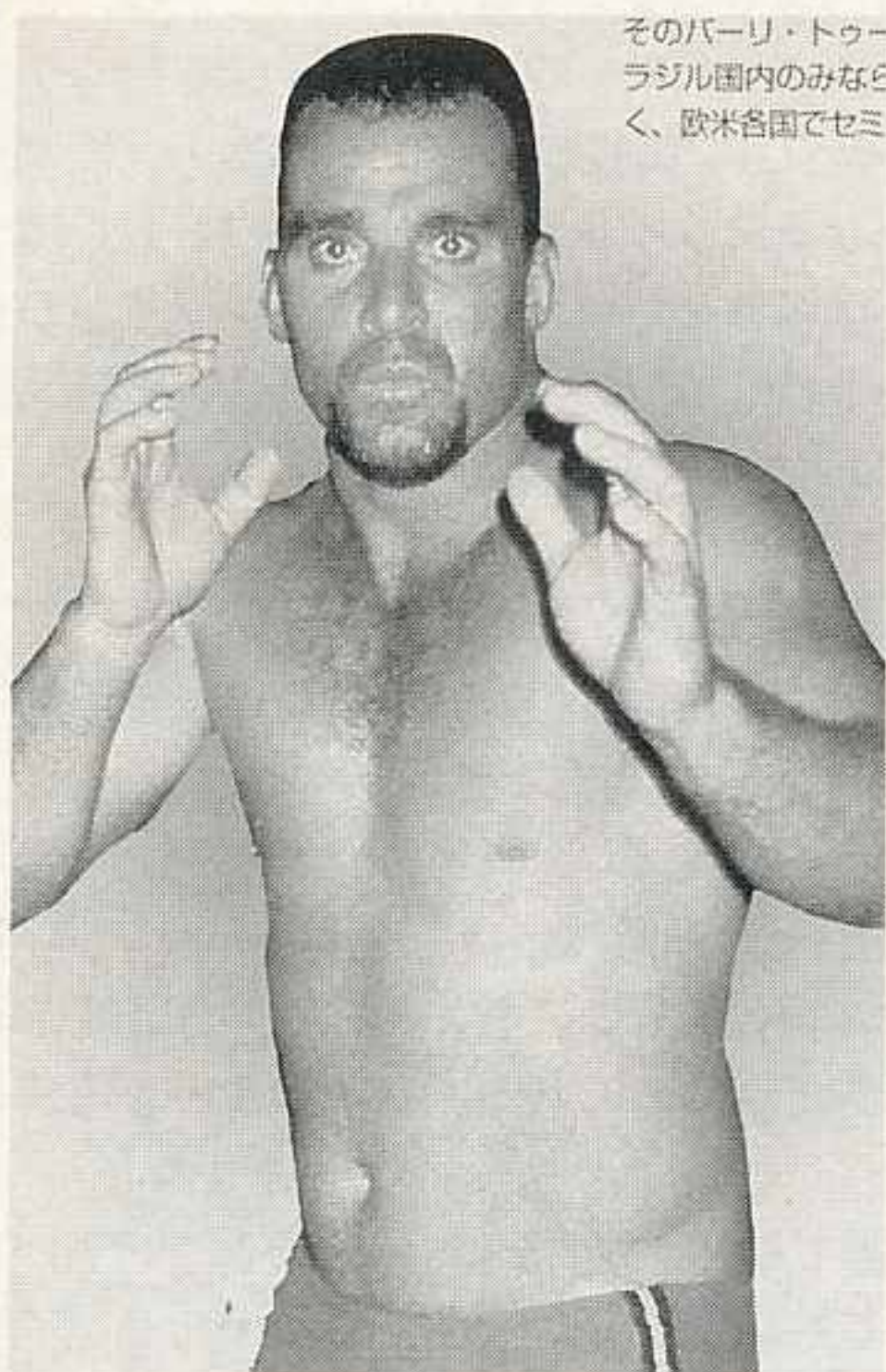
A. レスリングは４０００万のファンを抱えるビジネスで、しかもファンの多くは若者。ＷＴＷは若者のための団体であり、ファンレターを見てもわかる通り、そのことは若者自身がすでに知っています。もちろん、成功には確信を持っています。

Q 日本のプロレスファンにメッセージをどうぞ

A. ＷＴＷは、日本の才能にも非常に興味があります。日本からも是非とも応募してください。可能な限り早い時期に、日本での興行もやりたいと思っています。将来的には、現在のメンターに日本人のメンターも加えてＷＴＷジャパンも作りたいと考えています。

Chapter2

コーチ陣が自慢です!! WTWのメンター陣を一挙に紹介!!

最強の選手たちがプロレスを指導する!!

そのバーリ・トゥー
ラジル国内のみなら
く、欧米各国でセミ

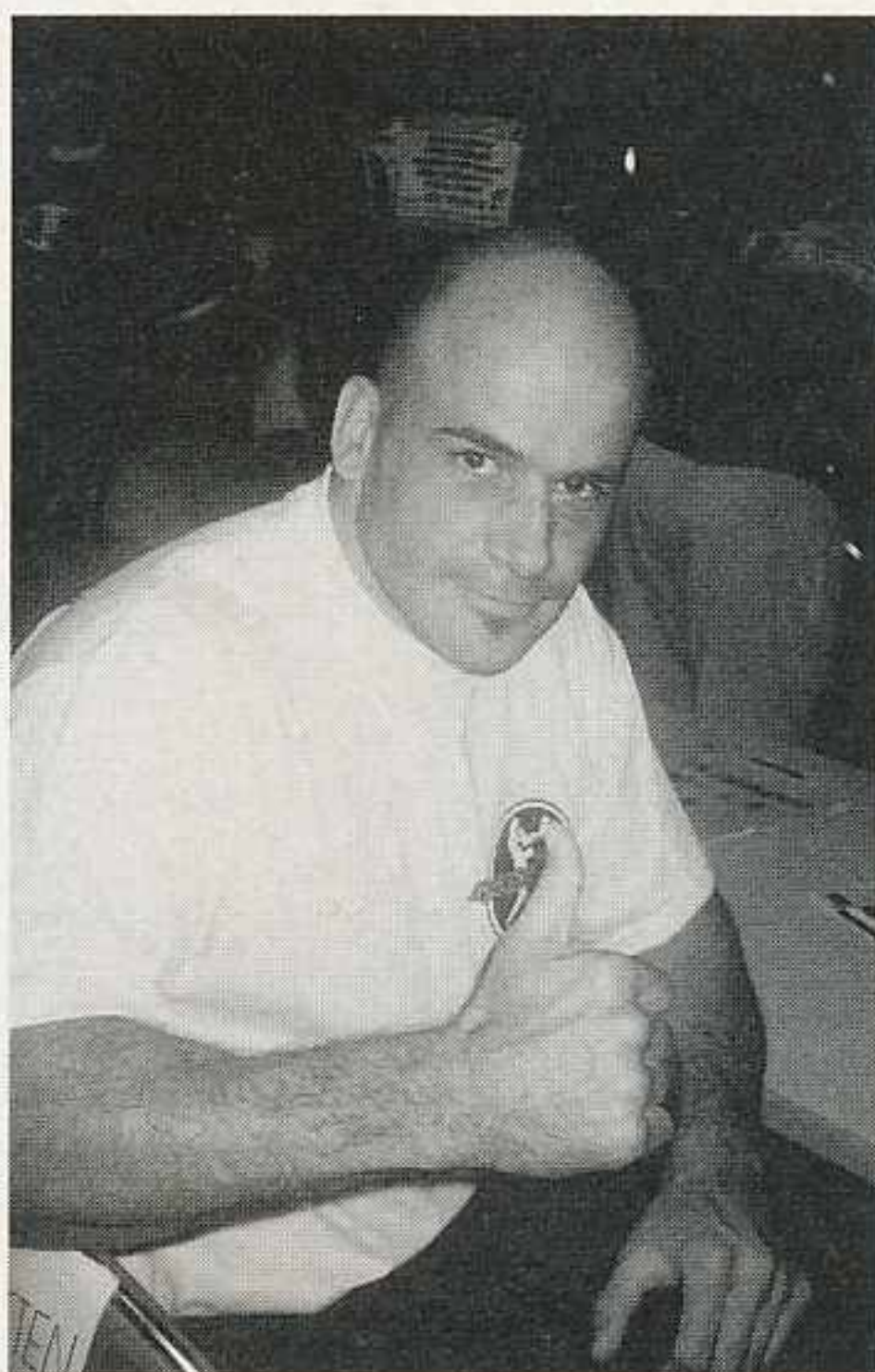
Hugo Duarte

ウゴ・デュアルチ

言葉が通じず→イライラして→生徒をブン投げる。そんな光景が目に浮かぶルタの大将。ちなみにWTWオフィシャルHPに掲載されている、ボディ・スラムをする昔のプロレスラー風ウゴの写真は必見！

Mark Coleman

マーク・コールマン

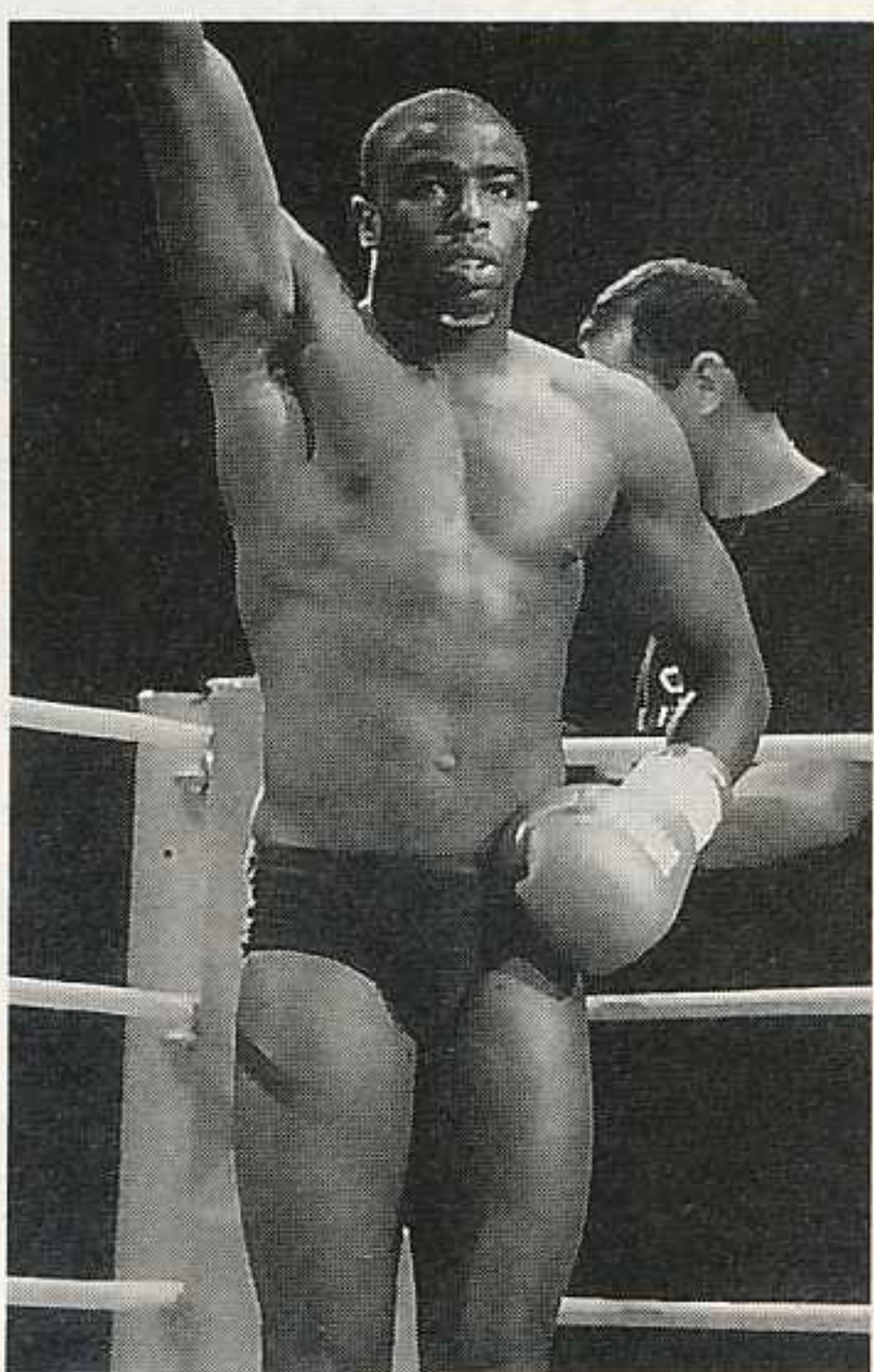
WWF移籍の噂もあったが、WTWに参加する模様。映画『アメリカン・ビューティー』のケビン・スペイシーのようなエロオヤジ役がハマりそう。なんとなく顔と雰囲気が似てない？　WTベイブに恋しちゃう？

Bus Rutten

バス・ルッテン

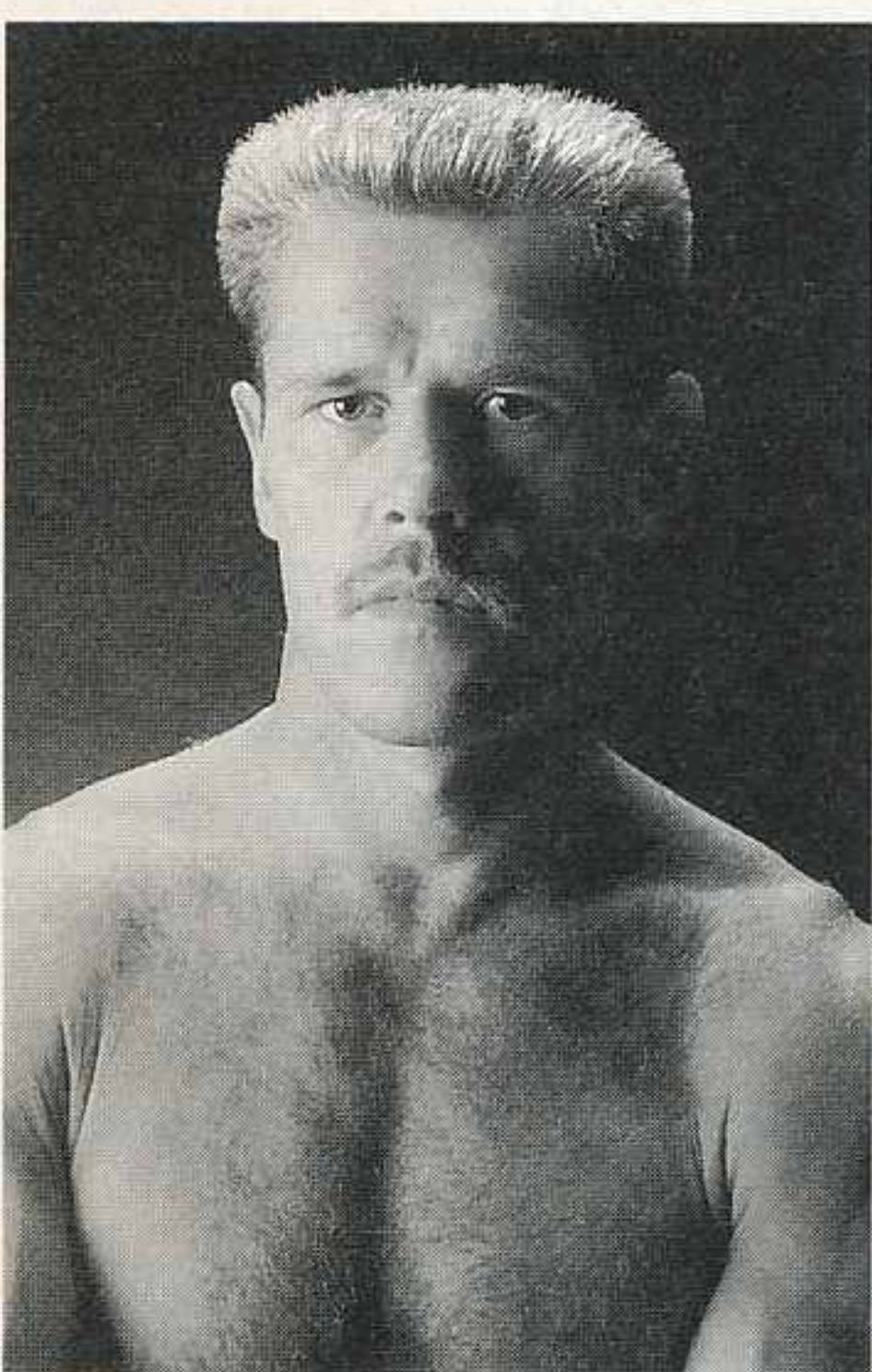
キング・オブ・パンクラシストにしてUFC王者。そんなNHBのトップがプロレスに乗り出す！　この中でも最もプロ向きと思われるが、いったい何を教えるんだ？　恋愛も指南したりするのか？

Oleg Taktarov

オレッグ・タクタロフ

『PRIDE. 1』の完全KO負け以降、ハリウッド方面に進出。その後、音信不通だった男がなぜか復活！　指導するのはサンボなのか、それともハリウッド仕込みの演技なのか？気になるところだ。

Jose "Pele" Randi

ジョゼ・“ペレ”・ランディ

サイボーグのような肉体美を誇るペレも参加。。現 UFCミドル級王者パット・ミレティッチからも一本勝ちを奪うなど、実力はミドル級最強との声も。こんなヤツとド素人がスパーしたら殺されるぞ！

Rob Karman

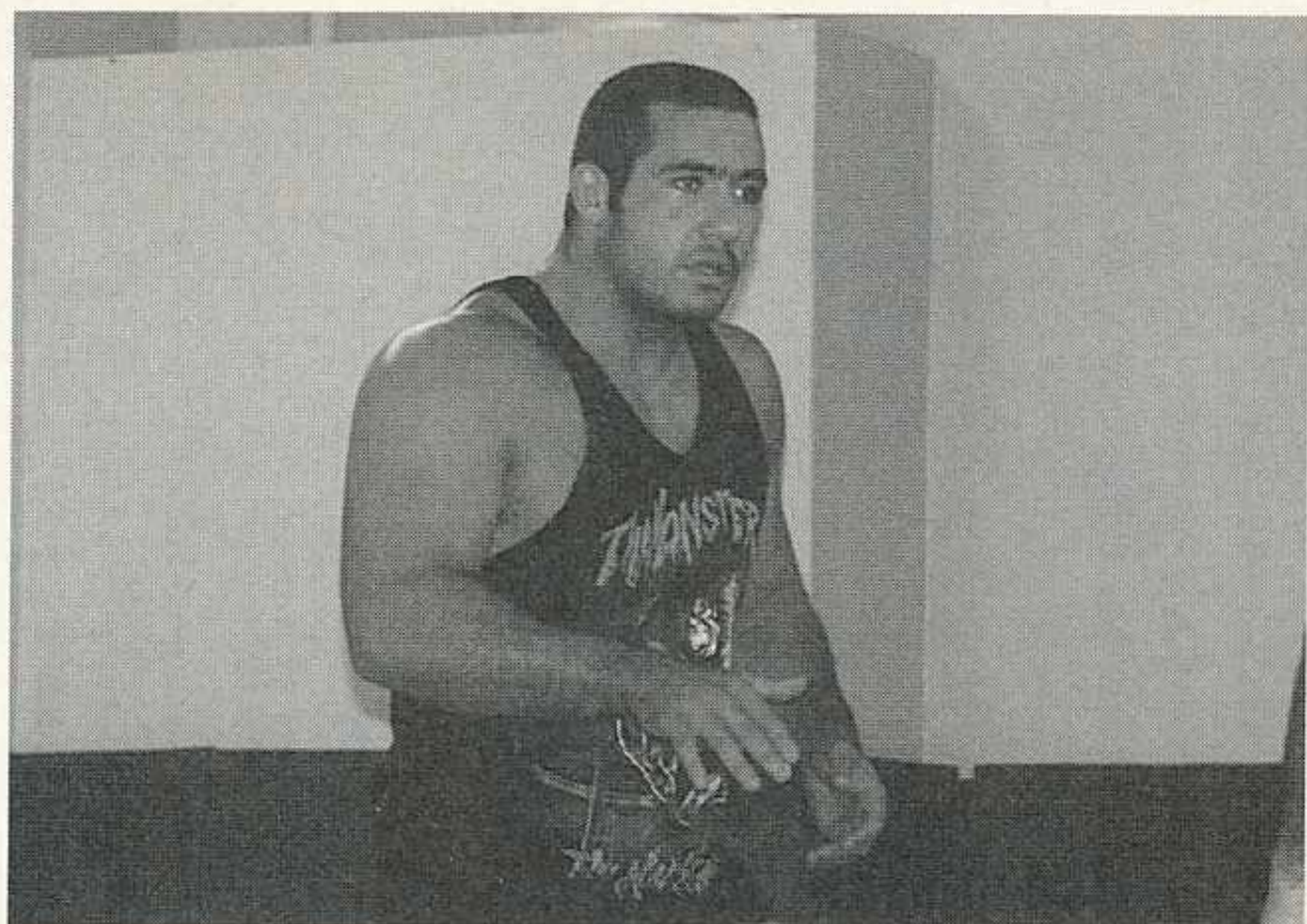
ロブ・カーマン

キックの帝王もメンターとして参加する。っていうか、こんな凄い男たちに技術を習ったら、ホントに強くなるぞ！　侮っていると、そのうちとんでもない選手が飛び出してくるかもしれない。

文・坂井ノブ

フランシスコ・ブエノ、トッド・メディーナは次ページにインタビューを掲載しています!!　チェケラ!!

この他にもステファノス、マーク“ザ・ベアー”スミス（柔術）、ジョン・“ザ・マシーン”・ローバー（パンクラス参戦済）、ダリル・コーラー（グレコローマン）らも参加!!

Chapter3 なぜ格闘家がプロレス団体に参加するのか？

フランシスコ・ブエノ

WTWのオフィスでフランシスコ・ブエノから話を聞くことになっていた。しかし、この日は何故かどこもかしこも大渋滞。オフィスに現れたブエノは車から降りようとせず「練習に遅れる、トレーナーに殺される」と叫んでいる……。というわけで、WTWのオフィスからジムまで、ドライブしながらのインタビューを敢行となった。

Q. ボブチャンチンと闘って以来、どこで何をしていたの？
A. ブラジルで試合をしてた。あれ以来、スタッフも変えたよ。今は最高のコーチと最高のトレーナーについてボクシングやレスリングを練習してる。これから行くＬＡボクシング（マッコーリー兄弟のＬＡボクシングとは別モノ）は世界一のボクシングジムで、この間は（オスカー・）デラホーヤに会ったよ（笑）。ここで、グレッグ・オコーエンというコーチについてレスリングを学んでいるんだ。彼はＵＳオープンで勝ったこともあるアメリカ最高のレスラーの１人さ。でも、自分でも120～150人の生徒にマーシャルアーツを教えているよ。

Q. どうしてWTWに参加したの？
A. 10代のプロレスファンに希望と未来を与える素晴らしい団体だから、是非とも参加しようと思ったんだ。

Q. 大晦日の猪木さんのイベントに参加するんだって？
A. 猪木さんは本物のヒーローだね。ブラジルのヒーローだし、日本のヒーローだし、世界のヒーロー。彼が提唱する格闘芸術という概念はグレート、素晴らしい。12月のイベントで彼の格闘芸術に参加できるのは非常に光栄に思ってるよ。猪木さんも、ＷＴＷのアイデアは気に入ってくれたんだ。……ところで、前田も偉大な選手だったよね？

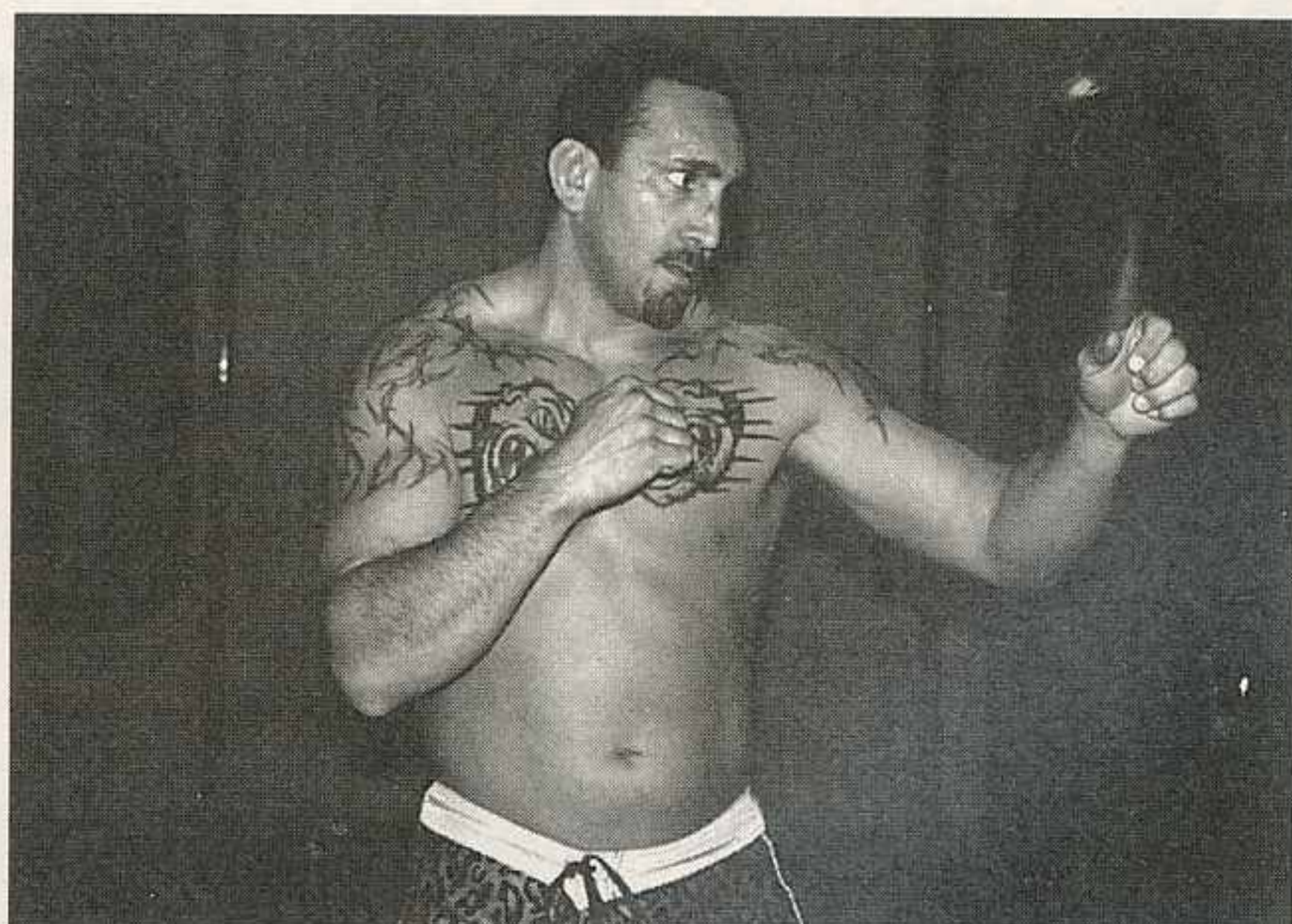
Q.（あまりに唐突なので返事に困り）も、もちろん！　桜庭に挑戦してたけどいまはどう？
A.. もちろん今も桜庭と闘いたいよ。彼は現在、最高の選手だし、目標にしてる。ところで、どうして桜庭は日本でしか闘わないの？

Q. おそらく彼が飛行機嫌いだからじゃないでしょうか？
A. おーまーいがーっ！

Q. WWFのようなアメプロは好き？
A. アメプロもナイスだね。アメプロもＮＨＢも、両方それぞれにいいところがあって好きだよ。どちらがいい悪いじゃなくて、別のスポーツだと思ってる。どっちも相応の技術が必要だし、運動能力と同時に個性と情熱も必要。両方とも簡単にできるスポーツじゃない、究極のスポーツ。優秀な選手が出場してるし、どっちも好きだよ。ケン・シャムロックは、２つの違うスポーツをこなせる才能があったんだろうね。タンク・アボットもいい運動選手だけど、練習もよくしてるし。キャラクター性が弱いのかもね。

Q. WTWはそれらとどう違うの？
A. ＷＴＷは、両方からベストな部分を集めたものだから、さらに素晴らしいスポーツになるよ。次世代の、グレートな才能を持つグレートなファイターを集めた、アクション満載の、今までにないイベントになる。選手たちは、それぞれ異なるスタイルやバックグラウンドを持つメンターからさまざまな技術を学べるんだから、これをリングで生かせば最高にエキサイティングなショウになる。ＷＴＷの将来は非常に明るいよ。日本のファンもきっと気に入ってくれると思う。

Q. ほかのメンターと話すことはある？
A. メンターたちが集まったことはないな。最終選考に残る若者が決まったら、初めて皆が顔を合わせることになるだろうね。

Q. 日本のファンにメッセージをどうぞ
A. 僕は日本で闘うのは本当に大好き。日本のファンは最高だよ。彼らはファイターに対して敬意を表してくれる。ファイターを理解してくれてる、素晴らしい観衆さ。
ファイターは、毎回必ず勝てるわけじゃない、そりゃ調子の悪い日だってあるよ。負けることだってあるけど、日本のファンはわかってくれてる。12月に日本で、最高の観衆に再会できるのを楽しみにしてるよ。

トッド・メディーナ

ＬＡボクシングでは、６月のKing of the Cageで松井大二郎と闘ったトッド・メディーナを発見。やはりメンターとしてＷＴＷに参加しているメディーナにも話を聞いてみた。彼は、１月にパンクラスで闘う予定で、ＵＦＣにも出場するらしい。

Q. WTWに参加したのは？
A. ファンと協力して作り上げていく素晴らしい団体だと思ったから。

Q. アメプロをどう思う？
A. アメプロも大好きだぜ！　機会があれば参加したいくらい（笑）。

Q. カーウソングレーシー所属でフリースタイル柔術を教えているあなたが？
A. イエス！　ＷＴＷのリングではアメリカンスタイルで闘えるかもしれないから、楽しみにしてる（笑）。アメリカンスタイルもＮＨＢスタイルも好きだし、両方のいいところを集めたＷＴＷは、まさに求めていた団体なんだ。

Q. 闘いたい選手はいる？
A.（迷わず即座に）桜庭！　みんな桜庭と闘いたがってる。昔は彼はヘビーウェイトだったから対戦するのが難しかったけど、今はミドルウェイトになったから、みんなチャンスだと思ってるんじゃないかな。

Q. WTWの将来はどうなると思う？
A. 非常に人気が出ることを確信してる。ファンの立場に立った団体作りをしているし、何よりファンが参加できるから。新しい才能を発掘して育てるのは非常にエキサイティングだから、僕も楽しみだよ。

Chapter4

wTwのアイドルの素顔に迫る!!

教えて、チェルシーちゃん!!

栄えある第１回WTベイブ候補の先頭を走り、すでにWTWのポスターにも登場しているチェルシーちゃんにも話を聞いてみました。車を持っていないのでママと一緒にジムを見学に来ていたチェルシーちゃん。インタビューや写真撮影にも慣れていない様子で、照れたりとまどう場面も。カントリーが好きというのも、純朴な印象じゃないですか。非常に初々しい反面、かなり自信満々だったりきつかったりするコメントが将来性を感じさせる彼女でありました。

Q どうしてWTベイブに応募したの？
A. 面白そうだし、エキサイティングだと思ったから。上の世代じゃなくて、同世代にアピールできるのがいいなと思って。

Q 自分のセールス・ポイントは？
A. パーソナリティとインテリジェンス、アビリティ（あえて英語のまま）

Q これからどんなことをするの？
A. 選手たちと一緒にトレーニングもするけど、彼らみたいにハードにはしないだろうし、別の場所で選手とは違うトレーニングもするみたい。まだよくわからないけど。

Q WWFやWCWのマネージャーたちをどう思う。
A. 歳取り過ぎ！　ファンが求めているイメージとは、ほど遠いと思う。私のほうが、よっぽど素敵な夢を与えられるし、ずっと清潔な感じでしょ。どう？

Q そ、そうですね……。プロレスについて、どう思う？
A. 友達や家族とテレビで見るし、好き。でも生観戦は、まだしたことないな。

Q 好きな選手は？
A. WWFのロックね！

Q バーリ・トゥードについて、どう思う？
A. よく知らないわ。

Q 17歳ということは、高校生？
A. 現役の高校生。

Q ボーイフレンドはいる？
A. ノー。募集中です。

Q 好きな男性のタイプは？
A. 強くて優しくて情熱的な人。

Q 好きなタレントや俳優は？
A. ブルース・ウィリス

Q 好きな音楽は？
A. 何でも聴くけど、R&Bとかカントリーとか……カントリーが特に好きかな。

Q 日本の読者にメッセージ
A. Come and see WTW and me! I'm free!

まだまだ他にもWTベイブ（マネージャー）はいるぞ！　チェルシーちゃんと人気を二分しそうなのは、アイダホ出身のジェシカちゃん。19歳！　キュートなスマイルが思春期の野郎どもを惑わす！

日本人も参加可能！ WTWはファン参加型プロレスドラマだった！

アメプロとNHBの融合と言われても今ひとつピンと来なかったのだが、「ビバリーヒルズ90210」を引き合いに出された時に「いけるかも」と感じた。日本でも放送されてるぐらいポピュラーなモノだし、当然アメリカでも抜群の人気があった番組だ。

つまりWTWとは、現実と脚本がごっちゃになった、青春ドラマなのだ！

大人向けや、幼い子ども向けの、「虚」以外の何物でもないドラマではない。登場人物がドラマの中で実際の青春を生き、成長していく、虚実相半ばする青春ドラマなのだ。

日本のプロレスファン層と比べ、アメリカのプロレスファンの年齢層は確かにかなり低い。パトリック氏が言う通り、プロレスファンの中心層が13～15歳であれば、少し上の年代を主人公にした青春ドラマは的を射ている。本当に面白い青春ドラマなら、もっと上の年齢層にもアピールするだろう。

なにしろ誕生間もない団体ゆえ、未決定な部分も多いのだが、成否の鍵は魅力的な登場人物を集められるかどうかに尽きるだろう。WTWのサイトへのアクセスが増え、目論見通り世界中の若者が応募してくるようになれば大成功→メジャーの一角に食いむことも夢じゃない。

日本の読者も、我こそはと思う人は是非とも応募してみてください。ロサンゼルスでトレーニングキャンプに参加できて、有名格闘家の指導を受けられて、かわいい女の子たちと青春ドラマに参加できちゃうチャンスなんて、他にないぞ！

気になる『PRIDE』との接点！謎の新団体WTWを今後も追いかけます！

それにしても、これは凄いことになった！　世界でも屈指の超強豪選手が、格闘プロレスを教えて、それが『ビバリーヒルズ青春白書』ばりのドラマになるのだから！

だが、ここで冷静になって考えてみると……これって、ひょっとして『ガチンコ』（TBS）ガンチンコファイトクラブじゃねえのか？　だが、そんな突っ込みは野暮というもの。そんなことより、出来れば日本での放送も希望したいところ。どーですか!?　Jスカイスポーツさん!!

それにしても、ロスの自宅に黒澤浩樹を招待するほどの格闘技ファン・小室哲也との繋がりやコールマン、ルッテン、ウゴ、ブエノといった日本でもおなじみの選手たち……ズバリ言って『PRIDE』の陰がチラついて仕方がないのはボクだけだろうか。たしか、この秋から、『PRE－PRIDE』という秋本康プロデュースの選手育成番組もスタートしていたはず。しかも、今年の12月31日には『PRIDE』の常連格闘家たちが“プロレスルール”でタッグ・トーナメントを行う。不思議と共通点は多いのだ。

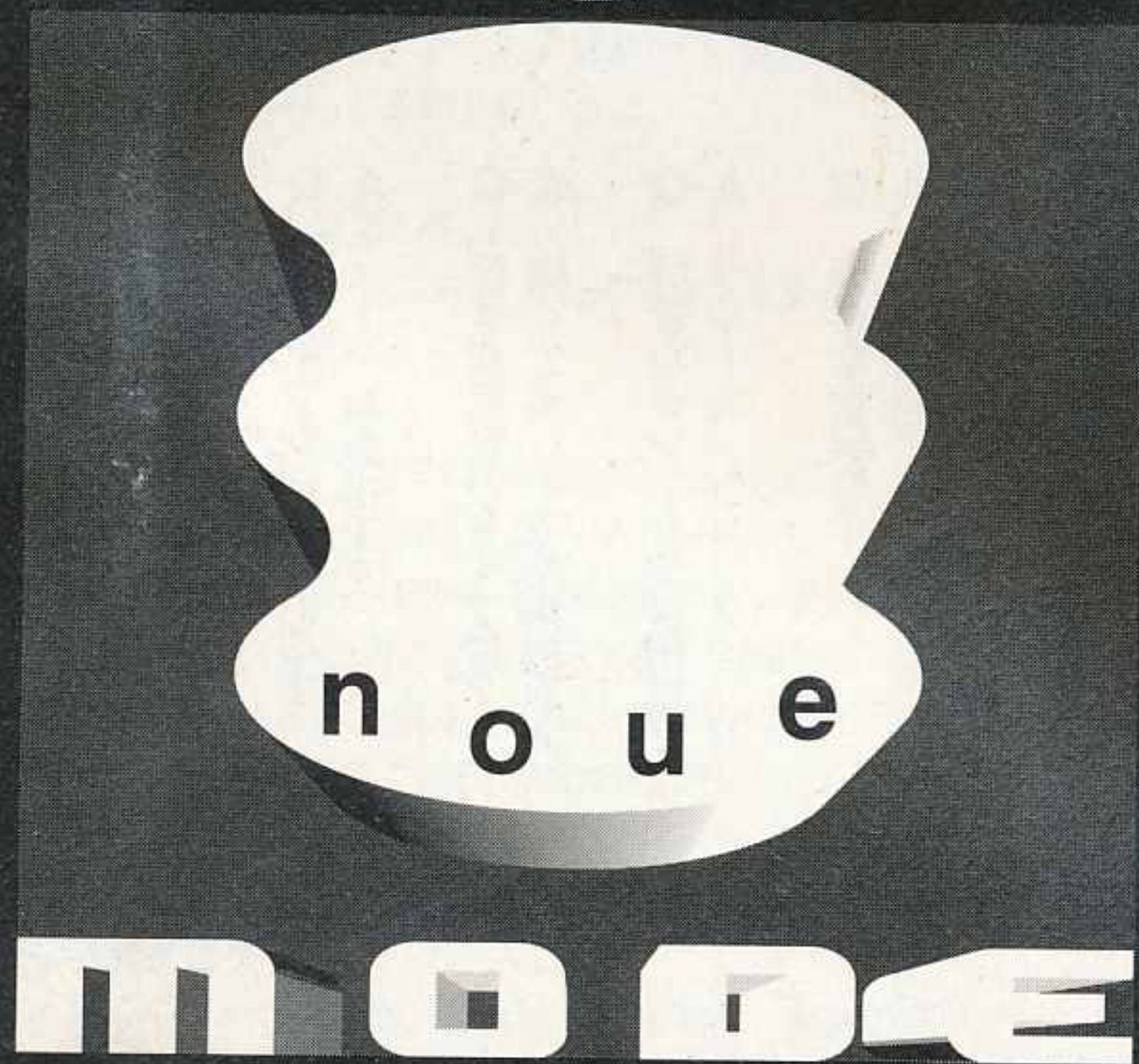
『PRIDE』のメインテーマだったプロレスvsグレイシーも残すところ、最後の砦ヒクソンを残すのみとなった。最強最後の敵との決着戦は21世紀まで持ち越しとなったが、遅かれ早かれ『PRIDE』は大きな対立概念を失うだろう。ヒクソンも年齢的に限界は近いだろうし。それに代わる新たなる敵として、このWTW軍団が浮上してくる可能性も、なきにしもあらず、ではないだろうか？　この団体のメンターたちは『PRIDE』でいい思いはしていない男たちばかり……それが生徒やマネージャーまで引きつれて押し寄せたら？　これはグレイシー以上の驚異となるはずだ！　そんな妄想も駆り立てられる謎の新団体の動向は今後も随時報告していく予定なので、乞うご期待！

（坂井ノブ）

辞書を片手に読みまくろう！
World Teen Wrestlingホームページアドレス
http://www.wteenw.com/

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏
（通称＝I編集長）
狂乱のマット界時評連載

喫茶店トーク

noue
mode

――井上さん、今回は20世紀最後の号ということで、21世紀を大予言していただきます！

井上 まあ、みんな俺を予言者なんて言うけど、別に予言者なわけじゃなくて、**ちゃんと考えればわかるだろう**ということを俺は言いたいんだよ！

――いやいや、井上予言をみんな聞きたがってるんですから。橋本独立なんて、井上予言の一つって言っていいんじゃないですか？

井上 橋本の独立なんていうのはまさに21世紀のプロレスを象徴していますよ。だいたいね、**来年、再来年のレベルで、プロレス団体なんかなくなってるんだから！** 言うちゃ悪いけど。

――なんと、プロレス団体はなくなるんですか！ 確かに井上さんは本当に十何年も前から「団体はなくなってプロダクション化する」なんておっしゃってましたけど、まさに今そうなりつつありますよね。

井上 これまでは団体が選手を抱えて、会場を抑えていうて興行を行ってきたけども、そんなもん、いつまでも続くと思ってるヤツがいるなんて俺には考えられないよ！ そういう今までのプロレスを、俺は**〝団体プロレス〟**と最近呼んでるんだけどな。

――〝団体プロレス〟ですか。うーん、いつもながらに井上さんのネーミングの切れ味は半端じゃないですよね！ 確かに団体プロレスは、20世紀のプロレスの象徴ですよね。じゃあ、21世紀のプロレスは、やはり〝プロダクション・プロレス〟ですか。

井上 そういうことになるな。だいたいね、橋本だけに終わらないよ、この独立は。武藤だって蝶野だって続きますよ、間違いなく。見ててごらんなさい、**蝶野なんかは「ブラッキー・コーポレーション」なんてプロダクション作るはずだから。**

――なんで井上さんが蝶野選手の会社の名前を考えてるんだ（笑）。

井上 なんで選手が独立できるかというと、もうこれからは団体や選手が地上波のテレビと契約する必要なんかなくなるからですよ！ **そんな何千万かでテレビに縛られるなんてアホらしいんだから。**これからは、**俺が口を酸っぱくして言ってるように、ワンマッチ興行が基本になるんだから。**それをペイ・パー・ビューで放送する。しかも大会場でやる必要なんてないんだよ。どっかの小さい会場でいいんだから。

――キーワードはペイ・パー・ビューですか。

井上 俺がこないだ大阪府立に行った時にね、前に女の子が座ってたんだけど、その子は第一試合からずっとシラーッとして観てたんだけど、ライガーが出たとたん、ギャーギャー言うて騒いでたんだよ。そうかと思ったら、後ろの男は**越中の試合以外は全然興味ないよう**で、メインも観ないで帰ったよ！

――そう考えると、ワンマッチをペイ・パー・ビューで売るというのは十分考えられますね。要するに、十何試合分のチケットを買うということは、悪く言えば抱き合わせで商品を買わされているのと同じですもんね。

井上 そういうことだな。だから**例えば、『紙のプロレス』なんていうのは、橋本の試合をワンマッチ、ペイ・パー・ビューで放送したりするようになるよ。**

――なんなんですか、突然（笑）。

井上 そんなもん、衛星放送で『紙プロ』が放送するんですよ！ ワンマッチ300万とかなんとかで契約して、**山口のダンナは始めるにちがいないから。**

――残念ですけど、山口のダンナは300円くらいしか持たされてません（笑）。

井上 **そんでロスあたりに行って、210センチの恐竜パワーを探してきて、ケニアあたりで興行するんだよ。**

――なんでケニアなんですか（笑）。

井上 今や東京もケニアもインターネットがあったら関係ないんだから。山口のダンナもそんなこと考えてるんじゃないの？ **キミにしてもそうだよ。ライガーの試合を買ってきて、そんでどっかで放送したりしてるはずだよ、将来。**

――なんで僕がライガー選手なのかよくわかんないですけど（笑）。

井上 だいたいこれからは個人がそのまま放送局になれるんだから！ インターネットがすでにそうだろ？ もう来年、再来年には、キーボード打てなくても、音声で何でもできるようになるはずだから。**例え**

今月のお題　I編集長の21世紀大予言スペシャル!!

ちゃんと考えればわかるだろうということを俺は言いたいわけだよ!!

プロレスとともに20世紀という時代を歩み続けたマット界の生き字引・I編集長が、現状のような世紀末マット界大乱世をいちはやく予言していたことは、この連載の読者なら先刻承知のことだろう。今世紀最後のインタビューは21世紀のマット界を占ってもらった。平成のデルフィンたちよ、いまこそI編集長の提言に耳を貸せ!

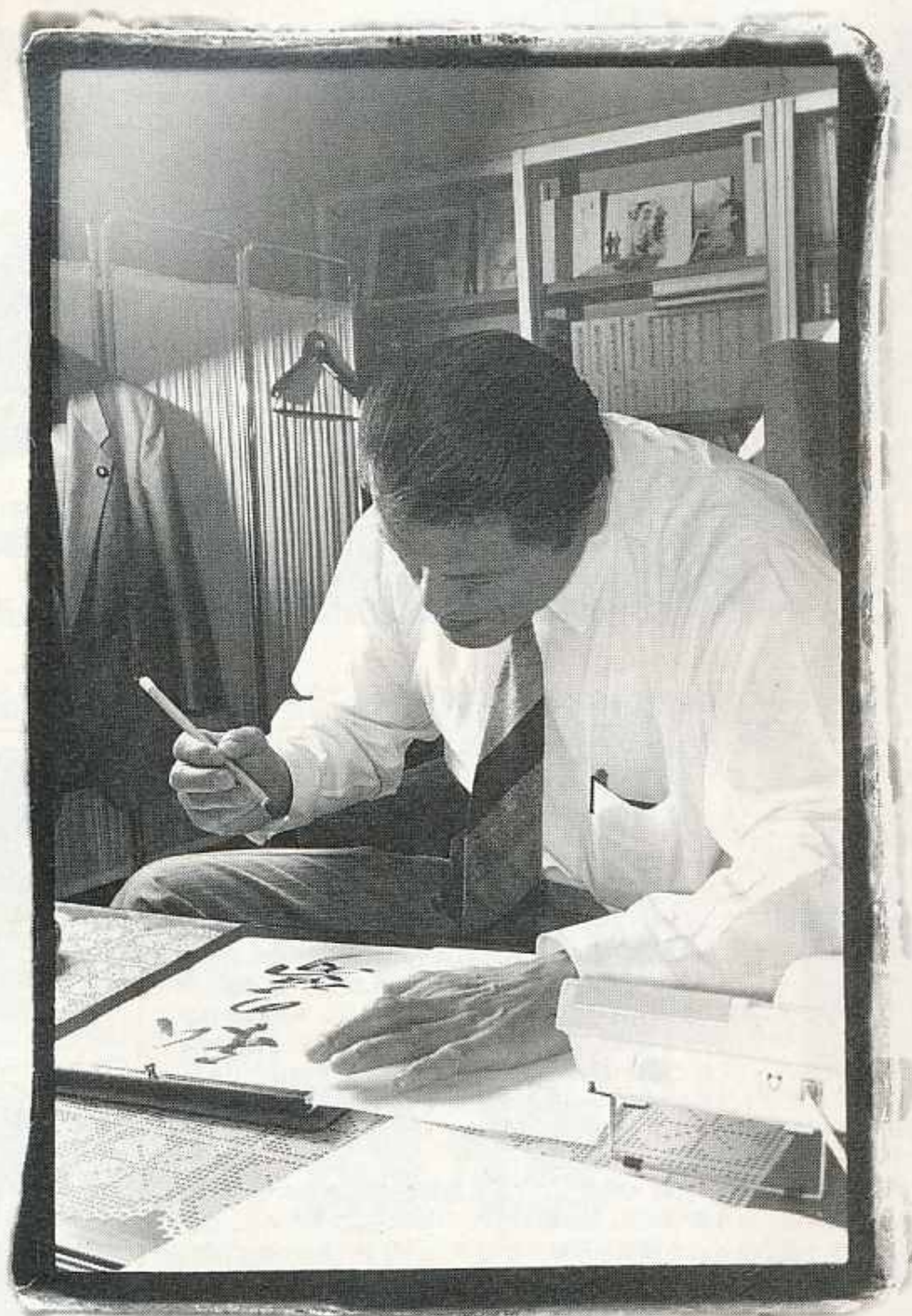
構成／原一博

ば俺がパソコンの前に座って、**「猪木対アリ戦の全データを教えなさい」言うたら、あの試合に関する全ての記事がバーッと出てきてね。**

――はー。

井上　ほんで**「その記事の中で、あの試合を大笑いした記事を教えなさい」言うたら、朝・毎・読が出てくるんだよ。そんで「大笑いこそはしなかったが、ナンセンスだと報じた記事を教えなさい」言うたら、どっかの週刊誌やスポーツ新聞が出てくる。**

――「大笑いではないがナンセンス」って、そんな曖昧な線引きもパソコンはわかるんですね（笑）。

井上　最後に**「茶番どころか、凄い試合だと書いたのは誰ですか?」言うたら、俺の記事が山のように検索されるわけだよ！**　こういうことがね、「実現するのは10年、20年後だ」なんて言うとるのは、言うちゃ悪いけど、バカだとしか思えないな、俺には！　もう来年からの1年は、これまでの10年なんだから！　50年後なんてアンタ、もう俺たちの知ってるものなんてほとんど残ってないよ。大学なんかもうとっくになくなってるだろうし、スポーツも、オリンピックが残っているかどうかだろう。**プロレスなんか消滅してますよ!**　それはなんでかと言うたら、インターネットがこれだけ普及すると、活字プロレスなんか誰も読まなくなるんだから。試合が終わったら、**俺やターザンあたりがインターネットでその日の感想を言うたりして終わり**というふうにね。みんなパッと観てパッと忘れるようになる。そうしたら活字プロレスなんか意味ないんだから。

――じゃあ『紙プロ』なんか残ってないですね。

井上　**言うちゃ悪いけど残ってない!（キッパリ）。**

――ま、消滅してるとしても、活字プロレス云々の問題ではないでしょうね、間違いなく（笑）。なるほどなぁ、21世紀大予言、よくわかりました。ところで、井上さん自身の21世紀大予言はないんですか?　小説家になりたいなんておっしゃってますけど。

井上　まあそれもあるわな。

――井上さんはミステリーとかSF小説を書かれるんですよね?

井上　言うちゃ悪いけど、私小説なんていうのは、自分の体験をもとにして書くだけなんだもん、ちょっと文章が書ければ、誰だってできますよ！　**俺に言わせれば夏目漱石なんて、作家としては中の下なんだから!（キッパリ）**。そんなもん、俺なんて今すぐにでも書けるよ。

――例えばどんなですか?

井上　例えば?　例えばな、俺が小学生の時、ムネタ先生っていう女の先生がおったんだけどな。「**井上はその先生が小便するのを見たかった。**どうしても見たかった。そんであらかじめ穴を空けておいてじっと覗いていたんだが、見つかってしまった。先生は俺に、『廊下で**10時間立ってなさい!**』言うて、立たせた。**外にはセミが鳴いていた……**」。こういうのでどうだ?

――来年もよろしくお願い申し上げます。

言うちゃ悪いけど今月の結論

50年後なんてアンタ、プロレスなんて消滅してますよ!!

いのうえ・よしひろ■1934年、岡山県出身。若い頃は大阪の新開地でドスを持ったヤクザと喧嘩したり武勇伝は数知れず。『週刊ファイト』編集長を長く務め、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。現・ビートたかしのターザン山本やゴングのＧＫ金沢編集長など、プロレスマスコミ業界には井上さんの弟子が多数いる。現在も「ファイト」で鋭すぎる批評コラムを連載中（必読）。

世界初のプロレス専門店
レッスル®
営業時間　AM11:00〜PM7:00　年中無休

府川唯未の全てがこの一本に！引退メモリアルビデオ緊急発売！

FUKAWA YUMI
Collection
SAYONARA

府川唯未 ❋ Collection SAYONARA

●120分6,930円

ビジュアルクイーン　それは府川唯未の称号である。

1998年、新春。女子プロレス界に新風を巻き起こしたアルシオンの旗揚げ。その日後楽園ホールに足を運んだ誰もが、府川唯未の復活を喜び、変貌に驚嘆した。アイドルからの脱皮を果たし、自らのスタイルを身につけたその姿に、アルシオンが打ち出したまったく新しいコンセプト"ビジュアルクイーン"を見たのだ。常にひたむきに、明るい笑顔で勝負の世界を闘い抜いてきた府川唯未。その軌跡は我々に大いなる勇気を与えてくれる。

復帰が待たれていたアルシオン府川唯未が突然の引退発表！これは、ビジュアルレスラーNo.1の府川唯未のレスラー生涯を振り返るビデオ。アルシオンでの活躍を中心に名勝負や印象に残る試合を厳選！

多くの試合と本人のインタビュー、レスラー人生をたどったヒストリー、プライベート密着映像。府川唯未の全てが詰まった引退記念完全保存版。

〈主な収録試合〉

●デビュー〜アルシオン旗揚げ（1993〜1998）
長谷川＆府川vs吉田子＆玉田（1997年6月1日後楽園）玉田＆府川vsアジャ・コング＆京子（1997年6月17日札幌中島）府川vsキャンディー奥津（1998年2月18日後楽園）大向＆府川vs玉田＆矢樹（1998年12月18日横浜文化体育館）

●吉田との名勝負数え歌〜猛武闘賊の参戦（1999）
府川vs吉田（1999年1月17日クラブチッタ川崎）府川vsアジャ・コング（1999年6月30日後楽園）府川＆玉田vs下田＆三田（1999年7月25日後楽園）府川　vs 吉田（1999年9月26日後楽園）大向＆府川vs下田＆三田（1999年12月19日京都・KBSホール）

●V.I.P.の結成〜ラストファイト（2000）
府川＆三田vs大向＆下田（2000年1月30日Zepp Tokyo）府川 vs 大向（2000年5月7日後楽園）府川＆大向＆バイオニックＪvsＧＡＭＩ＆玉田＆レッド・リンクス（2000年7月16日後楽園）

フラッシュ・バック・オブ・GAEA JAPAN VOL.13　140分8,000円

2000年6/11〜8/25。ベストバウトシリーズ第13弾！クラッシュ復活により有明で激変した勢力図は、第3世代を中心とした「チーム・クラッシュ」と対抗戦時代を生き抜いた「第2世代」の2派に集約され、戦いは大きく局面を変えた。新たにダイナマイト関西を加えた第2世代は、その実力と存在感でチーム・クラッシュを圧倒するが、第3世代の猛反撃により戦局は徐々に拮抗。天王山・横浜決戦を前に戦いは更に加速する。特別収録としてHHH王座の歴史（2000年4/23〜9/15）ボリスvs広田他を収録。
収録試合　2000年6/11後楽園〜長与＆里村＆永島vs北斗＆尾崎＆KAORU、6/25IMP〜飛鳥＆里村＆シュガーvsデビル＆北斗＆山田、長与＆永島vs関西＆尾崎、7/15アクトシティ浜松〜飛鳥＆永島vs北斗＆尾崎、長与＆里村vsデビル＆関西、7/16IMP〜飛鳥＆里村vsデビル＆山田、7/22後楽園〜里村＆永島vsデビル＆北斗、植松vs山田、飛鳥vsKAORU、長与＆加藤vsアジャ＆関西、8/13千種スポーツセンター〜飛鳥＆加藤vs北斗＆KAORU、8/20ハービスホール〜里村vs加藤、長与＆飛鳥＆永島vsデビル＆尾崎＆関西、8/25後楽園〜シュガーvsKAORU、長与＆永島vs関西＆尾崎、飛鳥＆里村vsデビル＆アジャ。

FMWストーリー・オブ・ザ・F 6ステージ

〜傷だらけの純情〜　**12/6発売**　144分9,500円

1999年12/1〜2000年5/5全国。FMWの激闘を記録した大好評の年間総集編である「STORY OF THE F」の第6弾。1999年11/23横浜での冬木の追放、そして、Hと雁之助の友情復活などFMWにとって理想的な環境が整い、明るい未来が約束されたかに見えた。しかしリング上では田中がまさかの造反そして離脱。そして、追放されたはずの冬木が突然、女子プロレス界最強を自認する井上京子を帯同してFMWのリングに出現！自らを「ECWジャパン」代表と名乗りFMWのリングに復讐の刃を向けた！FMWとECWジャパンとの大抗争は、様々な人間関係が交差するFMWのリング上をエクストリームにそしてエンターテイメントに燃え上がらせ、2000年5/5の駒沢大会で決着のゴングが鳴る！

収録内容　・1999年12/1大阪〜親友コンビH＆雁之助がいきなりタッグ王者に！・12/11後楽園〜大激震！田中に何が起こった！？FMW離脱。ECW入りか？・12/12リッキーと市原による瀬奈争奪戦はリッキーが勝利！・2000年1/5後楽園〜大日本子鹿社長と山川がFMWリングジャック！追放された冬木が京子を従えECWジャパンで逆上陸！・1/8仙台〜ショック！Hが京子にピンフォール負け！・2/25日本初の性転換レスラー工藤あづさ衝撃デビュー！冬木＆京子がH＆雁之助からタッグ王座を奪取！・3/27後楽園〜H衝撃の「スーパースター」宣言！田中がECWから緊急帰国！冬木を襲撃、Hにも反旗。・4/3札幌〜FMWvsECWジャパン7vs7シングル対抗戦・4/4札幌〜FMWvsECWジャパン7vs7勝ち抜き対抗戦・4/11後楽園〜ハヤブサが帰ってきた！・4/25渋谷〜保坂＆佐々木が初代ハードコアタッグ王者に！・5/5駒沢〜草凪純と薫子が市原を賭けて女の闘い！金村が山川からハードコアのベルトを取り戻す！冬木が黒田を血祭り！WEWシングル選手権を強奪！ハヤブサvs田中の大一番！その他、初ビデオ化を含む多数の試合および衝撃映像を満載！試合は全てダイジェスト。

STORY OF THE F 5-STAGE　発売中！

1999.5.21〜1999.11.23（総集編）　約150分収録￥9,500

トーナメントスカイ2　120分6,930円

2000年7/16&8/18後楽園ホール。今年はよりグレードアップして開催！昨年優勝のASARI選手は勿論、マリー、ファビー＆藤田、リンダ、他団体からは仮面天使ロゼッタ、坂井、そしてアルシオンの未来のエース、AKINO&文子の9名が参加！注目はやはりメインの決勝戦文子vsAKINO。デビューしてまだ2年のライバルで有り、タッグパートナーの2人が名勝負を繰り広げる。試合以外も涙で優勝の挨拶のできない文子を支えるAKINOや「準優勝」「敢闘賞」「ベスト・スカイ・テクニック賞」を受賞して男泣きのAKINOと感動シーン満載です。そして、その文子がアジャに挑んだ8/18後楽園大会も収録。。

好評！大日本ビデオ特集

○**WORLD WAR 2000**　90分6,825円
米国過激団体CZW来襲、電動芝刈機＆巨大ホチキスバイオレンスデスマッチ、日米頂上対決4vs4 8人タッグ、BJWvsCZWデスマッチ大戦。

○**BJWvsCZW5万争奪戦レモンソルト＆マスタードデスマッチ**　95分6,825円
本間vs登坂完全収録、ウインガー二階からのスーパーダイブ

○**五寸釘＆ボブワイヤーダブルボードデスマッチ**　85分4,200円
2000年1/2後楽園。「神風」＆松崎vsWX＆ウインガーのタッグ他全7試合収録。

○**デスマッチトリプルメインイベント**　85分4,200円
2000年2/22後楽園。本間vs小林、WXvsスンプラス、金村vs山川。

○**プレ・ワールドエクストリームカップ〜国内代表選手選抜戦〜**　90分3,000円
2000年3/26ウインガーvs小林、3/27本間vs小林、4/5小林vs葛西　他

○**ワールドエクストリームカップ2000全試合**　90分3,500円
4/14開幕戦から5/14決勝戦まで。山川、本間、WX、ワイフビーダー、サンディグ、サンプラスら強豪が激突！

長州vs大仁田 世紀末電流爆破決戦　ロングバージョン

各61分各￥5,040

〈ロングバージョン特典〉
●スペシャルプライス1,980円にくらべ、約20分長い特別編集版。大仁田劇場といわれるこれまでの健介戦、蝶野戦、ムタ戦をダイジェスト収録。またインディーズの試合も収録。
●特製オリジナルテレフォンカード（初回生産のみ）
●ビデオ・DVDとも「辻」、「真鍋」両アナウンサーの2バージョン実況！（スペシャルプライス版は、真鍋アナの実況のみ）
●DVDはピクチャーレーベル仕様。各試合検索可能。

長州vs大仁田 世紀末電流爆破決戦

2000.7.30 横浜アリーナ　40分￥2,600（送料込）

2000.7/30.横浜アリーナ。長州力復活でプロレス界の話題をさらった大仁田戦、あの世紀の一戦が遂に超安値で登場!!健介、蝶野、ムタとの闘いを経て長州との決戦にこぎつけた大仁田。対する長州は"邪道"の息の根を止めるため2年7ヶ月ぶりにリング復帰。プロレス界を揺るがす20世紀最後の正邪決戦…。超満員の横浜アリーナで運命のゴングが打ち鳴らされた！決戦当日の会場入りから、試合後のインタビューまで、TV未放映映像を満載して徹底ドキュメント収録。プロレスファンならこのビデオを持つべし。

ハイパー ヒストリー オブG-1クライマックス1991〜2000　VIDEO　DVD

●DVD-BOX￥21,000
●ビデオ VOL.1,2各￥10,290（3.4巻は12月）

【DISC-1／VOL.1】●'91年第1回G1　藤波vsベイダー、ノートンvs武藤、蝶野vs長州(8/7.愛知県)ビガロvs長州、武藤vs藤波、蝶野vs橋本（8/9..両国）蝶野vs橋本、蝶野vs武藤（8/11.両国）他●'92年第2回G1　ルードvs橋本、(8/10.両国）蝶野 vs 武藤（8/11.両国）他● '93年第3回G1　馳浩vs橋本（8/3.両国）蝶野vs冬木、(8/5.／両国）藤波vs武藤、馳浩vS蝶野（8/6.両国）藤波vs馳浩（8/7.両国）【DISC-2／VOL.2】● '94年第4回G1　馳vs橋本、長州vs蝶野（8/3.両国）ウォリアーvs馳（8/4.両国）武藤vs長州（8/5.両国）蝶野vsパワー（8/7.両国）●'95年第5回G1　蝶野vsフレアー、8/11.両国)武藤vs蝶野（8/12.両国）橋本vs天山、武藤vsフレアー（8/13.両国）武藤vs橋本(8/15.両国)● '96年第6回G1　山崎vs武藤、長州vs橋本（8/2.両国）蝶野vs武藤、長州vs蝶野（8/6.両国）【DISC-3／VOL.3】● '97年第7回G1　ムタvs中西、(8/1両国）天山vs小島、橋本vs蝶野（8/2.両国）佐々木vs天山（8/3両国）● '98年第8回G1　小島vs天山、天龍vs武藤（7/31.両国）山崎vs佐々木、8/1両国）山崎vs蝶野、(8/2.両国）【DISC-4／VOL.4】● '99年第9回G1　小島vs永田（8/10.大阪）、蝶野vs天山、武藤vs小島、武藤vs永田（8/15.両国）他●2000年第10回G1　天山vs中西（8/7.大阪）ライガーvs後藤（8/9.広島）西村vs天山（8/12.両国）永田vs飯塚、中西vs天山、中西vs蝶野（8/13.両国）佐々木vs中西（8/13.両国）他

MCvsNB〜WCW権力戦争勃発！〜　VIDEO　DVD

ビデオ＆DVD同時発売　各123分各5,040円

2000年4/10〜8/28米国。プロレス・ビデオNo.1ヒットを記録した「nWo 4Life」「nWo 4ever」の続編ともいうべきWCWヒストリー・ビデオが遂に登場！激動の2000年WCWマットの4月〜8月までの最新映像役200時間から厳選勿論、全編日本語字幕版。
収録内容　1.nWoフラッシュバック〜1999年12/22nWo2000誕生、12/23衝撃ゴールドバーグ負傷！2.ニューブラッド誕生！ミリオネアーズ・クラブとの抗争〜2000年4/10ビショップ＆ルッソ合体！世界王座トーナメントスタート4/17ニューブラッドパーティー。ホーガン駐車場で乱闘！ヒットマン鉄パイプ殴打事件！3.WCW世界王座大戦争PART.1〜4/24JJvsDDP。俳優デビット・アークエット新チャンピオンに！5/22ナッシュvsJJ。5/29フレアーvsJJ。4.MC神話崩壊？〜6/5&12無惨！フレアー家族戦争。6/11スティング炎上！6/5テリー・ファンクハードコア王座陥落！5.ムタ登場〜7/10ムタ出現！7/18USヘビー級王座争奪トーナメントムタvsバンピーロ。8/13快挙！ムタWCWタッグ王座を奪取！6.WCW世界王座大戦争PART.2〜6/11ゴールドバーグ、NBへ？ナッシュvsJJ。7/9ホーガン解雇！？JJvsブッカーT。7/24ブッカーTvsゴールドバーグ。8/13ゴールドバーグが謎の行動！ナッシュvsゴールドバーグvsスコット・スタイナー。8/28ナッシュが遂に世界王座を奪取！ブッカーTvsナッシュ。

●レッスル通販がより便利に！●

代金引換通販を開始いたします。お名前（フリガナ）、ご住所、お電話番号、商品名を明記の上ハガキ又はFAXでお申し込み下さい。こちらから電話確認次第、発送します。商品お届け時に手数料315円を足した合計料金をお支払い下さい。

ご注意下さい！
＊合計5,000円以上からお願いします。
＊沖縄県、離島の方は御利用頂けません。

★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは１本の場合￥５００、２本以上は無料、グッズの送料は、お手数ですがお問い合わせ下さい。

1,000円お買い上げごとにスタンプを一つプレゼント。30個でＴシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる！（店頭・通販共）

【通信販売お申し込み方法】
住所・氏名・TEL・希望商品名を明記のうえ現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。ビデオ送料は1タイトルにつき500円、2タイトル以上はサービスです。

●郵便振込口座番号　００１８０−８−６５２３６　レッスル通販
※郵便振替通販に関してのお問い合わせは池袋店にお願いします。

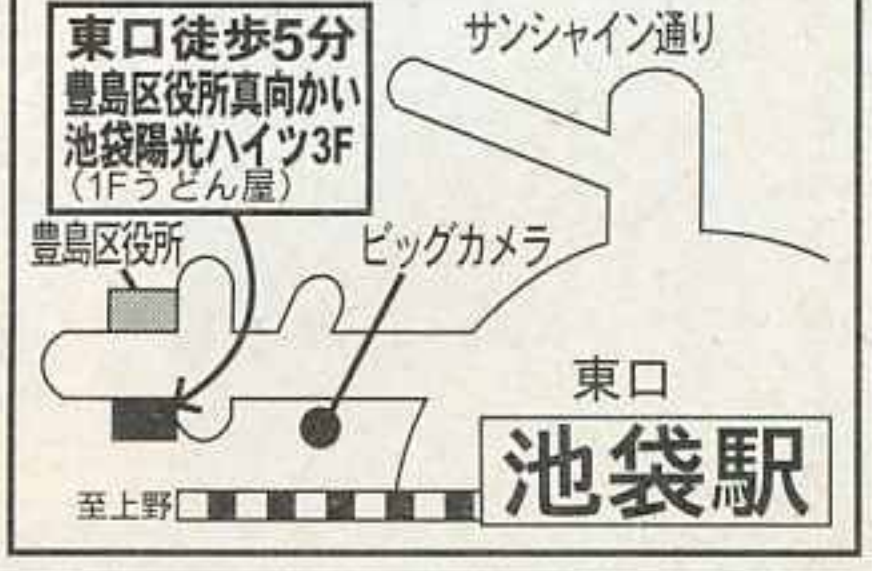
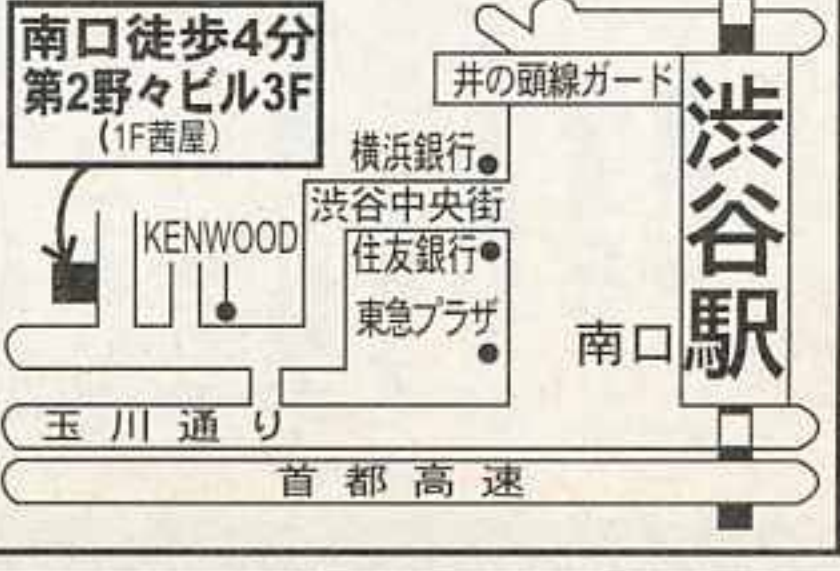
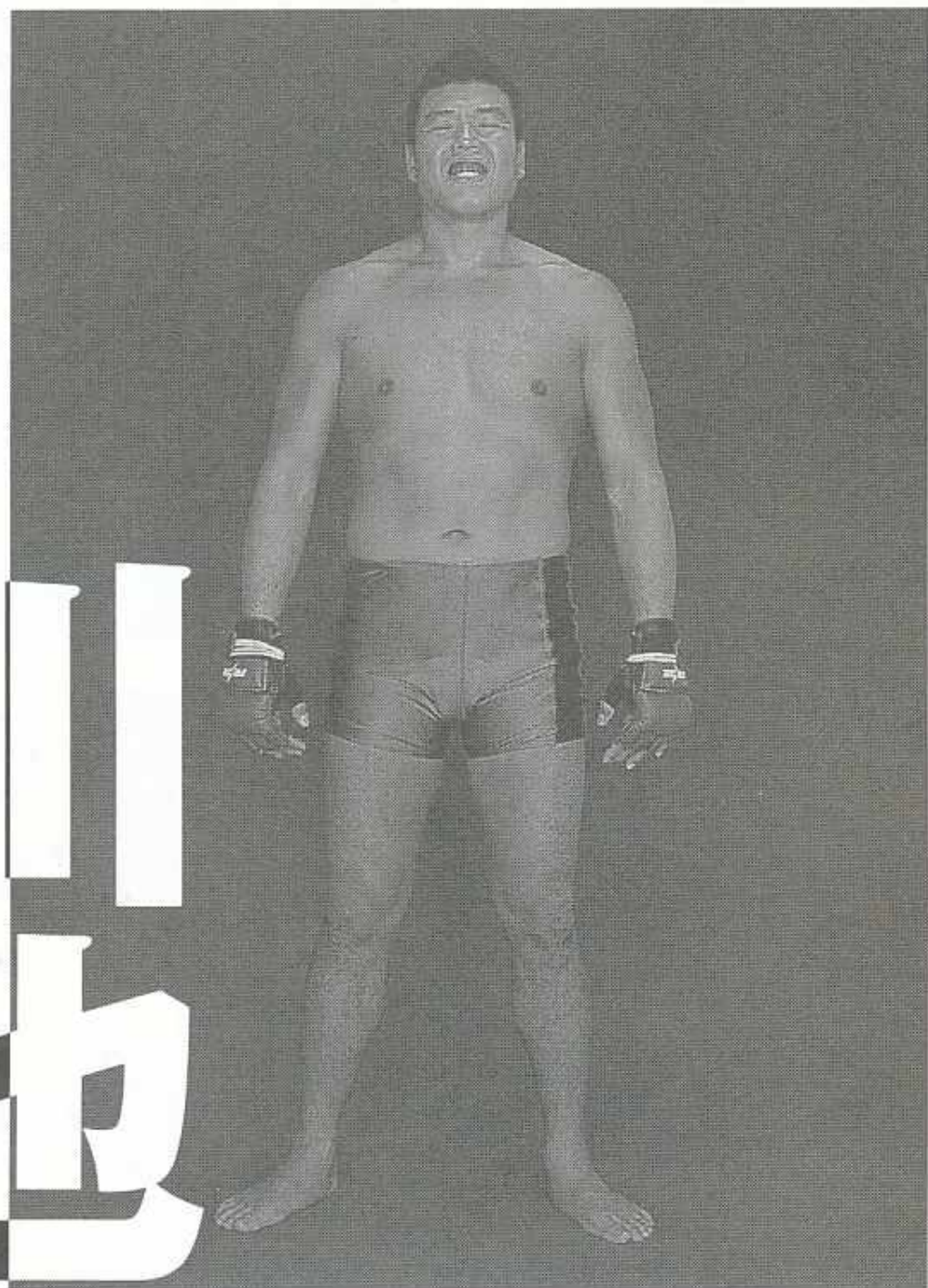
レッスル渋谷店　店頭TEL＆FAX03-3464-0078 通販部 03-3464-1780
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル

レッスル池袋店　店頭TEL＆FAX 03-3989-0056 通販部 03-3987-7817
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-36-3 池袋陽光ハイツ306

南口徒歩4分
第2野々ビル3F
（1F茜屋）
井の頭線ガード
横浜銀行
渋谷中央街
KENWOOD
住友銀行
東急プラザ
南口
渋谷駅
玉川通り
首都高速

東口徒歩5分
豊島区役所真向かい
池袋陽光ハイツ3F
（1Fうどん屋）
サンシャイン通り
豊島区役所
ビッグカメラ
東口
至上野
池袋駅

No.33 Main-Event

2
FOOL ON THE RING 馬鹿になれ!! 21

小川よ、君の闘う場所にゃ
海より大きな夢がある
小川直也

紙のプロレス RADICAL

2001 No.33 CONTENTS

猪木が持つ"希望の光"と"挑む心" 14
小川、髙田、桜庭の凄いトコ

今世紀最後の最後で一体何が起こるのか? 30
12・31『猪木祭り』

4年ぶり本誌登場!! 破壊王復活!! 18
橋本真也

日明兄さんが語る橋本問題とハンセン引退 28
前田日明

4周年記念座談会 ターザン山本×山口日昇×吉田豪 42
ターザン山本の20世紀最後の大提言

K-1化? プロレス化? それとも新プロレス確立か! 101
12・23『PRIDE.12』見どころ

もう一丁! なっ!! 89
谷津嘉章

アレクは"桜庭和志"になり損ねた男じゃない!! 96
アレクサンダー大塚

ありがとう!! そしてさようなら!! 引退記念語録 113
船木誠勝語録

純プロレスの逆襲が始まる!! 146
秋山準

約2年のブランクを経てノアのリングにカムバック! 121
斉藤彰俊

Art Director
出田さん●San Ideta
Design
Two Three
ヒサくん●Kun Hisa
村松さん●San Muramatsu
マツくん●Kun Matsu
グッチー●Gutty
モリやん●Yan Mori
Saotome no jimusho
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae
Cover Model
アントン(協力/猪木事務所)

※「RADICALとは何か?「根源的」、「根本的」って意味。あとは各自調査。

No.33 Main-Event 2

KOK Bブロック開幕直前インタビュー 73
山本宜久

藤原魂伝承対談 79
山本宜久vs藤原敏男

ジャパン勢よ! 勝って田村を見返せ! 82
リングスKOK見どころ&金原弘光

"検証"旧リングス 不定期連載第一回 85
ピターゼ・タリエル

No.32 Semi-Final

11・26駒沢大会から本誌が緊急提言! 154
バトラーツ

21世紀のマット界注目イベント 156
コンテンダーズ

もうデスマッチしか愛せない 158
大日本

21世紀型プロレスの急先鋒 161
DDT

真のエンターテイメントを目指せ! 164
FMW

ヤマケンHIPHOPに圧勝! 166
クラブファイト

Scandal & Scoop

最凶のプロレス本のあの男が『紙プロ』に登場! 57
ミスター・ヒト

徹底検証 65
"ヴォルグ・ハンはKOKで通用するのか"

今、明かされる「ヴォルグ・ハン格闘術」 66
ラバザノフ・アフメッド

ハン、コピィロフを発掘したVIPが世界格闘技を語る 69
堀米奉文

本誌完全独占スクープ! 謎の新団体レポート 32
WTWって何?

なにがなんだか4周年記念スペシャル 54
本誌スキャンダル企画

Radical Fight

今月のおすすめ興行レポート 142
ダブルクロスレビュー

リング外情報通信 140
KAMIPRO WALKER

一ヶ月の出来事を総まくり 169
紙の新聞

Columns

狂乱のマット界時評連載 38
喫茶店トークiモード

『BEST OF THE スーパーコラム』 105
花くまゆうさく/掟ポルシェ/堀越日出夫/イナズマ★K

吉田文豪人生劇場『書評の星座PART2』 134

Special Novels

格闘プロレス小説第25回 **無比人** 真樹日佐夫 130

Another

早くも短命の予感がする新読者ページスタート! 137
読売ピストルズ

メリークリスマス&ハッピーニューイヤー 174
サクッとプレゼント

4周年目にしてようやく誕生 144
編集後記

RADICAL特製ピンナップ
サクカラスその華麗なる世界
●
[4周年記念ピンナップ] **FMW中山香里**

※今月の「ザ・検証」は休載させて頂きます。次回にご期待ください。

本誌編集部員・水戸泉が緊急独白「ボク、結婚します」1月1日入籍予定 実話です

ターザンの20世紀最後の大提言

「プロレス」で大事なことは、すべてキャバクラに学べエ!!

橋本解雇、12・31『猪木祭り』、桜庭和志、小川直也、そしてキャバクラまでを忘年会がてら、

無礼講大放談!!

猪木と桜庭に引き裂かれた心を愛せ!

平成のデルフィンたちは、決して読まないでください。

ターザン山本（密航キャバクラの達人）
with
山口日昇（本誌編集長）
吉田豪（本誌スーパーバイザー）

20世紀最後の無礼講大放談!!

ターザンの21世紀への大提言「男だったら、肉と魚を食えぇぇぇぇ！」

もうすぐ21世紀！いま、ターザン山本はなにをやっているか？

山口　さあ、お陰さまで『RADICAL』も創刊4周年ということで、今日は創刊号で表紙に登場した山本さんに、中華料理でも突っつきながら、たまには大いに語ってもらおうというわけです。

ターザン　もう4周年!?　よくもったなぁ。奇跡ですよぉ！　嬉しいねぇ。でも俺も、いま忙しいんだよ。単行本、2冊書かなきゃいけないもんなぁ……。

豪　印税、前借りしちゃいましたからね（笑）。

ターザン　（面倒臭そうに）プロレスの文庫書かなきゃいけないんだよ。

豪　それは、昔のミスターX名義みたいな感じの本ですか？

ターザン　いや、違う。自分で書く。あれ（ミスターX名義）は、ぜ～んぶ俺がしゃべったのを本にしただけだから。それでも、何冊かの総計で50万部売れたんだよ！

豪　そんな会社外収入がたっぷり入った通帳を、Nちゃん（ターザン前夫人＝現在は『週プロ』編集部の元部下S氏と再婚）が持って行っちゃったわけですね（笑）。

ターザン　……よく考えたら、Nちゃん、あれ悪人だよな！

豪　ダハハハハ！　いまさら何言ってるんですか（笑）。

ターザン　家建ててるんですよォォォ！　3階建てくらいのでっかいの。誰のお金で家建ててんだよォォォ！　犯罪だよ！　泥棒ですよォォォ！

豪　普通、持って行かれた時点で気付きますよ（笑）。（約3年前に）Nちゃんが家を出ていった後でも呑気に「それにしてもNちゃんは良かった」って言ってるから、その許し切るというか何でも忘れる才能は、つくづく猪木イズムだなって思ってたんですけどね。

ターザン　クッソー！　いまから思うと腹立つなァァァ！　時間差で効いてきたよ～。

山口　ま、猪木さんも3日くらい経ってから頭にくるらしいから（笑）。

ターザン　でも、俺の中ではいいように解釈してるんだよな。記憶を美化して、摺り替えようとするわけよ。ところが、時間が経ってくるとおかしいなってわかるんだよな。あれ？　おかしいな～？　とね。でも、俺もちょっと反省したりするんだけどさぁ（かわいらしく）。

山口　一人のときに反省するんですか？

ターザン　やっぱり独りでいるとさ、「やっぱり俺が悪かったのかな～」とか思っちゃうわけよ（寂しそうに）。でも、違うんだよな！　俺は間違ってませんよォォォ!!（バンバンバン＝テーブルを叩く音）

山口　「俺は悪くない」（笑）。

ターザン　俺が悪いわけないじゃないのォ！　俺が何をしたというんだァァァ!!（バンバンバン）。

山口　ガハハハハ！　何かはしたと思いますよ、確実に（笑）。ま、せっかく料理がきたんで、落ち着いて食べながら話しましょう（笑）。

写真左が、「嫌みを言わせたら日本一」の吉田豪（ターザン談）。
写真右が、ターザン曰く「これまで会ってきた人物の中で一番いい加減な男」山口日昇

豪　（吉田豪が『紙プロ』新人に肉料理を勧められ）あっ、俺は肉と魚は食べないからいいよ。

ターザン　なぁにィ～？　おい、豪ちゃん！　肉と魚を食べなかったら女の子にモテませんよォォォォ！（バンバンバン）。

豪　は？　なんなんですか、それ（笑）。

ターザン　いや、男はさ、肉と魚を食べるから身体の内部から男の野望とか熱気とかがガーッと出てくるわけ。要するにさ、存在が立ってくるわけですよォォォォ！

山口　存在が勃起すると（笑）。

ターザン　そう！　それを女が見抜くんだから。菜食主義者に女は惚れない!!（キッパリ）。

豪　なるほど、勉強になります（笑）。

ターザン　そっちに未来はないよ。

豪　ボクはノー・フューチャーですか（笑）。

山口　ターザンの21世紀への遺言だね。「男は肉と魚を食え！」（笑）。

ターザン　だって、女というのは強い男に惹かれていくわけでしょ。豪ちゃんは脂ぎったものを発散してないもん。

豪　ボク、ギラギラしてないですからね。

ターザン　だから、モテないでしょ？　大いに反省しろォ!!（バンバンバン）。まず、食い物が原点なんだから、俺たちは。

山口　ガハハハハ！　ユセフ・トルコと同じこと言うな（笑）。

豪　やはり、この世代は面白いですよ。昨日、ビル・ロビンソンが「男とは何か」を語ってるビデオを見たら、発想がボクらの世代とは全然違うんですよね。「オレが生きてきた40・50・60年代は、男たちはウソをつかなかった」「あの頃の男たちは涙を流さなかった」「80年代から男たちはウソをつくようになった」とか、"それはないだろう"って話ばかりしてるから（笑）。

ターザン　おい、ロビンソンは頭ボケてるなぁ（笑）。

豪　でも、何かわけのわからない説得力があるんですよ。「肉・魚を食わなきゃだめだ！」にも通じるような（笑）。

ターザン　いや、肉を食わなきゃダメですよ～。男の精気みたいなモノが顔とか身体から出てくるもん、肉食ったら。

豪　じゃあ山本さんは、相当、肉と魚を食べてるわけですよね。

ターザン　俺は、大好きだよォォォォ！

山口　ホント、山本さんのギラギラぶりは衰えないよね。年々というより、日々パワーアップしてるというかさ（笑）。

ターザン　（自信タップリに）そりゃそうですよ！

山口　創刊号でヘンな格好して表紙に出た頃よりは、確実にギラギラしてるもん（笑）。あれは山本さんが『週プロ』辞めた年ですからね。

ターザン　俺はあの頃より、5倍か10倍くらい弾けたからな。

豪　最近は、ますます歯止めがなくなりましたよね（笑）。『週プロ』を

辞めて、Nちゃんがいなくなったことで、またさらに。

ターザン　そうそうそう。Nちゃんがいなくなったことは、いまから思うと非常に良かった。

豪　山本さんの場合、毎回、離婚をバネにしてますからね（ターザンは過去に2度離婚）。

ターザン　どういうふうに良かったかと言うと、Nちゃんと一緒にいたらキャバクラなんて行ってないもんな。行けないもん、娘がいるし（しみじみと）。

豪　それはともかく、今日のテーマは何でしたっけ？

山口　今日のテーマは、20世紀最後の忘年会!!　以上!!（笑）。

ターザン　（パチパチパチ）いい！　そうやって先手打つのは。

山口　テーマもクソもない（笑）。今年（00年）の最初に新年会と称して馬場さんを語ったからね。ここでは20世紀じゃ広すぎるから、慎ましやかに今年のマット界を語ろうということです（笑）。

ターザン　マット界？　み〜んな、滅びますよォォォ!!

山口　ガハハハハ！　出た！　出合い頭の一発！　どんどん行きましょう（笑）。

もうすぐ21世紀！橋本真也の独立はどうなるのか？

山口　まず最近話題の橋本解雇については、山本さんは、自身のホームページで「あれはアングル以外の何モノでもない！」って書いてたじゃないですか。その真意をぜひ聞きたいですね。

ターザン　シュートかアングルかって考えた場合、普通に考えたらアングルだよな。

豪　ボクらは、その意見にイマイチ乗れないんですよ。長州と橋本がシュートで仲が悪いのは事実ですよね。

ターザン　いや、このキーワードは、一つしかない！　アングルかどうかではなく、長州が新日本プロレスをジャパン・プロレスにしようとしてるんだよな。これがキーワードだよォォォ！

山口　ネオ・ジャパン・プロレスですね（笑）。

ターザン　そう。長州が今後、社長になるかどうかは知らないけど、そういう動きの中の一貫として考えたらアングルでもアングルでなくても、この意味は見えてくるよ。

豪　つまりジャパン色のない人間は排除されるというか。

ターザン　排除されるか、彼らが積極的に出て行くか反抗するかの綱引きだよ。いま、その真っ最中ですよ。みんな長州のことが嫌で嫌でしょうがないわけよ。長州力は全然プロレスをわかってないんですよォォ!!

山口　出た！　天下の長州監督をつかまえて、「長州力は全然プロレスをわかってない」（笑）。

豪　名言ですね（笑）。それはどういうことですか？

ターザン　全然わかってないよォォ。例えば大谷（晋二郎）なんかが、Jr.ヘビー級を盛り上げるために長州vs大仁田戦を「あんなものナンボのもんじゃ！」って言ってたわけじゃない。それは、いわゆるプロレス言語でしょ。それを2〜3回言ったら、長州は本気で怒って大谷を殴ったんだよォォ！

山口　そして、海外追放されたわけですよね。

ターザン　それをプロレス言語と思えないところに、長州の物凄いスケールの小ささがあるんだよ。ノミの心臓よりもっと小さい心臓ですよ。

豪　シラミの心臓くらいだと（笑）。

ターザン　ああいう人に天下を取らしちゃいかん！

豪　武藤（敬司）とかも海外でかなりシュートな話してますよね。健介vs川田戦を「小結同士の闘い」と評したりして。

ターザン　だから、そういう者を集めて何か一つのモノができないかなというのが橋本の策ですよ。

豪　そういえば最近、新日で大激震が起きたんですよ！

山口　何？

豪　ビッグ・サカ（坂口征二会長）が大福食べて、咽につまらせて救急車で運ばれたんです。でも、何ともなかったらしいという、ちょっといい話でした（笑）。

ターザン　（無視して）つまり橋本の件は、それがセメントになる、本気になる可能性を秘めてのアングルですよ。どう転ぶかわからないというね。コントロールできないアングルですよ。

山口　ナチュラル・アングル（笑）。

豪　「ZERO／新日本プロレス」と看板を掲げたときは、長州内ではアングルじゃなくても藤波内ではアングルっていうレベルだったと思うんですよ。でも、それが解雇されるまでになったのは明らかにシュートだったのかなって。

ターザン　だから、仕掛けたアングルがこんがらがって、ドツボにはまってるんだよな。

山口　業界の一部では、新日本は全日本との対抗戦に見切りをつけて、来年の春先からノアとの対抗戦に乗り出すという噂がある。その先兵役として破壊王が乗り込むと見てる目もあるでしょ。その辺は、どう思います？

ターザン　三沢的には、それはないよ。

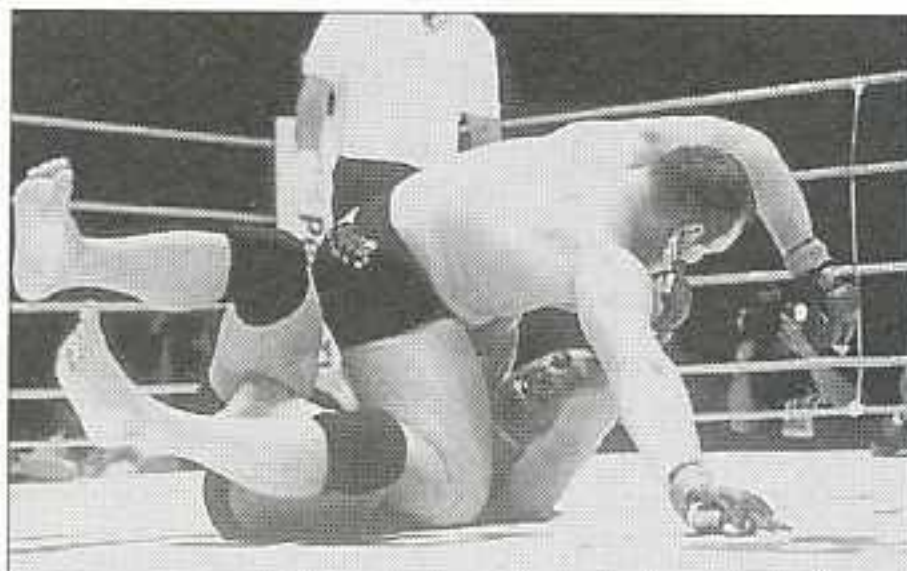
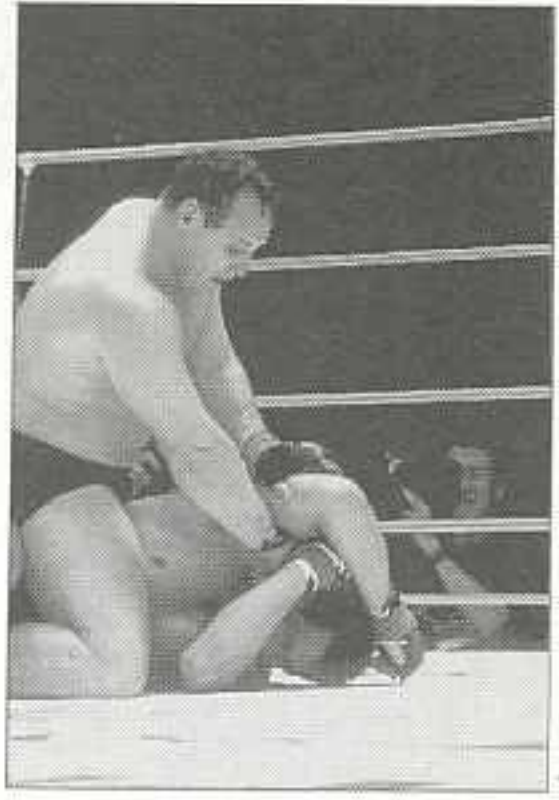
豪　ないですよね、絶対。新日と絡んだら、絶対に自分が損するのわかってますからね。橋本組とは絡むだろうけど。

ターザンの21世紀への大提言
「男だったら、俺みたいにすべてを捨てて勝負しろオオ！」

10.31 PRIDE.11 いきなりPUTIT REVIEW

○イゴール・ボブチャンチン（2R03分17分 タップアウト）髙田延彦●

髙田、頂上寸前で下山「忘れ物」とはなんだ？

オリジナルの後屈の構えでボブに恐怖心を抱かせた髙田は、ロー、ハイと臆することなく果敢に前に出ていく。殺人パンチに飛ばされながらも、片足タックルを決め、場内をヒートさせた

トップを取った髙田は、膝をボブの付け根にブチ込むなど「北の最終兵器対策」を披露。ブレイク後、逆にボブにマウントを取られた髙田はボブにしがみつき、殺人パンチを防いだ

2R。髙田もハイで攻めにいくが、最後はマウント・パンチに髙田はタップ。「タップが早すぎる」という声は上がったものの、髙田の"挑む心"は賞賛に値する

「大・髙田コール」が発生したボブ戦は、実にスリリングだった。11月に入ると、髙田の口から嬉しい「もう一丁！」が出た。「VTをもう一戦だけやる。忘れ物を取りに行く」と意味深発言。"忘れ物"とはなんなのか、要注目だ！

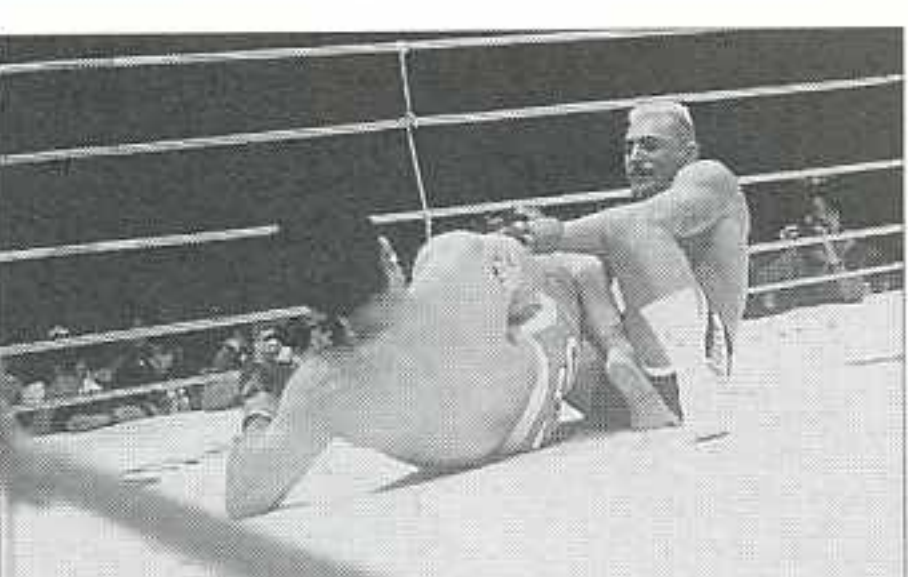
ターザン　いやぁ〜、早く新日本プロレスには分裂してほしいなぁ（笑）。
豪　ダハハハハ！　そんなに新日が憎いですか？
ターザン　めちゃめちゃ憎いっ!!
山口　ガハハハハ！　金髪の呪術師だね（笑）。
ターザン　何年間もかけて完成させなきゃいかんと思ってたから、この「サイレント・リベンジ」を。静かなるリベンジで、ジワジワと真綿で首を絞めるようにさ。
山口　静かなるというか、騒々しいことこの上ないリベンジだけどね（笑）。リベンジする相手として、この際、長州力にもっと大きくなってほしいという気持ちはないんですか？
ターザン　それだけのスケールないもん、あれ（キッパリ）。大したことないもん。猪木さんと馬場さんと較べたら100分の1くらいだよ、あれはァァァ！
山口　でも長州力は、猪木さんと真っ向からやり合おうと思ってるでしょ？
ターザン　しゃらくさいですよォォォ！　あんなもん、本当に往生際が悪いというか、身の程知らずだよ!!
豪　長州監督も山本さんだけには「身の程知らず」と言われたくないでしょうけどね（笑）。
山口　これ読んだら、また長州力が「おい、誰か山本を殺して来い！」って言いますよ（笑）。
豪　「後は俺が面倒見るから」って（笑）。
山口　これで闘魂三銃士あたりが裏で繋がってて、行動に出たら面白いですけどね。
ターザン　具体的にはないでしょ。間接的には反長州派ということで繋がってるかもわかんないけど。後は、度胸があるかどうかだね。みんな一発勝負する度胸ないもん。
豪　つまり、ギャラが落ちても大丈夫かどうかというね。
ターザン　俺みたいに全てを捨ててやるという気持ちないでしょ！
山口　「俺みたいに」（笑）。
ターザン　男はさ、最後は勝負するしかないんだよォォォ!!
豪　「純プロレス」は、いま本当に勝負時ですよね。
ターザン　いまですよ、いま！　大チャンスだよ。
山口　橋本は、新日本で年収●千万かそこら貰ってるわけでしょ。
ターザン　えーーーーっ!?　そんなに貰ってるんか!!
山口　金の話にはリアクション大きいな、このオヤジ（笑）。細かい額はわからないけど、それをもし捨てて明確なビジョンを持ってやりだしたら、それこそ第二の前田日明になれる可能性もあるわけじゃないですか。あくまでも可能性の話としては（笑）。
豪　新日本の年収を本当に捨ててたら、破壊王には乗れますよね。
ターザン　応援したくなるんじゃないの、みんな。でも、どうせスポンサー付き解雇だろうと。だから、イソップ物語みたいなもんなんだよ。「狼が来た」って少年が言っても、何度も言ってるから本当に来た時に信用されないというさ。俺もまだ新日本というか藤波と繋がってるとみてるよ。でも、何かそういう、人生に保険があるというのが嫌なんだよ、俺はァァァ！
山口　山本さんは、圧倒的に保険がないですからね（笑）。
ターザン　ホント、ないよ（しみじみと）。
豪　ダハハハハ！　そこがいいんですよね（笑）。
ターザン　でも、ないのが本当に気持ちいいんだよ。保険がなくなったら、世界が美しく見えるよ。何もないと思ったら、全ての風景が新鮮に映る！　俺なんか、信号機の青だって〝凄い綺麗な青してるな〟って思えるからね。街歩いてて、「あ！　桜だ！　こんなに色ついたか」って思ったりさ。今日もほうれん草をパッと茹でて、醤油も何も味付けないで食ったらさ、「あぁ、うまい。いままでこんなに味があるものを食べていたのか」って思った。俺は、良寛みたいになったなと思ったよ。
山口　貧乏臭い良寛だな（笑）。
ターザン　いや、俺は計画的にほうれん草食ってるわけよ！　ゆで卵2個食って、ほうれん草食って、デカイ牛乳飲むわけ。それで、バナナ食うわけよ。……あれ？　肉がないな。
豪　それじゃ全然、男の精気が出ないじゃないですか（笑）。
ターザン　金がねェェェんだよォォ！（バンバンバン）。
山口　ガハハハハ！　逆ギレしてどうする（笑）。
ターザン　あっ、あるある。肉屋に行ってコロッケを買ってる。
豪　コロッケくらいならボクでも食べますよ（笑）。
山口　長州力は、いま頃バクバク肉食ってますよ。男の精気大爆発ですよ（笑）。
ターザン　そうだろうなぁ（しみじみと）。でもね、最近の事件で一番デカイのは、新日本の広報が『週刊ゴング』と『週プロ』の編集長を呼んで、「以後、勝手に選手に電話したり、会場で話したりすることは一

10.31 PRIDE.11 いきなりPUTIT REVIEW

サクカラス、突如登場！〝猪木の刺客〟を迎撃!!

○桜庭和志（1R01分08秒アキレス腱固め）**シャノン・“ザ・キャノン”・リッチ●**

マスカラスのマスクを被り、ドスカラスまで従えて登場したサク（オーバーマスク付き）。入場時も試合開始後も、実に落ち着いていた。リッチはなにか恐縮しているよう

それでもリッチはハイキックを果敢に放ち、ミッキー・ローク以来の猫パンチ（しかもラッシュ！）を披露。そこをサクが獲物を的確に仕留めるようにタックルでテイクダウン

ＶＴではなかなか決まらないアキレスで、サクが見事に瞬殺!!　やられたリッチも感服！“猪木の刺客”と言われ、藤田までセコンドに付いたリッチも、ある意味で本領発揮？

髙田vsボブチャンチン、小川vs佐竹戦の後、『ＰＲＩＤＥ』大阪初進出のメインをつとめたのがサクだった。「瞬殺！」はサクにとってもの足りなかったようだが、前の2試合が濃かったため、逆にメインはこれでよかった。以上。

切まかりならない。あらゆる全ての取材は広報を通してくれ」って言ったんだよ。前に、橋本が長州のことを何か言ったらしいんだよな。

豪　「俺をクビにできるのは、猪木さんと藤波さんだけだ」っていうヤツですね。

ターザン　そうそう。それで新日本はカチーンときて、直接取材が一切ダメになったんだよ。

豪　順調に面白いことになってきてますねえ。

ターザン　でも、そこまで行ったら長州は末期的症状だよ。取材というのはね、自由放任にしなきゃダメなんだよ。本当は控え室に行くこと自体良くないんだけど、その控え室で取材できるというのが面白いんだよ。

豪　控え室に入れないというのが、これまで長州監督の作ってきた幻想だったわけじゃないですか。

ターザン　それも正しいんだよ、ある一線を画すという意味ではね。6時半以降は通路までしか入れないというのは正しいんだけども、一方では、控え室に入っていって話を聞くのが仕事として面白い記事になるんだよね。あれをやったことによって、更に新日本は落ちるな。ザマァミロですよ〜。クックック。

もうすぐ21世紀！『猪木祭り』は、はたして"最後の晩餐"になるのか？

山口　「純プロレス」といえば、山本さんは何かに「20世紀の最後にON対決が終わって、"プロ野球"というジャンルは終わった」って書いてたでしょ。それと同じで、今度の12・31の『猪木祭り』で「プロレス」というジャンルはおしまい！　という考え方もできると思うんだよね。

ターザンの21世紀への大提言
「お山の大将になるんだったら、それなりのことをしろォオ！」

ターザン　ホント、そうだよな。

豪　『PRIDE』の選手にプロレスをさせることで。

山口　20世紀に大きな役割を担った「プロレス」に対する最大のリスペクトとして、いま一番輝いてる『PRIDE』の選手にプロレスをさせるというさ。

豪　『猪木祭り』について「あれは『格闘技』を落とす行為だ」と一部で言われているけど、むしろ「プロレス」を落とす行為のような気もするんですよね。

ターザン　「プロレス」というのは、論理的に世の中と反対のことやってるんだよ。反則が許されるとかさ、いかがわしいこと、泥臭いこと、ぜ〜んぶ世の中と反対のことやってるわけ。ロープに飛ばしたりとか、非科学的なこともやってるでしょ？　本来、一般社会の人たちにプロレスというのは説明できない、定義できないジャンルなわけよ。それがここまで保ってきたのは、力道山・馬場・猪木という大スターがいたからなんだよね。

豪　力道山・馬場・猪木には説明無用な説得力があったと。

ターザン　「プロレスとはこういうモノですよ」って説明できるモノじゃないから、馬場・猪木という"現物"を見せたわけ。それがなくなってしまったら、古典芸能の保存館で「プロレスというモノがありましたよ」っていうジャンルになってしまうわけよ。"現物"で見せていくプロレスが創造できなくなったから、『PRIDE』みたいな勝負論の世界しか世の中に届かなくなったんだよな。

山口　たとえ論理的に説明できなくても、戦後の役割として「プロレス」は厳然と光を放ってましたよね。

ターザン　物凄い光だよ！　俺たちは、それを誇らなくちゃいかん！　馬場・猪木の時代、昭和のプロレスの時代に俺たちが一緒にいたということ自体、栄光の輝きですよ！

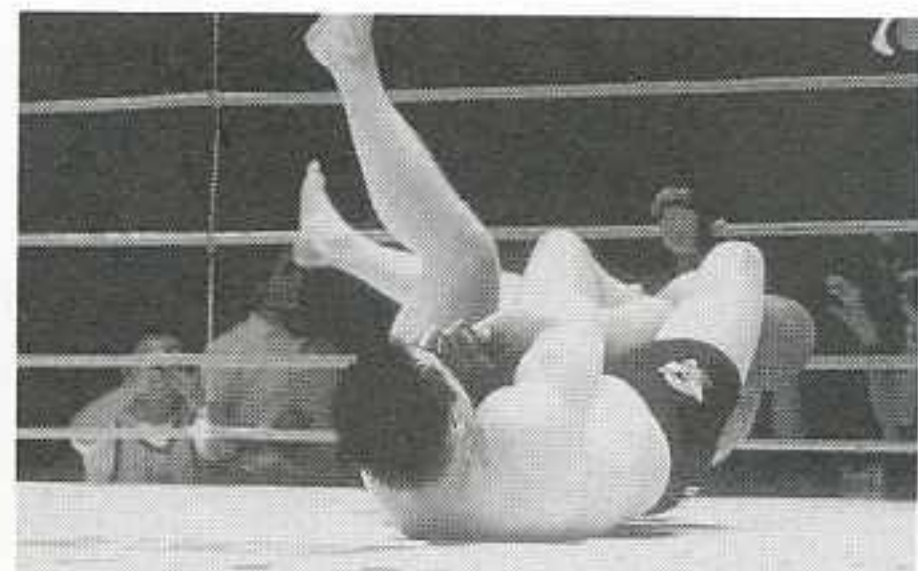
山口　21世紀には、従来の価値観の「プロレス」じゃダメ。でも、残さなきゃいけない芯はここですよ、というものを12・31に突きつけてくれれば、また新たな価値観が生まれてくる可能性はあるんですけどね。『PRIDE』の選手に贅沢な「プロレス」をさせることで、逆に新日本とかには見えない「純プロレスの未来形」を示すというか。

豪　UFOスタイルの未来形を示しそうな気はしますよね（笑）。格闘家のやるプロレスという。

ターザン　やっぱり猪木さんもね、実績とキャリアと歴史を積み上げてきた膨大な過去の集積があるでしょ。21世紀は、それとは全く違ったことやらないとならないわけですよ。猪木さんは、凄いワールドを築いたんだよ。だけど、それとは違うモノをやらなければいけないから、たとえ猪木さんでも過去に縛られて後

10.31 PRIDE.11 いきなりPUTIT REVIEW　○小路晃（1R03分48秒 逆十字固め）ヘルマン・レンティング●

小路、電光石火の逆十字！待たれる、大物との対決

オランダのケンカ屋を相手にしても、臆するところはまったくない。この日の小路はとにかく余裕を感じさせる安定した試合運び。それにしてもレンティングは太りすぎ！

上に乗った小路に対して、アゴで目を突くというサミングをカマしたレンティングだったが、小路はあわてずに対応。フィニッシュは、お手本のようにきれいな逆十字だった。

リングを降りようとする小路にマイクアピールを促したのは浅草キッドだった！「おい、大阪ぁ〜!!……初めましてぇ」と初の大阪登場で自己紹介をブチかましました！

元リングス・オランダの爆弾野郎、レンティングが『PRIDE』に初見参！　小路は体格差をものともせず、落ち着いてポジショニングをキープ。危なげなく腕ひしぎ逆十字を決めた！　小路のトップ狙いは、いま始まったばかりだ。

20世紀最後の無礼講大放談!!

ろ向きになると思うんだよね。猪木さんがやる限りは、後ろ向きのモノしか定義できないと思う。だから、俺たちみたいに猪木さんに育てられた者にしか理解できないわけよ。

山口　俺たちは「アントニオ猪木なら何をやっても許される」と思ってるからいいけど、後ろ向きにしかならないなら、12・31は「最後の晩餐」じゃないですか！

ターザン　……いいこと言うなぁ！「最後の晩餐」か!!　トータル・コピーとしては素晴らしい!!　俺、山口さんと会って初めて凄い言葉聞いたよ。

豪　ダハハハハ！　10年以上つき合ってきて（笑）。

山口　14年間で一度か。俺、才能ないんだな（笑）。

ターザン　12・31は、「プロレス」というか、猪木の「最後の晩餐」だァァア!!

豪　「最後の晩餐」で「プロレス」終わらせたかと思えば、新日の1・4でまた「プロレス」が始まっちゃうと（笑）。

ターザン　1・4？　あんなもの形骸でしょ。抜け殻ですよ！　だから、俺は12・31で"百八つビンタ"の席を設けてほしいんだよな（笑）。

山口　除夜の鐘にかけてね。

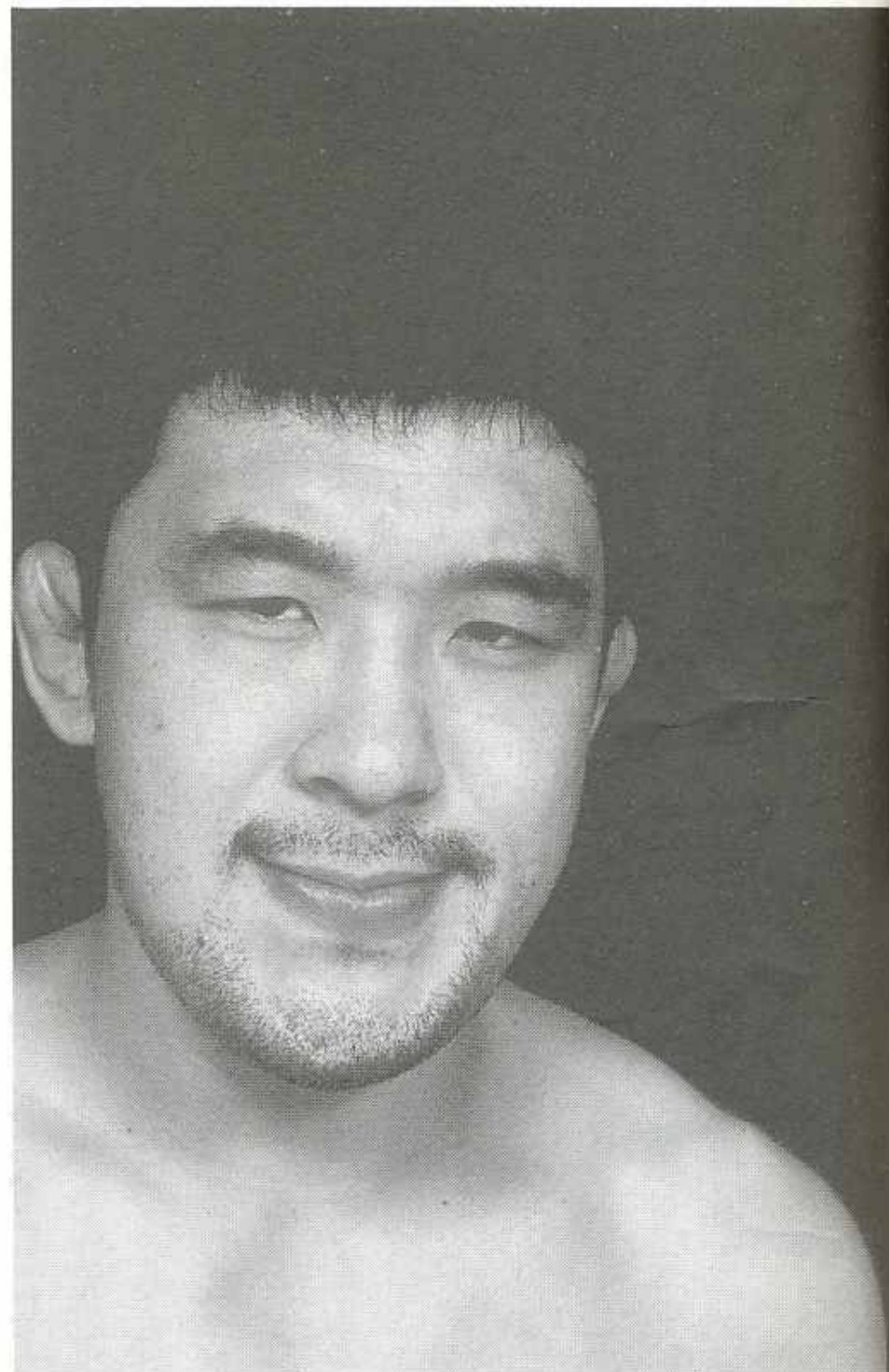
ターザン　そう。それが「最後の晩餐」での、最後のフィナーレですよ。

豪　山本さんの"百八つラブレター"でもいいですけどね（笑）。

山口　ガハハハハ！　あの煩悩の数だけ送ったってやつね（笑）。むしろ俺は、試合なんてやらなくてもいいと思うんですよ（笑）。

ターザン　そう！　だから、俺も海賊男の格好して猪木さんとトークしたいわけよ。海賊男の格好して20世紀プロレスの「最後の晩餐」のトークをやりたい！

山口　俺は紅白ポエム合戦をやってほしいな。「先手、アントニオ猪木様」と紹介されて、猪木さんが『不安だらけの人生だから……』って読み上げるの（笑）。「後手、高田延彦様」『ホイスをホウキでホイサッサ』。「それはポエムじゃねーぞーっ」ってヤジが飛んだりして。「三番手、佐竹雅昭様」『押忍ッ!!』。「それもポエムじゃねーぞーっ」って言われたり（笑）。それを大阪ドームで20世紀最後の大晦日にやるのは贅沢でいいなぁと思って（笑）。

豪　山本さんもハセキョー（長谷川京子）に送るポエムを読んだりしてね（笑）。

山口　さっき山本さんは「猪木さんとトークしたい」と言ったけど、20世紀のプロレスは「言葉」というものと並列してあったんだよね。

ターザン　あった！

山口　でも、このままいったら21世紀のプロレスには「言葉」はいらなくなってくるでしょ。K―1に活字がマッチしないように。

ターザン　それを証明したのは桜庭ですよ。言語化できないんだもん、桜庭は。

豪　そこに物足りなさは絶対にあるんですよね。いわゆる『PRIDE』とか『紙プロ』で「新プロレス」と呼んでいるフィールドにいる人たちは、試合は面白いし選手としてはみんな素晴らしいんだけども、多角的に語りようがないし、インタビューも活字的に面白くならないんですよね。

ターザン　いじりようがないんだよな。

豪　それって致命的な欠点だと思うんですよ。リングに全てがあるわけじゃないですか。"ヒト"の面白さでいえば、圧倒的に昭和のプロレスラーの勝ちだろうし。

ターザン　でもサクはね、いろいろ考えたけど、ありゃ、面白い男だな。猪木さんのようには多角的に語れないけども、サクというレスラーをいろいろ分析していくと面白いわけよ。20世紀が、力道山・馬場・猪木の時代だったとしたら、そこに突然変異が出てきたんだよな。それが初代タイガーマスクであり桜庭ですよ。

山口　佐山と桜庭は突然変異ですか！

ターザン　桜庭もタイガーマスク好きだったんでしょ？　初代タイガーマスクのプロレスは、馬場・猪木の概念が落ちてないプロレスなんだよ。佐山というのは、凄いわけ。馬場・猪木のスタイルを壊したんだよね。だから桜庭もいま壊してるわけですよ。

豪　あの完全脱力主義なスタイルは桜庭のオリジナルですからね。

ターザン　うん。サクは試合見てても、緊張してないんだよ、力抜けてるわけ。脱力ファイターだよ。地球には重力があるけども無重力のような、存在としてやってる。あれは無重力ファイターですよォォォ！

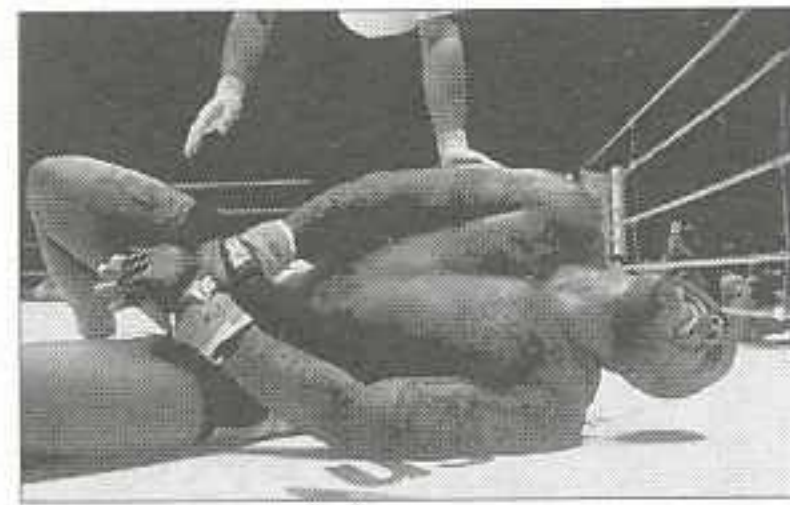
山口　本当に"リアル・四次元殺法"ですよね。

ターザン　そう！　あんなヤツ、いままで見たことないよ。普通の人は、あぁいうオール・オア・ナッシングの闘いだったら試合の2ヶ月前から緊張するよね、みんな。それで潰れるヤツも多いわけよ、船木みたいにね。精神的な重圧とプレッシャーに圧倒されて、あるいは、それがなくても、いざ試合となるとみんな緊張するわけよ。桜庭は、それがないもんな。サクは肩とか腕の力が脱力してんだもんな。脱力してるということは、どんな状況でも冷静で応用の

10.31 PRIDE.11 いきなりPUTIT REVIEW

ギルバート・アイブル（0分21秒ノーコンテスト）ヴァンダレイ・シウバ

暴れん坊、急所をやられて暴れん棒！

海外VT界において、この日の『PRIDE.11』の最注目カードは、このアイブル対シウバの一戦であった。アグレッシブファイター同士の闘いは、開始わずか21秒、シウバの強烈な左ローがアイブルの股間を直撃、無効試合に！

悶絶するアイブルに対し、快復の度合いをみて時間を置いて再試合も検討されたが、結局ノーコンテストに。しかし、アイブルは復調すると『PRIDE』ガールを独り占め

10.31 PRIDE.11 いきなりPUTIT REVIEW

○ヒース・ヒーリング（1R06分17秒裸絞め）トム・エリクソン●

エリクソン敗れる！ニュースター誕生

一部マニアの間では「最強」の呼び声も高かった"恐竜戦車"エリクソンがまさかの轟沈！　上になるだけしかできないエリクソンに対し、ヒーリングはブレイクを待ってスタンドになると猛然とラッシュ！　見事な逆転勝ちだった。

サンボとレスリングがベースで、アイブルと練習を積むヒーリングは、立ってよし寝てよしの好選手。アイブル同様、その瞬発力が魅力だ

『PRIDE.11』その他の試合は、雑誌をくまなく探してください。載ってます

ターザンの21世紀への大提言

「桜庭はクリエイターですよ！ みんな、桜庭に学べエエ！」

効く判断が下せるんですよ。大体そりゃ、負けないよ。

豪　そうすると、これから、そういう脱力している人たちがどんどん上に上がってくる時代になるわけですよね。ただ、本当は試合で緊張したりする人のほうがインタビューは面白くなるんでしょうけど。

ターザン　いままではさ、学んできて、シゴかれて、それを積み重ねてきてやっと藤原組長みたいになるわけじゃない。桜庭のことをIQレスラーって呼んでるでしょ。あいつはいまの言葉で言うと、クリエイターだよ。クリエイティブ・ファイターだよ。クリエイトというのは、いままでにないことをやることだから。桜庭は、プロレス界に出てきた佐山以来のクリエイターですよ。違う？

山口　でも、どこがどうクリエイティブかって説明を求められると、「試合を見ろ」って言っちゃうのが一番早いわけですよね（笑）。

ターザン　そう！　佐山の場合は、無類のエエ格好しぃでナルシストだから、そのクリエイターの部分ではパソコンに向かってルールとか理屈を作ったりするわけですよ。桜庭は、そういうことに全く無頓着なわけですよ～。

豪　自分のことを伝える気はないですよね（笑）。

ターザン　だから桜庭の方が佐山より遥かに進んでますよ。佐山は、ウソの上塗りみたいにするわけですよ。積み重ねて、バベルの塔みたいなね（笑）。ウソを天井まで積み重ねて、辻褄が合わなくなると、次の辻褄を合わせるみたいなね。それで、エエ格好しぃの自分を保とうとするわけじゃない。でも、あんなブクブク太ったら終わりですよォォォ！

豪　デブはダメだと（笑）。

山本　桜庭は、エエ格好しぃじゃないから、そのままでしょ。自転車乗って道場に通ってたりするんだから。参るよな～、あいつには。

山口　猪木さんも桜庭にはジェラシー抱いてますかね？

ターザン　要するに、猪木さん、馬場さん、力道山の概念にないモノが出現したのがタイガーマスクの佐山と桜庭でしょ。だから嫉妬しますよ。理解しようとして理解できない時は拒否するか、嫉妬するよね。だから、猪木さんを嫉妬させたレスラーは佐山と桜庭だけだよ。でも、佐山の場合は、覆面被るのを恥ずかしいとか言って嫌がったけど、桜庭の方は被りたがってるわけでしょ。

豪　自分から率先して被りますからね。

ターザン　そこに古いタイプの佐山と21世紀型の桜庭との物凄い対比が出て、桜庭と佐山を較べると時代が全部わかる！　物凄く佐山の方が古臭いよな。

豪　つまり、古臭い人に学んじゃった佐竹みたいなのはダメなわけですか？

ターザン　桜庭に学ばなきゃ！　あれは、完全なるクリエイターですよ。そう考えると物凄くわかりやすいよ。これまでのプロレスラーは、いままであるモノの中からちょっとづつ何かを受け継いで育ってきたわけでしょ。藤原なんてその典型じゃない。そういうモノに全く染まらずにクリエイティブなモノをやったのは、桜庭だけですよ。

山口　そういう意味で言うと、高田、佐竹なんてクリエイターと全く対極の部分にいますよね。あの年齢で、あれだけの努力してる。職人の世界ですよ。

ターザン　そうだよな。時代遅れも甚だしいんだよ！　でも、そんな世界が俺たちから見るといいんだよ。

山口　非常にいいですよね。

ターザン　懐かしくていいんだよ。ノスタルジーなんだよ。でも、ホントは桜庭が凄いんだよ。桜庭の中でもう一つ重要なのは、プロレスラーや格闘家って格好つけてね、ジャンルを背負うとか団体を背負うとかそういうモノを自分に課すじゃない。

豪　背負うことによって色気が出ますからね。

ターザン　背負うことによって、俺たちは、「よし！　応援しよう」とかなるけど、桜庭には、団体とか道場を背負うとかジャンルを背負うとかこれっぽっちもないんだよな。

豪　そんな気、さらさらないですよね（笑）。

山口　でも、背負ってるんだよね。確実に。〃背負い方の見せ方〃みたいなものが従来の世界とは違うんですよ。それに気付いて、3年以上前から『紙プロ』でもサクの凄さについてはいろいろ書いてる。でも、猪木さんや馬場さんの時代はリング上ではどうしても説明不足だったから、活字には出番が腐るほどあったけど、サクの凄さなんかは、結局、「試合を見ろ」っていうほうが早いわけ（笑）。WWFの面白さもそうですよね。「見た方が早い」という。だから、何とか昔の時代に戻せばいいのか、それとも、いまの時代を推し進めていけばいいのか。

ターザン　戻しちゃダメだよ。推し進めないと！

山口　ですよね。でも、そうなったら、活字というのは役割がなくなってきますよ。

ターザン　どうしたらいいんだろうねぇ、俺たちはぁ（しみじみと）。

山口　ガハハハ！　何、しんみりしてるんですか。

ターザン　でもね、桜庭には物凄く才能があるからな。場を与えられると才能というモノは踊るから！

山口　才能というのは踊るのか！　実にいい言葉です（笑）。

ターザン　俺と一緒ですよォォォ！　俺も場を与えられると、才能が踊るんですよォォォ!!（バンバンバン）

豪　山本さんは桜庭なんですか？（笑）。

ターザン　そうだよぉ！

豪　しかし、毎回いいとこ取りしますよね。「俺は猪木だ」と言ってみたり（笑）。

山口　「俺は馬場だ」とか言ったりね（笑）。このアクの強さというか自分の押し出し方に関しては、俺やサダハルンバ（谷川）の世代や豪ちゃんの世代じゃ、足下にも及ばないもんな。歯が立たない（笑）。いまの選手にも、猪木さんのようなアクがないよね。つまり、時代にアクがないということだけどね。

ターザン　でも、いま考えると、サクはそれなりにいろんなことを考えられる選手なんだよ。やっと理屈がつけられたという。そこには、時代の必然性と時代の答えが詰まってるわけだよ。つまり、桜庭一人が一人勝ちしてると言うけど、後の99％全部がダメなヤツだってことだよ、ハッキリ言ったら！　99％は、井の中の蛙かお山の大将の一番ダメな典型だよ。井の中の蛙か、お山の大将になってもいいけど、そうなるにはそれなりのことしろよ！　手を上げろ！　出ていけよ！　ってことだよな。

もうすぐ21世紀！ 〃ベンチャー・ビジネス〃としてのプロレスはどうなっていくのか？

山口　ところで山本さんは、小川直也をどう見てるんですか？

ターザン　小川には欠点があるよね。

山口　ズバリ言って、それはなんでですか？

ターザン　愛嬌がない！　作り笑い

でもしろよォォォ!

豪　笑顔だけでも桜庭を見習えと（笑）。

ターザン　作り笑いでもいいからさ、ファンやマスコミに媚びを売れっていいたいよ。

豪　ちなみに山本さんは媚びを売ります?

ターザン　俺は、大売りですよォォォォォォ!

山口　ガハハハハ!　今日、一番の名言だ!（笑）。

ターザン　たとえば『中洲通信』って雑誌があるでしょ。あの雑誌がいままで出て来た人を取材したいというんで来たんだよね。そしたら「わかった。それは新宿の月亭でやろう。しゃぶしゃぶ食わしてくれ」って俺は言って、すぐにそこの電話番号言うんだよ。それを聞いた方としては「頼られてるんだな」と舞い上がるわけでしょ?　それが媚びなんですよ!　そういうのを小川はしないでしょ。俺なんてジャンジャンするもんな!

山口　ガハハハハ!　それ、媚びを売るっていうより、たかってるだけですよ。限りなくごっつぁん体質というかさ（笑）。

ターザン　たかってませんよォォォォ!　ごっつぁんしたり媚びを売るということは、最後はギブ・アンド・テイクになるっていうことだから。最後は、両方とも得したり楽しくなったりハッピーになったりするということが俺の頭の中にあるわけ。だから、俺はごっつぁんとか媚びを売る権利があるんです!!（キッパリ）。

豪　小川もそれくらいしろと（笑）。

ターザン　それが、要するに愛嬌なのよ（かわいらしく）。

山口　ガハハハハ!　頼られたほうも「図々しい」とか「高飛車だ」と思わずに、そのギブ・アンド・テイクの精神を理解しろということを言いたいわけですね。

ターザン　そうそう。だから、小川にも「プロレスしろ」って言いたいわけよ。マスコミとかファンに対して。

山口　相手が嫌いだろうが苦手だろうが、どんな相手でも手の平の上に乗せるというレベルの「プロレス」をまだ見せてないからね、小川は。

ターザン　全然見せてない。物凄く素っ気ないんだよね。

山口　だから逆に言えば、『PRIDE』みたいなリングが一番似合うんですよ。

ターザン　ああいう「格闘技」の世界は「プロレス」が必要ないから、ハマってるんだよな。でも、それ以外のことやる場合は、もっと過剰なモノを求められるから。

豪　東スポレベルでの「プロレス」はしてるんですけどね。

山口　佐山やサクが「プロレスラー」の中での突然変異なら、オーちゃんは、「格闘家」の中での突然変異なんですよ（笑）。

ターザン　だから、猪木さんの言っている「プロレスは格闘芸術」だっていうことを、小川も言ってるよね。でも、本質を全然理解してない。その奥行きみたいなモノを。猪木さんの言葉を、薄っぺらな表面だけ理解してる。そこにはもっと奥があるのよ、深さが。深さというのは、実を言うと、ややこしさでもあるし、面倒臭さなんだけどね。そのわけのわからない世界のことを言うんだけど、そういうことに対しては、全くノータッチになろうとしてるよね。

山口　オーちゃんは、面倒臭いこと嫌いですからね（笑）。

ターザン　「プロとして、一つの世界で答えを出して、数字を出せばいいんじゃないの」っていう発想だよね。テレビの世界で言えば、「視聴率が取れればいいじゃないか」という発想みたいなもんだよ。簡単に言うとね。俺たちは、その向こう側を見たいんだよ。向こう側にある何か魅力的なモノをみたいんだよな。

山口　いま、その可能性があるのは桜庭ですか?

ターザン　桜庭ですよ!　ただ、桜庭を理解するには、我々はあまりにも馬場・猪木に侵されているから。遺伝子というかDNAが擦り込まれているから。理解しようとしても、培ってきたいままでのプロレス観が邪魔して反乱を起こすわけよ。（両手を両側から引っ張られるジェスチャーをしながら）〝ウワァー、桜庭はいいんだけど、やっぱり猪木だぁー〟とか思ったりね。〝でも、やっぱり猪木は間違ってる。桜庭だぁー〟とかさ（笑）。

豪　グレート・カブキの『カランバ』（人間が車で両側から引き裂かれる残酷映画。その宣伝で、カブキは両腕をバスに引っ張られた）じゃないんだから（笑）。あとは、そこでどう大岡裁きを自分に対して下すのかですよね。

山口　『RADICAL』なんて、創刊してから、ズッとそのせめぎ合いですよ（笑）。

ターザン　本当に、そのせめぎ合いだよ。

山口　〝猪木だぁー!〟〝桜庭だぁー!〟〝小川だぁー〟〝でもやっぱり猪木だぁ!〟〝やっぱり昭和のプロレスの方が面白い〟〝でも、いまの時代は『PRIDE』だぁー〟とか（笑）。

ターザン　特に俺のような、50歳を過ぎた昭和のプロレスファンはね。でも、猪木を見てるから理解する能力はあるわけ、反面教師で見ればいいわけだから。いまの時代を〝ああ、ここが違う〟とか〝ここが凄いな〟ってわかるんだよ。でも、〝わかったから何なの?〟ってなるわけですよ〜、自分の中で（笑）。

豪　そういう世界なんですよね。

ターザン　〝やっぱり、昔の女がいいや〟ってね。新しい女がいて、〝この子いいな〟って思っても、〝やっぱり嫁さんの方がいいな〟って思っちゃうんだよな〜。

豪　やっぱりNちゃんがいいと（笑）。

ターザン　……それ言われると、弱いんだよなぁ。

山口　ガハハハハ!　引きずってるなあ（笑）。

豪　結局、ボクの中で、見るなら『PRIDE』とかああいうモノで、

ターザンの21世紀への大提言

「小川は〝ベンチャー・ビジネス〟‼ だからこそ大仕事をやれェェ‼」

語るなら昭和のプロレスだなっていうところで落ち着いちゃうんですよ。

ターザン　両方とも好きになっちゃおうというのもあるんだけどね。あるんだけども、そういうわけにはいかないんだよな！

山口　どっちかにしたいんですか？

ターザン　本当は、桜庭の側に行きたいんだよ。

豪　でも行ききれないですよね？

ターザン　絶対、行ききれない！　その度に、猪木の方に無理矢理引き戻されるよ。理性ではメチャクチャ理解しようとするわけ。でも、その瞬間に猪木の方に連れ戻されるから。

山口　いい言葉だなあ（笑）。その自分の考えに最終判断を下すのが、12・31の大阪ドームですよね。「なんで『PRIDE』の選手が、いまさらプロレスやるんだよ」って思うでしょ、普通だったら。でも猪木さんがやるとなったら、何かしら見る方も理論武装して行こうとするから。

ターザン　だから、俺の周りでも12・23の『PRIDE．12』を捨てて、大阪に行くやつの方が多いよ。みんな昭和のプロレスファンだから。それはやはり『PRIDE』だけの単一的な世界を見るよりも、〝猪木さんの中にある『PRIDE』〟〝『PRIDE』の中にある猪木さん〟の方に魅力を感じるんだよね。その引き裂かれた心を愛しているわけですよ。

豪　どうしても過去を捨てきれないというか。

ターザン　『PRIDE』だけを愛するよりも、引き裂かれて分裂しかかっているモノ、つまり〝猪木さん〟を『PRIDE』の中に見たいということが多いんだよな。それは真実ですよ！

豪　正直そんなに期待してないですよね、12・31には。

山口　全く期待してない。というか、見るのが怖い（笑）。

ターザン　つまり、期待していないけれども、行かざるをえないというね。

豪　そういうことなんですよね。UFOの旗揚げ戦と同じで、とりあえず行かなきゃいけないという。

ターザン　そうそうそう。ということは、物凄い踏み絵になるな、これは！　行かなかったらダメだよ‼

山口　これで「プロレス」が終わるのか、「新プロレス」の土壌がまた広がるのか。

ターザン　ある心の決着が、除夜の鐘とともにピタリと鳴るんだよね。30年くらいプロレスの歴史の中に生きてきた自分たちの心の中に楔を打ちたいというかさ。でも、確かに「プロレス」は求心力として終わるかもしれないけども、ズルズルと存在するからね。

山口　山本さんの中のNちゃんも同じ？　ズルズルと心の中で生き続けるわけ？（笑）。

ターザン　だから、頭の中ではNGにしてても、夢の中に出てきたら終わりだもんな！

豪　夢じゃ闘いようがないですからね（笑）。

ターザン　夢の中に出てきたということは、そっちの方が真実だもん。自分が起きている時に論理的に考えたとしても、夢の中にNちゃんやTちゃん（ターザンの娘）が出てきたら俺の負けだもんなぁ（しんみりと）。

山口　つまり、俺らが考えてる「プロレス」は、いまや夢の中にしかないってことだ。

ターザン　物凄く美しい夢ですよ！　苦しい夢ですよ！　夢さえも消したいという気持ちがあるわけよ。でも、夢だから現れてくるんだよ。

山口　桜庭の方に行きたいんだけども、猪木さんが夢に現れてくるわけだ（笑）。

ターザン　そう！　佐山が出て来た時もそれは思ったんだけど、その時は猪木さんは現役で凄かったから両立してたんだよね。「佐山って凄いな」って思うけど、猪木さんの懐に抱かれた佐山のポジションというのが綺麗な形であったわけよ。猪木さんは、いまリング上にはいないでしょ。桜庭だけパーンッと光っちゃってるから、こっちは困るんだよな。「プロレス」の対抗馬がいないから。

山口　でも、大きな意味で、「純プロレス」の側も、『PRIDE』的な側も二股かけれる可能性を持った素材といったら小川ですよね。

ターザン　小川ですよ！

山口　その小川は、どうなったらいいんですか？

豪　よく「『PRIDE』で強豪とやれ」とか言われますけど、そういう単純なことじゃないと思うんですよね。

山口　だから、小川とか桜庭が、猪木さんの迫力と較べると、まだまだ足りないというのは俺たち的には凄くシックリくるんですよ。でも、桜庭と小川をダメだって言ったら本当に何もなくなっちゃいますからね。

ターザン　小川の能力が凄いというのはわかるんだよな。ただ昔は、レスラーの幻想と、団体の幻想というのがあったわけだよね。全日本と新日本という巨大な幻想が。でも、小川には団体ないもんね。UFOなんて、幽霊団体みたいなモノだから。違う？

山口　幽霊団体って、刺されますよ、沢野慎太郎に（笑）。

ターザン　団体幻想がないでしょ、桜庭にも、小川にもね。これが大きな一つの欠落なんだよね。まず、新日本プロレスの幻想、全日本プロレスの幻想があって、それと同時に猪木の幻想、馬場の幻想があったんだよね。

山口　つまり、組織に人格を求める時代じゃないというか、組織に求心力が働く時代じゃないんですよね。

ターザン それをわかりやすい言葉で言うと、〝ベンチャー・ビジネス〟なんだよ! 少ない人数でデカイ仕事をやるというね。

豪 Ｉ編集長言うところの〝裏原宿プロレス〟ですよね(笑)。

ターザン 桜庭と小川の2人は、ベンチャーのプロレスラーなんだよォオォ!

豪 それと対抗するように、団体組織としての強化をしようとする長州がいるわけですよね。

ターザン 時代遅れなんだよな! 〝ベンチャー・ビジネス〟に対抗しようとしている大企業の生命保険会社みたいに破綻しちゃってるんだよな。

山口 いまの新日本は〝保険プロレス〟だ(笑)。

ターザン そうそう。だから、桜庭と小川は〝ベンチャー・ビジネス〟の雄みたいな感じだよな。旗頭みたいなね。

山口 でも、山本さんからしてみると、猪木さんが新日本を旗揚げして、組とか一家を形成するエネルギーを見ているから、そっちの方に思い入れを持ってるわけですよね。

ターザン そうそう。でも、俺は〝ベンチャー・ビジネス〟も好きなんだよ。

20世紀最後の無礼講大放談!!

豪 山本さん自体がベンチャーですからね(笑)。

ターザン 俺は、一人ベンチャーですよォオォ!

山口 ガハハハハ! だそうです(笑)。

ターザン そういう意味では、桜庭と小川は〝ベンチャー・ビジネス〟的な成功をしたもんね。それを成功させる土壌として『PRIDE』があったんだよ。ベンチャービジネス応援団体だな、あれは(笑)。ケアーにしてもコールマンにしても〝ベンチャー・ビジネス〟みたいなものだから。それを知って、後からノコノコ来たのが佐竹ですよ。

豪 ガハハハハ! ノコノコ(笑)。

ターザン 怪獣王国として、ジャイアント落合なんかも連れて来て、あれは漫画みたいな〝ベンチャー・ビジネス〟ですよぉ。

豪 しかし佐竹には厳しいですね(笑)。

ターザン あれは漫画ですよぉ。でも、一応〝ベンチャー・ビジネス〟やろうとしてるんだよな(笑)。正道会館から出て行って。だから、橋本なんかも〝ベンチャー・ビジネス〟として考えればいいんだよ。

豪 『ZERO-ONE』ですね。

山口 でも、それが本当にベンチャーかどうかが問題になってるんですよね。

ターザン でも、ここが重要だけど、ベンチャーになる以上は、最終的にはデカクならなくちゃいけないんだよ。時代を支配するというかさ。

山口 ベンチャーだからこそ、大仕事をやらなくちゃいけないんですよね。

ターザン そう、デカイことをやらなきゃいけない。

山口 ベンチャーなのかインディーなのか、そこで別れてきますね。

豪 いまの時代の大仕事というのは、結局『PRIDE』とかに出るということなんですか?

ターザン いやいや、『PRIDE』は、たまたまそういう場として存在してるんだけども、どこかがまた『PRIDE』に対抗する舞台を作ればいいわけですよ。だから、例えば「最強タッグ」に小川が出るとかすればいいんだよな。

山口 猪木さんなら、藤田や小川を引き連れて『コロシアム』に移ったりすることも、やりかねないですからね(笑)。

豪 それが、大いにあり得るんですよ(笑)。

“イノキ”という概念&幻想と、“サクラバ”という現実&希望の光。二つに引き裂かれる心を表現する、大道芸人&詩人。21世紀も大暴れしてほしいもんだ

山口 来年の『コロシアム』で、「コロシアム・プロデューサー・アントニオ猪木の登場です!」って入ってきて、「元気ですかーーーー! 燃えてるかーーー!」ってやってる(笑)。猪木さんはなにするかわかんないから、見る方としてはギャンブルですよね。12・31も、めちゃめちゃ面白くなるか、思いきりハズすか、行く方にしてもギャンブルだから。

ターザン そこに、猪木さんを見るという醍醐味があったわけですよ~。だから、いまは面白い時代になってるということだよな。桜庭にしても小川にしても、俺たちの概念を越えているんだから。でも、俺は時代が違うモノになったとしても、〝猪木的なもの〟というのは最強だと思ってるからね。

山口 でも、山本さんは思ったより小川には厳しくないですね。

ターザン 小川? やっぱり、素材的に飛び抜けてるもんね。ダントツだもん。

豪 この間の試合(10・31佐竹戦)をするまでは厳しかったじゃないですか。試合すれば、とりあえずいいわけですか?

ターザン そうですよ! 俺は、そういう主義です。レスラーは試合見せてナンボだから。俺は試合以外のことは評価しませんよ。ただ、小川にしろ桜庭にしろ、年間5~6試合しかやらないからね。いまは、それでいいんじゃないの? 年間百何十試合やってるよりも、いいとこだけ集中的に見ると。そういう時代になってきたと思うんだよ。だって、イチイチつきあっていけないもんな。2ヶ月に1回くらい頂点の大会があって、バーッて見に行って、ウワァーッてやってた方が面白いじゃない。

豪 小川のやり方も正しいと言えば正しいと。

ターザン そういった意味では、小川も桜庭も正しいよ。時代にマッチしてるよ。昔は、俺たちは、年間7~8のシリーズ全部つきあってたんだからね。いまはそんな暇はないよ~、みんな。

山口 ガハハハハ! キャバクラ行かなきゃいけないしね(笑)。

もうすぐ21世紀! そして「日本のプロレス」はどうなっていくのか?

山口 山本さんが監督した『プロレス激本』の前の号で杉山(頴男=『週プロ』&『格通』初代編集長)さんが、「UWFには、〝希望の光〟が見えたから強烈にプッシュした」って言ってたでしょ。いま『PRIDE』はバッグンに面白いけど、大きな意味でというか、運動体としての〝希望の光〟というのは見えにくいですよね。

ターザン 『PRIDE』も東京ドームとかでやる興行団体であって、このジャンルに対して本気にはなってないもんな。

山口 杉山さんの言った〝希望の光〟って簡単な言葉だけど、いい言葉ですよ。

ターザン 杉山さんは、プロレスに対する幻想がなかったんだよ。だから、いち早く、猪木さん・馬場さんでは期待できないと見切りをつけて、違うモノを求めて走れた。杉山さんは、そこで見切りつけたんだよね。

山口 山本さんがUWFを押してた時は、やっぱり〝希望の光〟が見えてたわけ?

ターザン 違う違う。俺の場合は、もうちょっと俗っぽいよ。俺は、当時、マスコミでも『週プロ』内部でも主役じゃなかったでしょ。だから、UWFを育てることで先物買いしたというかさ。

山口 青田買い(笑)。

ターザン そうそう。前田選手とか

も新日本では、主流になれなかったじゃない。そういう人たちが新しいことを何かやって時代を作る。ボクもそういうことに関わり合いたかったわけですよ。

豪　主流になれない者同士で（笑）。

ターザン　うん。ここで、一発勝負しようとね。だから、それこそ“ベンチャー・ビジネス”ですよ~。持たざる者が階級社会で上に上がって行こうとする時の気持ちですよ。そういう共通項があったわけですよ。

豪　前田さんは、「山本は杉山さんの真似しただけや」って言ってましたよ（笑）。

ターザン　……。いや、前田選手は、結局、直接会ったり触れたりという身近な人間関係が基本なんだよね。杉山さんは、いつも会いに行くし、話に行くしね。俺は、遠く離れてやってたから、「何をやってるんだよ」ってなるわけよ。

豪　この間、前田さんに「正しいマスコミの形ってどういうものだと思いますか？」って聞いたら、「人間関係を作らなきゃいけない。人間として友達として、飯を食いながら話をするとか」と言ってました（笑）。それをいまのマスコミに求めるのは難しいと思うんですけどね。

ターザン　そうでしょ。杉山さんのように話をして飯食ってという人であれば、前田選手は、手応えというか安心感が得られるわけよ。でも俺は、“離れていても同じ考えであればいいじゃないか”という発想があるわけ。それは、永久に前田選手には理解されないから、永久に俺は前田選手からは悪者だと思うよ。

豪　ぶっちゃけた話、前田さんは業界に友達いないみたいだから、マスコミでも下の選手でもいいから話し相手が欲しいんだろうなって思っちゃったんですけど（笑）。

ターザン　（嬉しそうに）あっ、そう！

山口　佐山聡もオーちゃんもサクも業界には友達少ないよ、きっと（笑）。オーちゃんも、自分から友達つくるタイプじゃないだろうし、サクだって積極的に友達をつくるタイプじゃないでしょ。つまり、トップどころは、みんな孤独なんですよ（笑）。根っから明るいヤツはスターにはなれない。悶々としてる部分というか、闇の部分を持ってないと。

豪　そういうモヤモヤが必ずプラスになるわけじゃないですか。山本さんが離婚とかのモヤモヤをプラスにしていったように（笑）。

ターザン　俺は「シャイ」だよ（かわいらしく）。俺、仕事を自分から売り込んだことないもん。企画だってね、頼み込めば俺だったら全部通るよ。でも、自分から売り込んだことないよ。頼みに来たことしかやらないもん。

豪　売り込みってカッコ悪いですからね。

山口　「プライド」と「シャイ」は紙一重（笑）。

ターザン　そう、紙一重！「シャイ」というのは日本人の持つ美しさだよ~。いま、そういう美徳がないでしょ。それは評価すべきだと思うよね。ハッキリものが言えないとか、言おうとしても控えちゃうという精神も、日本人としては当たり前のことだと思うけどな。

豪　山本さんは、ハッキリ言い過ぎる気もしますけどね（笑）。

山口　アメリカみたいに何でも白黒つけちゃうとつまらないですよ。

ターザン　つまらない！　全てを法律で片付けようとかね。俺、嫌だよ、そんなの。そういう社会になりつつあるんでしょ、いま。俺は、それ間違いだと思うよ。

山口　プロレスの世界が、まずそうじゃないですか。シュートかエンターテイメントかどっちかってハッキリさせようとして。

豪　でも、グレーゾーンの面白さが絶対にあるわけですよね。

山口　過渡期において、「グレーゾーンがいけない、まず白黒ハッキリさせよう」というのもわかるけど、グレーゾーンにはグレーゾーンの奥深さがありますからね。グレーゾーンの「プロレス」が終わりということは、日本の文化が失われるのと一緒ですよ。

ターザン　「ここで白黒つけない方がいい」っていうね。だから王さんが言ったじゃない。「本当は、私は長嶋監督とやりたくない。白黒はつけるべきじゃない」って。王監督は凄くわかってるよ。

山口　たとえばキャバクラに対して「本番できないなら風俗行った方がマシだ」って言う中村カタブツ君みたいなバカがいるでしょ（笑）。

ターザン　そんなもの大バカですよォォォ！　だったら、始めから風俗行けェェェ！　キャバクラというのはぁ「プロレス」なんだよ。虚実皮膜のね。

山口　虚実皮膜（笑）。久しぶりに聞きましたよ、その言葉。

ターザン　キャバクラでは全部がウソだよ。

豪　全てがワークですか（笑）。

ターザン　ただ、その根のところには真実を求めているんだよね。0.1%の真実が心の中にある。しかし、それを出したいけど、できない。これは現代人の一番深い悩みだよ。でも、俺はその中の秘かな真実に出会いたいと思って通ってるわけよ。

豪　ワークに付き合いながらも（笑）。

ターザン　ワークに付き合いながら、ワークを楽しみながら、ワークで盛り上げて宴会にするというね。何か知らないけど、真実の心の結びつきがあるんじゃないかと。俺はこれに賭けているんですよォォ!!

豪　シュートを仕掛ける隙を探しているというか（笑）。

ターザン　キャバクラはワークでいいんだよ。もちろん、ワークなんだよ。けっこうじゃないの！　それを楽しもうじゃないのというのがWW

20世紀最後の無礼講大放談!!

ターザンの21世紀への大提言
「キャバクラには0.1ミリの真実がある!! そこに幻想と真実を見ろ!!」

Fでしょ。だけど、女の子の中には、夜にああいうことをやってる中で、「いや、私は真実を求めてるの」という本音がチラッと出てくる。それがいいわけよォォォ。

山口 ガハハハハ! 「プロレス」の真実は、キャバクラにあり。

ターザン そう! それがわかるのが本当のプロレスファンですよォォォ! そのワークの中に見るんだよ、最後に幻想と真実をね。

豪 さすがキャバクラ王だなあ(笑)。

ターザン 俺なんてこの前なんて凄かったもんな(胸を張って)。

豪 なんですか!?

ターザン アレクと取材で一緒にキャバクラに行ったんだよな。アレクは、女の子が付いてるのに女の子としゃべらないで、俺がパーッと面白いことしゃべってるのを聞いてるんだよ。「お前、女の子としゃべろ」って言ったよ。女の子に対して失礼ですよ〜。

山口 アレクもシャイだからね(笑)。

ターザン それで、俺に付いた女の子が、大阪出身で学生なんだよ。そんなに綺麗じゃないんだけど、愛嬌があるからパッと意気投合したわけ。俺が最後に、「君は20歳で俺は54歳になるけど、男と女には年齢差は関係ない」と言ったんだよ。

山口 ガハハハハ! 仕掛けるなぁ(笑)。

ターザン 更に! 「パッとわかりあえた瞬間に年齢差なんて一気に縮まる。これは凄いことだ。俺は君を気に入った」って言ったらね、その子が「年齢差なんて関係ない。同じ時代に同じ空気を吸ってんだもん」って言ったんだよ。俺、痺れたね〜。まさかキャバクラで「同時代人である」というような言葉を聞くとは思わなかったよ。それを言ったら彼女がまた言うんだよね。「もしここがアメリカの社会だったら、この場で私は立ち上がって、あなたに抱きつくだろう」ってね。参ったよ〜。痺れたよ〜。「この場で私は立ち上がって、あなたに抱きつくだろう」ですよォォォ。

豪 その子は見事なワーカーですね(笑)。

ターザン ……エッ!?

山口 一流のワーカーですよ(笑)。

ターザン (本当に驚いた顔をして)そうなの!?

豪 物凄いバンプ取ってますね、その子は(笑)。

ターザン カーーーーーッ!! やられたな!

山口 ガハハハハ! 山本さんが真っ先に騙されてるわけです(笑)。

ターザン いや、これは闘いがエスカレートしていくとテンションが上がって凄い闘いになるじゃない。「プロレス」の試合と一緒になった。この技にいったらこう返すというさ。"20歳の女の子がそこまでするか"っていう話だよ。それでその子から電話が掛かってきて、俺、誰だかわからなかったから、「あんた誰?」って言ったんだよ。

豪 ダハハハハ! 「あんた、誰?」。

ターザン そうしたら何て言ったと思う? 「同時代人だよ」って言ったんだよォォォ(バンバンバン)。

山口 それで、また痺れたんですか?

ターザン また、痺れたよォォォ! そんな受け身取るかってね。

山口 やっぱり最終的には、受け身なんですね。「受け身」=「言葉」(笑)。

豪 ワークには「言葉」がなければ成立しない。

ターザン そう。「言葉」が豊かにするんだよね。長州力も「プロレス」がわかってないんだったら、キャバクラに行けェェェ!

山口 言われなくても、行きますよ、きっと(笑)。

ターザン キャバクラでは、まず面白くするんですよォォォ! 楽しく面白い空間を作って、その中に、ビビッと通じ合うモノがあるわけ。プロレスラーだって、パッと始めに向かい合って、その相手の性格とか、その日の気分とか、技術を読み取らなきゃいけないでしょ。いかに早く読み取れるかによって「いいプロレス」ができあがるかに繋がるわけ。キャバクラだってそうだよ。俺、女の子来たらすぐにチェックするから。「お前、年いくつだ?」と聞いて「21歳」とか言ったら、「お前サバ読んで、本当は24歳だろう」とか、「お父さん、お母さんマトモか?」とかね。

豪 そんなとこまで聞くんですか(笑)。

ターザン 俺は聞くよ。ほとんどマトモじゃねぇーもん。おばあちゃんに育てられたとか両親の仲が悪かったとかね。「お前、親父いくつだ?」って聞いたら、いつも俺より年下だもんな(しみじみと)。

山口 キャバクラの女の子にも闇があるわけですね(笑)。

ターザン いまの女の子に話を聞いていると、透明なものの向こう側に闇が見えるよ。

山口 透明な闇!

ターザン そう。でも、本当に見えるんですよォォォ! 結局ね、悲しいかな、いまの子にはみんな自由がある。でも、それは勝ち取ったモノではなくて、与えられたモノなんですよ! つまり、その自由は浮遊しているんだよな。自由というものは最後は絶対にどこかに着地しなければいけないわけ。でも、その人生の着地点がないんだよな。人生の着陸地点がないから浮いたままなんだよ。昔だったら人生の着陸地点がセッティングされたわけ。結婚だ、仕事だってね。でも、現代社会はそれさえも浮遊してるんだよ。男にとっても女にとっても物凄く悲しい時代だよな。宙ブラリンという自由を与えられているのに着地できないというね。それで、アッと思ったら28歳になり30歳なんだよ。これは悲しいですよ〜。

豪 山本さんも、けっこういま宙ブラリンですよね?

ターザン ……………。俺の宙ブラリンは豊かなわけですよ!

豪 ダハハハハ! なるほど。でもなんで、山本さんが2回も結婚できたんですかね?

ターザン ……………。魅力的だからですよ。

豪 なるほど! 目からウロコが落ちました(笑)。

山口 全国1千万人の読者の皆様、ターザンは、このように、実にいい加減な男です(笑)。誰もそれを言わないんだよ、声を大にしてさ(笑)。

豪 いい加減な人だって知ってれば、みんな怒らなくなりますよね。

ターザン いや、ホント、しゃべったあくる日には、な〜んも覚えてないよ、俺。

山口 ガハハハ。でも、桜庭を見ればわかるように、いい加減になれるというのは才能がないとできないことですからね(笑)。

ターザン クーッ、いいこと言うねぇ。俺は21世紀も、行き当たりバッタリで行きますよォォォ。その方が面白い!

山口 というわけで、『紙プロ』も見習って、21世紀も行き当たりバッタリでいきます(笑)。ということで、忘年会、おしまい!!

【11月19日・東京大飯店にて収録】

"いつ何時臨戦体勢"のUFO村上一成がラッパーのRIMちゃんと電撃入籍を発表、ファンを驚かせたが、その直後に村上は元AV嬢の青山ちはるから「奔放な性生活&借金踏み倒し」を『フラッシュ』で告白されるという、とにかく凄ぇスキャンダルが勃発した！「おい、村上、おまえ遊んでるか?」（byアントン）。さて、正解はどっちだ？

村上ーッ！スキャンダルなんてどうってことねぇよ!!

構成／松澤チョロ
text by Choro Matsuzawa
撮影／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku

"UFOのテロリスト"こと村上一成(27)が掟破りの逆テロリストにあった。俗に言うスキャンダル発覚である！

今回、村上との関係を告白したのは元AV嬢の青山ちはるさん(33)。11月14日発売の写真週刊誌『フラッシュ』で青山嬢はテロに至った理由を次のように語っている。

「貸した金は返さないし、『新しい家で一緒に住もう』と言っておきながら、いつのまにかほかの女と入籍するなんて許せない」「ずっとウチにいて、表に出るまでの約2週間は毎日、私とHしてました」「エステティシャンの女性や40過ぎのパトロンおばさんがいたり、4股掛けられてたこともわかりました」

どーですか、お客さん？ そして極めつけはこの発言だ！（女、子供は目を閉じて）。

「彼はまるで、盛りのついた犬みたい。1回につき3時間も入れっぱなしで、しかもそれを1日3～4回求めてくるんです。大きさもテクも、相当自信があるみたいでした」

これらの発言で「村上はサイテーの男だ」との声が女性ファンを中心に出てくるかもしれない。しかし、逆に男性からは「それでこそプロレスラー」「人の誠意を踏みにじる覚悟こそ猪木イズムだ」「元AV女優からお褒めの言葉を頂いた村上は凄い！」「元気ですねーッ！」といった声が沸き上がっていた。

これらの告白について、村上は「遊びの部分は確かにあったが、お金の件に関しては事実無根です」と、付き合いがあったことは認めたが金銭問題についてはこれを否定した。

そんなスキャンダルの真っ直中で迎えた11・26バトラーツ駒沢大会。メインで村上と闘った石川は「立会人」として、な、なんと渦中の青山ちはるを引き連れ入場。村上は動揺したのかどうかはわからないが、石川に絞め落とされ失神KO！ 試合後、青山ちはるについて聞かれると、「アウト・オブ・眼中!!」と一言吐き捨てると控室へ消えていった。

今こそ村上には師匠アントニオ猪木の言葉を噛みしめてもらいたい。「スキャンダルを経営に結びつけられない経営者は失格だ！」。これを選手に置き換えると「スキャンダルをプロレスに結びつけられないプロレスラーは失格だ！」ズバリ言ってそういうことである。

青山嬢は「ふざけるなと言いたい。思い出をAVで再現します！」と村上へのリベンジを宣言し、AV再デビューを決意したという。どんな怒りの表現だよ、と思ってしまうが、青山嬢は今回のスキャンダルを商売（＝プロレス）に結びつけようとしている。

一方、駒沢大会を観戦した村上夫人RIMちゃんは、立会人の青山嬢を見て「なんで水着とか着てこないの？ もっとWWFみた

同棲→借金踏み倒し村上一成に元AV嬢激怒

これぞメジャーの証明!? 村上一成&『紙プロ』（ちっちゃく）が『フラッシュ』デビュー！ 元AV女優でラッキー池田の元妻でもある青山ちはるが、女性ラッパーRIMちゃんと入籍したばかりの村上との性生活を赤裸々に『フラッシュ』誌上にて激白！

11・26駒沢に渦中の青山ちはる登場

スキャンダルを経営に結びつけられない奴はバカだ！ ンムフフフフ

いにアピールすればいいのに。私もリングに上がって掴み合いのケンカすれば良かった」と、今回のスキャンダル発覚を〝どうってことねぇよ〟精神で堂々と切り返してみせた。

まさに女は強し！　さて村上はスキャンダルをどうプロレスに結びつけるのだろうか？『PRIDE・10』で佐竹に敗れ、リング上での怒濤の暴れっぷりとは裏腹に、村上はここのところ結果を出せず、もがき苦しんでいる状態だ。

村上よ、何度でもブチ込め！　強い女には強い闘いがよく似合う！　やりますかーッ！

駒沢大会での石川社長との一騎撃ち。社長の入場テーマが突然鳴り止み、特別立会人・青山ちはる嬢がコール！　ホ、ホ、ホントに本人登場！　社長の情念と青山ちはるの怨念が村上を襲い、絞殺刑へ！　ジ・エンド！

石川が「立会人」青山ちはるを連れて挑発するも、完全に戦闘モードに入った村上はまったく動揺せず。開始早々、村上は強烈な打撃で石川をリング下に叩き落とすも、最後は石川の情念スリーパーで失神KOとなった。

というわけで村上＆RIMちゃん、ご結婚おめでとうーーッ！

チェック・イット・アウト！　10月26日、村上一成と電撃入籍したRIMちゃん（日本初の女性ラッパーとしてメジャーデビューを果たす）。大のプロレス＆格闘技ファンのRIMちゃんがパーソナリティを務める音楽番組「ROCK' N　EXPLOSION」のゲストとして村上が出演したことが2人の最初の出会い。逢った瞬間に勝手に愛を感じた村上が猛烈アタック！　相変わらずの暴走振りにRIMちゃんも根負け！　好きな格闘家はアントニオ猪木と破壊王・橋本真也。着メロは破壊王の入場テーマと、トンチも利いてるラッパーである。

ヒャッ!! まさに世紀末 キムタクに続いて あのShow氏がパパに!!

のっけから断言するが、目を背けたくなる、センス皆無のプリクラ（右）である（Show氏調）。このカップルの男性の方は、いつ何時でも黒ずくめの格好で、根っからの長渕剛好きとして知られている、『SRS・DX』他で大活躍中のShow氏（無所属＝32歳）。そしてその隣で、はにかんだ笑顔を浮かべているのがM・Iさん（30）だ。

一部専門誌等では報道済みではあるが、あのShow氏がキムタクに続きできちゃった婚（？）来年にも結婚する意志があることが判明した。しかも、既に小学二年生になる子供までいるというから驚きである。一体、どんなモノ好きな女性なのか、アントンと佐竹の合同特訓取材のためパラオに旅立つShow氏を成田で直撃ドキューン！

いきなり親父になるそうだけど結婚はホント？

上は授業参観出席時の一枚。安生の前田襲撃事件の際、笑顔を浮かべ業界の話題となったShow。11月になると何かと話題を振りまく

「結婚は来年を予定してて、まだ分かんないですけど、4月1日（エイプリルフール）がいいんじゃないかと思ってるんですけどね（笑）。相手ですか？　一応、一般誌のライターなんですよ」

なぬ？　ライターってことは同業者？

「いや、ボクはライターじゃないんで。ボクは世迷い人ですから（笑）。それに子供っていっても、ボクの子供じゃないんですよ。いま8歳なんですけど。でも、バツイチじゃないですよ。未婚の母だから結婚はしてないんですよ。こういうこと言うと怒られちゃうんですけど、彼女はまあまあ可愛い子だとは思ってるんです（とニンマリ）」

一部で偽装結婚説も浮上してるけど、どうよ？

「いやいや、彼女に『子供がいるんです』って聞いた時に凄い幻想が沸いたんですよ」

でも、この2人はどこで知り合ったのか。インターネットの出会い系サイトか、テレクラか？

「違う違う。全然そうじゃない。でも、出会い系サイトも見たことはありますけどね。知り合いに、ある出版社の編集の女の子がいまして、その子の友達のライターがウチの彼女なんですけど。ボクはね、彼女の旦那になりたいというよりも、その子に『男ってのはなあ……』ってことを知ってほしいんですよ。だって、今の子は全般的に生意気ですからね。あんまりナメたこと言ったりしてると、ハタキますよ、実際。世の中の皆さん、たとえ他人の子だろうと、ナメたことをやってたらハタキましょうね。まあ、ホントは自分の子供も作りたいですけど……彼女がまだ仕事をしたいみたいなんで。ボクはマジで子供大好きですから！　子供は凄くカワイイ！　目の中に入れても痛くないって気持ちが何となくわかるもん！」

M・Iさんは、一体、この男のどこに惚れたのだろう。ズバリ一番興味のあるところだ。

「彼女が言うには、面白いところ。面白いらしいですよ、ボク（笑）」

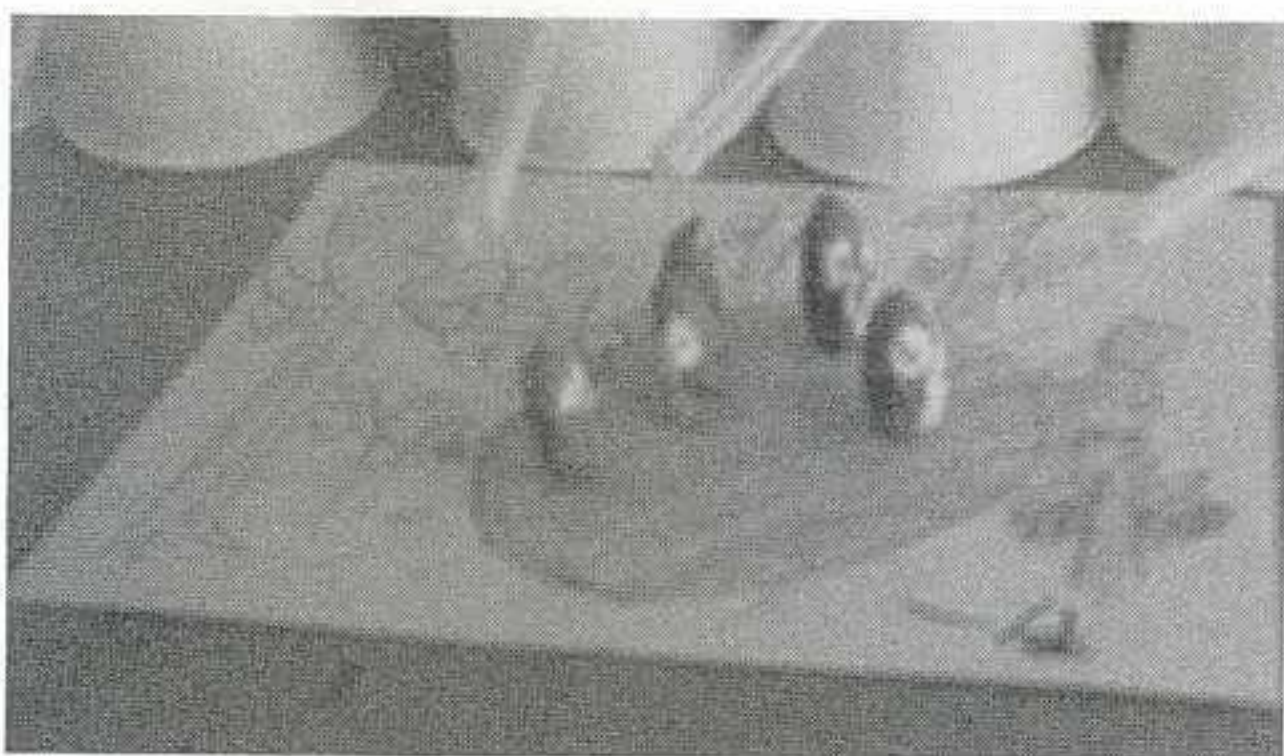
寝言は寝て言えー！

「ああっ、そっかぁっ!!　ただね、彼女は珍獣好きなんだと思うの。エリマキトカゲとか。彼氏としていいとかじゃなくて珍獣を見る感覚で面白いって。あとボクは猪木さんの影響もあって、ダジャレを言ったりするわけですよ。猪木さんから直接聞いた『元も子もなく皮だけ残った』とかああいうのを（笑）。そうすると心が洗われるみたい」

洗われますか！　ちなみに、今回のこの企画はShow氏本人からの売り込みだったりする。

「『紙プロ』に載せてもらいたかったのは、リングス、前田日明さん界隈のファンの方々に、というと変ですけど『SRS・DX』はリングスから取材拒否されてるんで、山口さんにお願いして、誌面を割いていただいて、ご報告だけさせてもらいたいなと思ってたものですから」

ご、ご報告ですか!?　一応オメデトウとは言わせていただきますが、お子さんに「こんな大人にだけは、なっちゃダメだよ」とお伝え下さい。

「ヒャッ!?」

Show氏の子供になる予定の子が作った作品。パラオから「今回もヤリ特訓？　ヤリきれない」と新鮮なアントンギャグFAXが届いた

本誌スーパーバイザー 吉田豪 あのジャイ子と熱愛発覚!?

Show氏の結婚が発覚した直後、あのジャイ子と吉田豪の間にも熱愛発覚!?　吉田豪がジャイ子にテープ起こしのひどさと、ついでに性格のひどさも指摘すると、ジャイ子は「私がこんな性格になったのは吉田さんのせい。責任取ってよ！」。「どう責任取んだよ！」と吉田豪。「そんなの結婚に決まってんじゃん！」。さすがの吉田豪も絶句。21世紀ふたりのできちゃった婚はあるのか？

こんどは藤田だ！

次から次へと単行本を出しまくる〝Show〟大谷泰顕氏。今回は藤田和之初の単行本、その名も『野獣降臨』だ！　新日本から『PRIDE』へ活躍の場を移した野獣が激動の1年間を余すことなく語り尽くした1冊。発行＝メディアワークス

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

〈中島らも著〉
〝クマと闘ったヒト〟（メディアファクトリー）で
業界に爆弾を落下した
あの男が紙プロ登場!!

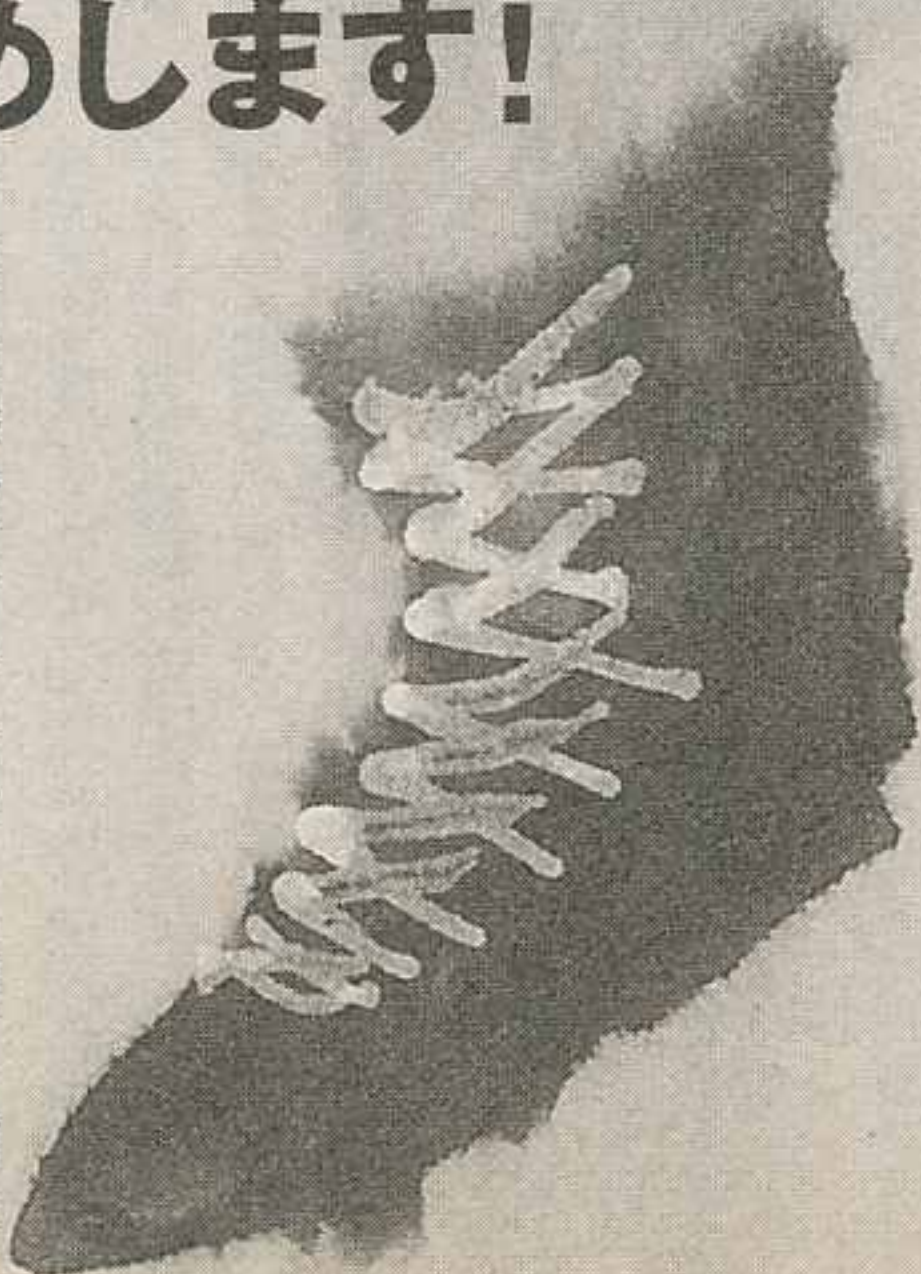
リアル人間爆弾発言

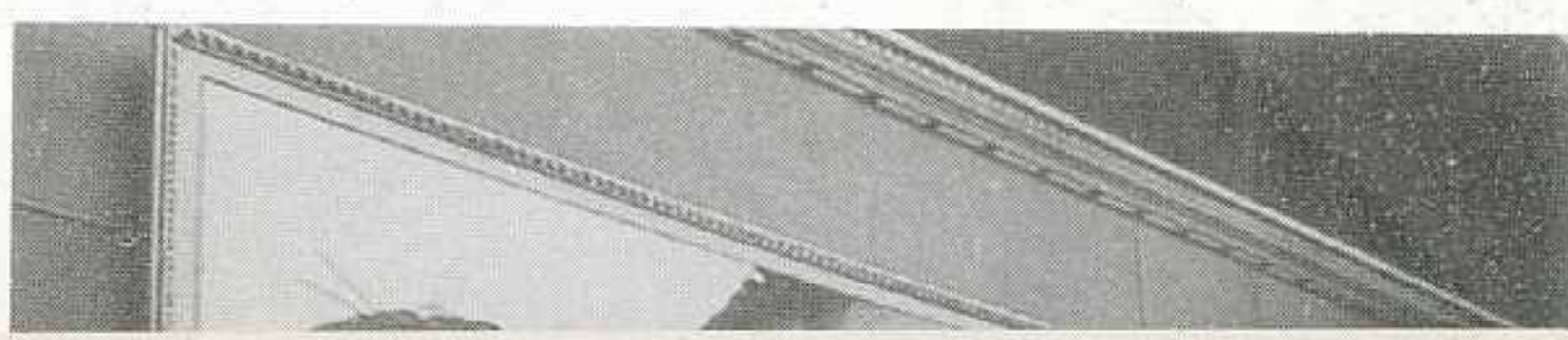
ミスター・ヒト 前編

聞き手／吉田豪
interview by Go Yoshida
構成&撮影／坂井ノブ
text & photographs by Nobu Sakai

「話半分、落語半分」(by水道橋博士)で読むことをお薦めします！

本誌・吉田豪が脚注を務めた中島らも著『クマと闘ったヒト』（メディアワークス刊）は、業界内外に様々な波紋を呼び起こした今年最凶のインタビュー本である。日本プロレスOBだけにその言葉には、重みも深みもあったのだが、その過激で赤裸々すぎる言いっ放しトークは読む者の背筋を凍らすには十分な危険な内容だ。担当編集者がプロレス業界の掟を知らなかったが故に誕生したこの奇跡のプロレス本の打ち上げパーティーで実際にヒトに合い、その怖いもの知らずなトークにすっかりシビれた吉田豪のお墨付きもあり、『PRIDE.11』の翌日、大阪にあるミスター・ヒトが切り盛りするお好み焼き屋「ゆき」に突撃取材を敢行してきた。この伝説の男のファンタジー溢れる昔話を信じるも信じないもアナタ次第！ さあ、ページをめくれ!!

『クマと闘ったヒト』は全国書店で絶賛発売中!!

題字イラスト／五木田智

すべてはカルガリーから始まったんだよWWFも日本もね！

――（店に入り）失礼しま〜す！『紙のプロレス』の者ですけど……。
ヒト あっ、いらっしゃい！
――ヒトさん、昨日の『PRIDE』を観に来るって事前に言われてましたけど、会場にはいなかったですよね？
ヒト うん、観に行かなかった！ あんなもん、結果わかるじゃない（笑）。
――ダハハハハ！ 観ないでもわかっちゃいますか（笑）。
ヒト それにグレイシーも出てなかったから見に行かなかったよ。『PRIDE』も、ヒクソン（・グレイシー）とかグレイシー一族を1人か2人くらい興行に入れなきゃダメだよ。でもギャラが高いでしょ、ヒクソンなんて。まあ、その分猪木さんがお金を取れるからいいんやろうけどね（笑）。
――また大晦日に大阪ドームで猪木プロデュースの大会があるんですよ。
ヒト 何やるの？
――『PRIDE』の選手たちによるプロレス大会みたいなんですけどね。
ヒト へえ、そうなんだ。でも、そこで新日本みたいなプロレスやったら、新日本には絶対勝てないもんな。
――新日本に勝つには、バーリ・トゥードをやらないといけない、と。
ヒト そりゃそうだよ。それじゃ何も変わらないじゃない。あの桜庭（和志）も強いけどな。でも、ヒクソンとやったら負けると思うよ。
――あっ、負けちゃいますか!?
ヒト 負ける（キッパリ）！ でも、他のグレイシーには絶対負けない。ヒクソンは達人だもん。あれには誰がやったって勝てないんだよ（キッパリ）。
――以前、ヒトさんは「ヒクソンに勝つには相撲部屋に行け！」と言われてましたよね。それは、どういうことなんだろうって気になってたんですよ。
ヒト 相撲にはやっぱりパワーがあるから。ヒクソンをやっつけるには短い間にグシャッグシャッてやっつけないと。絞めにいくとかじゃなくて、バーンといってガーンとやらないと！
――なるほど、バーンといってガーンですか（笑）。
ヒト （おもむろに立ち上がって実演しつつ）ヒクソンが（脇に）差してきたらギャーッとやってガーッと（カンヌキ）ね。80何キロしかないんでしょ？ 腕なんかすぐ折れるって（笑）。
――折れますか！ つまり、とりあえずパワーで圧倒しろ、と（笑）。
ヒト それでなきゃ勝てないよ。ヒクソンはアマチュアレスリングやってるからバックを取らせないし、逆にバックを取るのは上手いからな。あんなもんラッキーパンチも滅多に入らんよ。
――そんな相手を倒すためには相撲部屋に行かなきゃダメだと（笑）。
ヒト バーリ・トゥードで闘うプロレスラーは、みんな力任せに絞めようとするから、絞める方が筋肉がバンバンになるのよ、そうなると疲れて手も上がらなくなるから。石沢（常光）がそれなんだよ。極まるわけないの！ 自分がやられるの恐いから、ついフロントチョークやっちゃうんだよね。それを向こうは待ってるんだよ。
――その戦略は上手いですよね。
ヒト なんでも「遊び」がないとダメなの。車のハンドルと一緒でさ。ヒクソンなんか「遊び」がいっぱいあるもの。そして「ここだ」と思ったときだけ力を出すでしょ。あれは特別だね。
……それはそうと、何か食べる？ お好み焼き、どうだい？ ビール飲む？
――あっ、いただきます！
ヒト じゃあ、ちょっと待っててね（と、支度に向かう）。

カルガリーが生んだ世界的なスーパースターがダイナマイト・キッドとブレット・ハートの2人だ。ヒトがプロレスの手ほどきをしただけに、その開けっぴろげな姿勢にも納得。衝撃作『レスリング・ウィズ・シャドウズ』の源流はヒトだった！

――（カウンターの上にサインを見つけ）あのサインは誰のですか？
ヒト ブレット・ハート。いい選手やったけどな、ブレッドも辞めるんだって？
――脳しんとうの後遺症が消えなくて、引退するみたいですね。ヒトさんは、ブレット・ハート主演のドキュメンタリー映画はご覧になりましたか？
ヒト 何も知らん。プロレスラーって辞めたら、みんな映画の方に行くなぁ。
――いや、それがじつはブレッドのWWF時代の内幕を描いたドキュメント映画なんですよ。試合の仕組みからリハーサルの模様から舞台裏の揉め事まで収録してるから、一部で大騒ぎになってるんですけど。それがきっかけになって「プロレス界の裏側を出すのは是か？ 否か？」みたいな論争も生まれつつあるんですけど。ヒトさんとしてはそういうものも「出しちゃえばいいじゃん」って感じなんですよね？
ヒト うん。ある程度まではいいと思うんけどね。特にWWFのようなプロレスだったらいいけども。ただ、プロレスを潰すようなこと言ってたら、レスラーとしてダメ！ プロレスでトップ取って金稼いだんだから。まあ内容見なきゃわかんないけど。そこまでやったら、プロレス界からも離れなきゃならないし。
――内容を見る限りは、まあ一線引かれてるとは思うんですよ。プロレスを貶めるような内容ではないですから。
ヒト まあ、彼は頭いいからね。
――例えば、パンチやキックでも「オレは当てないけれども、上手いだろ。それがプロレスなんだよ」というような感じなんですよ。
ヒト うんうん、オレと似たような考え方だよな（笑）。
――そうですよね（笑）。カルガリーでプロレスを学んだ人は、けっこうそういう割り切り方しますけど。
ヒト 彼はオレと似ているところがあるの、オレが教えたから（笑）。もうプロレスやめようと思ったから、いろいろしゃべってるんだろうけど。
――ああ、なるほど。

ヒト　プロレスっていうのは受けてナンボだから、それをいかにやるかっちゅうことなのよ。だから、あの本（＝『クマと闘ったヒト』）のプロローグで、中島らもさんがリング上での流血のしかたを「ミスター・ヒトはすらすらと淀みなく答えてくれた」って書いてたでしょ。

——書いてましたね（笑）。

ヒト　だからあれはね、人によって受け取り方がいっぱいあるんだけど、オレが言ったのは、こういうことなんです。「流血するような試合してくれ」ってプロモーターから言われるでしょ？　試合の序盤に血を出す場合は、体が暖まってないとバーッと血が流れないから、水をコップ2杯ぐらい飲んで、逆立ちして腕立てとかやって、ガーッと体を血のめぐりを良くしてから試合をする場合もあるわけ。だいたい、序盤に血が出なかったら試合が盛り上がらないじゃない？

——つまり盛り上げるための流血、と。

ヒト　そりゃアメリカの話だからね、そういうことはいっぱいありますよ。そんな話をしたわけですよ。いまプロレスやってるヤツが潰れるような話はしてないから。でも、それを「安達さん（ヒトの本名）、そこまで書いたら駄目ですよ」って言うてくるヤツがいるんだよ。

——まあ、気持ちはわかりますよね。

ヒト　とくにプロレス関係者が言ってくるの。みんな知ってるくせに！　新聞社のヤツとかな。「お前、なに言ってんだ！」ってことだよ。考え方は一つなんだから。アメリカの場合は、興行の流れがあって、先々のビッグマッチのために予告編をやってるんだもん。レスラーもみんな文句言ってますよ。でも、幸いなことに日本では血の出るような試合はないからね。それに、あれは過去の話やから。そういうことなら言えるわな。

——あの本は正直言って、かなり踏み込んだことまで書いてますよね。

ヒト　踏み込んでる、踏み込んでる。でもね、プロレスは他のスポーツと違うの。世界各国で全部違うしね、ヨーロッパはヨーロッパのスタイル、それからメキシコはメキシコのスタイル、アメリカンはアメリカンプロレスがあるから、全部違うんだよ。

——日本も独自のスタイルですよね。

ヒト　それでアメリカンプロレスも根本的に変わってきたけれども、これだけは言っておく！　すべてはカルガリーから始まったもんだから！

——カルガリーからですか！

ヒト　そうだよ！　カルガリーから始まって、カルガリー出身のヤツがいまトップを取ってるよ。WWFでトップを張ってるのはカルガリーから日本来て大きくなったヤツばっかりでしょ。

——いわゆるブレッドやオーエンのハート一家が、まずそうですよね。

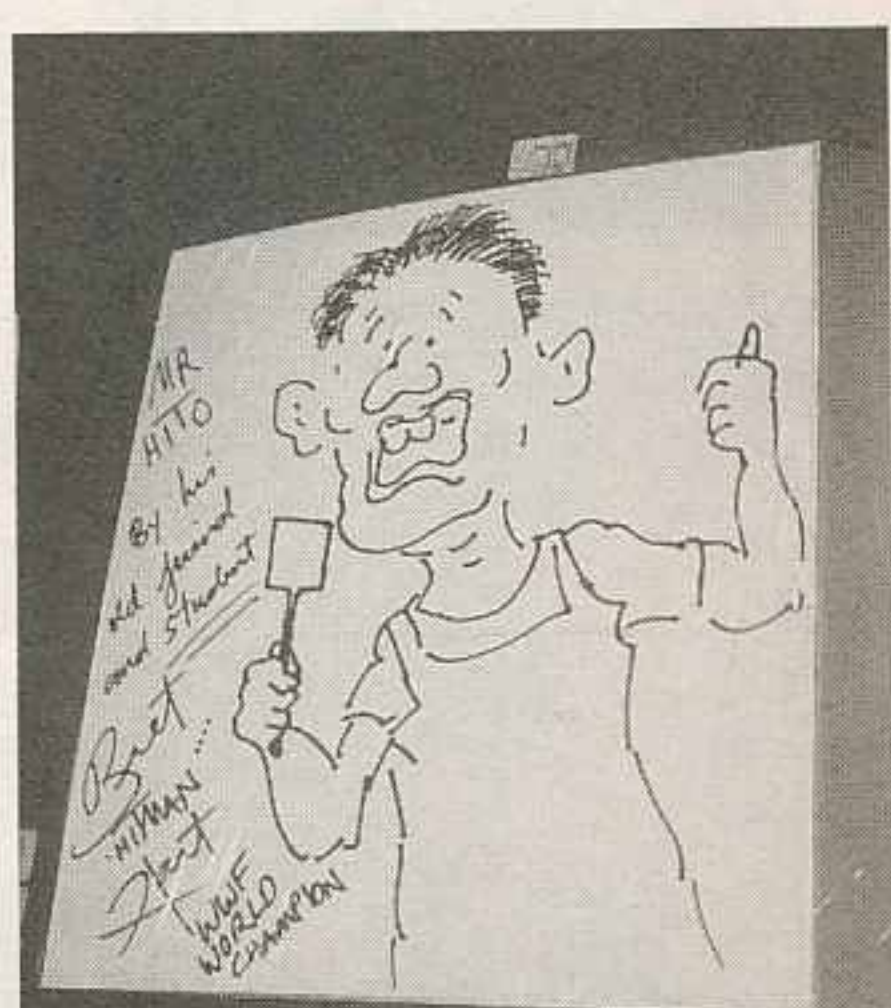
ヒト　他にも、ダイナマイト（・キッド）、デイビーボーイ（・スミス）も、みんなそう、クリス・ベノワとかライオンハート（＝クリス・ジェリコ）とか、結局カルガリーにいたヤツやんか。

——ジェリコとベノワなんか、いまやWWFのメインイベンターですよ。

ヒト　日本の連中だってそうだよ。馳（浩）がなんでいいかっていったら、カルガリーで覚えたことを日本のスタイルとミックスしたからだよ。

——そういえば、このまえ馳さんが日本デビューする前のカルガリー時代の試合をケーブルテレビでやってたんでけど、ムチャクチャ上手いですよね。

ヒト　そりゃ上手いよ！　当たり前だよ！

——ビックリしましたよ！　あの流れるような動きは凄いなあって。

ヒト　もう水が流れるようにいくでしょ？　昔あんなレスラーが一人だけいたんだよ、アメリカに。

——誰ですか？

ヒト　パット・オコーナー！

——ああ、そうでしたかぁ！　じつは昨晩、ボクらの仲間でパット・オコーナーは凄いから再評価しないといけないってって話をしてたんですよ（笑）。

ヒト　うん、パット・オコーナーは素晴らしい。だいたい水っていうのは高いところから低いところに流れるわけでしょう。たまに逆流もするけど。逆流する時なんかはガーッていくでしょ。ホントに彼は水が流れるようなレスリングだったね。オレがプロレスを覚えたのはパット・オコーナーとやったからだよ。

——あっ、そうだったんですか？

ヒト　日本である程度は覚えたけどね。アメリカのカンザスシティに行って、幸いなことにパット・オコーナーと2ヶ月ぐらい興行を一緒に回って、いろいろ教えてもらったよ。最後の方には、もうオコーナーの顔を見てるだけで次何するかわかるようなったから。ものすごくやりやすいんだよ。

——スイングしまくるんですね（笑）。

ヒト　殴るのでも、7つぐらい違うパンチを使うわけよ。いろいろ違うんだ。それからヘッドロックを取ったらビシーッと極まるしね。それを45分もヘッドロックとってるんだよ（笑）。

——疲れちゃいますよねぇ（笑）。

ヒト　腕がパンパンなるんだけどさ、それでもレスリングを覚えていくから楽しいわけ。オコーナーから教わったことをその通りに馳に教えてね。馳なんかは基礎をちょちょっと教えただけで、あとは自分で考えてやるから。

——馳さんは頭いいですもんね。

ヒト　プロレスが上手くなる奴っていうのは自分で考えるものなんだよ。ほんで、辞めるまでやっぱり考えていかなきゃ。だからプロレスの上手い奴は、ドンドンドンドン上手くなっていくよ。ところが、なんて言うんかな、いまのプロレスは考えていないヤツが多いんだよな。

——えっ、どういうことですか？

ヒト　（載せられないような話をした後）結局、アクシデントがないわけよ。

——つまり、アドリブ性とかが足りないってことですか？

ヒト　アドリブっていうよりもアクシデントだな。アクシデントがなかったらプロレスは面白くないんだよ。ところがいまのヤツは、アクシデントがあると修正しようとするから、おかしくなるわけ。わかる？

——ええ。言わんとしていることはなんとなくわかります（笑）。

ヒト　そもそもプロレスっていうのは、試合を作っていくものなんだよ。だから、プロレスってのは最高のエンターテインメントなの。たとえ「八百長！」とかいう声が出てもね。相手が次に出す技なんて、相手の顔を見てたらわかる。だからプロレスラーっていうのは相手の目を見たら、次は何をやるかわからなければダメなの。

——なるほど。オコーナーと馳さん以外に、そういうセンスを持ったレスラーはいませんでしたか？

ヒト　そうだなぁ、桜田（ケンドー・ナガサキ）なんかも、あの人はちゃんと試合を作っていく人なんだよ。それが一番いいのよ。闘ってる姿勢が一番見えるし。

——そういうような「闘い」の要素が少なくなってきて、いまのプロレスがダメになりつつあるわけですね。

ヒト　だから元に戻らなきゃいけない部分があるんじゃないの？　だってしょっぱなから、飛んだり跳ねたりして。それを誰も文句言わない

んだもん。昔、オレが新人の頃なんか巻き投げしただけで怒られたんだから。もうね、ヘッドロック取るしかないの。だから蹴っ飛ばすときは思いっきり蹴っ飛ばしてたもん。オレは右利きだから、右足の革靴すぐに穴あいたよ。

——ダハハハ！　蹴り過ぎて（笑）。

ヒト　蹴り過ぎて、新品なのに2ヶ月ぐらいで。いまのプロレスラーは5年履いたって、穴開かないだろ（笑）。

——いきなりですけど、馬場さんもそういうプロレスは巧かったんですか？

ヒト　向こうでトップを取る連中っていうのは、相手の顔を見ただけで相手の技が読めるっていうのはもちろんなんだけど、なおかつお客の顔、目を見てるんだよ。馬場さんっていうのはそこが素晴らしい人だったの。

——なるほど、それで観客の心をしっかり掴んじゃったんですね。

ヒト　アメリカのプロレスはTV中継が発達してたからね。当時でも4台のカメラを四隅のコーナーポストに据え付けておいたんだよ。で、どのカメラが映してるかは上に電気がつくからわかるわけ。リング上で闘うプロレスラーは、それ見て試合しなきゃだめなの。

——カメラ目線で試合する、と（笑）。

ヒト　そう。そこらへんがものすごい難しいのよ。でも、馬場さんはそれがみんなわかってた。だからアメリカで日本のレスラーが上で使ってもらえないのはそこなんですよ。わからないから。英語もわからないし。

——ええ。インタビューで喋れることも重要なんですよね。

ヒト　それ以外に、リング上でもね。オレなんかすぐ英語覚えたもん。だからすぐ上をとれたし。

——ちなみに、やっぱりケーブルテレビでヒトさんの試合を初めて見たんですよ。カルガリー時代のバトルロイヤルで、最後はアンドレ（ザ・ジャイアント）と（ケンドー）ナガサキさんと3人残るやつでしたけどね。

ヒト　ああ、そう。あの頃はアンドレが来る時はオレがどっかのタウンにいると、アンドレのプロモーターから電話がかかってきて「来てくれ」って言われてたのよ。

——アンドレのお気に入りだったんですね（笑）。

ヒト　そうや。「ヒールにはミスター・ヒトと誰々いる」って言ったら、アンドレも「行く行く」って言うんだから。オレはそれぐらいアンドレと試合やったときは楽しくお客を喜ばせたよ。

——ボクが見た試合でも、ナガサキさんとヒトさんがどれだけ技を仕掛けてもアンドレは動じないで、一方的に2人セットで吹っ飛ばすっていう展開だったんですけどね（笑）。

ヒト　（自慢げに）みんなオレがそういうふうに仕向けたの（笑）。

——ダハハハハ！　また、ヒトさんはやられっぷりがすごくいいですよね。

ヒト　（嬉しそうに）そうでしょ？　そりゃアンドレも喜びますよ。

——すごい吹っ飛び方でしたよ（笑）。

ヒト　アンドレにあんなやられ方すんのいないよ。いまのレスラーだってあんなパーッて飛べる奴いないよ。

——ええ、ホントそう思います。

ヒト　あの頃のカルガリーで試合やってたブレット・ハートとかダイナマイト・キッドの試合だって、凄くレベルが高いからね。あいつら、プロレスラーになってから間もない頃なのに、ちゃんとしたレスリングしてるでしょ。いまの日本の連中よりよっぽど上手いよ！　だからキックでもパンチでもね、お客が見て本当に「ワーッ、スゴイ！」っていうパンチとかキックとかしろっていうんだよ！

——それがブレットの言う、芸術的なパンチなわけですね。

ヒト　そう。でも、日本ではみんなそれを教えてないから。いまのプロレスより、カルガリーのプロレスの方が面白いよ。スピードも速いし。あの剛竜馬でも、まあまあの試合してたもん。

——ダハハハハ！　剛竜馬でも（笑）。

ヒト　同じことばっかりやってんの、お客喜んでたからなあ。あんなもん50年前のレスリングだよ（笑）。

——「パンチ一発の凄さ」という意味では、キッドは凄かったですよね。

ヒト　パンチの一発一発に「このやろう、のばしてやろう！」ってのがあったでしょう？

——ええ。とんでもない迫力がちゃんとあって、しかも攻撃だけじゃくて受けっぷりも凄まじいし。

ヒト　そう、そう！

——キッドがデビュー戦の相手じゃなかったら、初代タイガーマスクも絶対あそこまではブレイクしなかったと思うんですよ。

ヒト　みんなそうですよ。藤波だって、コブラだって。ダイナマイトのお陰ですよ。いい根性を持ってるよ。いろんな意味でね。とにかく一生懸命なんですよ。そういえば、最近（在米の）オレの子供から情報が入ったけど、ダイナマイトの相棒だったデイビーボーイ・スミス！　あいつブタ箱入ってるらしいね。

——えっ！　何しちゃったんですか？

ヒト　嫁はんと揉めて。嫁はんはあのステュ・ハートの娘でね。まだ離婚はしてないんやけど、別居中だったの。そんで、電話かけて脅かして「ブッ殺してやる！」って言って。

——脅迫しちゃったわけですか。

ヒト　それがあんまりひどいから、警察呼んで捕まったらしいで。

——ついこの間まで、WWFに出てましたよね。

ヒト　そう。だけど頭が少しおかしくなってるんだろうね、ステロイドで。

——去年復帰してきたときは、筋肉もだいぶ戻ってましたけどね。

ヒト　だいぶね。でも前よりはちょっと小さくなってるでしょ。ステロイドやりすぎるとしぼむんだよ、みんな。日本だってステロイドやってるヤツは結構いるからね。

——うわっ！　なかなか実名出して言えない話でしょうけどね（笑）。

ヒト　オレな、今度『ステロイド物語』って本を出そうと思うんだよ（笑）。

——ダハハハ！　物騒な本ですねぇ！

ヒト　これ出したら、みんなワーッて大騒ぎになるで。

——「オレのこと出てるかな？」みたいな感じで（笑）。

ヒト　だから本当のことを、みんな言わなきゃだめなんだよ、プロレスラーっていうのは。隠し過ぎるわ。

——言っちゃいますか！　たとえば、Sとかもカルガリー行くと急激に身体がデカくなりますけど……。

ヒト　（載せられないような話をした後）選手の身体が大きくなるとDさんの手柄になるからね。あの人、教えるのは下手じゃないよ。下手じゃないけど昔は教えなかったのよ、オレがいたから。

——あっ、そうだったんですか？

ヒト　それで自分が教えたようにして手柄になってたのよ。オレはそんな文句も言わなかったけど。

——裏にはそんなカラクリがあったんですか（笑）。

ヒト　ところがいま、あの人はSから金もらってるから。Cとかはみんな切りたいらしいけど、Sさんは面倒見たら最後まで見る人だから、Sさんがいる間は月に××万とかもらってるんじゃない？　いまはカルガリーにプロレスがなくなってるから、カルガリーに行った選手はあそこでトレーニングして体を大きくするわけ。昔はDさんもカルガリーの選手を日本に送ったりしてたんだけどね。

——最近は外人選手を使わなくなっちゃいましたからね。

ヒト　オレは教えてた頃、「ステロイドは絶対打

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！　豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

店内には馳とヒトがファイトの１面を飾ったときの号が飾ってあった。

つなよ」と言ってたよ。恐さを知ってるから。それでもやっちゃうヤツには「1年やったら、1年やめるとか。調整しながらじゃないとダメだよ」って教えてたけどね。オレは「打て」なんて絶対言わないよ。なるべく打たない方がいいから。いっぱい見てきてるもん。仲のいい奴が死んだりさ。

――キッドなんか、いまは車椅子生活らしいですもんね。

ヒト　（寂しそうに）キッドなんかもう骨がボロボロでさ。筋肉が強くなりすぎて圧迫しちゃったんでしょ。だからステロイドは恐いですよ。

――アメリカでも、いまは追放の動きが出てきてはいますよね。

ヒト　なってるよ。でもプロレスだと、そうはいかないよ。ステロイドも処方箋があれば、入手出来るからね。ところがプロレスラーは処方箋も取らずにバンバン打つでしょ。だから、麻薬みたいになっちゃうんだよ。麻薬の一種だから、ステロイドは。

――ステロイドやめますか、それとも人間やめますか、になっちゃうと。

ヒト　あれはみんなに効くわけよ。目の悪い人はステロイドの軟膏で目が良くなるの。細胞を活性化させるものだから。ところがそれをやると、癌とかも血液の流れが良くなって、活性化しちゃうんだよ。

――病気も活性化しちゃうんですね。

ヒト　そう、すごく大きくなるよ。それで内臓がフル回転するでしょ。血液を体中をまわすのに肝臓、腎臓、膵臓、心臓から全部フル回転するから、どっかに負担がかかるわけ。どっかに歪みがあったら、そこに負担が集中してブッ壊れるのね。

――つまり諸刃の剣なんですね。

ヒト　でもな、日本の関係者はステロイドがどんなに恐いものかって把握してないよ。帰ってきて体が大きくなったで、それで商売になるって思ってる奴が多いもん。

――しかし、つくづくいろんな意味でカルガリーは面白いですね（笑）。

ヒト　ところで、オーエン・ハートの賠償裁判はどうなったの？

――和解したみたいですよ、20億円で。ちょうど今日の『大阪スポーツ』（＝『東京スポーツ』）に載ってました。

ヒト　はぁ～、20億！　そんなんWWFにしたら痛くもないよ、莫大な金持ってんだから。

――最近、ますます儲かってるみたいですからね。

ヒト　ハート一家は最初700億円要求してたんだけどな。でも、そんだけもらえたらみんな死ぬわな（笑）。

――ダハハハハ！　しかし、ヒトさんの話は物騒だけど、面白いですね。そういえばインターネットでインタビュー記事が出てまたのも読みましたよ。

ヒト　あれは途中までは読めるけど、あとはお金を払わないと読めないようにしようかと思って（笑）。

――物騒な話は有料って（笑）。

ヒト　物騒な話だけど本当の話しかしないから。いま今の若いプロレスラーが潰れような話はしてないよ。まあ、ショッパいレスラーに限って、ぐだぐだ言ってるヤツいるけどな（笑）。

――ダハハハハ！　でも、「セール」とかの隠語まで表に出したときは、正直言ってビックリしたんですけどね。

ヒト　ああ、やられ役の話ね。

――あの『クマと闘ったヒト』は、当事者が語った本の中でも一番プロレスの内側に踏み込んでると思うですよ。

ヒト　あの本が売れてるもんだから、ターザン山本からも電話かかってきたよ。でも、オレはアホみたいな話はしないから。あの人は上手いこと言って書くからな、平気で。佐山聡もそれやられたんでしょ？

――『ケーフェイ』のときですね。

ヒト　でも山本さんの文章は面白くないよ、正直言って（キッパリ）。

――ダハハハハ！　それは非常に同感ですね（笑）。人としてはすごい面白いんですけどね。喋りも面白いし。

ヒト　だけど文面がやっぱり下手だもん。オレなんか、わかんないけども、絶対上手くないと思う（キッパリ）。決定的にモノを知らないもん、いろんな意味で。前にアングルってあの人が言ったけど……。アングルって言葉の意味も知らないで書いてんだからな。プロレスでいろいろ予告編を作っていくのをアングルって言うよね？　なんでアングルっていうか知ってる？

――いや、ボクも知らないです。

ヒト　トライアングル（＝三角形）のアングルなの。3人がいるわけよ、マネジャー（ブッカー？）と選手たち2人、それをアングルっていうのよ。

――そうなんですか？　視点って意味のアングルだと思ってたんですけど。

ヒト　違う違う。三角のアングル。その三角関係でストーリーが出来ていくわけですよ。それが転がって、ビッグマッチにつながっていくというね。プロレスっていうのは芸術っていうか、本当は憎しみあってはいないけど、本当に憎しみあってるような闘い方をするのがプロなのよ。

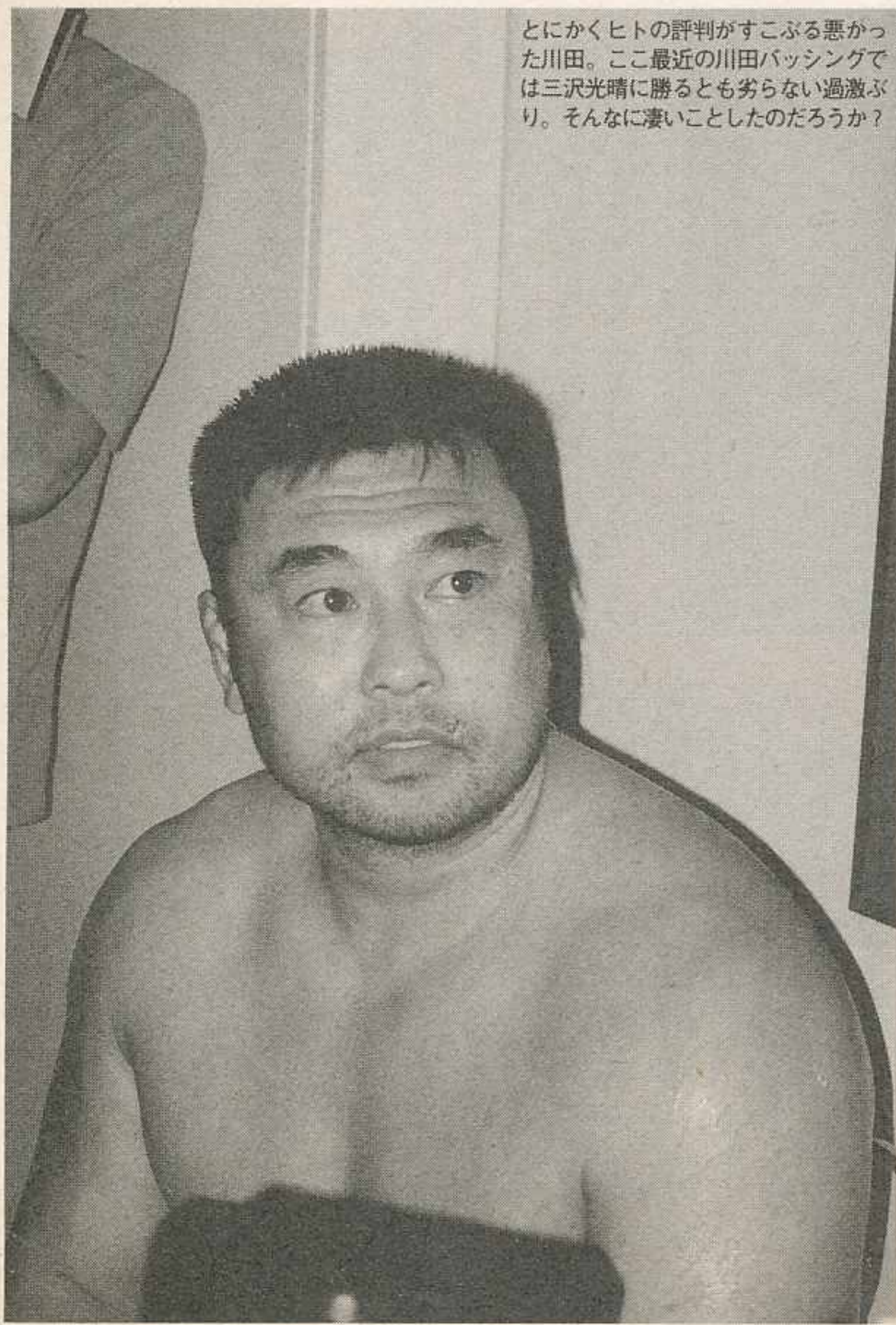
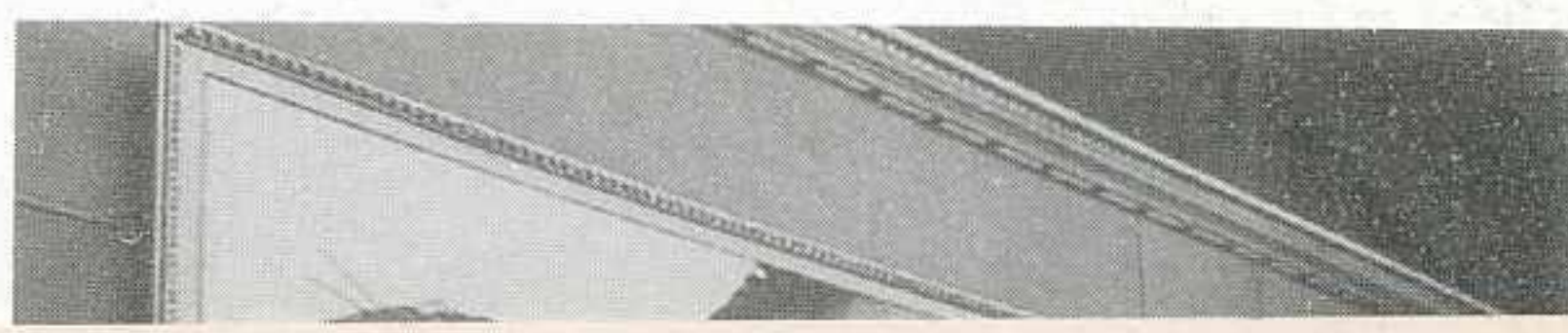
川田？　アホだもん！
いいレスラーかもしれないが
人間としては最低

――それはよくわかります。

ヒト　それが出来るか出来ないで、いいレスラーかいいレスラーでないか評価できるわけ、オレ達は。一般の人達だって多分そうだと思う。だけど「あんなもん当たってないわ。なんで倒れてるの？」って観客が思ったらダメなのよ。「うわー、すごく当たってるのによく持ちこたえてるなあ」って観客が思うようなことしないと。それが最高の芸術ですよ。だからタイミングの良さは重要だよ。殴る方だってパチッと入る。ブレッドの殴り方なんかやっぱりオレが教えたやつを自分でアレンジしてるから、頭にバチーンと入ってるように見えるでしょ。

――ヒトさんのそういう見せ方とか考え方は、自分で身につけたんですか？

ヒト　そりゃそうだよ。それでオレが実践して教えるわけよ。だからストンピングひとつにしても、とっても難しいの。一番難しいのは胸へのストンピング。一番息があがるのよ。

とにかくヒトの評判がすこぶる悪かった川田。ここ最近の川田バッシングでは三沢光晴に勝るとも劣らない過激ぶり。そんなに凄いことしたのだろうか？

橋本選手は手紙をくれた 涙がホロッとくること 書いてあったよ！

——全身運動ですもんね。

ヒト　（実演しながら）全体でね。ガーンと（膝を）伸した時に当たらなきゃダメよ。胸蹴っ飛ばす時に上手い奴は、手を広げて相手を見てバーンと蹴る。まずあんまりいないよ。みんなこれや（と単純に踏んづける動作）。

——長州さんのストンピングとかは、かなり迫力ありますよね。

ヒト　あるけども、あれは蹴り方が危ないの（以下、どこがどう危ないのか具体的に説明）。

——なるほど（笑）。そういうプロレスをカルガリーで学んだ選手がトップに立ったからか、いまやアメリカではプロレスがすごい人気なんですよね。

ヒト　良くなってるでしょ？　やるんだったら、あそこまでやらなきゃダメなのよ。オレがハッタリ言うわけじゃないけど、いまアメリカのプロレスが面白いのはカルガリーがあったからですよ！　日本のプロレスだって、オレが絡んでるヤツは全部上手くなってるよ。あれ猪木さん馬場さんのお陰じゃないんだよ、正直言って。本当に。

——プロレスという枠の中では確かにそうですよね。猪木さんは格闘技へと流れていく選手たちを作り出したけど、プロレスの中では明らかにカルガリーの血が流れているというか。

ヒト　いま、プロレスでトップに立ってる連中はみんな元々カルガリーから流れていったんですよ。橋本だって馳だって、あいつら青春の真っただ中の時に、オレんとこ来ていろんなこと覚えたから、トップに立ててたんだよ。（小指を立てて）コレも覚えて博打も覚えて、みんな覚えたんだから（笑）。

——ダハハハハ！　いま名前が出ませんでしたけど、川田（利明）さんもカルガリーに行ってたんですよね。

ヒト　そうだよ！

——労働ビザじゃなくて観光ビザで行かされたって、三沢さんから聞いたんですけど（笑）。

ヒト　だって、あいついきなり来たんだよ、オレに相談もなしに。佐藤昭雄がＮＷＡの総会かなんかでステュ・ハートと会って話をつけたんだけど、それで来たんだもん。来たのはいいけど、その後でオレに何も言わない。ビザ取りにいったのはオレやのに。

——挨拶もないと（笑）。

ヒト　普通は半年間有効のビザなんだけど、無理矢理1年間有効のビザ取ったんだから。保険もついてくるんだよ！　治療費もタダになるのよ、たとえ怪我しても。

——それは便利ですよね。

ヒト　そうだよ！　オレはちょっとイミグレイション（移民局）に顔が利いたからな。だいたい、みんなオレのとこに来た奴はビザと保険を取ってやったもん。ほんで住むとこもなかったからオレのウチに住まわすでしょ。そりゃ家賃は取ったけどね。だけども本当にオレとこ来なかったらあの連中食っていけないんだから。みんな食いっぱぐれになってたよ。だから、ちゃんとした奴は感謝してくれるわけ。でも、川田だけはそんなこと全然知らんふりやった。

——ダハハハハ！　ある意味、川田さんも凄いキャラだと思うんですよね。

ヒト　そんな調子だから、川田は全日本に置いてかれるの！　これは書いといてよ（キッパリ）。

——わかりました（笑）。永源さんも言ってましたよね。「川田は誰も呼ばなかった」って（笑）。

ヒト　あんなもんアホだもん。

——アホですか!?

ヒト　アホだよ！　まあ、全日本が分裂してチャンスを掴んだっていうのは、大したもんだよ。そりゃ、大したもんだけどもね、身の回りをもっと綺麗していかなきゃ。意味わかる？

——ええ、わかります（笑）。

ヒト　ましてプロレスは夢を売ってるんだから、そうでしょ？　プロレスラーとしてはいいレスラーだけど、人間性としてはもう最低だよ（キッパリ）。

——それにしても不思議なのは、本当にまわりの選手が誰も川田さんのことを良く言わないんですよね（笑）。

ヒト　よく言わないって、そんなことばかりしてるもん。

——「なんでここまで言われるだろう？」って思うくらいにボロクソですよね。

ヒト　だからプロレスラーで一番大事なことを忘れてるんだよ。「ここのタウンは嫌だ」って言って、オレがいるのにカルガリーに出て行ってさ。これだからな（と、寝返りポーズ）。オフィスは川田のことを買っててさ、押し上げようとしているのに。それはレスラーとして最低だよ。絶対やってはいけないこと。

——はぁ～、そうだったんですか。

ヒト　オレとか日本人で残っている連中もいるんだから。カルガリーは基本的に日本人相手にしない土地なんだよ。ステュ・ハートはいい人だから、日本人も上げてくれるんだけどさ。もう平気で人の好意を無にするようなことをするんだもん。

——仁義に欠けるわけですね。

ヒト　わがままもアホもいいとこだよ、あそこまでいったら。

——ダハハハハ！　本にも書いてあった話（吹雪の中、車がエンストで停まってしまうと「オレは何も悪いことしてないのに」と泣き出す話など）読んでてもシビレましたもんね（笑）。

ヒト　それから、もう一つものすごい話したるわ。

——おおっ、なんですか？

ヒト　これは書いといて。川田がね、佐藤昭雄かなんかと、モントリオールで話したらしいんだ。で、佐藤昭雄はリック・マーテルに話を持っていったんだよ。当時、リック・マーテルがモントリオールでプロモーターやってたの。射殺されたディノ・ブラボーなんかも手伝ってたんだけど。それで川田が「そこに行く」ってことになったんだよな。川田は金そんなに持ってなかったから、アパート借りるのも大変でしょ？　オレは電話してやったんですよ、リック・マーテルに。

——さすがですねぇ（笑）。

ヒト　オレはリック・マーテルが15、16歳の頃にプロレスを教えてやったこともあるし、一緒に試合もしたことある仲だから知ってるんだ。それで「川田ってヤツが行くから、ちゃんと迎えに行ってやって、住むとこもちゃんと話してくれ」って言ったんですよ。ほんだら「わかった、わかった、ちゃんと面倒見るわ」って。オレだってカルガリーでたいしたことないんだよ。でも、あいつがあんまり金持ってないから、3百ドル（当時の日本円で7万5千円）を餞別に渡したんだよ。

——はぁ～、男気感じますね！

ヒト　まあ、そんで川田はモントリオールに行ったわけ。行ったんだけどもトム・ジンクとリック・マーテルの2人のアパートに泊まったらしいよ。（嬉しそうに）でも、あの2人はホモセクシャルだからね（笑）。

——ダハハハハ！　そうなんですか？

ヒト　そこにいたっていうのは、何かあったんじゃないかな？（笑）

——まさにデンジャラスKと（笑）。

ヒト　オレ証拠見てないからやったかやられたか、実際のところは知らないけどね（笑）。

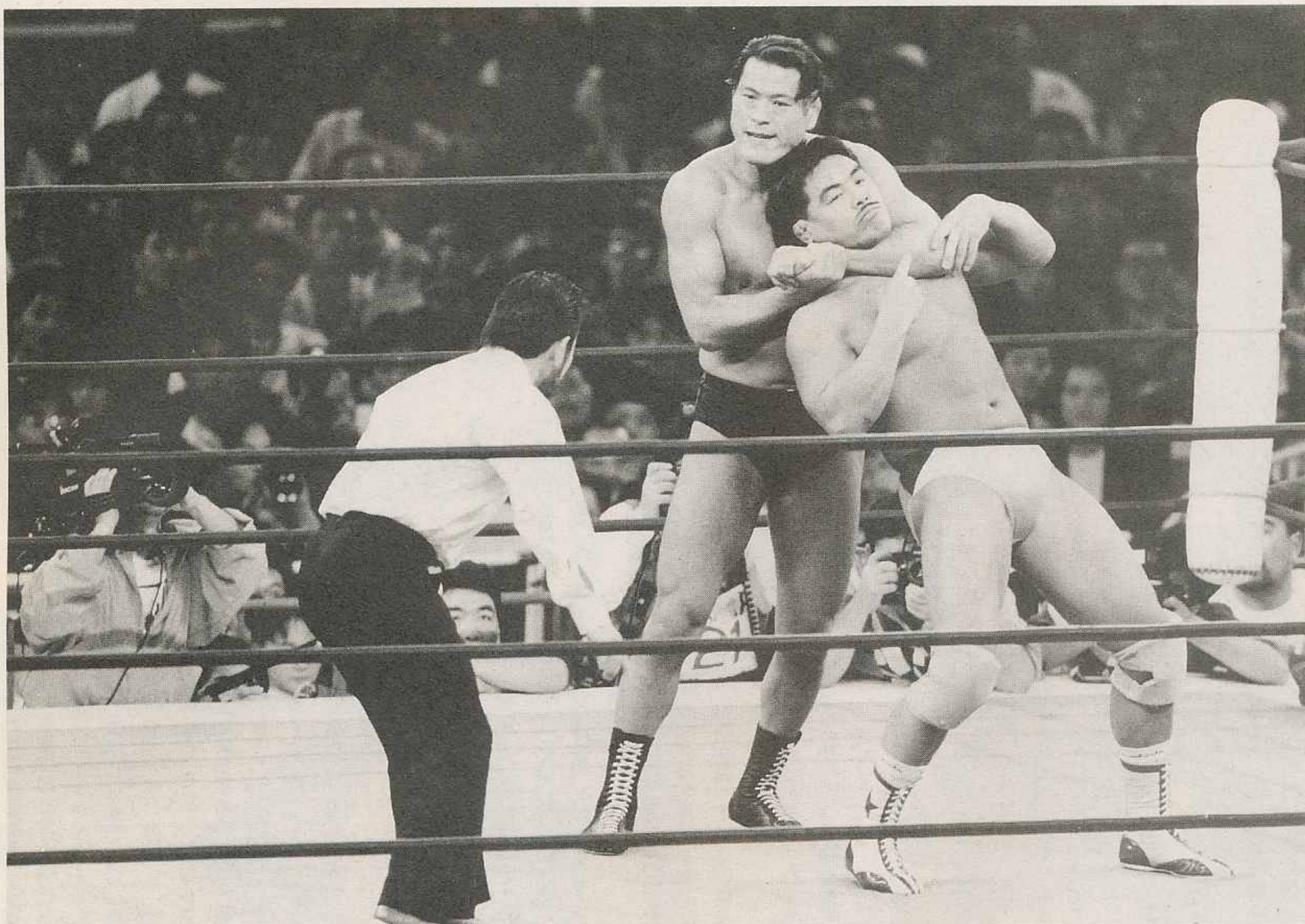
昭和プロレスの凄みに触れる
実録！豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

現役時代のミスター・ヒトは筋肉隆々の逞しい肉体で、相手の技を受けて受けて受けまくったのだ。半端な身体ではつとまらない。

——まあ、かなり物騒なとこにいたっていうのは事実なんですね（笑）。

ヒト　オレは、彼らがホモセクシャルだということに、後から気がついたの。だから何かあったかどうかは知らないよ、見てないから。

——それはいい話ですね（笑）。

ヒト　何にせよ、大変なヤツだったよね。川田は朝起きてきたら、毎日元子さんと馬場さんの悪口言ってたから。「世の中にこんな悪いヤツはいない」って（笑）。これは書いてよ！

「受け」と一口に言っても何種類もある。あらゆる意味で、「受け」「攻め」も優れていたのが馳だったという。たしかにプロレスのうまさは天下一品だ。

——ダハハハ！　それが、いまや全日の孤高のエースですからね（笑）。

ヒト　わからんよな、このプロレス社会だけは。一緒になって悪口言ってたら、後で大損するよ（笑）。

——いつ誰がどう繋がるのか、わかったもんじゃないですからね（笑）。

ヒト　人生はホントわかんないもんだね。橋本にしてもいろいろ言われてるけどさ、ベンツに乗って一軒家の家買って、いい暮らししてるでしょ。オレなんか500円のお好み焼きをいまだに焼いて食っていかなきゃいけない（笑）。これも人生なんだよ。オレは悔しいともなんとも思わないよ。あの連中は頑張ってるし、オレはむしろ楽しいし。

——橋本さんといえば海外で物騒な試合をするから干されてたって伝説がありますけど、実際に本人に聞いたら「それもあるけど、ギャンブルで試合休んじゃったから干されたんだよ」って言ってたんですよね（笑）。

ヒト　どっちもだろうな（笑）。まあ、プロレスラーはやっぱり加減しなきゃいけないじゃない？　橋本選手が試合の流れを無視してムチャクチャに蹴っ飛ばしたとか、そんなんじゃないんだよ。

——どういうことなんですか？

ヒト　橋本選手のやり方は、外国ではやっぱり使いづらい。柔軟性がないというか、橋本選手自身もアメリカのプロレスのやり方を覚えようとしなかったからな。それはそれでいいのよ。ただそこのタウンに合わなかっただけのことで。

——ちょっとジャパニーズ・スタイルすぎたんですね。

ヒト　だけど橋本選手は帰る時に「安達さんにはお世話になって、いろいろなこと聞きましたけど、新日本はもっと安達さんに対してちゃんとしなければダメですね」って言ってくれたよ。「安達さん、日本帰ったらどのようにしたらいいんですかね？」って相談してきたこともあったね。だからオレは「相手の胸蹴っ飛ばすときは加減しないことだよ。どうせ人の胸なんやから（笑）。それでももし骨でも折った時には、『すいません』って謝ってればいいんだから」って言ったら、ホントにその通りやってるの。

——ダハハハ！　それで破壊王のキャラが誕生したんですね（笑）。

ヒト　そうだよ。帰る時にはオレがエアポートまで送っていったんだけど、「安達さんとはもっとゆっくり話したかったですけど、これ読んどいて下さい」と、オレに手紙書いてくれたよ。「話したいことがいっぱいありますが、これに書いてありますから」って。

——かぁ～っ！　橋本さんは本当にいい人なんですよね。

ヒト　涙がホロってくること書いてあったよぉ。「安達さん、本当にお世話になりました。私はお父さんがいなくなって、お母さんは早く亡くなったから、親の味がわかんなくて……。本当にお世話になりました。安達さんと話したら、多分泣けてくるので手紙にしたためました」って。オレ、涙出てきたもん。橋本選手はそういう素晴らしいとこあるからね。

——川田さんとは大違いですか（笑）。

ヒト　今回の小川（直也）とのことだって、猪木さんが小川の黒幕でしょ。あれはみんな猪木さんが裏で糸を引いてるんだよ。

——99年の1月4日に橋本さんが潰されてからの一連の流れですね。

ヒト　もし今度、橋本選手がまた猪木さんとくっついていくようだったら、オレは橋本選手はよく考えなきゃいけないと思うよ。金がバーッともらえたらいいよ。年に1億円ぐらいくれるとか、頭金3億円ぐらいくれるとか。そりゃ過去のこと忘れて行きゃいいよ。

——そうですね。そんだけもらえればチャラですね、たしかに（笑）。

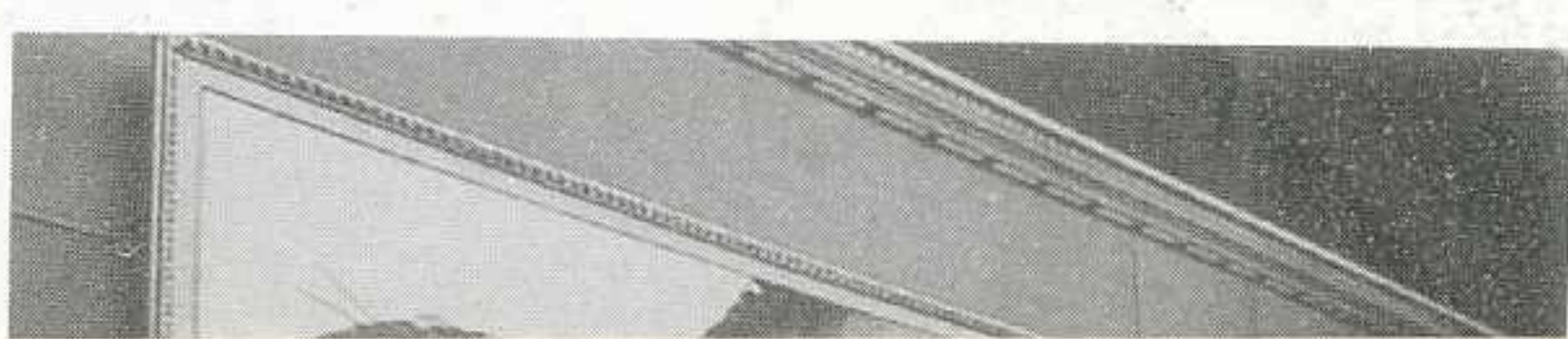
ヒト　もし、そうじゃなかったら……。絶対にダメだよ、一緒にくっつくようじゃ（キッパリ）。

——経済的な面では、新日にいる方が一番安定するんでしょうけどね。

ヒト　そりゃそうよ。橋本だって5000万近くもらってるんでしょ。

——試合しなくても、結構な年収をもらってるみたいですからね（笑）。

ヒト　だから他の奴が怒るわな。

——ようやく巡業に復帰しようとしたら、今度

そもそも長州選手は一番プロレスをバカにしてたのに……

は長州さんが「いらない」って言ったらしいんですけど（笑）。

ヒト　猪木さんがああいうふうにしといて、猪木さんが面倒見ないもんだからおかしくなってくるんですよ。長州は、まして面倒みないもんな。

――まあ、仲が悪いですからね（笑）。

ヒト　仲が悪いのには経緯があるんだよ。その経緯、知ってる？

――以前聞いたのは、デビュー早々にエゲツない蹴りでヒロ斉藤さんの指を折って、試合後に長州さんとマサ斉藤さんに制裁されたからだっていう。

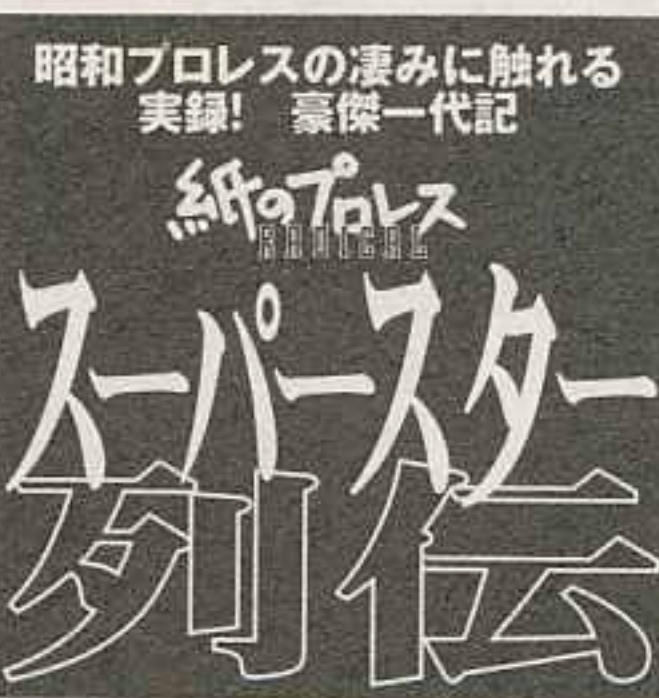
ヒト　それはね、こういうことなんですよ。あの頃、長州選手たちのジャパン・プロレス勢は1回新日本を出ていったのに、また戻ってきたでしょ。それで、出戻りなのに結構大きい顔してたでしょ。そこで誰が報復するかっていったら橋本選手しかいないじゃない？　橋本選手は真っ正直な男だからヒロ斉藤選手とやった時に、思いっきり蹴飛ばしたんでしょ。

――（ドン）荒川さんが裏で煽ってたって噂もあるんですけどね（笑）。

ヒト　ああ、そう。それはあるかもね（笑）。だけど橋本選手はカルガリーに来たときも言ってたよ。「長州とマサ斉藤の2人は絶対やってやる」って。

――決して忘れてはいないんですね。

ヒト　2人に呼ばれて殴られたらしいよ。「それは腹立つなぁ」ってオレも言ったよ。そしたら、橋本選手は「そのへんにナイフがあったら刺してやる」って言ってたもんな。

――その後、しばらくナイフを持ち歩いてたらしいですからね。

ヒト　そうでしょ？　マサ斉藤さんと長州選手の立場ならね、橋本選手がそういう試合をして腹立つのわかるよ。でも、いきなり殴ったらあかんよ！　しかも2人で。なんぼ先輩でもそりゃあかん。先輩やったら、余計に「たしかにオレ達も悪いけど、プロレスのリングに上がってそんな無茶するなよ」と説教するべきや。それで言うこと聞かなかったら、殴ればいいの。それも2人で殴ったらいかんよ。橋本選手、いまだに根に持ってるからね。

――まあ、当然でしょうね。

ヒト　そんなの、殴って済む問題じゃないからね。

――それがずっと緒を引いていると。

ヒト　そうでしょ、多分。だからプロレスの世界はジェラシーがいいふうにいけばいいのよ。でも、時としてジェラシーは悪い方に出るからな。それは醜いで。

――そういう鉄拳制裁の歴史って、昔からあったわけですよね？

ヒト　鉄拳制裁っていうのはまずなかったよ。

――なかったですか？　力道山とかは、すごかったって聞きますけど。

ヒト　それはあったよ。力道山そのものは凄かったけどね。

――ダハハハハ！　そのものが（笑）。

ヒト　だけど他の者が殴ったりはしないよ。そりゃ若いヤツにもの教える時は、それで楯突いてきたりしたら殴るよ。だけど試合についてのことで、いきなりパカパカ殴るっていうのは、相手を侮辱してる。そもそも長州選手は一番プロレスをバカにしてたのに。

――えっ!?　そうなんですか!?

ヒト　そうだよ、「安達さん、これから●●●やりに行ってきますわ」って言ってたくせにさ。

――ダハハハハ！　プロレス＝●●●ってことですか（笑）。

ヒト　マンガ以下に思ってたんじゃないの？

――うわ～っ……。やっぱりアマレスのプライドがあるから、そういうふうになっちゃったんですかね。

ヒト　なんか知らんけど。プロレス一番バカにしてて、そのやり方はないよな。

――しかし、凄い話ですね（笑）。今考えると藤波さんと長州さんの抗争も、藤波さんをターゲットにしたのもすごくわかるんですよ。こいつよりはオレの方が強いはずだって（笑）。

ヒト　長州選手はプロとしては、たいしたもんだと思うよ。たいしたもんだからね、逆に「端にいるもんをもっと可愛がってやれ！」っての。みんなと臨機応変に、トップ立つもんは臨機応変にしないと。「橋本嫌い」とか、そんなこと言ってちゃダメなのよ。

――自分に似た選手が好きなのは、よくわかるんですけどね（笑）。

ヒト　そんなもん、モントリオール行った時なんか●●●●●でさ。

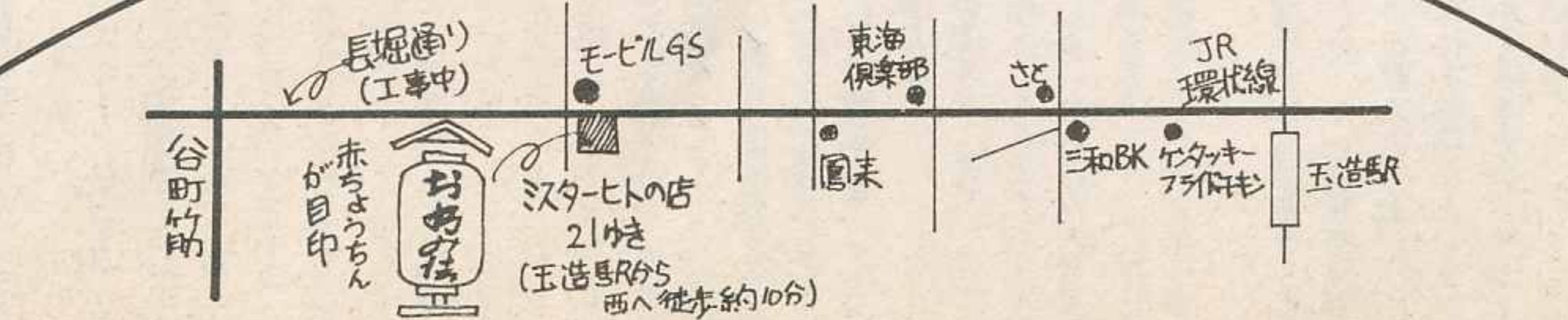
――ダハハハハ！　そんなの絶対活字に出来ないじゃないですか！

ヒト　だから外国でいい思いしてないんじゃない？　●●●●●で、ワイン昼間から飲んで、結構寂しがり屋だからさ。その後、モントリオールからニューブラウンっていうところに試合で行ったんですよ、モントリオールから派遣されて。もう昼間からワイン飲んで●●●●●でしょ。それで試合の時にね、（ここから先の話はあまりにヤバ過ぎるので掲載不可能です。どうしても知りたい人はヒトさんのお店に行ってみよう！　でも、話してくれるかどうかは保証しませんのであしからず）。

――ダハハハハ！　すっかり間違えちゃったんですね（笑）。

ヒト　そしたらみんな大笑いして（笑）。それがカナダ全土に拡がってさあ（笑）。

――悪い噂はあっという間に広まりますからね。

ヒト　それで仕事で使えないからって返されちゃった（笑）。その男が今トップで、現場監督やってるの（笑）。

――ダハハハハ！　しかし面白い話ですね（笑）。

【00年11月1日、大阪・お好み焼き「ゆき」にて収録】

※とどまるところを知らないミスター・ヒトの爆弾発言はまだまだ続く！　次号では馬場、猪木、元子夫人、マサ斉藤、藤波辰爾の知られざる横顔が明らかになる！　読めば度肝を抜かすこと間違いなしの超絶トーク続編は次号でお届けします！

“20世紀最後の幻想”

ヴォルク・ハンはKOKで通用するのか!?

徹底検証

“幻想を背負った最後の格闘家”ヴォルク・ハンのKOKトーナメント出場が、遂に決定した！　旧リングス時代、“千の関節技を持つ男”と呼ばれ、一時代を築いたハンも来年で40歳。そのハンがKOKで何を見せてくれるかは、今大会最大の焦点のひとつである。はたして幻想に抱まれた、ハンの真の実力はいかなるものなのか。それを確かめるべく、本誌は2人の証言者にインタビューを敢行。いま、ヴォルク・ハンの実体が明らかになる！

構成／堀江ガンツ
text by Gunts Horie

証言その1
ハンの秘蔵っ子 ラバザノフ・アフメッドが激白!!

さすが幻想大国ロシア! 衝撃の新事実続々発覚!!

聞き手/堀江ガンツ interview by Gunts Horie
撮影/黒田史夫 photographs by Fumio Kuroda

「ヴォルク・ハン格闘術」とは何か?

昨年のKOKで〝ロシアの秘密兵器〟と呼ばれたラバザノフ・アフメッド。「ハンの秘蔵っ子」ということで優勝を期待されたものの、体調不良によるスタミナ切れで、リー・ハスデルにまさかの一回戦負けを喫し、捲土重来を期した今年も、あのノゲイラと1回戦で当たる不運でまたもや初戦を突破することができなかった。

通常2年連続で1回戦負けを喫した選手を大きく取り上げることはないが、本誌はラバザノフがV・ハンの直弟子で、白兵戦大会という聞き慣れない大会の優勝者であることに注目。ロシアの格闘技事情と、名前こそ有名ながらいまだその実体が謎に包まれる「コマンド・サンボ」の真の姿を聞き出すべくインタビューを敢行した。するとさすがは〝幻想大国〟ロシア、驚愕の新事実が次々と判明。そして本邦初公開の新格闘技「ヴォルク・ハン格闘術」の存在が明らかになった——。

——まずは昨年のKOK以来、1年ぶりの試合だった(アントニオ・ホドリゴ・)ノゲイラ戦の感想を聞かせて下さい。

ラバザノフ　私はこの1年間、朝起きてから、夜寝る前まで常にこの試合のことを考えて生きてきたんです。ですから私のちょっとしたミスでこのような結果になってしまったのは、残念としか言いようがないですね。今回は昨年と比べると、肉体的にも精神的にも、いい状態で挑めたので、間違いなく勝てるという自信があったんですけど……。

——確か昨年は試合の2ヶ月も前に来日して、前田道場で練習に明け暮れるくらい気合いが入っていたのに、慣れない環境で体調を崩してしまったんですよね。

ラバザノフ　ハイ。2ヶ月間話しができる人がひとりもいなかったので、私は生まれて初めて「ホームシックとは何か」ということを知りましたね(苦笑)。それに加えて日本の暑さは予想以上で耐えられなかったし、道場での食事も合わなかったんです。

——「ちゃんこ」が合わなかったんですか?

ラバザノフ　いや、私はライスが嫌いなんですよ(笑)。でも、道場では来る日も来る日もライス。結局、一度もパンが出なかった。それで私は12キロも体重が減ってしまったんです(笑)。

——暑いし、話し相手はいないし、ご飯は食べれないしで実に過酷な2ヶ月間だったんですね(笑)。そもそもラバザノフ選手はなぜ2ヶ月も前から日本に来たんですか?

ラバザノフ　どんなスポーツでも大会に出る前にトレーニング・キャンプを張りますよね? 私もそれと同じように、まず日本の気候に慣れる必要がありましたし、リングスのルールも体で覚えなければならない。だから私は日本に早くから行けるように、師匠であるヴォルク・ハンにお願いしたんです。

——ところがそれが裏目に出てしまったと(笑)。

ラバザノフ　結果的にはそうなんですけど、あれはあれで非常にいい経験になったと思いますよ。ですから今年はその教訓を活かしてロシアで調整をして、パンをたくさん食べて(笑)、絶好調で試合当日を迎えることができたんです。まぁ、結果は去年と一緒になってしまったんですけどね(苦笑)。

——ノゲイラは予想以上に強かったですか?

ラバザノフ　私に勝ったのですから、もちろん強かったのは確かですけど、かといって、私が彼に勝てないということは絶対にないと思います。私たちの闘いはやはりどちらが先にミスを犯すかという駆け引きなんですよ。ですから今回は私がミスを犯してしまいましたが、もし彼が先にミスを犯していたら私のアキレス腱固めで彼の足は破壊されていたでしょうから。

——リングスではブラジリアン柔術の選手とロシアのサンビストの対抗という図式が増えていますけど、やはりブラジリアン柔術の選手を他の選手と比べて意識する部分はありますか?

ラバザノフ　ブラジリアン柔術の選手は強い

と思うし、もちろんライバル意識もあります。でも、私はブラジリアン柔術がサンボより、強いとか弱いとかそういう話じゃないと思う。ただ私個人としては柔術よりサンボの方が遥かにやって面白く、見て楽しく、強い格闘技だということです。

—サンボはいつ頃から始めたんですか？

ラバザノフ　まぁ、正直に言うと、私のサンビストとしてのキャリアはわずかです。なんといっても私はサンボ着を着て試合をしたことがありませんから。

—え!? サンボ着を着て試合をことないのにサンビストなんですか？

ラバザノフ　いえ、私の場合は純粋なサンビストというより、サンボを総合格闘技用に進化させた「ヴォルク・ハン格闘術」の弟子なんです。

—グレイシー柔術ならぬ、「ヴォルク・ハン格闘術」ですか！

ラバザノフ　ハイ。現在ヴォルク・ハンを中心に行われている「ヴォルク・ハン格闘術」というのは、純粋なサンボとは違い、サンボにフリースタイルとグレコローマンの技術を取り入れ、かつサンボ着を脱いでの練習をしています。つまり、裸で闘うリングスやアルティメットでもサンボの技を最大限に活かすための格闘技なんです。だから私はサンボ着を着て試合をしたことはないんです！

—「ヴォルク・ハン格闘術」はコマンド・サンボとは違うんですか？

ロシアには軍の小隊対抗アルティメット大会があるんです

ラバザノフ　ハイ、まったく違うものです。みなさん誤解しているかも知れませんが、「コマンド・サンボ」というのはリングスやサンボのような"スポーツ"ではなく、戦場や犯罪時など生きるか死ぬかの局面で、武器を持った相手に素手で対抗する手段です。つまりコマンド・サンボが目指すものは相手からギブアップを奪うことではなく、相手を殺すための格闘術なんです！

—殺人術ですか！

ラバザノフ　ハイ。確かにコマンド・サンボの一部である相手を押さえつけるまでの技術はリングスでも有効ですが、コマンド・サンボの本質はその先、相手のノドを突き刺したり、急所を突いたりして殺すための技術ですから、ひとつのスポーツのジャンルではないのです。

—では、日本人が考える「コマンド・サンボ」というスポーツは、存在しないんですか？

ラバザノフ　本来のコマンド・サンボというものは軍隊や警察で採用されている格闘術で、スポーツではありませんけれど、コマンド・サンボから生まれたスポーツというものは存在します。

—それは何という格闘技なんですか？

ラバザノフ　ロシア軍でよく行われる「白兵戦大会」で使われる技術がそれです。

—白兵戦ですか！　それはどんな格闘技なんですか？

ラバザノフ　"コマンド・サンボ"といわれるものの一部は白兵戦大会でも使われますが、詳しい技術を私がここでみなさんにお教えすることは出来ません。

—なぜですか？

ラバザノフ　ロシア軍の内部機密だからですよ。ですから白兵戦を学びたかったら、ロシア軍に入隊して下さい（笑）。

—遠慮しときます（笑）。では白兵戦大会というのは、どんな選手がどんなルールで闘っているのですか？

ヴォルク・ハンはKOKで通用するのか!? 徹底検証

ラバザノフ　白兵戦大会というのは、ロシア軍内での小隊対抗戦なんですよ。

—団体対抗戦ならぬ小隊対抗戦ですか（笑）。

ラバザノフ　どこの小隊が一番強いかというのがテーマで、そこで名誉としてチャンピオンが決まるモノなんです。ルールは実際の戦場での白兵戦では、もちろん武器を使おうが何をしてもいいわけですけど、この「白兵戦大会」は武器以外のなんでもあり。つまりパンチ、キック、レスリング、関節技も締め技で闘うものなんです。

—では、ロシア軍小隊対抗のアルティメット大会みたいなものなんですか？

ラバザノフ　その通りです。

—軍を上げてアルティメットをやっているんですか！　ロシア軍恐るべしですね。ラバザノフ選手もこの白兵戦大会で優勝したことがあるんですよね？

ラバザノフ　ハイ。白兵戦大会には大小さまざまな大会があって、私は4回優勝したことがあります。

—4回優勝も！　それはラバザノフ選手がロシア軍に入隊していた時の話ですよね？

ラバザノフ　ええ、ロシア軍には特にスポーツに力を入れた部隊があって、そこで2年間過ごしました。私は以前は手がつけられない不良だったんですけど、軍隊に入ったお陰で更正することができたんです。

—え！　非常に紳士的なラバザノフ選手が札付きのワルだったんですか？

ラバザノフ　ハイ（笑）。私は7才の頃から不良でして、ストリート・ファイトばかりしていたんです。お陰で学校を3回も追放されましたから（苦笑）。

—追放ですか（笑）。

ラバザノフ　喧嘩だけでなくあらゆる悪いことに手を染めてたんですよ。ですからあまりにも成績が悪くてもちろん大学には入れなかったんですが、その代わり徴兵制で軍隊に入ったんです。でもそこは大学より遥かに学ぶことが多かったですね。私は軍隊の寮に入ったんですけど、そこは軍隊の厳しいことはすべて味わえる環境でしたから（笑）。

—「軍隊の厳しさがすべて味わえる環境」というのは、ちょっと僕らには想像できませんねぇ。

ラバザノフ　ロシア軍はとにかく年功序列が

今年のKOKでノゲイラの下からの極めに敗れ（写真・上）、昨年は得意のアキレス腱固めでハスデルを攻め込むも、スタミナ切れで失速したラバザノフ。ハンの1回戦の相手はこのハスデルである。弟子の仇を討てるか!?

厳しいんですよ。そして軍隊の規則は明文化された公式な規則もあれば、非公式な規則もあって、もちろん非公式な規則の方が遥かに厳しいんです（笑）。とにかく先輩が後輩に対して厳しいしつけをしていて、例えば若造がどこかでくつろいで楽しているところを万が一先輩に見られたりしたら、2・3日食事没収なんです。

——食事没収！

ラバザノフ　それはほんの一例ですけどね。これ以上話すとロシアのイメージに関わるので止めておきます（笑）。でも、とにかくロシアの軍隊というのは、皆さんがテレビや映画で見るような軍隊に比べて遥かに厳しい教育を受けているんです。ですから根性を鍛える場としては最適ですね。

——前田道場も厳しさには定評がありますけど、ロシア軍にはかなわないでしょうね（笑）。

ラバザノフ　私は2ヶ月間前田道場におりましたけど、ロシア軍のような場面を見ることはありませんでしたから、きっとそうでしょう（笑）。

——「ヴォルク・ハン格闘術」の道場はそういう厳しさはあるんですか？

ラバザノフ　ハンの道場はみんな軍隊を経験した選手ばかりですから、規則はなくても皆尊重しあってます。

——ハンの道場はハン選手とラバザノフ選手以外にはどんな方いるんですか？

ラバザノフ　プロとして現在活躍しているのは、ハンと私とイリューヒン・ミーシャの3人です。合計で7人いるんですけど、その中には体が大きくて非常に強いまだ日本に来ていない選手がいるんです。いまはまだ彼のことは話せませんが、時期が来たら皆さんにサプライズとしてお見せできると思います。

——「ヴォルク・ハン格闘術」の隠し玉がいるんですね。それは楽しみに待ちましょう！　では、ハン選手は今度のKOKで引退を考えているらしいんですけど、これからは弟子達がリングスで活躍していくことになるんでしょうか？

ラバザノフ　ハンが引退するかどうかはハン自身の判断に任せるべきだと思いますけど、ハンは私と組み手をやると、私より遥かに素早く、強いというイメージがあります。実際、ハンより相手を殺す技を知っている選手はリングスにはいないでしょうから、まだまだ引退するのは早いんじゃないかと思いますね。

——ラバザノフ選手から見て、ハン選手はまだまだやる気だと思いますか？

ラバザノフ　ええ、ハンは現在もハードな練習をやっていますし、逆に最近はボクシングやレスリングの練習もを取り入れて、彼のような一代を築いたベテランなのに成長しているんです。ですからやる気は十分あると思いますよ。

——師匠がそれだけ元気だと、弟子であるラバザノフ選手も負けられませんね。

ラバザノフ　ハイ。ハンは非常に厳しいコーチなので、私はこれからもハンの下でさらに実力を上げていきたいと思います。

——今回KOKに出るにあたってハン選手からなにかアドバイスはあったんですか？

ラバザノフ　指示はひとつだけでしたね。

KOK出場選手の中でハンほど人を殺せる技を持つ人はいないでしょう

「ヴォルク・ハン格闘術」の2大巨頭ハンとミーシャ。KOKトーナメント初参戦のハンだけでなく、2月の武道館以来の参戦となるミーシャの変身ぶりにも注目である。

——どんな指示ですか？

ラバザノフ　とにかく勝て！　ガハハハ！　つべこべ言わずにとにかく勝て！　ハン選手は素晴らしいですね（笑）。

ラバザノフ　ですから、私は今回負けてしまったので、ロシアに帰るのが怖いですね（笑）。でも、勝負に勝ち負けはつきものですから、これからも厳しい練習を続けて、次こそ勝てるように努力していきたいと思います。そのために今後はモスクワのアルティメット大会には全部出場して経験を積むつもりですし、もう少し打撃を強化しようと思っています。それからもちろん、ノゲイラに負けた原因もロシアに帰ったらすぐ究明するつもりです。

——では、次こそは「ヴォルク・ハン格闘術」の強さが見られることを期待してます！

ラバザノフ　私は負けてしまいましたが、まだハンとミーシャがいます。彼等はきっと勝ってくれると信じていますので、ファンの皆さんはゼヒ応援して下さい。

——力一杯応援しましょう！　今日はありがとうございました！

【00年10月10日　都内某ホテルにて収録】

"リングス最後の幻想"ヴォルク・ハン。昨年のKOKでの直前の出場回避によって、一部では「ハンはKOKが恐くて逃げた」など陰口も叩く向きもあったが、なんと逃げるどころか、現在の総合格闘技に対応するべく「ヴォルク・ハン格闘術」という新たな格闘技の流派までつくりだしていた。

そして何といってもハンの恐ろしさは、「人を殺す技を知っている」こと。藤原喜明は髙田延彦を「いざとなったら相手の腕を折れる男」と称したが、ハンは腕を折れるどころか「いざとなったら相手の命を奪える男」なのだ。12・22大阪でいよいよハンの本性が明らかになる！

PROFILE

Rabazanov Arhmed　1978年4月21日、アゲスタン共和国出身。KOKでは結果が出ていないが、98年にロシア版アルティメット大会とロシア白兵戦大会に優勝するなど、その実力は本物。今年5月20日に行われたリングス・ロシア大会でもヴァレンタイン・オーフレイムをわずか3分で破っており、本領を発揮するのはこれからである。190cm、94kg。

証言その2 ハン、コピィロフを発掘したVIPが世界格闘技を語りまくる！

コマンド・サンボはマフィアを逮捕する術だよ！ 日本人が考えるような甘っちょろいもんじゃないから！

日本コマンド・サンボ連盟理事長
日本アマチュアサンボ連盟理事長

堀米奉文

ヴォルク・ハンはKOKで通用するのか!? 徹底検証

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／水戸泉（仮）
photographs by Mitoizumi

続いて登場していただいたのは、前リングス審議委員長の堀米奉文氏。日本コマンド・サンボ理事長、日ロスポーツ交流協会専務理事であり、ハン、コピィロフを日本に呼んだ張本人でもある氏の口から発っせられたロシア格闘事情は、実に衝撃的なものだった。

――ヴォルク・ハンやコピィロフが引退を賭ける意気込みでＫＯＫ出るということで、サンボとコマンド・サンボ両方に詳しい堀米先生に、彼らの強さを伺いに来ました！

堀米　僕はコピィロフにもハンにも「年寄りは早く辞めろ」って言ってんだけどね。

――「年寄りは早く辞めろ」（笑）。いきなり後ろ向きな発言ですね（笑）。

堀米　だってハンたちを連れて来たのは、もう10年も前だよ。旧ソ連時代だからね。格闘技はそんなに長くやるもんじゃないよ。プロレスならできるけどね。

――格闘家のピークは短いものですか？

堀米　短い（キッパリ）。そうだな、やっぱり本当のピークっていうのは2年間ぐらいじゃないの。ミーシャは少し若いけど、ハンもコピィロフも年だからね。見てて分かるよ。やっぱり体力がないとホントの技はかからないよ。相手が知らなければコピィロフみたいにかかるけどね。

――カステロ・ブランコ戦ですね。

堀米　確かにハンもコピィロフも昔の名残りがあるから、極まりそうな技はガチッと極めてとる上手さはあるんだけど、私に言わせればだいぶ落ちたな、と。昔の50％、60％くらいじゃないかな。だから「辞めなさい」って言ってるんだけどね（笑）。

――ハンもコピィロフも堀米先生がリングス連れてきたわけですね。

堀米　そうそう。

――では、そもそも先生がリングスに関わるようになったきっかけはなんなんですか？

堀米　リングスが呼ぶ前に新日本（プロレス）がソ連の連中を呼んだよね。そのあとゴタゴタがあってしばらく来なくなったんだけど、その時にロシアのレスラーが「モスクワ・プロレス協会」っていう会社を作ったんだよ。

――モスクワ・プロレス協会！

堀米　作ったのは英語ができるモスクワ大学出た奴で名前はなんていったかな……。

――もしかしてウラジミール・ベルコビッチ（新日に来た「レッドブル軍団」の一員で、チームのマネジャー的存在）ですか？

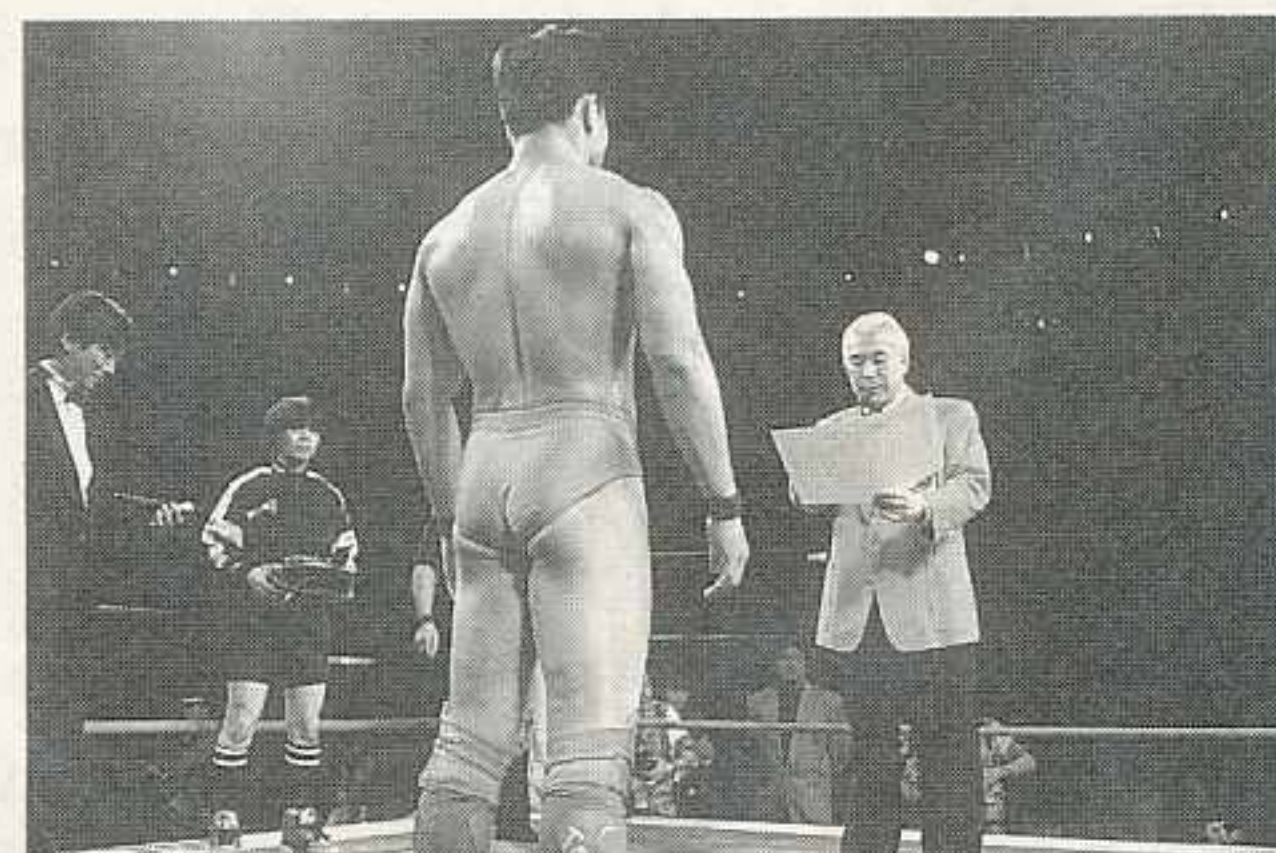
堀米　そう、ベルコビッチがモスクワの僕のホテルに選手のリストを持ってきて、「日本に我々が闘える会社はないだろうか？」って相談に来たんだよ。でも僕は「プロレスには関係したくないや」と思ってたから、麻生に「どっかないか？」って言ったの。

――ああ、サブミッション・アーツ・レスリング代表の麻生さんですね。

堀米　そしたらリングスの話がでてきてさ、でも前田は「新日本が使った選手は使いたくない」って言うから。「じゃあ、実際に見に行こう」って、前田を連れてモスクワ、グルジア、ブルガリアを回って選手集めさせたんだよ。そしてその時に売り込んで来たのがハンだったから。

――ハンの方から売り込んできたんですか？

堀米　売り込んできたっちゅうかさ、ああいう派手な男だから目立つんだよ（笑）。

――ガハハハハ！

【ほりまいともゆき】早稲田大学レスリング部出身。日本レスリング協会にて八田一郎会長のもとで活躍。日ロスポーツ交流協会専務理事、世界アマチュアサンボ連盟副会長、日本アマチュアサンボ連盟理事長、日本コマンドサンボ教会理事長。リングスでは長く審議委員長を努め、開会挨拶やベルト授与でファンにもお馴染み。

堀米 「自分の技を見てくれ」ってね。見たら確かに芸術的なんですよ。

——プロ向きの選手だと。

堀米 それから技術は持ってるんだけど、それぞれの質が違う、いろんな選手が入れ替わり立ち替わり僕のところに来るんだな。

——リングスに出してくれ、と。

堀米 うん、でも当時は旧ソ連時代だから、まだビザの問題がしょっちゅう難航してね。「そのまっちゅうわけにはいかんだろう」と。僕は旧ソ連とつき合いが30年ぐらいあって、向こうのスポーツ省の副大臣とも友達でVIPだったから、了解取ったりしてね。だからリングスでは審議委員長という肩書きだったけど、実際は顧問みたいな感じだね。

——リングスとロシアの強いパイプは、当時の先生の人脈があってこそだったんですね。

堀米 まあいろいろあったんだけども、前田も最初に僕のところに来た時から両膝がボロボロで、可哀想だったよね。それで前田の方もリングスやめるかやめないかっちゅうところまできてたのが、ハンなんか連れてったら急に人気が出ちゃってね。とりあえず良かったんじゃないの。

——良かったどころか救世主ですよ！ ハンが〝コマンド・サンボ〟でセンセーションを巻き起こして、リングスは救われましたからね。先生はコマンド・サンボというのは、いつ頃から御存じだったんですか?

堀米 昔から知ってるよ、旧ソビエト時代。

——このあいだ来日したハン選手の弟子のラバザノフ選手が、「コマンド・サンボという〝競技〟はない」と言っていたんですけど、実際どうなんですか?

堀米 うん、競技はない（キッパリ）。でも一度競技にしようとしたんだよ。

——日本でですか?

堀米 いや、ロシアで。3つの部門に分けて点数がいいのがチャンピオンというね。ボクシング、サンボ、あと型があったのかな?

——コマンド・サンボの型ですか?

堀米 うん。やりかけて「国際連盟作るか?」ってお呼びが来た時もあったんだけど、競技としては正式にはなってないよね。やっぱり競技化すると全然違うものになっちゃうから。コマンド・サンボは、いわゆるKGBの特殊部隊がやるような、日本で言えば逮捕術みたいなもんだから。練習なんかも短刀の真剣使ってやってるからね。真剣を使う競技なんかないよ（笑）。

——そりゃそうですね（笑）。

堀米 なぜそこまでやるかというとね、向こうのマフィアがどういうわけかサンボ、空手、柔道、ボクシングをやってる場合が多いんだよ。やっぱり力の世界だから、体力か技術に自信がないとマフィアの中でも生きていけない。そういう連中が来るから、逮捕する方だって相当強くなきゃ勤まらないんだよ。

——まずマフィアより強くなきゃいけないいん

93年2月の後楽園でのエキシジションで世界初公開されたコマンド・サンボ。堀米先生はその後ハンを講師に招いて、コマンドサンボ・スクールをスタートさせた。参加者全員が迷彩姿いうのが凄い。現在は「総合格闘技」名前を変えて活動している。

ヴォルク・ハンはKOKで通用するのか!? 徹底検証

コマンド・サンボはロシア軍機密 ハンは国家警察軍の教官だから!

ですね。

堀米 だから僕もコマンド・サンボの訓練所に行った時は写真も撮らせなかったしね。顔が出ると家族がやられちゃうから。

——家族がやられる！ もう、命がけじゃないですか！

堀米 日本人が考えるような甘っちょろいもんじゃないから。その訓練所にも僕だったから入れたんでしょうけど、普通は入れませんよ。もの凄い真剣にトレーニングしてるよ。

——目的が相手をギブアップさせるとかじゃなくて、自分が死なない為のトレーニングなんですね。

堀米 うん、だからコマンド・サンボは要するに軍隊のトレーニングとして80年ぐらいの歴史があるんですよ。でも軍の機密だから表に出なかったわけよ。

——コマンド・サンボはロシア軍機密！

堀米 だから僕がハンに後楽園でコマンド・サンボの模範試合やらせたでしょ? あれが世界初公開ですよ（笑）。

——あの第1回リングス実験リーグ（93年2月）で行われた、「コマンド・サンボ・エキジビション」は国際的重大事だったんですね（笑）。

堀米 だからあの技術は格闘家も感慨を受けちゃったんだよね。あれからだよ、関節技が各団体で多くなってきたのは。それまではプロレスラーがかじってただけでしょ?（笑）。

——「かじってた」（笑）。

堀米 ハンはソ連警察軍のコマンド・サンボの教官だったから、やるのも教えるのも上手いんだよ。そんなわけでコマンド・サンボっちゅうのは、結局は競技としてまだなりえてないよ。やろうという話はあんだけども。やったってどうせ日本人勝てないしね（笑）。

——ガハハハハ！

堀米 難しいんだよ。昔の古流の柔術みたいなもんでさ、試合やればみんな怪我しちゃう。下手したら死んじゃうみたいなね。当て身もなんでもある、ルールなしだから。

——そうですよね。

堀米 そんなものを競技としてはちょっと無理だろうな。だってルールなしだと指一本取っただけでポキッと折れちゃうんだよ。

——ガハハハハ！ 簡単に（笑）。

堀米 おう。だからそういう極限状態で使う技術にルール作って、制限させたら意味ないんだよ。目的が違うものになってしまうもんだから。柔道がそうでしょ。何でもアリだった古流柔術から変わってきてね。

——サンボも元は柔道なんですよね?

堀米 僕が調べたところでは1900年の前に当時二段を取った20歳ぐらいのロシア人宣教師がいたの。当時は最高の西郷四郎で五段。あと四天王と言われた人が四段ぐらいだから、当時の二段っていうとかなり強い。そのロシア人が軍に入ってきて、それを軍に教えたと。そしてソ連は15共和国があって、それぞれ土着の格闘技を持ってる。

——グルジアのチタオバとかですね。

堀米 うん、柔道とそれらが合わさってスポーツとしてルールを決めてやったのが今のサンボなんだよ。だから向こうの連中に「サンボは柔道じゃないか?」って言ったら、怒りながら「柔道じゃない！ いろいろ入ってるんだ！」って言うんだよ（笑）。

——ガハハハ！ やっぱり国技のプライドがあるんでしょうね（笑）。

堀米 確かに柔道よりサンボの寝技の方が多種多様だしね。逆十字一つでも、いろんな角度でいろんな形が取れる。だからサンボにも

日本の古流柔術の名残りもあれば、独自に開発されたのもあるんだよ。古い柔道の本見ても「アキレス腱固め」なんてないからね（笑）。

—でもサンボはなぜ、ソ連でだけ発達してたんですか？

堀米　それはスターリン時代にサンボを海外に広げなかったんだよね。

—軍の機密だからですか？

堀米　それもあったし、ソ連は自分達が15カ国があって、それが世界だと思ってたんじゃない？（笑）

—ソ連こそが世界だと（笑）。

堀米　うん、だからブラジルの柔術と同じで、あまり世界に広まらなかったからこそ、独自の発展を築いたんだろうね。だからヨーロッパの「柔術競技」も凄いよね。

—え!?　ヨーロッパの柔術ですか？

堀米　知らないの？　フランスで25万人やってる「柔術競技」。ブラジルの柔術みたいにヨーロッパで知らないうちに発展しちゃったんだよ。

—そんなのがあるんですか！　ブラジリアン柔術とはルールも違うんですか？

堀米　ブラジリアン柔術とは全然違う。空手と柔道と柔術が混じったみたいなの。

—じゃあ打撃もあるんですか？

堀米　だから蹴りでポイント取るだろ、そしたら組んでもいいわけ。最初空手でどっちかにポイントがつかなきゃダメなんだよね。

—段階制みたいな感じですか？

堀米　うん、それで次は組んでまた投げてもいいわけ。要するに一本がないんだよ。例えばギブアップ取るだろ、また立ってやる。それが1ポイント、2ポイントとなるわけ。ポイント制で。型とね競技が両方あるんだよ。型は素晴らしいよ。ハンとやってることと一緒だから。

ハンはあと5歳若ければ優勝できたけど もう自分の年令考えろって（笑）

—そんな競技が、いつの間にか広まってたわけですか、ヨーロッパの中で（笑）。

堀米　世界中に「柔術」と称するものがいくつもあるんだよね。ブラジルの柔術、カナダ、アメリカの「スポーツ柔術」とか。中でもこのヨーロッパの柔術が一番国際的でしょう。

—これも日本の古流柔術から派生したものなんですか？

堀米　いや、空手が変化したんだよ。

—空手が柔術にですか!?

堀米　そう。フランスで変化したんだよ。何故かというと向こうの道場は柔道と空手を一緒の所でやってるんだよね。

—それで「一緒の競技にしちゃえ！」みたいな感じなんですか（笑）。

堀米　そう（笑）。それがいまや、フランスだけで25万人だから、日本の柔道人口と同じだよ。フランスの柔道人口は百万人っていう状態ですから。

—そんなにいるんですか！

堀米　だからアフリカ人は柔道発祥の地はフランスだと思ってる（笑）。

—ガハハハハ！

堀米　ビデオ貸してあげるから。中見てみれば面白いと思うよ。こういうのは世界中でドンドン広がるよ。まぁ、これで世界中の格闘技が大体わかったんじゃない。日本の武道が世界中でいろいろ変化してるんだよ。

—そういえば、ハンも自分でサンボにレスリングとボクシングを取り入れた、新しい格闘術を作ってるらしいんですよ。

堀米　あ、そう。ロシアでも「ケッチ」っていう、おそらく今のリングスみたいなプロの総合格闘技が出来るらしくて、ロシア柔道のチャンピオンのノブコフっていうのが、僕に会いたいっていってるんだよ。だから引っ張りますよ、それ。

—「引っ張る！」いいですね（笑）。

堀米　ハンもそういうつもりじゃないかな。

—ハンは今度のトーナメントに勝つためにいろいろやってるらしいんですよ。

堀米　そんな簡単に勝てないよ。自分の年考えてから言えって（笑）。

—ガハハハハ！

堀米　あいつは膝の怪我治ったのかね。あの年で怪我したらもうダメなんだよ。頭のいい奴はそこで引退して、残りの人生を遊びに注ぎ込むもんなんだよ（笑）。

—ハンも「最後の花道を飾る」って意気込んでるみたいですよ。

堀米　あと5年若けりゃねえ、それこそ優勝できるだろうけど。まあ、惨めな試合にならないように、頑張ってやってくれればいいけどもね（笑）。

【00年11月17日　新宿・スポーツ会館にて収録】

「コマンド・サンボ」という、まさに命がけの世界で生きてきたヴォルク・ハン。堀米先生が「年寄りは早く辞めろ」と言うとおり、年齢的な問題こそあるが、KOK参加メンバーの中で、最も〝命のやり取り〟を経験してきたのがハンであるということは間違いないだろう。そんな男が引退を賭けて挑んでくる今大会。12・22大阪でハンはその幻想を守ることができるか。その一挙手一投足を見のがすな！

これが“柔術競技”だ!!

これが堀米先生に貸していただいた、「柔術競技」のビデオ（このビデオは堀米先生の製作とのこと）。ジャケットを見る限りブラジリアン柔術のような、ガードポジションからの極めがあるかと思えば、空手の打撃まであるという驚愕の格闘技だ。しかもこの「柔術競技」のワールドゲームが近く秋田で開催されるという。21世紀の格闘技は“グレイシー”に変わって、この「柔術競技」が席巻する！（かもしれない）

FIGHTING NETWORK
RINGS

ごちゃごちゃ言わんと誰が一番強いか決めたらいいんや!!

WORLD MEGA-BATTLE OPEN TOURNAMENT 2000
KING of KINGS

トーナメントBブロック

2000.12.22(FRI) 大阪府立体育会館 OPEN-16:00 START-17:00
ロイヤルリングサイド ¥20,000／アリーナリングサイド ¥15,000／リングサイド ¥10,000
アリーナSS ¥6,000／スタンドS ¥7,000／スタンドA ¥5,000／スタンドB ¥3,000
学生特別優待席A ¥2,000／学生特別優待席B ¥1,000
※学生特別優待席（高校生以下）はチケットぴあのみの発売。なお、ご購入時に学生証の提示が必要となります。

出場予定選手
山本 宜久　髙阪　剛　金原 弘光　ヴォルク・ハン　アンドレイ・コピィロフ
イリューヒン・ミーシャ　ヒカルド・アローナ　ボビー・ホフマン ほか
お問合せ:リングス大阪インフォメーション 06-6364-9115

グランドファイナル

2001.2.24(SAT) 両国国技館 OPEN-14:00 START-15:00
★2000.12.10（SUN）チケット発売開始
お問合せ:オデッセー 03-3796-9999

WOWOW情報ダイヤル(24hテープ):045-683-8009
ホームページ:http://www.rings.co.jp/

究極の背水の陣
KOKBブロック
直前！

劇画の中に生きる最後の男

山本宜久

必死の力、必死の心を携えて
いざ、KOKにリベンジ！

とにかくもの凄い練習量である。12・22大阪KOK・Bブロックで究極の背水の陣に挑む山本宜久。いま、ヤマヨシは練習の厳しさは日本一と定評がある新格闘術・藤原道場でヨダレを垂らし、ボロボロになりながら「KOKへのリベンジ」に賭けている。オシャレ化が進む格闘技界でこれほど泥臭く、不器用で、熱い男もいないだろう。劇画の中に生きる最後の格闘家・山本宜久。その必死の心と必死の力をとくと見せてもらおう！

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

前田さんも血尿は出しても血便は出してないでしょ。師匠を越えたな（笑）

——山本さん、リングスのHPに毎日書き込んでる「宜久日記」が大反響ですね！

山本 なんで知ってんの？

——そりゃあ知ってますよ、ファンの間で話題沸騰ですから。でも山本さんって、ネットとかに興味があったんですか？

山本 あんま興味なかった！ メールもやったことなかったしね。でもいまは俺、メル友多いよ！ メールにハマってるから（笑）。

——あの山本宜久がメールにハマってますか（笑）。携帯でやってるんですか？

山本 やってますよ。でもメールってさ、良い面と悪い面があるよね。

——どんなことですか？

山本 メールだと面と向かっては喋りづらいことも結構書けるっていう良い面があるけど、その反面あんまり気持ちが伝わりにくいんだよね。だからメールで「アイ・ラブ・ユー」って打つより、生身で向かい合って「アイ・ラブ・ユー」って耳元で囁いたほうがコロッとくるでしょ？

——山本さんが耳もとで「アイ・ラブ・ユー」って囁いたら、そりゃあイチコロですよ（笑）。

山本 そういうもんでしょ。ハハハーッ！

——ま、メールはともかく（笑）、なんでHPに日記を書き込もう思ったんですか？

山本 俺パソコン持ってないからさ、リングスのHPに書き込まれたのを、会社の人に持ってきてもらってたんですよ。それを読んでたらね、自分が調子いい時だけじゃなくて、悪い時も応援してくれる人がたくさんいたんですよ。それがすごくありがたいと思ってね。そういうファンに対して「自分に出来ることは何かないかな？」と考えたときに、いまの自分の状況や考えてることを書いてみようかなと、ふと思ったんですよね。

——では、あれはファンへの恩返しだったんですね。

山本 うん、それともうひとつ。次のKOKは絶対リベンジしたいんで、自分の意気込みや思ってることを書き込んで宣言することで自分にプレッシャーをかけようと思ったんですよ。

——山本さんのモットーである有言実行をしようと。

山本 そう！ そして宣言したからにはやっぱりとんでもない練習をしなきゃいけないじゃないですか。だから自分にかけたプレッシャーを練習でブチ砕いていこうかなと。それを自分の中だけじゃなく、俺のファンにも証人になって欲しいんですよ。

——ファンに宣言することによって、自分で逃げられない状況を作り出すんですね。

山本 だからホントに個人的なことなんだけど、結果としてファンに喜んでいただけてるんで良かったなと思いますね。

——では、山本さんはもうKOKで頭が一杯だと思うんですけど、そのお話を伺う前にやはり例の〝炎の3連戦（4月20日～6月4日のわずか1ヶ月半の間にJ・ホーン、B・リー、セーム・シュルトと立て続けに闘った）〟の話を聞いておきたいんですけど。

山本 まあ、終わったことは語らなくていいですよ。あれはあれで結果が全てですから、負けた試合をあれこれ言っても仕方ない。結局は練習量が足りなかったってことじゃないですか。

——よく「練習し過ぎ」といわれる山本さんでも足りませんでしたか？

山本 俺、自分ではスタミナあると思ってたんですけど、藤原道場に通って1日目で叩き潰されて、藤原（敏男）先生にも「お前、スタミナないじゃないか」って言われたんですよ。だからそういう意味じゃ、まだまだ練習量が足りなかったんですよ。

——日記には「（シュルト戦は）ヒクソン戦について、自分にとってのターニング・ポイント」って書き込んでましたけど、やはりシュルト戦っていうのは大きかったですか？

山本 凄く注目されてましたからね。そういう意味じゃ、負けてしまったことは悔しかったけど、「何が自分はいけなかったのか」ということをゆっくり考える時間ができたんでね。いいオーバーホールっていえば、オーバ

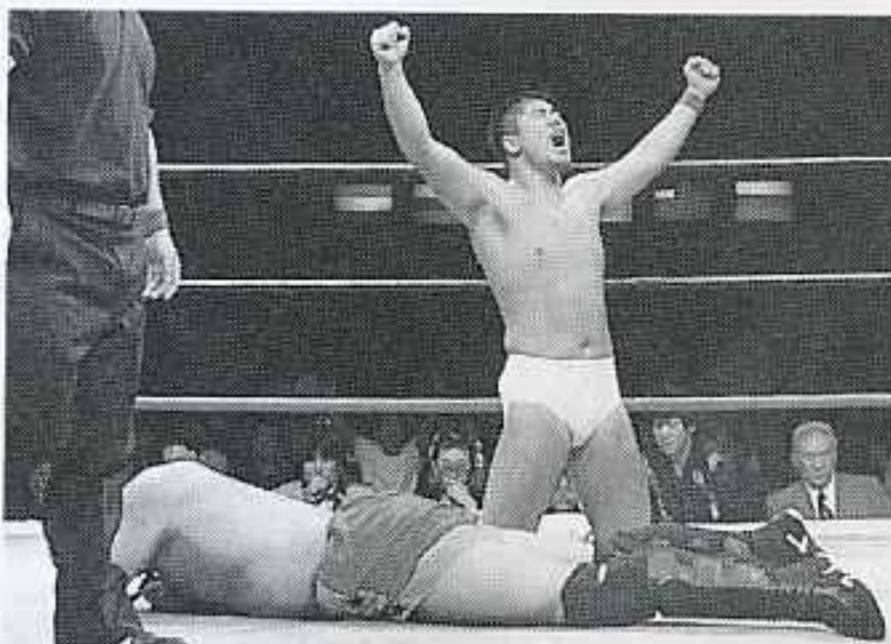
過去2戦のKOKでは、ジェレミー・ホーンとブラッド・コーラーのパンチに苦戦したヤマヨシ。12・22では、そのリベンジで打撃KOを狙ってくるか!?

まだヤマヨシの魅力を知らないアナタへ 山本宜久 激闘史

ヤマヨシ大復活の前に、これまでの名勝負を振り返っておこう。どれもこれも強烈なインパクトを与えた一戦ばかり。ヤマヨシは勝っても負けても記憶に残る男なのだ。でも、12・22は絶対勝てよ、ヤマヨシ！

vsヒクソン・グレイシー 95・4・20日本武道館

山本宜久を語る上で最も欠かせない一戦。当時、プロレス界からは誰一人として対戦を名乗り出るものがいない中、挑戦表明したのが若干デビュー3年の山本（とケンドー・ナガサキ）。山本は開始早々タックルで突っ込み、ロープに腕をまわしながらのフロントチョークでヒクソンを捕獲。セコンドの前田がヒクソン陣営のエリアまで行って、「チンポ出せ！」と指示。場内はヒクソンのピンチに騒然。最後はチョークでヒクソンが完勝したが、試合をヒクソンは首のダメージを訴えた。間違いなく日本で最もヒクソンを苦しめたのは山本である。

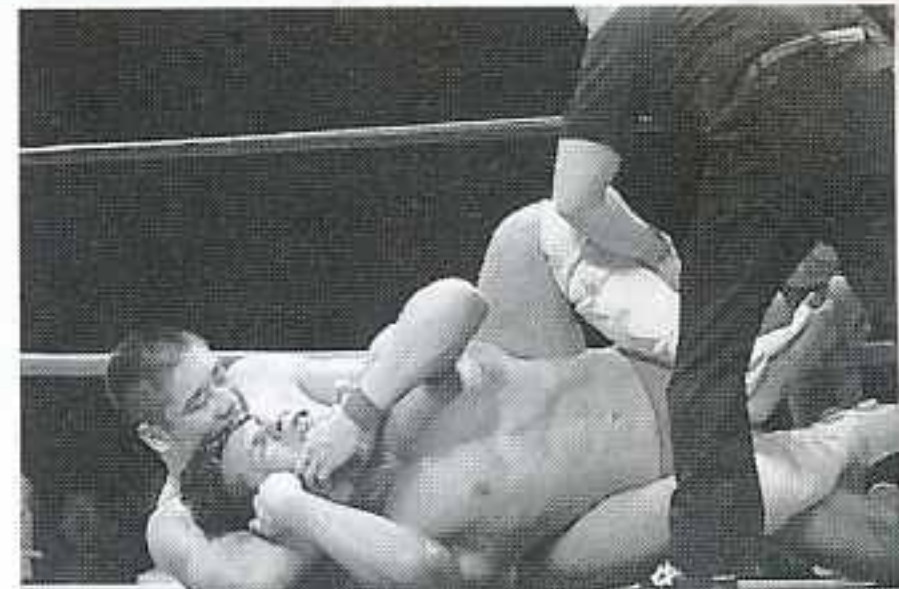
vsディック・フライ 95・9・22札幌中島体育センター

ヒクソン戦を経て柔術スタイルに変ぼうしたヤマヨシが、当時はまだトップの一角を占めていたフライに挑んだ一戦。このカードは2ヶ月前にも組まれ、その時はヤマヨシがTKO勝ちしており、この日は完全決着戦として組まれた。絶好調のヤマヨシは“大物”フライに対して、寝技だけでなく、立ち技でも攻め込み、最後はスリーパーで完全勝利。前田、ハン、フライというトップグループと現在のジャパン勢との間にあった、分厚い壁をブチ破った記念碑的一戦となった。

vsヒカルド・モラエス 96・8・26有明コロシアム

リングス5周年記念のメインとして組まれたこの一戦。『PRIDE・1』が開催される2年も前にリングスではこんなリスキーなカードが組まれていたのだ。当時“無敵”と思われていたグレイシー柔術を使い、しかも205cmという規格外の巨体を持つモラエスが相手だけに下馬評は山本絶対不利。そんな中、山本はなんとオランダのチャクリキ（当時P・アーツが所属）に出稽古に出掛け、この怪物相手に打撃で真っ向勝負。結果は秒殺KO負けとなってしまったが、この無鉄砲さこそ山本の魅力でもある。

ーホールになりましたよね。
——山本さんはヒクソン戦に敗れたあとって、腐るどころか一気に上昇気流に乗りましたよね。だから今回もKOKで一皮剥けた山本宜久が見れるんじゃないかと期待してるんですよ。
山本 一皮剥けるってね、別に俺は包●だったわけじゃないんだから（笑）。
——ガハハハ！ 何をいう！（笑）。
山本 まぁ、一時期山本バッシングって凄かったし、マスコミなんかにもミソクソに言われましたからね。そういうのって、やっぱり男だから「チクショウ、今に見てろよ！」と思うじゃないですか。だから自分のなかで起爆剤にはなりましたね。
——山本さんが欠場中に、前田さんが「山本は今、自信をなくしてる」って言ってたんですけど、やはりそういう時期はあったんですか？
山本 （シュルト戦のあと）手術するまで関節のネズミがチョロチョロして練習できなかったからね。やっぱり「俺はこれだけ練習してるんだ」っていうくらい練習しないと自信は生まれてこないんですよ。苦しい思いして自分の限界超えて、殻を打ち破ってやることによって、少しずつ自信に繋がっていくから。
——そういう意味じゃ、猛練習してるいまは自信あるんじゃないですか？
山本 もう自信満々ですよ！ 今これだけ練習してるのは俺だけだと思うからね。血便、血尿出すまで練習する人いないでしょ？
——血尿は聞いたことありますけど、血便はさすがに聞いたことないですね（笑）。
山本 俺も血便は初めてだよね。だからはじめは「切れ痔かなぁ」と思ったんだけど、ケツ拭いても血ィ付かないわけよ。そして最後はドボドボって血が出てくるんだよ！
——うわぁ〜！
山本 一瞬「●●かな？」と思ったね（笑）。
——そんなバカな（笑）。
山本 でも男だから●●はない、切れ痔でもない。そうなると「これ、ひょっとして血便かなぁ」と思って。思わず「ニヤァー」としちゃったりしてね（笑）。
——ガハハハ！ 血便出して喜んでる格闘家は山本さんぐらいですよ（笑）。
山本 血便、血尿を制覇したから、あとは失禁くらいだね。練習で限界を超えるとションベンちびるらしいよ。藤原先生も昔、ションベンちびってたっていうからね（笑）。
——前田さんも新日本の若手のころは血尿が出るまで練習してたらしいですよ。
山本 でも血尿は出しても血便は出てないでしょ。師匠を超えたな（笑）。
——ガハハハ！ 血便で前田超え（笑）。
山本 それに俺は毎回吐くまでミット打ちやってるからね。
——血便、血尿、そしてゲロまで！（笑）。
山本 でも吐くと先生に「もったいないから飲め！」って言われるんだよ（笑）。
——ゲロを飲め！（笑）。
山本 でも確かにそうなんだよね。せっかくの栄養がさ、吐いたらもったいないやん。だから今は吐きそうになっても飲み込んでるよ。
それだけ自分を痛めつけないとダメだと思うんだよね。
——でも、いまは山本さんみたいな考えの選手って少なくなってますよね。今は自分が頑張ってるところとか、苦しい想いしてるとことか見せたくない。普段は普通の人みたいに見えて、でも試合では格好よく勝ちたいみたいな選手が多いじゃないですか。
山本 まぁ、それは人それぞれですよ。人それぞれ顔も性格も違うように、格闘技に対する考え方も練習方法も、いろいろあると思いますからね。でも俺は先生と練習して、先生の今までの生き方とか考え方が凄く自分に通じるものがあるし。凄くその生き方が自分に合ってるなと思ったからやってるわけですよ！
——〝藤原魂〟に共鳴した、と。
山本 俺の口から〝藤原魂〟とか〝黒崎魂〟とか偉そうなことはいえないけど、藤原先生は実際やってきた方ですからね。実際にこういうトレーニングを積んできて、しかも結果出してきた方ですから。それは凄く証明してますよね。よく口だけでね、自分やってないのに言うことは言う〝言うだけ番長〟みたい

藤原先生が構えるミット、サンドバックを叫び声を上げ、よだれを垂らしながら蹴りあげるヤマヨシ。その間、藤原先生の「バカヤロウ！」「足をあげろ！」「スピードない！」という怒声と、竹刀が常に飛ぶ。選手とコーチが声を張り上げる真剣勝負。もの凄い迫力だ。

vs田村潔司
96・12・21福岡国際センター

この6月にUインターから移籍し、破竹の連勝でのし上がってきた田村を最も意識したのが“新エース”山本。小太刀のお守りを手にUインターのジャージを羽織って現れた田村に対し、リングス旗本である山本は明らかに“潰し”に出た。スタンドでは前田vs佐山ばりに体格差を利して攻め込み、グランドではオランダ仕込みの裏技見せる山本。最後は逆転の飛びつき十字で敗れたが、あの田村が興奮し「俺のベストバウトです」とコメントするほど熱戦。この殺気と緊張感こそ山本の真髄。

vs髙阪剛
97・4・4後楽園ホール

“陰の実力者”から、いよいよトップグループに食い込んで来た“世界のTK”となる前の高阪と、山本の一戦。山本は当時、田村、タリエルに敗れ「スランプ」といわれていたが、この日はそれが嘘のような動きの良さ。TKとシバキ合い、極め合うリングス・スタイルの理想形といえる試合を展開し、結局30分フルタイムをノンストップで闘い抜き、前田をして「UWFから数えて、3本の指に入る名勝負」と言わせた。結果はわずか1ポイント差で敗れたが、山本は再び上昇気流に乗った。

vs前田日明
98・7・20横浜アリーナ

前田日明の「リングス・ラストマッチ」にヘルニアで1年間欠場していた山本がなんとか間に合い、ファンが望む師弟対決が実現。山本はこの大舞台になんと決して似合うとは言えない金髪で登場。試合では恩返しとばかりに、師匠の顔面をひたすらしばきまくる。鼻血を流しながら必死に闘う前田日明。引退する大スターがボロボロにされるという前代未聞の一戦となった。しかも「前田勝利」の判定が下ると、引退するカリスマにブーイング！ 試合後前田は山本の勝利を認めた。

vs田村潔司
99・6・26後楽園ホール

“宿命のライバル”といわれた山本と田村だが、対戦成績はここまで田村の2連勝。山本が3度目の正直で挑んだ一戦は、田村がゴング前に握手と見せかけて山本の顔面を張り、いきなりヒートアップ。試合はまたしても意地と意地、技術と技術がぶつかり合う大熱戦。ファンの悲鳴のような歓声が一時も止まないまま、ポイント差なしの20分フルタイム・ドロー。試合後、史上初の「リングスコール」が大爆発。文句ナシのリングス・ベストバウト。KOKでもこの二人の闘いが見たい！

自分の潜在能力を100%引き出して オレはケンシロウになるよ！

な人がいっぱいいますけど。先生の場合はすべて自分でやって、そして実際にムエタイのチャンピオンになってますから。

——そういう人だからこそ、言うことにも説得力があると。

山本　そうですよ。やっぱり藤原先生といえば精神論ですからね。先生は言うんですよ。「格闘家にオーバーワークはない。自分の休みたいと思う心がオーバーワークなんだ」って。確かにそうだなって思いますよね。だから先生にビシッと言われると、自分の限界以上のものを出させてくれるんですよ。

——そういえば藤原道場で練習見させてもらいましたけど、山本選手がキックのミット打ちやってるときに、疲れてスピードが遅くなってきても、先生の怒声が飛ぶと不思議なことにまた早くなるんですよね。

山本　そう、「お前、それでもプロかぁ！」とか「バカヤロー！　そんな蹴りじゃ足にトンボが止まるぞ！」とか先生に罵声を浴びせられるじゃないですか。そうなると俺は「クソォー」と思うから、自分の限界以上のことを出せるんですよね。

——それは科学トレーニングでは図り知れないものですか？

山本　図り知れないもんですよ。人間っていうのは本来、脳なんかでも30％使ってないっていうじゃないですか。先生はその人間の潜在能力を引き出してくれますよね。だから、俺は今度の試合では自分の潜在能力を100％出せるようにするから。「北斗の拳」みたいにね（笑）。

——北斗の拳！　世紀末に相応しいですねぇ（笑）。

山本　俺はケンシロウになるよ！（笑）。

——ガハハハ！　無酸素ラッシュを超えて、北斗百列拳までいくと（笑）。

山本　そこまでいかないとダメでしょ。極限までやらないとね。

——そういえば山本さんは藤原道場だけでなく、日体大のレスリング部にも練習に行ってるんですよね？

山本　そう、毎回チョコチョコ練習させてもらったりとかはしてたんですけど、いまは藤原道場と1日交代で行ってますよ。

——山本さんと日体大のレスリング部って、どんな繋がりなんですか？

山本　いや、別に。〝メル友ネットワーク〟ですよ（笑）。

——そんなネットワークがあったんですか（笑）。

山本　でも、レスリングもやってみると奥が深いね。やっぱりレスリング専門でやってる人っていうのは、崩しとか凄く巧いですから、やってるうちに、「こういう崩し方もあるんだな」とか、「こういう技術があるんだな」とか凄く発見することが多いんですよ。それに最初は投げられてたのが、そのうち投げられなくなったり、自分がテイクダウン取れたりとか。やっぱり少しずつ自分が変わっていくのがわかるんで、凄くタメになりますよね。

——でも、アマチュアの選手とプロの選手がやると、例えば「リングスの山本はレスリングやったら、俺に転がされたぜ」とか言われる危険性だってあるわけじゃないですか。そういうのって、意識はしませんか？

山本　あんまり気にしてないですね。自分の為の練習ですからね。やっぱり自分の道場だけで得られる技術って、限界があるんですよ。だからもっとレスリングが強くなりたかったら専門のところに行って、どんどん強いヤツとやって揉まれるしかないんですよ。

——強くなるためには、メンツにこだわってられない、と。

山本　メンツ考えて強くなったら、それにこしたことないですよ。でもメンツにこだわってウチに籠ってたらそれ以上成長しませんからね。そりゃあテイクダウン取られれば悔しいですよ。でも「次は取られたくない」っていう気持ちになりますよね。それでやっぱり向上していくわけじゃないですか。プロはリング上がすべてですから。練習で悔しい思いしても、試合に勝って笑えばいいんですよ。

——じゃあ、いまは前田道場のほかに、藤原道場、そして日体大レスリング部と3ケ所で練習三昧の生活を送ってるわけですね？

山本　そうですよ！　だから移動で車に乗ると疲れてるから凄く眠くなるんですよね。何回かオカマ掘りそうになってるからね（笑）。

——危ないじゃないですか！

山本　だから車の中でテンション上げようと思って、「何かいい曲ない？」って聞いたんですよ。そしたら「尾崎（豊）がいいですよ」っていうから尾崎のCD買って、「15の夜」聞きながら高速乗ったら、も～の凄く眠くな

った（笑）。
——ガハハ！　逆効果（笑）。
山本　でもね「15の夜」は、子供たちに聴かせちゃいけないよね。いい詩じゃないからね。
——「15の夜」は詩が悪い！（笑）。
山本　だってバイク盗んだり、授業中も全然先生の話し聞かなかったりするんだよ。俺も授業は聞いてなかったけどさ（笑）。
——山本さんの青春も「15の夜」でしたか（笑）。
山本　勉強好きじゃなかったからね。一時限目で弁当食べて、あとは顔の前に本を立てて熟睡だよね。
——見事です！（笑）。
山本　でも俺が勉強したら、やっぱり凄いだろうなと思うよ。
——「凄い」ってどんな風にですか？
山本　性格上、自分の好きなものはとことん追求するタイプだからさ。もし、何かのキッカケで勉強が好きになってたら、とことん勉強してただろうなあって。
——「勉強にオーバーワークはない」とか言いながら、寝ないで勉強しそうですよね（笑）。
山本　いまごろ〝アインシュタイン〟って呼ばれてたかも（笑）。
——ガハハハ！　抜群です！（笑）。ちょっと話が反れたんで元に戻しますけど、それだけ練習三昧だと、やはり身体を壊しちゃうんじゃないかというのが心配なんですけど。
山本　まぁ、俺と同じメニューを一緒にやってた新弟子なんて限界超えちゃって、いま顔から頭にかけてヘルペス（極度の疲労で発生する疱疹）できちゃったからね。
——僕も見ましたけど、あれは凄いですね！
山本　あいつも体力回復に〝ニンニク注射〟打たなきゃダメだよ。
——〝ニンニク注射〟って、どういうもんなんですか？
山本　デカイ注射器でニンニクのエキスを血管に通して流し込むんですよ。すっげえクサイよ。俺も病院行ったら打たれたんだけどさ。先生が看護婦さんに「清原と同じヤツ」って言うわけ。
——巨人軍の清原和博選手ですか？
山本　そう。俺も「巨人の清原選手ですか？」って聞いたんだよ。そしたらホントにそうで、しかも清原さんは体デカイから2本打ったって言うんだよ。だから俺も負けじと2本打ってもらったよ（笑）。
——ガハハ！　ニンニク注射で張り合いましたか（笑）。
山本　そこは負けれないでしょ（笑）。でも、これがまたクッサイんですよ！　鼻息がクサくなるんだよね。
——身体の内面がすでに臭い（笑）。
山本　それでさ、「今日はニンニクパワーで行くぞぉ！」と思って藤原道場に行ったら、ちょっとしたらすぐ息が上がるんだよね。
——全然効いてないじゃないですか！（笑）。
山本　効かないんだよ！　効かないのに鼻息はクサイ。あのときはブルーになったね（笑）。
——それにしても、山本さんは独自の健康法とか、体力増強法を凄い研究してますよね？
山本　俺は健康法にはうるさいよ！　今はね、風邪引いたら微生物の「ナチュラルなんとか」っていうのやってんの。
——なんですか、それ？
山本　だから微生物！　今はね、微生物の時代なんだよね。
——微生物の時代……ですか？
山本　そう！　うがい薬もイソジンとかあるけど、あんなの全然効かないやん。でもその微生物を含んだ液体でうがいしたら一発なんだよ。
——そんなに効くんですか？
山本　効く！　のどが痛いっていうのはさぁ、結局のどチンコに悪い微生物が付いてるってことなんだよ。だからその「ナチュラルなんとか」でうがいすると、いい微生物がひっついて、悪い微生物を退治してくれるわけよ。これは効くよ！　微生物のおかげで俺、昨日風邪ひいて熱があったんだけど、今はだいぶ調子いいしね。
——ビフィズス菌で飲んで胃腸が良くなるとか、そんな感じですかね？
山本　もっといい菌だけどね。アップルジュースを発酵したような匂いがしてクサイけど効くよ。
——他にも「ダイエット・コークに生卵入れてシェイクして、一気に飲む」っていうのもやってるらしいじゃないですか。
山本　あれも効くよぉ！　コーラだとカロリー高いからさ、ダイエット・コークに生卵入れてね。これは藤原先生が現役時代にやってて「それ飲むと元気良くなる」って雑誌に書いてあったんだよね。
——藤原先生から伝承しましたか（笑）。
山本　あれ、効いたねえ〜。おいしいやん。昔はコーラってクスリみたいなもんだったんだよ。あれ糖分だからさ。体だって糖分入れると元気になるでしょ。それで生卵入れるでしょ。も〜う、パーフェクトだよっ！
——パーフェクトですか！
山本　あといいのはね、「小児用かぜシロップ」。
——「小児用」なんですか⁉
山本　あれ、3本くらい飲んだら効くよ。
——3本も！
山本　だって小児用だよ。赤ちゃん飲むやつだからさ、3本位は飲まなきゃ。
——そもそもなんで小児用なんですか？
山本　小児用って赤ちゃんが飲むやつだからさ、すごく身体にやさしいんだよね。だからレトルトカレーなんかでもさ、3才の子供が食べる「星の王子さま」っていうのがあるだけど、あれが添加物が入ってなくてないわけよ。ちっちゃい赤ちゃんは抵抗力ないから、添加物入ってるとマズイでしょ。だから子供用は身体に良くていいよ。おいしいし。
——そういうのって健康の本とかには載ってるんですか？
山本　人に教えてもらったり自分で研究したりね。そして自分の身体で試してみるんですよ。やっぱり人それぞれ体質があるからね。
——まぁ、これだけ健康法があれば、12・22当日まで体調は大丈夫ですね。
山本　いまは疲れてボロボロだけどね（苦笑）。
——ところで雑誌で見たんですけど、橋本（真也）選手と会ったらしいですね。
山本　橋本さん？　ああ、あるパーティに呼ばれたんですよ。
——橋本選手と面識はあったんですか？

ラウンド間、一瞬たりとも休むことが許されない過酷な練習。山本はラウンド終了のブザーが鳴ると、グタリと倒れこんだ。しかし、ほとんど時間をおかずに「ようやく暖まってきたか、ボチボチいくぞ！」という、藤原先生の声が飛ぶ。過酷。

対戦相手が誰であろうと関係ない 俺のテーマは「KOKにリベンジ」だから

山本　『コロシアム２０００』で一回会ってますよ。

——ああ、そういえばそうですね。

山本　俺が『ＺＥＲＯ』入りなんていったらどうする、面白いでしょ？（笑）。

——それは実に面白いですよ。さっそく表紙に打ちましょう！（笑）。

山本　それは前田さんに怒られるよ（笑）。

——「認めん！」とか（笑）。

山本　でも別にいいよねえ？（他団体の選手と）挨拶して普通に喋ってるだけなんだから。夢が広がるでしょ？

——すごくいいことですよ！

山本　橋本さんには「技術交流しよう」って言われたからさ。

——今は桜庭さんなんかもチョップ使ってますから、ゼヒ袈裟切りチョップを伝授してもらってほしいですね（笑）。夢が広がったところで、そろそろ佳境に入りましょう！　いよいよ対戦相手も決まったようですけど、印象はいかがですか？

山本　知りません。誰でもいいです。

——ホントに知らないんですか？

山本　今回の俺のテーマは「ＫＯＫへのリベンジ」なんですよ。だから別に誰が来ようと関係ないですね。自分を追い込んでそれだけの練習してますから。

——ということは「ＫＯＫ」っていう競技自体に自分を打ち勝てるか、どれだけ通用出来るかっていうことも大きいわけですか？

山本　あんまり詳しく聞かなくていいですよ。とにかくリベンジ！

——「ＫＯＫにリベンジ」ということは、前のリングスルールの方が良かったなと思うこともあるんですか？

山本　まったくないですね。だって過去を振り返っても仕方ないでしょ。現在進行形ですからね。だからとにかく大阪でリング上で笑うのは、この俺だから。ＫＯＫ出場メンバーの中で俺より練習してる選手誰もいないでしょ？　だから誰が来ても勝つ！　それだけですよ。とにかく勝って、「見たかガンツ、コノヤロー！」って叫んでやるっ！

——なぜだ（笑）。

山本　コーナーから「ガンツ、熊久保、見たかーッ！」ってね。ハハハーッ！

——クマクマンボさんまで（笑）。でも今回は山本さんがどんだけ練習してきたか、どんな思いでいるのかっていうのはファンに伝わりますけど、どうしても評価っていうのは、勝ち負けになっちゃうと思うんですよ。だから今回ばかりはホントに頑張ってください！

山本　頑張るなんて当たり前やん！　勝つ！　勝つの！「勝って下さい」じゃなくて、勝つの！

——必勝宣言ですね。

山本　だって、それしかないやん。勝つ！

——では、恒例のフィニッシュの予告とかはありますか？

山本　多摩川低空アッパーですよ！

——多摩川低空アッパー！　それは実に楽しみですね！　では、勝利を期待してますんで。

山本　「期待する」じゃなくて、勝つの！

【00年11月21日　前田道場にて収録】

このインタビューの直後、ヤマヨシの1回戦の相手がタリエルの弟・アミランに決定した。KOK初登場だけに、その強さは未知数であるが、昨年の第7回極真世界大会ベスト16という、総合ではトップクラスの打撃の誇り、しかも2メートルの巨体。おまけにいまはレスリングの練習に余念がないという、第2のセーム・シュルトになれる逸材なのだ。はたしてヤマヨシはこの〝怪物〟にどう挑むのか。勝て、ヤマヨシ！

これが噂の「多摩川低空アッパー」か！　藤原先生が構えるミットに唸りをあげて叩き込まれるヤマヨシの拳。確かに以前より遥かにスピードが増している。長身のアミラン、バヘートに対する秘策はこれだ！

ヤマヨシ・サイン入り 2001年 リングスカレンダー プレゼント

リングスの2001年度のカレンダーが完成した。今年はポスタータイプで大きさはB3サイズというなかなかの大判。リングス・ジャパン勢が金網の中にいるデザインだが、はたしてTK以外のオクタゴン進出があるのか!?　今回はリングスさんの御好意でこのカレンダーにヤマヨシのサインを入れて、3名様にプレゼントします。これを部屋に貼れば、自然と気合いが入り、劇画的な毎日が送れることは間違いなし。応募方法は176ページ参照。また、このカレンダーはリングス会場、リングス通販でも発売中です（1000円・送料300円）。

ヤマヨシ、1回戦の相手はアミランだ！

WORLD MEGA-BATTLE OPEN TOUNAMENT 2000

KING of KINGS Bブロック

12月22日（金）大阪府立体育会館

開場　16：00／開始　17：00

■入場料金

ロイヤルリングサイド	¥20.000—	アリーナリングサイド	¥15.000—
リングサイド	¥10.000—	アリーナSS	¥6.000—
スタンドS	¥7.000—	スタンドA	¥5.000—
スタンドB	¥3.000—	学生特別優待席A	¥2.000—
学生特別優待席B	¥1.000—		

※学生特別優待席は「チケットぴあ」のみでの販売。高校生以下。要学生証提示。

■発売場所

チケットぴあ	06-6363-9999（Pコード　594-030）
ローソンチケット	06-6369-6633（Lコード　55252）
ビデオショップチャンピオン	06-6645-5186
プロレスショップ・パディスラム	06-6645-1378
リング・ソウル	078-351-1550
リングス大阪インフォメーション	06-6364-9115

藤原魂伝承対談

鉄人 藤原敏男
〈元ムエタイ・ラジャダムナンスタジアム・ライト級王者〉

武人 山本宜久
〈リングスバカ一代〉

撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda
酔っぱらい／堀江ガンツ
deisui by Gunts Konoyarou

“鬼の黒崎”と呼ばれた黒崎健時から藤原敏男、そして今、山本宜久へ――。「先生の生きざまは自分に通じる」とヤマヨシが語るように、現在ヤマヨシは人間の限界に挑む練習だけでなく、精神面でも、そのイズムを受け継ごうとしている。ヤマヨシが傾倒する藤原魂とは何か？　その神髄はハッキリ言って、凄い！

――先生、今日はよろしくお願いします。

藤原　いや、練習を見ての通りだよ。あとは何も言うことないから。俺、ビールね。

――先生に話していただかないと、ページになりませんから、ドンドン飲んでください（笑）。先生は最初に山本選手が来られたとき、どんな印象を持ちましたか？

藤原　凄くいい子だと思ったよ。試合に勝ちたい、そのために本気で打撃を学びたいという気持ちが凄く感じられたからね。でも打撃は本人も認めてるけど荒削りだよ。そしてまず直すところは、スピードアップだね。

山本　藤原道場に来たばかりのときはウェートオーバーで、過去最高の114キロあったんですよ。動ける体じゃなかった（笑）。

藤原　俺の弟子も11月3日に試合あったんだけど、17キロ落としてもらったよ。

山本　17キロですか！　それ一ヶ月でですよね？　力石徹みたいだなぁ（笑）。人間やろうと思えばなんでも出来るんですね。

藤原　やる気だよね。山本君はそのやる気があったんだよ。だから俺だって真剣に教えるわけだしね。

――いまは本当に極限まで追い込むような練習をやってますよね。

山本　先生には「自分の体だと思うな、人の体だと思え」って言われてるんですよ。まだ自分の体って思ってますから、もっともっとやり込んでスタミナをつけなきゃいけないですね。KOKってやっぱりスタミナ勝負だと思うから。スタミナがあれば5分間全力で攻撃できるじゃないですか。制限時間すべて無酸素ラッシュですよ！

藤原　だから俺は（ギルバート・）アイブルが結構好きなの。代々木で田村君とやった時も、開始早々ガーッとやったでしょ。ああいう荒っぽい攻撃って、俺が（現役時代に）やってたことだから。「相手が何しようがかまわかまわねえ！」って。自分が思った通り、気持ちをバーンとぶつけるんだよ。

――それはまさに山本さんが求めてるものでもありますよね。

藤原　でも、そこでやっちゃいけないのが

ロシアンフックね。

——ガハハハ！　ロシアンフックはダメですか（笑）。

藤原　だめだよ、あんな佐山のデブが言ってること。

——佐山のデブ！（笑）。

山本　僕もサンドバックにロシアンフック打ってたら、先生に「馬鹿野郎！　そんなもん効くわけねえだろ！」って言われましたから（笑）。

藤原　だって理屈で考えてみなって。なんでそんなんで相手にダメージを与えることが出来るんだって。しかもリングスはこんな薄いグローブなんだから、手首折れるよ。頭の骨の方が強いからさ。

——確かにあれで成功してるのは本家のブチャンチンぐらいですもんね。

藤原　骨格からして日本人とロシア人とでは違うんだから。日本人があれやったら絶対手首が折れちゃうよ。とにかくロシアンフックだけは絶対やめた方がいい。

山本　わかりました（笑）。

——山本さんもここに来てから藤原先生の影響をずいぶん受けてると思うんですけど、例えば風邪をひいたときに、コーラに生卵を入れて飲むというのも、先生が実際にやってたことなんですよね。

山本　そうです。雑誌で見たんですよ。

不可能なんかねぇんだ！　不可能を可能にするのが練習なんだよ！

——先生もやはり現役時代は、食事なんかにも気を配られてたんですか？

藤原　食い物はねぇ、練習でクタクタの身体でしょ。だからもう肉でも魚でも野菜でも唐辛子でもニンニクでも、でかい鍋にぶち込むんだよ。それから豚の頭とか足とか耳を入れたりね。それを長時間ぐつぐつ煮込むんだよ。

——それは無茶苦茶スタミナつきそうですね（笑）。

山本　テールスープがいいっていいますもんね。馬の尻尾が。

藤原　馬の尻尾より馬の金玉の方がいいよ。

——ガハハハ！　馬の金玉！（笑）。

藤原　府中競馬でダメになったやつのを一本チョン切って、それを炒めたんだよ。その日からもう、大変だったよ（笑）。

——ガハハハハ！　それは山本さんもぜひ試してみるべきですね。

藤原　それから鍋は辛くなきゃダメね。タイ人があんな暑いなかでバチバチやっても息が乱れないのは、心臓が強いからなんだよ。そして子供の頃から辛いもの食ってるから強くなる。だからウチの鍋は試合前は大体10倍ぐらい辛くするから（笑）。

山本　最近ウチのチャンコ辛くないんですよ。ダメですね。明日から辛くしなきゃ。

——先生は自分で食べてみて、体に何が効くのかを試してたんですか？

藤原　試したよ。一番効くなと思ったのは、池袋西口にある店の豚足ね。このあいだも行ったけど、うまいよ。今度食わしてやるよ。あれ食ったらもう負けられないよ（笑）。

山本　前田さんも好きなんですよ。豚足かじって前歯折っちゃいましたから（笑）。

——ガハハハ！　そんなにかじりつかなくても（笑）。でも今、栄養学を取り入れてる選手が多いですけど、昔から格闘家は実践している人多いですよね。

藤原　確かに栄養を考えてカロリーを計算して、それはそれでいいと思うんだけど、運動によって激しさが違ってくるでしょ。同じキツイでもテニスのキツイと格闘技のキツイは違うんだから。俺はキックやる前にテニスやってたからわかるんだよ。

——テニスやってたんですか？　ちょっと意外ですね（笑）。

藤原　あのころ、皇太子さまと美智子さまがテニスで愛を育てて結婚したんだよ。それで「俺もテニスやろう！」と（笑）。

——ガハハハハ！

藤原　だから一概にどれがいい悪いは言えないし。自分に合った食べ物を幅広く研究した方がいいよ。

——山本さんも「30歳になって疲れがとれなくなってきた」って言ってたから、豚足食ってスタミナつけた方がいいですね（笑）。

藤原　30なの？（しみじみと）いいねえ。

——いい年齢ですか？

藤原　俺もちょうど28～32、33までが最高に良かったから。タイのチャンピオンになったのが32歳だからね。

山本　32歳だったんですか！　僕もまだまだいけますね（笑）。オーバーワークなんて言ってられないですよ。

藤原　俺に言わせたらオーバーワークなんてないんだよ。今はすぐにオーバーワークだとか疲労骨折だとか言うけど、俺らの頃は疲労骨折なんてなかったんだよ。今なんかボクシングの人に聞くと世界チャンピオンでも1時間半ぐらいやってオーバーワークでしょ。なんでそんなもんで強くなるんだって！　俺はいくらやっても足りなかったよ。一日が30時間ぐらいあればいいなと。そうすればもっと練習出来るって。

——先生は現役時代は休息はどのようにとられてたんですか？

藤原　ウチは休息がないの（笑）。

——ガハハハ！　年中無休（笑）。

藤原　そう、一年365日ね。例えば試合が終わった次の日普通あちこち痛いでしょ。でも、足や腰が痛くても「鏡の前で座ってパンチのトレーニングが出来るだろ！」って言われてたから。休むとか休息するってことが頭から外されちゃったわけ。練習イコール休息だから。

——練習イコール休憩！　とんでもない世界ですね。

山本　だから藤原道場の人って試合が終わった次の日でも練習してるんですよ。「あれ、試合いつだったの？」って聞いたら「昨日です」って（笑）。だから怪我しても出来ることをやれってことですよね。

藤原　俺の頭には、休息だとか不可能って言葉はないんですよ。不可能なものを可能にするのが練習だから。

山本　ホントにそのとおりですよね。

藤原　だから多分ウチは一番練習キツイと思うんだよ。俺が今の奴らの数倍やってきてるから。痛いだの、疲れ気味だの、疲労骨折だのは今流行の現代病だと思ってるから。例えば「まさか、こんなことは出来ないだろう」っていう技がひらめくだろ。出来ないかもしれないけど、練習を積み重ねていけば出来るかもしれない。それが不可能を可能にするためのトレーニングだから。

山本　僕も自分で「出来ない」と決めない限り不可能なことはないと思うんですよ。

藤原　ない！　だから俺と若い連中は発想からして違うんだよ。ロープでバーンとジャンプしてさ、三回転して相手の後頭部バーンと蹴ってKOしたら格好いいぞぉ。なんでそれにチャレンジしないんだって！

山本　頑張ってみます（笑）。

——先生の現役の時代って練習だけじゃなく、試合数も多かったんですよね。

山本　先生の実績見たら凄いよ（笑）。百何戦でしたっけ？

藤原　141戦（通算戦績126勝13敗2分97KO。凄い!!）。

——いまじゃ考えられませんね（笑）。

山本　（そんなにやったら）普通だったらパンチドランカーなるじゃないですか？

とにかくスタミナつけて試合では制限時間すべて無酸素ラッシュですよ！

藤原魂伝承対談
藤原敏男×山本宜久

（山本は）どんな事があっても最高の勝ち方で決勝まで行かせる！（藤原）

藤原　俺打たれねぇもん。痛いの嫌だから。
——普通は嫌でも打たれますよね（笑）。
藤原　いいのもらったら、もう頭にきちゃってね。俺、頭にきたら終わりだから。
——どうなっちゃうんですか？
藤原　相手を殺すだけだよね。
——殺しますか！（笑）。
藤原　一発もらったら5倍から10倍返さなきゃ気がすまないから。体はいいの、顔打たれたら凄い嫌なの。こんないい顔が変な顔にされたらね（笑）。だから15年間でいやつをもらったのは10発ぐらいかな？
山本　15年で10発ですか！　凄いっスねえ！
藤原　俺は打たせない自信があるんだよ。練習量が違うんだからさ。
山本　しかも先生は昔はキックだけじゃなくて、ボクシングやレスリングの練習までしてたんですよね。
藤原　うん。タイ人に投げられた時に「レスリングやろう」って思ったんだよ。だから若かったら、俺も総合格闘技やってるだろうね。「グレイシー？　上等だ！」って（笑）。
山本　それでタイのチャンピオンもタックルで倒したんですよね。
藤原　そう、相手がくる瞬間に頭からドーンと落としたんだよ。だから俺が講道館行ったり拓大行ったり、角海老（ボクシングジム）いったりなんかしたとき「なんでそんなもんするんだ」って言われたけど、俺はキックを活かす為にトレーニングの中に導入したんだよ。まあ、根っから体動かすのが好きなんだよね。だから今でも1ラウンドだけだったら現役と試合できるよ。
山本　先生凄くいい体してますもんね。ふくらはぎとかパンパンですもんね。
——やはり先生も道場で一緒になってやってるからなんでしょうね。
藤原　でも最近ね、山本君とか極真の野地（竜太）君とか（外部の人間を）教えてるから、ウチの連中がヤキモチやきはじめたんだよ。口にはあんまり出さないけど「俺もやってもらいたい」って気持ちあるんだろうな。
——山本さんもホントにありがたい環境にいるんですね。
藤原　それは構わないけどね。やっぱり門を叩いて来てくれたからには、精神と肉体を鍛えて、22日はどんな事があっても最高の勝ち方をして決勝戦までいかせるから。それにはここ一番の時に強さを発揮する為の辛い練習をやっておかないと。
山本　ハイ！
藤原　後悔しない為には絶対勝たなきゃいけない。勝つ為のトレーニングだから我慢してやった方がいいよ。「もっと楽な稽古がいいな」って思ったら、来なくていいから。「夜は可愛い女の子のいる所にいきたいな」って、それぐらいはいいよ（笑）。
——ガハハハ！　いいんですか（笑）。
山本　でも最近性欲もないですよ。
——え!?　それは問題ないじゃないですか？
藤原　なくなってくるんだよ。
——そうなんですか？
藤原　頭から女の煩悩がなくなってくる。俺が現役の頃は稽古が終わったら、9時か10時にバターンと寝るから。あの子がどうだとかはないし、まず外の環境とは絶縁だったから。
山本　僕も帰って風呂入ってもうすぐ寝ますね。また明日あるから。
藤原　俺なんか道場が（ビルの）4階で宿舎が5階だから（笑）。
——ガハハハ！　それは何もしようがないですね（笑）。
藤原　だからビルから出るのは朝のロードワーク、晩飯の買い出しと銭湯ぐらいだよ。しかも買い出しも銭湯も「何時に帰ってくる」って連絡してね。
山本　先生も住み込みでやってたんですか？
藤原　住み込みなんてもんじゃないよ。24時間365日監視されてるんだから（笑）。「休んでいいよ」っていう日も1年に2、3回あったけど、その間も黒崎先生の運転手してたから。
山本　運転もなさってたんですか？
藤原　そう。運転してると運転中のトレーニングがあるわけ。
——運転中のトレーニング？
藤原　前に車が走ってると、「格闘技は前に出なきゃダメだ。追い抜け！」っていうのよ（笑）。
——ガハハハハ！
藤原　だから5台バーッと抜いたりね（笑）。
——5台もですか！（笑）。
藤原　そんで前にパトカーがいたんだよ。でもかまわず抜いたら捕まったね（笑）。
——パトカー追いこしたら、そりゃ捕まりますよ！（笑）。
藤原　さすがに先生にも「馬鹿野郎！」って言われたけどね（笑）。だから「道場にいるだけが稽古じゃない、そういうのは頭のトレーニングだ」と言われてたんだよ。ビルを出た瞬間に敵が上からブロックを投げてくるかもしれない。だから出る瞬間にサッと上の方の気配を感じて、左右を瞬間に見て判断して、それから出るんだと。
——ゴルゴ13のような世界ですね（笑）。
藤原　他にも道路歩いてて、罠があるかもしれないからマンホールは踏むんじゃねえとか。路地からサッと敵が出てきたらどうするんだ、とか。そんなことばっかりやってたからね。
山本　24時間格闘技なんですね。
藤原　闘いの為の24時間だよ。だから俺は一日30時間欲しかったんだよ。
山本　先生の話を聞くと、僕も、もっと練習しないとって思いますね。
藤原　あそう。じゃあ明日から5時間やる？
——ガハハハハ！
藤原　まぁ、とにかくBブロック勝ち抜くためには、12月の15日までに今までの2倍から3倍のスピードをつける必要がある。そのためには練習しかないから。練習で泣いて試合で笑えるような男になってもらいたいね。なんだか22日はジャッジじゃなくて、セコンドやりたくなったな（笑）。
——いいですね！　ゼヒ竹刀持って（笑）。
藤原　とにかく今は練習だ。明日から厳しくなるから、早く来いよ！
山本　押忍！

【00年11月14日　足立区　藤原道場の隣にある『庄や』にて収録】

素晴らしい！
全くもってヤマヨシは、よくぞここまで自分に合った素晴らしい師匠を見つけたものである。ゼヒこのままバク進してほしいものだ。さて、この言葉の藤原イズムは、とどまることを知らず、お酒も入り結局延々4時間！（聞き手は途中で泥酔！）このあとも、敏ちゃん先生（by佐山聡）の口からは、佐山、小川らの強烈エピソードが次々と飛び出したが、それらはスペースの都合で泣く泣くカット！　必ずや改めて、藤原先生の単独インタビューを掲載しますのでお楽しみに！
山本選手、藤原先生失礼しました！
とにかく！　この素晴らしき藤原イズム、黒崎イズムを注入されたヤマヨシ。あとはそれを12・22大阪で爆発させるだけだ！
我々もヤマヨシの激勝を見に、12月22日は豚足食って、大阪に集合！（でも、来る途中でパトカーは追いこすなよ！）

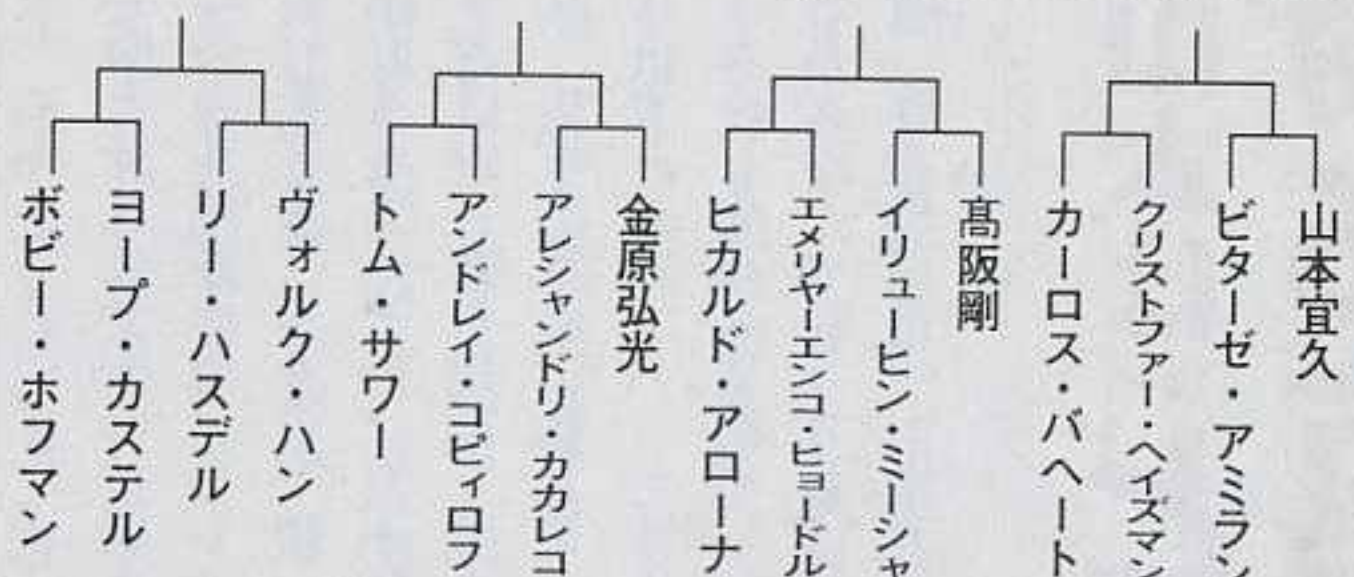
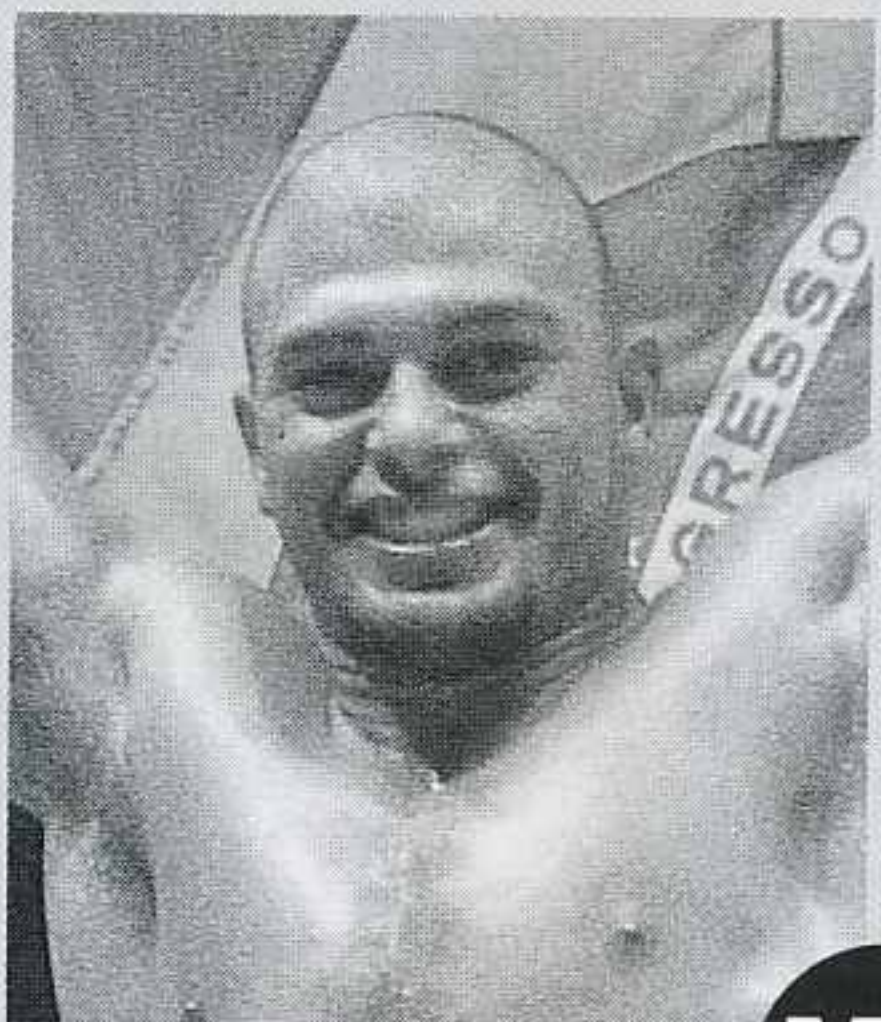
【ふじわらとしお】1948年3月3日、岩手県出身。“鬼の黒崎”と恐れられた、元極真空手の師範、黒崎健時に鍛え上げられ、外国人として初めてムエタイ王者となった、日本格闘技史上最強のキックボクサー。現在は新格闘術・藤原道場を主宰。その圧倒的な練習量には定評がある。リングスでは審議委員を努め、その独特の採点方法はファンの話題となった。

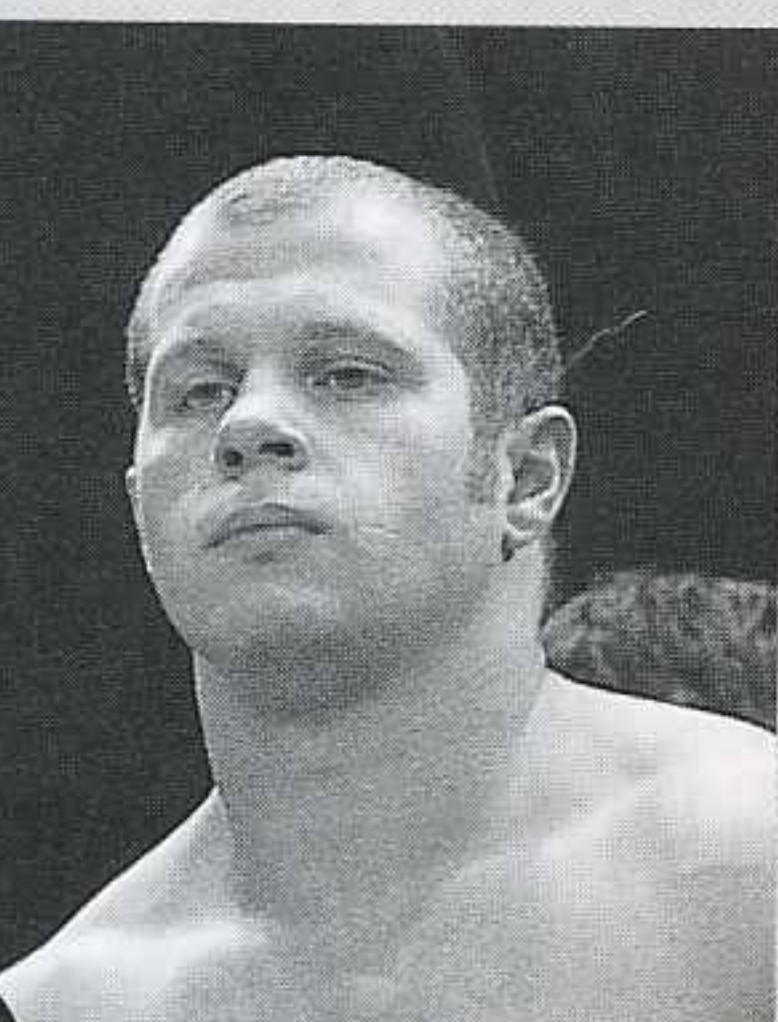
見どころ大解剖&豪華賞品付クイズ!!

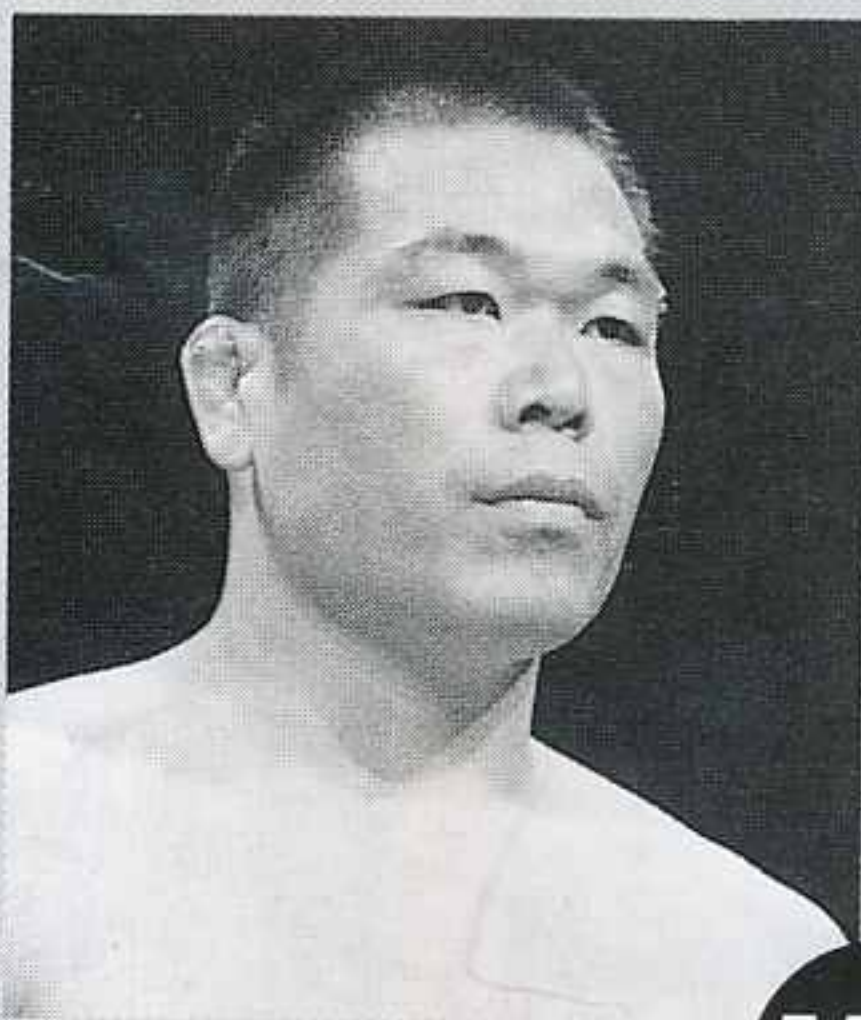
またまたやって来ました、恒例のKOK見どころ大解剖。今回もまた実力者ばかりが大集合した、ヨダレもののメンツが揃ったが、その凄さが一般層にあまりに伝わっていないこともまた事実。数多くいると思われる「KOK食わず嫌い」のために、今回もその見どころを優しく分析しましょう。なお、クイズの宛先は次のページで〜す。

Aブロック4名と合わせて8名が、2.22両国のGRAND FINALに進出

山本宜久
ビターゼ・アミラン
クリストファー・ヘイズマン
カーロス・バヘート
髙阪剛
イリューヒン・ミーシャ
エメリヤーエンコ・ヒョードル
ヒカルド・アローナ
金原弘光
アレシャンドリ・カカレコ
アンドレイ・コピィロフ
トム・サワー
ヴォルク・ハン
リー・ハスデル
ヨープ・カステル
ボビー・ホフマン

構成/堀江ガンツ
text by Gunts Horie

ZONE.3

ヒカルド・アローナ
(ブラジリアン・トップチーム)
99年アブダビ・コンバット-98kg級優勝
2000年柔術世界選手権準優勝

VS

エメリヤーエンコ・ヒョードル
(リングス・ロシア)
96年柔道ロシア選手権優勝
97年サンボ・ロシア選手権優勝

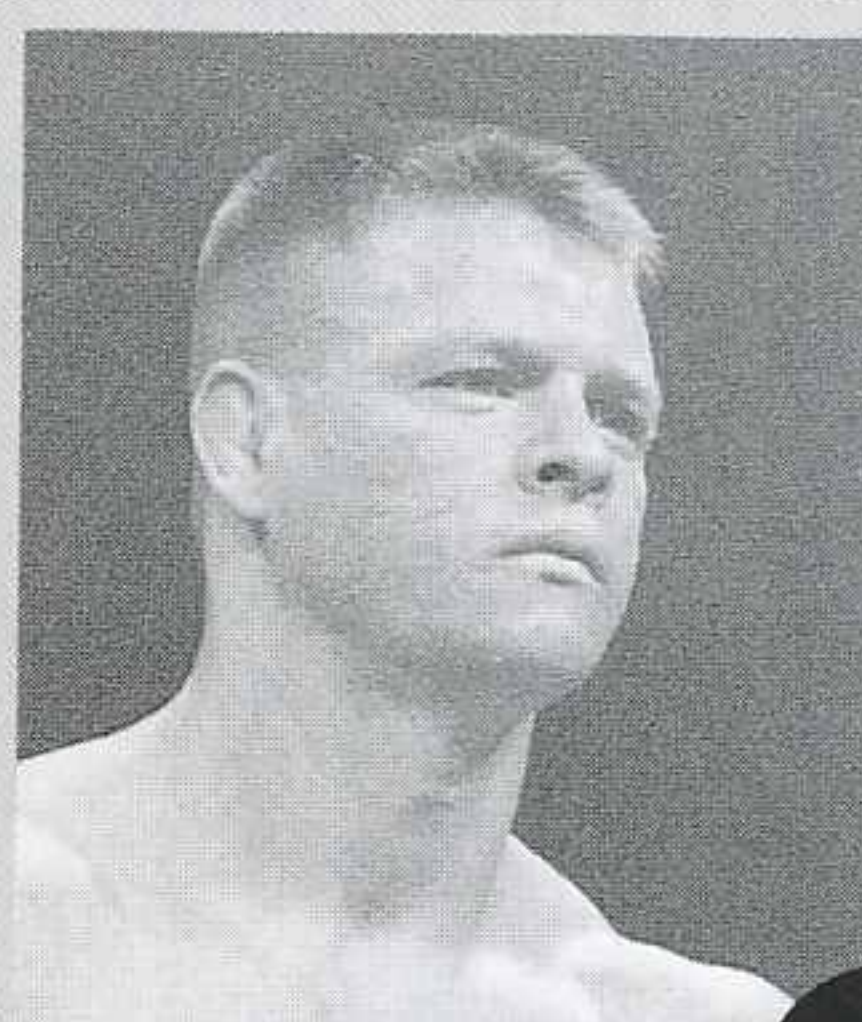
組技王集結の超激戦区! TK、ここが正念場だ!!

髙阪剛
(リングス・ジャパン)
99年KOKトーナメントベスト16
96年トーナメント・オブJ優勝

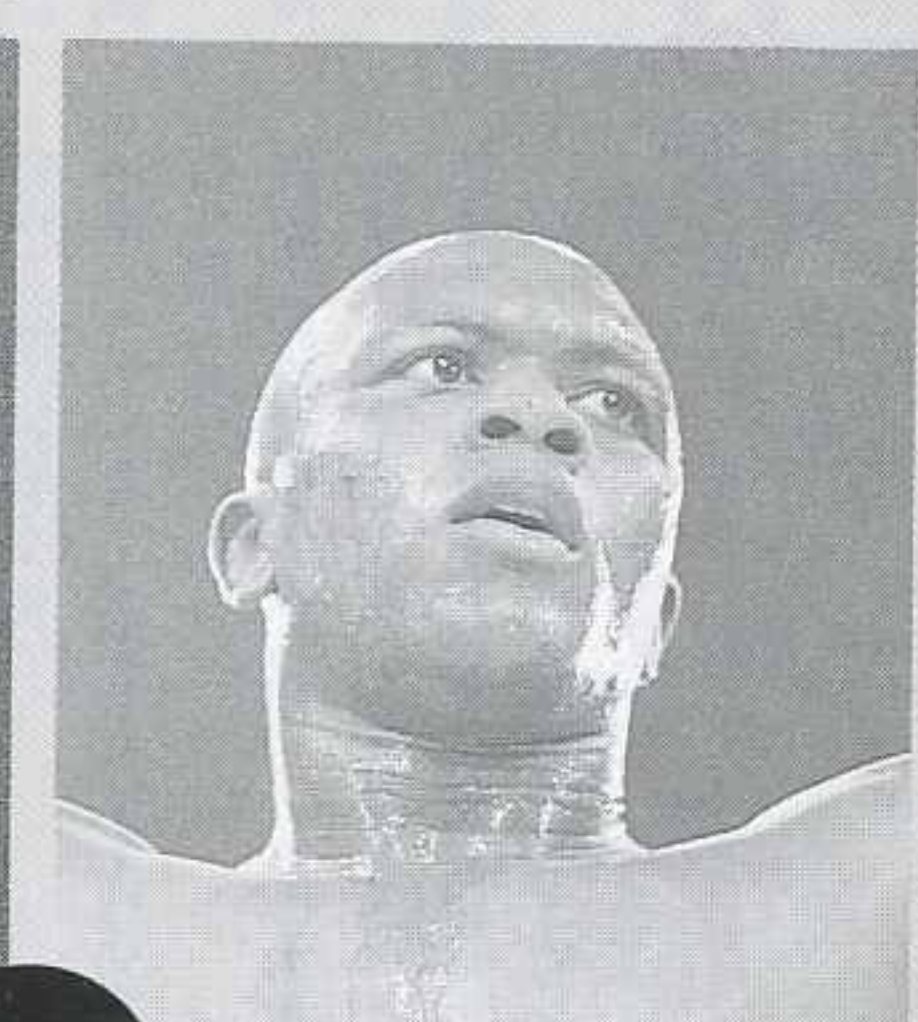
VS

イリューヒン・ミーシャ
(リングス・ロシア)
95年アブソリュート大会優勝
99年KOKトーナメントベスト8

「組み技世界一決定トーナメント」と銘打ちたいほど、いずれ劣らぬ組み技のスペシャリストが集結したこのブロック。まずは1回戦屈指の好カード、アローナvsヒョードル。アローナは誰もが認める21世紀のブラジル最強候補。ヘンゾ・グレイシーをして「KOKルールでアローナに勝てる奴はいない」と言わせるなど、その爆発力とスタミナは今大会ナンバー1と言えるだろう。しかし対するヒョードルはアローナより10キロ重く、「寝技は私の庭」という程グラウンドに自信を持ち、しかもRJWの高田を12秒でKOするなど打撃にも長けており、勝敗は全く予想がつかない。いずれにしても、ハイレベルな闘いになることは間違いない。

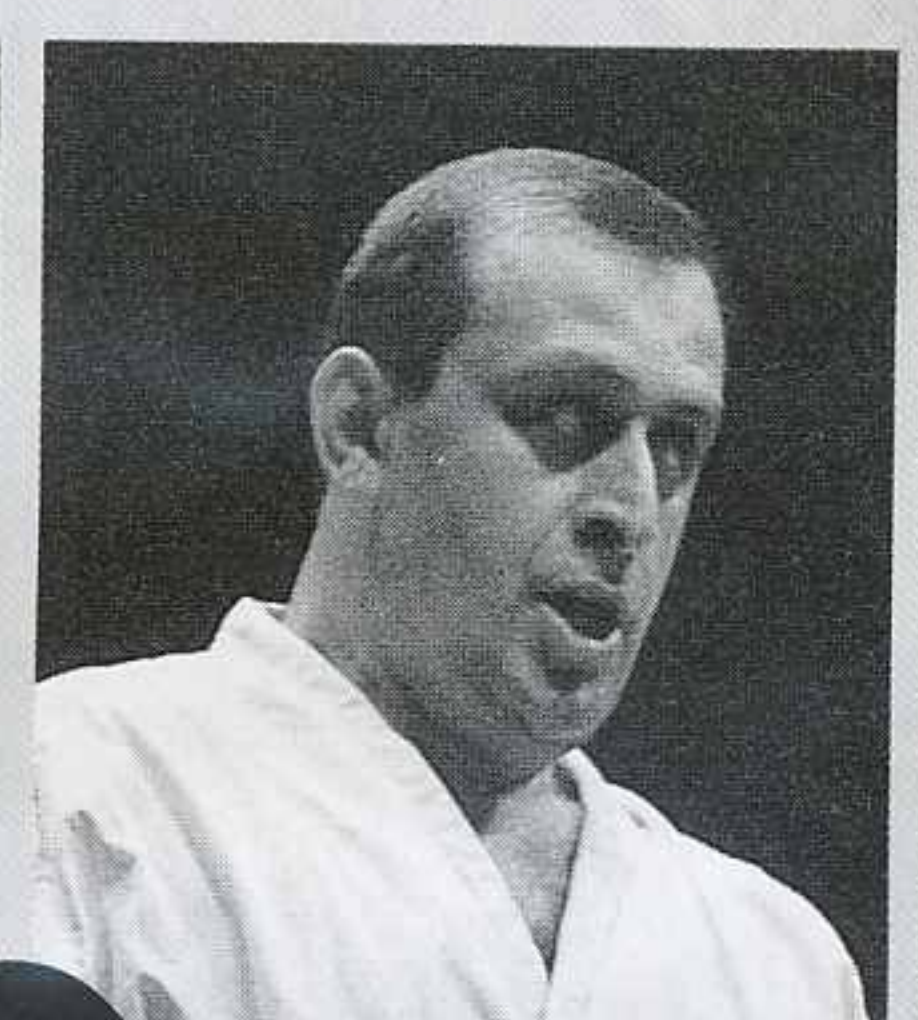
そして我らがTKが登場! 8月のノゲイラ戦で膝を負傷した病み上がりのTKには、あまりにもキツイ組み合わせとなったが、膝が動かない中で、あのノゲイラと互角に闘うTKの実力は本当に底知れない。10ヶ月間沈黙していたミーシャが、どう変わっているか不気味だが、今年こそTKがトップに躍り出ないとマット界も面白くない。ここはTKオカンと一緒に絶叫して応援するしかないだろう。

ZONE.4

クリストファー・ヘイズマン
(リングス・オーストラリア)
リングスUSAミドル級トーナメント準優勝
93年南太平洋柔術大会優勝

VS

カーロス・バヘート
(ブラジリアン・トップチーム)
97年UVF6優勝
94、95年リオデジャネイロ柔術選手権優勝

ブラジルの毒グモ、リングス急襲!! ヤマヨシ史上最大の背水の陣!

山本宜久
(リングス・ジャパン)
95年メガバトルトーナメント準優勝
リングス・オフィシャルランキング7位

VS

ビターゼ・アミラン
(リングス・グルジア)
第7回極真全世界空手道選手権大会ベスト16
98年国別対抗トーナメントFNRカップ優勝

そして今大会の真打ち登場! 血便血尿を出しながら、藤原道場で極限のトレーニングを積んでKOKへのリベンジを誓うヤマヨシ! 4月のジェレミー戦ではローキックでダウン寸前まで追い込みながら、スタミナ切れで逆転負けしているが、今回は藤原道場の特訓で打撃とスタミナ、スピードが向上。生まれ変わった、新生・ヤマヨシが見れそうだ。しかし相手は、極真では兄タリエル以上の実績を残すアミラン。極真世界ベスト16の男に対してもヤマヨシは打撃で挑むのか!? アミランを撃破しても、もう一方では『PRIDE』常連のバヘートがリングスに初参戦。バヘートは試合は地味ながら、前UFC王者ランデルマンに一本勝ちするなど、文句無しの実力者。僅差の判定(2-1)で敗れたが、ボブチャンチンにも打撃を自由に出させないインサイドワークには、ヤマヨシも苦戦するだろう。対するヘイズマンも昨年のKOKでは、TKを相手にグラウンドで互角以上の動きを見せるなど、このところ急成長。得意の腕絡みがバヘートにも通用するか!? とにかくヤマヨシにはKOKでの勝利を見せてもらいたい。

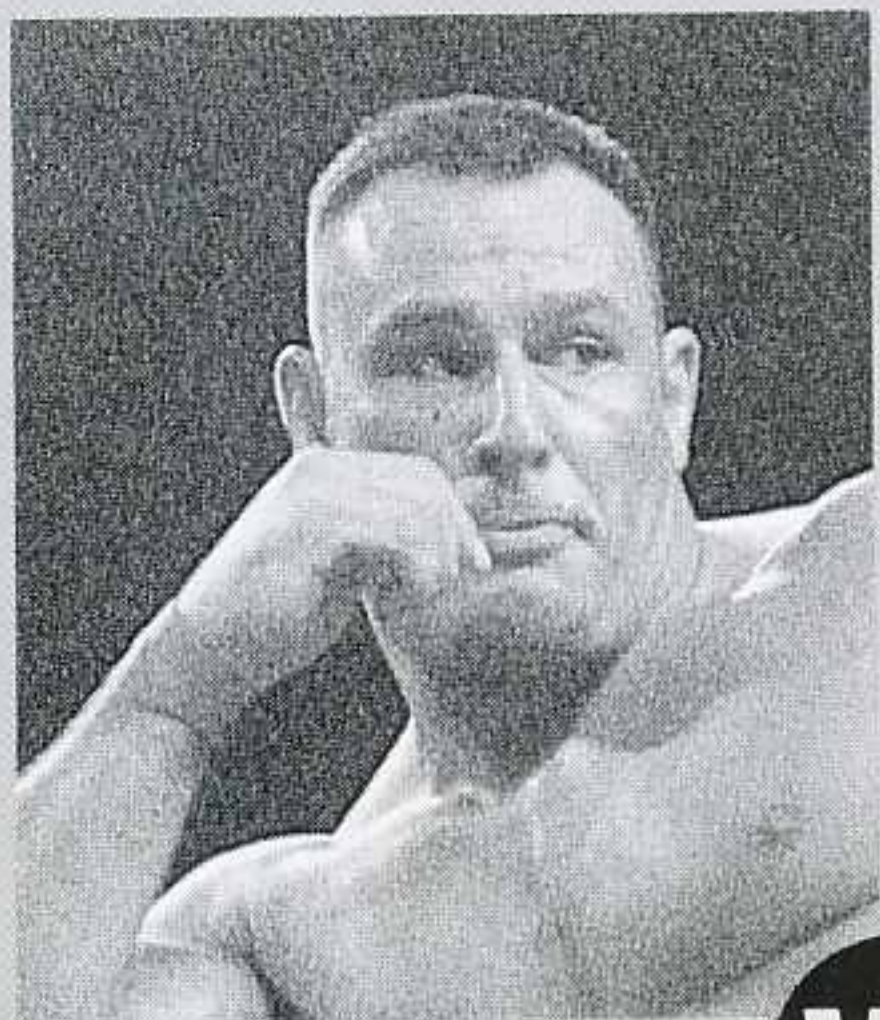
勝って田村潔司を見返してみろ!!

決勝トーナメント進出者4人を当てて、サイン入りグッズをもらおう！

応募方法は次のページ

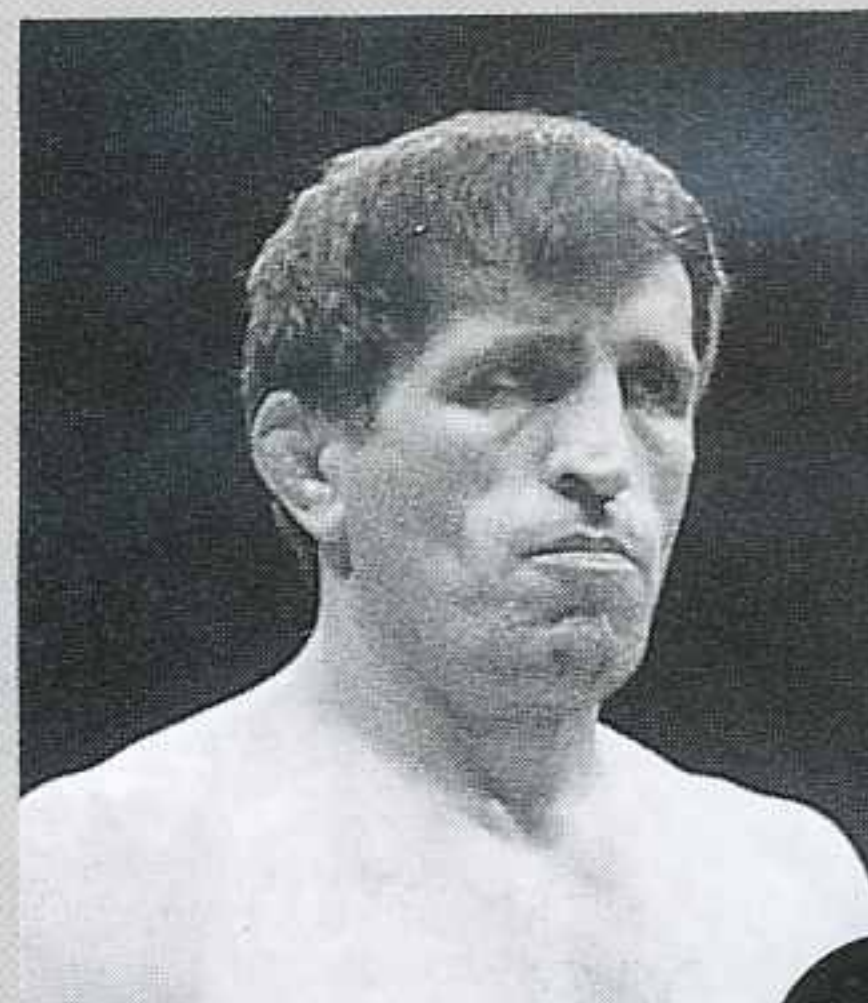
『KOK2000』Bブロック

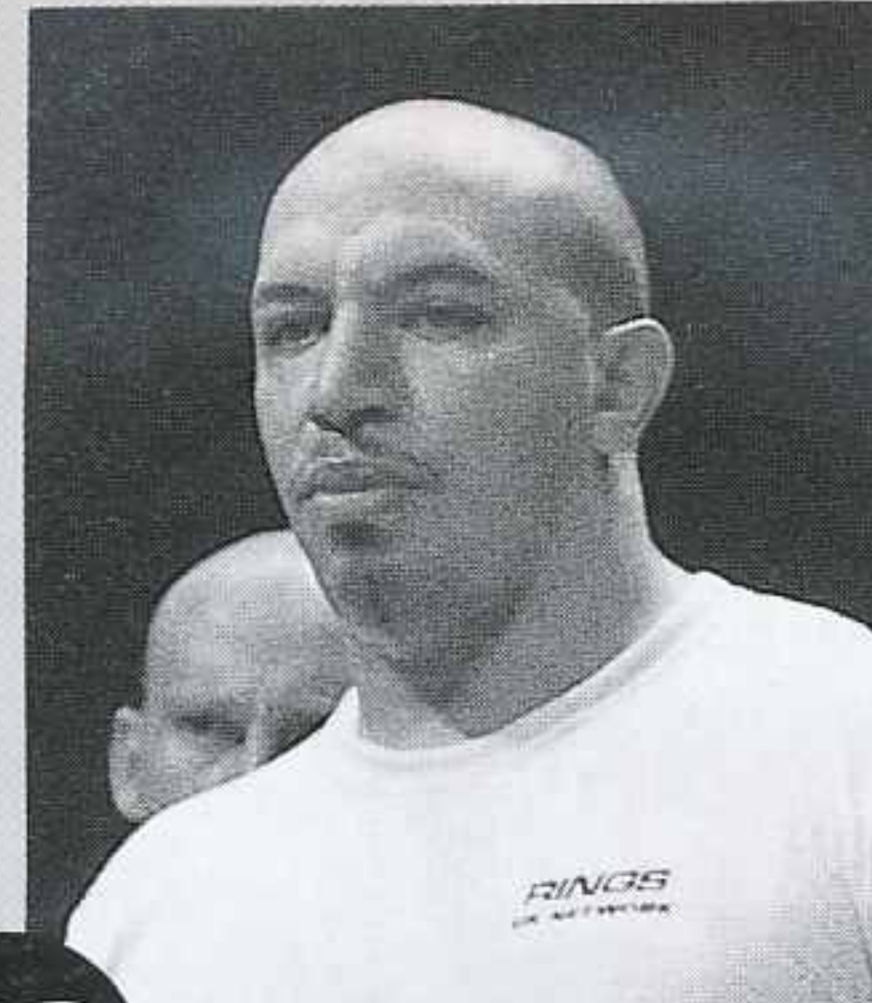
ワールドメガバトルオープントーナメント

ZONE.1

ヨープ・カステル
(リングス・オランダ)
リングス・オフィシャルランキング3位

VS

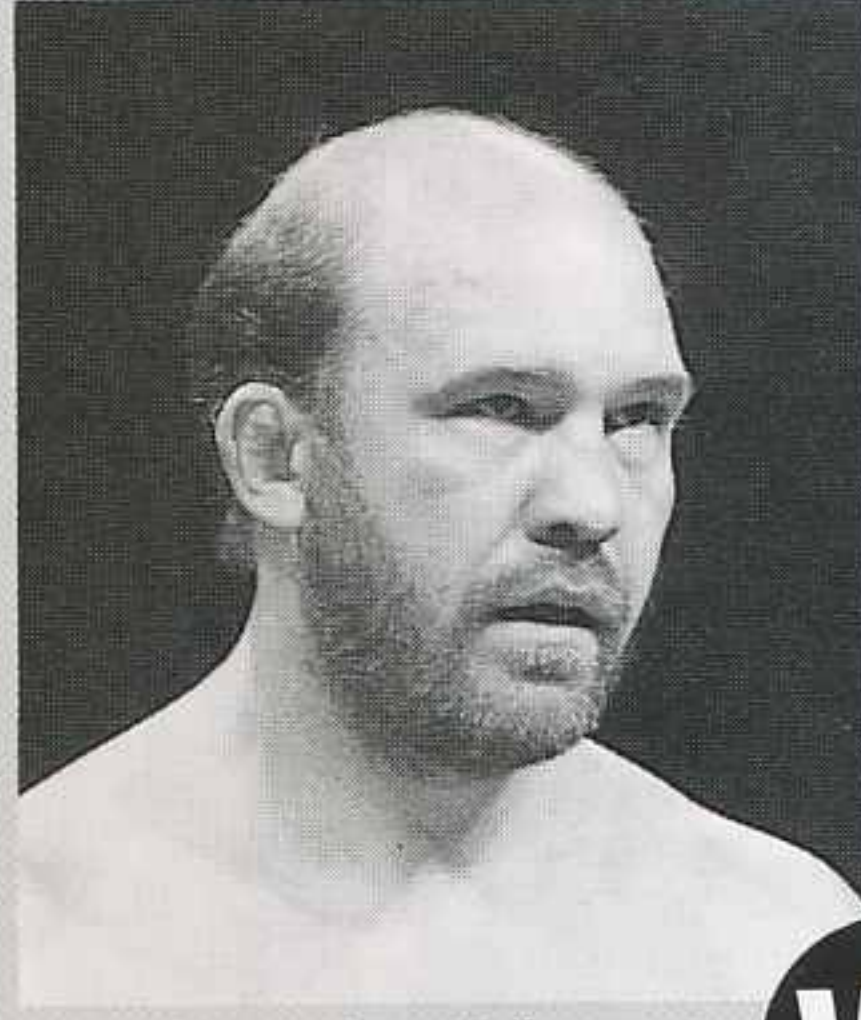
ボビー・ホフマン
(ミレティッチ・ファイティング・システム)
リングスUSAヘビー級トーナメント優勝
エクストリーム・C・ヘビー級王者

リングス版“超獣対決”実現！ “最後の幻想”ハンは勝てるか!?

ヴォルク・ハン
(リングス・ロシア)
94、96年メガバトル・トーナメント優勝
84年サンボ・ソ連選手権無差別級準優勝

VS

リー・ハスデル
(リングス・イギリス)
99年KOKトーナメントベスト16

誰もが待ち望んだ“リングス最後の幻想”ヴォルク・ハンのKOKトーナメント出場が、今度こそホントに決定！　そのハンの1回戦の相手は“リングスのポリスマン”リー・ハスデル。昨年のKOKでハンの愛弟子ラバザノフを破った、立ってよし寝てよしのオールラウンドプレイヤーである。ハンにとっては弟子の仇討ちとなるが、ハスデルはロシアのアルティメット大会にも出場しており、サンビストの闘い方は研究済み。スタミナも十分あり、40間近のハンにとって決して楽な相手ではない。はたして「ヴォルク・ハン格闘術」の神髄は見られるのか!?

対するは、“大味ファイター最強決定戦”ホフマンvsカステル。現在日本で3連続KO勝ちのホフマンは、今夏のリングスUSAヘビー級トーナメントでもKOで優勝を飾っており絶好調で乗り込んでくる。カステルは田村のベルトに挑戦した昨年8月以来の参戦。両者共に打撃を得意としており、KO決着は必至だ。いずれにしても注目はヴォルク・ハン。ハンが2回戦でホフマンの巨体に立ち関節を極めて勝ち上がるようなら最高だが……。

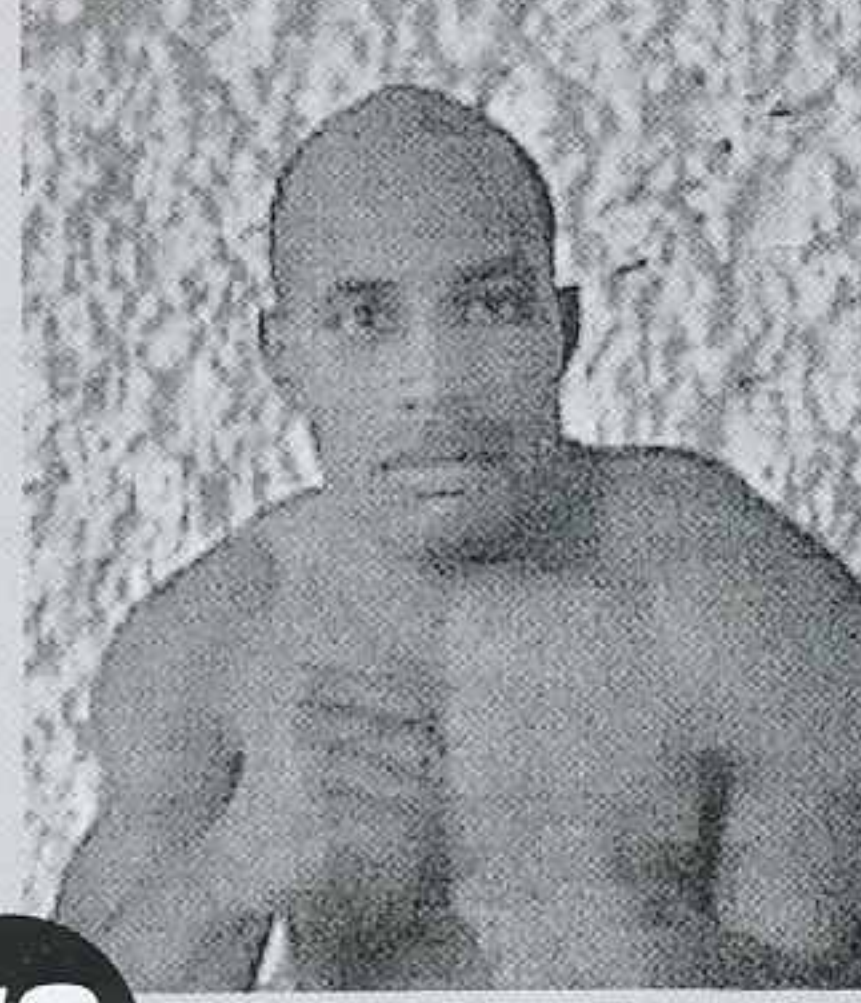
ZONE.2

アンドレイ・コピィロフ
(リングス・ロシア)
99年KOKトーナメントベスト8
90年サンボ・ロシア選手権重量級優勝

VS

トム・サワー
(アメリカ)
リングスUSAヘビー級トーナメントベスト4

米ロ、秒殺マシン対決 金ちゃんボヤキング返上なるか!?

金原弘光
(リングス・ジャパン)
99年KOKトーナメントベスト16
第1回キングダム・トーナメント準優勝

VS

アレシャンドリ・カカレコ
(ファス・バーリ・トゥード)
ブラジリアン・ルタリーブリ選手権王者
WEF王者

金ちゃん、またしても1回戦から試練！　昨年は1・2回戦がジェレミーとヘンダーソンという、決勝トーナメントばりの相手となり、ボヤキまくった金原だが、今年も昨年に劣らぬキツイ組み合わせとなった。対戦相手のカカレコは知名度と身長こそないが、ババル、ヒーリングを破るなど、いま最も活きがいいルタ・リーブリの新星。もともと極めの技術には定評があったカカレコだが、現在マルコ・ファスの道場で“ブラジル最強”と呼ばれるペドロ・ヒーゾと打撃の練習も積んでおり、金原は1回戦から苦戦は免れないだろう。

もう1試合は、昨年同じ大阪で1・2回戦合計24秒で勝ち上がり、主役の座をかっさらった我らがコピィロフと、リングスハワイ大会でこちらも1・2回戦合計48秒で（しかもオーフレイム兄から）勝ち上がったサワーの寝技vs打撃の秒殺対決。裏を返せば両者共にスタミナに難があり、是非とも秒殺で決着してほしい一戦でもある。はたして金ちゃんはここを突破して、悲願の決勝トーネメントに進出できるか!?　それともまたもやボヤくのか!?

ジャパン勢またしても全滅の危機！

なんで俺の相手って、若くて強くて無名な奴ばっかりなの！（笑）

金原弘光 BOYAKING OF KINGS

ここで勝たねば、また無冠のボヤキング

勝て金ちゃん!!

―またしても金原選手がマニアックな強豪と闘うということで、急遽お話を伺いに来ました（笑）。

金原　カカレコって有名なの？

―マニアには来日が望まれてましたけど、一般的な知名度はゼロに近いですね（笑）。

金原　でも強いんでしょ？（プロフィールを見ながら）戦績は9勝1反則負け、と。まだ負け知らずなんだ、アハハハ！　もう、こんな相手ばっかでふざけんなって！（怒）。

―あのレナート・ババルやヒース・ヒーリングにも勝ってますからね。あとシャノン〝ザ・キャノン〟リッチにも（笑）。

金原　そうなんだ。打撃、寝技、タックルのどれが得意なのかなぁ？

―いや、全部得意らしいです（笑）。

金原　なんでそういう相手は必ず俺が最初にやるんだろうね（笑）。

―そうですよね（笑）。

金原　またこういう奴って初めて日本に来るから張り切っちゃって、ガンガン来るんだよ（苦笑）。

―今回のKOKはブラジルでもTV放送するみたいですから、なおさらでしょうね。

金原　もうこのムキムキの身体からして嫌だよね。身長170で体重90キロなんて、ほとんど筋肉だけだよ。

―しかもそうとう凶暴なキャラクターらしくて、ウゴの下にいたのに大喧嘩して出ていったらしいですから。

金原　ウゴみたいにデカい奴に、ちっちゃいのが刃向かったんだ。へ～、若くて凶暴か、ますます嫌だな（笑）。

―ハイアン・グレイシー系ですよね。

金原　ハイアンより絶対強いでしょ。技術があってもグレイシーは体力ないからね。こいつ（カカレコ）の若さが嫌だよ。21なんて、俺がデビューした歳だからね。

―また、1回戦から去年のジェレミー・ホーン戦同様、フルラウンド行きそうですね。

金原　また疲れそうだよね（苦笑）。

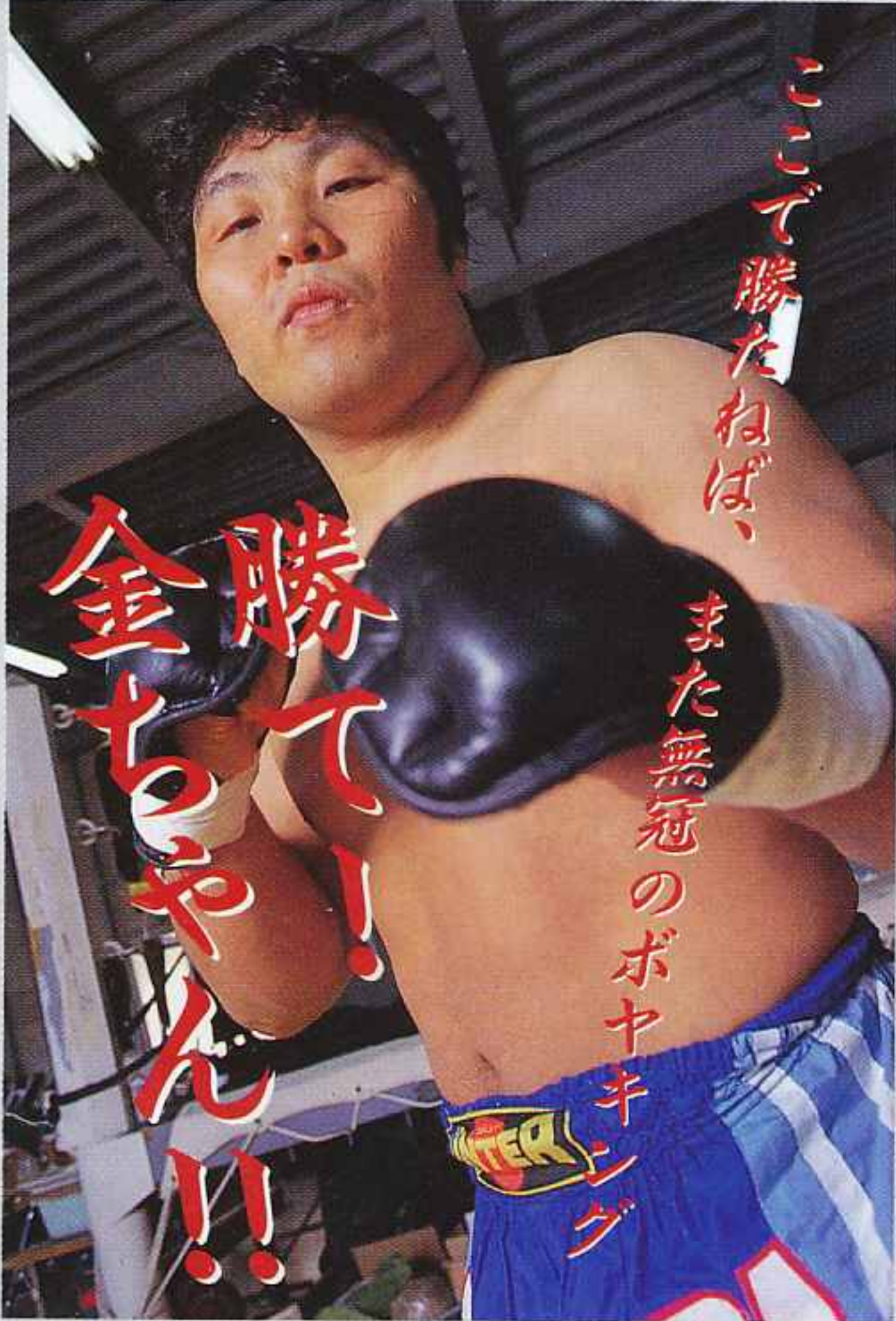
―しかもこの1回戦を突破すると今度は、コピィロフかサワー。両者ともヘビー級ですけど、どちらが上がってくると思いますか？

金原　う～ん、読めないよね。でも1Rで決まればコピィロフ、2Rならトム・サワーかな。コピィロフって2Rまで引っ張ればなんとか勝てそうじゃない（笑）。

―でもコピィロフはスタミナ切れてヘロヘロになっても、KOもギブアップもしたことないんですよ。だから金原さんには一本勝ち狙ってもらいんですけど。

金原　いやぁ、コピィロフ極めるのは難しいよ。KOならいける気がするけどね。でも5分2Rだからなぁ。もう一本勝ちは狙わずに全部際どい判定勝ちで勝ち上がるから。際どくても延長までやるのは嫌だから、延長にならない程度に際どくね（笑）。

―では、今回は作戦も立ててクレバーな闘いをしようと。

金原　まだ作戦立ててないけどね。対戦相手もどんな選手か分からないから、立てようがない（苦笑）。

―山本（宜久）さんはKOKに向けて、もの凄い練習してるみたいですけど、金原さんは最近練習はどうなんですか？

金原　僕はちゃーんと普通にやってますよ。もう、10年もこの競技やってるから、自分がいまやるべきこともわかるからね。やっぱり30にもなって山本さんが藤原（敏男）さんのところでやってるような練習は俺にはできないよ（笑）。

―でも金原さんも昔はタイのジムなんかで、散々そういう練習してるんですよね。

金原　そうそう、だから今回も久々にタイで練習しようと思ったんだけど、あのしんどさを思い出したら決心つかなかったね。道場でやればいいか、って（笑）。

―アハハハ！　まぁ、でも今回ばかりは金原さんもそろそろ勝ち上がらないと。いつまでも無冠の帝王というか、無冠のボヤキングのままじゃいいられませんからね（笑）。

金原　そんなの『紙プロ』が率先していってるだけじゃない（笑）。

―まぁ、そうなんですけど（笑）、ホントに今回は結果が要求されると思うんですよ。

金原　まぁでも（カカレコは）同じ体重だから負けられないね。体格差があったら負けても「しょうがないな」って自分で納得しちゃう部分もあるけど、体重差がなかったら自分自身に言い訳効かないからね。あ！　でも若さが違うか（笑）。

―アハハハ！　言い訳発見（笑）。

金原　まぁ、でも今回は勝ちますよ。それで優勝したら田村さんみたいに、『紙プロ』でアイドルと対談とかやらせてよ（笑）。

―OK、全力でブッキングしましょう！（笑）。

KOK決勝トーナメント進出者予想クイズ応募要項

Aブロックには存在しなかったのに、Bブロックから突如始まることになった、KOK決勝トーナメント進出者大予想クイズ。12・22大阪で開催される『KOKトーナメントBブロック』出場選手16人の中から、2・22両国国技館の『グランドファイナル』に勝ち上がる4名を見事予想した読者の中から、5名様にサイン入り（誰のサインかは楽しみ）リングスグッズをプレゼントします。

ハガキに①住所②氏名③年令④職業⑤各決勝トーナメントに勝ち上がると思うゾーンから1名ずつ計4名。⑥サインを入れて欲しい選手名を記入の上、『紙プロ』編集部　「KOKって何？　by破壊王」係までどしどし申し込んでください（住所はP176参照）。

【注意事項】必ず各ゾーンから1名ずつ選んで下さい。また、受け狙いで出場していない選手を書いて応募してきた場合、即効処分しますのでご了承ください。尚、正解者が5名に満たない場合は抽選となります。

〈記入例〉

勝ち上がると思う選手

①ヴォルク・ハン

②金原弘光

③髙阪剛

④山本宜久

コピィロフのサインほしい!

金ちゃんの対戦相手カカレコはこんなに凄い!!

Alexandre Cacareco　1979年1月25日、ブラジル／リオ・デジャネイロ出身。170cm、90kg。

リオの貧困街で生まれ育ち、幼少の頃から喧嘩に明け暮れる。12才であのウゴ・デュアルチに師事しルタ・リーブリを学ぶも、度重なる喧嘩での不祥事で一度は破門を言い渡されるほどの暴れっぷりを見せる。19才でVTデビュー。OBAKEことティム・カタルフォにサミングを見舞いデビュー戦からいきなり反則負け。その後はWVC8で『PRIDE』で無敗のヒース・ヒーリングを破り優勝。99年のルタ、ブラジル選手権では昨年のKOK準優勝者レナート・ババルに見事判定勝ちし、その実力がルタのトップクラスであることを証明した。また“猪木の刺客”ことシャノン“ザ・キャノン”リッチには、桜庭より早い48秒で完勝している。現在はウゴと喧嘩別れしてマルコ・ファス道場に移籍。ババル、グスタボ・シムに続いて、またしてもファスVT旋風を巻き起こすことは必至だ。

ビター・ゼ・タリエル

不定期連載
“検証”
旧リングス
①B・タリエル

「確かに我々はロープエスケープに甘えていた部分があった。でも、あのルールで観客を楽しませる事に誇りを持っていたんだ」

KOKがスタートして以来、リングスを初期から支えた選手たちが苦戦を続けている。2年連続でKOK1回戦負けを喫した“元王者”タリエルは、そんな代表例であろう。現在のリングスはKOKの勝敗のみが重要視され、過去の実績がスポイルされがちな風潮もあるが、やはり彼らの実績はしっかりと評価すべき。というわけで旧リングス再検証スタートです。

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／森鷹博
photographs by Morry
試合撮影／吉澤晃
photographs by Akira Yoshhizawa

――タリエル選手は飲み物はビールでいいですか?

タリエル　いや、コーラでいいよ。

――お酒は飲まれないんですか?

タリエル　いや、コーラよりビールの方がおいしいし、絶対に体にもいいと思うんだ。でも、今日は体に悪いことをしたいんだよ(笑)。

――なぜだ(笑)。

通訳　(小声で) 昨日、飲み過ぎて気持ち悪いんですよ(笑)。

――アハハハ! 真相は二日酔いでしたか(笑)。昨日はそんなに飲まれたんですか?

タリエル　少ないよ。

――ホントですか?

通訳　私は昨日一緒に飲んだから知ってるので、「ウソついてもいいのか?」って聞いたら、「本当のことを言ったらグルジアの国民性を誤解される」って(笑)。

――アハハハ! 国民性が疑われる程飲んだんですね(笑)。

タリエル　試合の後はストレスの解消になるから、結果が良かろうと悪かろうと、ロシアとグルジアの選手が一緒にロシア飲むんだ。リラックスすべきときにリラックスしないと、いつか挫折してしまうからね。

――ロシア・グルジア連合の飲み会は凄そうですね(笑)。みなさん飲むと陽気になるんですか?

タリエル　量によるね。量が多ければ陽気になるけど、酒が足らないと逆に怒りだすんだ(笑)。まぁ、それはいいとして、そろそろカラオケでも始めようか(笑)。

――なぜインタビュー中にカラオケを歌う!(笑)。グルジアにもカラオケはあるんですか?

タリエル　カラオケっていう形ではないんだけど、お酒を飲む時はアカペラでよく歌うよ。今日はまずキミから先に歌ってくれ(笑)。

――だからインタビュー中だって!(笑)。

(ここで料理が運ばれてくる)

タリエル　それは何の料理ですか?

――刺身の盛り合わせですね。生の魚は食べれますか?

タリエル　生じゃなくても昔は魚を苦手だったよ。でも、日本で寿司を食べてそれが気に入って、それから食べれるようになったよ。

――へ~、そうなんですか。たくさん食べて下さいね。ではまずは非常に初歩的な質問なんですけど、極真空手はいつから始めたんですか?

タリエル　本格的に極真を始めたのはソ連が崩壊(91年)した後だね。

――え!? ということは、タリエル選手は91年の極真世界大会に出場して、アンディ・フグ選手に判定負けを喫してますけど、あの頃はまだ初心者だったんですか?

タリエル　実はそうなんだよ。グルジアに極真の支部ができたのは80年代の終わりだからね。私はそれまで陸上競技に熱中していて、砲丸投げで世界大会のレベル(※グルジアの記録保持者で全ソ連の選抜メンバーだった)までいっていたんだ。しかし、ソ連が崩壊する直前に陸上も含めてスポーツ選手に対して国からの援助がなくなって、大会すら開かれなくなった。それで陸上に対する情熱が失せてしまい、もともと好きだった空手をやろうと思ったんだ。

――陸上をやっていた頃から空手が好きだったんですか?

タリエル　陸上競技を始める以前に、テレビのドキュメンタリー番組で極真ではなくノンコンタクト(寸止め)の空手を見て、凄く綺麗な動きだなと思って自分でもやりたくなったんだよ。そして極真を初めて知ったのは80年代の後半だね。その時もテレビのドキュメンタリーで大山総裁の映像やナカムラ(中村誠)が優勝した世界大会の様子を見て魅了されてしまったんだよ。

――タリエル選手はテレビに影響されるパターンが多いんですね(笑)。

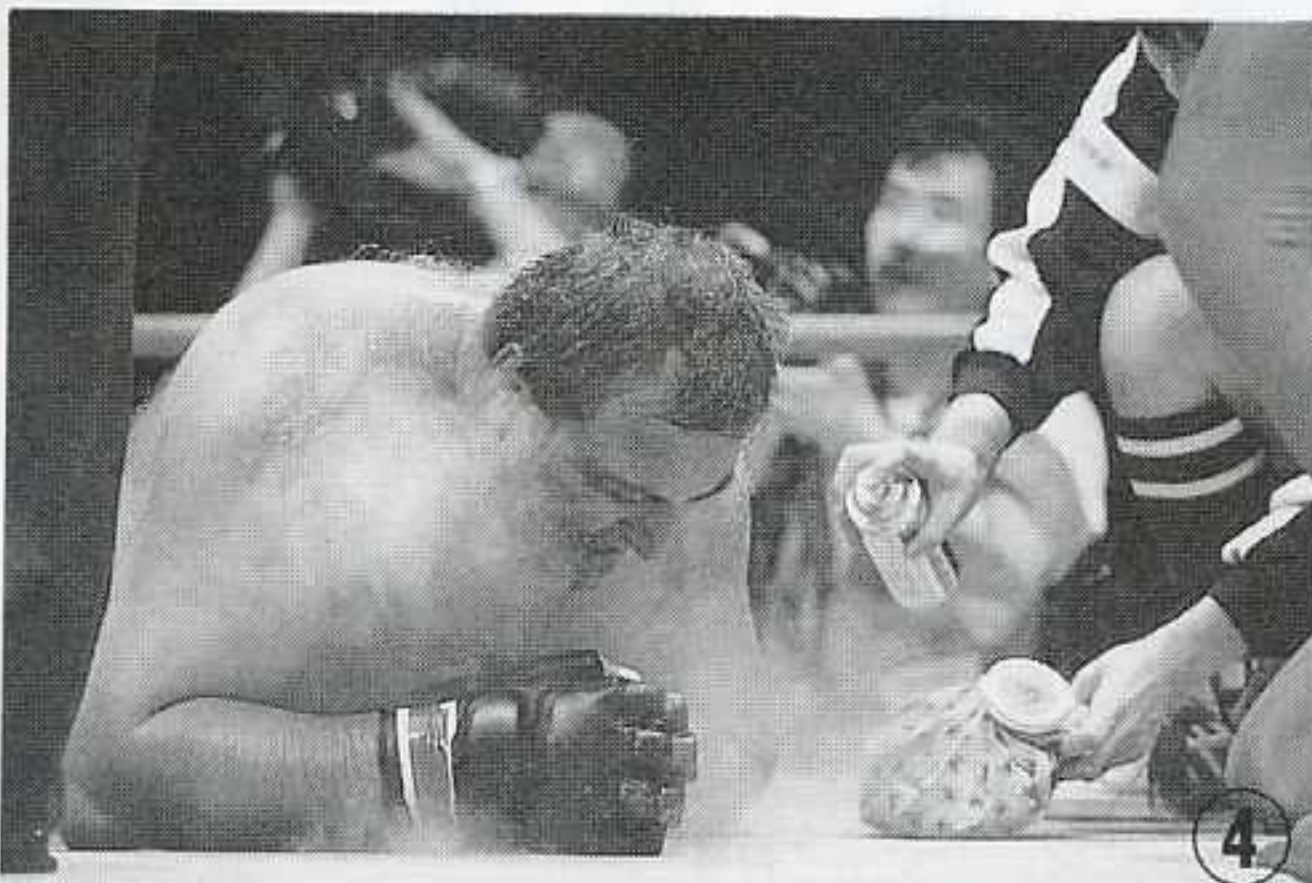
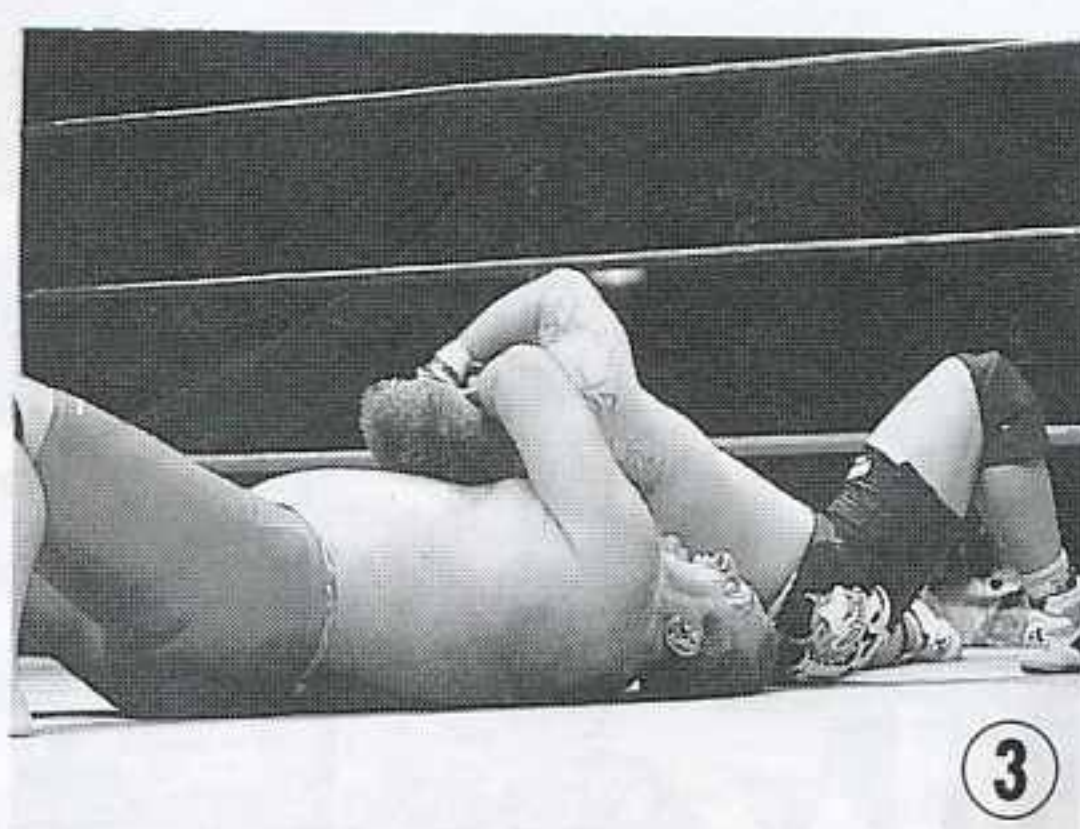
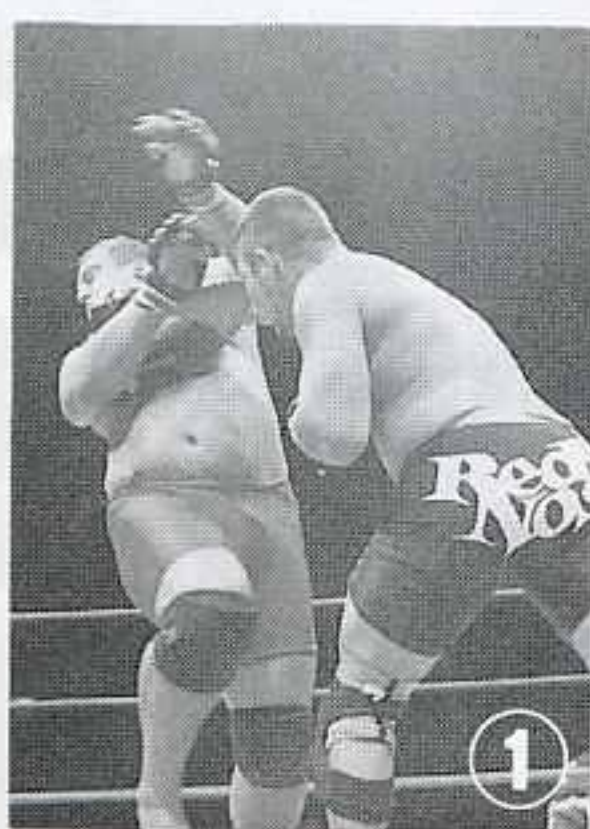
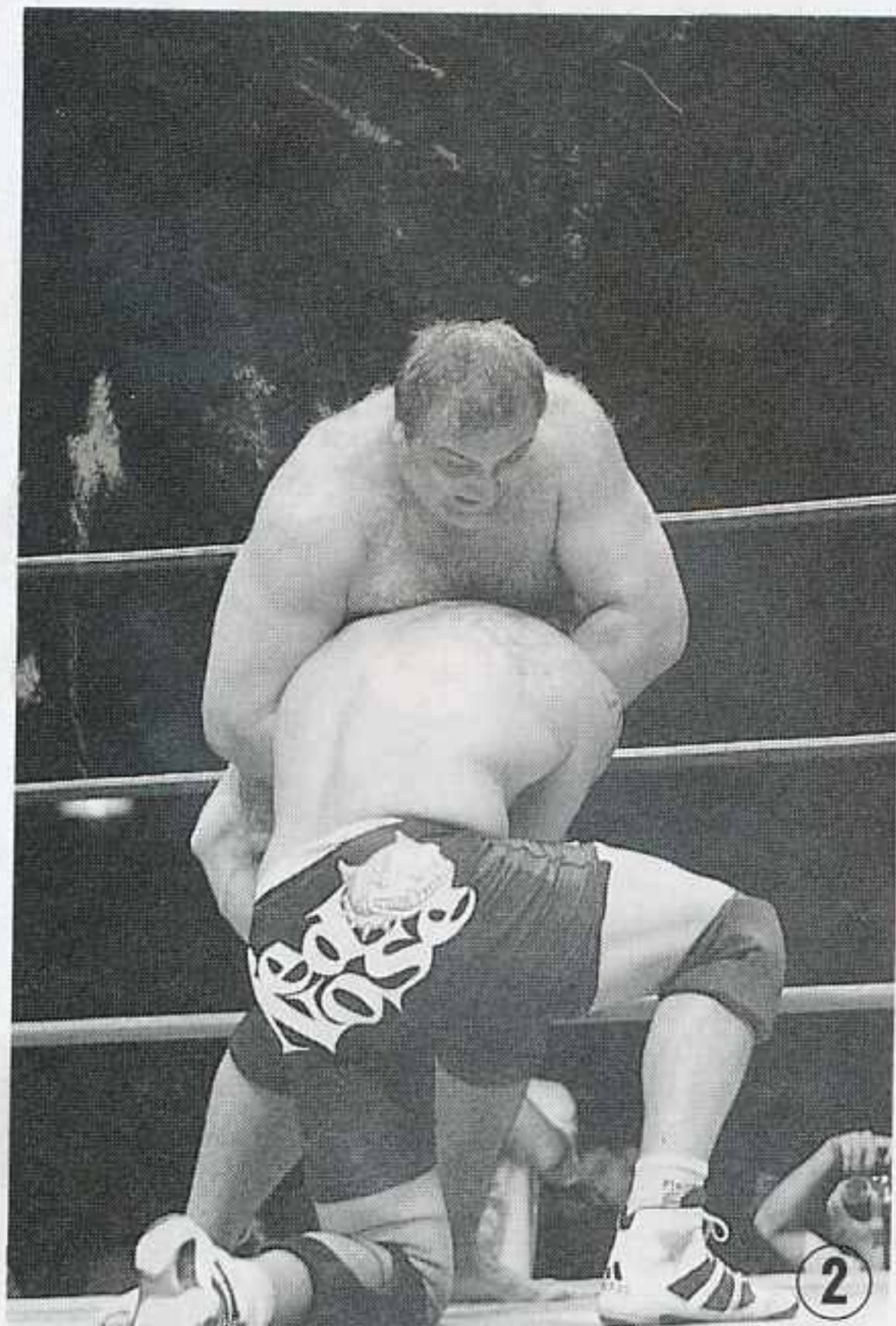
タリエル　確かにそうだけど、テレビの影響だけで極真を始めたわけじゃないんだよ(微笑)。私は陸上競技の大会のためにロシアに行ったとき、ロシアの極真道場に足を踏み入れる機会に恵まれたんだ。そこにはロシア人だけでなく、日本人の先生達も来ていて、私はそこで初めての本格的な極真空手家に出会った。それがきっかけでグルジアにも極真の選手が招待されることになって、グルジアにも極真の道場ができることになったんだよ。

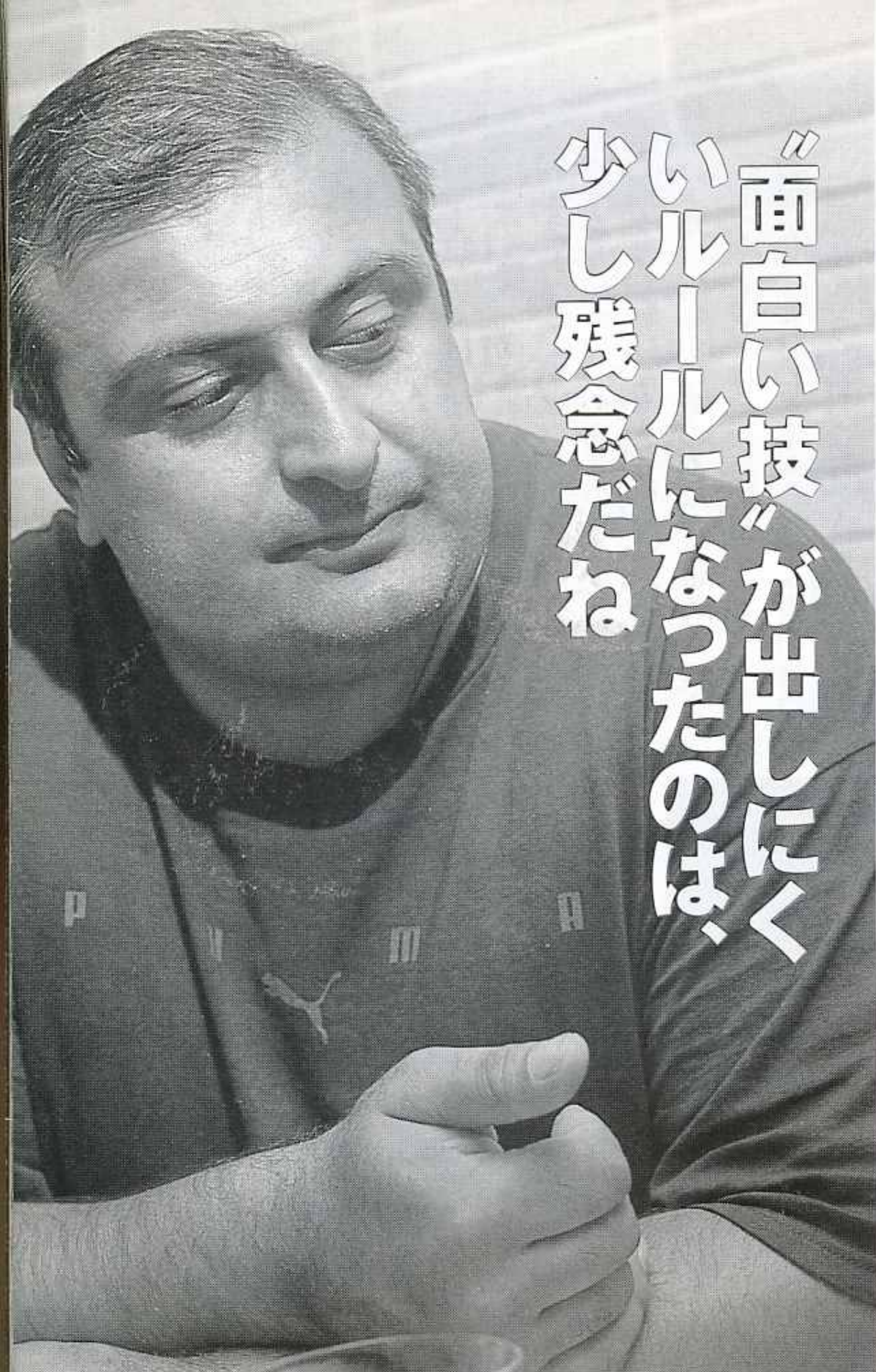
――タリエル選手はグルジアの極真の第一人者なんですね。

タリエル　グルジアっていうのは、格闘技は何でもすぐ受入れられる傾向があるんだけど、特に極真の場合はバーチャル格闘技じゃなくて、ホントにフルコンタクトでやってるから人気があったんだ。私自身もそれに魅了されたんだけどね。

――では、リングスにはどんな経緯で参戦することになったんですか?

タリエル　マエダ(前田日明)がリングスに出場させる選手選抜のために、ロシア、グルジア、ブルガリアを訪れたときに、ノダリ(リングス・グルジア代表)と私のコーチがリングスのルールに一番合ってるのは誰かと

下手な日本人以上に箸を上手く使い、外国人が苦手とする刺身をパクつくタリエル。「グルジアには『女なら飲ませろ、男なら食わせろ』という、口説く言葉があるんだ」と、料理を前にしてゴキゲン。普段はあまり笑わないタリエルが、終始笑顔でインタビューに答えてくれた。

PLAY BACK
VS
レナート・ババル
KOK 1stRound
10・9代々木第2体育館

①ババルのストレートに怯むタリエル。KOKで勝つには、これから顔面パンチ対策は必須課題だ。　②ババルの素早いタックルをがぶって止めた! レスリング特訓の成果か。タリエルの必死な表情を見よ!　③フロントチョークに取ると、ひっくり返されても必死に締め上げるタリエル。　原始的ながら、この勝負への執念は他の格闘家も見習うべきだろう。　④結局、粘りながらも最後はババルの腕十字の前に敗れてしまったタリエル。しかしこの悔し気な表情を見よ!　タリエルはこの敗戦で、ビジネスの時間を大幅に削って、レスリングの練習時間を増やす決心をしたという。タリエルのこの頑張りはなんとか報われてほしいものだ。

〝面白い技〟が出しにくいルールになったのは、少し残念だね

考えて、私を推薦してくれたんだ。そして実に日本で試合をして、マエダが私を気に入ってくれたんだよ。

——空手家から総合格闘技への転向となると、最初は戸惑いませんでしたか？

タリエル　私の場合は幸運なことに、最初の対戦相手が空手家だったんだよ。

——あっ、そういえばウイリー・ウイリアムスでした初戦はね。

タリエル　空手家同士だったから、デビュー戦にしては慌てることもなく、自分のペースで試合ができたと思うよ。でも、もしも最初の試合でレスラーと対戦してパニックになってたら、もう2度とリングスには来なかったろうね（笑）。

——ガハハハ！　極真空手家らしからぬ諦めの早さですねぇ（笑）。そのウイリーは伝説的な元極真空手家ですけど、ウイリーのことは御存じでしたか？

タリエル　もちろん、彼はもの凄く有名な格闘家だから、私も以前から大変尊敬していたよ。それだけ知名度が高い選手と闘うということは光栄だったけど、私は映画で見た彼のイメージがあったから、正直言ってリング上で向かい合ったときは恐かったね。

——なんといっても相手は〝熊殺し〟ですからね。そういえばウイリーは当時「タリエルは熊に似てるから、オレが有利」と言ってました（笑）。

タリエル　あのときはホントに恐かったから、彼のあのチリチリの髪の毛を、何度も引っ張っぱってやろうと思ったよ（笑）。

——ガハハハ！　やはり熊殺しと闘うなら髪ぐらいは引っ張らないといけませんでしたか（笑）。

タリエル　そのとおり（笑）。

——では、初めてリングスというプロの舞台に上がる際に周りからなにかアドバイスとかはされましたか？

タリエル　もちろんアドバイスは受けたよ。私がリングスに上がると決まったとき、私はコーチにこう言われたんだ。「空手においてはお前がグルジアでナンバー1だから、お前が空手家と闘うならなんのアドバイスもしない。しかしリングスでは、例え相手が空手家でもレスリングで攻めてくる可能性がある。だからレスリングを勉強してほしい」とね。でも当時の私は「空手こそ世界最強」と信じていたし、空手だけで勝てると思っていたから、「レスリングなんか決して学ぶもんか」と思ってコーチの言葉に耳を貸さなかった。お陰でいまになってそのツケがまわって、苦い涙を飲むハメになったけどね（苦笑）。

——ガハハハ！　御自分でもそれは痛感していたんですね（笑）。

タリエル　以前のリングスルールは、いろんな格闘技のいいところを出せるルールだったからそれでもよかったんだよ。空手家でも、ボクサーでも、サンビストでも、すべての格闘家にとって参加しやすい格闘技だったんだが、いまはレスリングができないと勝てない競技になってしまったね。

——タリエル選手にとっては、やはり以前のリングスルールの方がよかったですか？

タリエル　私にとってというより、ファンにとってよかったんじゃないかな。やはりロープエスケープがなくなったことによって、ダイナミックでリスクの高い技が出せなくなってしまったから、以前と比べると今は試合が地味になっていると思うしね。だから面白い試合を見せるためには、やはり2回くらいエスケープは残すべきだと思う。

——ちょっと話はそれますけど、「ダイナミックな技」といえば、タリエル選手は以前、相手をKO寸前まで追い込んでいながら、トドメで出したモーションの大きい胴回し回転蹴りを空振りして、それで墓穴を掘って負けてしまうパターンが多かったですよね。毎回失敗してるのに、なぜ出し続けるのか長年の疑問だったんですけど（笑）、やはりあれは面白い試合を見せるために出してたんですか？

タリエル　「何度も」と言うけど、それが直接の原因で負けたのは2回だよ（笑）。

——あ、そうでしたか。あまりにも印象深いモノで（笑）。

タリエル　空振りが原因で負けたのは、私よりきっと弟のアミランの方が多いよ（笑）。

——兄弟で同じ失敗をしてましたか（笑）。

タリエル　そうなんだ。私も弟のアミランもチャンスになると調子に乗りすぎてしまうんだよ（笑）。

——ガハハハ！　兄弟揃ってお調子者（笑）。

タリエル　ギャンブルの感情に負けちゃいけないと思うんだけど、つい調子に乗って出てしまう（笑）。いまはロープエスケープがないので、同じようなことをやるとそれだけで終わってしまうから、極力出さないように気をつけてるけどね。でも、やはり面白い技が出せないルールになったのは少し残念だよ。

——当時のエスケープがあったルールのころは、やっぱり観客に喜んでもらおうという意識が強かったんですね。

タリエル　うん、だから悪い言い方をすれば、我々リングスのベテランたちは、ロープエスケープがあることで、ある意味ルールに甘えていた部分があったと思う。でも逆に言えば、観客を楽しませるために常に危険を冒す心があったということなんだよ。それこそが我々の誇りでもあったしね。

——そこまでプロ意識があったんですか！

タリエル　だからいまはこのように、ベテランたちがいい結果を出せない状況にあるけど、私は決して若い選手より我々の実力が劣っているとは思わない。結果が出ない原因は、あまりにエスケープのあるルールに慣れ過ぎてしまったからだと思う。要するにエスケープがなくなったことで、みんな極端に慎重になり過ぎて、かえって自分の能力が発揮するこ

【99・5・22有明】出た！　胴まわし回転蹴り（失敗）！　タリエルは田村をKO寸前まで追い込みながらも、この大技が仇となってスリーパーで逆転負け。なんと王座転落してしまった。弟のアミランは12・22ヤマヨシ戦で、兄と同じ過ちを犯さずにいられるか!?

とが出来ていないんだ。だから我々に必要なのは、もっとKOKルールに慣れること、そしてルールを味方につけることだろうね。

——それもそうなんですけど、ロシアやグルジアの選手は、タリエル選手やグロム・ザザ選手をはじめとして、一流の空手家、一流のレスラー、一流のサンビストがたくさんいるのに、それらの選手たちの中での技術交流がされてない感じがして、そこが一番の問題だと思うんですよ。他の国の選手は、トータルな技術を身につけつつあるのに、どうしてロシアやグルジアはなされていないんですか？

タリエル たしかにその通りだと思う。我々グルジアやロシアは総合格闘技というジャンルにおいて、非常に対応が遅れているのは自覚しているよ。それはなんとか改善しなければいけない点なんだが、それにはそれなりの理由があるんだ。

——お聞きしましょう！

タリエル 一番の問題は国土だね。他の国と違って、ロシア、グルジアはあまりに広大で、しかもリングスのメンバーはみんな離れて暮らしている。だから、簡単にメンバーが集まることができないんだ。

——みんなバラバラなんですか（笑）。

タリエル もうひとつは、例えばグルジアには強いレスラーはたくさんいる。しかし、そういう強いレスラーの目的というのは、あくまでオリンピックを目指すことなんだ。そして彼等には非常に頑固なコーチが必ずいて、そのコーチの夢はオリンピックで選手に金メダルを取らせること。だから私が彼等強いレスラーからレスリングを学びたいといっても、「我々の練習のジャマをしないでくれ」と必ず言われてしまうんだよ。

——オリンピックを目指さない選手は用はない！　厳しいですねぇ。

タリエル そう。でも、それはある意味当たり前のことなんだ。私の空手道場にレスラーが練習に来ても、我々は世界大会に優勝することを目的にしているから、やはりそんな時間は割けないからね。だから、その二つの理由で対応が遅れているんだよ。

——それぞれの格闘技のレベルの高さが逆に足枷になってるんですね。

タリエル でも、このような状況だからといって、決して手をこまねいている訳ではないんだ。私だって練習のやりかたや戦略を変えればKOKで勝てると信じているからね。その第1ステップとして、レスリングのいいコーチが見つかったので、彼を私とアミランの専属コーチとして雇ったんだ。

——ではババルのタックルに対応できたのは、そのコーチとの練習の成果だった訳ですね。

タリエル でも、コーチがいくら優秀でも、練習パートナーが何人かいないと、なかなか上達しないね。だから依然として状況は厳しいけれど、とにかく私の目標はKOKで優勝することだから、なんとか解決してみせるよ。そのためにはライフスタイルも変える必要があると思う。

——どのようにですか？

タリエル 私は弟のアミランと共に企業紛争を解決する、仲介裁判所に所属する会社の幹部を努めているんだよ。それなりに責任もあるから、どうしてもこれまでは会社中心の生活で、格闘技は補助的にしかできなかった。しかも私は極真グルジア支部の代表だから、極真の選手の面倒を見るのにも大変な時間を喰われてるんだ。

——多忙でレスリングなどの練習時間がなかなか取れないんですね。

タリエル 仕事が終わった後に夕方から夜にかけて練習はしているけれど、やはりそれでは足りないんだ。でも、このまま終わってしまうのはもったいないと思うし、自分としてはまだまだリングスのトップやれると思っている。だからこれからは、まず第一に格闘技を考えて、その次に自分のビジネスを付加価値として考えていこうと思う。

——いや〜、タリエル選手がここまでKOKでの勝利にこだわっていたとは正直思いませんでした。

タリエル 勝利にこだわっているからこそ、私はいまでも空手家だけど、空手着を捨てたんだ。空手着を着ていては掴まれやすいし、グラウンドで滑りにくいからね。

——空手家としてのこだわりより、勝利にこだわりたいわけですね。

タリエル そう、だから私は本当は素手で正拳を叩き込みたいのだけれど、グローブをせずにパンチを出して、万が一顔面に当たってしまったら、減点されて勝つ可能性が半分以下になってしまう。その危険は犯すことはできない。だからやむを得ずグローブをつけているんだ。

——そこまでやっているのだから、ここは早くKOK初勝利が欲しいところですね。

タリエル 試合というのは必ずひとりが負けなければならないし、負けることは決して恥ずかしいことではない。私自身、勝つことと負けること、どちらも心の準備ができている。でも、このままじゃ引退したくないし、引退できない。私はまだやれると思うし、いまのままじゃ納得いかないよ。

——いや〜、タリエル選手がルールが変わっても、まだまだやる気十分なので今日は安心しました。

タリエル 私自身はこのような試合も精神的には慣れているので、何も驚かない。ただ、これまでの闘い方や、練習を変えなければならないということだけさ。ファンの皆さんは覚えてるかわからないけど、私が初めてリングス上がりはじめた時も、やはり勝てない試合が続いていたんだ。でも徐々にルールにも慣れてチャンピオンになることができた。だから、今回もババルに負けたことは非常に残念で悔しいけど、あの試合を通して「（KOKでは）なにをやるべきか」ということがわかってきた、これからだよ。

——ババル戦のときもタリエル選手に大歓声が上がっていたように、リングスファンも昔から思い入れのあるタリエル選手に勝って欲しいと思っているハズなんで、これからもぜひ頑張ってください。

タリエル 押忍！

【00年10月10日　都内・某居酒屋にて収録】

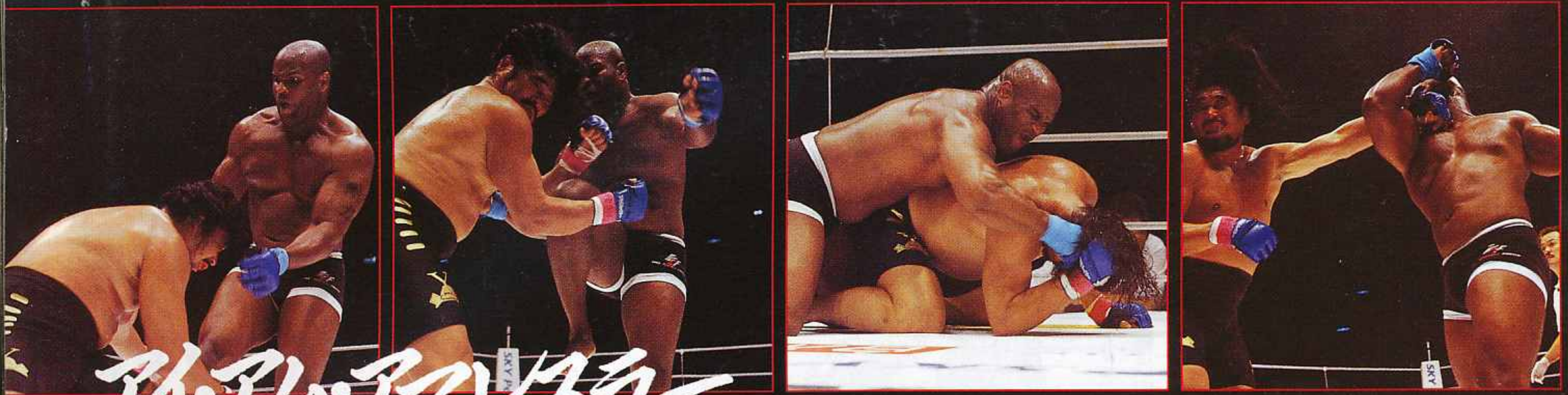
空手着にチャンピオンベルトという、実にリングスらしい姿だった王者時代のタリエル。現在はあまり似合っているとは言いがたいスパッツ姿だが、タリエルは過去の栄光を取り戻すべく、一からのスタートを誓った。頑張れ、タリエル！

私に必要なのはKOKに慣れること このままじゃ引退できない！

【ぴたーぜ・たりえる】１９６６年１月12日、グルジア共和国スフミ市出身。91年に極真世界大会に出場。準優勝のアンディ・フグと激戦を繰り広げるも判定で惜敗。現在は極真グルジア支部長。リングスには93年より参戦、98年には田村を破り第2代リングス無差別級王者に輝く。KOKではいまだ勝ち星がないが、まだまだ意欲は十分。２００cm、１５０kg。

アイ・アム・アマレスラー

谷津嘉章激白！

もう一丁！なう!!

「目ぇつぶって30秒！」こと谷津嘉章が遂に『PRIDE』に出陣！しかし敢えなく轟沈！　谷津は“PRIDEの番人”G・グッドリッジの剛力パンチを浴びまくり無念のTKO負けを喫した。しかし、殴られても蹴られても決して怯まない、まさにアイ・アム・プロレスラーともいうべき打たれ強さと男の意地を見せつけ、日本中、いや世界中に感動を与えた。試合後、即入院した谷津だったが、ようやく退院。そして復活の狼煙を上げた。谷津嘉章は生きている！

聞き手／松澤チョロ
interview by Choro Matsuzawa

撮影／丸山剛史
photographs by Takeshi Maruyama

試合写真／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku

人生はロマンだろ。ぶたれてもぶたれても追い掛けて行くしかない！

——突然ですけど、谷津さん！　メガネスーパーの田中社長（現・会長）が二年後、プロレス界に参入する気があるみたいですよ。

谷津　あっそう。また団体でも作るってか？

——いや、今度はサポートに回りたいって言ってるみたいです。

谷津　どこに付くんだよ？

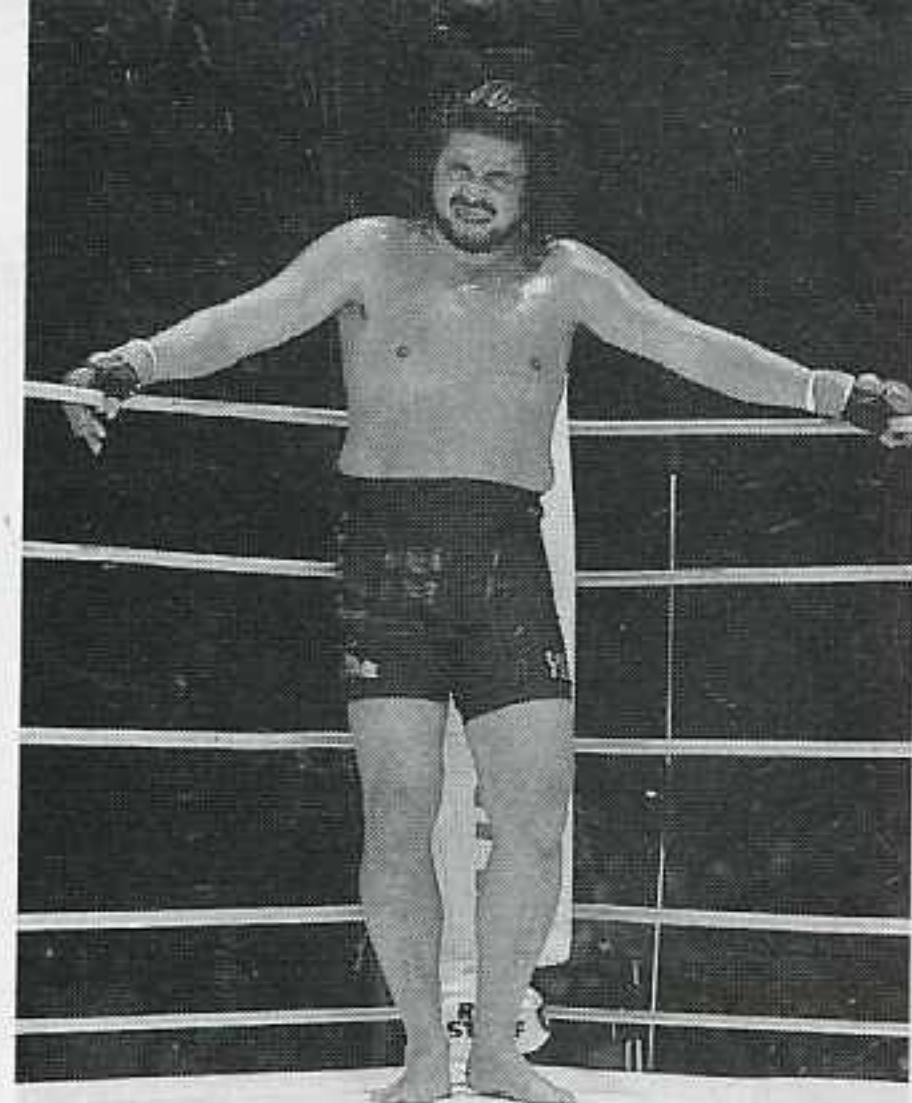
——ちょっと、まだわかんないですけどね。

谷津　まあでも、新日本しかねえだろ？　あとはノアとかかぁ……でも、そりゃねえな。いまはどこも厳しいもんな。やっぱり普通にビジネスとして考えれば、今だったら新日本とか『ＰＲＩＤＥ』とかだろうな。みんな結局、大きな幹の方へ行っちゃうでしょ。

——さすが浪漫派の谷津さんですね（笑）。そこにロマンはあるのかって話だよな。

谷津　例えば、『ＰＲＩＤＥ』が勢いがあっていったら、みんなそっちに行っちゃうだろ。それが日本人の悪いとこなんだよ。みんな同じ方に行っちゃうと面白くねぇもんな。

——それじゃあ、なんとか田中八郎さんにＳＰＷＦをサポートしてもらって、21世紀は派手にドカーンと行きましょう！（笑）。

谷津　よぉ〜し、田中さんに付いてもらおうか……って、ウチは無理だろよぉ。俺は田中さんとはいろいろあったからな（苦笑）。

試合後、ダメージと悔しさの入り混じった表情を見せた谷津に対し、場内からは嵐のような大観声が注がれた。『PRIDE.11』のMVPは文句なしで谷津に決定！　荒武者バンザイッ！

——いろいろあったみたいですからね（笑）。

谷津　まあ金があればいいってもんでもないしな。人生はロマンでしょ。ぶたれてもぶたれても追い掛けて行くしかないだろ。なっ！

——は、はい。それにしても谷津さん！　グッドリッジ戦は入場からセコンドの肩を借りて引き上げて行くところまで、全てが素晴らしかったです。ホントに泣けましたね。

谷津　そうか。でも俺は泣いてねぇぞ（笑）。

——そうですか（笑）。そういえば、グッドリッジは試合後、谷津さんのことを「あんな頭が硬いヤツは初めてだ」とか「谷津にはサムライ精神を感じた」って言ってましたよ。

谷津　いや〜、そういう風に相手を賞賛して、自分が光るっていう芸風じゃねえか。

——あぁ、芸風なんですか（笑）。谷津さんの芸風的には、これまで一貫して強気な発言を連発してきたわけですけど。

谷津　強気な発言っていうか、実際それだけの自信があったからな。それとともに、それだけ言うってことは自分へのプレッシャーでもあるわけだよ。それでこそ谷津嘉章だってところもあるしな。

——確かに（笑）。でも、その発言のおかげで谷津さんに対する期待感はもの凄く膨れ上がったと思うんですよ。ボクもそうだし。

谷津　そりゃ、すまないことしたな（苦笑）。でも技術的には俺なんかはまだ未完成だからな。いくらアマレスの大物だとしてもな……って自分で言うけどよぉ（笑）。

——いやいや、谷津さんは大物ですよ。入場式から、すでにオーラが出てましたから！

谷津　嘘つけっ！（笑）。オーラだかコーラだか知らないけど、そんなもん出ねえよ！

——いやいや、出てましたよ。でも、谷津さんは「フェイントかけてタックル行けば一発だろ」とか言ってたじゃないですか。ド素人の目から見る限り、結果的には、いいタックルは披露できなかったですよね。

谷津　やっぱ、それだけ打撃が恐かった部分もどっかにあったんだろうな。「タックル行ってアッパーもらったら終わりだな」とかな。いま思えば一発ぐらいどうってことねぇって思うんだけどな。それによぉ、あいつがまた必要以上にレスリング勉強してきたからな。

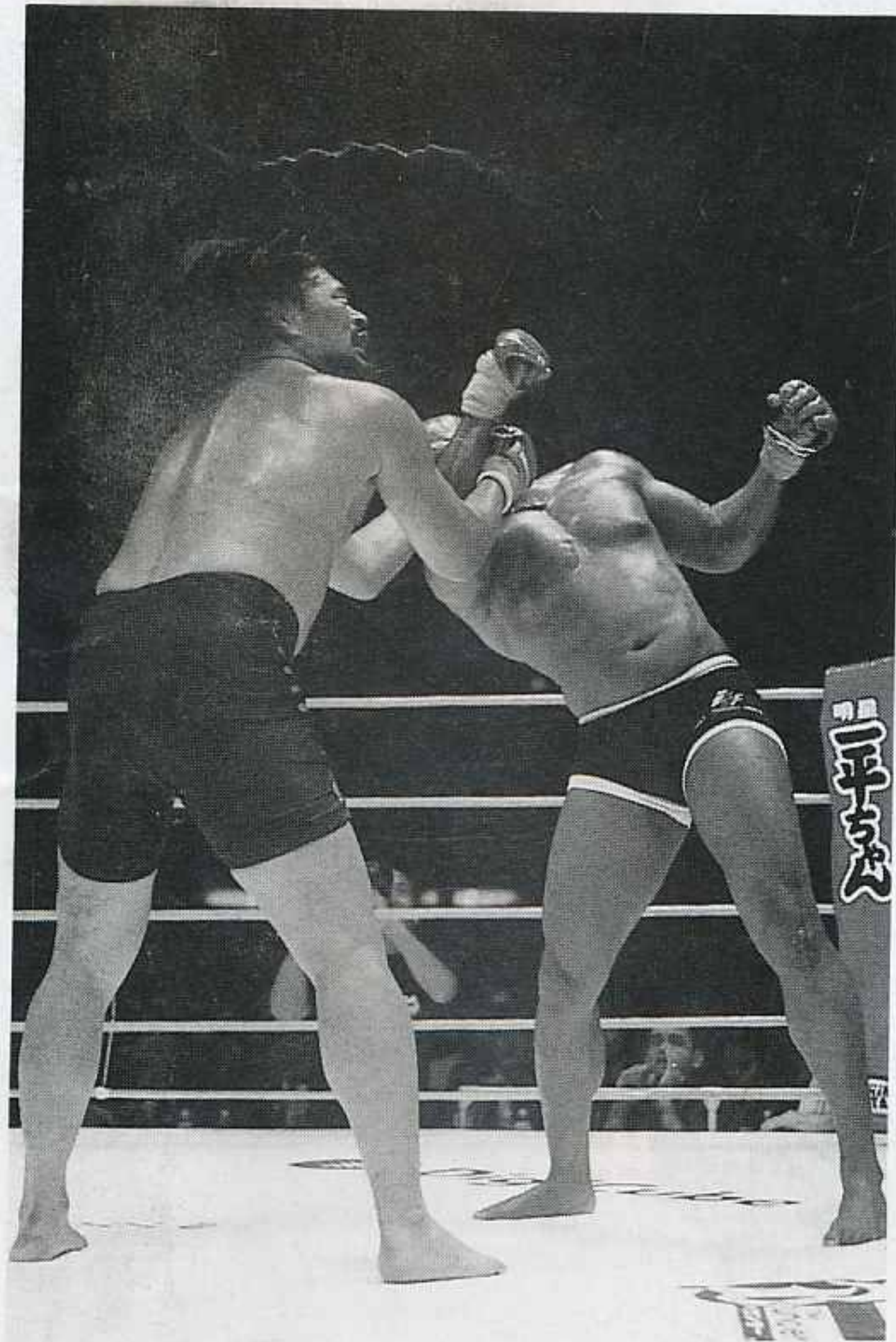
——（マーク・）コールマンと（トム・）エリクソンについて練習してたみたいですからね。

谷津　だろ？　まあ確かに、いいタックルは取れなかったっていう部分もあるわな。それは認めるよ。でも最後の方で一回簡単に取れただろ。

——ヒザ固めに行ったときですね。

谷津　そうそう。逆に言えば、それぐらいモロイ部分もあったんだよ。それと、ボクシングという未知の部分に対して、変なサディスティックな好奇心から「打撃がどんなもんだか受けてみたい」っていうのがあったんだよ（笑）。

——サディスティックな好奇心ですか（笑）。

谷津　でも俺は会見で「リベンジしたい」って言ったけど、次やっても負けるって自分で思ってたら、リベンジもクソもねぇわけだろ？

強烈なパンチを喰らいながらも、なんとか打ち返そうと試みる谷津。「セコンドにボクシングの先生が付いてくれたから俺も打撃も出そうと思ってね。『練習したボクシング使わなかったね』って言われたら先生に悪いだろ。まあ俺の人柄みたいなもんでさ（苦笑）」。

11・16『PRIDE』リベンジ会見

私はまだ生きてます！グッドリッジともう一度、闘いたい!!

11月16日、新宿京王プラザホテルで谷津の『PRIDE』参戦後、初の公式発言の場が設けられた。谷津は左手薬指骨折のためギプスを付け登場。さらに左太股肉離れ、左目窩底骨折とまさに満身創痍。まず森下社長から「今後も『PRIDE』に上がって欲しい」とラブコールを受けると、「もう一回気力を振り絞ってイチからやってみようという気もありますが、正直辞めたいという気持ちもあって心中は複雑です（苦笑)。44として遅咲きですが、自分自身の人生に大きなテーマを頂いたような気がします。私はまだ生きてますから！」と力強く宣言。ケガの回復具合にもよるが再出陣は2月に予定の『PRIDE.13』となりそう。気になる相手は「個人としてはリベンジマッチを熱望したいと思いますが、いろんな方々に支えられて闘ってるんで、相談して決めたい」と胸中を告白した。さらにこの日、キャプチャー所属のニーハオ改め宮沢誠が『オフィス荒武者』所属となったことが発表された。

観客に感動を与えた分だけ、こっちはダメージをもらっちゃったな（笑）

ある程度、可能性があると思ってるから、みんなも「リベンジしないんですか？」って言うんだよな。自分としても可能性がないわけじゃなくて、あとは構え方とかスタンスとかの問題だけだと思ってるしな。単に勝つためだけだったら、靴履いてしまえばタックルで一発だろって思うけど、そうなっちゃうと凄くせこくなっちゃうし、当たり前の戦法になっちゃうだろ。その当たり前の闘いは俺のプロ根性としては許せないわけ。なっ！

——谷津嘉章として常に博打を打ちたいと？

谷津　そういうこと。ある意味では、最後の切り札としてレスリングを使いたいなというのが自分の格闘技の美学のような気がするしな。それが逆に言うと、「谷津、お前大丈夫かよ」っていうところなんだよ。でも、自分の思惑とお客さんの「こうきたらいいな」っていう思惑が合致したから負けてもこれだけ反響があったんじゃないかなっていうのもあるしな……あれっ？　なんか評論家みたいになってきたなぁ（笑）。

——いやいや、評論家じゃなくても「谷津がMVPだ」って言う声は多いですよ（笑）。

谷津　んなこと言ったって結局、負けちゃったわけじゃんよぉ！　ある意味ではちっとも嬉しくないんだよ。でも森下社長も言ってたぞ、「負けて、これだけ反響ある人も珍しいですね」って（笑）。

——確かにそうでしょうね。唯一のチャンスはヒザ固めを極めた時だったと思うんですけど、そういったサンボ系の技は、試合前の特訓で身に付けたわけですか？

谷津　まぁ、そうだね。サンボの技は百何十種類あるっていうけど、咄嗟の状態で使える技は30もないから。その中で、自分がセレクトしたのがヒザ固めだったわけよ。ところが、あれが効かないんだよなぁ（苦笑）。

——手応えがなかったと（笑）。そういえばエンセン井上選手も「あのヒザ固めは痛みを与えることはできるけど、壊れる技じゃない」って言ってましたね。

谷津　そうなんだよなぁ（しみじみと）。確かにあいつも「ウォー」とか痛そうに唸ってたから、「あっ、やった」と思ったんだけどな（苦笑）。逆に俺の方がバテちゃったよ。

——バテちゃいましたか（笑）。

谷津　レスリングと違って『PRIDE』はフォールないでしょ。そうなったら関節かマウントとって殴るしかないわけだから。マウントパンチっていうのは誰でもやってるだろ。そういう意味じゃ、ちょっと渋めの技で極めたいなってのは思ったんだよな。

——渋めの技ですか（笑）。確かにヒザ固めはかなり渋かったですけどね。まあでも、44歳だからこそ、これだけ感動を与えたっていうところもあると思うんですよ。

谷津　勿論あるよな。でも、ある意味、お客さんに感動を与えた分だけこっちはダメージをもらっちゃったところがあるからな（笑）。

——お客さんの涙の数だけダメージがあったわけですね（笑）。

谷津　そういうことだよ（笑）。まあ問題を言ったらキリがないけど、一番大きな問題は年だな。あとはチームワークと自分の気力だと思ってるから。まあ気力がどこまで続くかなっていうのは正直あるよな。はっきり言って、もうやりたくないもん！　これは本音！　だけど、周りの人間やファンから「もう一回やれよ」って言われたら、「よっしゃ、もう

バーリ・トゥードデビュー戦でグッドリッジにメッタ打ちにされた谷津は、プロレスデビュー戦でもブッチャー＆ハンセン組に血祭りに上げられている。運命のいたずらか、どちらもすぐ側にはアントニオ猪木の姿が……。ちなみに上の写真には、“当年とって70歳！おヘソの下は45歳！”ことユセフ・トルコの姿も確認できる。ハンセン引退前に、もう一度見たい顔合わせである。やれんのかーッ！

ぶち抜き5P！ 関係者が語る 谷津の『PRIDE』物語！

アントニオ猪木★

まあ、谷津は見ていて精一杯よくやったなと思うよ。

ただ彼もあれだけ打たれ強いんだから、もうひとつ、もっと（体重を）落とさないとダメだろうな。

これは専門的になるけど、水銀の値というのが高くなっちゃってるんですね、選手の場合は。そうすると、痛みを凄く感じるというか。水俣病なんてのは凄い強度のそれなんだけど、ほとんどの選手が水銀の値が高いんですよ。そうすると、痛みや練習に対して、回復力が遅かったりするからね。

谷津なんか、あれだけの年齢でやってれば腰も痛いだろうし、ヒザも痛いだろうからさ。そこのところをもうちょっとうまく、まあ俺のところに来れば指導してあげるし、気づきを与えてやるんだけど。来る気がなきゃしょうがない。まあ俺から行くことはないんだけどさ。そしたらまだまだチャンスはあるんじゃないですかね。

『PRIDE』プロデューサー・アントンの「俺のところに来ればいいじゃねぇか」発言に谷津はどう応えるのか？　これは見物だ！

俺は長州力とか藤波辰爾と違って猪木信者じゃねえからな（笑）

一丁！ 不死鳥のごとく蘇ってやるか」ってなるだろ。そんな強い味方いないじゃん。

――もう一丁ですか（笑）。

谷津 やるしかねえだろ！ でも俺の女房や家族に「やってよ」なんて言われても「バカなこと言うんじゃねぇ」ってなるけどな（笑）。

――アハハハハ！

谷津 まあでも「谷津、良かったぞ」って言ってくれたお客さんがSP（WF）の会場に足を運んでくれるかっていったら別でしょ。プロレスとは全然ジャンルが違うからな。それは自分でも分かってんだよ。

――確かにそれは言えますよね。

谷津 そうだろ？ 〝総合格闘技の谷津〟と〝プロレスの谷津〟は違うと俺は思うよ。グッドリッジ戦を見て「谷津ってどんなもんだろう」って言って、プロレスを見に来てくれればウェルカムだけどな。正直、違うって分かっていながらもそういうのも期待してる部分もあるんだけどな（笑）。

ボクシングの先生からグッドリッジ対策として伝授された谷津ガード。右利きのグッドリッジに対し、常に左手を前に出しストレートを喰らわないように左回りしながらタックルの機会をうかがっていたという。次も出るか？

――当然あるでしょうね（笑）。そういえば試合前、猪木さんが「俺がこれまで見てきた中で一番強いのは谷津だ」って言ってましたけど、その発言を聞いてどう思いました？

谷津 猪木さんの言うことはよくわかんねえよなぁ（苦笑）。昔からそうだけど。

――よくわかんないって、ホメてくれてるんだから素直に受け取りましょうよ（笑）。

谷津 だってよぉ、俺は長州力とか藤波辰爾と違って猪木信者じゃねえからな（笑）。まあでも猪木さんとも時期が来たら一度話さないといけないと思ってるよ。

――試合後も猪木さんは「俺のところへ一回来ればいいじゃねぇか」って言ってましたよ。

谷津 パラオに行って竹槍持って特訓したりしてな（笑）。まあ、俺にとって猪木さんっていうのはこういう世界に入れてくれた人だし、ある意味では因縁もあるしな（苦笑）。振り向けば猪木さんがいたって感じだわな。

――『振り返れば奴がいる』ってドラマもありましたけどね（笑）。

谷津 振り返らなくたって、目の前にいるだろ（笑）。俺が谷津嘉章だよ！

――そうですね（笑）。谷津さんは、UFOの川村社長との接点はあるみたいですけど、『PRIDE』に上がるにあたって、猪木さんと顔を合わせたりしなかったんですか？

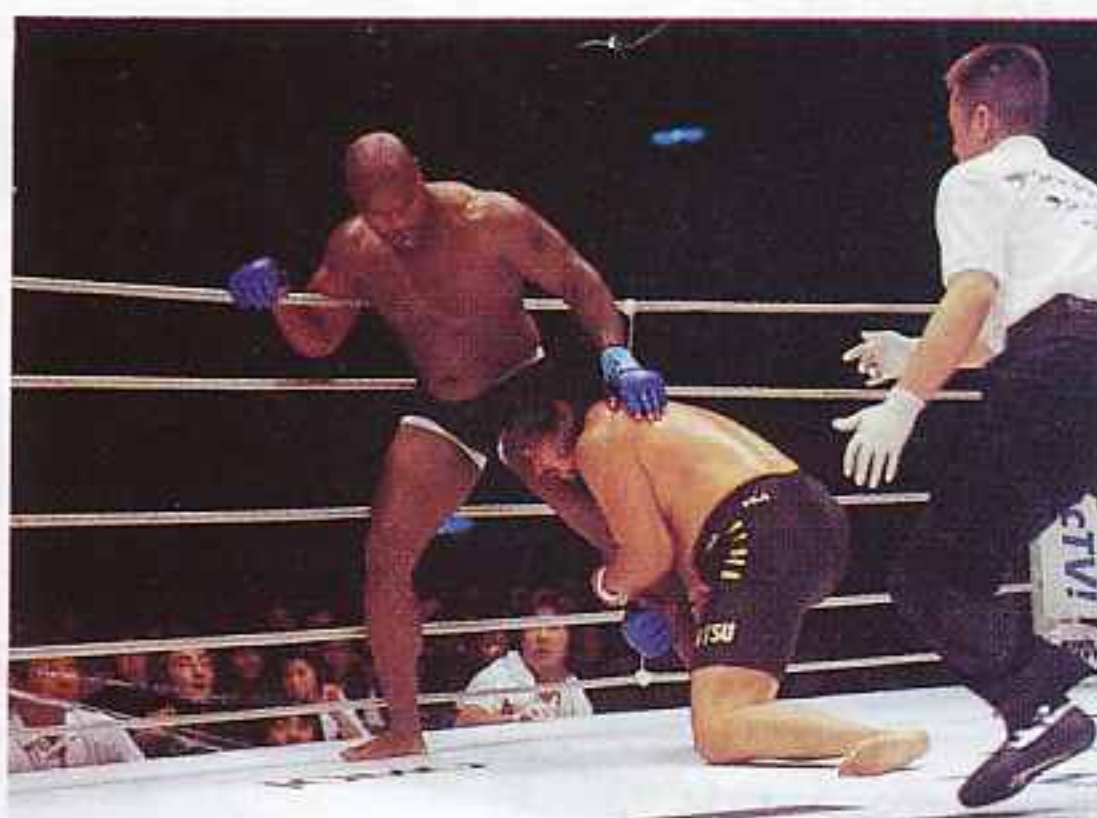
谷津 まあ、何回か一緒に食事したりはあったけどな。でも今は、川村さん＝猪木さんみたいな感じでしょ。昔の新間（寿）さんみたいなもんで。あんな汚くはないけどな（笑）。

――アハハハ！ そういえば『ファイト』に載ってたんですけど、猪木さんだけじゃなく、あのローランド・ボックまでが「新日本で一番強いのは谷津嘉章だよ」って新日本に参戦してた時に言ってたみたいなんですよ。

谷津 あぁ。ボックはグレコの選手だったんだよな。あの頃っていうのは、自分も若かったし自信満々の頃だったからな（笑）。

――今回は結果は出せなかったといえ、ボック発言で更に谷津幻想が膨らみましたよ。

谷津 あいつも同じアマレス出身だったからっていうのもあるだろうけどな。まあでも単純に強い弱いで推し量れないのがプロレスだし、ある意味では、そこが奥深くて魅力でもあるからな。（ため息まじりに）いまだにプロレスは難しい部分があるよなぁ。

――弱気にならないで下さいよ（笑）。強気な発言をしてこそ谷津嘉章なんですから。

谷津と言えばタックル！　タックルと言えば藤田！　というわけで、一部で噂された藤田戦について聞いてみると「打撃戦にはならないだろうし、日大レスリング部の稽古しているようなもんだから凡戦になるだろうな」とのこと。

大刀光

谷津さんの試合？ 見てねえよ！ 俺の敵討ちだて言ってるけど、そんなの頼んでねえもん。まあ俺がセコンド付かなかったから負けたんじゃねえのか（笑）。でも俺もよぉ、よくわかんねえけど『PRIDE』出てから急に忙しくなったよ（笑）。

『PRIDE』参戦後、撃闘道をはじめとして、あちこちから声が掛かり大忙しのタチ関

仲野信市

仲野 僕は（テレビは）見てないですけど、新聞でチェックしました。やっぱり出るとなったら、結果も内容も気になりましたね。

――谷津さんは「仲野に言われたから出る訳じゃないぞ」なんて言ってましたけど、44歳にして『PRIDE』に出場したことについて率直にどう思いましたか？

仲野 勇気あることだと思いますよ。お金のことか裏のことは知りませんけど、素直に言えば偉いですよ。結果はどうあれ偉いです。

勝った負けたじゃなくて、パンチをどんなに喰っても倒れなかったらしいじゃないですか。あの人にまだそんな気持ちが残ってたってことは嬉しかったですね。もっと早く出てればあんな結果にならなかっただろうし、あの人にまだプライドがあって、それが出たってことは良かったですよ。

――仲野さんと行動を共にしてるときは、そのようなプライドはあるように感じられましたか？

仲野 自分の前では出さなかった

過去に色々とあったため谷津にはちょい辛口の仲野。猪木祭りでは高田対仲野が見たい！

谷津　そうだよな。だから、俺はいままで『紙プロ』でもいろんな発言してんじゃんよ。「谷津はあれだけ強気なこと言ってて何もできなかったじゃないか」って言われると、やっぱり悔しいわけだよ。だから、そういうヤツに対しては意地でも谷津嘉章の力を証明して見せたいと思ってるから。

――それは頼もしいお言葉です（笑）。

谷津　だってそうだろ。俺の気前のいい発言がなくなった時は死ぬ時だよ！　強気でいる時は俺が頑張ってる時だよ！　それがプロレスラー谷津嘉章の意地なんだよ！

――その通りです。やっぱり谷津さんには死ぬまで「目ぇつぶって30秒！」って言ってもらわないと（笑）。

谷津　バカヤロー！（笑）。ジジイになってまでそんなこと言えるかぁ！

俺の気前のいい発言がなくなった時は死ぬ時だよ！　なっ!!

――でも、今回の試合前も「俺は小川対佐竹戦の勝った方とやらせろ」とか「佐竹の体は格闘技をやる体じゃない。今すぐにでも勝てる」って、小川もずいぶんほえすぎ。気前のいいこと連発してましたよね（笑）。

谷津　いまでもそう思ってるよ（キッパリ）。

――そうですか（笑）。個人的には佐竹戦なんて凄く見たいですけどね。

谷津　いつでもやってやるよぉ。こっちはグッドリッジのパンチを50発も食らってるんだからよぉ（苦笑）あいつのパンチじゃ倒れねえだろ！　小川でも誰でもな、やらせてくれればいいじゃん。向こうは嫌がるかもしれないけどな。「おっさんと闘って勝っても意味がねえよ」なんて言われるだろうけどよ（笑）。

――おっさんパワーをナメるなと？

谷津　あぁ！（急にトーンダウンして）でもよぉ、やっぱり裸足でやるのはキツイなぁ。まあ最初っからキックはそんなやるつもりないから、タックルするには靴履いちゃった方がよっぽど楽なんだよ。

――コールマンとかもレスリングシューズを履いてますからね。谷津さんはキックも多少は狙っていたところはあるんですか？

谷津　ないないない。ストンピングでもやれってか（笑）。

――「オリャ、オリャ、オリャ」って、ストンピングの連打で勝ったら最高ですよ（笑）。

谷津　ムリムリ（苦笑）。でもな、これから時間があればキックもやろうかと思ってるよ。極めるのは無理だろうけど、ある程度はトータルでかじらなくちゃいけないでしょ。打たれて打ってみて初めて体感するわけでしょ。それがないと、競技者じゃなくて、評論家であり理論家の目だけになるわけだよ。今回、ボクシングの洗礼を受けて、打撃の怖さも、痛さも、難しさも知ったわけじゃん。

――必要以上に知っちゃいましたよね（笑）。

谷津　知りすぎだよな（苦笑）。だからまあ、ボクシングでも一発二発で倒れないってわかったから、今度やったら簡単にタックルに入れるでしょ。だから、プラスアルファの材料は自分にできたわけだから。

――次は「進化した谷津」が見られると。

谷津　そうでしょ。レスリングからまた一歩踏み込んだわけだからな。やっぱり、こっちも、その競技をナメちゃいけないしな。いくら練習しても足りるってことはねえからな。プロレスも奥が深いけど、総合格闘技はまた違う方向で奥が深いから。ローキックの痛みもそうだし、頭では分かっててもやってみないと分かんないことが多いからな。

――そういう意味で、グッドリッジに関してはある程度、弱点は掴んだんですね。

谷津　そうそう。ヒントだけ言うとな、構えをこの前と全く逆にすればいいんだよ。ケンカ四つにすればいいんだから。そしたらタックル簡単に取れるから（キッパリ）。

――簡単に取れますか（笑）。そこから何をしてやりましょう？

谷津　あとは秘密だな（笑）。まあなんとかなると思うよ。今度は、ただじゃ済まさないから。今のままじゃ男が立たないからな。

――そういえば、試合前のハードな練習で成人病がすっかり治ったって聞きましたけど。

谷津　いや、ところが治らなかったんだよ。

――アラッ！　治ってなかったんですか？

谷津　『PRIDE』は試合前に血液検査とかがあるんだよ。それで、「先生、大丈夫で

男は黙って荒武者グッズ！

男のロマンを追求する谷津嘉章の『オフィス荒武者』から「谷津ウォッチ」と「谷津“荒武者”Tシャツ（ブラックorネイビー／サイズM・L）」が新発売！　今回は『オフィス荒武者』さんのご厚意により、谷津ウォッチを2名、そして荒武者Tシャツを6名にプレゼントします。さすが、おしゃレスラー谷津嘉章だけにめちゃカッコイイぞぉ！　なっ！　応募方法はp176参照！　お問い合せ【オフィス荒武者】☎03-3982-6060まで

ですね。でも、あの人に自信があるのは口に出さなくてもわかりましたよ。アマレスに自信があったからこそプロレスをナメてたんだろうしね。だから今回『PRIDE』に出て、しかも倒れなかったってことは、アマチュア時代の昔のきれいな気持ちがまだ残ってたってことですよね。

――仲野さんが出場するとかではなく、『PRIDE』はやはり気になるものですか？

仲野　やっぱり気になりますよ。高田も出てるし、大塚選手なんかも頑張ってるしね。プロレス界で気にならない人なんていないんじゃないですか。まあボクは出てないから何も言えませんけど、やっぱり出る人には勝ち負けはともかく、「プロレスラー」だということを見せてもらいたいですね。

――谷津さんも負けはしましたけど、その「プロレスラーだ」という部分でファンに評価されたんだと思いますよ。

仲野　でもあの人はプロレスラーというより、谷津嘉章としてのプライドでしょうね。だからファンも今回は「よく倒れなかった」って評価しても、2度目となると結果が求められると思いますよ。僕も応援はしてませんけど（笑）、谷津嘉章のプライドが見れて嬉しかったし良かったと思いますよ。

ザ・グレートサスケ★

あの結果は本来の谷津さんじゃないですよ。やっぱり、プロレスと『PRIDE』という畑の違う分野に出ていって、ちょっと戸惑ってしまったんだろうと。今回、負けはしましたけど場慣れはしたと思うんですよ。もちろん次に出たら絶対に勝ちますよォォ！

私は2年前から谷津さんがブレイクするって言ってましたから！（『紙プロR．NO11』参照）。まあ実際は1年遅れちゃったんですけど（笑）、ホント来たでしょ？次は必ず勝ちますよ。それで谷津さんの時代になります！　これは間違いないです！　谷津さんこそが20世紀を締め括る最後のプロレスラーの砦なんですよォォ！

そして、来年ブレイクする選手はですね、まあプロレス側からじゃなくて『PRIDE』側からなんですけど、小路選手！　これは来るよォォ！　小路選手が逆にプロレスに流れ込んできたら、さらに面白いことになるんじゃないかなと。しかもルチャをやりたいって『紙プロ』に書いてあったから。ルチャと言えばみちのくプロレスですよォォ！　これは期待できるよ。一丁やりますかーーッ！

東北の英雄＆予言者。猪木信者でもあるサスケ社長の猪木祭りへの参戦はあるのか？

今度は、ただじゃ済まないから！
今のままじゃ男が立たない!!

「これで極まらなかったらおしまい」と思っていたというヒザ固め。極まらなければ反転して裏アキレス腱固めを狙うという作戦だったが、スタミナ切れで断念。監獄固めは狙わなかったのかと聞くと「監獄なんてできねぇよ！」と一刀両断！

すかね」って聞いたら、「谷津さん、そんなに甘くないですよ。（血糖値が）230はありますよ」って言われたからな（苦笑）。

——それは、ドクターストップが掛からないぐらいの数値なんですか？

谷津　いや、ダメなんじゃない？　でも本当に血糖値が上がって動けなかったら、自分がやりたくてもできないわけでしょ。だから、「やるのはしょうがないでしょ」って俺は言ったんだよ。そしたら先生は「怪我した場合は治りが遅いですよ」って。おかげで、ご覧の有り様よ（苦笑）。まあしょうがないわな。

——それはしょうがない（笑）。あと、試合前は「今度の試合は恋愛のプロセスみたいなモノだ」って言ってたわけですけど、恋愛に例えると、どんな感じだったんですか？

谷津　見事にフラれちゃったよなぁ（苦笑）。淡い期待と、ちょっとした自信もあったんだけどな。まあ甘くはないってことだよ。

——なおさらリベンジですよね（笑）。

谷津　フラれっぱなしじゃカッコ悪いだろよぉ（笑）。

——フラれっぱなしはカッコ悪いですけど、グッドリッジのパンチで谷津さんの自慢のロン毛が振り乱れるところなんて、哀愁が漂ってて凄くカッコ良かったですよ。

谷津　哀愁漂わせてもしょうがねえだろ！　哀愁で勝てるわけでもねえしな（笑）。

——髪形は変えるつもりはないんですか？

谷津　だって『PRIDE』はみんな短いのが多いでしょ？　やっぱりそこはプロとして個性を出さなきゃと思ったんだよ。

——プロとして大事なことですよね。

谷津　だから、何回も言うけどよぉ、勝つだけだったら俺ももっとせこいレスリングにしちゃえばいいの。でも、自分としてはそうはしたくないから（キッパリ）。ボクシングで来るなら、こっちもダッキングしながら、できればストレートの一発くらい入れたいんだよな。無謀なのはわかってても、そっちの方が見る方には面白えだろうよ。なっ！

——ニック・ボックウィンクルのように「ワルツで来たらワルツ、ジルバできたらジルバ」と（笑）。やっぱりプロレスラーですね。

谷津　レスラーっていうか、それが谷津嘉章、はたまた男のロマンだと思ってるから。

——う〜ん、素晴らしい！　それじゃあ、この辺で話題を変えて、一つ評論家としてうかがいますけど、橋本真也選手の新日本解雇っていうのは、男のロマンを感じましたか？

谷津　（興味なさそうに）あっそうって感じだわな。だってよぉ、プロレスの場合は、どこまでがアングルでどこまでがガチンコか分からないからな。まあプロレス界の人間の自分が言うのもおかしな話だけどな（苦笑）。

——おかしな話ですね（笑）。

谷津　だって、藤波辰爾の発言なんてコロコロ変わるわけでしょ。

——見事なくらいに変わりますからね（笑）。

谷津　まあ、藤波さんに限らずだけど、いまのプロレス界は本音の部分がどこにあるのか分からねえよ。でもよぉ、逆に言えば、そこがプロレスのエンターテインメントな部分の良さかもしんないよな。

——そこを面白がれと。

谷津　これからは、それでいいんだよ。いろんなプロレス団体の人間模様だとかを想像しつつ、リング上の闘いを見ると。そうすればある意味面白いよな。こいつとこいつは実は仲が悪いけど、タッグを組んでやってるだとかな、そっちの方が面白えだろ（笑）。

——それは言えますね。でも、そういう意味でも、今回の谷津さんの『PRIDE』挑戦をかつてのタッグパートナーの長州さんはどう思ってるか聞いてみたいんですけどね。

谷津　どうもこうも、いい年してバカなことやってんなぐらいしか思ってねえだろ。ビジネスで頭いっぱいだろうからな（笑）。

——そうですか（笑）。でも『PRIDE』も、この間の大阪大会は特にプロレスファンが多かったですよね。

谷津　多かったよな。そうなってくると余計にプロレスはエンターテインメントに走った方がいいと思うんだよ。格闘技のリングでは、それができないんだから。華々しい夢を与える分にはプロレスは最上級でしょ。逆に格闘技の世界も、そういう意味ではプロレスから見習うところも、いっぱいあると思うしな。

矢口壹琅 ★

SPWFでは谷津の好敵手。一方では大仁田厚バンド『BODY』のメンバーでもある

谷津嘉章っていうのはアスリートっていう面で言うと化け物的なところがあるんですよ。今回『PRIDE』に出ることになって格闘技用の練習に切り替えた時に、やっぱり44歳ですから、スタミナ面とかで、かなり難があったと思うんですよ。それが、わずか数ヶ月の練習で、肉体改造から心拍数から何からコンディションを仕上げてくるわけですから。

練習に入ってからは日増しに目が輝いてくるんですよ。今まで見たことがないぐらい（笑）。声にも覇気があって、やっぱり谷津嘉章には格闘技が一番合ってるのかなと思いましたね（笑）。ただ言っておきたいのは、あの人はエンターテイメントはもの凄く好きなんですよ。谷津嘉章にとって格闘技は思いっきりリアルファイト。エンターテイメントは思いっきりエンターテイメントがしたい人なんです。中途半端が嫌いなだけで。だから『紙プロ』とかでいろんな人を攻撃するわけですよ（笑）。

練習量も凄くて、日大のレスリング部の合宿所に泊まり込んで学生と一緒に二段ベッドですよ（笑）。朝の六時半から朝練やって、学生が学校行ってる間はボクシングジム、そのあとサンボの練習に行って、帰ってきて夕方にアマレスの練習やるわけですよ。それで走り込みですから。ハッキリ言って異常ですよ（笑）。学生だって付いて行けないですよ。どこの44歳がそんなことできますか！　ホントに〝凄いヤツ〟ですよ（笑）。

ある意味、想像力を超えてるとこがあるし、それこそ真のプロレスラーの姿なんじゃないかなって。それにインディーズの凄みっていうものを十分に見せつけてくれたなって思いますね。

ましてや、あの人は去年、俺の誘いに応じて電流爆破やったんですよ。電流爆破からバーリ・トゥードっていう、その振り幅の大きさは、まさにプロレスラーですよ。俺も振り幅の大きい音楽とプロレスっていうものを、これまで以上に頑張っていこうって気にさせてもらいましたよ。

二瓶組長 ★

自分は谷津さんの試合はPPVでも地上波でも見ましたよ。でも言いたいんだけどな、地上波で放送したのは短すぎるよ！　なんか「谷津さんが負けた」とか、そういうところしか印象に残らない編

―新日本とかでは、エンターテインメントと総合格闘技の要素を両方取り入れようとしてますよね。

谷津 それが例えば、ストロングスタイルとエンターテインメントを上っ面だけ融合しようとしたりとか、中途半端にしちゃうといやらしくなって見捨てられちゃうと思うけどな。プロレスのリングで敢えてマウントポジションとって殴る必要もないと思うし、殴っても顔もほとんど腫れてねぇわけだしさ（苦笑）。

―ファンの目も肥えてきてるんで、そういう試合はすぐに突っ込みが入りますからね。

谷津 そうだろ？ いまはお客さんの目が凄く肥えてるんだから、プロレスのリングで格闘技戦をやっても「何だこりゃプロレスやってくれよ」って感じると思うんだよな。バーリ・トゥードが出てくる前はそういう格闘技戦も良かったんだろうけど、いまの時代はもうキツイよな。だから、そっち方面で張り合おうとしなくていいわけだよ。

―21世紀のプロレスはエンターテインメントに針を振るべきだと。

谷津 そっちだよな。プロレスの領域の中でいいとこもたくさんあるんだからな。そっち方面に突き進めばいいんだよ。バーリ・トゥードは何でもありって言うけど、プロレスの方が何でもありなとこが多いわけじゃん。

―5カウント以内なら金的、噛み付き、それに凶器攻撃までオッケーですからね（笑）。谷津さんは、SPWFでの理想はデッカイ外国人をバンバン呼んで、昔ながらのアメリカンプロレスをやることなんですよね。

谷津 そうそう。やっぱりデカくて千円だから（笑）。そういうのが一番いいでしょ。

―いいですねぇ（笑）。『PRIDE』に出てる選手とかでSPに上げたい外人もたくさんいるんじゃないですか？

谷津 『PRIDE』の番人とかスカウトしようかな（笑）。エリクソンとかもいいな。

―グッドリッジ&エリクソン対チーム・コンボイなんて見たいですね（笑）。森下社長にお願いしましょう！

谷津 ギャラ高いだろうよ（苦笑）。

―高いでしょうけどね（笑）。森下社長といえば、大仁田さんが猪木さんとの対戦要望書を持っていったりしてましたけど、それについてはどう思いますか？

谷津 ああいうのは、せこいよな（苦笑）。いいところだけ狙いやがってなぁ。お前も苦労してみろって言いたいよ。まあでも、そういうのは個人個人の価値観みたいなもんだから、別にいいんじゃないの。

―ところで、『PRIDE』で谷津さんの勇姿が見られるのはいつになるんですか？

谷津 「来年の2月ぐらいにまた出て下さい」って森下社長から言われてるんだけどな。ファンからも「谷津は出ないの？」って声がいっぱい入ってるみたいだから。そういう大きな勇気を与えてくれるモノがあるから、俺も、もう一丁って思うんだよな。わかるだろ？

―わかります！ もう一丁と言わず、二丁でも三丁でもやっちゃって下さい！

谷津 いや、やりたくない（キッパリ）。勘弁してくれよ（苦笑）。でもこればっかりはやってみないと何とも言えないよな。いまは治す方が先！ 治れば口数も多くなるし、行動範囲も広くなってくると思うしな。おっさんの懲りない夢みたいなもんだからな。

―谷津さん！ これからも懲りずに格闘ロマンの道を突き進んで下さい！

谷津 おぉ、まかせとけ!……という気持ちと（小声で）もう勘弁っていう気持ちがあるんだけどな（苦笑）。とりあえず、心配して下さったファンの皆さん、私はまだ生きてますからッ！ それでは、ご機嫌よう!!

【11月16日、東京・新宿京王プラザホテルにて収録】

おっさんの懲りない夢みたいなもんだからな。もう一丁いくぞ！

ギプスを付けたまま、グッドリッジ戦で披露した「谷津ガード」を見せる荒武者。ちなみに『PRIDE』での谷津の入場曲は、あのカレリンのテーマ曲だった（谷津は知らなかったが）

集の仕方だよな。あんないい試合、ダイジェストじゃ可哀想だよ。あの試合はフルで流すべきでしょ。

まあ年齢のこと言ったらあれだけど、あの年でやる気になった谷津さんは凄いよね。全く違う種目だし、ある意味プロレスラーが不利なルールなわけでしょ。それでも出ていったつうのは凄いよ。

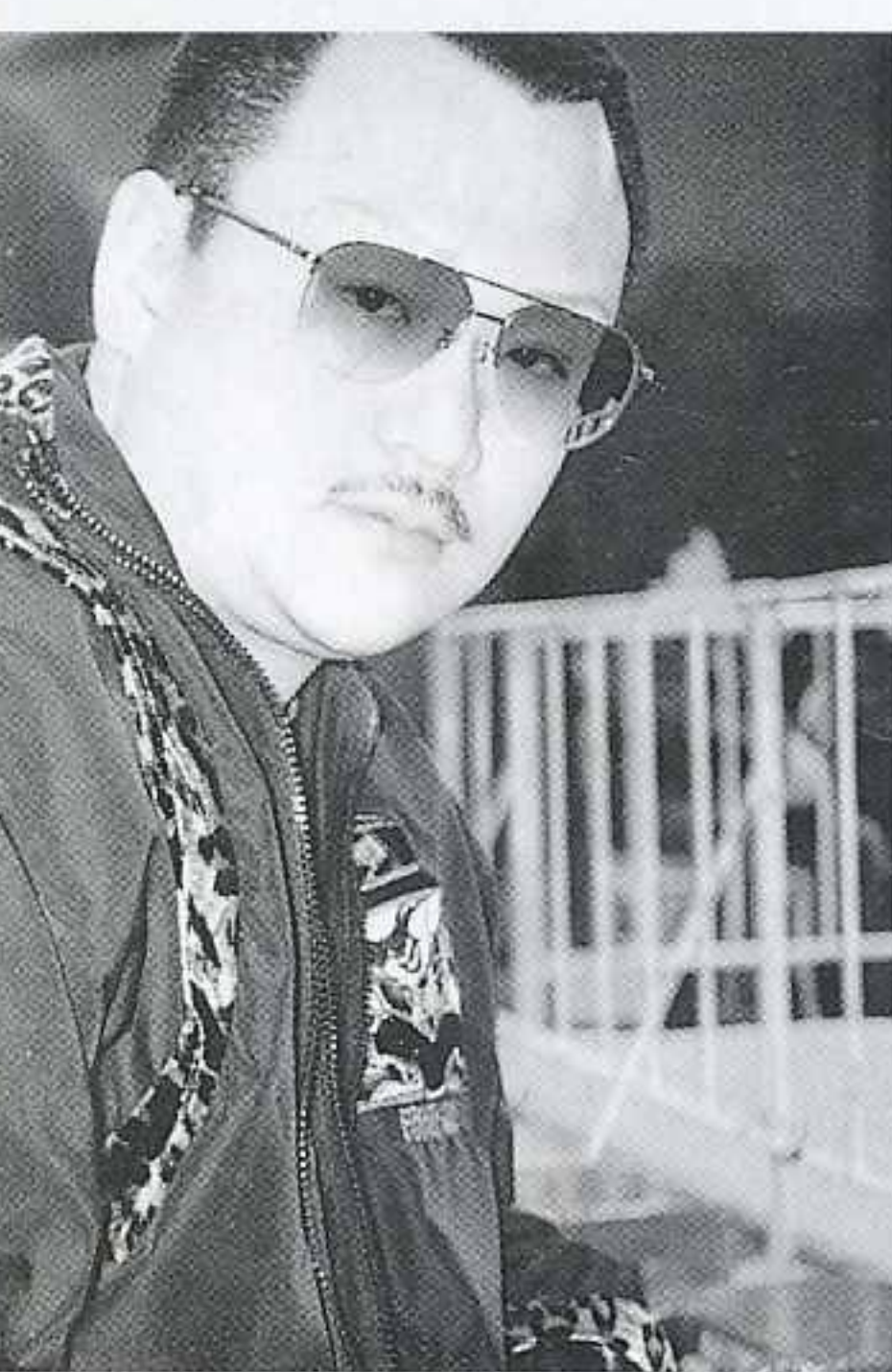
まあ『PRIDE』が俺を必要とするかしないかだけど（苦笑）、俺も考えてるとこあるから。ただ、もし俺が出るんだったらルールをちょっと考えて欲しいよね。気にいらない部分があるから。やっぱ喧嘩のプロとしては、ヒジ有り、頭突き有りでやりたいよね。ルールどうのこうのあんま言いたかねぇけど、何でもありってタイトル付けるんだったら何でもありにした方がいいと思うしね。ただ警察はいらないけどさ（笑）。それに「何でもありって、ヒジ、頭突きはダメだけど、●はいいのか、この野郎！」って、あるじゃない、俺からすればさ（笑）。絶対●ン●使ってるだろって奴いるじゃん。体見ればわかるけど（笑）。

まあでも、プロレスラーとして、谷津さんが出たり、ケンドー・カシン・石澤さんが出たりして負けると「プロレスラーは弱いんじゃないか？」って言われるけどさ、それは違うからね。じゃあ「『PRIDE』に出てる選手がプロレスのリングに上がれるか？」って言ったら上がれないわけじゃない？

そういう意味では、よその所に出ていった谷津さんの勇気は凄いと思うし、ましてやあの年齢で、あのガッツでしょ。グッドリッジのパンチあんだけ食らって倒れない男なんかいないからな。

谷津さんはいまSPWFをやってるけど、新日本に出てた人が団体作ってるわけじゃないですか。一時よりは陽の目を浴びなくなっちゃってるけど、でも谷津嘉章っていったら19でオリンピック出た天才なわけですよ。俺も長い間、谷津さんを見てて「もっと陽を浴びるべき人だ」って思ってたし、谷津さんも「俺はまだまだ生きてるぞ！」って言いたかったんだと思うんだよね。だから、そういう意味で谷津さんは『PRIDE』に出たような気がするんだよ。

やっぱ勝負だから当然、勝ちに行ったんだろうけど、それ以前に男の意地を見せたいっていうのがあったんだと思うよ。だから、あんだけ頑張ったんだろうしね。

まあ「俺がグッドリッジとやって谷津さんの仇を取りたい！」って言いたいところだけど、俺はハイアンの方が先かな（笑）。あいつは〝500戦無敗〟っていう俺の肩書を勝手に使ってるしね。えっ、ハイアンってイズマイウと喧嘩して負けちゃったの？ へえ〜。でも俺も警察の逮捕を入れれば1敗ってなるからな（笑）。まあお互い500戦1敗同士ってことでハイアンと闘いたいよな。

先頃、〝喧嘩500戦無敗〟という同じ肩書きを持つハイアンに挑戦状を叩きつけた組長

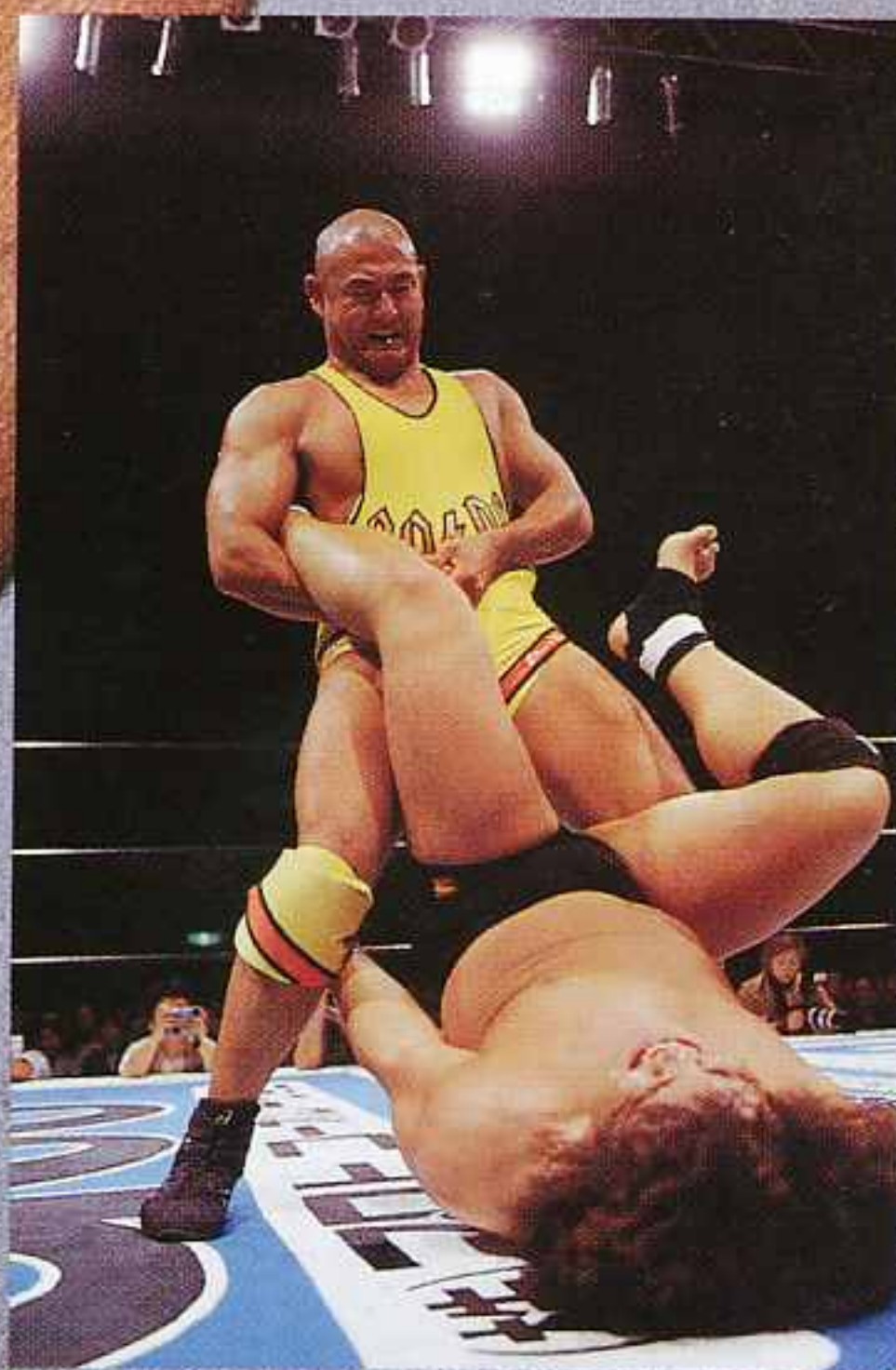
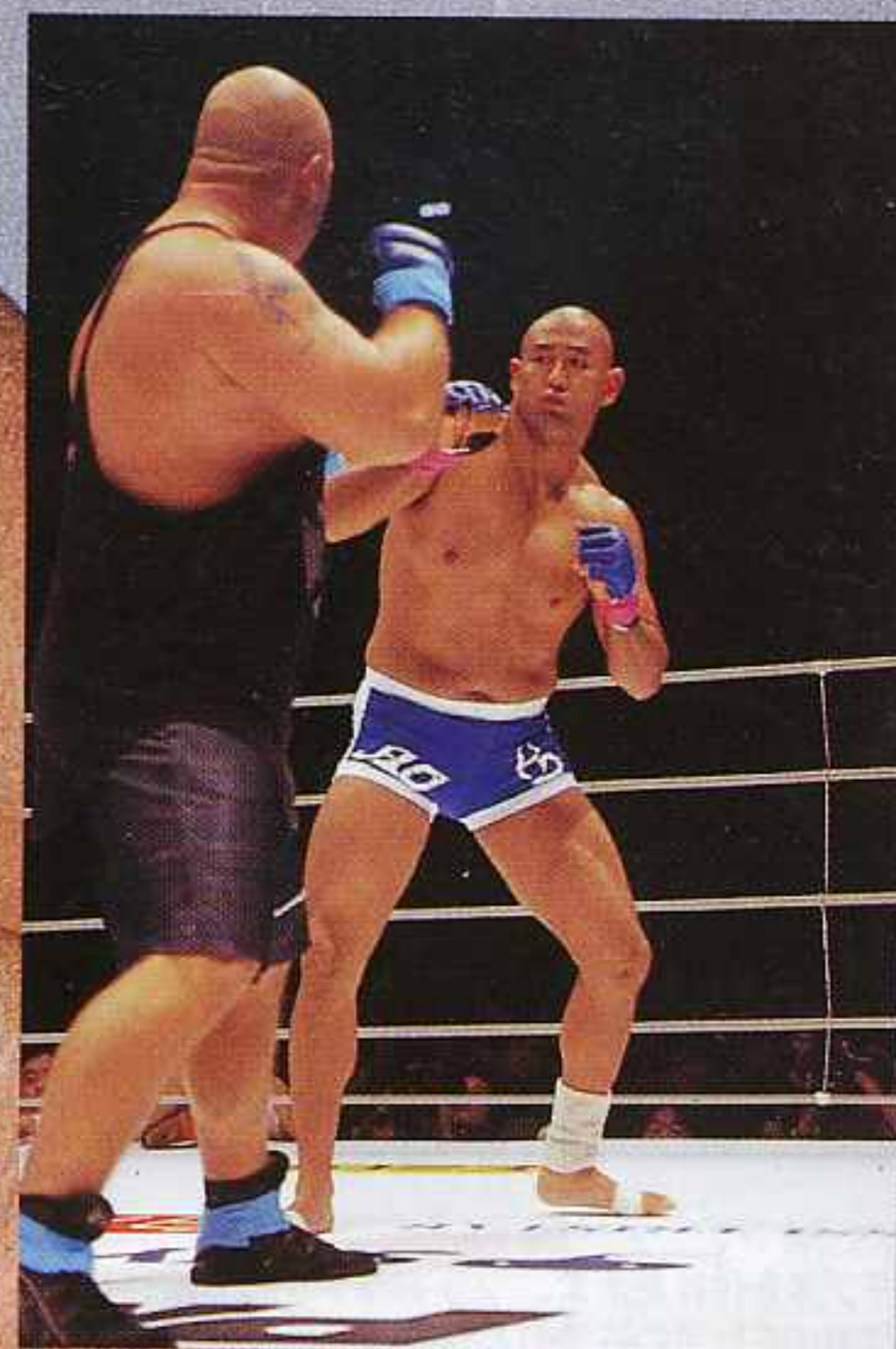
※谷津は11月28日SPWF鹿児島大会で強引に復帰。翌29日の熊本大会ではデビュー20周年記念トーナメントを開催。ギプスを付けたまま強行出場した谷津だったが惜しくも準決勝で敗退。オリャ!

アレクサンダー大塚

'98.10.11マルコ戦の感動を思いだせ!

アレクは"桜庭和志"になり損ねた男じゃない!!

今こそ、この男に注目!!

AO

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
構成／堀江ガンツ
text by Gunts Horie
撮影／森鷹博
photographs by Morry

今のバトラーツのリングならボクは出るだけで合格点です

アレク（突然）最近、忍者ハットリ君に凝ってるんですよ。

――は？　忍者ハットリ君？

アレク　空手家の人がよく「押忍」って言うじゃないですか。ボクもそれを習ってこれから「忍々（ニンニン）」って言おうかと思ってるんです（笑）。ここでも「んむはぁ」とは言わずに、「ニンニン」って言うことにします。

――なぜだ！（笑）。

アレク　それに、ボクの座右の銘は『心』だったけど、心に刃を持つってことで『忍』に変えました。ニンニン（笑）。

――頭打ちすぎたか、アレク！（笑）。さ、それはともかく、今日は、ジャイアント落合戦の直後に取材に応じてもらってるんだけど、まず今日の試合はどうでしたか。

アレク　このカードは『PRIDE・11』（10・31）の試合後に、向こうから対戦要求してきて決定に至ったんですけど、まあ、ボクの方もジャイ落のことを以前から意識していた部分ってあったんですよ。

――目立ってるから？（笑）。

アレク　そうですね（笑）。でも、実際闘ってみたら、もうちょっと勢いよく来てくれるかなと思ったんですけどね。やっぱり、プロレスのリングに上がることで、『PRIDE』以上に緊張してたんじゃないかなと感じましたね。

――試合後、「彼の持ち味をもっと引き出したかったけど、それを出せなかった自分に反省します」というようなことをマイクで言ってましたね。ジャイ落には何を期待してたの？

アレク　試合以前の問題なんですけど、あのー、デビュー当初よりも如何せん見栄えがよくなってたんで、そこが一番ショックでしたね。あれだったら闘う意味ないなって。

――だいぶスリムになって、体毛もなくなってたよね（笑）。やはりアレク的には、あのデビュー当時のままでいてほしかった？

アレク　そうですね。あのキャラだからこそ、ボクもハナにつく部分があったけど、今日みたいな綺麗な感じだったら、「もういいかなぁ」っていうのもありますよね（笑）。

――ガハハハ！　怒りが湧かない（笑）。ジャイ落は、15キロ減量して挑んできたらしいですね。

アレク　減量というより、練習して痩せたらしいですよ。でもキャラを追求するなら、練習しながらでも太っていってほしい。ニンニン。

――プロレス的感覚としてはそれはありますよね。試合後、ジャイ落が「次は『PRIDE』のリングでお願いします」と言ってたけど、その点に関しては？

アレク　試合が組まれればやりますけど、キャラ的にクドくないジャイアント落合では、ボクの中では魅力が半減しちゃうんで。それは『PRIDE』のリングであっても一緒ですね（笑）。

――キャラを作って出直してこい、太れ！と（笑）。アレク的に今日の試合に点数を付けるとしたら、何点ぐらいですか？

アレク　今日ですかぁ？　60〜70点。なんとか合格点って感じですね。でもバトラーツにボクが出ている時点でメジャー感は出てるんですけどね。んむはぁ。そういう風にファンにも思われるように、ボクはもっともっと光るつもりですから。ついてこれない人間は置いていきます!!　こういうと、多分身内からはいろいろ言われるでしょうけど。

――駒沢大会は、バトがマット界で生き残っていけるかどうかの瀬戸際みたいな大事な大会でしたよね。そのセミファイナルとしての役割も「オレが出てるだけで、オッケー！」って感じ？

アレク　そうです！（キッパリ）。

――は〜、その発言は、頼もしいですね。

アレク　は〜い。それに今回のファンは『PRIDE』に出てる選手を見に来た部分もあると思うんですよ。ボク以外にも村上、松井、ジャイ落という3選手……あ！　大刀光もそうだ（笑）。

――あ、大刀関もいましたね。どすこ〜い（笑）。

アレク　ボク以外にも、『PRIDE』に出てた人間が4人の出てたんで。

――カール（・マレンコ）もいますからね。

アレク　あ、そうだ（笑）。それと同時に『PRIDE』に出ているアレクサンダー大塚を見てみようという人が、ようやくいまになって増え始めたのかなぁと。

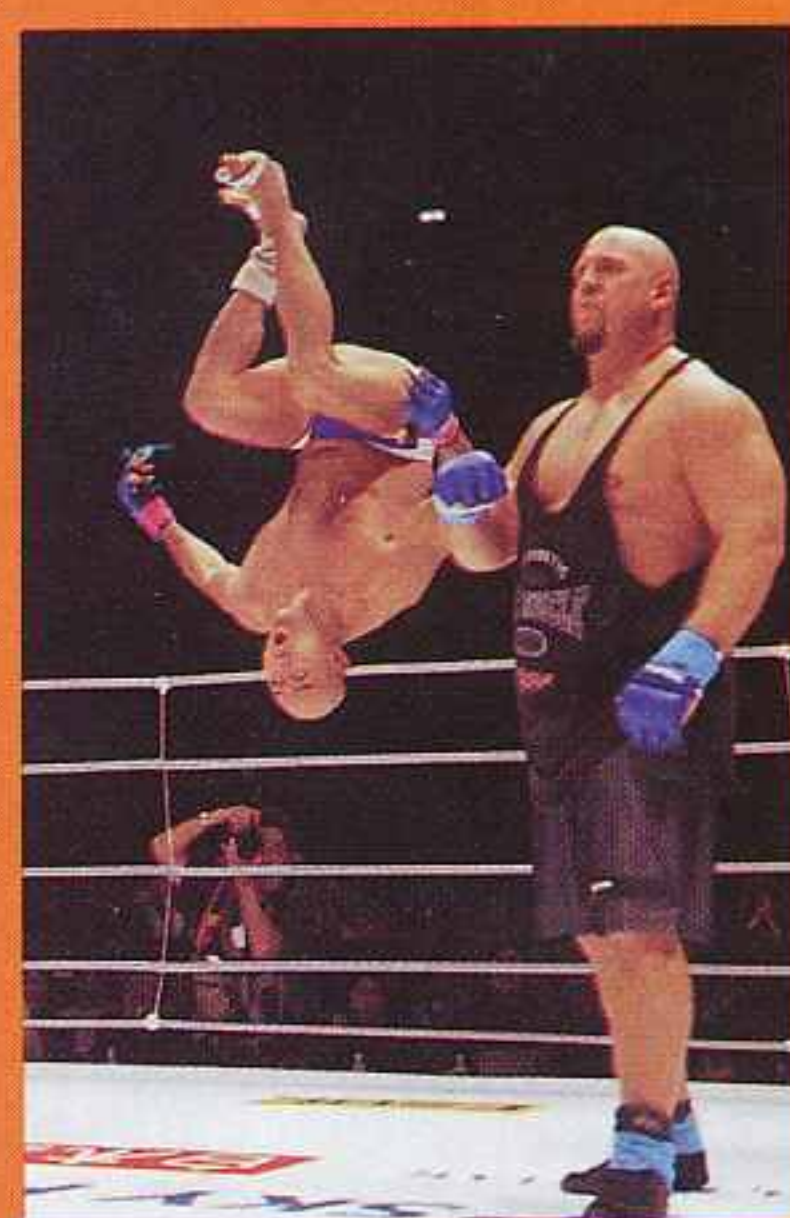
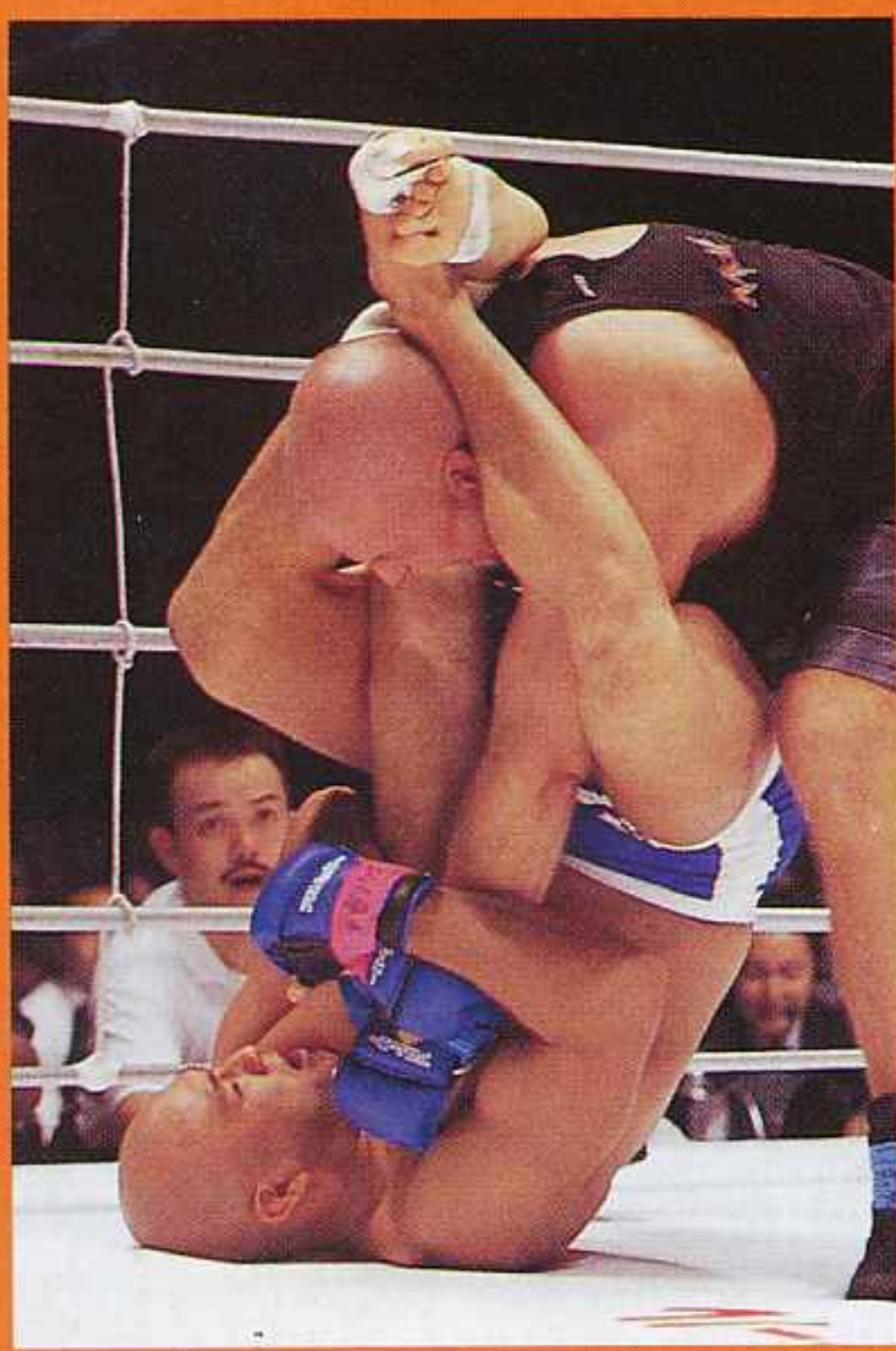
――そう考えると、『PRIDE』もようやく最近、多くの人に見てもらえるようになったということですよね。

アレク　そうですね。そういう意味で、一般的に見やすくなった『PRIDE』を作ったのはボクらだと思ってます！

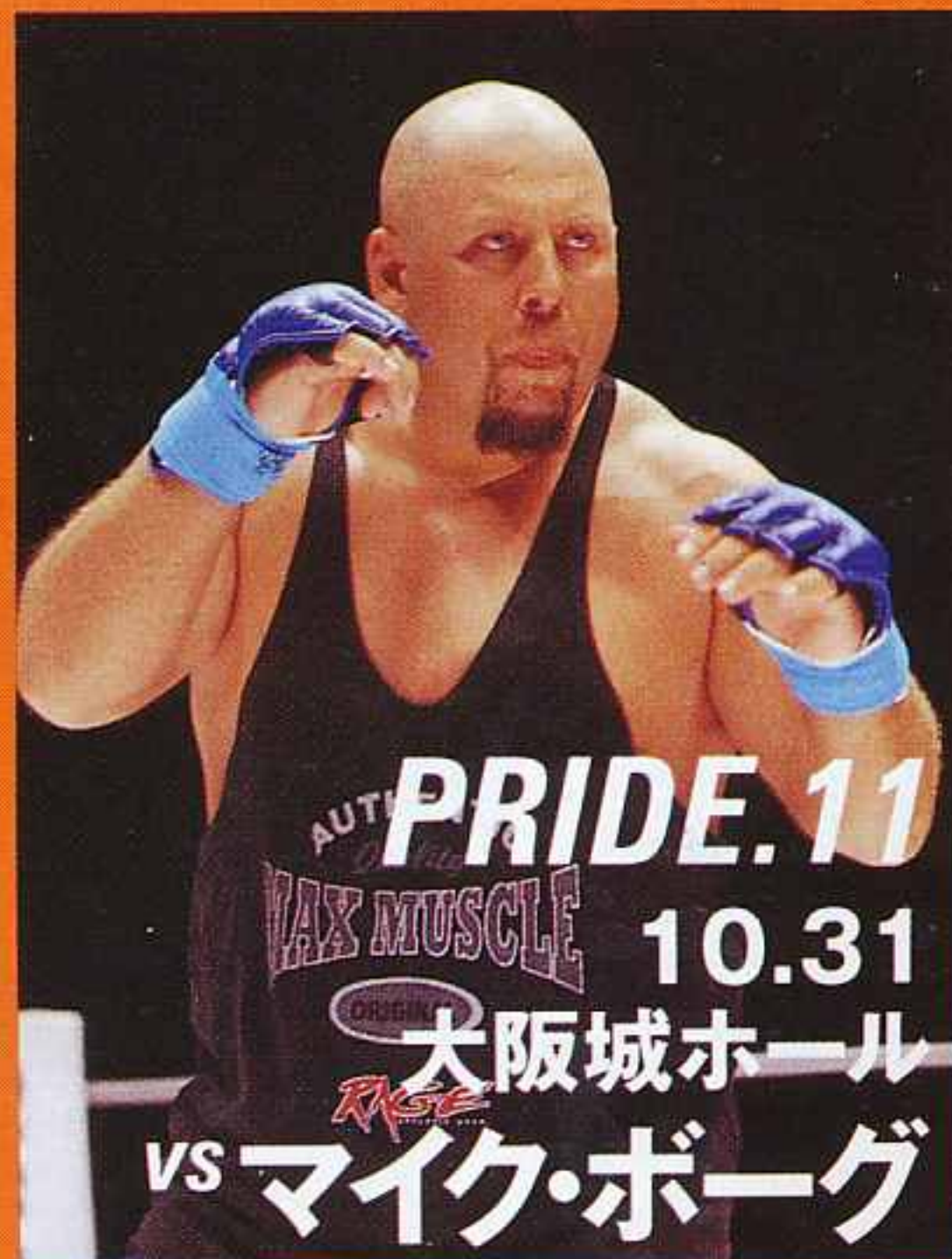
――なるほど。今日は、ホントに自信満々ですね。何かあったんですか？

アレク　いえいえ。これからは自分に自信を持って生きていこうかなぁと。「謙虚イズ・ベスト」という言葉を昔言った覚えがあるんですけど、その心を踏まえた上で、一歩踏み出していこうかな、と。

――踏み出せば、その一足が道となりますからね（笑）。でもね、さっき「ジャイ落の持ち味を引き出せてない」と言ってたけど、その持ち味という部分で言えば、アレク自身の持ち味も、今日は存分には発揮できなかったですよね。

アレク　う〜ん、そうですね。ジャイ落戦だ

▲「間接技で勝つのは初めて（笑）」とアレクが語っていたが、見事にボークをダブルアームバーでしとめた。完勝この上なしを示すようにバック転をするアレク。その後マイクでバトラーツ駒澤の宣伝も忘れない。偉い！

▶ボークが首を決めた瞬間にノーザンライトで返そうとアレクらしさがスパークするも失敗、残念。もう一丁！

◀カウンターパンチを恐れずに低空ドロップキックを放つアレク。ボークのパンチを貰うも心の強さをアピール。

PRIDE.11
10.31
大阪城ホール
VS マイク・ボーグ

▲日本では無名の選手転ボークだが、元キングオブゲージの王者でもある。決して楽に勝てる相手ではない。

けじゃなく、最近のバトラーツの試合は全てそうですね。

――逆に、『PRIDE』での試合の方が、アレクの持ち味が出てるでしょ。

アレク そうですね。なおかつ相手の良さもそこそこ引き出せてると思うんで。

――10・31のマイク・ボーグ戦も秒殺したとはいえ、相手の持ち味は出してますよ（笑）。膝でタップさせましたから（笑）。

アレク んむはぁ。まあ、ボチボチですね（微笑）。

――あの試合でもノーザンライト・スープレックスや低空ドロップキックを狙ったりしてたけど、「勝負論」が支配する中でプロレス技を決めるのがアレクの持ち味というより、ボクはあれだけ体重差のある相手に対応してキッチリ決めた、アレクの潜在能力こそが持ち味だと思ってるんですよ。

アレク 新しい持ち味ですか。

――というより、もう次のステップに行かなきゃいけないというか。ここ最近のプロレスの試合では、アレクの潜在能力というモノが見えづらいんですよね。

アレク だから、ボクのその部分を存分に引き出せるくらいの選手にみんなになってもらいたいし、そうしていきたいなと思ってます。自分一人だけ良くても全体が大きくなっていかないんで。ケン・シャムロック戦（5・1ドーム）の時に、「プロレスがつまらなくなって来た」と言ったのも、やっぱりその辺だと思うんですよ。相手ばっかり光らせて、自分が光らなかったら、つまんないですからね。

――バトのリングでは、いままでアレクは相手に光らせてもらった部分も大きいでしょ。例えば、大ちゃん（池田大輔）だとか石川社長だとか。

アレク はい。池田大輔&小野武志のチーム・タコとの対戦だとか。

――だから、シングルであろうがタッグであろうが、アレクが我慢に我慢を重ねて向かって行く姿が、物凄くあのバトラーツの空間の中では光っていた時期があった。でも、『PRIDE』のリングだと逆に相手を光らせてる。この逆転現象はいったい何だろうと思ってね。普通、純格闘技というのは勝とうと思ったら、相手の光を消さなきゃいけないわけだから。

アレク ああ、そうですね。

――だから、いまのアレクは、『PRIDE』のリングで相手を光らせて、バトのリングでその相手の光を消してるというか。

アレク う～ん、だから、（バトラーツの）みんなに光が足りないんじゃないですか。ぶっちゃけて言うと。もっともっと自分をダイヤの原石だと思って、自分自身で磨いてほしいですね。ボクにも限界がありますから。

――限界？ それはどういった意味で？

アレク だって、みんな一人のプロで、そのプロである人間が、それがいまは泥で覆われていようが、一所懸命、光を放とうとする努力をしなければ、いくらボクが磨きにいったところで原石自体が光ろうとしなければ光らないですよね。磨く努力をしないんだったら、どこかで普通に勤めた方がいいですよ。自分で光ろうとする人たちが、プロレスラーだと思うんですよ。それは芸能人でも音楽家でも変わらないと思いますけど。

――確かに、光るチャンスを与えられるのも実力の一つなんだけど、自分で光る方法を見つけるのが才能であり力だということですね。

アレク そうですね。そういう意味では、また、ぶっちゃけて言っちゃいますけど、バトラーツ内において、ボクは「リングに上がれば、もうオッケー！」っていう辺りまで来ちゃってるから仕方ないのかなぁと。

――いいね、その反感を買いそうな言葉（笑）。

アレク んむはぁ（笑）。そう思ってる自分がいながらも、ボクのベースは、どこまでいってもバトラーツですから。その土台自体をよくしていきたいなという思いで努力をしているつもりです。

――やっぱり、バトラーツの中にある閉塞感というのは、いまの「純プロレス」の抱えてる閉塞感と思いっきり被ってて、大きな夢がないんだよね。デカイ夢というかロマンというか（笑）。

アレク 無謀でもいいんですよね。叶わない夢でも。

――そういう意味で、今回の大会名は『格闘ロマン』と名付けられていて、バトの今後に繋げたという意味では大きいと思いますけどね。今後、『PRIDE』ではどういう方向で行こうと思ってます？

アレク 逆に『PRIDE』では、ボクの居場所がまだまだこんな位置じゃないだろうと思ってるんで、頂点を目指して行こうかと思ってます。

――頂点を目指す！ いいですね。でも以前は、「バーリ・トゥードをやりたいわけじゃない」って言ってたでしょ。その心境の変

ナイフもチラリ！ 『PRIDE．11』ではマイク・ボーグを仕留めたダブル・アーム・バーを狙うアレク。

アレクの足4の字固めに対抗して、ジャイ落が繰り出したのは、な、なんとスピニング・トー・ホールド（1回転半のみ）。

綺麗な放物線を描くプロレスラー・ジャイ落のバックドロップが火を吹く！ これには、場内そしてアレクも度肝を抜かれた。

BATTLEARTS
格闘ロマン
11.26
VS ジャイアント落合

▲オー！ イェー！ と怪獣王国の元気印ジャイアント落合がちょっぴり痩せてバトラーツそしてプロレスのリングに初見参！

長だとか。
アレク　はい。池田大輔&小野武志のチー
ないですよね。磨く努力をしないんだったら、
ゃない」って言ってたでしょ。その心境の変

ナイフもチラリ！『PRIDE.11』ではマイク・ボーグを仕留めたダブル・アーム・バーを狙うアレク。

『PRIDE』人気の功績で言えば ボクはノブ兄さんの次に位置する

化はどこから来たんですか？

アレク　（スーッと息を吸い込み）それは、『PRIDE』という中において、テッペンにいるようでいて、ボクの中では〝目の上のたんこぶ〟くらいにしか思ってない人がいるからですよ。選手として、プロとして。

——目の上のたんこぶ！　それは、名前は出せないんですか？

アレク　いや、出せなくはなくないですけど。まあ、ご想像通りだとは思いますよ。ニンニン。

——アレク自身も『PRIDE』とプロレスの架け橋をして、『PRIDE』ブームの発端を作ったという自負はあるんですよね？

アレク　そういう功績という部分で言えば、ボクはノブ兄さん（高田延彦）の次くらいだと思ってます。そういう意味では、ノブ兄さんにはかないませんから。ノブ兄さんの功績は凄いですよね、それは。

——アレクがマルコ・ファスに勝った後、このままアレクが一気に駆け上がって行くだろうというイメージがあったじゃないですか。でも最近は、『PRIDE』の中で負けが込んでるし、「桜庭和志になり損ねた男」というふうに見てるファンも多いと思うんだよね。

アレク　いや、まさに、その通りです。

——ガハハハ！　認めますか（笑）。つまり、PRIDEルールの中でも面白い試合をしてくれるという期待感は一番最初はアレクにあったんだよね。

アレク　そうですね。ボクはそういう中で、プロレスラーの魂というか、そういう部分を見せてきたつもりなんですよね。別に、格闘技であろうとも、こういう見方ができるんだよという。そういう見方をみんなに見せてきたつもりではいるんですよ。

——そのきっかけを作ったのは、間違いなくアレクですからね。だから、そういう意味で言うと、いまの桜庭和志のポジションにいるべき男は、アレクサンダー大塚だったはずとも言えますよね。

アレク　は～い。そうありたかったですよね。でも、負けが込んでしまいましたから（苦笑）。

——ズバリ言って、桜庭和志とは闘ってみたい？

アレク　それもありますね。前にも言いましたけど、ボク、5・1の桜庭さんとイゴール（・ボブチャンチン）の試合を見て、大ショックを受けたんですよ。ホイス（・グレイシー）と90分やった後に、イゴールとあんないい試合するわけですからね。

——そのショックというのは、桜庭和志は凄いということを認めてしまうことへのショック？

アレク　は～い。あとは自分の情けなさですね。でも、『PRIDE・10』の桜庭vsヘンゾ戦が終わった後に「それでも、いけてるな、オレ」ってまた思い直した自分がいたんですよ。

——フィニッシュの鮮烈さはともかく、対ヘンゾ戦に関していうと、「いい試合」という点では桜庭vsヘンゾより、アレクがヘンゾとやったときのほうがいい試合だったと。

アレク　まあ、結果は出なかったですけど（笑）。

——そう考えていくと、やっぱり『PRIDE』で一番大切なのは結果ということになりますよね。桜庭和志がいまのポジションにいるのは、結果を積み重ねてきたという部分が大きいですからね。

アレク　いまの話だけから言うと、そうなりますけど、結果が全てではないと思いますよ。

——そりゃそうです。

アレク　結果が出てないのにも関わらず、いまボクが、こういうポジションにあるというのも現実だし。

——アレクから見て、桜庭和志の強さってどういうところだと思いますか？

アレク　やっぱり、飄々と闘ってて倒しちゃうところじゃないですかね。

——でも、ある部分で、桜庭和志とアレクサンダー大塚というのはキャラ的にも被ってると思うんだよね。例えばアレクは「リアル1・2の三四郎」と呼ばれてるじゃない。まぁ、この間の10・31では（リングアナの）村上ショージが、その「リアル」を抜かして「1・2の三四郎」と紹介してたけど（笑）。

アレク　はい（笑）。ボクも「〝リアル〟が抜けてるよ！」って、村上さんに突っ込もうかと思ったら、「アレクサンダー大塚ぁぁぁ！」ってコールちゃったんで、突っ込めなかったんですけど（笑）。

——ガハハハ！　突っ込もうとしているのは、テレビに映ってますよ、ちゃんと（笑）。

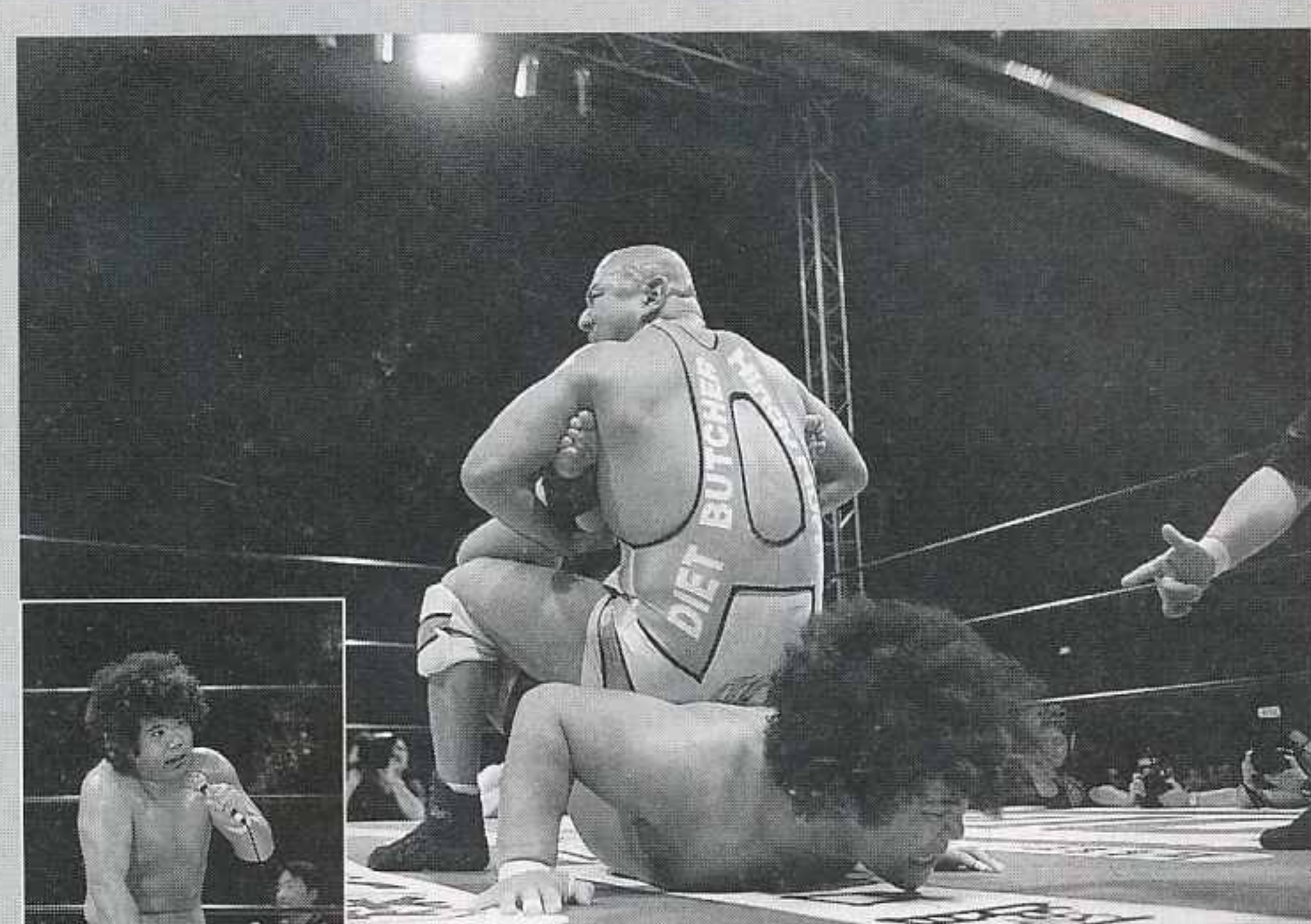
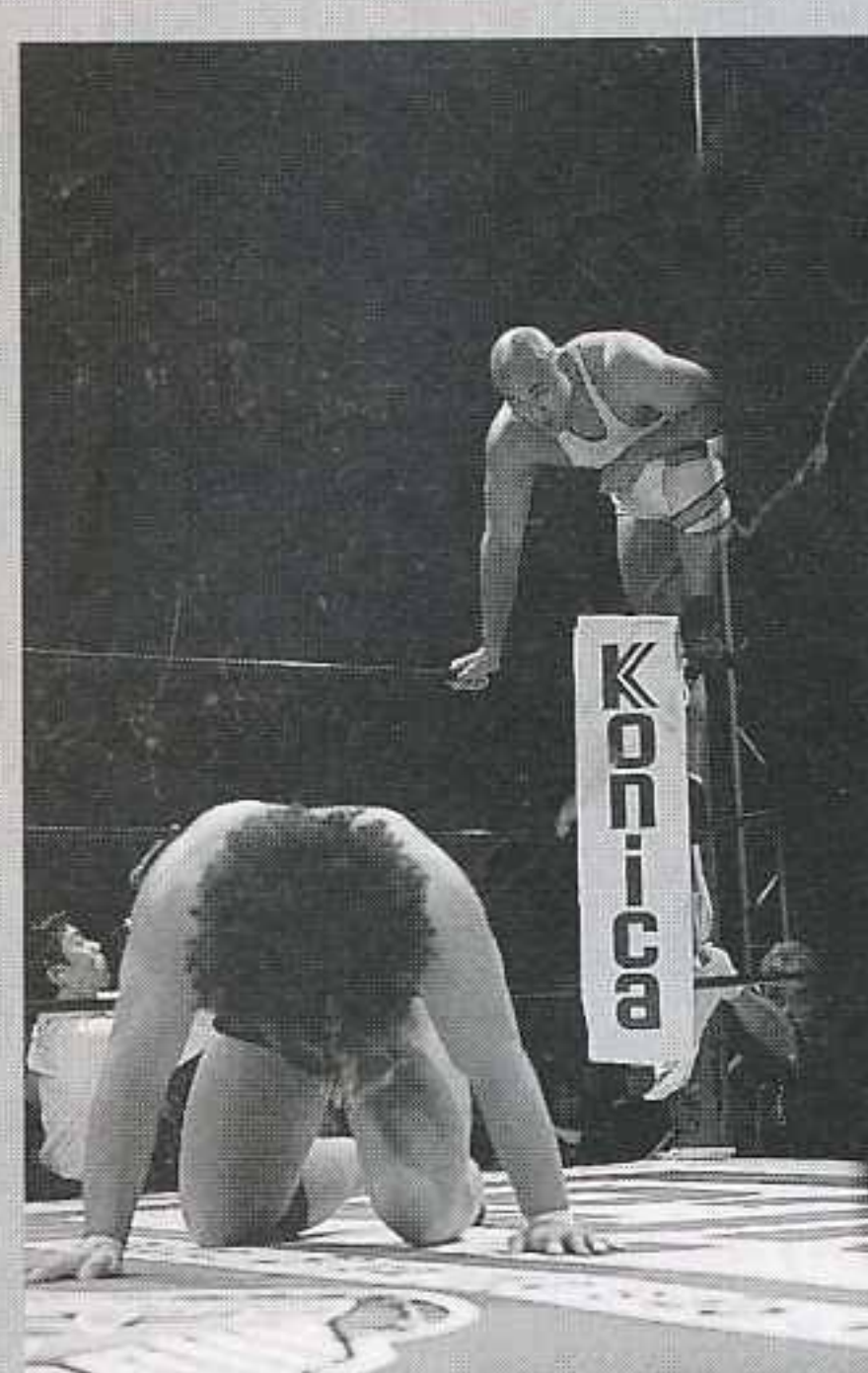
アレク　『PRIDE．10』の後、みんなで反省会というか話をしていたら、あそこは、ただ突っ込むポーズだけじゃなく「なにを言うぅー」って言わないとって言われましたね、みんなに（笑）。

——ガハハハ！　どんな反省会だ（笑）。

アレク　「何を言うぅ、早見優ぅ、アイ・ラブ・ユー」って、そこまで言ってたら、「あの日は、アレクの興行だった」という話まで出てたんですけどね（笑）。

——ガハハハ！　「ドゥ～ン」って感じですね（笑）。で、話を戻すと、桜庭和志とアレクは、キャラ以外でも、「プロレスラー」としてVTに出陣して、なおかつ面白い試合をやるという部分も含めて、存在の成り立ちみたいなものも被ってる部分があると思う。あとは結果なんだけど、桜庭和志は厳密に言えばプロレスとの二刀流じゃないでしょ。だから二足の草鞋というのが、意外と堪えてきた

▶出た！　技術点・芸術点（?）ともに満点のジャイ落・ボディー・スプラッシュ！　あれは効いた（アレク談）

▼総合でもプロレスでも敵に背中の見せるのは禁物だ！　ちなみに、ジャイ落はトレードマークの背毛を綺麗に剃って試合に臨んだ。

▲フィニッシュは、完璧に決まった元祖プロレス技とも言うべきボストンクラブ！　しかし、最後までジャイ落はギブアップを拒絶した。試合後、「大塚さん、今度は『PRIDE』のリングで闘いましょう」と再戦をアピール。

▲ジャイ落にプロレスの技そして心を伝えるように、コーナーからミサイル・キックまで繰り出したアレク！

ドアをこじ開けてでも前に進んで 21世紀最大のレスラーを目指す

んじゃないのかなと思って。両方コンスタントにやっていくというのが。

アレク う～ん、プロレスの試合をやること自体は全然辛くないですよ。選手的にも体力的にも精神的にも。ただ、もっと楽しく、もっといいプロレスをやっていきたいなというのはありますね。でも、いま現在のバトラーツにおいては、やっぱり、〝まだまだかな〟というのもありますよね。ようやくこの間、腹割っていろいろ選手間で話合って、あそこまで言い合えて、いま変わりつつある段階なんで、もうすぐだと思いますけどね。

——じゃあ、アレクはまだ当然「プロレスラー」として『PRIDE』にも上がっていくということですね。

アレク ええ。それがないとボクじゃないですから。ボクの思ってるようなプロレスが好きなファンだとか、根本的にプロレスが好きなファンの方はボクのことを支持してくれてると思うんですよ。やっぱり、プロレスをやってるアレクサンダー大塚がいるから、『PRIDE』のアレクサンダー大塚があるというのが根本だと思いますから。

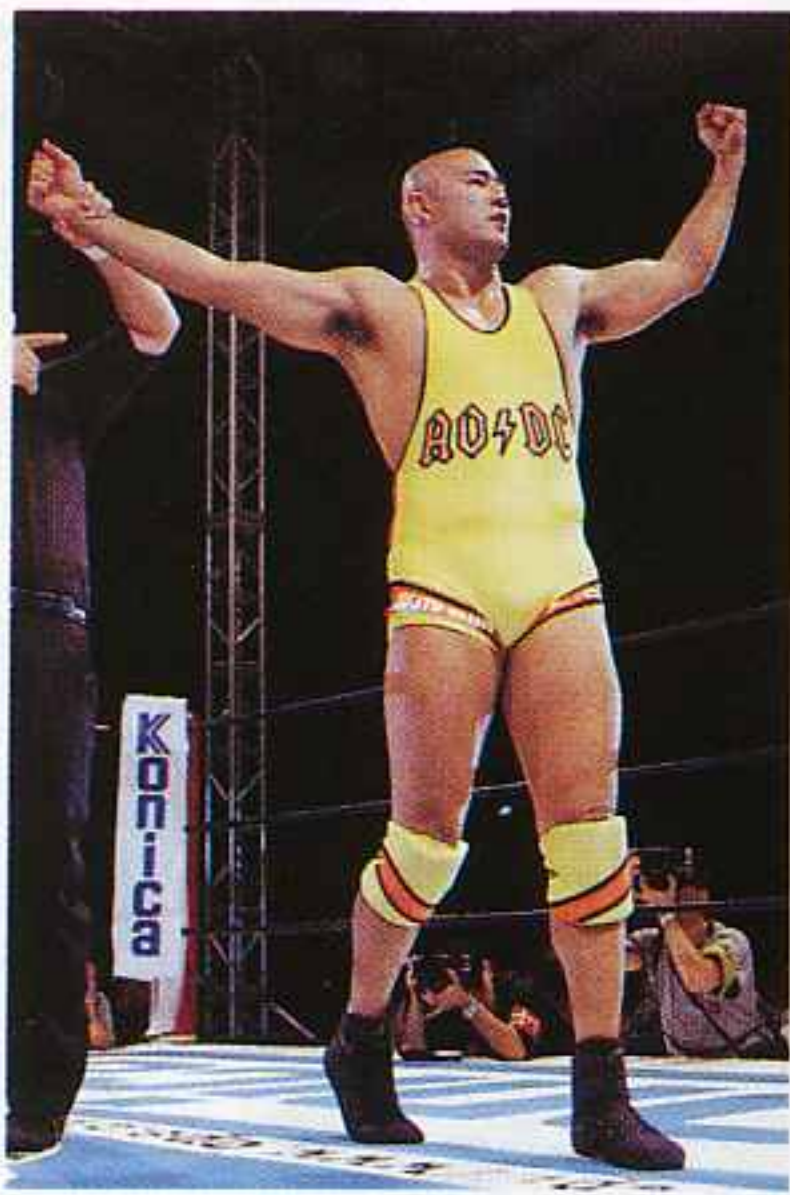
——だから、プロレスの底上げをしてくれる存在という意味では、アレクへの期待は高いんですよ。

アレク だから『PRIDE』でもプロレスでも記憶に残った者が勝ちだと思うんですよ。

——でも、『PRIDE』で記憶に残るとなると、やっぱり、〝勝つ〟というものは外せないんじゃない?

アレク いや、勝ち負けに拘るわけじゃないけど(笑)。それでもボクは勝ち負けじゃないと思うんですよ。それはこの間の谷津さんとグッドリッジの試合を見て、もう一度再確認できましたね。

——ああ、そうか。

アレク ボク自身は「勝ち負けじゃない」と思っていても、やっぱり周りに言われたり、桜庭さんとのポジションの差があるという現実を振り返ってみると、「ああ、やっぱり結果なのかな」と思う自分もいたりはしたんですよ。でも谷津さんの試合を見て、「やっぱり『プロレス』というのは勝ち負けがすべてじゃない」と確信が持てました。やっぱり、そこに行き着くかなと思いますね。

——なるほどね。

アレク それとロサンゼルス・オリンピックのマラソンでアンデルセンっていたじゃないですか? ボク、優勝した人はまったく覚えてないけど、あの人だけは覚えてます。

——この間のカレリンもそうですよね。負けたカレリンの方にしか目がいってないわけですから。

アレク そうですよね。「カレリンに勝ったの誰だっけ?」という表現のされ方じゃないですか。

——カレリンの場合、オリンピックで3連覇した後に負けたから、これだけインパクトが残るわけだし、谷津選手の場合はあれだけ打たれて倒れなかったというところにインパクトがある。だから、アレクの場合、『PRIDE』初登場の時点で「ヒクソンを倒すのはこの男しかいない」と言われていた頃のマルコ・ファスに勝っちゃったから、それ以上のインパクトを残すといったら、けっこう大変なのはわかりますよ(笑)。

アレク そういう意味では、今世紀中にヒクソンとやっておきていないというのはあったんですけどね。実現に向かって、表立ってあんまり言わなかった自分も悪いんですけど。

——そっちの方面というか、グレイシー方面は桜庭選手が持ってちゃったから。

アレク そうですね。まあ、それは仕方ないですから。

——ズバリ言って、プロレスでも『PRIDE』でも、アレクには、いま〝大きな敵〟が必要だと思いますね。

アレク そうですね。ホント、そうです! ここ1年半～2年ぐらいいないですからね。

——アレクの潜在能力を全てぶつけられるくらいの相手が。

アレク あ、いましたね、一人!

——だ、誰ですか?

アレク 好敵手じゃないかもしれないけど、それは言えません。ニンニン。

——プロレスラー?

アレク いえ、身近な方です。〝どうやったら、勝てるだろう〟って思ってます。この人は強敵です。強敵、最強! でも、これは秘密です。ニンニン。

——ニンニンですか(笑)。ところで、今度の『PRIDE・12』でガイ・メッツァー戦が決まりましたね。

アレク ガイ・メッツァー戦はボクが望んでたカードですからね。

——前から言ってましたよね。でも、みんながやりたがらないメッツァーとどうしてやりたいんですか?

アレク メッツァーは「相手の光を消す男」っていう異名が付いてたんで、「オレの頭の光を消してみろっ!」って感じですね(笑)。

——ガハハハ! でも、メッツァー戦をクリアして、本当に来年が勝負の時ですね。

アレク そうですね。今世紀が終わるまでに、20世紀最大のレスラー、〝鉄人〟ルー・テーズを抜こうと思ってたんだけど、抜けなかったですね、残念ながら(笑)。テーズさんとは握手はして、1枚の写真には収まりましたけどね。でも、後ろを振り返っても仕方ないんで、〝21世紀最大のレスラー〟になれるように頑張ります。

——それくらいのスケールは必要ですよ、やっぱり(笑)。プロレスでは、例えばロード・ウォーリーズとか意外性のある相手ともやったけど、今後、誰か闘ってみたい人はいますか?

アレク さっき言ったみたいに、プロレス界自体がパッとしてないんで、ボクの目にパッと飛び込んでくるくらい光ってる人はいないですよね、正直言って。

——俺の頭の方が光ってる(笑)。

アレク は～い、21世紀は明るくいきたいですね。

——何か目の前に開けそうなモノがあるんですか?

アレク 開きます!! 開かないとどうにもこうにもならないんで。ドアを閉じたまま前に進めって言われても進めないんで、コジ開けてでも進みます!! 反対側から、誰かが鍵を掛けてこようが、どうにかこじ開けます!

——あ、熱い(笑)。

アレク ニンニン!

【00年11月26日 恵比寿のごはん屋にて収録】

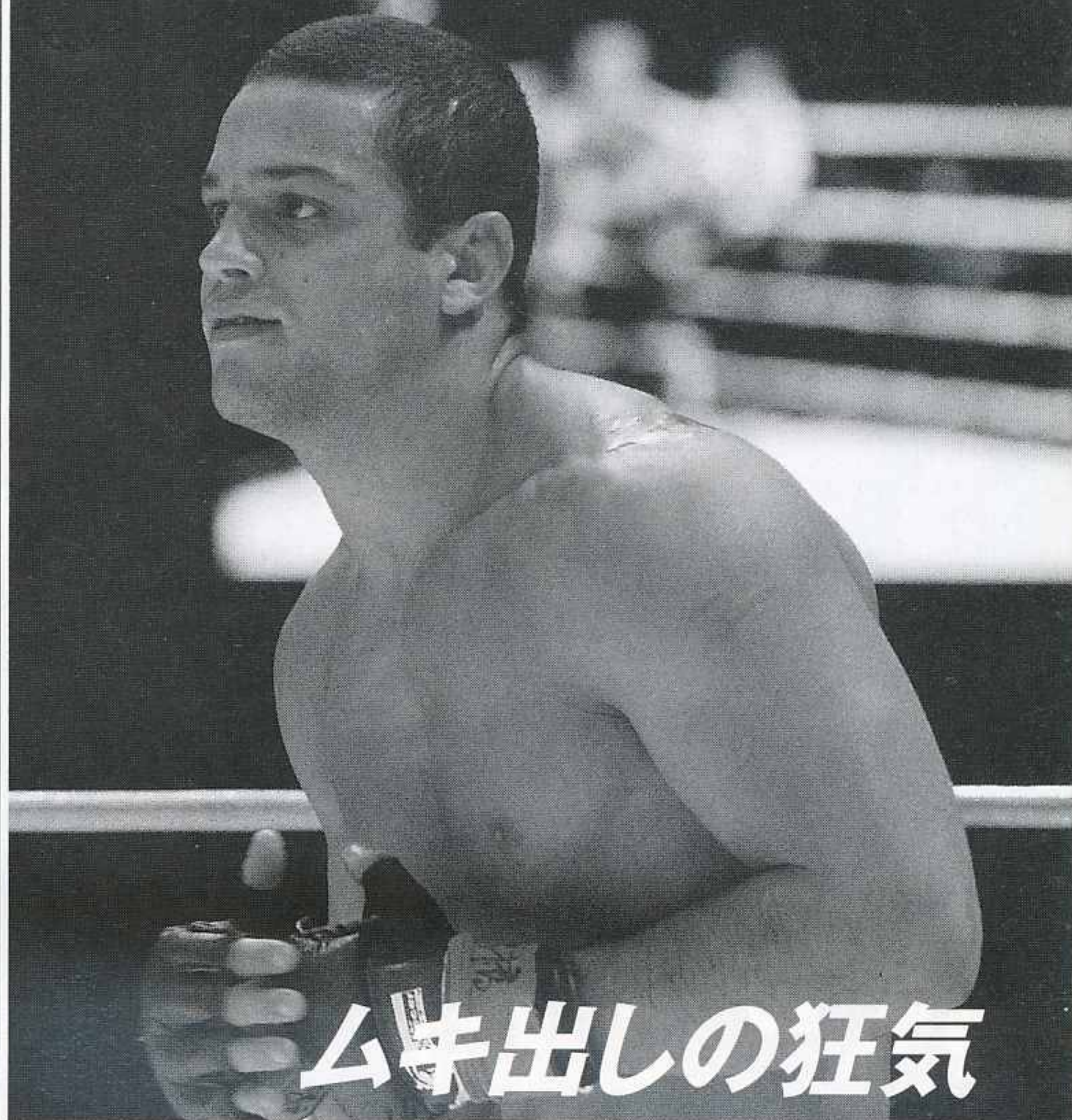
Alexander Otuka

K-1化か、プロレス化か!?
それとも
新プロレス確立か!

どうなる「PRIDE.12」!!

構成／堀江ガンツ
text by Gunts Horie

サクの“逆ニック・ボックウィンクル戦法”爆発か!?

笑顔に秘められた殺意

ムキ出しの狂気

桜庭和志 vs ハイアン・グレイシー

（日本／髙田道場）　（ブラジル／グレイシー・バッハ）

サク、4度目のグレイシー狩り!　ケアーvsボブチャンチン完全決着戦実現!

21世紀のマット界の行く末は「PRIDE.12」で決まる!

'00年12月23日［祝・土］
さいたまスーパーアリーナ　開場／14：00　開始／16：00

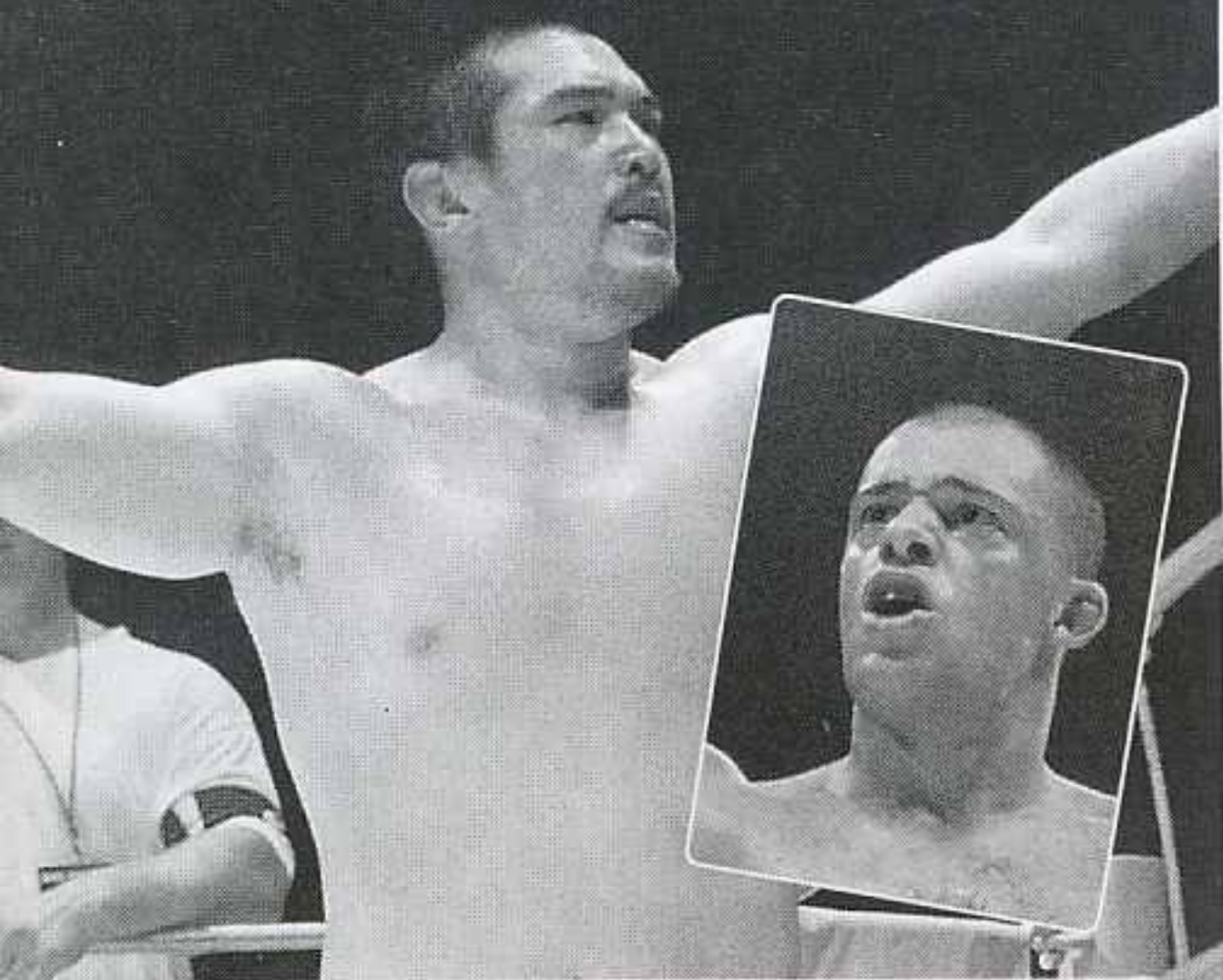
20世紀最後の『PRIDE』となる、12・23『PRIDE・12』の一部対戦カードが発表になった。

「さいたまスーパーアリーナ」という字づらから横浜アリーナクラス（1万7000人収容）の会場を思い浮かべがちだが、実際は最大収容人数3万5000人。この人数は2度目の髙田vsヒクソン戦の観客数とほぼ同数にあたり、つまり今回の『PRIDE・12』はドームクラスということである。器が巨大ということで、DSE側も今回はかなりカードに力を入れてくるようだ。

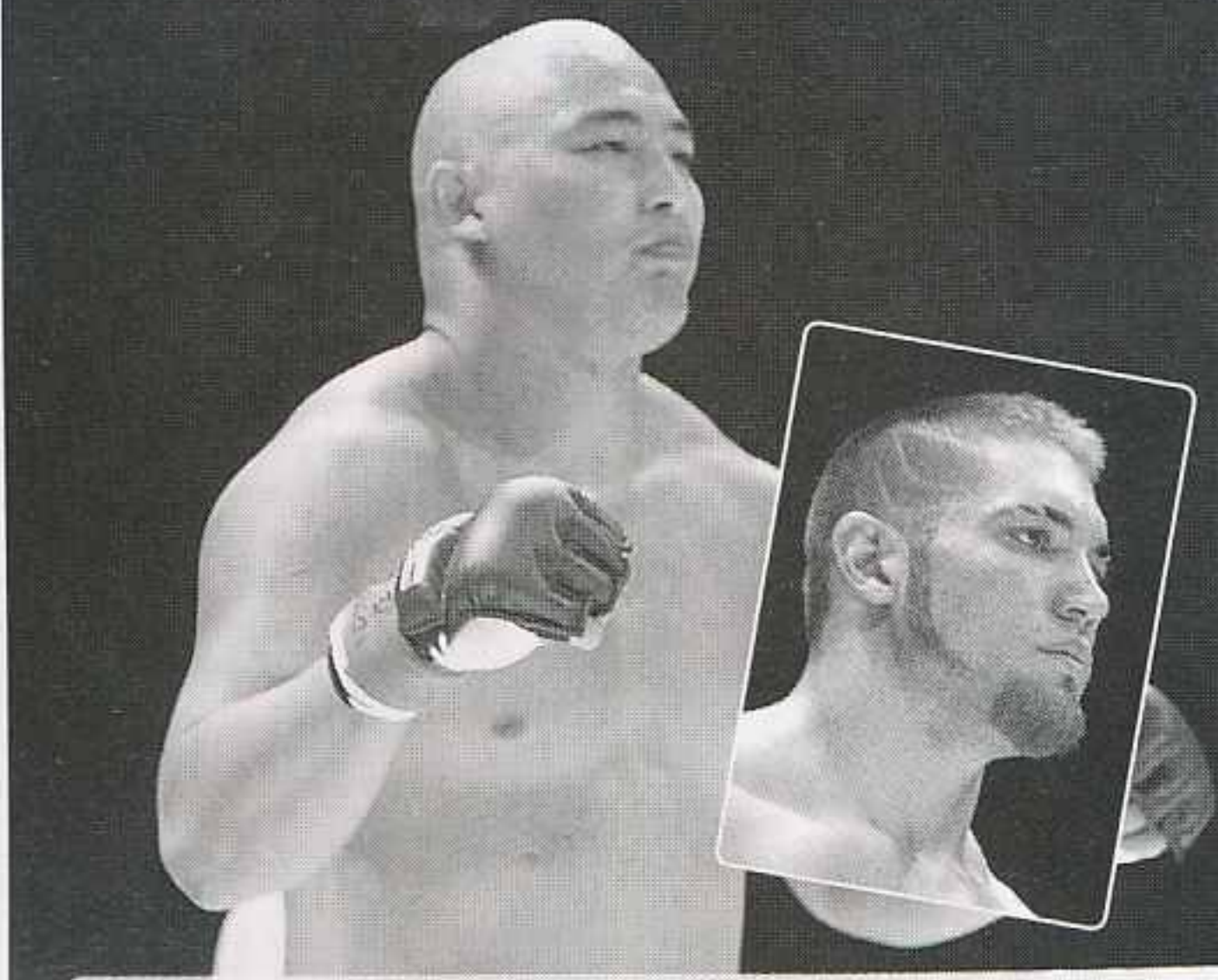
では、すでに発表済みのカードを順を追って紹介していこう。まず、メインをつとめるのはもちろん今年度のMVPファイター桜庭和志。グレイシー幻想を20世紀中に完全に終わらせるかのように、〝最狂のグレイシー〟ハイアンを迎え撃つ。グレイシーを相手に「迎え撃つ」という表現が使えることでもわかるとおり、ホイラー、ホイス、ヘンゾ3人から完勝を納めているサクにとって、ハイアンでは役不足という声もあるが、逆に他のグレイシーと違う闘い方をするからこそ侮れない。しかしながらサクと言えば、打倒グレイシーの秘訣を「相手の得意なことをやらせなければいい」と平然と言うだけあり、相手がジルバで来たらワルツ、ワルツで来たらジルバという、得意の〝逆ニック・ボックウィンクル戦法〟でハイアンを必ずや翻弄してくれるだろう。サクがどんな闘いを見せてくれるか注目だ。

桜庭だけでなく、アレク、エンセン、小路の〝PRIDE大関陣〟もそれぞれ重要な一戦が組まれた。

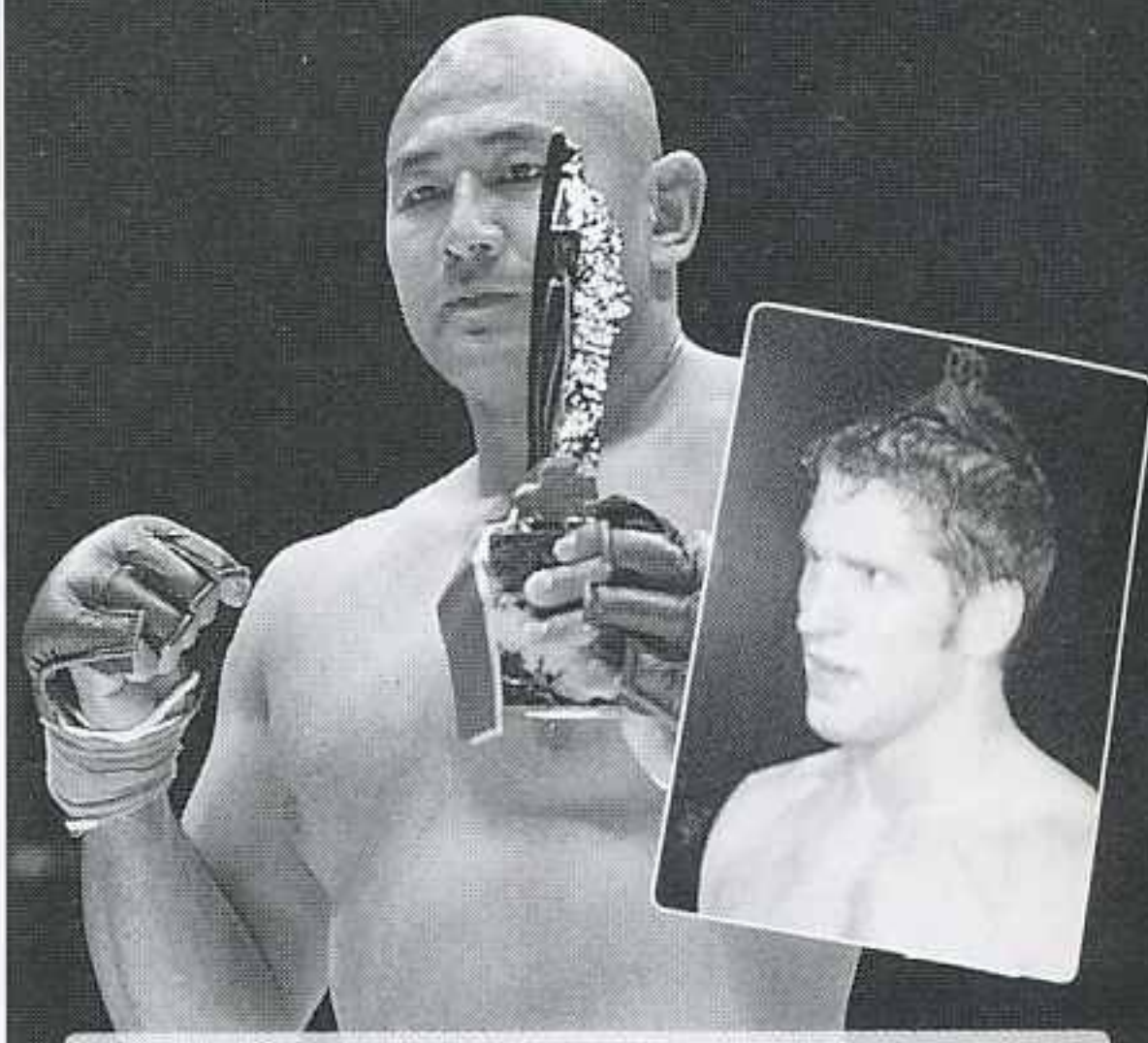
まずアレクは、本誌主催の「青空プロレス道場」にゲスト講師として招かれたときに、対戦を熱望していた〝膠着王〟ガイ・メッツアーとの対戦が実現。メッツアー戦を望んだ理由が「つまらない試合をするといわれるメッツアー相手に、面白い試合がしたい」というのだから、実にアレクらしい見上げた意識

小路！　一本勝ちで大ブレイクだ！

小路晃
（日本／和術慧舟會）

アラン・ゴエス
（ブラジル／ブラジリアン・トップチーム）

野蛮人vsエリクソンを破った男

エンセン井上
（日本／PUREBRED大宮）

ヒース・ヒーリング
（アメリカ／ゴールデングローリー）

アレクは“膠着大王”相手に面白い試合ができるか!?

アレクサンダー大塚
（日本／格闘探偵団バトラーツ）

ガイ・メッツアー
（アメリカ／ライオンズ・デン）

“炎のファイター”復活！

カールス・ニュートン
（カナダ／チーム・ローニン）

ジョイユ・デ・オリベイラ
（ブラジル／アカデミア・ブドーカン）

あの、因縁の決着戦が遂に実現！

イゴール・ボブチャンチン VS **マーク・ケアー**
（ウクライナ）　（アメリカ／ハンマーハウス）

PRIDE.12 '00年12月23日［祝・土］
さいたまスーパーアリーナ　開場／14：00　開始／16：00
JR京浜東北線、高崎・宇都宮線
「さいたま新都心駅」下車徒歩すぐ
SKY PerfecTV！にて完全独占生中継　視聴料：2000円／回
12月23日（土）ch.117　16:00〜　生放送

チケット情報
（入場料／全席指定・消費税込み）
VIP　100,000円　（特典付：専用入場ゲート、グッズ付）
RRS　23,000円　スタンドS　13,000円
スタンドA　7,000円
★桜庭応援シート、藤田応援シート、エンセン応援シート<スタンドS　13,000円　応援グッズ付>をDSE、PRIDEオフィシャルサイトにて販売

の高さである。5・1ドームではメッツアーの師匠シャムロックに完敗を喫して、大いに落ち込んだアレクだけに、ここは「面白い試合をして勝つ」というしんどいことを成し遂げて、〝魔の5・1〟を払拭してほしい。

続いてボブチャンチン戦で大和魂を大爆発させたエンセンの復帰戦。相手のヒーリングは10・31大阪城で〝恐竜戦車〟エリクソンを破り、一気にトップ戦線に殴り込みをかける勢い。エリクソンを正面からぶん殴りに行くハートに加えて、ビクトル投げなどの技術を合わせ持つヒーリングだけに、エンセンとの真っ向勝負は見物である。

遅ればせながら、ようやくブレイクの兆しを見せてきた実力者・小路は、〝桜庭が最も苦戦した男〟ゴエスと激突。熱望していた藤田との対戦こそ見送られたが、「中量級寝技世界一」ともいわれるゴエスとの一戦は、再び小路の実力を世界中に知らしめるチャンスである。

その他にも、最強復活に賭けるケアーが因縁のボブチャンチンとの決着戦が決定。思えば昨年のこのカードで、ボブチャンチンがブレイク。今年は立場が逆転。短期決戦ならケアーが、ながびけばボブチャンチン有利か？

また、『PRIDE・9』で入場時に演出機器の誤作動で大ヤケドをした〝炎のファイター〟オリベイラも登場。ニュートンとマニア注目の技術戦を展開する。

この他にも4試合程度の追加カードが予定される『PRIDE・12』。チケットの売れ行きも絶好調、いまやK－1に迫るビッグイベントとなったが、はたしてこれからの『PRIDE』の行く末は、競技としての成熟とイベントとしてのクオリティの高さを追求するK－1化か？　それともアントニオ猪木プロデュースによって限りなくプロレス化していくのか？　はたまた誰もが望む、勝負論と物語性を含んだ新プロレスを確立するのか？『PRIDE・12』は21世紀の『PRIDE』を占う意味でも重要な意味を占めているのだ。

ッツアー相手に、面白い試合がしたい」というのだから、実にアレクらしい見上げた意識

野獣対決実現か!?

アイブルがかみついた!!

藤田和之 ? ギルバート・アイブル

（日本／フリー） （オランダ／ゴールデン・グローリー）

まだまだ出てくる超ド級のカード!!

さらにこの男たちも出場予定

まだ現時点（11月30日）では発表されていないが、『PRIDE』から20世紀最後のクリスマスプレゼントが用意されていそうだ。

まず、注目は藤田の対戦相手。マーク・ケアー、ケン・シャムロックを破り、次はいよいよ『PRIDE・GP』王者のコールマン戦が噂されたが、どうやらそれは今回見送られた模様。それに変わって、浮上してきたのが、〝ナチュラル・ボーン野獣〟ギルバート・アイブル。

アントン・プロデューサーが「藤田は次は打撃系と当てたい」と『PRIDE・10』のとき語っていたが、ゲーリー・グッドリッジをハイキック一発で秒殺したアイブルとなれば、まさに打ってつけだろう。ケアーの膝蹴りを食っても、シャムロックのストレートを食っても平然としていた藤田だが、はたしてアイブルのハリケーン・ラッシュを食らっても平然としていられるのか!?

また、『PRIDE』デビュー戦ではビクトーのタックルと押さえ込みに苦戦したアイブルだが、現在はエリクソンを破ったヒーリングらと寝技のトレーニングを積んでおり、藤田にとっては『PRIDE』進出以来、最も苦しい闘いのなる可能性が大だ。しかし、大一番となると信じられないほどの力を発揮する藤田のこと、また我々を驚かせてくれるに違いない。

そしてもうひとつ。かねてから噂されていた〝初代KOK王者〟ダン・ヘンダーソンの『PRIDE』初参戦が遂に決定した！　対戦相手はアイブルを破り再びトップ戦線に食い込んで来たビクトー・ベウフォート。どちらも総合格闘技界トップクラスのボクシング・テクニックを持ち、グラウンドも世界レベル。この試合の勝者と桜庭が対戦するのも面白い。

さらに大物の名前も上がる『PRIDE・12』正式発表が待ち遠しい！

ケン・シャムロック

ヘンゾ・グレイシー

リコ・ロドリゲス

佐竹雅昭

WORLD MEGA-BATTLE OPEN TOURNAMENT
~ KING of KINGS ~
$200,000.00
RINGS

噂は本当だった！

KOKチャンプ遂に登場!!

ダン・ヘンダーソン ? ビクトー・ベウフォート

（アメリカ／チーム・クエスト） （ブラジル／ブラジリアン・トップチーム）

DECEMBER.2000

BEST OF THE スパコラム™

★今号のラインナップ★

●花くまゆうさく
『リングの汁RADICAL』

●掟ポルシェ（ロマンポルシェ）
『業☆勝ちます』

●堀越日出夫
『凄　頭』（すごたま）

●堀越日出夫
『プロレス長者番付』

●イナズマ★K
『実録 最狂プロレスファン列伝 TMVGさん』

リッチでゴージャスな連載陣!!
ああ、まさに和製アメリカン
ドリームなコラム5連発!!

Title&Illustration/Jerry Ukai for ADS

また、『PRIDE』デビュー戦ではビクトー

BEST OF THE スパコラム

今年の流行語大賞は「もう一丁!」に決定! ……そんな電波をキャッチして『プライド11』を見た。
　エリクソン轟沈にビックリ。衝撃のVTJ'97から3年、もう燃料切れなのか人間戦車よ。小川か藤田かエンセンとやってくれというのは無理なお願いかしら。
　谷津は、はじめのタックルで「えっ、あれだけVTのタックルにいろいろ言ってたのにこれは……」と正直思っちゃったけど、パンチ食らっても食らっても向かっていくその姿にグッときた。ブザマに負けたけどカッコ良かった、今回出場してよかったんじゃないでしょうか。

映画『漂流街』よかったナリ。『パルプフィクション』のトラボルタのように吉川もこれで蘇るのか?

花くまゆうさく リングの汁 RADICAL

えっK1!? どーなってんのフランク?

高田が「進退をかけた」10・31vsボブチャンチン戦を花くまゆうさくが斬る!!

　高田vsボブチャンチン、冷静に見ると上でも下でも高田はいつもの必殺しがみつき、打撃系のボブチャンチンにあっさりパスガードされ、サイドもマウントも簡単に取られる、一体どっちが組技系なのか?と思ってしまう。はじめのテイクダウンはよかったが、そこからあのしがみつき一直線はしょっぱいホイス戦と同じじゃないのか。それでも会場はあたたかく高田を応援し、高田のケツヒザ打ちに「オイッ! オイッ!」と大声援。だが2R、マウント取られ、しがみつきもはがされて「さあ、これからボブチャンチンの本格的なマウントパンチが始まる!」ってなったらあっさり速攻タップ。今回は「ふがいない内容ならVT撤退もありうる」と相当な覚悟のコメントしての試合だっただけに、あのタップにはビックリ。ノリノリで応援してた会場のファン置き去りな感じで、ある意味おもしろいが。
　安達&桜庭をもらってキングダム見捨てたり、年齢的にも貴重なヒクソンの2年間を独占したうえでホイス戦も貰ったのにしがみついてただけで更に「もう一丁」発言したり、今回の即効タップとまさにわがままなヒザ小僧(すごいな古館さん、当時から見抜いていたのか?)。あの非情というか図太さは突き抜けて味が出てきてる、とにかくなんか凄いね。
　桜庭のサクカラスを見て、やはり「馬カラス」「栗カラス」のNOWは正しかった、5年早かったんだと痛感。あと翌日の東スポで、桜庭のアキレス腱固めをサンボ式アキレスとプロレス式アキレスを例に出して詳しく解説してたのでちょっとオドロく。まともな技術解説を東スポで始めて見た。それにくらべて、高田はボブチャンチンからマウント取ったとレポートしてる週刊ゴング!そんな事いつあった? 教えて!
　同じゴングでも、ゴング格闘技は絶好調。五味隆典インタビューよかったね、「お喋りしたり、携帯電話がピコピコ鳴ってたり、そんなところでどうやって強くなれというんですか」とかズケズケ言って凄いなぁ、高感度UP。あとは魅力ある試合すれば完璧だが、それがむずかしいのねん。
　高瀬大樹インタビューも読みごたえバッチリ。あの自信は凄いね興味ふくらむ、只でさえ注目だったコンテンターズでの早川光由(日本柔術界トップグループの一人)戦が、がぜん大注目になってきた。
　コンテンターズでは、3年前に私がこのページで夢のカードのひとつとしてあげてた「矢野卓見vs五木田勝」も実現だ。海外でのジョー・ギルバート戦と連戦になる矢野さん、この勢いでプロ修斗参戦してほしいね。アマ修斗の実積ないから難しいんだろうけど、他での実積あんだから外国人みたく参戦ってならないのかしら?
　あと矢野さんといえば、生出演したサムライ!の格闘ジャングルで凄かったね。見た?
　田村潔司が、ブラジルの技術認めて「出稽古行きたい」って発言はうれしい。「あんなの技術的に全然たいしたことない! あんなの昔から道場でやってるよ!」と柔術がボロクソにけなされるのもなくなりつつあって、うれしいじょ。

突きぬけてる

つづけんならはじめからこれぐらい言ってほしい。

もう十丁!

藤田とやりたいんじゃ

はなくま・ゆうさく■しばらく見てなかったWWFをオースチン復帰でまた見始める&DVDのモー娘武道館ライブで後藤ばかり見てる。あと倉木麻衣の父ちゃん、「未来ナース」出ないかな〜。

BEST OF THE スタピコラム

男道コーチ屋稼業のカリスマ説教バンド『ロマンポルシェ』の説教担当・掟ポルシェPRESENTS

柔☆勝ちます

『橋本＝キカイダー説』の巻

時は来た！　マジで世紀末!!　原田泰造主演のドラマが始まったり、聖飢魔Ⅱが解散したり、ヤワラちゃんが熱愛宣言したりで世も末感たっぷりに夕暮れていく二千年。ハルヒコ・アッシュでなくともクライマックス御一緒にと絶叫したくなるもんだが、それはマット界もしかり！　破壊王新日解雇!!　めでたく新日を追放され日明さんと同じマット界覇王へのエリートコースを歩み始めた（北尾の話は無かったことにして）訳だが、大体今時のプロレスラーはサラリーマンが多すぎるんだよ！　言うこと聞くのが仕事か？　21世紀、来たるべきロボット社会……一家に一台はコンバトラーが配備され、身長57m体重550tでマイカーがわりに空飛ぶ通勤、ラーメン屋の出前がマジンガーに載ってヘイおまち!!　という時代がもうすぐそこまで来ているが（小学生並の想像力）、プロレスラーもこのままでは会社の言うことを聞きっぱなしの機械人間になってしまう。イヤ、正確には人造人間と言うべきか……橋本の気持ちを代弁させてもらえばそんなところだ。橋本！　俺にはわかるよ、アンタの言いたいことが、ニューオフィスの社名を見て全ての答えが出た。『ゼロ・ワン』……誰がどう見たってこれがキカイダー01を意味しているのは丸わかり。そう、橋本真也はキカイダーシリーズに己の身を重ねているのだ!!

射精後尿道に残った精子のように、そこに居続けたいのか外界へ出たいのかさっぱり不明なあの頃の橋本はまさにキカイダーだった。ギルの笛の音（永島・長州の不協和音指令）に苦しんでいたのは、不完全な良心回路を持っていたからに他ならない。『不完全な良心』

——早い話が、藤波というコンニャク良心が搭載されているが故に橋本は苦悩したのである。確かにこの良心、悪気は一切ないが、時に「え——!?　こないだと言ってること違うじゃん!!」という働きをする悪いクセがある。その辺りは本誌32号の『藤波語録』を参照して欲しいんだが、社内の意向が飛龍ブラックボックスを通した時に何かうまいこと伝わらなくなり、橋本は悩み続けていたのではないかという気が今になって非常にしてくる。結局は会社の意向と猪木の意向がゴチャまぜになってる藤波という良心が不完全に働いてみたりしたが故にここまで事がこじれ、バツグンに面白くなったということではないかと。その証拠にここ数年キカイダー橋本がシャッキリしたのは、猪木の声がギルの笛よりドデカく響いた時だけだったし。

『ZERO-ONE』……誰がどう見たって、これがキカイダー01を意味しているのは明白!!

良心回路とギルの笛は、キカイダーのドラマ構成上重要なファクターであるには違いなく、今までの一連の橋本引退→復帰→ゼロ旗揚げ→解雇の流れはドラマに深みを与える要因になったが、結局みんなが期待しているのは『ダークロボットやっつけるヒーロー』としてのキカイダーであるに違いないのだ。そこに橋本自身が気づいたが故にゼロワンへと社名変更したのだろう。ギルと良心の共生関係が前提となっている不完全な新日を捨て、そのどちらをも必要としないキカイダーゼロワンになった！　という意思表示なのである。ヒーローマンガ好きの橋本らしいネーミングでバリバリに好感が持てるじゃないか！

……アレ？　そういえばゼロワンも完璧じゃなくって太陽光にエネルギー源を頼ってたがために、日が暮れると動けなくなるんじゃなかったっけ？　ということは橋本にとっての太陽って何だ？　やっぱりそこでも猪木の力が太陽光って意味なの？　イヤ、猪木といえば花王石鹸、月のマークだから違うか。太陽ケア？　……ただのこじつけになってきたのでこれ以上は言及しないが、橋本の頭の中には今、絶対に光り輝く太陽電池の01ボディがあることだけは間違いない。

で、今回の橋本追放劇のサイドストーリーとしてかなり面白かったのが健介の反応。11月10日、橋本解雇問題で誰もが苦渋の表情を浮かべる帰り際、健介だけはハワイ帰りの健康的な小麦色の顔をほころばせ「何もないよ！　遊びに来ただけ！」と一人ニコニコ顔で新日事務所を後にしたという。多分、思うんだが、健介だけは本当に遊びに来てただけだったんじゃないか？　健介といえばウソのつけない男。Uインターとの対抗戦であのカッキーに負けた時も「う～ん、ポカをやってしまったなぁ」と素直すぎる敗戦の弁を述べた男だ。橋本追放などというドロドロを目の当たりにすれば途端に激昂し、新日トップとしての責任を感じて自分も退社しかねないだろう。だからといって全社の会議で一人だけ呼ばない訳にもいかず、苦肉の策として健介だけ会議室の隣りの部屋に呼ばれファイプロやったり、チビッ子達相手に少し早いモチつき大会したりしたんではないだろうか？　本当にスガスガしいあの笑顔がもしカモフラージュだとするなら、俺はそんな大人の健介は見たくない。健介が大人になってしまったのか、それとも大人にさせてしまった社会（新日）が悪いのか、それともホントに一人だけ遊んでたのか……あの時手にしていたジェラルミンケースの中には、ファミコンソフトかなんかがギッシリ詰まってて欲しい……。

バリバリの長州シンパな健介とバリバリの長州嫌いの破壊王。当然ウマが合うはずもないのだが……。

おきて・ぽるしぇ■ロマンポルシェ。初のプロモビデオ集『呑む！　打つ！　買う！　プロモーション無宿』がついに発売！　真樹日佐夫先生、宮戸優光＋ビル・ロビンソンのスネークピット勢が語る男論も収録。しかも全出演者のシール（!!）がもれなく封入！　携帯の裏に大刀光シールを貼るためにも買え!!

「ロマンポルシェ。の呑む！打つ！買う！プロモーション無宿」〈VHS／カラー／HiFi／¥2800（税抜）〉はとにかく必見!!　一回につき3時間入れっぱなしで、一日3～4回求めるくらい見ろ!!

だけVTのタックルに

がみつきもはがされて

てたり、そんなところで

有名人学歴KGB・堀越日出夫の

凄頭

偏差値を通してプロレスを見ろ！

金原が怒った（先月号参照）！　プロレスラーってやっぱ怖ぇ～～！　ひぇ～～、お歳暮贈るから許してぇ（←懐柔工作）。そんな、リアクションがあって嬉しかった今日この頃、まだまだお届けする学歴特集第6弾！

プロレスは一旦おいといて、今回は格闘家編ということでお届けしたい。

とりあえず、現役選手を中心に構成してみた。OBも含めると、大変なことになるので、その辺は了承してほしいかなと。

さて、左の表を一望してみて気づくことがきっとあるはずだ。

それは、そう、中卒がいないことだ。

いや、きっとどこかに1人くらいいるに決まっているはずなのだが、寡聞にして本官は知らない。

で、中卒はいないという前提で話を進めるとすると、それはなぜなのか。プロレスラーにはあんなにいるのに。

5秒ほど考えて答えが出た。キスより簡単に出た。

それは、「中卒、即入門→デビュー」というシステムがないからだ！

大相撲なんかを例にとってみよう。地方で見つけたデッカイのを「キミ、いい体してるねえ。相撲やんない？」と言葉巧みに誘い、入門させて、部屋の近所の中学に通わせる。こんなシステムが相撲界では確立してる。

ところが、悲しいかな、極真、修斗、SBなどには、このようなシステムがない。

相撲だったら、「ごっちゃんスピリット」があるので、部屋にいればちゃんこが食えるし、寝る場所の心配もない。

格闘技界にはこんなシステムがない。やりたい人がジムに入って、試合が組まれるまで実績を上げるしかないと。まあ、相撲と比べちゃ可哀想だけども。

だから、とりあえず高校に進学しといて、レスリングか柔道部に入るなどして、下地を作る。もうちょっと早くから総合やってれば、ブラジルなんか相手じゃなくなるかもしれないのにねえ。

キック系にしても、中学あたりからキック始めてれば、タイ人と互角になるのにねえ。

話は変わるが、K-1の天田ヒロミとボクは同郷である。同郷といっても、彼は群馬県群馬郡で、ボクは前橋市だ。

天田のほうが1コ下なのだが、天田の卒業した前橋育英高校をボクも受験した（特待コースだから天田とは違うが、無事合格した）。

当時からそうだったが、前橋育英はスポーツ学校として知られ、とくにサッカーは全国でも指折りの強豪に成長。現在の日本代表もいるらしい（←サッカー音痴なのでよく知らない）。

その後、公立に受かったので、育英には行かなかったのだが、もし行ってればナマの天田情報を引き出せたのになー。

国体で優勝するくらいのボクサーだったし、元暴走族という天田のことだから、さぞかし有名だったのだろうと想像する読者もいるだろうが、少なくとも本官は天田のことはちーっとも知らなかった。ゴメンよ、天ちゃん！　こっちは暴走族なんて興味なかったからなあ。

でも、当時、週に一度はウチの実家前をブルンブルンブボボボボボボボー！と、族が通り過ぎることがあった。もしかして、あれって天田じゃないだろうな!?

では、最後に誰も楽しみにしてないこと請け合いの「同窓生情報」のコーナー！

ここでフィーチャーしたいのは、やはり横浜高校だ。

鈴木みのる、大橋秀行、葛西裕一など、格闘技界に多大なる貢献をしてきた同校だが、他にも著名人がわんさかいる。

宇野薫、渋谷修身のレスリング部コンビ（94年卒）、極真・田中健太郎と西武・松坂（99年卒）が有名だが、それだけではない。

ジョーダンズ・山崎と元ELT・五十嵐充も同窓生なのだし（88年卒）、ゆずの北川悠仁もOB（95年卒）。ゆずは神取忍と同じ中学だし、芸能界とマット界のリンクは果てしなく広がるのだ。

また、小野寺力の八潮高校の先輩に、関根勤、薬師丸ひろこがいる。格闘技好きのラビーはこの事実を知っているのか？

そして、小路晃と村上一成。この2人が高校で知り合ったことは有名だが、なんとしても高校名を知りたかった。

そんなある日、とあるラジオ番組のゲストとして小路が招かれ、「富山第一高校」であることを激白した、との情報が当研究所に舞いこんできた。

どうでもいいミニミニ情報としては、村上竜司先生を輩出した東予工業高校で、2ヶ月くらい前、生徒が先生をプスッと刺しちゃったという事件がありました。竜司先生も破天荒な高校時代を送っていたことは知られているし、やっぱ"そういう"高校なんでしょう。

では、パンクラス・近藤有己が与板高校、FMW・若菜瀬名が小千谷高校（ともに新潟）と判明したことを新たにお伝えしたところで、熱狂さめやらぬ堀越事務所から、ごきげんよう、さようなら！

格闘技がプロレスを凌駕！後にも先にも東大医学部は出てこないだろうなァ

凄頭な男たち

中井祐樹
ハッキリ言って、北大レベルの国立大に入学するのは至難の業。かくも素晴らしき学歴を捨てる思いきりの良さもエクセレントだ。

巽祐樹
東大医学部の定員は90人。つまり、日本のトップ頭脳が同学部に集まるわけだ。というわけで、もっと巽を尊敬しようじゃないか。

佐藤ルミナ
自身の写真集で「結構、進学校」と語っていたルミナ。調べてみると、小田原地区2番目の公立校であることが判明。ヤルねえ。

ほりこし・ひでお■横浜の某所にある鶴田邸と橋本邸に行ってきた。高級住宅街だけあって、一流プロレスラーの風格があふれる物件だったが、それよりも驚いたのは、マジでご近所さんだったこと。その距離、80mくらいか？　橋本の持ちネタである「同じ町内」発言を裏付ける結果に。

プロレス界より1ランク上の学歴社会を持つ格闘技界

高校編

巽宇宙、余裕の二部門制覇 黒澤も根性だけではない！

★偏差値ランキング★ ―都内近郊―

- 68 巽宇宙➡桐蔭学園高
- 64 黒澤浩樹➡東海大浦安高
- 62 桜井速人➡土浦日大高（推薦）
- 58 天田ヒロミ➡前橋育英高
- 56 佐藤ルミナ➡西湘高
- 49 田村悦宏➡都立千歳高
  - 宇野薫➡横浜高
  - 田中健太郎➡横浜高
- 48 池田久雄➡東京実業高
  - 田中健太郎➡川崎東高
- 47 伊藤隆➡入間向陽高
  - 小野寺力➡都立八潮高
  - 数見肇➡川崎高
- 45 新妻聡➡都立永山高
  - 前田憲作➡厚木南高
- 42 鈴木国博➡三浦高

★出身校一覧★

⬇以下、数値不明

- 平直行➡仙台育英高
- 高久昌義➡宇都宮短大付属高
- 立嶋篤史➡千葉工商高
- 熊谷直子➡甲府湯田高（中退）
- 三井綾➡第一商業高（山梨）
- 小路晃➡富山第一高
- 佐藤孝也➡宮興道高（愛知）
- 佐竹雅昭➡北千里高（大阪）
- 吉鷹弘➡芥川高（大阪）
- 角田信朗➡生駒高（奈良）
- 後藤龍治➡大阪工業大高
- 村上竜司➡東予工業高（愛媛）
- 山崎通明➡城山高（高知）

寸評　今回から、大学経験者であってもエントリーすることにした。そっちの方が、データとしての厚みが出ると思うので。

ブッチ切りの第1位はやはり巽宇宙。スポーツの強豪としても知られる桐蔭の出身だ。超マンモス学校で、東大進学者数も100人弱と、日本を代表する進学校に急成長を遂げたこの学校。浪人時代の筆者は、「一体、こんな高校に通ってるヤツ、誰なんだよ！」と、半ば逆ギレ気味だったが、なんのことはない、巽だったのだ。

そんな巽を尻目に、偏差値低空飛行をつづける格闘家も目立つが、まあ、強けりゃどうでもいいだろう。

大学編

偏差値60以上がこんなに！ プロレス勢もガンバレって

★偏差値ランキング★

- 75 巽宇宙➡東京大・医
- 67 天田ヒロミ➡中央大・法（推薦）
- 66 中井祐樹➡北海道大・法（中退）
- 62 佐竹雅昭➡関西外語大・外国語
  - 角田信朗➡関西外語大・外国語
- 60 佐藤孝也➡南山大・経済
- 56 中尾受太郎➡二松学院大（学部不明）
- 55 小笠原仁➡国学院大（学部不明）
- 54 朝日昇➡専修大・経営
  - 吉鷹弘➡神戸学院大・経済
- 53 長田賢一➡東北学院大・経営・経営
  - 加藤清尚➡東北福祉大・社会福祉
- 51 黒澤浩樹➡東海大・工・土木
- 48 市原海樹➡流通経済大（学部不明）
- 47 佐藤ルミナ➡日本体育大・体育（中退）
  - 小路晃➡中京大（学部不明）
- 43 須田匡昇➡国際武道大・体育

寸評　右にも書いたように、プロレス勢が柔道、レスリングなどの推薦入学で大学に進学するパターンが多いのに対し、格闘技勢は純然たる学力で勝負し、大学に進む例が多いようだ。

よって、英単語カードを作り暗記にいそしむ朝日昇や、「夏季講習、どうすっか？」などと友人と歓談する長田賢一の姿が目に浮かび、ある意味、新鮮である。

以前から気になっていたのは、「格闘家とメガネ」の関係だ。およそ読書とは縁遠そうな、屈強な格闘家が、試合後の会見なんかで、メガネをかけているシーンがたまにある。リング上の勇姿からは想像しにくいのだが、なぜかかけられているメガネ……。

表を作ってみて、ピンときた。朝日とか長田のメガネには、もしかしたら、「受験勉強のしすぎ」という共通項があるのではないか？

他にもメガネ・ファイターはまだまだいるだろうが、視力低下の原因はやはり（受験関係の）読書がメインだろう。

さて、来月はインディーか昔の選手かで迷ってるんですが、年越しそばでも食いながら決めます。

BEST OF THE スポコラム

タブーに挑戦!! 心の貧乏人にならないための短期集中連載!!!

短期集中連載!!

プロレス長者番付

第5回 億万長者は誰なんだ!?

渋谷「BOOK1st」の猪木握手会に参加しました。ピンタは事務所から禁止されたので、ちょっと残念！ ひとまず「こんにちはー！」と元気よく挨拶したんですが、アントンはニヤニヤするばかりでした。

有名人データー墓堀人・堀越日出夫

前号までに書き尽くした感があるこの短期集中連載。だが、本誌スーパーバイザー＝吉田文豪先生より、貴重なる報告があったので、ちょっくらご紹介しよう。

元ネタは『別冊少年キング』69年3月号。今から31年前のマンガ誌に、ななななんと、「スポーツ選手ふところ報告」なる、赤裸々すぎる特集が組まれていたのである！

69年といえば、新日も全日も設立される前のこと。つまり、ダラ幹が実権をニギニギしていた頃の日本プロレス時代のギャラがあられもないカタチで公表されているのだ。

ダントツのトップは、エースの馬場。驚くなかれ、1億1千万円のギャラを手中にしていた！

今こそ馬場派プロレス宣言 その年収は1億オーバー!! ああ馬場さんが目にしみる

当時、銀行の初任給（大卒）が3万3千円ちょっと（現在は20万くらい）。馬場の好物＝あんみつは180円（現在は750円くらい）。年収までもジャイアントな馬場、つーことは、あんみつを6万杯以上も食べられる計算になるぞ、おい！ って、そんなに食えないけど。

2位は8500万円の吉村道明。ほとんど試合を見たことないので、日プロにおけるポジショニングはイマイチぴんと来ないのだが、2位とはいえ凄すぎる数字だ。なにしろ、横綱・大鵬の約3倍ももらっているのだ。

3位にようやく登場するのが、われらが猪木。でも、3位とはいえ、2800万円だから、馬場の25％ほど。これじゃ、会社乗っ取りも起こしたくもなるし、この数年後に新日を設立したくもなろうというものだ。あまりにも待遇が違いすぎる。というか、当時の猪木では、まだ客を呼べなかったのか？ まだボクは生まれてないので分かりません。

4位の大木金太郎、5位の豊登と猪木のギャラに大差がないというのが驚きだが、もっと驚くべきことは、他のスポーツ選手と比較して、決して引けを取らない——どころか、むしろ上回っているということだ！

当時、馬場＆吉村を上回るスポーツ選手は日本にたったのひとりも存在しなかったし、猪木の年収だって、大鵬と同レベル。プロ野球と比べても、ONよりちょっと劣るくらい。

胸を張れ、（昭和の）プロレスファン！

ところが、当時の新聞を調べてみたところ、長者番付発表の翌日の朝刊に、馬場、豊登、猪木の名前を見つけることはできない。

これはなぜか？ 無視されてるのか？

ONはちゃんと載ってるのに。力士もちゃんと載ってるのに。それとも、ホントはこんなに稼いでないのか？

例えば、力道山存命時はちゃんと新聞報道されていた。それも、恐るべき額で。当時の力道山を脅かすスポーツ選手はいなかった。そんな時代が確かにあった。詳しくは来月。

というわけで、来月も細々とタブーを破りつづけます！

プロレスが好きな人、この指止まれ!!

実録 最狂プロレスファン列伝

構成／イナズマ★K

PROFILE

No.10 DJ2000万パワーズ
TMVG（常盤響[左]＋水本アキラ[右]）

デザイナーとしての活動に加え、最近ではフォトグラファーとしての肩書きも増えている常盤響と、ライターやTVの音楽番組『MUSIC ROOTS』の司会として知られる水本アキラ、彼ら二人のユニットがTMVG。番組内で『地方のクラブを盛り上げます』ということで結成したDJユニットがスタート地点なのだ。最初の『チーム・バイアグラ』という名称が、製薬会社のクレームという名誉勲章な事情をくらいTMVGと改名、その後も全国のクラブで人気を拍してる名タッグチームである。元々、お互いにDJ活動を行なっていただけにただのテレビの人気もので終らない実力者なのだ。これまでYMOやエレキハチマキなど数々のリミックスをこなしてきた彼らが、21世紀を向かえると同時にDJミックスCDをリリースする。ナイスなハウストラックが満載、その名も『JET BOY JET GIRL』。同名のイベントも開催中！12／25には原宿ラフォーレ・ミュージアムにてスペシャル版も開催。TV番組の方は現在CSにて放送中！

常盤響と水本アキラのユニット、TMVG。各々の活動でも評価されている彼らだが、二人がタッグを結成すれば、違った魅力を開花させ、さらに強力なパワーを発揮するというからまさにタッグ・チーム・チャンピオン・オブ・ザ・ワーーールド!! 状態。

「昔アイドル雑誌のライターやってた頃に馬場さんに会ったことことあるよ。タイガーマスクに一日入門するって企画だったんだけど、馬場さんから連絡があって『当日私行けないんだけど、ちゃんと言ってありますんで安心して取材してください』って（笑）、ホント良い人でした。その後、ラッシャー選手が『特別だぞ』って鳥だんごチャンコを作ってくれて『残すな！』っていっぱい盛られた（笑）。あとは小さい頃、近所に来てたんで国際プロレスは好きだったな（笑）。オレとプロレスの接点はそんぐらい（笑）」（常盤）

あららー、常盤さんはえらく昔で終了しちゃってるご様子。でも大丈夫、対する水本クンは相当なプロレス&格闘技ファンだ。こちらも懐かし&レアトークからスタート。

BEST OF THE スコラム™

『猪木ボンバイエ』で全国津々浦々のかわいいコを踊らせるDJチーム・チャンピオン・オブ・ザ・ワ～～ルド!!

「オヤジが井関農機で働いてて、昔CMに馬場さん鶴田さん出た時に、トラクターとコンバインの動かし方を教えたのね（笑）。で、サインを頼んでたんだけど『ゴメン、寒くてたき火にくべちゃった』っていわれて号泣した（笑）。新日で印象に残ってるのはアンドレがションベンしてるの写真撮ったら、会場の外まで追っ掛けられたことが（笑）」（水本）

爆笑エピソード連発の正統派チビッコプロレスファン状態。プロレスごっこに興じつつ大きくなった彼は、その後熱狂的なUWF信者へと成長していくのだった。

「新日に戻ってきた頃のUWF、前田vsニールセンとかでショック受けて、ハマった状態で上京したから。大学2年の時に新生Uの旗揚げ後楽園で友達とプロレスごっこしながら23時間並んで待って（笑）もうろうとした意識で前田選手の『選ばれしものの～』を聞いてぼろぼろ泣いたり（笑）。あの試合生で見てまたショック受けて、そこからずーっとですね。今はリングスのKOK、プライドとか行ってます。でも常盤さんとは行ってないね」（水本）

「オレはだって国際以来行ってないモン（笑）。たまにだ回りが好きだしたまにTVで見てる。たまにだから蝶野がいつの間にか強くなってたり時計出してたりする（笑）」（常盤）

ボケツッコミのコンビネーションもナイス！さて二人とも学生時代、美術系の学科に行ってただけにそういったネタもあるようだ。

「MTVでゴドレー&クレームがリズムと画面を同機させるのが流行ってたんで、おれもダイナマイトキッドで作った（笑）。キッドの試合ってバンバン技でるし。でも曲が時代柄ムーンライダースなんだよ（笑）」（常盤）

「お茶の間プロレスTWFっていうのをオレの部屋で友達とやってた（笑）。8ミリビデオで撮影して見るってとこまでやってた。オープニング音楽付けたり、特訓シーンやマイクアピール撮ったり。WWFの先取り（笑）。WWFはハマりましたね。ホントみたいなウソ、ウソみたいなホントじゃないですか。そういうのって僕らがやってる事に近かったりするんですよ」（水本）

それは彼らのTV番組、DJイベントなどに、共通するエンターテイメント感があるといっても良いのだ。

「今度のミックスCDはイベントの前座みたいな僕らを知らない人でも入り易い内容になってる。イベントが試合みたい。盛り上がった後半なんかホントに『炎のファイター』かけるし『スカイハイ』熱唱するし（笑）。常盤さんのロックンロールもスピード感あってジュニアヘヴィみたいだし。今度の年末のイベントはWWFイズム全開で入場ヴィデオとかいろいろやろうと思ってるんだ」（水本）

『猪木ボンバイエ』で全国津々浦々のかわいいコを踊らせてるDJチームも他にいないだろう。そんな彼らはプロレスと自らの活動をリンクさせているレッスルマニアだといっても間違いじゃないハズだ。

「アーティストのヤン富田さんにインタビューした時、『表現を枠やジャンルで捕らえる人というのはくだらない、枠を壊す人じゃないと』って話を聞かされた後にプライドGPに行ったんですよ。そしたら桜庭があいう勝ち方をして、余計に思い入れが強くなりましたね。別の事柄とピシッと当てはまったりするとオーってなるじゃないですか。そういう団体に惹かれるんです。田村がノゲーラに負けた瞬間に今まで築いてきたリングス的なモノが崩れちゃう、それが純プロレスよりビンビンきますね。WWFに惹かれるのも、裏側見せる事でさらに広げちゃうのとか、全部含めて。80歳のバアさんを机パワーボムで沈めちゃったりする部分もね（笑）。俺らもDJプレイで「3D」決めたい！It's True!! It's True!!」（水本）

TMVGのミックスCD
『JET BOY JET GIRL』
MTCT-1005 価格￥2500
発売日／2001年1月17日発売
（発売延期！ ゴメン！）
total infomation TRANSONIC/ polystar.co.,ltd
※polystar.co.,ltd / 東京都渋谷区恵比寿南2-14-6（TEL.03-5721-3215）

12・4船木引退興行開催記念

ありがとう!! そして さようなら!!

ときには生きる力を
ときには笑いを
ときには感動を
ときには脱力を
与え続けてくれた
プロレスラー・船木誠勝の
言霊をボクらは決して忘れない!!

ボクらが愛した

船木誠勝語録

船木という男――語録を読んでおわかりだと思うがかなり理解不能な人である。長州が船木のことを「宇宙人」と呼んでいたのもわからないでもない。前田や高田とも違う、近藤や國奥らとも違うこの謎さ加減。唯一、一貫しているのが「ほっといてくれ節」。しかしUに連れまわされるか、自らの団体を作るしか選べなかった不幸。船木とはプロレスとプロ格の狭間に生まれたキメラだったのか？　その実像を感じとって頂ければ幸いだ。

構成／大坪ケムタ

「『男を張る』とか『身体を張る』とか
『張る』っていうことはさらけ出すことだから」
（アラーキー談）

【幼少期～新日編】1984-89

平成12年『FirstStep』（サンクチュアリ出版）
▼幸か不幸か、ここに気づいた分船木は若き日の異名「藤波2世」にならずに済んだのかもしれない。

「当時、山中っていう太り過ぎで腕立て伏せ1回もできない新弟子がいたんですよ。（中略）そいつを風呂の中で俺が落とすんですよ、ケイ動脈押さえて…。で、水の中でブクブクブクってなったところに、ライガーさんがフタをしめて、その上に乗っかって座っちゃうんです。で、5～6秒すると水の中で生き返ってバーンって、そのフタをはねのけて出てくるんですよ」

平成4年『プロレス王国』　船木vsライガー対談
▼二人の仲の良さを示す極悪コメント。山田がパンクラスにいれば……船木が3代目タイガーになっていれば……。

「もし、僕に人生が2回あれば、お母さんのいう通りに高校へ行く。だけど1回しかないんだから自分の自由にさせてほしい」

平成12年『FirstStep』（サンクチュアリ出版）
▼3回あったらブルースリー、4回あったら俳優、5回あったら極楽とんぼと共演出来る人、と思ってたかは不明。

猪木さんはその辺にいるだけで落ち着かないというか、あんまり自分とは合わない人だと思いました。

「学校の成績が仕事の成績になると思うんです。だから絶対に義務教育だけは受けたほうがいいと俺は思います」

平成12年『FirstStep』（サンクチュアリ出版）
▼本誌・堀越氏も格闘家と偏差値の関係は密接と述べていた。ヒクソン戦は中卒U系最後の大いなる挑戦だったのか？

「女の裸を見るよりも、ブルース・リーの裸のポスターを見てる時間が長かったですから」

平成12年『リトルモア』vol.14　豊田利晃監督との対談
▼ブルースが登場するCMで声をやるほどマニアぶりは有名。あらためて幻のジャッキー・チェン戦が悔やまれる。

「猪木のバカやろう！」

平成12年『海人』（ベースボールマガジン社）
▼タックルを教えなかった猪木への怒りの一言。でも言っても仕方ないよな、『馬鹿になれ！』の人だもの。

「なんで俺だけ貧乏なんだ。クソ！」

平成12年『海人』（ベースボールマガジン社）
▼船木少年時代の怒り。「俺だけ」という被害者妄想っぽい言葉に東北ならではの暗さと恨み節を感じさせます。

「（鈴木の第一印象）悪い！」

平成9年『盾』（ワニマガジン社）
▼片や青森の田舎者、片や横浜のヤンキー少年。普通に考えたら相性合うはずも無さそうなんだけど。

「最初は……俺はプロレスは八百長だと思って入りましたから（笑）」

平成9年『盾』（ワニマガジン社）
▼当時の15歳ではマセすぎか？シュート活字的観賞をする中学生、ってイヤだねぇ。

「昔はやっぱりつまんなかったですから。だから、よく飛び降りもしましたね、酔っぱらって」

平成9年『盾』（ワニマガジン社）
▼いろんなことを思い出すとムチャクチャ物騒な発言。「つまんないから」って十分自殺動機になるし。

「猪木さんが取りあえず一番長生きして、その次は高田さんが長生きするんじゃないかと思いますけどね」

平成9年『紙のプロレスRADICAL』No.1
▼憎まれっ子世に憚って、次は呑気な人って事だな。でも心の中では絶縁中のアノ人が1番長生きと思ってるのでは。

【UWF～藤原組編】1989-93

「人生を左右する選択ですか……この数年間に4、5回ありましたね。コレを選んだら、大金持ちになれると言うおすすめですね。やっぱり、考えましたよ。どう断ろうかなと……」

平成5年『週刊プロレス』No.569
▼メガネ絡みでヒドイ目に遭ってるだけに金持ちには警戒。でもホントに断ることしか考えなかった？　ホントに？

「前田さんとは今後一切、関わることはありません。自分たちの気持ちとして、関わりたくないということです。会いたくもないし、言葉を交わしたくもありません」

平成6年『週刊プロレス』No.599記者会見（ちなみに同号「打倒！パンクラス」青柳館長新格闘プロ旗揚げの記事あり）

【人生の哲学編】1969-

「道標をされたらその逆を行く、それが俺の歩き方です」

平成12年『FirstStep』（サンクチュアリ出版）より
▼猪木から離れ、前田から離れ、鈴木とも一時の蜜月関係は無く……と気づいたら逆の道、って感じもするが。

「〈自殺について〉前はありましたよ、失恋したときとか。単純なんですけど基本じゃないですか（苦笑）。いろんな方法も考えましたね。みんな何か痛いんですよね。究極の痛みが自分が死ぬ直前に襲ってくる、死ぬ直前に人生で一番痛いことをする、死ぬときまでもつらくなきゃいけないのがイヤだったんですよ」

「前田さんとは今後一切、関わることはあり

平成6年『週刊プロレス』No.599記者会見（ちなみに同号「打倒！パンクラス」青柳館長新格闘プロ旗揚げの記事あり）

▼前田の交流戦発言に対して。結局リングスより先に新格闘プロが誠軍団1号（＝小路）を参戦。館長、有言実行です。

「これは俺の個人的な主義ですけど、一度別れた人や所とは二度と、交わりません。だから、これは〝ぜったい〟と言ってしまいますが、新日本のリングに上がることはありません。試合はもちろん、花束贈呈とか、どんな形でも上がることはありません」

平成7年『週刊プロレス』No.702Uインター問題についてインタビュー

▼石澤は？　佐山は？　高田道場は？　「個人的な主義」じゃないってことは……なぁんだビジネスなんだね。

「いざやってみるとUWFのルールは窮屈な感じでしたね。これじゃあつまらないっていう気持ちがあって、バックランド戦なんかは反則覚悟ですよ。（実際、ロープブレイク直後にドロップキックを放って反則負け）」

平成8年『週刊プロレス』No.759　インタビュー

▼と思えば鈴木戦では元祖パンクラススタイルも。その振り子の幅が船木の魅力だったハズ。

「たくさんご飯食べて、たくさん練習して頑張りますので、よろしくお願いします」

5月4日UWF大阪球場大会挨拶

▼でもこの頃の体も『ハイブリッド肉体改造法』ではまだまだ批判の対象に。卵の黄身まで食ってた頃ですね。

「控えめに試合をすればいい。テストで低い点数をとって先生に怒られたみたいですね。学校みたいですよ、UWFは」

平成12年『FirstStep』（サンクチュアリ出版）

▼平成元年・ボブバックランド戦後のひとこと。藤原パパがいてもUWFは聖家族♥とはいかないようで。

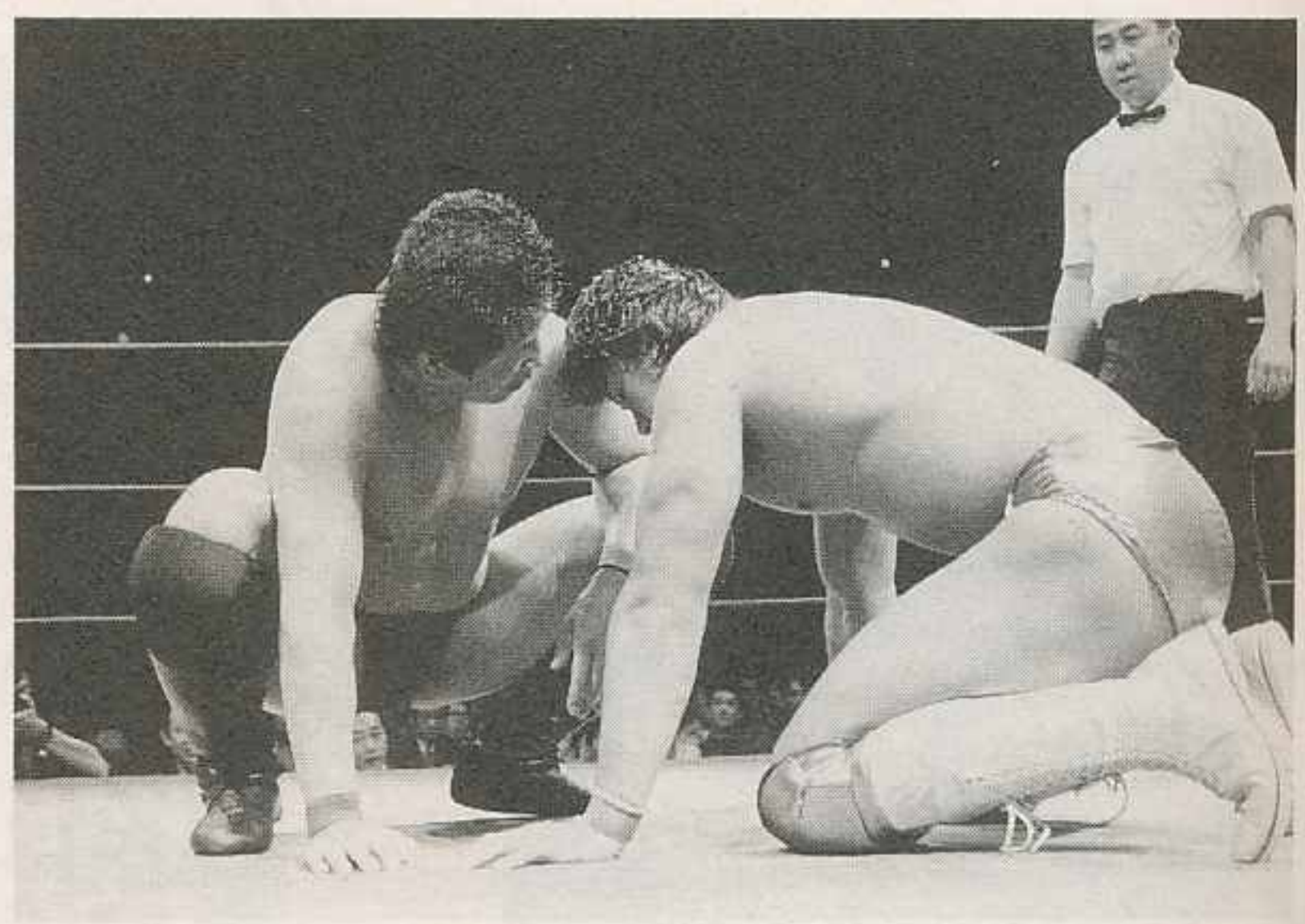
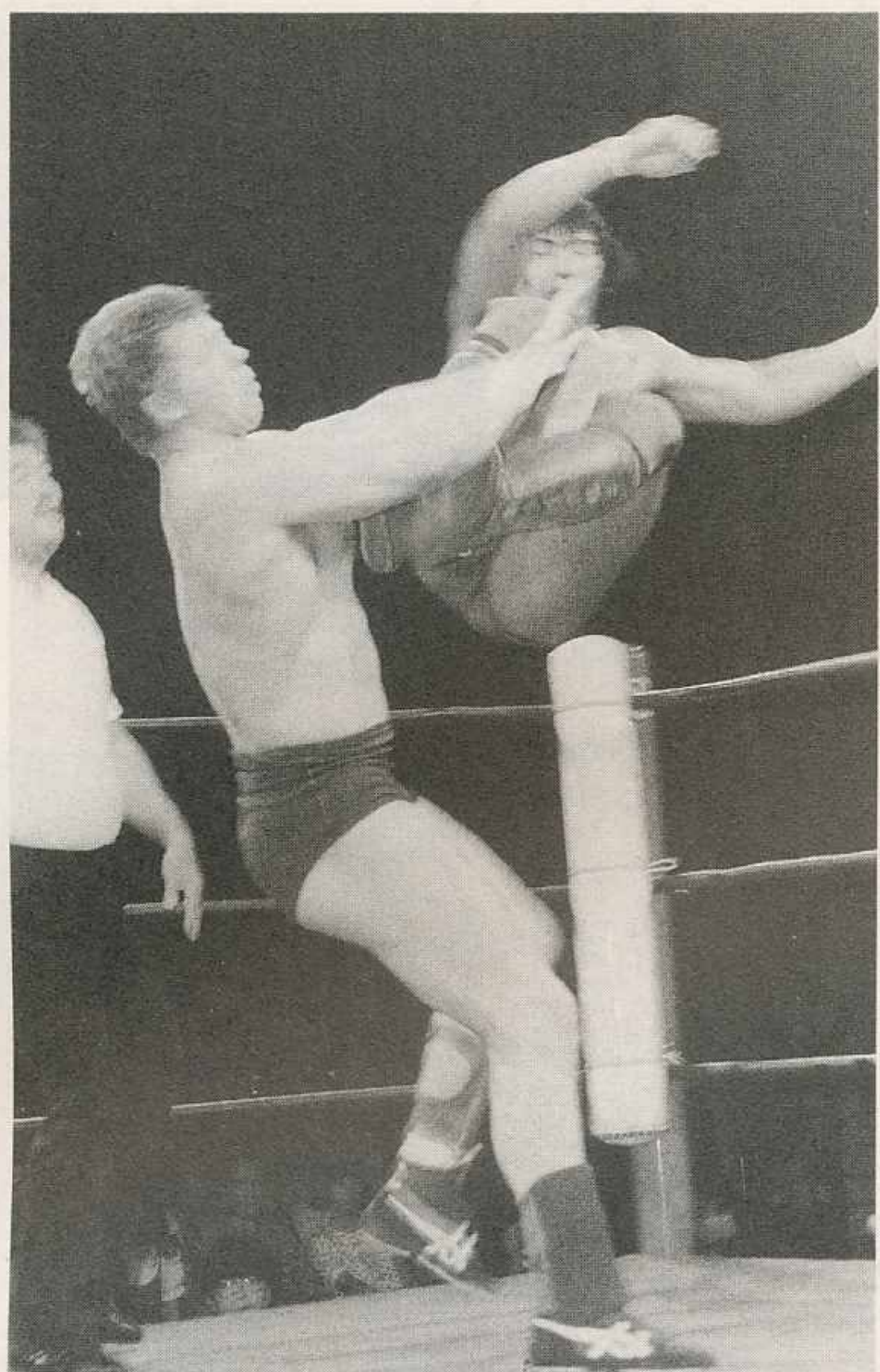
「UWF時代は憂うつな時が多かったですね」

平成12年『FirstStep』（サンクチュアリ出版）

▼そりゃ高田戦みたいな不可解な負け試合なんかやらされたら鬱にもなります。やっぱり飛び降りてたんでしょうか。

「前田さんリングに上がってください！」

UWF松本大会試合後マイク

▼有名なUWF最後の試合での呼びかけ。でもこの後は「一切関わらないでください！」と言い続けることに……。

「とにかくやらなければいけない。飯ですよ。理想がどうのこうのとか言ってる場合じゃないですからね」

平成12年『FirstStep』（サンクチュアリ出版）

▼藤原組設立の頃について。もし分裂しなければ競艇場で試合したりロードウォリアーズと試合してたのだろうか。

「次は体重落としてから来い！」

平成12年『FirstStep』（サンクチュアリ出版）

▼こっちはメシもろくに喰えないんだ、と続けたかどうかは謎の、藤原組時代の大一番・デュラン戦後のコメント。

「（UWFについて）だって割り切ってましたもん」

平成9年『紙のプロレスRADICAL』No.1

▼こういう一言に船木のUWFに対する思い入れのなさが分かる。ファンからすれば賛否両論だろうが。

「（前田について）いろいろ嫌なこともあったし、やっぱり忘れてないですよ。SEXといっしょですよ。ガールフレンドと、「またやりたいな」と思ったらつきあってるじゃないですか（笑）「別にいいや」と思ったら別れちゃいますよ」

平成6年スコラ12／8号・平成12年『BRAIN』（メディアワークス）再録

▼高田道場や掣圏道とは交流してもリングスは絶縁とは、前田とは膣痙攣 or 子供認知騒動級のイヤな思い出が？

らくなきゃいけないのがイヤだったんですよ」

平成12年『FirstStep』（サンクチュアリ出版）より

▼死ぬ時くらいは楽しく……って言われても。それを考えればヒクソンに殺されたら本望だったのかもしれない。

「これまでの俺の人生は……ひょっとしたら夢だったのかもしれないですね」

平成12年『海人』（ベースボールマガジン社）より

▼そんなに前田との出会いやヒクソン戦での敗戦が悪夢だったんだろうか。今となってはいい夢？　過去の事だし。

「友人はいないですよ（笑）子供の頃からベタベタすると、みんな離れていくんです」

平成12年『リトルモア』vol.14　豊田利晃監督との対談より

▼だって極楽とんぼとの釣り対決で罰ゲームの女装がイヤだってズルするんだもん！　そりゃ嫌われますって。

「〈プライドについて〉1つあるとすれば、俺のプライドはやっぱり日本という国です」

平成12年『FirstStep』（サンクチュアリ出版）

▼タイツの国旗の理由はこんな所に。サムライ好きだし、前田とのサムライ対談なんか……やってくれないだろなぁ。

「俺はホントは宇宙人になりたいですけどね」

平成9年『盾』（ワニマガジン社）

▼日本は好き、でもなりたいのは宇宙人。その発想の飛躍は十分スペーシーです。

「俺、自分のこと変態だと思ってますから」

平成9年『紙のプロレスRADICAL』No.1

▼自らの体をハイブリッドにイジめて、大一番で豪快に負けて。マゾ性とナルシストの素養がなきゃ出来ないかも。

「ほっといてくれ男」ですから（笑）

平成9年『紙のプロレスRADICAL』No.1

▼UWFでドロップキックに唐突な引退宣言……集団生活に合わない船木イズムを端的に表したひとこと。

「自分の妹が結構太ってたんで、いつも一緒にいる時は5m離れて歩いてましたから」

平成9年『紙のプロレスRADICAL』No.3

▼船木の基準は「自分の格好よさ」、それを追求するためには妹までも犠牲に。極悪だがある意味正しい！

「『男を張る』とか『身体を張る』とか
『張る』っていうことはさらけ出すことだから」
（アラーキー談）

【パンクラス編】
1993-2000

パンクラス設立記者発表

「若くて強くてカッコイイという、自分がUWFにあこがれたものを、このパンクラスに追い求めているような気がしますね」
平成5年『週刊プロレス』No.563 旗揚げ戦決定コメント
▼当時船木24歳、確かにそのイメージはあったが「カッコイイ」まで自分で言っちゃイカンだろ。

「汚い話だけどクソもらしそうになりました」
平成6年『プロレス王国』 旗揚戦で、シャムロックにチョークスリーパーで破れた瞬間を振り返って
▼これは失神よりも恥ずかしい。っていうか、コレを言えるこの人の羞恥心の感覚が……分からない。

「とにかく力というものすべてを試合にかけたかったんです。体力、筋力、瞬発力、持久力、あと知力。そういう力を矢継ぎ早に繰り出して、それで競い合うスポーツがパンクラスなんじゃないかなという、一つの結論が出たんです。だから僕はもう、それを疑わないですね。誰も知らないんですよ。ハイブリッドレスリングが何なのか。だから僕が始めにやるしかないんです」
平成6年『週刊プロレス』No.611 vs冨宅戦
▼「ハイブリッドレスリング」が確立したと言われる試合後。最近では上になって殴り倒すことになってそうだけど。

「はっきりいって『あの選手、パンクラスに来たら、すごく強くなれるのになぁ』と思う選手は結構いるんですよ。よく噂される（苦笑）田村だけじゃなくて、名前を聞いたら『えっ？』とビックリするような選手も俺の注目する選手の中に入ってます。でも、すべては本人が〝その気〟にならなきゃダメですよね。なにせ、パンクラスは、苦労ばかりでいいことがないですから……」

平成7年『週刊プロレス』No.702 Uインター問題について
▼ヤスカク船木インタビューといえば、謎かけと悲壮感。ちなみにインタビューはテープに録らず聞き書きだそうな。

「もう両雄じゃないです。鈴木のことはライバルと思ってないし、残念ながら。これを言って鈴木が奮起しても、もう差は開いてますんで。それくらいアイツにはロスした時間があるんです」
平成8年『週刊プロレス』No.747 vs伊藤戦
▼意外と早く終わった鈴木とのライバル物語。だが結果だけ見れば共に王座以外大きな結果を残してないような……。

「オレは一生懸命やりました。自分はどうなってもね、一生懸命生きれば結果はね、絶対ウソ付かないから！ コレがオレの結果だよ！ 今闘った後、今思ってることは、悔いはなかったということです。だけどオレまだね、やり残したことといっぱいあるんだよ。こんなことでやめてられねえよ！ だから、明日からまた……生きるぞ！」
平成8年『週刊プロレス』No.754 vsルッテン戦
▼勝者の印象を一気に薄くした名勝負後のマイク。数少ない「本気の船木」を感じさせるカッコ悪さ。いい意味で。

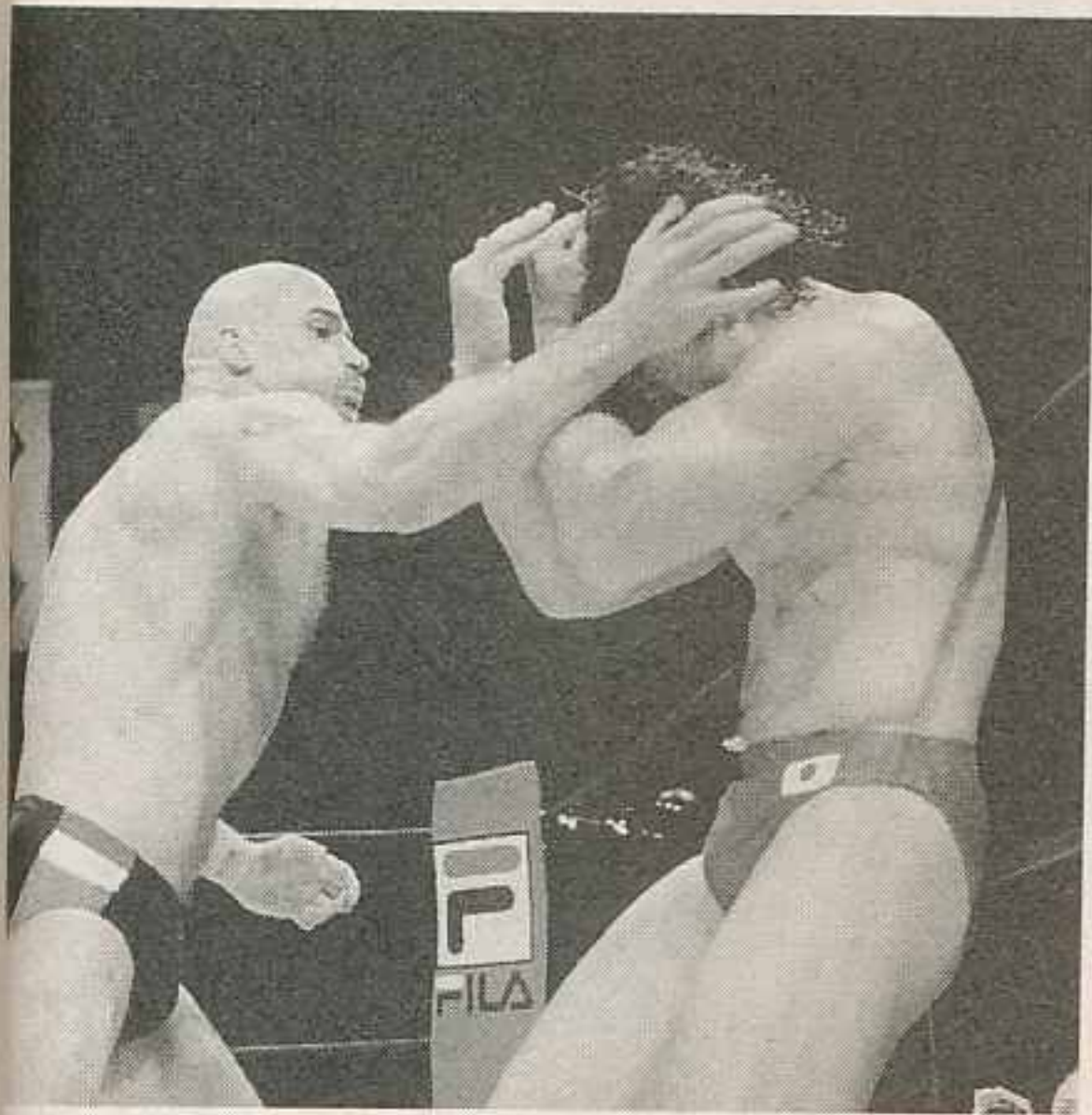
「（Uインター解散について）オレに言わせれば、カッコ悪い。解散と思ったら、また再建の話が出てきたり……さわやかなんて、とんでもないです。ファンがなんでも許してくれますからね！」
平成9年『週刊プロレス』No.778
▼さすが引き際にこだわった男、Uインターのズルズルさ加減には手厳しい。でも自団体にもいるよね、ズルズルな人。

「今いる外国人選手を引き抜かないでほしいですね。ウチで一所懸命頑張ってるんですから。自分たちで探して、自分たちで育てろって言いたいですよ。去るものは追わず、来るものは拒まず、我が道を征く。猪木さんと坂口さんの言葉をミックスさせた言葉です。俺はだから、すごいいい生徒だと思いますよ、新日本の（笑）」
平成9年『週刊プロレス』No.781
▼円満退社させた猪木は分かるが、船木と坂口の関係は謎。ガウンの裏地に荒鷲の刺繍でもあるのか？

「ただこれで負けたからと行って全然、あいつに越されたとは思っていないですから。実際、ロープエスケープを奪ったのは最初は俺ですからね。本当の意味の勝負は、俺が勝ったと思ってますから。結果の上の勝ち負けではあいつが勝ったということで。パンクラス的にはあいつが勝ったんですね。でも格闘技としたら、俺が勝ったという自信がありますから」
平成9年『週刊プロレス』No.793 vs近藤戦
▼王座防衛失敗後のコメント。船木は「負け＝恥ずかしい」という発想の人、それ故こんなダダっ子のような言い訳も。

「去年のルッテン戦が終わって10日間、寝こんだんですよ。その時にいろんなことを考えて、あまりにも熱が止まらなくて遺書を書こうかなと思ったんですよ。苦しくなっちゃって。それで、結局書けずじまいで。生きている。だから、俺はまだ生きるという力があるんだなという気持ちがあるんだなと思って」
平成9年『週刊プロレス』No.793 vs近藤
▼「明日また生きるぞ」じゃなかったの？ 「生きたいんだったら闘い続ける」よりなりゆきなのか？

「オレは全面的に禁止にしたいです。打撃はスタンド、グラウンドでは打撃をやらない、ときっちり分けた方がいいと思うんです」
平成9年『週刊プロレス』No.795インタビュー
▼を目指したけどいつの間にやら顔面パンチありのVT系へ。これもパンクラスは進化するんです！ってコト？

「俺は初めて見た人には勧めますよ。見た方がいいですって。健全な宗教ですからって（微笑）」
平成9年『盾』（ワニマガジン社）
▼宗教なプロレスほど不健全なものは無いと思うが……ちなみに最近発刊された『FirstStep』の表紙のデザインはまるで宗教本。

「ヒザもとられそうになってるんですけど、なんか音楽が聞こえてくるんですよ。ヒザが伸びそうになったとき、なんかの音楽の歌詞がパッパッと入ってくるんですよね。そん時、オレ、マットに光が見えてきて『オレ、メチャメチャ余裕があるな』って思ったんですよ。それで足ひっかけて頭取ったら抜けられたんですよ。気持ち悪い試合でした」
平成9年『週刊プロレス』No.813 vsメッツァー戦
▼別のコメントでは「浄瑠璃が聴こえた」なんてコトも。意外とラロ・シフリンの『燃えよドラゴン』の勘違いとか。

「パンクラスはオレの相手してくれるヤツ一人いればそれまでやってくつもりです。引き抜きは構わないし、日本人選手を引き抜こうと思ってるんだったらそれでも構わないし、関係ないです」
平成9年『週刊プロレス』No.813 vsメッツァー戦
▼い、言ってることがさっきと違う……。しかもこの日闘った当のメッツァーは出て行っちゃうし。

「近藤も、『なんで自分は人気、出ないんでしょう』（って言ってくるんですが）。与えてないからですよ、単に。自分がものを与えてないから。与えてないのに、その見返りばっかり最初から期待してるんですよね」
平成10年『週刊プロレス』No.832 vs近藤戦
▼でも完全実力主義だったら勝ち星最優先だよな。じゃあここ一番の勝負で勝ち星をあげてるのはどちら？

「（観客の声は）全部聞こえました。やめろとかね。やめたらいいのならやめますけど。でもそういう一人二人の声でやめる気はさらさらないし、オレはまだやらなくちゃいけないことがあるし。っていうか自分のやりたいと思うことがあるし。それをやるまではそういう声は気にしないです。あくまでも

俺は自分のために闘うためですから」

「うっとうしくてしょうがないですね。

ニケーション、そういったことを非常に

KOはされず。この言葉はヒクソン戦に通じることに。

「俺は自分のために闘うためですから」

平成10年『週刊プロレス』No.853　vsメッツァー戦

▼コレを読めばヒクソン戦即引退も納得。「ほっといてくれ」な自己中心こそ船木イズムの真骨頂。

今までちょっと甘やかしすぎなんですよ、ファンが。ちょっと勝ったりとか自分の思い通りになると、その選手に思い入れをしてどんどんおだてるって言うんですか。

平成10年『週刊プロレス』No.853　vsメッツァー戦

▼この日は風邪ひいて試合内容も絶不調&王座転落。さんざん野次られて、おだてられてた自分に気づいたってコト？

「レスラーじゃないのに、プロレスの世界にいるからじゃないですか」

平成9年『紙のプロレスRADICAL』No.3

▼レスリングが出来ないという意味か？　謙遜せずとも、ここまでの発言を見れば立派なプロレスラー。

「うっとうしくてしょうがないですね。信者的なファンなんて」

平成9年『紙のプロレスRADICAL』No.3

▼さっき健全な宗教って……。このファンの事を考えてんだか突き放してんだか分からないスタンスも船木的。

「今日生まれた技があるんです。使ったときはフナ固めと呼んでください」

平成10年『週刊プロレス』No.850　公開スパー

▼一時期剣道や中国拳法を応用した構えを見せてた事も。その後全く使わなくなった事を考えると、この技も大して……。

「自分はパンクラスを旗揚げする前から、ファイトスタイルとか目指す方向は違えどジャイアント馬場さんの会社のあり方というものについてとても影響を受けまして、会社を作るならばそういった形の運営の仕方、選手とのコミュニケーション、そういったことを非常に参考に今までできました。馬場さんは誰になんと言われようと〝明るく楽しいプロレス〟というものを今まで実践されてきました。それを自分も学んでパンクラスのリング上、これから先もずっと〝完全実力主義〟を貫いていきたいと思います」

平成11年『週刊プロレス』No.901　ジャイアント馬場追悼コメント

▼船木さん「激しい」が抜けてます！　それじゃ「完全実力主義のファミ軍vs悪役商会」になっちゃいます。

「天国にいる長谷川！　最後までギブアップしなかった！　長谷川、ありがとう！」

平成11年　ブラガ戦後マイク

▼この日は故・長谷川選手の四十九日、ボコボコにされるもKOはされず。この言葉はヒクソン戦に通じることに。

「ブレイクってのは、あったほうが試合は面白いんだよっていうのを俺はパンクラチオンルールとパンクラスルールをふたつやってお客さんにメッセージとして訴えたい」

平成11年『週刊プロレス』No.911　ブラガ戦後コメント

▼ブレイクの有効性は重々承知。あとは寝技のレベルも上げましょう、って気もするが。

「（来年のグローブ導入、掌底廃止について）あれはUWFのものを引きずっていたものがありますからね。もうここらへんでいいでしょ」

平成11年『週刊プロレス』No.939NK大会後パンクラチオンマッチ後コメント

▼しかし佐山と船木は脱UWF的発言が多い。その辺で気が合っての掣圏道との交流も分かるような。

【ヒクソン戦～引退編】2000-

「俺がヒクソンを倒すことによって、俺がパンクラスをやってきたこと、それが間違っていなかったということも証明したいなと思いますね」

平成11年『週刊プロレス』No.952　船木vsヒクソン戦決定インタビュー

▼倒せなかった今となっては空しい一言。せめて近藤vsヒクソンでも決まっていれば再証明も可能だけども。

「前にお世話になった人や、今、別れてバラバラになっている人達が「頑張ってほしい」と言っているのを人づてに聞いている。そういうことを言ってくれないだろうなと思っていたんで、そう思うと安心します」

平成12年『週刊プロレス』No.969　合宿場インタビュー

▼M田社長の事か？　あの人がムカつくのはS木選手やO崎社長だから、と何気にイニシャルトーク。

「（ファンに対して）すいませんでしたじゃないんですよ、ホントに。もう取り返しのつかないことをやってしまったと思ってますんで。……もう、あとはリングの上で試合はしないということです。それほど特別な人間じゃないですよ、自分は」

平成12年『週刊プロレス』No.980　vsヒクソン戦後コメント

▼それを言ったら高田はどうなる！　この過剰なまでの「恥」へのこだわり、サムライでの入場も納得。

「ああ俺死ぬんだなって思いましたね、正直」

平成12年『週刊プロレス』No.980　vsヒクソン戦後コメント

▼冷静なんだかオーバーなんだか。しかしルッテン戦ですらなかった死の感覚を味あわせたヒクソンは流石というか。

「こうなったら死にたくないからヒクソンが入場してきたときに日本刀でスパーッと一発やっちゃおうと。それで試合不成立にしてもいい、そんだけ俺は怖いんだから多少牢屋に入ってもいい、それくらいの覚悟がありましたよ。……だけどそれをやったらおそらく誰も付き合ってくれないと思いますから」

平成12年『週刊プロレス』No.980　vsヒクソン戦後コメント

▼最後の一言、これを真顔で言えるのが船木という男。「スパーッと一発」ってそんな景気よく言われても……。

「廣戸さん、これから最強のレスラーを作っていきましょう！　誰にも負けないサイボーグみたいな選手を。自信あるんですよ、育てるのは」

平成12年『週刊プロレス』No.980　安田拡了氏レポート

▼肝心なところで負け続けた人が言うだけに説得力あります。マチャド柔術道場でもわざと負けて技術盗んでたし。

「今日は近藤と俺が入れ替わった日ですね。だから俺が負けてよかったんですよ」

平成12年『週刊プロレス』No.980

▼ルッテン戦、ヒクソン戦と船木の大一番での敗北には近藤がシャムロック弟、ヒベイロに快勝と因縁さえ感じさせる。

「プロレス最強をかなえたい。それはみんな一緒だなと思うから」

平成12年『SRS・DX』No.31　横浜大会後コメント

▼格闘家と紹介されることも多いが、あくまでも自分を「プロレスラー」だと自認している事を思わせる一言。

「楽しいですよ。最近はいろんなことを感じますね。食べ物のおいしさ、酒の旨さ、人の温かさとか。31（歳）になってようやく人間本来の感じるべきことを感じてる最中です」

平成12年『FirstStep』（サンクチュアリ出版）より

▼食事は分かるが人の温かさが今まで分からなかったって事？　ハイブリッド食にカルシウム入れるべきでは。

「野獣だと思います。野獣の時代が来る。今まで何か真面目くさったパンクラスのイメージがあったと思うんですけれども、もうそれは終わり」

平成12年『FirstStep』（サンクチュアリ出版）より

▼優作好きの船木らしい言葉だけど、具体的な意味が読めない……。タイツをノアの橋みたいにアニマル柄にするとか？

「また時代劇をやってみたい気もしますね。人を斬れるのが面白いと思います（笑）」

平成12年『リトルモア』vol.14　豊田利晃監督との対談より

▼「ヒクソン斬る」といい、潜在的に人斬り願望があるのか？　ヘンな所で前田と趣味が似てます。

「（ヒクソン戦が）とにかく終わってからは海に行く。それだけです」

（『SRS・DX』1／27号・『BRAIN』再録）

▼実際に後日行ったそうな。インタビューを見る限りヒクソン戦への道は彼の人間性の回復に役立ったという感も……

「『男を張る』とか『身体を張る』とか
『張る』っていうことはさらけ出すことだから」
（アラーキー談）

プロレスラー・船木誠勝は プロレスとプロ格を繋ぐ ミッシングリンクだった!!

船木誠勝——誰もがその才能と容姿に一目を置き、将来を嘱望した逸材であった。ここは「あった」と、過去形で書かざるを得ない。「21世紀の超新星」が、なぜ20世紀末に墜ちなければならなかったのか？　それは「時代」という魔物に押しつぶされたからに他ならない。時代と時代を繋ぐ重要な役割を担っていたがため……なんて書くと宗教チックなのでイヤなんですけどね。とにかく、不幸だった船木のプロレスラー人生を振り返ってみよう。

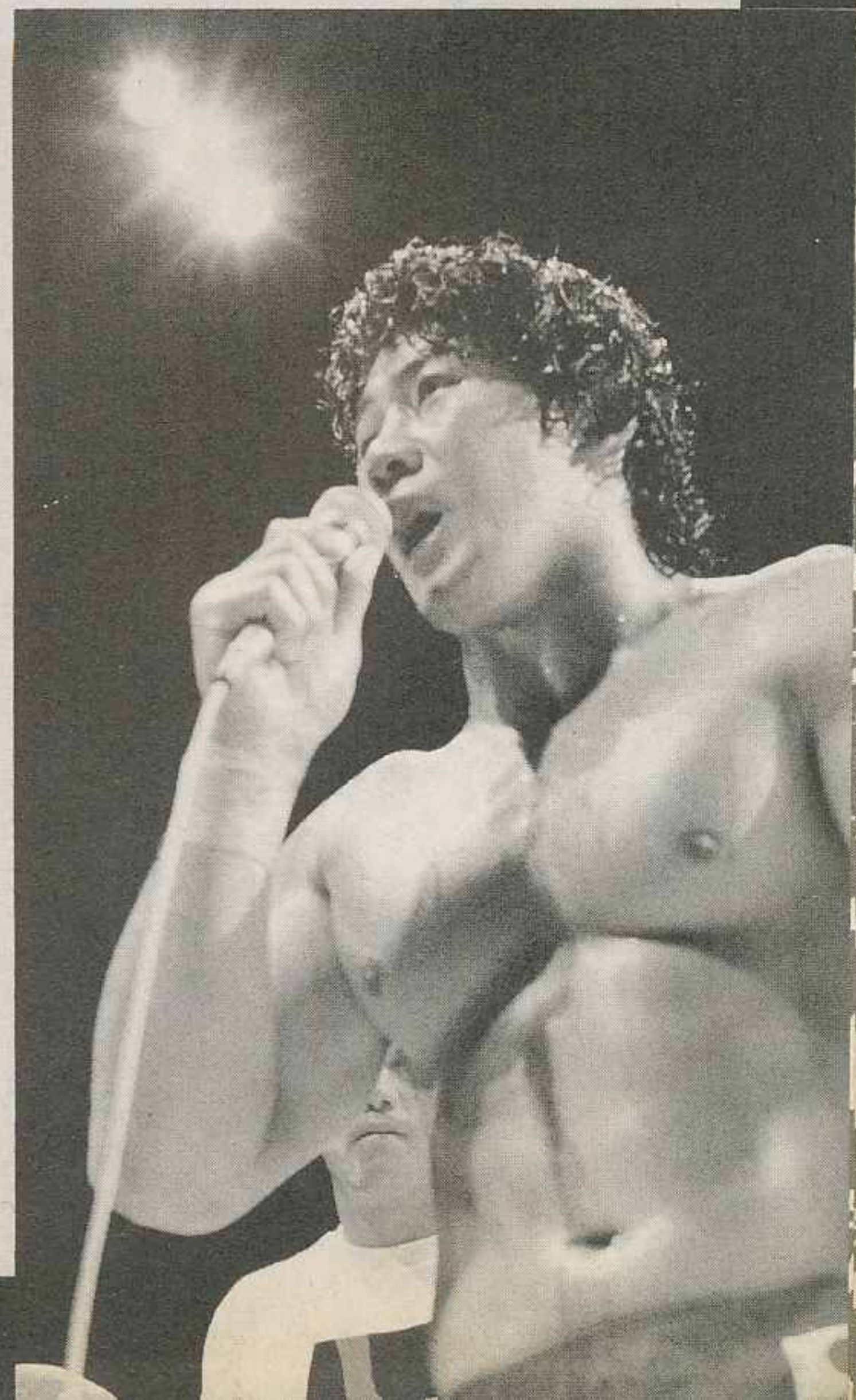
フォークシンガー・早川義夫の名盤に「かっこいいことはなんてかっこ悪いんだろう」というアルバムがあるが、プロレスにおいては「かっこ悪いことはなんてかっこいいことだろう」という理論が当たり前、むしろそれこそが美学！　と言い切る輩も多い。確かにプロレスの持つ胡散臭さや怪しさ、汗まみれでぶつかり合うマッチョな男たちの姿は、非・プロレス民からすればカッコ悪いことこの上ない。しかし同じものがプロレス民にとってはこれ以上ない宝だったりする。

船木という選手は、このプロレス観とは全く正反対に位置した美意識の持ち主だ。語録を拾ってみても、少年時代から引退戦まで一貫して浮かぶのは過剰なまでの自意識。「妹が太ってたんで5m離れて歩いてた」「若くて強くてカッコイイという、自分がUWFにあこがれたものを、このパンクラスに」「東京ドームであれだけの大恥」「やっぱり人間として、いかにカッコ良く、美しく生きたいかって事だと思うんですよ」……。恥ずかしいのはイヤだ、かっこいいのが一番。つまり「かっこいいことはなんてかっこいいことだろう」を実践しようとした選手。猪木の人間力垂れ流しな部分に憧れて……という現役選手が多いプロレス界の中では平凡、といってもいいのかもしれない。だがそれだけに特殊なのが船木という男。しかもそれを本気で考え続け、しかもそれを叶えるだけの身体能力と華を持っていたのは間違いない。

だが「理想のかっこいい団体」パンクラスを旗揚げするも、待っていたのは「かっこ悪い現実」だった。旗揚げ戦、エースの立場でありながらウェイン・シャムロックにチョークスリーパーで敗北。唯一、と決めたタイトルマッチでバス・ルッテンに完膚なきまでに殴られTKO負け。その後2度の王座につくも、いずれも一度も防衛に成功することなくベルトを手放す。そして日本最大の会場、東京ドームでヒクソン・グレイシーにチョークにより失神、敗北、そして引退。結果だけ見れば団体のエースとは思えない内容だ。もし100年後、格闘技年表なるものが作られたとしたら、桜庭はもちろんのこと、カレリンと闘った前田や、『PRIDE』という舞台でヒクソンと闘った高田はそこに名を残すだろう。しかし船木の戦績が残されるかというと……怪しい。

しかもベストマッチと言われる97年のタイトルマッチ・船木 vs ルッテン戦。皮肉にもこの試合はそれまでで最も冷静さがなく、普段傷ひとつつけさせない顔面を破壊され、敗者なのにマイクを持って絶叫という、船木史上最も「かっこ悪い試合」であることは間違いない。しかし何故この試合が感動を呼んだか？　それは初めて船木が感情のリミッターを外した試合だからに他ならない。それまでブルース・リーのように水のような闘いを見せてきた船木が、感情むき出しで顔面を腫らしながら立ち向かっていく。その結果、自ら「かっこ悪いことはなんてかっこいいことだろう」を証明してしまった。船木でさえ「かっこ悪いことがかっこいい」プロレスラーから抜けきれなかったのだ。

生物の進化において、二つの異種の動物の間隙を埋める生物のことを「ミッシングリンク」という。例えば爬虫類と鳥類の間の始祖鳥や、人類と類人猿の間のアウストラロピテクスなどだ。船木はあと5年、いや3年デビューが早ければ、新日内でもベルトを巻きトップとの対戦も果たした前田や高田になれただろう。逆に3年遅ければUWFでミサイルキックをやるヤンチャぶりからも桜庭になれた可能性は十分だ。だが現実、実績でこの三人を越える事は出来なかった。船木の不幸は新日とU系、そしてプロ格という歴史を繋ぐミッシングリンクであったことだろう。始祖鳥は爪のある手を持ち、身体はウロコもあり、それでいて翼もあると、鳥類から見ても爬虫類から見ても「かっこ悪い」動物だ。しかしコイツがいなければ爬虫類は空を飛べなかったのだ。

最後まで「かっこ悪いことはなんてかっこいいことだろう」から飛べなかった船木。だが近藤をはじめ、「かっこいいことはなんてかっこいいことだろう」を実現できる選手は育ちつつある。先に述べたように戦績では船木の名は歴史に残らないかもしれない。しかし本場UFCでグレイシー越えを果たした高橋や、日本人で初めてUFCミドル級ベルトに挑戦する近藤を擁する完全実力主義団体・パンクラスの創始者としてその名は残り続ける。そしてこれからは、真のかっこいいプロレスラー・メーカーとして。

プロデューサー船木誠勝就任でパンクラスはこう変わる

「来年は『自由』と『野獣革命』です」。そう言い切った船木プロデューサーの言葉に偽りはなかった！　これまでのUFC－Jに新興行『Deep2001』、佐山率いる掣圏道との交流、そして最もオドロキの『PRIDE』との電撃和解！　ここまでくると選手不足の方が不安になるこの大開国ぶり。　しかしその一方で続々と参入する強豪他団体選手、そして試合数もめっきり減った第一世代の存在価値。内外共にサバイバルなパンクラス、2001年はどーなる!?

本誌のパンクラス記事復活より早や3ヶ月、狙ってか偶然か、先を読んでたかのように慌しくなるパンクラス周辺。12月は既に終了した武道館大会・青森大会に続き、近藤が遂に挑戦するUFC―J、先日の武道館大会から提携を開始した掣圏道にも参戦と、選手のやりくりが心配になるほどの超積極参戦。特にUFC―Jで近藤が勝てばこれは日本格闘史に残る快挙。しかし、前回のUFC―Jで打撃系のシウバを押さえ込んだような闘いをティトが見せるならば近藤不利……と同じようなことをシャムロック弟戦やヒベイロ戦の前は言われたものの、現実には驚きの快勝を見せてくれた近藤だけに、期待しないわけにはいかない。190cmのティトが飛びヒザで崩れ落ちる瞬間が観たい！

しかも来年からはもっとスゴイ。まずは1月8日名古屋で行われる、新格闘技イベント『DEEP2001』。今号が出る頃にはカードも決定してるだろうが、ブラジリアン柔術との対抗戦が組まれるという。そして待望の『PRIDE』参戦がほぼ決定！　こちらは一時のメッツァーの引き抜き報道などで、両者の関係は最悪と思われてただけに何とも驚き。リングスがKOKによる求心力ならコッチは外に向かう遠心力だとばかりの攻めの外交。

全体を見回してみると、各興行とも中軽量級の充実を図っている。というのも『PRIDE』を見てもヘビー級日本人選手を養成するには選手が少なすぎる。そこで日本人が充実している中軽量級を盛り上げようということだろう。しかし修斗は国内他団体に対しては鎖国的状況だし、リングスは日本人選手が不足な上にケガが続出。そこで中軽級選手が揃い、団体としては強豪外国人と当るチャンスが欲しいパンクラスが上手くハマッたというところか。K―1も目を向けだしたし、来年は格闘技全体が中軽量級に人気がシフトするかもしれない。

さて、来年のお楽しみといえばもうひとつ、船木のプロデューサー就任である。早速1月大会から手がけるという、その戦略を勝手に予想してみよう。9月大会の解説の際言ってたのは「テーマは二つ、『野獣革命』と『自由』」。自由はこの積極外交で納得だが、問題は『野獣革命』。なんか言葉の語感の良さに船木が酔ってる感もしないでもないが、同じく放送中に言ってた言葉で言えば「弱肉強食」。おそらくこれは第一世代と下の世代の対決を増やすつもりではないだろうか。高橋を除く旗揚げ参加メンバーの試合はどんどん減る一方。限られた試合数なら山田・富毛・稲垣vs渡辺・石井・謙吾との世代対抗戦や、青森で3人デビューしたことだし久々の道場対抗戦なども見てみたい。ともかく、船木も「俺が辞めなきゃ下が辞められない」と言っていたが、そろそろ選手によっては残酷な結論を出さざるを得ない時期だとも思うのだが。それが「完全実力主義」なのだから。

といっても緊張感があるのは上だけでない。武道館大会では今年度ネオブラッド王者・星野勇二と、先日パンクラスマットにデビューしたばかりの藤井克久（フリー）が共にランキング戦に挑戦。「今後の総合格闘技は、いずれ統一コミッションを作る必要に迫られると思います」（『WEEKLYプレイボーイ』11・28号）という尾崎社長の発言もあり、まずは他団体交流を一層深め、まずは中軽量級で日本統一コミッションを狙う？　となると先日修斗でTEAM GRABAKAを名乗っている郷野聡寛や佐々木有生の参戦は当然気になるが……。ともかく本隊の選手も安穏としていれば試合にホサれるのは必至だろう。とにかく、キーワードは「野獣革命」と「自由」。来年からの船木プロデューサーの手腕に期待するべし！

10・31菊田早苗vsムリーロ・ブスタマンチは世紀の凡戦か？　ハイレベルな技術戦か？

メインの菊田とセミ・元気のGRABAKAカードにvsＷＫネットワークの団体対抗戦と地味目カードな後楽園大会、これが開けてみれば大盛況！　他団体参戦とコンテンダーズでの元気効果か？　対抗戦は技術的には「極めれない慧舟会連合」と「ポジション取れないパンクラス」という展開も、意外と噛み合った好勝負に。しかしこの日一番の盛り上がりは元気！　高速タックルで一気に会場を沸かせ、ジャイアントスイングからのアキレス腱固め！　この人、ミドルじゃ桜庭超えるかもよ。そしてメインの菊田vsブスタマンチは……ドローに近いブスタマンチ勝利。確かに緊張感は伝わったけどやはり寝技が見たかった。どうせ負けなら相手のレベルを感じてみてもいいんじゃない？

12・16UFC-Jで遂に実現!

『ＵＦＣ27』の快勝から3ヶ月、延期したのが功を奏し『ＵＦＣ－Ｊ』で遂に近藤がミドル級タイトル挑戦！　相手はもちろんティト・オーティス、『ＵＦＣ』でシャム弟やメッツァーと熱戦を繰り返てきた、パンクラスとも縁のある選手。しかしいくら近藤が「ここ一番」で勝ってきたとはいえ、発展途上時のシャム弟やＶＴ歴の浅いヒベイロやダンテスに比べれば、オーティスのVT歴は段違い。しかも前戦の『ＵＦＣ』でレスリング・寝技に関しては黄ランプが点いているだけに・・。しかしこんな不利さを挙げれば挙げるほど、「じゃあどんな勝ち方をするのだろう？」と思わせるのが近藤。過去の場外蹴り落とし・飛びヒザ・秒殺ハイキック、今度はどんな戦慄を与えてくれるのか？　寝技がダメなら蹴り倒すのみ！　ハッキリ言う。ティトが勝てば退屈な試合だろう。しかし近藤が勝ったなら、桜庭ーホイス戦以上の爽快感を与えることを保証する！

「『男を張る』とか『身体を張る』とか『張る』っていうことはさらけ出すことだから」

（アラーキー談）

おまけ

こんな素晴らしい〝愛〟に包まれた船木誠勝はホントに幸せだったのだろうか？

パンクラス社長 尾崎允実語録

「この日はともかく、今後はあまり表に出るつもりはありません」

平成5年『週刊プロレス』No.654パンクラス旗揚げ会見

▼と言いつつ今や全日・元子社長と共にマット界の2大ヒール社長、「泣きの尾崎」がすっかり定着。

「前田氏と今後、一切の関わりを持つことをしないことを宣言させていただきます。これはウワサ話とか、ウソとか誹謗中傷によるこれ以上の泥仕合をしたくないという会社の意向であり、本当にファンのみなさまからの多くの声を聞いた上での結論であります」

平成9年『週刊プロレス』No.824　記者会見

▼と言ってから早くも2ラウンド3ラウンド……泥仕合どころかまさにセメントマッチ。

「いや、もういいです。前田さんも常識人だと思うんで、もうこれで終わりです。ウチの口から前田さんのマの字も出ないです」

平成9年『週刊プロレス』No.824　記者会見

▼のちのち愛人疑惑まで言われた時、「前田さんも常識人」という自分の認識の甘さに気づいただろうな……。

「前田氏が発言される過去のことから現在のことも含めて、正直言って、言いたいことは山ほどあるんですが、このような中傷合戦はパンクラスのファンの方々、リングスさんのファンの方々、マスコミの方々、パンクラスのスタッフ、選手、リングスさんのスタッフ、選手の誰も喜んでいないと思います。正直言ってこういうことはこれで最後にしたいし、今後こういうことはなくしたいと思います。今、そういう気持ちでいっぱいです」

平成9年『週刊プロレス』No.818　記者会見

▼このファンやマスコミを味方につけようとする発言が、逆にファンの癇に触るって気づかなかったの、社長？

「絶縁とまで言ったからには今も、今後もその気持ちに変わることはありません。そのことを知っていながら対抗戦などというものをアピールする前田氏の方が、よほど卑怯なのではないでしょうか。勿論、選手・スタッフ全員がまんにがまんを重ねております」

平成9年『週刊プロレス』No.817

▼横暴な会社側に対して断固闘争する組合の街頭ビラのような一文。理屈はわかるが団体のイメージ的によろしくない。

「『プライド』さんとはいろいろ問題があり、協力できるわけがありません。桜庭選手がウチかUFC—Jさんのリングに上がるというのなら、可能性はあります」

平成11年『週刊プロレス』No.925UFC—J参戦会見

▼昔はこんな発言も……今は忘れて参戦を祝いましょう。でもシャムロックやメッツァーは対戦拒否？

「ウチの選手たちも殺気立っていたのは事実。だから安生選手の気持ちも分かります」

平成11年『週刊プロレス』No.948　UFC—J安生前田事件コメント

▼分かったらマズイでしょ、社長！　そんな事言ってるからその後、自分が巻き込まれるハメに……。

「彼はヒジ・頭突きという武器を持たされても使えないでしょう。それだけはびびっているとしか思えません」

平成12年『週刊プロレス』No.976　横浜大会時の会見

▼そんな格闘経験のない社長がアジテーションしていいのか？　WWFのマネージャーじゃないんだから。

「僕は……（嗚咽を漏らす）。船木は命を賭けてるんですよ。命賭けてる男に何もしてあげられないんですよ。このままだと何もしてあげられないんですよ。与える武器も与えられないんですよ。与えてあげられないんです。すいません……悔しいです」

平成12年『週刊プロレス』No.976　横浜大会時の会見

▼ヒジ・頭突き禁止についてのアピール。気持は分かるが、マスコミの前でわざわざ泣かなくても……。

「ヒクソンだって余裕なんでしょ。自分が言ってること全部通ってるから。楽に女房と来て。白馬だかどこだか知らないけど、行って余裕持ってやってる訳ですよね」

平成12年『週刊プロレス』No.976　横浜大会時の会見

▼バッシングはここまでグレードアップ。交渉人の女房ことキム夫人には特にイラだってるようで。

「ヒクソン選手に対してもね、チキンとか言ったことあるけど、彼は偉大な格闘家だったと思うし」

平成12年『週刊プロレス』No.980　vsヒクソン戦後

▼でも終わったらコレ。「今度は近藤がやります！」とか言ってたらカッコイイんだけどねぇ。

尾崎社長のキャラ立ちの歴史、それは闘いの歴史である。最初の敵はリングス前田CEO（2ちゃんねるの裁判スレッドは必見！）。対抗戦提唱にKプロデューサー事件と続き、ホーン引き抜き疑惑では遂に前田本人からの暴行（？）、終いにゃ「キ○○マのような顔」「愛人疑惑」と過剰防衛された日にゃ、さすがに悪い相手と戦ってるなぁと思わず同情。しかし、その度ごとに「ガマンを重ねております」といかにも自らが正義でございという顔でマスコミに訴えるやり方はどうか？　続く敵は400戦無敗のヒクソン・グレイシー&キム夫人。この嗚咽会見はさすがにパンクラスファンでもヒくものあったろう、発言にも被害者意識アリアリだし。選手・フロントは被害者顔、それを悲壮感好きのヤスカクが報道するというコンビネーションは見事という他ない。その感情を露わにした煽りと報道管制はプロレス界のマルコムXか、とオトそうと思ったけど『PRIDE』参戦決めたから今回は絶賛！　ビバ尾崎社長！

ハングリー精神が維持できないので お店のことはずっと伏せていました!!

斉藤彰俊が10月11日、約2年のブランクを経て帰ってきた！ 前号の『ザ・検証』でせき詩郎氏が熱いリポートを寄せているので、詳しい内容をここでは書かない。だが、以前よりも数段ハングリーな彰俊がそこにいた。今年5月に彰俊を取材したときは書けなかったが、すでにあの頃バーのマスターであった。その後、『PRIDE.10』では石澤常光のセコンドにマスクマンとして登場したこともあった。その間のハングリーな生活が彰俊に何をもたらしたのか？ 聞きたいことは山ほどある！

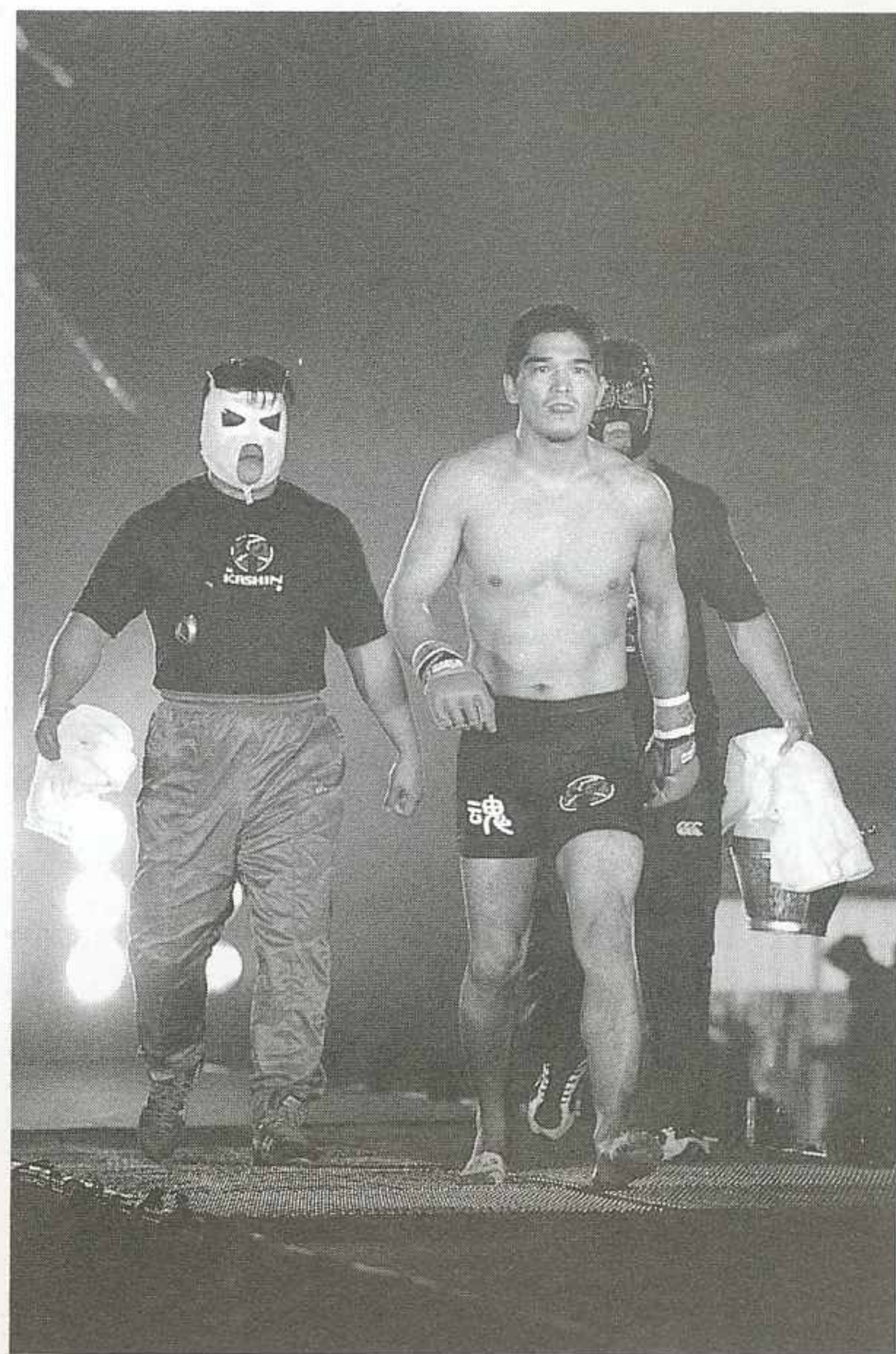
——そもそも、なぜバーをやろうと思ったんですか?

斉藤 お酒も好きでしたし、昔バーテンもやってたもんですから。まったく違うものに挑戦して、「成功させてやろうじゃないか」っていうのがあったんですよ。なんでかといったら、今までやってきたことをベースに他のことをやるっちゅうのは、どちらかと言えば楽ですよね? 例えばプロレスバーとかなら、ファンの人が来てくれるんで楽じゃないですか? それじゃやっぱり自分のハングリー精神が維持できないんです。

——ハングリー精神が維持できない!!

斉藤 だから不動産屋を回って「ここはあんまり客が来ないよ」っていう場所をわざわざ選んで。それで口コミだけでやってるんです。それは自分への挑戦ですよね。

——凄いですよね。前回の取材の時に「店のことは記事にしないでください」とおっしゃっていたので伏せておいたんですけど……お店にはすでにカシン選手も来たそうですね?

斉藤 昨日も久々に一緒に飲みに行きましたよ。顔を合わせるのも『PRIDE.10』以来だったんですけど。

——あっ、そうなんですか。昔からよく飲みに行かれてたんですか?

斉藤 ええ、よく行ってましたね。

——お姉ちゃんのいる店ですか?

斉藤 行かないですねぇ。どっちかというと、もっと硬派な感じのショットバーみたいなところです。たまに1人で行ったりして、ちょっと考え事をしていてると「今日のお客さんには、こんなお酒が合うかもしれませんね」なんて言って、マスターがさりげなくカクテルを出してくれて、つい話し込んじゃうような（笑）。

——それで彰俊さんも、そういうバーをやろうと。

斉藤 そうですね。心の荷物を下ろして、開放的になれるという雰囲気ですね。だから「ココナッツ・リゾート」って名前にしたんです。

——維震軍のサイパン合宿に参加できなかったことは、あまり関係ないとおっしゃってましたよね（笑）。

斉藤 ええ、それは（笑）。

——そういうところでカシンさんと語り合ったりしてたんですか。

斉藤 ええ、彼とも行きましたし、小原選手ともよく行きましたよ。年齢は違うんですけど、色々勉強させてもらう部分もありましたし、こっちの気持ちを分かってもらったりするときもありました。

——飲んだときは、どちらかというと悩みを語ったりするんですか?

斉藤 悩みを話すというか、お互いに腹割って話しましたね。

——そういう関係もあって、『PRIDE』でカシン選手のセコンドに付かれたんですね。

斉藤 彼と自分というのは特別な関係なものですから。特別な関係と言っても、ホモとかじゃなくて（笑）。精神的なものっていうんですかね。自分も「『PRIDE』に出る」って聞いた時に「付いてみたいなあ」っていうのもありましたし。彼は彼で「ついて欲しいなあ」っていうのもありましたんで。

——しかも相手は最狂と言われるハイアン・グレイシーでしたよね。

斉藤 ええ、「狂ったヤツだ」ということだったんで、何かあった時には「自分が盾になろう」っていう気持ちでした。

——マスクを被って出てきた時はビックリしたんですけど、あれは石沢さんの案だったんですか?

斉藤 本人は「今日はボクは（マスクを）被んないです」って言うから、「じゃあ、被るのやめようかな」って思ったんですけどね。（KEI）山宮選手が「ボク被ります！」って名乗り出まして、自分も「被ろうかな?」って（笑）。

——アハハハハ！

斉藤 一つ失敗したのはですね、自分が黒のマスクを選ぶべきだったな、と。

——白のマスクでしたよね?

斉藤 （悔しそうに）そうなんですよ！ ちょっと細く見えるようにちょっと黒っぽい格好でまとめてきたんですね。顔だけ白だったら、顔でかく見えちゃいますもん。

——なんで細く見せようとするんですか!?（笑）。

斉藤 だってみんな細いじゃないですか！

——どんな理由ですか（笑）。でも試合は残念な結果でしたよね。

斉藤 （残念そうに）そうでしたね。石沢選手はロープブレイクと勘違いした部分があるんじゃないですかね? 次やれば勝つと思いますけど。

Akitoshi Saito

Coconuts Resort

Light Bar ココナッツリゾート
名古屋市東区徳川1-17-38 〒461-0025
TEL 052-933-0899 FAX 052-933-0944
http://www.coconuts-resort.com/

彰俊自身が内装や外装も手がけた南国風リゾート・バー『ココナッツ・リゾート』。「心の荷物を降ろしに来てください」（彰俊）

——あの試合後、石沢さんは一貫してノーコメントなんですけど、控え室ではどんな感じでしたか？
斉藤　意外とサバサバしてましたよ……石沢っていう男は、強いですから。
——昨晩は石沢さんと飲まれたんですよね。『PRIDE』の話にはなりませんでしたか？
斉藤　昨日はあんまりプロレスの話とかではなく、もっと普通の話してましたね。
——そうなんですか。でも、ホントに仲良さそうですね。
斉藤　石沢選手は飲ませ上手ですね。
——斉藤さんは飲み上手なんですか？
斉藤　飲み上手で、床上手。あっ、床上手は関係ないですね（笑）。
——アハハハ！　関係ないです（笑）。
斉藤　彼もまた周りが驚くようなことをするかもしれませんよ。自分も楽しみにしてるんです。テレビの画面とかを通して見るときは、もうファンになっちゃってますよね。「どういう行動をしてくれるのかな？」って。
——試合後のコメントとかメチャクチャ面白いですもんね。せっかくベルト獲っても踏んづけてみたりとか（笑）。
斉藤　あれはいいですよねぇ！
——実際ああいう人なんですか？
斉藤　まあ、全体的にはあんな感じですよね。
——あんな感じ（笑）。凄いなあ。
斉藤　「彼の仇を取る！」と言う人もいますよね？
——山宮さんが言ってましたね。
斉藤　それはそれでその人の考えでアレなんですけど。自分はやっぱり本人がケジメをつけなきゃいけないことでしょうから、仇討ちは絶対本人に任せたいですね。
——一番けじめをつけたいのは本人でしょうからね。『PRIDE』の雰囲気に触れてみていかがでしたか？
斉藤　（即座に）いいですねえ！　ルールのある喧嘩という感じですよね。
——斉藤さんの中の「喧嘩魂」みたいなものがうずいたりしませんか？
斉藤　燃えましたね！「やってみたいな」とはまだ思わないですけど。以前のバーリ・トゥードと違って技術的なものが、もの凄く必要になってきましたよね。そういったところに、あんまり気易く出ていけるもんではないのかなあっていう部分はあります。今のところはないですけどね。ただ、嫌いではないですよ。
——まあ、いまはノアに挑戦している真っ最中ですからね。そのノアに上がったきっかけなんですが、青柳館長からのお誘いですか？
斉藤　そうですね。館長が「ノアに参戦する意志がある」みたいなことを言ってましたんで。その時は軽く「もし一緒に上がれたらいいな」っていう話だったんですよ。
——それで急遽、決定しましたよね。
斉藤　話が来てから1週間で試合でしたからね。
——でも、真面目な話、バーとプロレスの二足のワラジはかなり大変ですよね。
斉藤　これも一つの挑戦ですよね。（店も）段々2年近くになってきたもんですから、もうそろそろどっか行かないと自分の中でも。本当に試合勘も鈍ってきちゃうでしょうし。本当にしたら1年でも遅いぐらいなんでしょうけど、2年以上になると「復帰が難しくなるかな？」っていうところで、決断しました。
——お店とプロレスの折り合いって難しそうですけどね。
斉藤　でも、お店はお店でまったく別な自分がいますんで。変な話、二重人格じゃないですけど、まったく違いますよ。
——シェーカー振ってるときと……。
斉藤　ええ、旗振ってるときとは違いますね（笑）。でも、「二兎追う者は一兎も得ず」ってことわざがありますけど、「そうでもないんじゃないのかな？」って気がするんですよね（笑）。
——かぁ～、かっこいいですね、そこまで言い切ると！　以前、お話をうかがったときに、新日本を辞めた理由として「新日本の巡業の中で流されてた部分がある」とおっしゃってましたけど、その反省もあるんですか？
斉藤　ありますよね。今の立場では一回コケたらもう終わりなもんですから気が抜けませんよ。一戦一戦で自分の価値が問われていますから。
——それによって自分をまた追い込んでるわけですね。
斉藤　追い込んでますねえ。前回はそこまで話をしなかったと思うんですけど、自分が次にリングに上がる時に「なぜ新日本を辞めて、何を感じたかったのか」を表現しなきゃいけないと思っていたんです。自分の中では休んでいた期間に掴んだものの答えは（試合に）出たんじゃないかなと思います。
——残念ながらボクは直接は見に行けませんでしたけど、雑誌や行った人によると凄く良かったという話ですからね。以前よりも一層ハングリーになったように思うんですが？
斉藤　なりましたね。辞めてから、めちゃめちゃハングリーになりました。
——久々のリングで怖い部分も嬉しい部分もあったと思うんですが、気持ちの中では何が一番大きかったですか？
斉藤　一発目でコケたらもう終わりだと思ったんですよね。自分の人生、プロレス人生が。
——そ、そこまで考えてたんですか？
斉藤　ええ。でも会場に入っちゃうと、もう全然ブランクっちゅうものは感じませんでした。「とりあえず、闘いたい！」っていう気持ちだけでした。
——あとはもう闘うだけだと。
斉藤　ええ。あのときは自分がちょっとピリピリしてた感じですね。青柳館長もピリピリしてたんでしょうけど。
——写真で見ても、あの名古屋大会の雰囲気はただごとじゃなかったですもんね。
斉藤　それで一番最初、館長と井上（雅央）選手とやってるんですけど、あんまり噛み合わなかったんですよね。格闘戦の特有な展開なんでしょうけど、それを見てたら「ウワ

彰俊の復帰戦となった10・11ノア名古屋大会。鬼の形相で蹴りを叩き込む姿に観客は痺れまくった！　あの辛口・秋山準も「斉藤選手はいいですよ」と高く評価していた。

死の宣告を受けたとき自分の生き方は決まった!!

オォー！」とイライラしてきたんですよ。それでタッチをもらったときに、いままで溜まってたものが爆発しましたね（しみじみ）。

──試合自体もケンカみたいでしたよね。

斉藤　あの試合後、丸藤（正道）選手のコメントで「空手家だからプロレスが出来ないだろう」とか「喧嘩なら勝ってやるよ！」とか言ってましたよね!?　あのセリフを試合前に聞いてたらあんなもんじゃ済まなかったですよ。自分は火がついちゃうと止まらないんで。

──今でも凄いテンションですけどね。ますます怖くなって帰ってきましたね。

斉藤　怖くなったというか、自分はもう捨てるものがないんです。前も話しましたけども「死神が好き」というのもありますし（笑）。もうあんまり怖いもんはないですよね。

──そういえば『ファイト』で読んで衝撃を受けたんですけど、じつは一度、死を宣告されてたんですよね。

斉藤　そうなんですよ！　血液検査をしたら、なんかいろんな数値がおかしかったんですよ。医者も「あまり長くはないだろう」って言うし。

──いきなりですか!?

斉藤　そのときは本当に考えましたよね。「どうしよう?」って。そういうときにやっぱり自分のやりたいことをやって、死ぬ時に「まあ、まんざらでもなかったな」と思えればそれでいいんじゃないかって思ったんです。そうすると自然と時間の使い方とかやることって決まってくるじゃないですか？　そっからすぐに（ドン・）フライ戦だったもんですから……もうね。

──新日時代、最後の大一番ですよね。

斉藤　そうです。だから自分にとってあの試合は特別なものでした。その後にちゃんとした病院で、精密検査を受けたら全然なんともなかったんですけど（笑）。看護婦さんが血を取る時に動かしたか、血液の瓶を振っちゃったかなんかで、数値がおかしくなったらしいんですよね（笑）。

──アハハハ、ひどい話ですね（笑）。

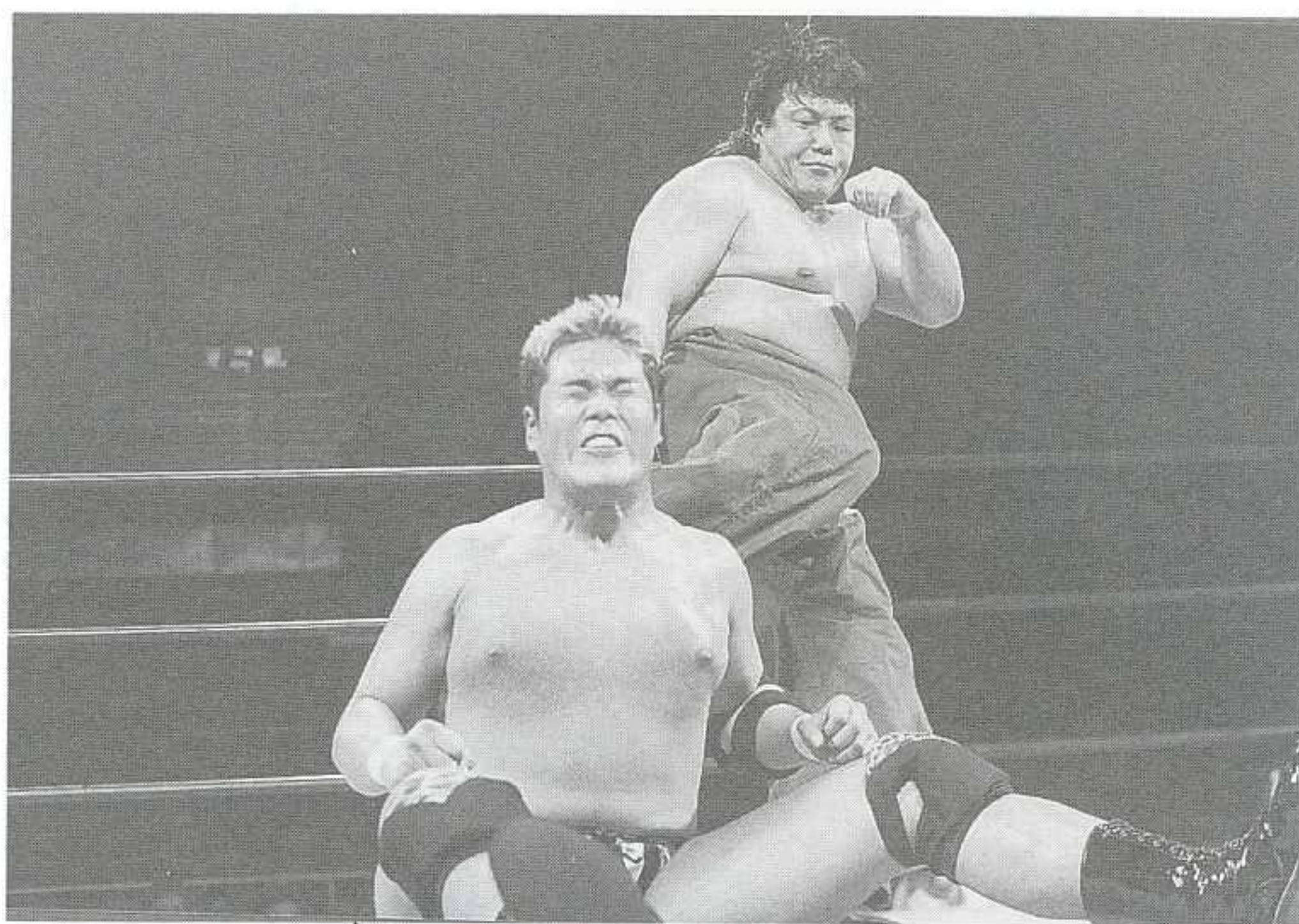
斉藤　でも、そのときの気持ちがあるもんですから、いまだに自分の目標は変わってないですよね。まあ、いい経験です。

──では現時点での目標はありますか?

斉藤　まだノア全体が見えてないんですよ、自分の中で。初めから「この人と闘いたい！」という気持ちで上がったんじゃなかったので。だからむしろ全員と当たっていくのがノア全体を感じ取るには一番いいんじゃないのかなと。多分やってくうちに「こいつは許せない！」とかそういうのが出てくるでしょうから。

──今まで闘った中でそういう人はいましたか?

斉藤　「いいなあ」っていう選手はいるんですけど、そこで自分がそこで何回もやってっていう時間はないもんですから。現状でそのまま満足してしまったら、そこで止まっちゃうと思うんですよ。

──なるほど。ノアでの彰俊さんは、館長と共闘してますけど、目標は同じなんですか?

さいとう・あきとし■昭和40年8月8日、愛知県名古屋市出身。高校時代、水泳で大活躍して日本代表クラスの実力を誇る。誠心会館で空手を学び、W★INGに参戦。村浩一郎、徳田光輝とともに格闘三兄弟と呼ばれる。その後、青柳館長とともに新日に乗り込み、小林邦昭や小原道由らとの看板を懸けた抗争を経て反選手会同盟を結成。平成維震軍に改名後も斬り込み隊長&旗振り役として大暴れをするが、昨年1月に自主的に退団。バー『ココナッツ・リゾート』のカウンターに立ちつつリングにも上がる。現在はノアにスポット参戦中。178センチ、108キロ。

斉藤彰俊

斉藤　個人個人の個性を大切にしていきたいな、とは思いますね。でも、変な溝はないですよ。何年か別れててブランクもありましたけどね。

──お互いを尊敬しつつ。

斉藤　いま闘ってる相手は一緒なんですけど、やっぱりそれぞれリングに上がった理由も、目指してるものは、多少違うと思うんですよね。それはどんな軍団でもそうだと思うんですけど。

──わかりました（笑）。それにしても、復帰前に名古屋でお会いした時（今年5月）より格段に表情とか明るくなりましたよね。

斉藤　あの時はどうしても隠してた部分があるんですよ、自分の中で。「今こうなんです」って表現する時は「一番最初にリングに上がる時だ」って心に決めてたものですから。本当は言いたくてウズウズしてた部分もあるんですけど。

──言わなかったから逆に復帰のリングで爆発したんでしょうね。

斉藤　ええ、多分そうだと思うんですよね。溜め込んで溜め込んで。これからの闘いを見ていただいたら、「やめたわけじゃないぞ」「生涯ファイターだ！」という自分の気持ちがわかってもらえるかなと思います。

──前回のインタビューでは「維震魂は生き残ってます」とおっしゃってましたが、今でもそれは変わりませんか?

斉藤　そうですね、永遠に残っていくものだと思いますし、それを伝えていきたいですね。これからも「維震伝心」ですよ！

【11月16日、東京・グリーンホテルにて収録】

彰俊の維震魂と死神と8ボールの話は次のページのせき詩郎氏のコラムを読め!!

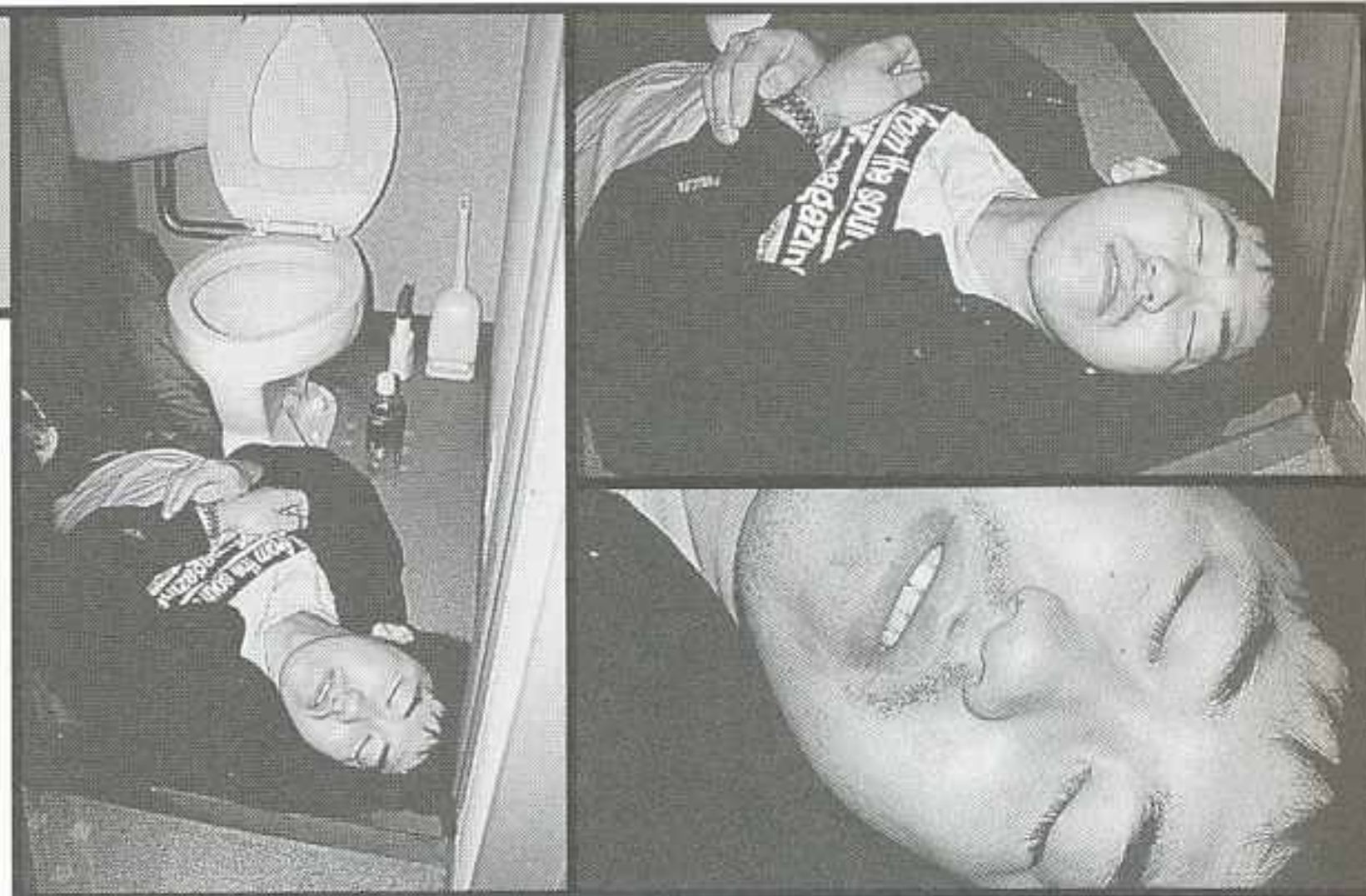
忘年会シーズン到来!!

酒の飲みすぎと『紙プロ』の読みすぎに注意しましょう!!

アルコール以上に中毒性があるといわれる『紙プロ本誌』の熱心な読者だった堀江さん（仮）は「ヤマヨシをクビにしろ～」とトイレで絶叫して気絶しました。

ドランカー症例→
堀江ガンツさん（仮名）

中毒確実 紙のプロレス

本誌バックナンバーのお知らせです

第5号
特集 たたかいグランプリ

特別寄稿鈴木邦男、杉作J太郎、竹本幹男／ロングインタビュー馳浩／デビル雅美vs氏神一番／脅威の連載陣！　高田文夫、ナンシー関、浅草キッド

第8号
特集 さらば新日本プロレス

ワイド座談会／初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー／セメントインタビュー関根勤／恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た

第11号
特集 狂気とは何か?

怒涛の6人インタビュー堀辺正史、T・J・シン、西村知美、佐野量子、ガッツ石松、糸井重里／プチ特集「『週刊プロレス』とは何か?」初代編集長独占手記

第12号
特集 色気とは何か?

村松友　が前田日明を語る!／「前田日明が某格闘技雑誌編集長を女子便所説教」事件勃発記念座談会／蝶野正洋も登場!／色気王A・猪木も登場

第13号
特集 道場破りとは何か?

安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画　山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー／サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」デルフィン登場

第14号
特集 神秘とは何か?

佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る!／遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行!

第15号
特集 インディペンデントの逆襲

インディーレスラー10人斬り+大物インディー3人　高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二／巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー

第16号
特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的昭和新日総力検証
マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー／ユセフ・トルコvs由利徹対談

第17号
特集 実況パワフル北朝鮮

猪木×永島のナマハゲ対談（© 大仁田）、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!?　ブル中野、破壊王も登場／巻末特集「藤原組の逆襲」

第18号
特集 高田延彦さんへ愛をこめて

引退宣言の読み方座談会／サブ特集「すてきな奥さん」大山倍達、サスケ、ライガー、石川雄規の嫁が登場!／新間寿恒ヒザ蹴り事件勃発!

第19号
特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!／サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー

第20号
特集 たたかいグランプリ

真樹日佐夫、角田信朗、大槻ケンヂ、村松友視の四大インタビュー／山口昇と東京シュガーベイブ結成記念　ユセフ・トルコ、上田馬之助、遠藤幸吉が登場

第21号
特集 幻的格闘技

古武道を通じてプロレスを考えよう!　前田日明も登場!　スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!／高田文夫、ユセフ・トルコが登場

第22号
特集 この人が喝っ!!

巻頭インタビュー・ジョージ高野／プロレス雑誌を斬る!!／高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー／M・マスカラス宣言号

猪木とは何か?

スキャンダル　　ていた時期の猪木を直撃!　どうって　　よ!／村松友視、立川談志、告発仕掛人・　　が登場!　　DPKO発言を誌上再録

完　完

パンクラス公式読本［矛］

97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!／なぜか突然、佐山聡が登場!／故・長谷川悟史選手のロングインタビューも掲載

パンクラス公式読本［盾］

97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!偶然か、必然か?／故・ジャイアント馬場がパンクラスを語った衝撃のインタビューも掲載!!

極真とは何か?

不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!／松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリョ、黒澤、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー

紙の前田日明

インタビューという名のエネルギー史

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューを再構成してディレクターズ・カットで再録!／引退直前の覚悟のインタビューも新規収録!／完全保存版

伝説に触れたい人のための申込み方法

●現在は1号～4号、6号、7号、9号、10号、『大山倍達とは何か?』『猪木とは何か?　キラー編』は完売しました。ノーダウト!!　●定価は『紙のプロレス』5、8号は700円、11号～22号は780円となります。　●『猪木とは何か?』は1320円、『極真とは何か?』は1530円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円、『紙の前田日明』は送料込みで、サービス価格の2000円となります。　●送料は1冊＝310円、2冊＝340円、3冊～4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上＝700円となります。　●9号、10号、『猪木とは何か?』、『大山倍達とは何か?』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです。頑張りましょう。

【現金書留送り先】
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス「バックナンバー通販」まで

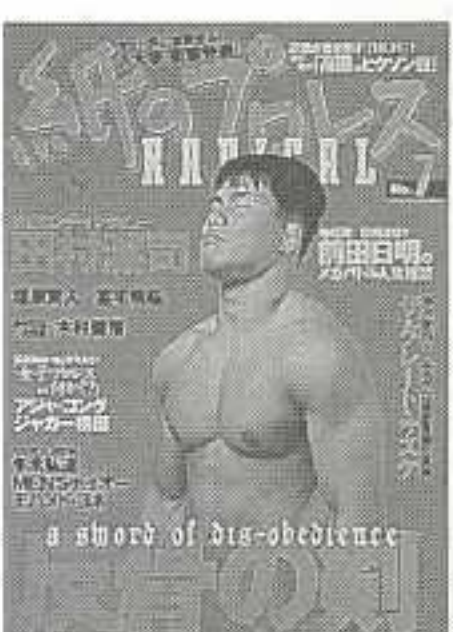
【郵便振替振込先】
00130-3-769154　（株）ダブルクロス
※どちらの方法にしても、必ず希望の号数を明記してください。
※必ず本誌かRADICALかを明記してください。

紙のプロレスRADICAL Back Number Information

No.32

★新プロレスvs純プロレス開戦！

激語りインタビュー**小川直也**／**高田延彦**ノブ兄さんの青空プロレス道場／グレイシー狩りは一時休憩!?**桜庭和志**／禁断の「生アキラ」降臨！**前田日明**／**ラッシャー木村**闘将静かに吠える／**金原弘光&滑川康仁**／**藤波語録**／**ヤマケン**／**パンクラス**がおもしろいってホントですか？

No.5★すべてはここから始まった!

No.7★特集「反骨の剣」

No.9★「闘魂連鎖！無礼講大特集!!」

No.10★特集「灼熱の地殻変動'98」

No.11★特集「格闘Viagra '98」

No.12★特集「格闘TEPODON!! '98」

No.13★四角いジャングルRADICAL

No.14★特集「格闘DREAM CAST」

No.15★格闘MARS ATTACKS!

No.16★「格闘ノストラダムス'99」

No.17★「格闘MAKE JUNGLE」

No.18★「格闘STAR WARS」

No.19★いま一度高田延彦を注視せよ!

No.20★人間UFO吠えまくる!

No.21★恐怖のプロレス大魔王降臨!

No.22★サク、グレイシーに完勝この上なし!

No.23★笑いながら歩こうぜ!

No.24★頭、打ちすぎたかアレク!!

No.25★格闘ロマン、続行ーッ!!

No.26★プロレスを頼むゾーッ!! サク!!

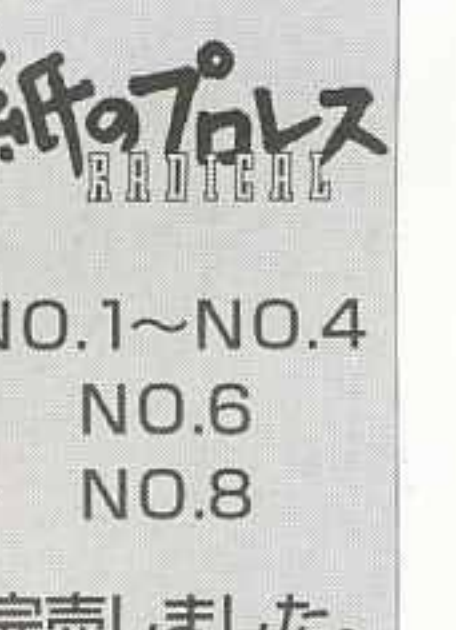
No.27★「新プロレス」は連鎖する!

No.28★「格闘リンク」続行ーーッ!!

No.29★「格闘環境」は刻一刻と激化する!

No.30★燃えよ! 闘魂の火種!!

No.31★「ストロング・スタイル」は『PRIDE.』にあり!!

紙のプロレスRADICAL

NO.1～NO.4
NO.6
NO.8

完売しました。

★No.5高田延彦／ドン荒川vs藤原喜明／前田日明の『人生は語らず』／佐山聡／長井満也／柳澤龍志／ディック東郷／愚乱・浪花／ザ・グレート・サスケ／長与千種／ライオネス飛鳥／ビクター・クルーガー　**★No.7**田村潔司ロングインタビュー／黒いパンツの心意気木村健悟／ザ・グレート・サスケ／…ああ、好評すぎて恐い前田日明の「人生は語らず」／冨宅飛駈／垣原賢人／モハメドヨネ／冬木弘道／テリー・ファンク　**★No.9**前田日明／ザ・グレート・サスケ／高田文夫／春一番／ターザン山本／石川雄規／ 高阪剛／日プロOB吉村道明&ユセフトルコ&遠藤幸吉&駿河海／『格闘家からみたプロレス!』朝日昇／谷津嘉章／佐野友飛　**★No.10**前田日明vsエンセン井上／高田延彦／　谷津嘉章インタビュー第2弾!／ザ・グレート・サスケVS松永高司／　ターザン山本プロレスマスコミ批評!!／『紙プロスーパースター列伝』北沢幹之／冬木弘道　**★No.11**高田延彦vsエンセン井上／前田日明／ターザン山本／佐山聡／スーパー宇宙パワー（木村浩一郎）／もう見れない福田雅一／ザ・グレート・カブキ／ダンプ松本／石川雄規／『S多重アリバイ』アポロ菅原　**★No.12**高田延彦／浅草キッド／アポロ菅原／桜庭和志／アレクサンダー大塚／山本喧一／神取&北尾／八木淳子／ダンプ松本／猪木イズム世界一決定戦石川雄規&サスケ／前田日明／　菊田早苗&郷野聡寛　**★No.13**アレクサンダー大塚／高田延彦　／前田日明・エンセン井上が語る『高田VSヒクソン戦』!／谷津嘉章／『S多重アリバイ』ケンドー・ナガサキ／ボブ・バックランド／松永光弘／堀辺正史　**★No.14**前田日明／これがカレリンの発した言葉だ!!　／山本美憂・聖子／金原弘光／谷津嘉章／『高田道場1999!』／『S多重トンパチ』折原昌夫　／小路晃／4代目タイガーマスク／村上一成／宇野薫　**★No.15**小川直也橋本戦の核心を語る／佐山聡／前田日明／カレリン／浅草キッド／アニマル浜口親子／ジャイアント馬場追悼特集／『語ろうマサ・サイトー!』／『S多重アリバイ』佐野なおき&Mr.W　**★No.16**エンセン井上／田村潔司／坂田亘／高阪剛／山本喧一／村上一成／石川雄規／猪木ロングインタビュー／前田日明／『語ろうジャンボ鶴田』／『S多重アリバイ』石川孝志　**★No.17**小川直也／桜庭和志／高田延彦／アントニオ猪木／豊永稔／マグナムTOKYO／宮戸優光／新生リングスBone&Blood／R・クートゥアー／タイガー戸口／T・山本　**★No.18**VIVA桜庭和志／小川直也／高田延彦／エンセン井上／イーゲン井上／小路晃&宇野薫／『S多重アリバイ』将軍KYワカマツ／外人さんいらっしゃーい／『闘魂猪木塾とは何か?』　**★No.19**小川直也／前田日明CEO／『紙プロスーパースター列伝』ドン荒川／　佐山聡／エンセン井上／成瀬昌由／宇野薫／アレクサンダー大塚／上田馬之助／『世界のプロレス』に初潜入!!　**★No.20**小川直也／前田日明／アレク／佐山聡とは何か?／『語ろう藤波辰爾』／『S多重アリバイ』ドン荒川／／高阪剛／山本宜久／成瀬昌由／小路晃&宇野薫／ティト・オーティズ　**★No.21**小川直也／初登場!大仁田厚／前田日明／『S多重アリバイ』鶴見五郎／アイブル／サク／エンセン／山本喧一／モハメドヨネ／CIMA／田中健一／G・サスケ死す!?　**★No.22**桜庭和志／前田テロ事件サプライズ座談会／ヤマケン?…俺は逃げる!田村潔司／田村潔司! 俺は逃がさない!山本喧一／大刀光／馳浩／小川直也／ゴールドバーグ／木村浩一郎　**★No.23**高田延彦／超異次元対談大仁田厚VSエンセン井上／ヒクソン・グレイシー／W・ウィリアムス／ジャイアント馬場1周忌追悼座談会／G・サスケ／前田日明／ H・グレイシー／木口宣昭　**★No.24**アレク／サク／田村潔司／VTの見方教えます!堀辺正史／『柔道多重アリバイ』守山竜介／語ろう船木VSヒクソン／WWF大特集／サスケ×矢追純一UFO対談　**★No.25**『思考する野獣』ラジカル初登場ーッ!!　藤田和之／ヘンゾ討伐!田村潔司／前田日明／小川直也／村上一成／石川雄規vs小路晃／ミスター高橋の新日本セキュリティ　**★No.26**やっちゃってくれ!　サク!／　本誌独占!金無垢のロレックス贈呈式!!前田日明&田村潔司／小川直也／遂に復活!クラッシュ2000／大仁田厚／TAKAみちのく　**★No.27**桜庭和志witサクラバマスク／藤田和之／田村潔司／大仁田厚vs馳浩／佐山聡vs田中健一／金原弘光／M・スペーヒー&R・アローナ&R・ババル／グレイシー一族のその後　**★No.28**小川直也　／前田日明尾崎社長を暴行?or説教?／田村潔司／故・ジャンボ鶴田夫人真実を独白／H・グレイシー／TKおかん／『紙プロスーパースター列伝』山崎一夫&仲野信市　**★No.29**秋山準／三沢光晴／ノア勢フル登場／サク／村上一成／小川直也／山本喧一／TKおかん／『紙プロスーパースター列伝』仲野信市後半／里村明衣子／I元編集長／大仁田厚　**★No.30**村上一成／小川直也／石沢常光／エンセン&ユセフ・トルコ／秋山準／『紙プロスーパースター列伝』永源遥／リングスハワイ大会／「長州vs大仁田戦」をブッタ斬り!　**★No.31**咆吼三昧、小川直也　／サク&TK／リングス・ジャパン批判田村潔司／堀辺正史の活字KOK超濃密講座／谷津嘉章／川田語録／『紙プロスーパースター列伝』永源遥／永久保存版! 昭和の凄み炸裂!!ユセフ・トルコ

No.10 → **在庫残り僅か !!!**

【バックナンバー申し込み方法】

●お申し込み方法は現金書留と郵便振替の2種類があります（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）

●現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封し、〒151−0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス『バックナンバー通販』係まで送って下さい。

●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、00130-3-769154（株）ダブルクロスまで。代金はNO.5～NO.10=680円　NO.11～NO.19=780円　NO.20=880円　NO.21=840円　NO.22～NO.23=880円　NO.24～NO.32=840円　送料1冊=310円　2冊=340円　3冊～4冊=450円　5冊=520円　6冊以上=700円　※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備のえらい店

・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・横浜"AO"CORNER・下北沢バンバンビガロ・ワールドスポーツプラザKINGS（池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店）

★★★プロレス＆格闘技専門ビデオショップ★★★

チャンピオン
Champion

【広告のページです】

格闘技の聖地・水道橋の駅から徒歩30秒!
初心者からマニアまで
何時何時臨戦態勢で応対中!

どんなお客が来ようとも
親切応対致します!

プロレスファンなら誰でもウエルカムな姿勢で毎日絶賛営業中のチャンピオン。上半身は裸（胸毛濃いめ）、顔には謎の覆面、こんなお客さんでも入店歓迎です。

裸でいるのが辛かったのか、胸毛が恥ずかしかったのか、親日のライオンマークTシャツの新色（黒／スカイブルー　￥2500）を持ち逃げしようとする謎のマスクマン。

突如、謎のマスクマンが武力行使！　濃いめの胸毛を誇る謎のマスクマンから繰り出されたなんとも正直すぎる猫パンチの攻撃を真っ向から受け止める水道橋のカリスマ店長。

謎のマスクマンのあまりにもプロレス道にもとる行為に、普段は親切丁寧な接客を心がける店長（通称ダンチョー）がついに切れた！　すでに謎のマスクマンはＫＯ寸前。

水道橋のカリスマ店長（通称ダンチョー）
週刊ファイト（11／23号）紙上でも、プロレスファンの守るべきルールを激白してくれたプロレスファンの良心的存在。プロレスに関する悩みにもどしどし対応中！　希望者に限り、得意技のアルゼンチンバックブリーカーのサービスも提供中！

親切丁寧をモットーとする店長だけに、絶賛発売中の『PRIDE.10』のビデオ（￥9500）で鉄拳制裁！　後ろの棚では昨年のＫＯＫのビデオ（３本組）が大人気レンタル中！

無惨にも失神ＫＯとなった謎のマスクマンに対して、何事にも親切丁寧すぎる店長が、新発売の谷津嘉章の荒武者Ｔシャツ（ＦＩＬＡ製　￥3990）をそっと掛けるイキなはからい。

★人気商品＆ニューグッズが随時入荷!!★

ケンドー・カシンフィギュアが遂に登場！　オリジナルのベルトにアタッシュケース、マスクが３種類ついたお買い得商品だ！（￥2000）

シンプルなロゴマークがかっこいいパンクラスのロングスリーブＴシャツ（￥4725）とパーカー（￥7140）が新発売！　どうしても気になってしまう団体なだけに、早く次の大会が見たいと思う人は速攻ゲットだ！　パンクラスファン以外の人が見てもかっこいいでしょ？　これを着て、明日また生きるぞ！

ＧＩジョーのボディを使用したインスパイアのフィギュア陣は超こだわりの一品だ！（サスケ、エンセン￥12600　猪木￥10290　アレク￥10500）

全試合ノーカット収録の内容もさることながら、おまけ映像までついて￥4800の低価格！　売り切れ必至の『ＰＲＩＤＥ.10』ＤＶＤ。

11/15 BJジャックスがチャンピオンに来襲!!

桜庭和志ニューTシャツ、アリストトリストの新作Tシャツもガンガン入荷中！

大日本プロレスの山川＆本間選手が、チャンピオンでサイン会を開催！　２人が持っているＴシャツももちろん絶賛発売中！（妻逃がしＴシャツ、大日魂Ｔシャツ￥2500）　大日魂全開のビデオ（ＢＪＷ対ＣＺＷ、ＣＺＷ対ＢＪＷ　各￥6500）も見とけ！　ファイヤーマッチがたっぷり見れるぞ!

店がどんなに遠くても、笑いながら歩こうぜ！ いつ何時、誰の注文でも受ける通販方法!

＜グッズ通信販売＞

チャンピオンには、ビデオを中心に、雑誌の最新号＆バックナンバー、単行本、Tシャツ、フィギュア、テレカ、トレーディング・カード、マスク、選手のコスチュームなどなど、古今東西のありとあらゆるプロレスグッズが揃ってます!!　もちろん『紙プロ』のバックナンバーもズラリとあります。さらに限定販売中の『紙プロ』Tシャツも、ここなら買える！　プロレスファンよ、いますぐ来い！

通販を希望される方は住所・氏名・電話番号を明記の上、1電話・2ハガキ・3FAXいずれかの方法にてご注文ください。代金引換になりますので、代金＋送料をお支払いください。入金確認後、商品を発送いたします。在庫がないものもありますので、TELにて確認の上お申し込みください。

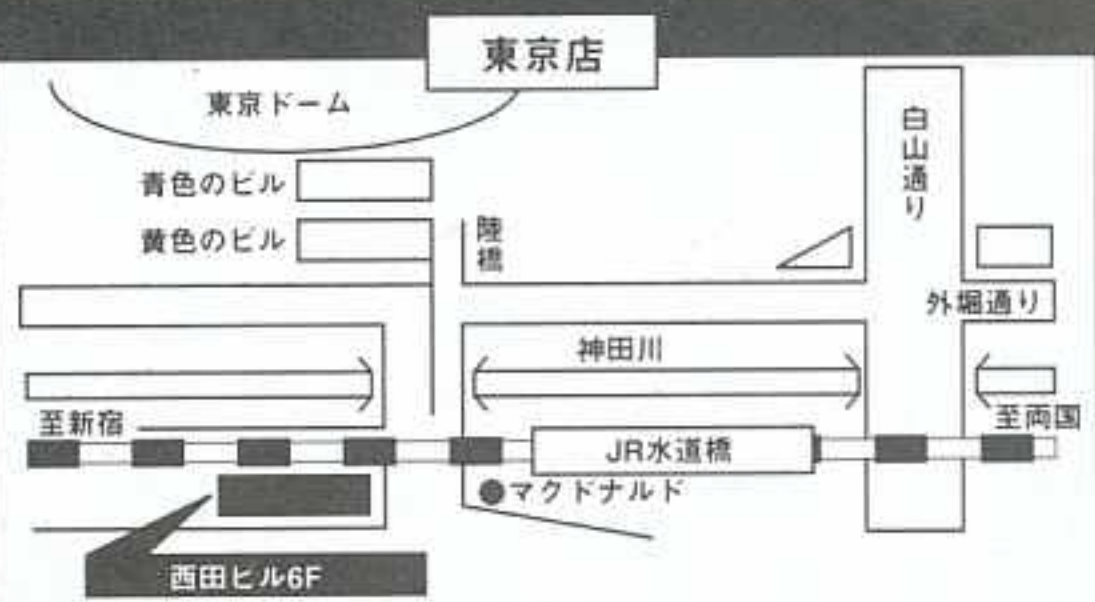
＜ビデオのレンタル方法＞

地方からも利用可能なチャンピオン独自の便利なビデオ・レンタルシステムの妙技を味わいやがれ!!　レンタル方法は以下の3通り！　どう借りるかは、あなたの都合に合わせてくれ！

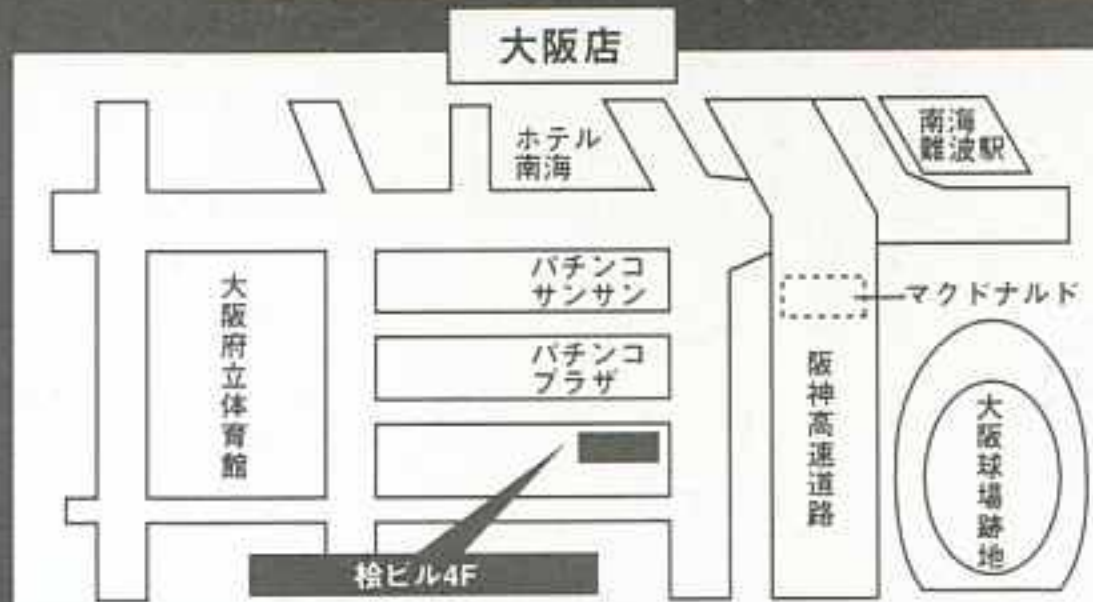
1. 店頭にてレンタル、店頭へのご返却
2. 店頭にてレンタル、宅配便でのご返送
3. TEL・FAXにてご注文、往復宅配便レンタル

いずれかの方法で注文をお願いします！　東日本地区に住んでいる方は東京店で構いませんが、西日本地区の方は大阪店を利用してください。また、通信レンタル会員を希望される方は、400円切手を同封の上、住所、氏名、電話番号を必ず記入してChampionまで郵送してください。

Champion東京店

東京店
東京ドーム
青色のビル
黄色のビル
白山通り
陸橋
外堀通り
神田川
至新宿
JR水道橋
至両国
マクドナルド
西田ビル6F

〒101-0061
東京都千代田区三崎町3-8-1西田ビル6F
TEL.03-3221-6237　FAX.03-3221-6267
営業時間　11:00～22:20（年中無休）

Champion大阪店

大阪店
ホテル南海
南海難波駅
パチンコサンサン
パチンコプラザ
マクドナルド
大阪府立体育館
阪神高速道路
大阪球場跡地
桧ビル4F

〒556-0011
大阪市浪速区難波中3-3-23桧ビル4F
TEL.06-6645-5186　FAX.06-6645-5187
営業時間　11:00～22:00（年中無休）

オフィシャルビデオランキング

みなさん、チャンピオンの本業がビデオ・レンタルだということを忘れてませんか？　一応、念のために最新の人気ビデオランキングを発表しま～す。

1位　FMW『STORY OF THE F』（東芝EMI）
2位　FMW『BACK DRAFT』（東芝EMI）
3位　アルシオン『STARLET2000』（クエスト）
4位　WWF『レッスルマニア』（WWF HOME VIDEO）
5位　掣圏道『掣圏道vsPRIDE』（メディアファクトリー）

※チャンピオンでは、これからも続々と店頭イベントっを行うつもりなのでお楽しみに！　また団体関係者からのイベント開催のご要望もお待ちしております。

Championホームページアドレス：http://www.champion-j.com

比人

巨匠入魂第25回 真樹日佐夫

illustration▶ 中川雅博

前回までのあらすじ

天性の格闘技センスを持つ男、万無比人。その素質をいち早く見抜きプロレスラーに仕立て上げたのがプロレス専門誌発行人の千堂であった。プロレスでは連勝街道を突き進み、異種格闘技戦でも、ある程度の成果を収めた無比人は標的をヒクソン・グレイシーに定めた。交渉は難航したものの、道場での非公開試合という形でヒクソンと運命の対峙を果たし、そこで無比人は互角の闘いを繰り広げたのだった。

次に無比人が姿を現したのはマジソンスクエアガーデンのリング。WBC・IBF統一ヘビー級王座を防衛したレノックス・ルイスが勝ち名乗りをあげているところに乱入した無比人は、リング上で王者に対し強烈な正拳突きを叩き込んだ。この無比人の突飛な行動は、最前列で観戦しているマイク・タイソンに対してのアピールであった。数ヵ月後、紆余曲折の末、タイソン対無比人戦が正式に発表されると、無比人はタイソン対策としてボディプラント、そして巻道場で地獄の特訓を重ね、ゴングの時を待った。

中盤まで淡々と進んだタイソン対無比人戦、波瀾は7Rに訪れた。無比人の喉輪とタイソンの肘打ちが交差し両者共にダウン、互いに立ち上がることができずダブル・ノックアウトという結果に終わった。

（53）

うおーっ、と地鳴りにも似たどよめきが満場を揺るがした。

関係者席の一隅を占める若い男のアナウンサーが、手許のマイクロホンを通じて、

「さて、それでは軽量級、重量級といずれも決勝戦を迎えます前に本大会に花を添える意味で、これより特別試合を行います。赤、ニュー東都プロレスリング所属、万無比人選手。白、世界ボクシング評議会即ちWBC並びに国際ボクシング連盟即ちIBFヘビー級王者、レノックス・ルイス選手」

と報じたその瞬間である。男性アナは、さらにこう続けたのだ。

「プロレス対プロボクシングの異種格闘技戦でありまして、三分二ラウンドのエキジビションながら何でもありのノールール、ノーロープでもある関係で例外的に審判もなし、ノーレフェリーということで両選手合意している旨をお断りして置きます」

館内の興奮はいや増すばかり。というのは、このカードに関しては大会パンフレットのどこを探しても記載がなく、一切の格闘技マスコミにも伏せられたままきていた。それだけに意外性もひとしおであったのだろう。

二十一世紀の訪れまで丁度百日という九月二十四日。仙台市、平塚市とともに日本三大七夕祭の地として知られ、またデンマークはコペンハーゲンと姉妹都市の関係を結んでもいる愛知県安城市、安城市体育館アリーナでは巻道場の主催による初の全日本空手道選手権が午前十時よりスタートし、残るは軽中と重量級の決勝戦二試合のみ。

巻久生の巻道場は結成以来二十年、節目のこの年を記念し全国大会開催を決めたのであるが、安城市に白羽の矢が立てられたのは隣接する豊田市に同愛知県支部を有し、東京辺りの比ではない東海の若人らの空手に懸ける意気やよしと、そこのところを巻が評価したせいにほかならない。

原点回帰を、アマチュアらしさをとの巻の宗旨に賛同する全国二十からの流派会派が有力選手を送り込み、大方の予想では巻道場が一門の砦を死守するのは至難の技かとのことだったが、いざ蓋を開けてみれば四十に手が届こうかという古参、支部長クラスが豊富なキャリアに物を言わせて他派の若い選手を圧倒し、軽中では決勝戦を戦う二人とも、そして重量級でも一人がしっかり勝ち上がるという快挙に次ぐ快挙。

それかあらぬか、関係者席の中心をなす巻の表情は、特別試合を前にして常にも増して穏やかで、ゆったりとして、至福をしみじみ噛みしめているようにも見受けられた。

アリーナの床よりも五十センチほど高くしつらえた方形の試合台へ、赤いリボンを腰に巻いたタイツ姿の無比人が先に上がった。いつものように上半身裸でタイツは黒。跣であった。

続いてトランクスにリングシューズ、十六オンスのグローブを着けたルイスが登場。こちらはリボンは巻いておらず、赤に非ずば白ということであろうか。

両雄が中央で見合ううち、試合台下に置かれた太鼓が打ち鳴らされた。空手の大会でもあり、開始の合図を同じゅうしたものと思われた。

氷見子は、試合台を隔てて関係者席を正面に見る招待者席の最前列に千堂と真澄と、この二匹の奴隷を両隣に侍らせて観戦していた。もう一匹のマゾ豚、絹子も連れ無比人ともども前夜のうちに安城入りしたのだが、これはホテルの部屋のフロアに亀甲縛りにロープを掛け、放置プレーということで留守番を言い付け転がしてあった。

ルイスがファイティングポーズをかためてフットワークを用い、そして無比人は例によって両手ぶらりのスタイルで互いに相手の左へと回りだす。客席の熱気と期待感

虚構と現実が交錯する
壮大な格闘ロマン

本格格闘プロレス小説

無比

無比人が斜め後方から身を寄せて行き、ルイスの肩を叩いた

とがピークに達するなか、氷見子は、無比人より頭半分大きいルイスの動きを注視していた。タイソンと較べてシャープさ、軽やかさの点で一枚上手であることは素人眼にもなんとなくわかった。

褐色のその横顔をアンディ・フグの告別式当日、会場である寺の山門近くに見出したときのことが改めて想起された。

マスコミの取材攻勢から無比人がようやく解放され、氷見子としてもほっとするうち、三時になり出棺されることがアナウンスされた。見送るべく、三人して山門の方へ取って返した。

——ねえ、あそこにいる黒人。

最初に目をとめたのは氷見子だった。

——レノックス・ルイスにとてもよく似ているけれど。

まさかとは思いつつ、さらに山門寄りの人群れを指し示した。無比人と千堂も視線をめぐらした。

——ルイスだぜ。いや驚いた。

——本人だ。俄かには信じ難いが……。

と、おっつかっつに二人。

彼らは知る由もなかったが、ルイスはお忍びで東京に滞在中で、旧知のフグの訃報を聞き馳せ付けたのだ。山門の際に硬い表情で佇んでいたのだが、つと背を向けると大股に境内へ入って行った。人波に呑まれて見えなくなった。

——他人の空似かと思ったら、意外や意外。ニュースを聞いてイギリスから飛んできたのかしら。

——いや、それだけの時間の余裕はないんじゃないかな。

——ヘビー級の世界王者とK—1王者の接点は、さてどこに。何か部長の耳に入ってないかい?

——いいや、そういった話は全然。

突如、境内の奥がざわついた。人の動きが遽しくなった。山門のこちら側にいた腕章を着けた者たちも、おっとり刀で我先に駆け込んで行く。

——雲行きが変だわ。

——よし。行ってみよ。

氷見子と無比人は顔を見合い、前後して身を翻した。釣られた格好で、千堂も右へ倣えした。

境内の人垣を縫って進むと、フグの所縁の十人ばかりが支えた棺の行く手を遮るかのように、ルイスが両手を広げて立っているのが見えた。その周りには正道会館とK—1の関係者とおぼしい若者らが群がって、一触即発の危機を孕んでいるようにも感じられた。

——彼とは会った回数こそ少ないが、心を許し合った又とない友達同士だったんだ。

訴えかけるようにルイスが言っているが、キングズ・イングリッシュであるせいか、棺を支える者たちにもほかにも通じていないようなのだ。

——別れの式に参列するだけでは、それだけではどうにも心が充たされない。ただ折角日本に居合わせたことでもあるし、どうか彼のその棺に手を藉す役を私にも割り振って欲しい。

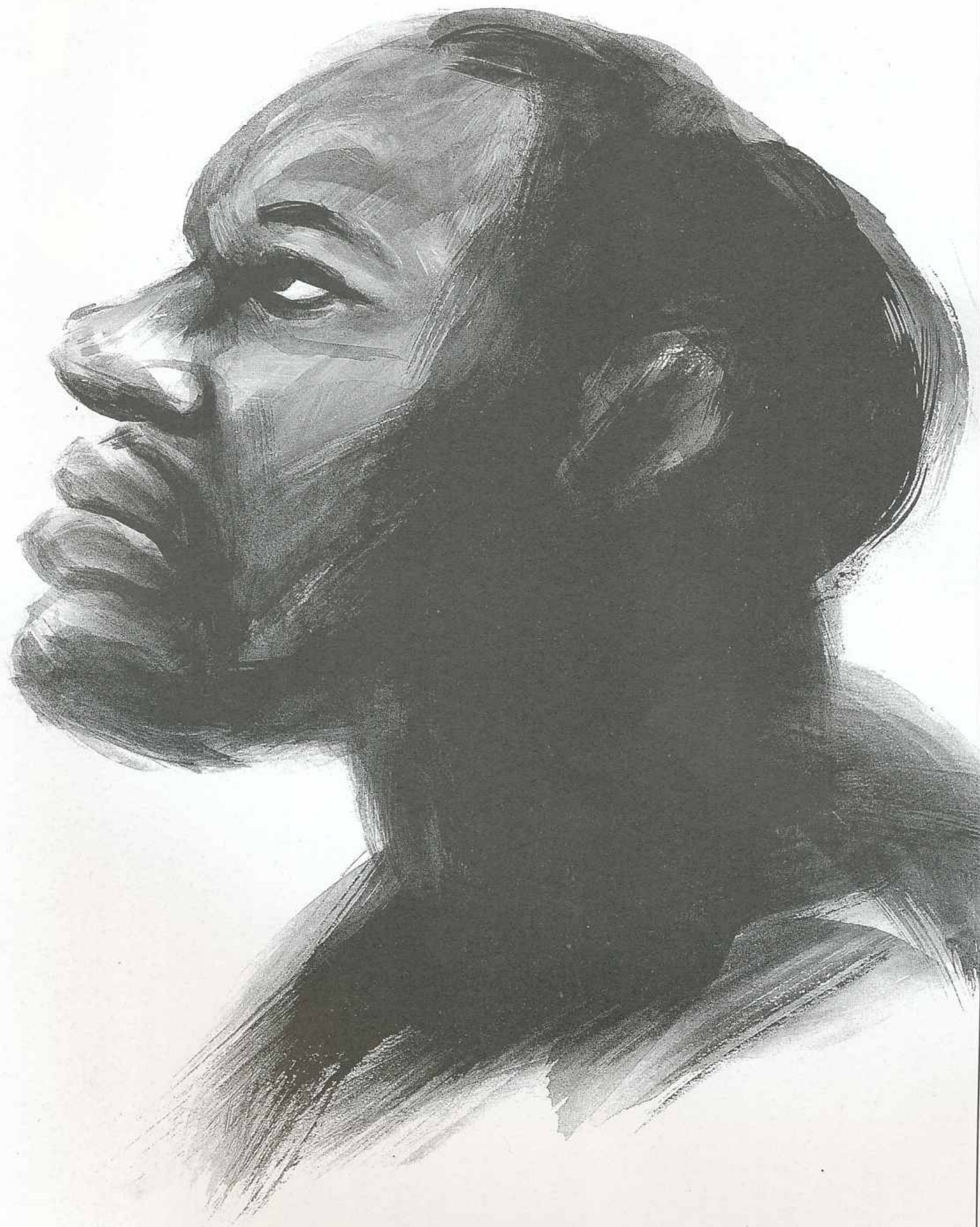
気が急く余りか名を名乗ることも失念してしまっているらしく、だとしたら軋轢が生じるのも無理はないか、と見ていて氷見子にも状況がストレートに把握できた。マジソンスクエアガーデンのリングで実物に接しているから、ルイスだとすぐにわかったが、余程のボクシング通でない限り写真などでは知っていたとしても、いきなり目の前に現れたのをそれと判別できなくて当然では……。

無比人が斜め後方から身を寄せて行き、ルイスの肩を叩いた。と、見返った目が驚きに瞠られ、次いで懐かしげに細められて、

——プロレスラーのムヒト・マーン。後で調べさせてもらったんだよ。

——マーンじゃなくてマン、ムヒト・マン。言ってみてくれるかい。

——ムヒト・マン。

二人は、そこで握手を交わした。

——プロレスとボクシングの異種格闘技戦であるにしろ、仇敵のマイク・タイソンにきみが病院通いをさせたこと、ニュースで聞いたよ。いやー、胸がすっとした。有難う。
——チャンプを利用させてもらってタイソン戦が実現したんだから、礼を言わなくちゃならんのはこっちさ。ところで、アンディとは又とない友達同士ってことだけど、永い付き合いだったのかい。
——五年になるかな。最初の出会いは家族を連れてスイス旅行をしたときで、次には彼が私の国を訪ねてくれて。あんな努力家、強固な信念の持ち主は滅多にいるものでは。
そこへ本堂の方から、いかつい顔の四十がらみの男が足早に近づいてきた。棺を支える一行へ、
——お待たせ。では行こうか。
と声をかけて加わろうとするのを、
——角田(かくだ)さん。
無比人が呼びとめた。
あれが正道会館の角田信朗師範代か、と氷見子が注目するのをよそに二人は相寄り、ここでもまた近しげに握手。そして無比人が耳許でふたこと三言囁くと、角田は深く頷いてルイスを見やり、
——正道会館の角田と申す者。故人への生前のご厚誼深謝します。故人に成り代わり改めてお願いします、是非とも出棺に際しましてお力添えを。ボクシング世界ヘビー級二冠王者レノックス・ルイス殿。
氷見子もあっと思わず声を漏らしそうになったほど見事な英語で言って、低頭したのであった。
寺からの帰途、ルイスも一緒に寄った全日空ホテルのティールームで、千堂が、
——WBC、IBFの二冠を懸けて確か十一月にニュージーランドのデビッド・ツアと、ラスベガスで防衛戦を行うんですよね。
そう水を向けると、世界王者はコーヒーカップをテーブルに置いて意味ありげに笑い、
——ツアはどちらの団体でもランキング一位だから、私が勝てば二位以下に落ちる。そうなるというと二位につけているタイソンが一位へ上がるわけだな。つまり、次期挑戦者の最有力候補ということに。
——ツア選手、身長はヘビー級としては小柄な一メートル七十七で、タイソンも似たようなもの。ということは〝前哨戦〟として、わざわざそういうサイズを選んだのでは？　ツアのニックネームも、ずばりサモアのタイソンというそうですし。
——さて、その辺りのことは想像にお任せするとして、ムヒト・マン。
視線が無比人へと流れた。意味深な目色がさらに滑(ぬめ)りを帯びており、

日本中の格闘技ファンがあっと驚く仰天プランがある！

――きみには寺で間に入ってもらったほかに、タイソンにひと泡吹かさせたそれもある。このまま何もせんのでは私の気がすまないし、どうだろう、もし良かったら日を改めて手合わせするというのは。

――チャンプとも異種格闘技戦を？

無比人の表情が変わった。引き込まれたのが氷見子にもわかった。

――そうは言っても十一月の試合もあり、チャンピオンとして両団体からあれこれ制約を受ける身でもある。大っ平にやるわけにはいかないだろうが、ボクシング以外の余り目立たぬ会場で表向きエキジビションとして、ということであるならば。

――あ。それだったら、打って付けのシチュエーションがあるぞ。まだ一ヶ月近く先だが、話を上手く持って行けば、うん、まず間違いなく実現するな、これは。

千堂が興奮気味に口を入れ、そこで巻道場主催の大会の件に言及したのであるが、ルイスの浮いた様子から御為ごかしではないか、ニューヨークでの借りを返そうということなのでは、と氷見子としては不穏な思いを拭えなかった――。

右へ右へとカーブを描くルイスのフットワークが不意に直線と化し、ステップインしたかとみるや左のジャブが放たれた。

無比人は、これを右の小手受けでカット。が、どういうわけか腰ががくっと落ち、そこへすかさず右のロングフックがフォローされてきてテンプルを捉えた。横ざまに叩きつけられるようにダウン。

「ねえ、どういうこと？ タイソン戦では、あの小手受けでうまいことパンチをはずしてたっていうのに」

問うた氷見子へ、

「リーチの差だよ、リーチの。タイソンよりずっと長く、だから寸前でカットしたつもりでも伸びがあってもらってしまうんだな」

と試合へ目を向けたまま千堂。マゾ奴隷ではなく、格闘技専門誌のオーナーの顔になっていた。

頭を振って無比人は起った。レフェリーがいたらカウント6は取られていたろうか。

待っていたようにルイスが右ストレートを閃かせた。左小手受けを合わせたがカットしきれず、のけ反って二度目のダウン。千堂の舌打ちするのが聞こえた。

「パンチを近づけ過ぎるんだ。どうせならもっと先で受けなきゃ。とは言ってもタイソンに較べりゃずっとスピードはあるし、タイミングを掴むのは難しいか」

声援が飛び交うなか、無比人は頸をぐるぐる回しながら立ち上がった。カウント7か8か。小手受けは用をなさぬと視てか、いきなり一歩を踏み込んで頭突きを飛ばした。

が、ここでも長いリーチが邪魔をしてヒットするに至らず、直後にショートアッパーで顎を突き上げられ前のめりに三度目のダウンを喫した。

ボクシングのルールに則るなら一ラウンドに三度ダウンしたらそこでKO負けとなるが、無類の打たれ強さを見せつけて無比人はまた起ち、結局、都合五度のダウンをかぞえたところで時間終了を告げる太鼓が鳴った。

一分間のインターバル。そして2Rが開始されてすぐ、

「掌底だ、万」

太い声が関係者席から飛んだ。巻の声だと氷見子には聞き分けられた。

立ち上がりからルイスはラッシュをかけた。エキジビションとは名ばかりで、フィニッシュしようというのが見え見えの猛攻も、しかし掌底（掌の肉の厚い部分）を用いての無比人の左右の受けによって悉くカットされ、するうち手数が減りだした。

「――そうか。キャッチャーがピッチャーの球を受けるのにも似たあの動きは、カットするだけでなくルイスの手首を圧迫し痛めさせる、つまり攻撃をも兼ねていて、それでパンチが急に……」

千堂が独りごちるうちにも、無比人の上体がすっと沈んで片足タックルを敢行。仰向きにルイスを転がしたときには、すでにアキレス腱固めの形が出来上がっていた。

獣のように喉を鳴らし、四肢を大仰にばたつかせて堪える王者。

我慢の限界がくるより先に太鼓が鳴った。

（54）

十月三十一日。大阪城ホールでの〝プライド11〟。

小川直也が佐竹雅昭に勝利し、リング上で得意の飛行機のポーズを披露していると、下から声がかかった。見たら無比人で、

「暴走王だとかなんだとか、いい気になっていられるのもいまのうちだぞ。来年はこの手で暴走をストップさせてやるからな」

右手を突き上げ、不敵な笑顔で言った。

十一月十一日（日本時間、十二日）。

ラスベガス・マンデレイベイホテルの特設リングでレノックス・ルイスは、3―0の大差の判定でデビッド・ツアの挑戦を退け、元統一ヘビー級王者マイク・タイソンとの八十六億円マッチ――ファイトマネーが両者ともに史上最高の四千万ドル（約四十三億円）――の実現をほぼ確実にした。

東京ドームでの〝K―1グランプリ〟から一夜が明けた十二月十一日。

ニュー東都プロレス一行は、伊豆熱川温泉のホテルへ繰り込んだ。そこでの恒例の忘年会の席上、

「来る新世紀には、日本中の格闘技ファンがあっと驚く仰天プランがある！」

社長挨拶で無比人はそうぶち上げた。

〈以下次号〉

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座 PART2

キャバクラ雑誌の連載でメールアドレスを公開しているためか、面識もないキャバクラ嬢からメール有り。「源氏名の名字を付けて貰いたいんですが、お願いできますか？『智美』に合うやつをお願いします！」とのことだったので、上品な雰囲気の「流」という名字を付けてあげたら非常に喜んでくれました。これで赤坂のキャバクラに流智美出現！ それ以外にも、近頃は原田久仁信先生からのメールや、読者からの「アステカは福岡でちっとも有名ではありません」などのタレコミが殺到している書評コーナー。実はシュート活字なジェシー・ヴェンチュラ自伝は次号で紹介！〈e-mail:go-go@pdx.ne.jp〉

『リアルファイト×リアルトーク』
（エンセン井上×滝田よしひろ／メディアワークス／1400円）

旅や自然が得意分野で、普段は『**地球の歩き方**』などの「**ガイドブックを執筆**」している「**格闘技は初心者に近い**」著者が、PRIDE参戦後を中心にしてマーク・ケアー戦をクライマックスに描くというタイミングの悪い構成で描いてしまった一冊。

まあ、格闘家になる前の記述に現在の暴走戦士・エンセンが誕生するに至る要素が隠されたりもしているので、そこだけでもとりあえず必見だろう。

たとえば、高校時代に「**サイコ（＝狂人）**」と呼ばれていたエンセンは、昭和のプロレスラーが人前で大酒を飲んだり大喰いしたりコップを噛ったりして殊更に人間離れした凄味をアピールしてきたように、かなり自己演出していたのだという。

「**いつの間にか、自分でもそのイメージをキープしなくちゃと思うようになっていた。ケンカを売るのが嫌なこともあった。少し怖いと思うこともあった。でも、『サイコ』のイメージあるから、みんなが期待しているから、やりたくなくても、当たり前のようにやらなきゃいけない。そんな無言のプレッシャーを感じていた部分もあった**」

これがエンセンから格闘家らしからぬ「プロフェッショナルさ」を感じられるようになった原点であり、だからこそラケットボールの選手時代にもこんな試合をしていたわけなのだろう。

「**ゲームを楽しませるショーマンシップみたいなものがプロには必要。観客は、常に勝ち続ける強い選手だけを見ているわけじゃない。負けてもギャラリーが満足できる試合ができれば人気が出て、その選手の試合をみんな観に行く**」

そこまでわかっているのなら、なぜ本書のクライマックスであるケアー戦で猪木対アリ状態になったときエンセンはやられる覚悟で立ちにいけなかったのだろうかとも思うんだが、そんなことは本書未収録のボブチャンチン戦で大和魂（＝特攻精神）をたっぷり見せつけられたいまとなっては問題なし！

そして、噂では聞いていた記者への暴行疑惑と修斗協会との確執についてもキッチリと告白してみせるのだから、さすがはエンセン。最初から最後まで男なのである。

まずは、「**レスリング協会の理事であり、山本（美憂）選手を小さい頃から知っていた**」新聞記者が、一部で美憂とエンセンとの関係が噂になっていたため「『**いまならふたりが一緒にいる写真を撮られる**』と、あるスポーツ新聞の記者が話している。**一緒にいない方がいいよ**」と親切に忠告したときのことだ。

賢い野蛮人のエンセンは冷静に「**誰がそのことを言っているのですか**」と聞き出そうとするが、「**マスコミにもルールがある。それを言うことはできない**」と言われたため、つい暴走。「**トイレで記者を壁に押し付けながら**」「**誰だか言え！**」と問い詰めたため、これが問題になってしまったのだそうである。

「**処分については、修斗側でもいくつか意見が分かれた。その人は、相手側が厳しい処分を出さなければ告訴すると言っている、と会議の席で話した**」

つまり、修斗の某フロントがそう言ったためエンセンのベルト剥奪やら大宮ジムの一時興行停止やらという厳しい処分が下されたわけなのだが、後から当の新聞記者に事情を聞いてみると話が全然違ったというのであった。

「**そこまでは言ってません。処分を出すか出さないかは、修斗協会の判断に任せていました。自分が望んだのは、しっかりした対応できちんと謝ってほしかった**」

この行き違いは「**エンセンが他団体の選手たちと練習したり、プライドなどで活躍するようになっていたことを、修斗側で面白くないと感じていた**」フロント（おそらく東大卒）が生じさせたものであり、彼がやがて修斗から離れていったのはある意味では必然だったのかもしれないのである。

『猪木詩集「馬鹿になれ」』
（アントニオ猪木／角川書店／1500円）

原宿界隈に出没する326というか相田320（藤波社長や田村潔司、山本宜久もお気に入り）モドキでしかないインチキ詩人共に強制的にでも読ませてやりたくなる、異常にパワフルなポエムを多数収録した珍品。

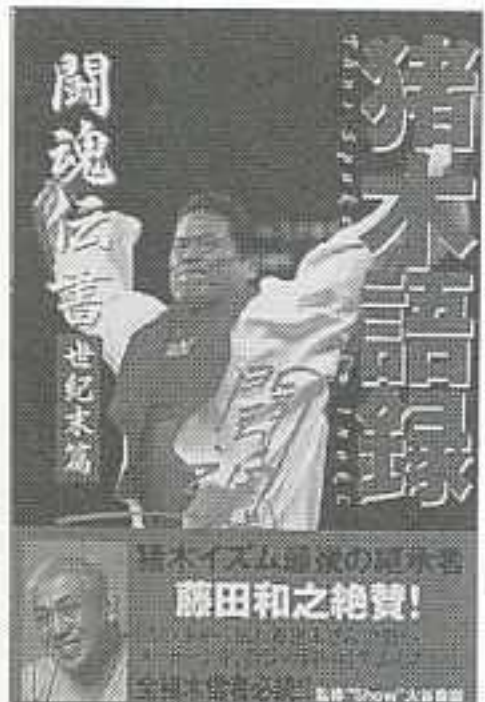
「**不安だらけの／人生だから／ちょっと足を止めて／自然に語りかけてみる／『元気ですかーっ！』**」

「**どうってことねえよ！／俺の魂が革命の雄叫びを上げた／幸せ気分でコモエスタ！**」

そんな同じアゴ詩人・326の人生応援ポエム以上に元気が出てくること確実なポエムのみならず、「**そうか／もう十歳になるのか／俺のガキ**」「『**男なら』／毒をも承知で飲む勇気**」といった非常識なポエムや、「**隣の席の／笑い声がはじける／それを肴に／グラスを傾ければ／俺の駄洒落もピッチが進む**」「**いつまでも拗ねていないで／心の扉を開いておくれ／冷蔵庫の納豆／食べちゃってごめんね**」といったキュートなポエムまで収録している、思わず馬鹿になりそうなたまらない内容なのだ。

「**大きな写真でかつぎ上げ／櫓太鼓ではやしたて／派手な衣装で身を包み／デッカイ活字が肩を張る／『東京スポーツ』ってそんなもんだろ？／誰かが誰かにもの言った／『そんな言いぐさいいのかよ……』／ばかやろうっ！／『東スポ』だけは許されるんだ／そんな人を食った態度が／俺は好き**」

なぜか『東スポ』をこんなポエムで表現したりもする猪木の方がよっぽど「人を食った態度」であり、もちろんボクも大好きなのである。幸せ気分でコモエスターッ！

『猪木語録 闘魂伝書世紀末篇』
（監修・"Show"大谷泰顕／メディアワークス／1500円）

ろくなテーマも持たせず、ろくに編集（キーワードになる部分を強調したり、それぞれにコメントを付けたりなど）もしないまま、ただ引退後の会見とコメントと発表済みのインタビュー（しかも雑誌掲載のものならともかく、ここ2～3年に出したムックからも完全再録……）を時間軸に沿ってダラダラと考えもなく並べただけという、あまりにもお手軽すぎる一冊。監修者が単行本を大量に出したい気持ちはわからないでもないが、せめてプロならもうちょっと内容的なクオリティを高めて頂きたいものなのである。

たとえばモハメド・アリが引退試合に来場したことについて、猪木は試合後の会見で「**本当にありがたいと**」とコメントしているのだが、北朝鮮の興業にアリが同行したときにも「アリには非常にありがとう」と言ってたり、アリを語るときにはいつでも「ありがちな話ですが」と前置きを置いたりすることからもわかるように、これらはすべて駄洒落でしかないのだから「アリがたい」と表記しなければならないはずなのだ。でしょ？

それでも巻末の山口日昇&柳沢忠之という旧『紙プロ』のトップ対談は本当に抜群なので、そこだけでも全読者必見。『SRS-DX』の対談では自分が言いたいことをターザンに言わせるように試合を作りつつ自分は常に一歩引いている社長（柳沢忠之）が、ここでは前面に出ざるを得なくなって大量に喋っているため、普段の対談以上に深い話（「**集団主義**」と「**孤立**」をキーワードにした力道山、長州、前田の在日コリアン論など）になっているのであった。

『THIS IN NOAH』
（長谷川博一／アミューズブックス／2000円）

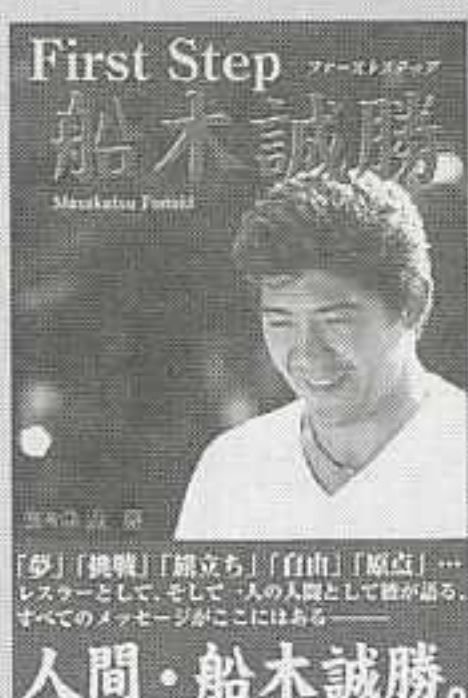
ネットに「読んだ方は中身について教えて下さい」との書き込みが多々あったりと、カレンダー付きのビニ本ゆえ中身が確認できず躊躇している人も多いと思われる、この本。秋山&田上&百田のロングインタビューをボクが手掛けているので、『紙プロ』読者の皆様にはぜひひとも読んで頂きたい一冊である。

なにしろ、三沢がヒクソンを投げられそうな気がすると発言したことに対して「**それは無理ですね（キッパリ）。あり得ないです。夢ですよ、それは**」と秋山はズバリ言い切り、「**プロレスは格闘技だよ。球技じゃないし**」などと田上は呑気でキュートなことばかり言い続け、グレイシー一族に対して「**（ドン・レオ）ジョナサンとかジノ・マレラとか、そういう選手にあいつらどうやったて勝てないと思うよ（キッパリ）。問題外よ（キッパリ）**」と百田は力道山イズムで断言する。この3人のズバ抜けたプロレス魂には、本当にシビレる限り！

しかも「**ダメ、三沢クンのせいで馬場さんが死んだんだから**」という衝撃の元子発言や分裂に至る経緯のみならず、「**元子さんからされた理不尽な行いなんて、そりゃあ数えればいくらでもあるでしょう**」とのことで仲田龍リングアナが悪行三昧ぶりをいくつかバラしていたり、三沢が「**ウチは新日本という団体とやりたいとは思ってない。向こうのフロントの連中、好きじゃないから**」とシュート発言をかましていたり、ジョニー・スミスが「**こんなに大きいのは初めてだ！ 見たこ**

とがない！」と志賀の股間を見て驚いたことも暴露していたりと、暴露ネタだって値段相応に収録済だから最高なのだ。

なお、三沢が「ノー・プロブレム。それはノバ」という前田と同じセンスのギャグを事前に飛ばしているだけあって、高阪&前田のコメントも収録されているのでリングス好きも必見。いつものように「新団体旗揚げっていうのは本当に大変だよ（しみじみと）。三沢君の場合は抱えている選手が多いでしょ。もう給料のことだけでも大変だよ。そういう苦労はよくわかる（キッパリ）！　まあ、一番いいのは1人で旗揚げすることだけど、それは俺以外はハッキリ言って不可能だと思うね（笑）」と自画自賛を始める前田日明と三沢社長のエロ社長対談を、いつか実現させたいものなのである。

『First Step　船木誠勝』
（佐々木健／サンクチュアリ出版／1200円）

史上最悪の猪木本『猪木イズム』や元チーム0の軌保本などで知られる宗教チックで不快な出版社・サンクチュアリ出版が、これまた宗教色溢れるジャケの船木本をリリース！

冒頭から「人間には信じられる何かが必要だ」とのことで、著者がいつ何時でも「船木を信じた」というフレーズを連発しまくり、「船木のすべてを信じたわけではもちろん、ない。『どうして？』と思うことも多かった。そんな時はとにかく船木を信じて時を待つ、僕にとってはそれがすべてだった」などと偏愛ぶりをいきなり告白していくから、つくづく船木はファンに恵まれていないと痛感させられた次第なのである。

とはいえ、船木の天然っぷりが伝わる発言も予想以上に隠れているので個人的には文句なし！

たとえば海外遠征で「マサ斎藤などが外国で暴れたときと同じ田吾作スタイル」で暴れてから帰国した頃のことを、なぜか船木は「自分を知っている人は船木はだいぶ変わったと思ったんじゃないですか。飲みに行ってもまず人に注ぐ、注がれたりということをしなくなりました。そういったことも含めて自分の力で生きていくということですね」と語ってみせるのであった……。

果たして手酌で飲むことが自立の証明なのか？

そしてUWF時代にやりたいことができなかったという葛藤については、この調子である。

「積極的に自分が動いて、『こんなことを俺は思ってるんだ』というのを周りに伝えないと、誰もわかってくれない。だま～って座ってても、他人はわかんないんですね」

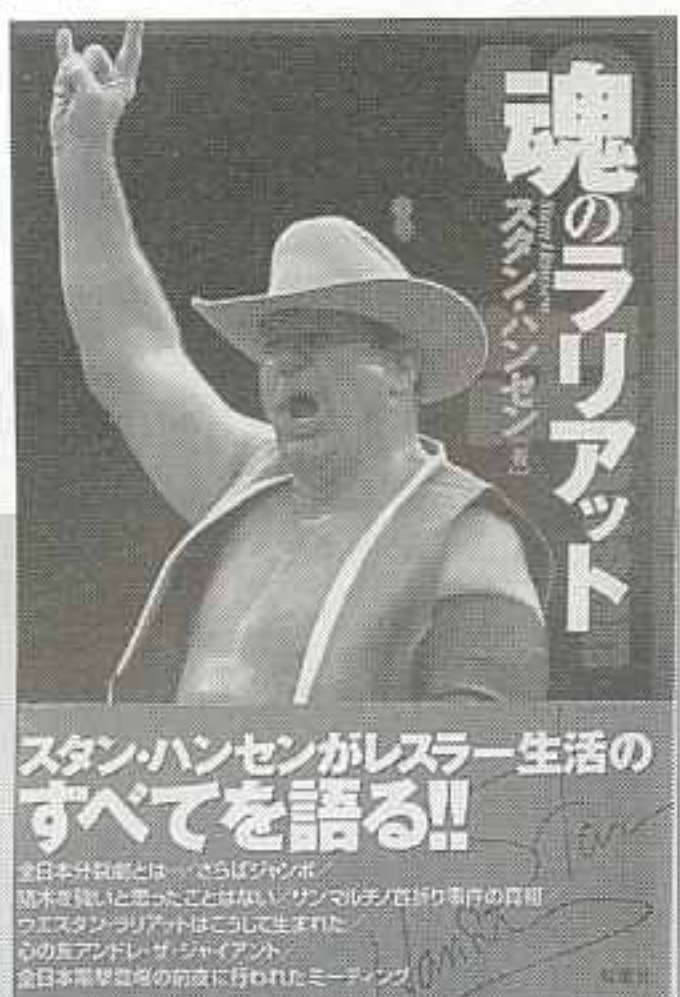
そんなもの、他人がわかるはずもないだろう。

さらに、「今は日本全体が休みが必要な時期だと思います。このまま行ったら、いつか新宿がニューヨークになってしまう日が来るんじゃないですか」だの、「『僕は船木です』と言っても誰もタダで飯は食わしてくれないですからね。やっぱりお金を払わないと」だのといった常人にはちょっと理解不能な発言で、ハイブリッドな不思議ちゃんっぷりを発揮しまくる船木。

挙げ句の果てにはヒクソン戦をこう振り返っていくのだから、完璧すぎなのである。

「俺が呑み込みすぎた。余裕コキすぎたかなっていうのもありましたよね（苦笑）。そのまま絞り上げたらある程度すごい展開になってたろうなと感じたんですけれども、高橋に『今何分？』って聞いたら『まだまだ休んで、休んで』と言われたんで、『ああ、絞めたらいけない時間なんだ』と思って」

こうして船木がヒクソンを余裕で呑み込んだと告白し、高橋がイズマイウに勝ったことを「日本人初のグレイシー柔術越え」と著者が言い切ったりする様を見ているうちに、なんだかボクも不思議とパンクラスを信じたくなってきたのであった（嘘）。

『魂のラリアット』
（スタン・ハンセン／双葉社／1600円）

ハンセンの「ブレーキの壊れたダンプカー」ばりにパワフルなムーブが山本小鉄の言うように「近眼だから」完成したわけではなく、「ラリアットは絶対にフィニッシュにしか使わないこと、そしてブッチャー、シンの2人に対抗する為に、試合が開始してからラリアットに至る迄を、動いて動いて動きまくること……このふたつを常に念頭に置くように心がけた」とのことで、あくまでも計算尽くだったことがわかる、よくできた一冊。

なぜかミスター・レスリング1号（ティム・ウッズ）が素人の挑戦者に指を食いちぎられた事件やストロング小林のホモ説についてハンセンが言及しているため、どうやら流智美ゴーストライター説も一部で囁かれている様子である。

まあ、「（ビル）ワットはレスラーとしては扱いづらい相手、試合が下手な〝プア・ワーカー〟として有名だった」だのといった調子で、「アングル」や「オーバーする（getting over）」、そして「ヒート」などの隠語を当たり前のように文中で多用していくから、さすが我らの流智美（勝手に断定）。マニアにはたまらないのだ。

「（ドリー・ファンク）シニアがバックグランドをサーキットさせてやった理由はただ一つ、バックランドが〝マークス（marks）〟を相手に出来る実力者だったことに尽きる。〝マークス〟というのはプロレス界の隠語の一つであるが、試合場で飛び入り出場を好んでやる、賞金稼ぎが目当ての無鉄砲な若者のことをいう。これを迎え撃つには確固たるアマレスの基本がないと話にならない。なぜならマークスの多くはアマレスでいい所までいった奴らだったからである。ファンク・シニアも若い頃は好んでマークスをリング上で徹底的にいじめまくる血気盛んな存在だった」

そんな隠語混じりのアマレス&ガチンコ話も流智美イズム丸出しでいいんだが、やがて全日のカウント2・9プロレスにも通じる試合の「やり方」まであっさりバラしてみせるから、本当に衝撃的。

「〝フォールス・フィニッシュ(false finish)〟と呼ばれる攻防で、これは相手をカバーしながらもカウント3ギリギリで肩を上げてフォールを防ぎ、観客の緊張を20分、30分と持続させていく試合の運び方のことだ。これを上手にやるとなると、レフェリーを巻き込まねばならぬ。いくら上手にフォールス・フィニッシュを繰返しても、レフェリーが機敏にカウントの体勢に入ってくれない限り成立しないからである」

ここまで開けっ広げなことを描写できたのは、選手が大量離脱した全日が「痛みの伝わるプロレス」へとシフトしていったからなのだろう、きっと。

それ以外にも、ディック・スレーターが日本で干された理由を「テリー譲りの鼻っ柱の強さは時として致命的であり、一度全日プロのリングで長州力の顔面にナックル・パンチのストレートを叩き込んで長州の怒りを買い、結局はこれがスレーター最後の全日本プロレスの来日となってしまった」と暴露したり、「プロモーターは俺達のエネミー（敵）でしかない。奴等の言葉は嘘だらけで、俺達をダブルクロスしてばかりではないか……。これからは俺がプロモーターをダブルクロスしてやる」と息巻いていたブロディが「最後は試合でワットを完全にダブルクロスし、この時の復讐を遂げている」ことを暴露したりと、どうやらハンセンは原稿方面でもブレーキがかなり壊れている模様。

そのため試合の裏側をギリギリのレベルでバラすのみならず、ダンプガイらしくレスラー&関係者の裏側まで次々と暴露していくのであった。

「プロレス界の隠語で〝ストゥージ(stooge)〟というのがあるので、この際知ってもらおう。こいつらは、あることないこと周囲の人間に吹き込むことによって、自分に利益をもたらそうとする人種のことだ。オフィスで働いている人間がそうであるケースが多いが、レスラーがストゥージであるケースも多い（そのケースが一番厄介なのだが）」

このストゥージ（ちなみに直訳すると「馬鹿」）の代表格として、ハンセンは猪木の右腕だった過激な仕掛人・新間寿の名を挙げている。

なぜなら「新間はいわゆる〝ストゥージ〟の一人であったに違いないが、それにしてもここまで権限と権力を持ったストゥージというのを見たことがない」とのことで、ハンセンの全日移籍を止めるために「パラオにある〝イノキ・アイランド〟を君に譲渡することも考えている」というとんでもない餌まで持ち出していたことまで発覚！

実はその後、イノキ・アイランドが「シンマ・アイランド」になっていたことから考えても、一時期の新間がストゥージとして恐ろしいほどの権限と権力を持っていたことだけは間違いないのである。

それに較べてハンセンは、「リング上で善玉を演じるレスラーは、往々にしてエゴイスティックな性格が実生活にも及んできて、周りでこびへつらう関係者や、ファンを利用して少しでも利益を享受しようとしてしまう傾向にある」が「ヒールは善人でないとつとまらない」などと、暗にヒールであり続けた自分の善人っぷりもアピール開始。

確かにデビュー2戦目で先輩レスラーにイタズラされたためとはいえ、ヘルニアのレスラーにボディスラムを連発してしまったことをいまも心から後悔している様子だから、ハンセンはかなりの善人なのだろう。

「観客不在のこんなイタズラをして許されていいものか？……と、私はこの仕打ちを一生忘れまいと誓った。ボディスラムを連発して腰痛を悪化させてしまったことが、私には一番心残りだった。事前にそのことを知っていれば、私は絶対にスラムを仕掛けなかっただろう。同業者を故意に怪我させるような技は決してトライしてはならぬ。それはデビュー前にテリーやシニアから口を酸っぱくして忠告されたことだった」

相手に怪我をさせるようなレスラーは一流ではない。それは非常に正しいが、後にハンセンはボディスラムの失敗でブルーノ・サンマルチノに大怪我をさせたり、その再戦で「試合後にマクマホンから聞いた話では、この試合で7人のショック死が出てしまった」りしているから、もはや反省しているのかどうかサッパリわからないのであった。

なにしろボディスラム絡みのこんなエゲツない暴露までしてみせるから、その勢いたるやまさにブレーキの壊れっぱなしなダンプカーなのである。

「ボディスラム、でいつも思い出すのがストロング小林のことだ。彼は体が非常に固く、ラリアット以外の技は仕掛けにくい相手だったが、なぜかボディスラムだけは容易に掛けさせてくれた。小林はボディスラムで持ち上げられると、右手で相手の急所を握るクセがあった。小林は腰が悪かったから、投げられる時のショックを少しでも和らげようとしていたのだろうが、股間をつかまれると確かに力が入らないもので、その意味では小林のテクニックは理にかなって？いた」

こうして暗にストロング小林をホモだと匂わせてみせる悪質な記述は、流智美ならではというべきか。

なお、日本人選手の強さに対する記述も非常に興味深くて、猪木を「〝強い！〟と思ったことは一度もないが、とにかく試合運びが巧妙で、終わってみたらピンフォールを奪われている」と称したかと思えば、「これに対して、常に〝強い〟という印象を持ったのは坂口だ」「試合がおわってホテルへ戻ったあと、肉体的な強さ、疲れを感じたことはシリーズで2度、3度あったが、その夜の相手は決まって坂口だった」と、いまも最強論が囁かれているビッグ・サカを大絶賛！

新日では坂口、全日では「鶴田との試合は疲れる。足が地に張り付いたようで、持ち上げるのに一苦労だ。その点、馬場が相手だと楽だ」（ブロディ・談）とのことで、鶴田最強論をブチ上げてみせるのだった。それにはボクも同感である。

そんな坂口も鶴田もリングから去ってしまった現在、昭和のレスラーの強さを世間に見せつけるべくハンセンは現役を続けてきたのに違いない。

「〝ハンセン・スタイル〟のプロレスリングを見せられるうちは、絶対に引退などするつもりはない。ステロイドを使わないプロレスラーのボディ、そしてカーディオバスキュラー・システム（心肺機能）が、いかに長持ちするものであるか、もう少し今のファンに認識させてやりたい」

そんな「自分のプロレス人生に一つの区切りをつけ、まだまだ現役を続けていく意志をより強固なこのにするためにも、この本を残しておくことにする」との思いでコクのある自伝をリリースした直後に突然の引退が決定してしまったのだから、つくづく人生とは皮肉なもの。

それでも、下手に新日の後ろ髪が長い選手たちと絡むラリアット伝承マッチなんかが組まれる前に引退できたことだけは、もしかしたらすごく幸せなことなのかもしれないのである。

CAT FIGHT WORLD

第8回

キャットファイト的視点から見た

「ドミネーションとは？」

バトル本店ドミネーション担当　**猫宮**さん

ドミネーションとは？

ドミネーションとはつまり直訳すると征服！　そう一方が一方を征服してしまうビデオなのだ。暴力あり、エロありとあらゆる手段で征服するのだ！

女だらけのネーション・オブ・ドミネーション!! 一方的な展開に酔え!!

猫宮　ドミネーション、つまり一方的にとか、そういうニュアンスなんですよ。

——それは、つまりマゾファイトってことですか？

猫宮　マゾファイトの流れなんですが、ドミネーションファイトというのは、色々ありまして。

——と、言いますと？

猫宮　マゾファイトの魅力は、何号か前に説明しましたよね。その時に出てきたのがドミネーションという言葉なんですが。それで、その時は確か「男vs女」の内容しか説明していなかったんですよ。

——確かに、ドミネーションはSMとは違い、キャットファイトとしての何やらって（笑）

猫宮　何やらって（笑）キャットファイトとして総合的に言えることは、協調性が無いってことなんです。お互いに、そりゃファイトしているから当然なんですけど（笑）。つまり、SMにしたって、SとMでしょう。悲鳴をあげていたってそこには女王様と奴隷という協調性がちゃんとありますよね。

——そうですね、やられながらも内心は喜んでいたりします。

猫宮　……やられたことあるんですか？

——あ、いやいや決してそういうわけじゃなくて！

猫宮　まあいいや（笑）それで、キャットファイトにおけるドミネーションというのは、協調性が全く無いファイトなんです。ただ純粋に力の差があり過ぎて一方的な展開になってしまう。これがドミネーションバトルですね。だから、対戦相手が男女関係ないんですよ。あまり。

——あまり？

猫宮　まあ、男性が相手の場合のドミネーションはどちらかといえば「マゾファイト」になってしまうんですが。あくまで、どちらかと言えば、ですけどね。

——マゾファイトって、協調性あるじゃないですか！（笑）

猫宮　う〜〜ん、まあ、キャットファイトはあくまで女性同士のことですから。

——難しいなあ。

猫宮　だから、女性同士のファイトで一方的な展開になるのが、ドミネーションでそれが良いって方も多いんです！

——その魅力って何なんでしょうかねえ？

猫宮　お互い相手に勝つ気でいるわけですから。力の差を知らないで対戦して、一方的にボコボコにされてしまう女性。　何か良くないです？（笑）。

——わ、わかんない、わかんないですよ！（笑）。

猫宮　ギブアップしても許してもらえないんです。泣き叫んで許しを請うても相手にしてくれない、別名……拷問ファイトですね（笑）。

——拷問ファイト（笑）なんか、キャットファイトっぽいですね。

猫宮　でしょう。「こんなはずじゃなかったのに！」って内心悔しいんだけど、絶対に勝てないの。それで悔しくて悔しくてギブアップするんだけど、許してもらえない（笑）どうですかーっ!?

——女性の苦悶の表情、許しを請う悲鳴……なんか、良いですね！

猫宮　しかも、なぜか（笑）、やられる女性は皆美人。

——最高でぇす!!（笑）。

今月のオススメビデオです!!

STEEL KITTENS
"SCREAMING FOR AIR"

THE STEEL KITTENS
A BELDON DYLAN PRODUCTION
FEATURING THE HOTTEST AND SEXIEST STARS OF FEMALE COMBAT!

ゴージャスなブロンド美女ハリウッドと、スリムでダークヘアがセクシーなレイの2人がくんずほぐれつ繰り広げる魅惑の肉弾戦！　殺人技が乱れ飛ぶ、残虐ドミネーション決定版！（40分・¥7900）

Double Trouble.

Double Trouble
The Most Beautiful Girls in the World Do Battle!

ジュリーが怪しげな「飴と鞭」戦法で限界いっぱいまでミアをいじめまくる残虐かつ容赦ないドミネーション。でも愛撫もあったりして究極のドミネーションバトル作品！（60分・¥8900）

読売ピストルズ

読者の野郎共、
勝手にしやがれ!

新・読者ページスタート

構成
紙プロ超世代軍
(水戸泉、幸田珍、戸高アビバ)

『紙プロ』読者が選ぶ2000年のMVP中間発表!!

1位 桜庭和志
2位 小川直也
3位 アントニオ猪木
4位 藤田和之
5位 川田利明
6位 蝶野正洋(withマルティナ)
7位 高田延彦
8位 田村潔司
9位 村上一成

ランクイン間近!
藤波社長、谷津嘉章、三沢光晴、アンディ・フグ、小路晃、イゴール・ボブチャンチン、ポイズン澤田JULIE、天龍源一郎、大仁田厚、長州力、橋本真也、モーニング娘、他多数

募集当初から、ぶっちぎりの1位を独走しまくりだったサク。しかし、佐竹戦の決定後からオーちゃんがジワジワと票を集めだし、佐竹戦後からは、さらにハイスパートで猛追する展開となっている。3位には、『PRIDE.』のプロデューサーに就任した我らがアントン。「暑い夜には熱い闘いがよく似合う」という名言を残し、詩集まで出版し、引退してなお、リング外から話題を独占し健在をアピール。4位には藤田が入り、闘魂の遺伝子たちが上位を独占。ここまではまさに『紙プロ』ならではの結果となっているが、4位と5位の川田と蝶野の「純プロレス」勢のここからの巻き返しにも注目したい。また、蝶野に対しては、マルティナ婦人とあわせての投票が多かったことも記しておきたい。8位以降は非常に混戦模様だったのだが、締め切り直前になって、婚約&師匠のアントンばりのスキャンダル(某写真週刊誌参照)が発覚した村上に票が集まりだし、一気にランクイン。このままさらに票を延ばすことが予想される。ランクイン候補者の中では、大仁田に票が集中するのかと思われていたインディー勢の中から、思いもよらなかったポイズン澤田の健闘ぶりと、プロレス関係者以外からランクインを伺うモーニング娘にも注目したい。
このままサクが逃げ切るのか、ヒクソン戦の決定が囁かれているオーちゃんがさらに猛追するのか、大晦日イベントを控えるアントンが、またしてもおいしいところをかっさらってしまうのか、興味は尽きない。下位の方に関しては、あまりに混戦なため、あなたの一票しだいで順位表が全く変わってしまう可能性が大いにアリ! というわけで、まだまだ応募受付中! 迷わずハガキを送ってください! (団体関係者からの組織票も歓迎します)

まだまだ投票受付中!
詳しくはP.160へ

読売ピチトルス

江戸深川千両庭十番地／仏生寺　4点

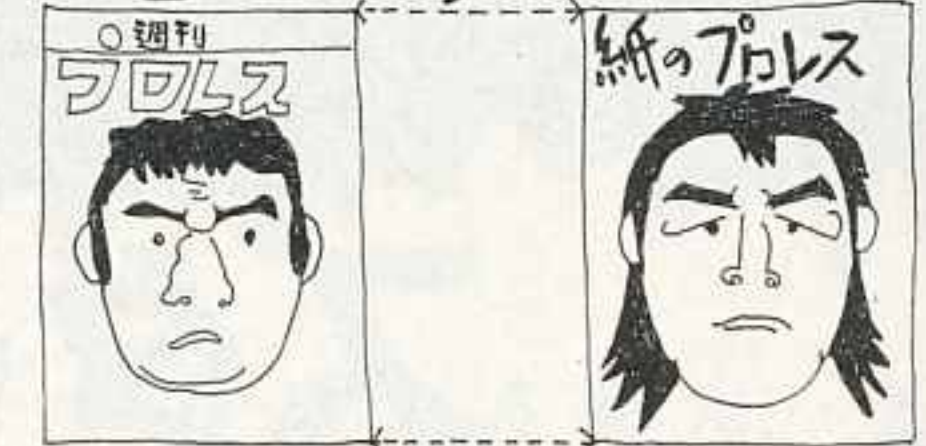
どうも最近、藤波社長のことをさげすむ輩が多過ぎる！　同郷のアビバ（大分県出身）としては、断固・社長派宣言！

青森県／青木雄大　3点

驚いたん邪、大仁田・明海大学中退。少しでも偏差値の高い学校を目指す学歴至上主義にボクは大賛成邪ぁぁぁぁ！

逆ラリアット

石川県／山崎雅幸　3点

う〜ん、ミステリアス！　判がいきなり「紙プロ」と同じになった「週プロ」。今度は『紙プロ』が昔の週プロの判にしようかな…。

アビバ賞

青森県／青木雄大　5点

最もラブ＆ピースな作品に送られるアビバ賞。記念すべき第１回は、ラッシャーのナイスガイ振り溢れるこの一品に大決定！

東京都／白倉さん　4点

う〜ん、マーベラス！　新日本道場伝説のファイナル・ファンタジーこと山本小鉄氏の鬼軍曹振りが溢れる超クールな一品！

宮城県／網戸　4点

う〜ん、デッド・オア・アライブ！　インディーロード掲載以来にブッチ・ブレイク中の葛西純（本誌・水戸泉（仮）の親友という噂）。

東京都／ネェネェ正平　4点

今年、最もブレークした女性と言ったら、ミセス馬場こと元子夫人。でも、株持ってる代表が金貰うのは一般社会じゃ当然なのに……。

論客さん、いらっしゃ〜い！

■私の要望はNOAHの三沢社長とバトの石川社長、みちのくのサスケ社長の3大エロ社長会談です。（京都府・小林幸代）3点

★例えば「前戯とは？」などのお題目でも凄い深い対談になりそうですね。実現するしないにかかわらず、こういった面白い企画をお待ちしています。ジャンルは問いません。

■毎回ながら「座談会」でプロレス界（特に新日！）にビシッと言うところは、イタリアのサッカージャーナリズムのごとし！（宮城県・山口雅弘）3点

★前号の座談会は、イタリアのサッカーマガジン『ガゼッタ・デ・スポルト』の採点では6.5でした（辛口）。今後も『ノムさんのクール解説』ばりの辛口座談会を期待してください。

■幸田君は僕に似てるし、見込みがある。めざせ！　編集長！（広島県・山田彰・アホ踊り）3点

★「幸田君に似てる」ってどのくらい似てるんでしょう？　一度写真を送ってください。ここに「21世紀の凄顔大会」を宣言します。インパクトのある顔、ガンガン募集！

■ボディコン　ワンレン　大刀光（アルシンド9・アントニオ文朱・100才）3点

■母子家庭最強説（シャブ村・アントニオ文朱・100才）3点

■ムチムチ小路パイズリ（アウシュビッツ31・アントニオ文朱・100才）3点

■向井亜紀、大刀光飼育。散歩（広島墓町35・アントニオ文朱・100才）3点

★平成の吟遊詩人アントニオ文朱は大刀関が大のお気に入りの様子。来月は松浪議員のコップ爆弾についてのライムがくる予感がします。

■KAMIPURO UNIVERSITYはつまんないんだから終わって当然。（東京都・島本直也・30才）3点

★つまんないからこそ、このような厳しい意見が必要。ハガキ一枚一枚からこのコーナーは成り立っています。なんでもいいから、凄ぇハガキを送ってくれ。

■座談会では、いい加減、紙プロ掲示板の事だけを指して「ネット」と言うのはやめた方がいいですよ。（岐阜県・西脇心・20才）3点

★失敬な、訴えますよ！　事実誤認もいいとこです。本誌水戸泉（仮）はセリエAサイトを、エキサイティング幸田は出会い系サイトを、戸高11万円は風俗情報サイトをちゃんと見ています。ボクらの「ネット」は以上の3つのみ。

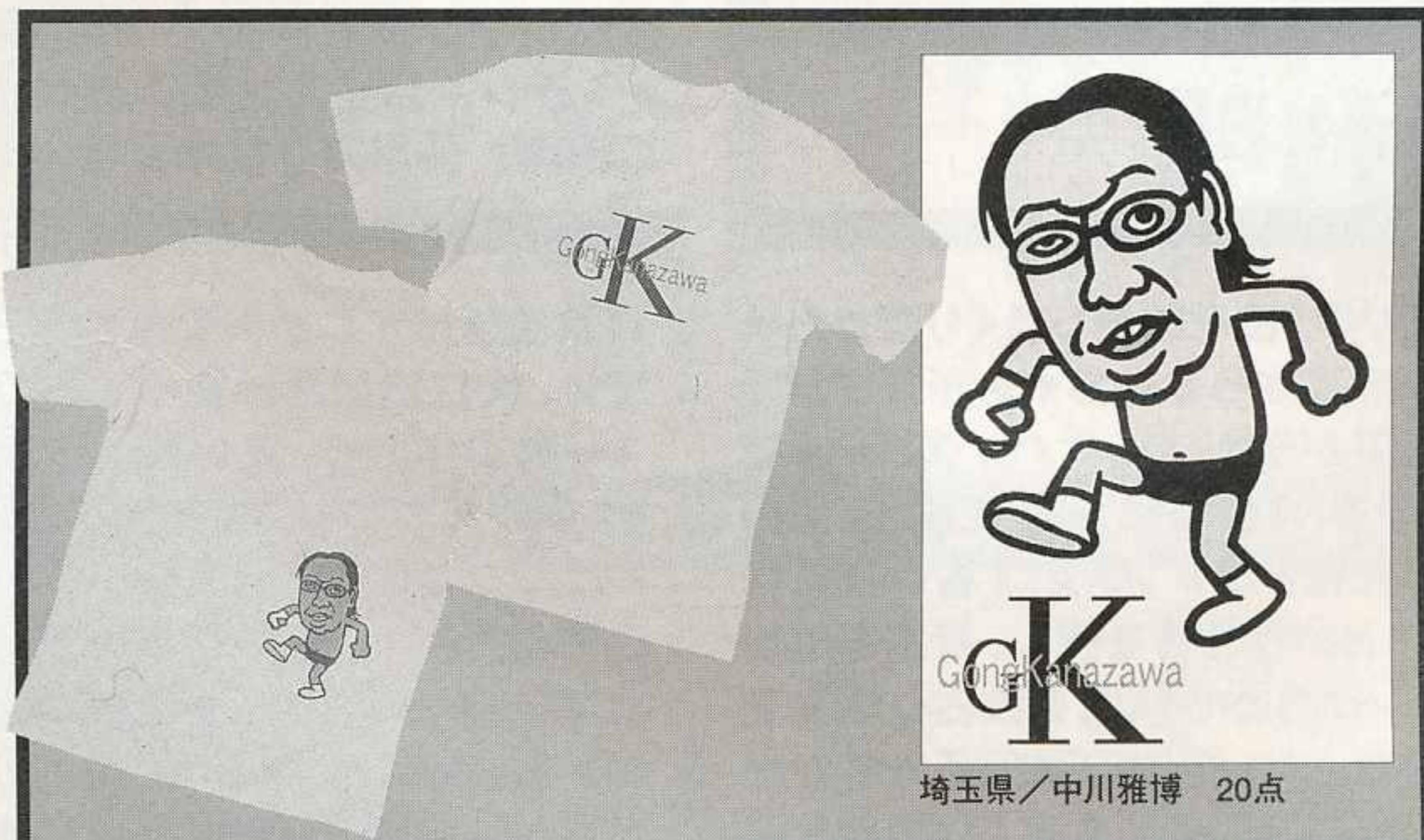
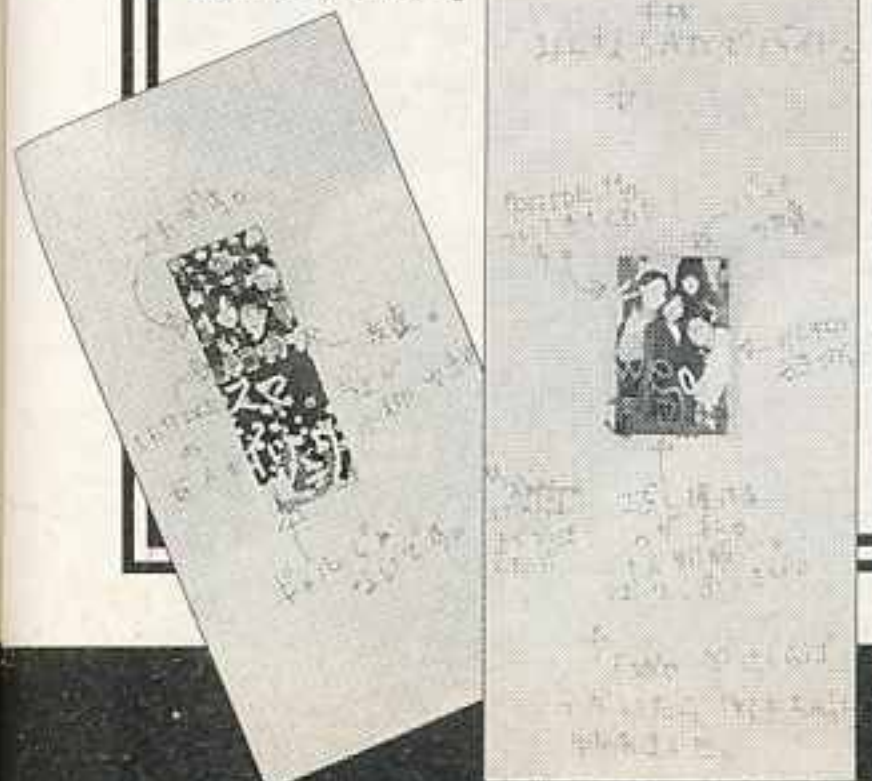
■チョロさんのファンです。遠く沖縄より応援してます。がんばって下さい!!（沖縄県・高井美和子）2点

★沖縄からも『紙プロ』への熱いハガキが。南の風がほんの一瞬でしたがこのヤニだらけの編集室に届きました。心なしか、波の音が……。ZZZZZZ（アメコミ調）なぁーんだよイビキじゃねえかよ。

■三田佳子宅の地下室でキャプチャーの地下室マッチを（大阪府・宮脇博司）2点

★でも地下室って物置以外で使用している人って、三田次男以外にいるんでしょうか？　地下室のある方、ぜひ日常の使い方

元・魚屋の幸田珍の　10点差し上げる

最近なぜか女性の（特にヤング世代からの）ハガキが急増し、本誌的にはかなりいい感じ。今回はその一例として奈保ちゃんからの可愛いお便りを紹介します。「はじめまして。（中略）自己紹介します　奈保　高校一年生　好きな人は桜庭和志！　めっちゃ好きです♥そして鳥肌実。てな具合です。（中略）とにかく私が言いたかったのは、『紙プロ』最高！　そして桜庭かっこいい！　山口日昇素敵！　ということです。」このハガキを読んだ本誌鬼畜編集長山口は「おい！　これは載せとけよ！」と言って、やたらにゴキゲンでした。本誌的にはこのような若い世代の声をもっと聞きたく、このコーナーを開始いたします。「我こそはナウな若者！」と言う方からのお便りお待ちしております。プリクラが貼ってあるとちょっと嬉しいです、はい。

TシャツGP 2001

埼玉県／中川雅博　20点

ど〜ですか！　この某有名ブランドをモチーフにしたゴング金沢Tシャツの出来ばえ！　作成者は、これまでの本誌読者ページで、まさに驚愕するに値するクオリティーの高いイラストを投稿し続け、リングスのブラッド・コーラーTシャツまで手がけてしまった中川画伯だ！　というわけで、唐突ですが、これを機にオリジナルTシャツを大募集！　いきなりTシャツは作れないとお嘆きのそんなあなたはイラストだけでもOKです！　強烈なインパクトの第一印象を見事に与えてくれた方に限り、我々が責任を持ってTシャツにして差し上げます！　ＰＳ　この世界に一つしかないゴング金沢Tシャツ（サイズM）を読者にプレゼントします！　応募方法はP176　を参照でお願いします。

水戸賞

ノーフューチャーな作品に送られる水戸賞はやっぱりアントニオ文朱！　最近の一部での文朱ブームは水戸泉の仕業だという噂もあるようですが、水戸泉（仮）も本当にそう思っているようで、その噂もきっと水戸泉（仮）が流したものでしょう。信じちゃダメ！

レイテン沖95／アントニオ文朱／100才　5点

編/集/部/員/通/信/

魂の叫び RADICAL

チョロ2世の予感

延長ドリンク当たり前！自称　ギャバキング・オブ・キングス 戸高アビバ(源氏名)のちょ～ゴ満悦♥

キャバクラ街道一直線

戸高アビバ

チョロ＆ガンツの貧乏編集員＋プッチ編集員アビバの紙プロ・ドリームティームを迎え撃つは新宿歌舞伎町のキャバクラ・マックス！

少々、緊張気味のボクを接客するのは、笑顔がと～てもキュートなナミッコもうすぐ二十歳。う～ん、きゃわE♥　彼女の絶妙なバンプにトキが経つのも忘れ楽しい一時を過ごすボク。短過ぎる一時間がタイムアップ！　自然と場内は大延長コール！　その声援を遮るように、席を立ち始めるエンゲル係数90％を越える貧乏編集員ども。ナミッコの「もう帰るの？」と訴える子犬のような目。ウ、ウ、ウォー！　自分のウチに秘めた獣が目を覚ます。「延長戦だぁぁぁ！」ボクの暴走振りに慌ててボクを抑える貧乏人ども。「お金なんか気にして、酒が飲めるか。この店、俺のおごりだ、貧乏人！」とフ抜けどもに喝を入れる男っぽいボク。それに呼応するかのように、「かっこいい♥、ドリンクよろしいですか？」と甘える女狐達と貧乏人ども（？）。延長に次ぐ延長、このマラソン・マッチも4時間を越えた。女の子達の疲労と眠気の色に気づき、この位にしとくかと貧乏人どもを従え会計へ。4時間みっちり濃密な恋人気分を味わった代金は、締めて11万9300円！当然のようにボクを残し消える貧乏人ども、確かに言ったけど……。お前らポッキーゲームしすぎなんだよ！

高い授業料を払ったとはいえ、貧乏人とは付き合わないことを学び少し賢くなったボクだった。ていうか貧乏人がキャバクラで騒ぐなよ、ポッキーゲームも禁止！　以上！

これが、『眠らない街・新宿』で乱舞した真実の記録だ！酒の席とはいえ、数々の失言及び無礼を働いたことをこの場を借りて謝罪させて頂きます。ところで、お金の件ですが何とかなりませんかね。ていうか、払ってよ！

Pointランキング

順位	都道府県	名前	点数
1位	埼玉県	中川雅博	20点
2位	住所不定	アントニオ文朱	17点
3位	青森県	青木雄大	14点
4位	大阪府	岩本奈保	10点
5位	大阪府	英加直純	5点
6位	宮城県	網戸	4点
7位	東京都	白倉さん	4点
8位	東京都	ネエネエ正平(他数名)	4点

幸田賞

大阪府／英加直純　5点

引退

来年、参院選出馬!???

今月、俺の心にぐっさりと突き刺さった作品はこれや！　あまりのすばらしさに、思わず実家のおかんにも知らせたぐらいのスゴイ出来映えやで！　英加さんを俺の手でビッグにしたるで！と思いきや、すでに有名な人らしいやないか？　そりゃ、そうやろうなあ。

東京都／キャプテン名倉　3点

セクスィー・ビーム！　えっちゅうの袴越しの微妙なヒップラインが上手に描かれてます。近々、新設予定のマッハ賞最有力候補！

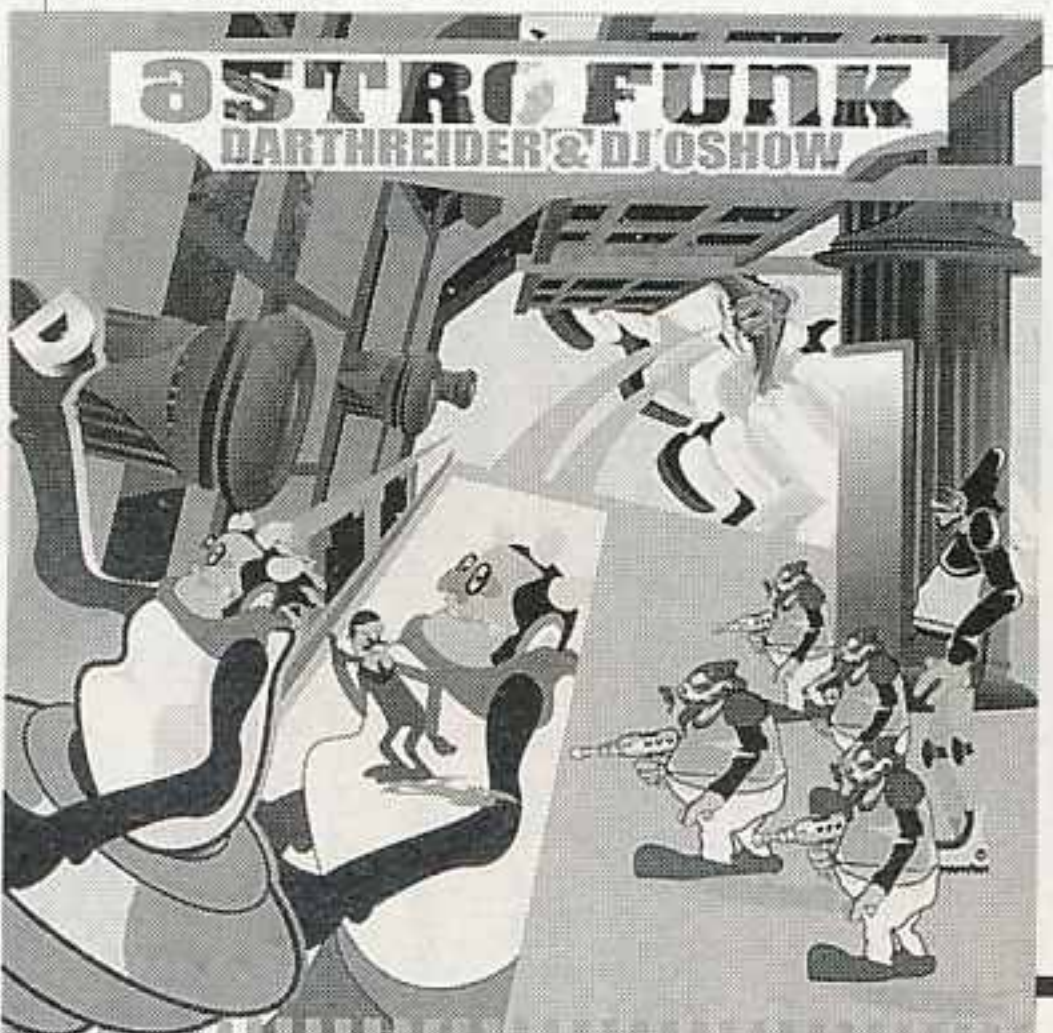
…今月のプロレスリンク…

ダースレイター＆DJオショウ アストロファンク

脱線3のMC BOOがJd'で卯木代表と抗争を開始したり、ヤマケン主催の『クラブファイト』にSUIKEN＆F.O.H.が登場したり、遡れば将軍KYワカマツの『ストロングマシンWE ARE NO.1』が早すぎたエレクトロだったりと、今も昔もプロレスとヒップホップはかなり密接だ。そんなわけで11月11日、渋谷の『ファミリー』というクラブでマイカデリックというグループのライブを見て来たのだが凄かった！　そして音もかっこいい！　話してみると、かなりのプロレスフリークで昭和全日の外人レスラー大好き！とのこと。来年には、まるまる1曲プロレスの単語だけで作った曲もリリースされるとか。プロレスファンなら心に響くはず！

マイカデリックのMC DARTHREIDER＆DJ OSHOWの新作『ASTRO FUNK』

ASTRO FUNK DARTHREIDER & DJ OSHOW

オレ、本当は何したいんだろう…

今や時の人と言うか、この1年間色んな意味で話題を独占して止まなかった破壊王（そして藤波社長）。そんな人気の破壊王作品群の中でも特にファンビュランスな二作品を紹介！

愛知県／負け犬ヒデポン　3点

ガンバレ破壊王！

俺のキックはK-1じゃ当たら～ん！

甘い！俺だってかわせる

なめられんな！破壊王!!

青森県／青木雄大　3点

ジェームス越中

山口県／山田さん　3点

コングラッチュレーション（モー娘・なっち調）！　紙プロ的アカデミー助演男優賞決定（でも、映画は来春公開予定）！

■みなさん、「もし今全盛期のアンドレ・ザ・ジャイアントがいたら」とか考えませんか？　ホイス？　ヒクソン？　ケアー？　コールマン？　ボブチャンチン？　誰とやっても必ず勝てると思いませんか？（愛知県・加藤達也）　4点

★かつて浅草キッドも「アンドレに勝った誰々が最強ってよく言われてるけど、それってアンドレが最強っていうことだよ」と言ってました。ボクもその言葉に目からウロコが落ちました。最強はアンドレに決定！

■『紙プロ』32号はロックウエストで行われた“『PRIDE.』とは何か？”に来ていた水戸泉（仮）さんから手売りで購入！まさか水戸泉（仮）さんに会えるとは思ってなかったので嬉しかったです。サインもらうんだった……。（東京都・オカモトキミコ）　2点

★女・子供と動物には容赦せず鉄拳をブチ込む鬼畜スピリッツ溢れる男のサインが欲しいなら、いくらでもくれてやります。

紙のK・G・B

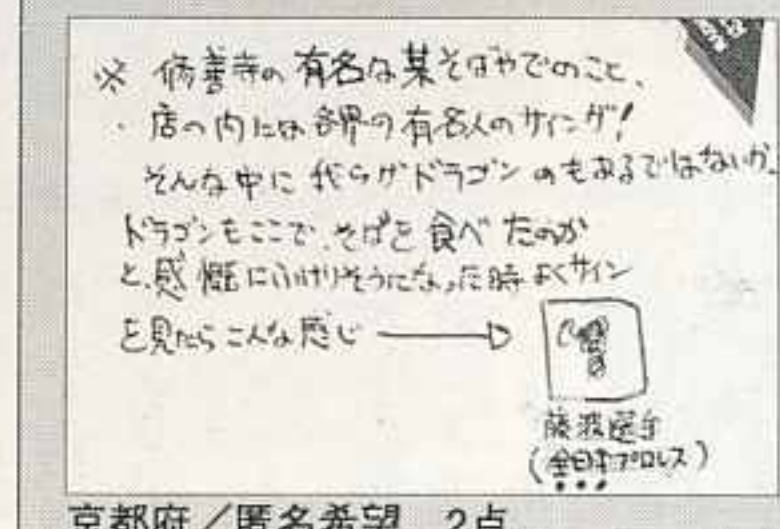
千葉県／笹山譲　3点

京都府／匿名希望　2点

このあいだ、夜中にやってた「毎度お騒がせします」（立花理佐版）を見たら、ヤングライオン時代の船木が荒川とかと一緒に奥様役の女優にフライングメイヤーをしていた。ひょっとすると、あれがアクター船木のデビュー作だったのか？（青森県／青木雄大　3点）

紙のK・G・Bとは!?

全国各地に散らばる　紙プロ　読者が、諜報部員となって、レスラーの様々なエピソードや目撃情報を編集部にリークしていただく企画です。様々な土地に残っているであろうレスラーの伝説的エピソードや、町で見かけたレスラー情報まで、幅広く情報を求む！

この間、神戸西校レスリング部出身の人と話をしました。桜庭に2戦2勝しているのですが、石沢は天才的でかなわなかったと言ってました。中西は京都一のアホで有名だったそうです。回転寿司で100皿食べた後、寮に帰ってハンバーグ定食にプロテインをかけて食べていたそうです。しかし、昔からケガ一つ無く、無事これ名馬の典型だったらしいです。（兵庫県／丸尾元　4点）

投稿＆ハガキ　その他もろもろ大募集！

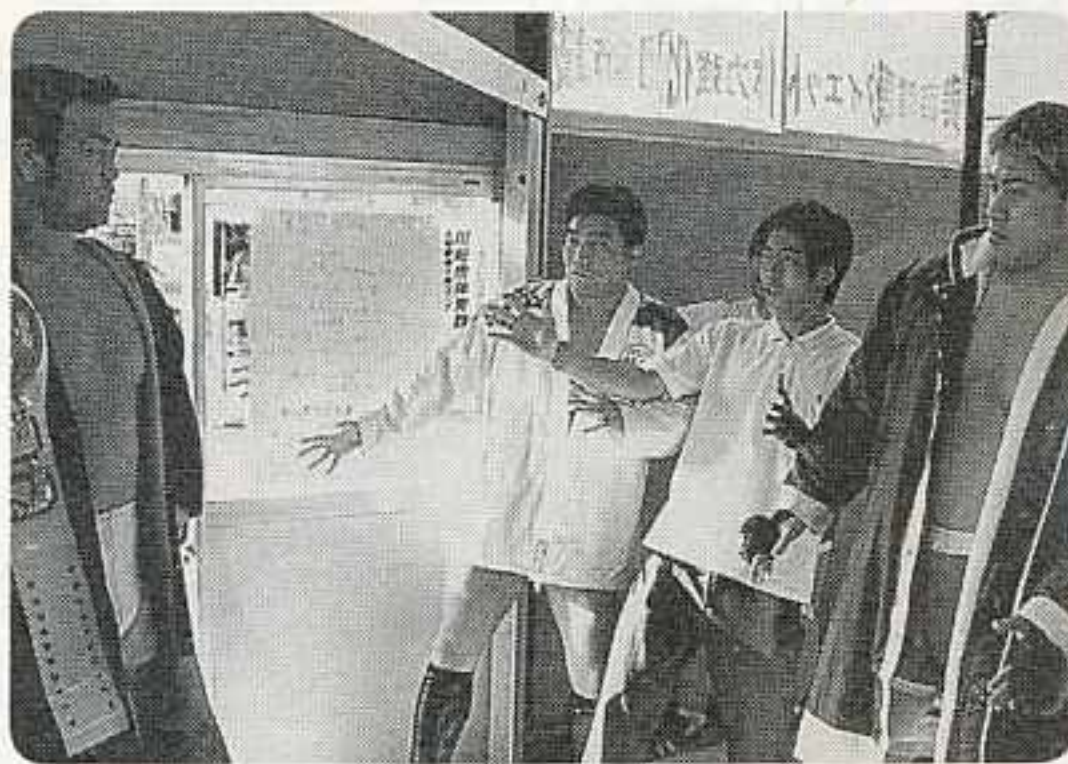
読売ピストルズ（通称・読ピス）では、皆さんからのご意見、ご感想、イラスト、投稿写真、恋文、罵詈雑言まで、様々なメッセージをお待ちしています。なんなら勝手に新コーナーを作ってくれてもかまいません。迷わず送ってこーい！　すべての宛先は…

〒151−0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702（株）ダブルクロス『読ピス放送局』係まで。

KamipuroWalker

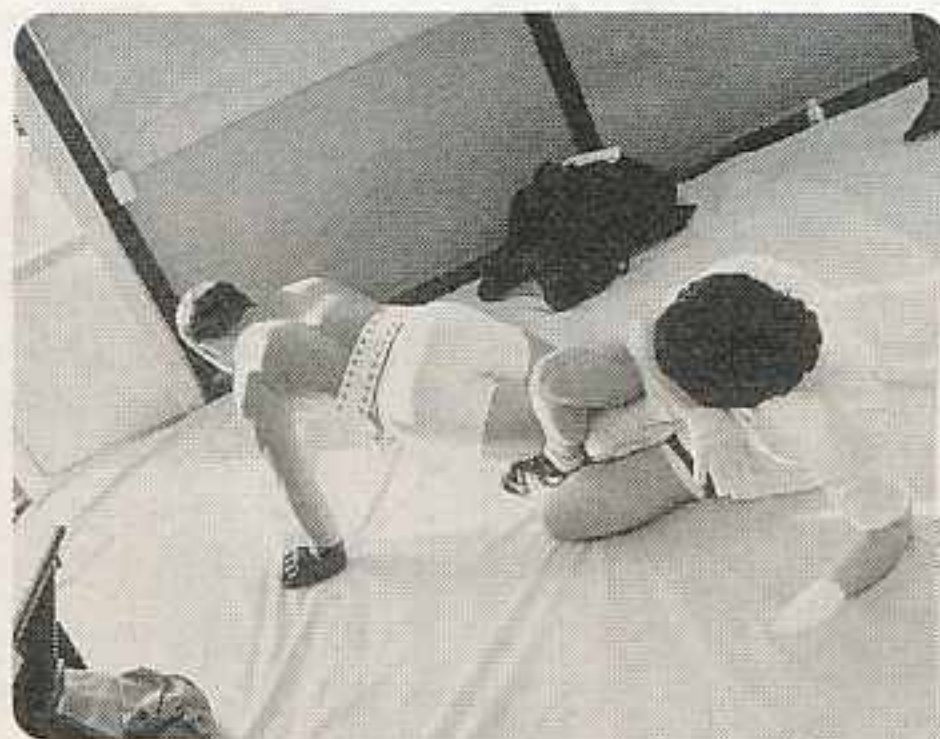
OPEN

『総合格闘技道場UWF』オープン

失踪中の入江が何食わぬ顔で道場に現れた（はにかみながら）

帰ってきた入江を見て驚く選手（大袈裟に）

動揺する選手達をよそに勝手に道場の宣伝をする入江。なんと道場名は『総合格闘技道場U・W・F』

わだかまりを残しつつ集合写真に収まるキングダム・エルガイツ勢

目を離した隙に再び失踪しようと試みる入江。それを必死に押さえる仲間達

足関十段の今成に極められながらも逃走を計る入江

なんとか振り切った入江は再び行方をくらませた

『紙プロR、NO29』で「ボクはホモじゃありませ～ん！」と絶叫した入江が同時に宣言していたのが『総合格闘技道場U・W・F』の設立計画だった。入江の度重なる失踪により道場建設は遅れていたが、11月1日遂にオープンとなった。

いつ何時でも失踪中の入江だが、道場取材の話をどこからか聞きつけ何食わぬ顔で道場に帰ってきた。すると「ウチの道場は入会金1万円。月会費は8千円。週一会員が4千円です。場所は東京都多摩市一ノ宮4－37－6（京王線聖蹟桜ヶ丘徒歩5分）。総合、柔術、足関コースなどがあります。練習時間は平日が午後7時30分から10時30分。日曜日は自由練習日で月曜が定休日です。あとウチは道場破り歓迎なんで（笑）自信がある人は来て下さい。でもボクに負けたら道場に入門してもらいます」と、一方的に宣伝するだけして再び逃走を計った。それを必死に食い止めようと押さえ付ける仲間達だったが、入江は強引に振りほどきコスチューム姿（ベルト付き）のまま夕陽に向かって疾走、そして失踪。ちなみに現在ヒクソン戦の署名は2001通に。ヒクソン戦直訴まで、あと7999通…。

そしてキングダム・エルガイツでは12月26日（火）東京・北沢タウンホールで今年最後の大会『UWF・ALIVE』を開催（試合開始・午後六時半）。出場予定選手として入江の名前が入っているが、絶賛失踪中の入江はどのような形で会場に現れるのか？ 各自注目だ！

全ての問い合せはキングダム・エルガイツ（042・331・2797）まで。

『掣圏道スーパータイガージム』オープン

押忍！ 佐山聡が設立した伝説のシューティング道場「スーパータイガージム」から10年。佐山の弟子にあたる渡部優一が「掣圏道・スーパータイガージム」を群馬県太田市（JR太田駅からひと駅の竜舞駅近く）に設立。掣圏道、『PRIDE』のレフェリーを務める仮面シューターが、プロ志望の人はもちろん、子供から中高年の方までの心身のトレーニングに応じてくれます。

道場の所在地は群馬県太田市竜舞町5563、お問い合わせは（TEL0276－49－0666）まで。

PURE BREADの新道場オープン

エンセンや、朝日昇をはじめとするプロ修斗選手が講師を務めるPURE BREADが、さいたまアリーナに新道場『GOLD'S GYM』を開設！ 始まったばかりということで初心者が多いので「これから格闘技を始めたい」と思っている人も安心して入会して下さい。

［入会金・月謝］

● **修斗・柔術クラス**
（講師：エンセン井上・朝日昇・加藤鉄史、ほかプロ修斗選手）
入会金：5000円 月謝：7000円

● **柔術クラス**
（講師：エンセン井上・桑原幸一・吉岡大）
入会金：5000円 月謝：7000円

● **レスリングクラス**
（講師：山本美憂・山本穂郁）
入会金：5000円 月謝：6000円

［お問い合わせ］
GOLD'S GYMさいたまアリーナ
TEL：048－600－3939

NEWS プロレス関連ニュース入れ込み情報

紙のプロレス RADICAL 主催イベント 暗闇プロレス道場 開催決定ーッ!!

元気ですかーっ！　燃えてるかーっ！『紙プロ』も燃えてます。とにかくなんでもいいから凄ェイベントを見せてくれということで、12月28日、新宿ロフトプラスワンにて今世紀最後の『紙プロ』主催イベント『暗闇プロレス道場』を開催いたします！　当日は大物ゲストのMr．T＆Mr．Yに加えて『紙プロ』とゆかりのあるゲストが続々来場ーっ！覚悟して見に来ーい！

●12月28日（18:00開始予定）
会場・新宿ロフトプラスワン　¥2000
[お問い合わせ]
（ＴＥＬ03-3403-5188）まで。

高田道場EZ 公式サイトオープン！

高田道場の最新情報、試合日程はもちろん、ＴＶ、ラジオ、イベント出演情報、さらにはグッズ販売までしてくれる超便利な高田道場EZ公式サイトがオープン！

●（ｈｔｔｐ：／／ｗｗｗ．ｔａｋａｄａ－ｄｏｊｏ．ｃｏｍ／ｅｚ／）
●利用方法：EZインターネット→趣味→スポーツ→The高田道場
●月額：３１５円

サクサク日記（毎週3回）、みのる君日記（ほぼ毎日）に加えて、ノブ兄さんのメッセージ（不定期）まで楽しめて、どこよりも早い『PRIDE.』試合速報（『PRIDE.』当日のみ）までお伝えしてしまうというから、ファンならずとも必見でしょう！

20世紀最後のプロレス・グッズ・フェスティバル開催！

●場所　ディファ有明イベントホール（東京都江東区有明1－3－25）
●日時　12月23日（土・祝）　10：00～21：00
●主催　（株）ディファ有明

プロレスショップ、プロレス＆格闘技団体、プロレスラー、お宝をお持ちの多数のファンが各自のブースで、それぞれのグッズを販売します。当日、真向かいの有明コロシアムでのノア初のビッグマッチ（15：00～19：00頃）を観戦に訪れる人はぜひとも来場を！

小橋健太 クリスマストークショー

●場所　神奈川・ホテルルナミラー（ＪＲor京急「鶴見」駅より徒歩5分）
●日時　12月17日　15：00～、18：30～（昼夜二部構成）
●会費　一般：８０００円　ＮＯＡＨ'ｓ　ａｒｋ生：４５００円　小中学会員：７５００円

[お問い合わせ] 一般の参加希望者はホテルルナミラー（０４５－５０８－３７３７）、ＮＯＡＨ'ｓ　ａｒｋ会員の方は（ファンクラブ事務局：０３－３５２７－５３１３）へ。

第2回アストレス募集！

来年3月卒業見込みの15才以上25才までの健康なアクションスターを目指す女性を大募集！　育成プログラムを受講するためにＪ'ｄ横浜道場の寮に住み込み、または道場と都内近郊の指定先に通える者。Ｊ'ｄのプロテスト、およびリングデビューに向けた練習を大前提として受け入れることのできる者。お問い合わせはＪ'ｄ（０３－５５６１－０５２２）まで。しめきりは来年の1月31日。

大日本プロレスファン 感謝イベント

●場所　東京ドーム・ボーリングセンター
●日時　12月24日　16：00～
●料金　ＦＣ会員　６０００円　一般７０００円
●参加選手　テイオー、山川、ＷＸ、本間、小林ほか。内容は、ゲーム、トーク、食事会など。申し込みは大日本プロレス（０４５－９３５－０８１１）まで。締め切りは12月18日まで。

「イノキ・ボンバイエ」バスツアーのお知らせ

20世紀の最後は、何がなんでも猪木の待つ大阪ドームに駆けつけたい、！　でも年末年始だから移動交通手段のチケット手配が面倒と思っていらっしゃるファンの皆様のために。会場直行のバスツアーが決定ーッ！　しかも車内ではバスツアーならではのお楽しみも準備中というか…。ツアー参加記念グッズのプレゼントも企画中というか…。それじゃあ、行きますかーッ！

●日程　12月31日（日）～1月1日（月）
●出発地　東京・横浜・名古屋・富山・金沢・岡山・広島・博多　全8主要都市
●プラン　Aプラン／会場直行バス（チケット無し）、Bプラン／会場直行バス＋スタンドS席チケット付き
●料金　出発地、プランによって異なりますというか…。
●お問い合わせ、お申し込み
【近畿日本ツーリスト株式会社　東京企画旅行支店】
担当：小池、黒田、田井まで。
ＴＥＬ．０３－５４６７－８３０６
月曜～金曜　９：３０～１７：３０
ＦＡＸ．０３－５４６７－８６７７（24時間受付）
ＨＰアドレス
ｈｔｔｐ：／／ｗｗｗ．ｋｎｔ．ｃｏ．ｊｐ／ｔｋｒ／ｆｉｇｈｔ

EVENT 格闘イベント通信

11/19 [新宿ロフト] 輝け！ 第2回 ミスヤンナイグランプリ

彼女たちのサイン入りポスターを5名にプレゼント！ P176へ急げ

『紙プロ』賞を勝手に差し上げたいさくらちゃん（上から82－56－84）。新大久保「Eめーる」に急げーっ！

東京のナイトライフには欠かせない風俗情報誌『ヤンナイ』が主催する、風俗嬢NO１決定戦！　あまりにも気になるその大会にアレクと島田レフェリーが審査員として登場するということで、待ってましたとばかりにボクが取材を敢行ーっ！　断言します！ボッタクリとは無縁の優良店からノミネートされた12人のフードルちゃんは、本当にどの子もハズレ無しです！　ボク的には全員優勝ーっ！　この子たちが風俗嬢だなんて…。素晴らしい時代に生まれたことに神さまに感謝したいで候。『ヤンナイ』さ～ん、次は『紙プロ』も審査員に加えてくださ～い！　（アビバ）

11/4 [渋谷ブックファースト] 猪木詩集「馬鹿になれ」出版記念サイン＆握手会

ぜひとも21世紀に語りつぎたい一冊『馬鹿になれ』の発売を祝うために集まったファン、その数は実に300人！　アントンに闘魂注入を願い出るファンが後を絶たず、サイン会＆握手会から一転して、闘魂注入会へ突入ーっ！女性からのお願いにも躊躇することなくビンタし、絶好調のアントンだったが、100人を越えたあたりで百瀬さん（いつもアントンと一緒に『PRIDE.』を観戦してるあの人です）がファンを気遣い、無事終了となりました。

10/26 [渋谷ロックウエスト] 島田裕二プロデュース『PRIDE』とは何か？

前回に引き続き、サダハルンバが欠席し、バトラーツの島田＆野口レフェリーと前日まで絶賛失踪中だった本誌鬼畜編集長山口の３人によって進行された『PRIDE』前の恒例イベント。『PRIDE』に関わる人たちが語っているとは思えない『PRIDE.11』の見どころの数々は、残念というか当然ながら紙面ではお伝えできません。来場者のみに、ためになる話題を提供し続けるこのトークイベントは入場無料でみなさんの来場をお待ちしております。

"DOUBLE CROSS REVIEW

本誌が誇る二大巨頭、鬼畜編集長・山口日昇とスーパーバイザー・吉田豪を除いた、『紙プロ』編集部6人衆（!?）による新連載が何の前触れもなくいきなりスタート！　飛ばし読みしたりしないで、ボク達の思いをしっかり受け取って下さい！

11.6　後楽園ホール

大阪プロレス

鉄の鉄則を誇ったＬＯＶも東郷派とバファロー派に分裂……。もう一度完全なＬＯＶを見せてくれ！（一回しか見たことないけど）　ＬＯＶイズ・ノット・デッド！

ディック東郷こそが、いま日本で一番巧いレスラーである！

突然、「方向性の違い」という、良く分からない理由で分裂してしまった大阪プロレスだが、とりあえず分裂騒動の話は置いといてほしい。11・7後楽園大会の話である。

『紙プロ』の読者で、大阪プロレスを熱心に見ている人というのは極めて少ないと思われるが、この後楽園大会、実に良かった。

書きたいことはたくさんあるのだが、文字数の都合でひとつに絞る。ズバリ言って、ディック東郷は素晴らしい！

「巧い」と呼ばれるレスラーは、小川良成、佐野なおき、外道、など数多くいるが、おそらく、いま日本で一番「巧い」レスラーはディック東郷において他ならないだろう。

で、話はその東郷が出たメインの６人タッグである。正直、そのあまりの完成度の高さには驚かされた。四天王プロレスを見ても分かるとおり、プロレスは同じメンバーでやればやるほどクオリティが高くなる。この日のメインはその典型で、毎日のように顔を合わせているからこその、尋常じゃないスイングぶりである。こんな試合を見せられると、セミに出た村浜がトペコンを失敗して「あってはならないことをしてしまった」と言いたくなる気持ちもわかる。とにかく完成度が高いのだ。

そしてよく見ると、この「究極の６人タッグ」をひとりでコントロールし、試合を作っている人間こそが、ディック東郷なんである。今回の分裂劇で、星川たちが「ディックが出るなら出るぜ」とばかりに追従したのも、この日のメインを見たら、実に納得なんである。　（ガンツ）

11.22　国立代々木第２体育館

Ｌ－１

俺の中でのビジュアルファイター・久保田有希（ライセンスナンバー１）はオランダの柔術家Ｍ・クーネンの強烈な右ストレートから腕十字を極められ無念のタップ。久保田は大事をとって救急車で病院へと運ばれた。誰か、何処でもいいから有希を出してもう一丁！

久保田有希、21世紀の女子マット界は、お前にまかせた！　シッシーに負けないぐらい熱視線！

熟成されてきた男子バーリ・トゥード（以下ＶＴ）に較べ歴史も浅く競技人口も少ない女子ＶＴは今回の『Ｌ-１』を見てもレベル的には、まだまだ熟れてはいなかった。

そう、現在の女子ＶＴは初期ＵＦＣの頃を見ているような感がある。ならば、出てこい女ホイス！　そして出てきたのは、女ホイスではなく女アリだった。これまで紙面でしか見ることができなかったモハメド・アリの娘レイラ・アリが『Ｌ-１』観戦のため日本初上陸！

メインで堀田に勝った神取が、控室前でレイラに挑戦表明すると「ボクシングならやってもいいわ」とやんわりとこれを了承。神取も「ルールは任せる。今からボクシングをやる」とこれに応じ、「来春、ボクシングルールでレイラ対神取戦実現濃厚」と各紙で報じられた。

確かに、闘うアリ娘。は見たい。しかし、レイラ側にメリットがないというのも、ボクシングでしか対戦を受けないというのもよくわかる。もちろんギャラも高いだろう。でも皆さん、ボクシングルールで神取対レイラが見たいですか？　やっぱり見たいのはＶＴ！（もしくは猪木対アリ戦ルール）。利害を超越して、誰も出来ないこと、誰もやらないことを夢としてそれに挑戦する!!　それが“ミスター女子プロレス”神取の格闘ロマンである（違う？）。何でもアリのレイラ戦目指して突き進めーーッ！

一方、もうひとつの女子総合格闘技『ReMix』。この号の発売時には既に終わっているが、果たして優勝賞金1000万円は誰の手に？　そして桜庭あつこは生きてるか？

女子総合格闘技、お楽しみはこれからだ！

（チョロ）

11.7　東京大飯店

新宿プロレス

縄で縛られ、鞭で打たれ、しまいには乳首をいじられいじられるというマット史に残る羞恥プレイを披露したサスケ社長。回を重ねるごとに過激度が増していくので毎回、見逃せない！

遊び心の極北に挑むサスケ劇場、超過激編！「プロレスラーは芸人なんだよ！」を身をもって証明！

何度も書いてきたが、『新宿プロレス』（以下、『宿プロ』）はメシ、酒、ストリップ、歌、お笑いとあらゆる欲望を満たしたうえでバッチリハードなプロレスを最後に提供している。この日も、駒沢大会を前にヒートアップするモハメドヨネと長井満也が会場中に響き渡るようなハードな蹴りで観客を大いにどよめかせていた。まあ、その数十分前にはサスケが、なぜかＳＭパフォーマンスで会場を別の意味でどよめかせていたわけだが……。

回を重ねるごとによりハードになっていくサスケ劇場だが、今回はビキニパンツ一丁で縛られたり、乳首をいじられたりで、客前で悶えまくっていた。パンツ一丁で女王様と絡み合い、腰をくねらせるマスクマンというプロレス史上類を見ない異様な光景を観客は固唾を飲んで見守っていた。「お前らがどう思おうとも、オレは遊ぶ！　文句あっか!?」というサスケ社長の姿勢にシビれまくった我々取材班は試合後にプチインタビューを敢行した。

すると、サスケはハッキリとこう言い切った。「プロレスという根本が崩れなければ何をやっても大丈夫だと思うんですよ！　試合がおろそかになったら絶対ダメだけど、遊べる範囲でドンドン遊ぼう、と」基本的に、『宿プロ』でサスケは試合を行わない。だが、「何をやっても」の部分で限界に挑戦し続けるサスケの過激な“遊び心”を『宿プロ』の重要な要素のひとつであることは間違いない！　ちなみに次回12月29日に東京・新宿の東京大飯店で開催される『新宿プロレス大忘年会』はサスケもエキジビションに出場予定！　忘れられない試合になるはずだ。

（ノブ）

君にこの思いを伝えたい……

11.23 国立代々木第2体育館

全日本女子プロレス

顔にまだ少女っぽさの残る山本聖子。でも、その実力は超凄玉級！ ボクらはこんなストロングでプリティーなビジュアル系女総合格闘家を待っていた。

聖子！
ボクは、キミに恋をした！

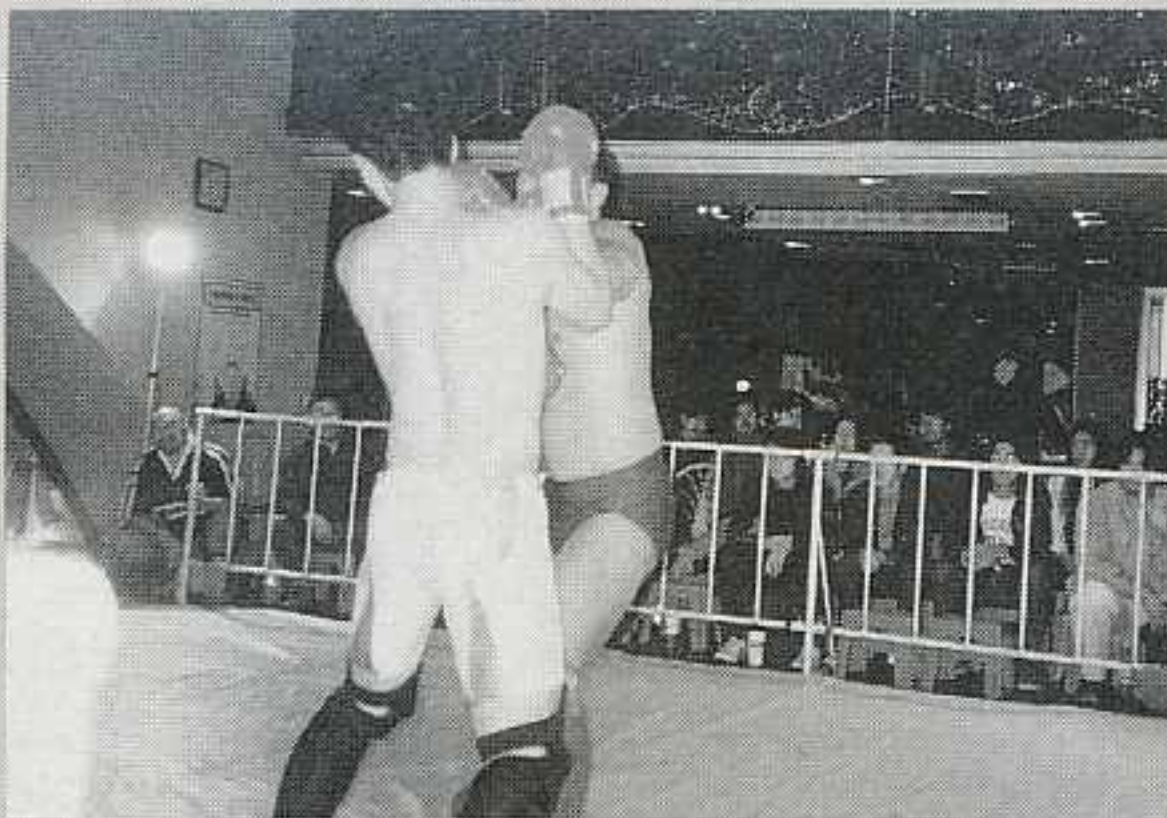
「WFUSION 2000」と銘打たれた20世紀最後の全日本女子プロレス・ビッグイベントが11月23日、国立代々木第二体育館で催された。FUSION（融合）をテーマに、プロ・アマのレスリング交流という21世紀を意識したモノから金網デスマッチまでと振り幅は、無限大！

前日に女性版総合格闘技イベント『L－1 2000』にて対戦したばかりの神取－堀田がタッグマッチでの連夜の激突、新女王・伊藤薫を中心とした金網6人デスマッチ、「キッスの世界」のソング＆ダンス、井上貴子の写真集直販とまさにミレニアム・イヤー・ファイナル・イベント！ に相応しい盛り上がりと内容。そして何と言っても、今宵の一番星はメインテーマでもあるプロ・アマ交流戦に特別参戦した山本聖子！ 現役アマチュアレスリング世界チャンピオン山本聖子が全日本女子タッグ王者ワッキーこと脇澤美穂と特別ルール（プロは打撃・関節技、アマは3分間タックル禁止）で対戦。プロのリングに慣れていないとは思えない存在感のどデカさで、ワッキーそして場内を完全に圧倒！ フィニッシュは、腕を固めての生涯初のスリーカウント！ つっ、強ぇぇぇ！ さらに、超キュ、キュ、キュート！ プロレス本格参戦は否定したが、21世紀型ビジュアル格闘ファイターの誕生を予感させてならない。

試合の幅の広さ、可能性への追求といい21世紀の女子プロレスそして格闘技の扉を開いたイベントだった。でも、聖子は、ホントかわEな～♥！

（戸高11万円）

11.12 パルパル西生田店

キャプチャー

見てみ！ この近さ。キャプチャーでは全席が超アリーナ席で観戦できる。設備は確かに質素かもしれないが、そんなことノー問題の試合内容。一度その目で確かめろ！

『ファイトクラブ』は
カラオケルームに在り！
キャプチャー北原光騎は
日本のブラッド・ピットか？

あいやぁー、ビックリしましたよ、マジで。まず場所が『カラオケルーム』ですよ、普段みんなが行くような普通の『カラオケルーム』。しかも大会名が『地下室マッチ』。ここまできたらやっぱり「三田佳子次男」と言いたいところですが、違います。地下室と言えば時代はキャプチャーの地下室マッチなんです。

もちろんリングなんかは当然なく、床の上に体育館マットぐらいの極薄マットが敷かれ、それを囲むように鉄柵があるだけ。そんな場所で人知れず（失礼）ド迫力の喧嘩ファイトが行われているんですよ。ボクはこの光景を見て、強引に想像力を膨らませ、自分が会員制のメンバーで密かに行われているファイトを楽しんでいる姿を思い描きました。そう、まさにブラッド・ピット主演の『ファイトクラブ』なんですよ。驚くことにリアル『ファイトクラブ』はカラオケルームにあったんですよ！

掌底ルールとボクシンググローブマッチと二種類がリアル『ファイトクラブ』ことキャプチャーにはあるんですが、ハッキリ言ってどっちも同じ、ボコボコのシバキ合いです。この日行われた五試合のうち三試合がレフェリーストップでしたが、「これ以上やったら、死ぬだろ！」を遥かにブッ飛び「あれ？ もしかして死んだ？」と心配するぐらいです。試合後に他の選手のセコンドに付いてる姿を見た時は正直「ほっ」と安心感を感じるほどでした。

そんな最高のスリルを感じたいなら、君も秘密クラブ・キャプチャーに来てみないか？

（エキサイティング幸田）

10.29 インディープロレス道場

ターザン後藤一派

休憩時にはおいなりさんが配られ、試合後にはリング上での記念撮影とサービス精神の旺盛さマット界で一番！ 道場生も随時募集中です。お問い合わせは（042-742-4233）へ。

究極のファミリー興行が
ここにある！
ターザン後藤一派に集え！

世間が日本シリーズや秋の天皇賞で盛り上がる初秋の日曜日。ボクは相模原のインディープロレス道場でターザン後藤一派の自主興行を観戦した。ボクの事前調査によると、相模原市の麻溝台というところがインディープロレス道場の所在地で、黄色い看板が目印らしい。地図を頼りに会場に到着すると何とそこはただの一軒家！ しかし確かに黄色い看板がそこには掲げられていた。どうやら2階はカラオケ教室らしい。普通の一軒家の一階部分を改装したと思われる会場に一歩足を踏み入れて見ると、スペースの8割をリングが占拠し、緩やかなアンビエントが流れる会場には実に39人（超満員）もの観客が詰めかけていた。普段は玄関なのであろう場所で一冊一冊を丁寧に手書きで作られたと思われるパンフレットとイラスト入りサイン色紙が販売されている光景に感動しているとハンディカラオケのマイクを持ったリングアナが登場し、入場セレモニーが始まった。会場の片隅に置かれたラジカセのフルボリュームによる音楽に乗って入場してくる選手達。観客全員がオールスタンディングでセコンド気分が味わえる見晴らしの素晴らしさは横浜アリーナを完全に越えているだろう。そしてあまりにも間近で目撃したターザン後藤の大きさは『PRIDE.10』の会場でマーク・ケアーとすれ違ったときと同じくらいの衝撃度だったと付け加えておきたい。この日ターザン後藤の感謝の気持ちとして観客全員に配られたおいなりさんの味をボクは生涯忘れないだろう。

（水戸泉）

ボクは新日本プロレスが大好きです。（日昇）

編集後記

4周年記念&ページが余っちゃったんで

え〜、わたくし堀江ガンツは、今号掲載の「藤原・山本対談」収録時、司会であるにも関わらず、薦められるがままに冷酒を（ジョッキで）しこたま飲んで（飲まされて）泥酔し、山本選手、藤原先生を始め各方面に多大なる御迷惑をおかけしたことをお詫び申しあげます。また、編集部に帰ったあと4時間にわたりトイレを占拠したこともお詫び申しあげます。さらに別の日にまたもや酔っぱらい、本誌・戸高11万円を歌舞伎町の路上でアルゼンチン・バックブリーカーの刑に処したことも、重ねてお詫び申し上げます。（ガンツ）

それにしても編集に一切タッチしていないのに編集後記を書かされるとは、一体どういうことなのか。ボクは肩書きこそスーパーバイザーだが、実は編集会議をしている横で原稿を書きながら助言したり、校正を勝手に見て直しを指示したり、幸田珍みたいに顔倒れなキャラの弱い新人に「お前は田吾作タイツを履け！」「お前はアニマル浜口ジムっぽいから、今日からエキサイティング幸田だ！」などとスーパーなアドバイスを与えているだけの男でしかない。そういうことだから、次回からは編集後記に顔を出すことはないので悪しからず。（豪）

最近になって知ったんですが、『週刊プロレス』の編集長は浜部さんという人だそうです。本誌の会長から言わせると、同業者でありながらその浜部さんという人のことを知らないということはとんでもないことらしいです。浜部さん失礼しました。一応、名前は覚えたので、しっかり顔の方も覚えておこうと思います。どこかの会場であったらご挨拶させて頂こうと思っている所存でありますので、そのときはよろしくお願いします。

ところで、大晦日の夜にとんでもないことをしようと思っています。それではみなさんよいお年を。（水戸）

「20世紀最後だよ！」また始まった。この男の気まぐれに僕らはいつも振り回される。失踪も犬殺しも妻殴りもすべて実話だ。「今から会社行くよ！」と電話で言い残して2週間失踪、おかげで前号は70ページも担当するハメに。「秋には給料上げてやる」と言ったかと思えば、秋になったら「そんなこと言った覚えはない」と怒り出す始末。そんな「人の誠意を踏みにじる」会社で働き始めて、もう4年。「人間不信」と机に書き置きして失踪したくなってきました。今年の正月は、大福餅を喉に詰まらせて救急車で運ばれないように気をつけます。（ノブ）

「死んだ魚の目はもう見たくない」と魚屋を飛び出し、単身上京して『紙プロ』に入社。長かったようで本当に長すぎた三ヶ月間はいろいろな事が……。そんなどうでもいいことより仮採用の三ヶ月が今号で終わり、ジャッジメントデイが近づいてます。給料ちょっとアップか失業か？先日も会長にいきなり「お前は生きるセンスがない」と仕事ではなく、人生そのものをバッサリ斬られ、かなりヤバいのはこれ本当。最悪思い出として破壊王からの「おまえ●●●してるだろ？」という暖かい言葉を抱いて故郷に帰ります。（幸田）

4周年記念 Photo

第2回 ヤンナイグランプリ
グランプリ受賞者
みみちゃん♥

●勤務店●
池袋西口アニバーサリー

ボクの住んでるボロアパート（築30年）は来年1月に取り壊される。ということは、12月中にそこから出ていかなければならないのだ。行くあても、引っ越しする金もありゃしない。あちこちで金を借りまくり、もう借りるあてもなくなった。

クリスマスも猪木祭りも年越しそばも長州監督風に言えば出来事でしかない。もちろん、親戚にお年玉なんかやれるわきゃないから実家にも帰れやしない。なんでこんなに借金があんだろ？車もない、ギャンブルしない、高級ソープも行ったことない。女もいないし。あぁ〜、かのんちゃんに逢いたい！（チョロ）

編集後記？オレってIT事業部じゃないの？確かに仕事は手伝ったよ、1日20時間強くらいは。例えば、原稿の配達？この寒空の下、カブで行ったよ。雨にも負けず、風にも負けず、冬の寒さにも負けずってヤツあるじゃん、あの壱万円の人が言ってた。まさに、あれ。絶対、いつか死ぬよ、ホント。あと、お使い？これも、ちょー最悪。ホント、貧乏人にだけなりたくないね。心まで貧しくなるもんな。お使い行くじゃん。消費税分、払わねーもんな。びっくりだよ、ホント。眠ぃー！オレ、もう寝るわ。（戸高）

プロレス黄金時代20世紀が終わり

“21世紀型プロレス”次々と現る！

生き残るのはどこだ!!

何もせず、手をこまねいているだけではない!!
新たな道を模索し続ける男たちにクローズアップ

「新しいものを創るためには、目の前にあるものを壊すこと!」と、I編集長も言っているように、従来通りの団体プロレスは変革の時期を迎えつつある。いまや世紀末真っ盛り、来月からはもう21世紀だ。そんな大きな節目の時代に、様々な男たちがリング上だけではなく、あらゆる局面で闘いを挑んでいる。今回はプロレスや格闘技の中に、“時代性”を取り込みつつ、新たな空間を作りだしている男たちにスポットを当ててみた。彼らこそが「プロレス」や「格闘技」といったジャンルに囚われない、新しい時代を築く“新プロレスラー”たちであると本誌は断言し、これからも応援していきます!

イラスト／ヤマグチノリガズ

12・23にむけ過激度MAX!!

秋山準

12・23有明大会は『PRIDE』とバッティング!!
純プロレスの逆襲が始まる!!

21st CENTURY WRESTLING

聞き手／坂井ノブ
interview by Sumo Nobu

撮影／松本崇
photographs by Takashi Matsumoto

秋山の毒舌エンジンが、ここ最近レッドゾーンに突入している！　その矛先は三沢や小橋だけにとどまらず、今後参戦する予定の橋本にまで向けられているのだ。それをノーフィアーが援護射撃すれば、今度は三沢がやり返すといったリング上と変わらぬ光景がマスコミを賑わせている。全日時代は寡黙なイメージが強かったが、ノアになってからの各選手の発言はリミッターがはずれ、かなり自由になった。それも、いわゆる〝プロレス用語〟ではない。嘘はつかない男たちの言葉はビンビンと心に響くことこの上なし！　そしてこれらの言葉は大河のように一気に12・23有明大会に流れ込む!!　さあ、このインタビューも一字一句読み逃すな！

――まずインタビューに入る前にお聞きしたいんですけど、昨日、専修大学レスリング部の先輩にあたる松浪健四郎さんが、国会で水をぶっかけるという事件がありましたよね。ご覧になりました？

秋山　ちょうどTVで見てました（笑）。国会でいきなりバシャでしたからね。「やっちゃったな～」という感じですね。まあ、やりたくなる気持ちは分からんでもないですけど、やっちゃいけないですよね（苦笑）。

――大学時代は松浪さんから直接、レスリングを教わったりしてたんでしょうか？

秋山　一応、コーチだったんですけど、直接手取り足取り教えてもらったということはないんですけどね。

――昔から、ブチッと来たら止まらない方だったんですか？

秋山　どうですかね……でも、根本的に格闘技やってた人間は、多少なりともそういう部分はありますからね。

――まあ、そこまでではないですが秋山さんも最近かなりの怒りモードですよね。

秋山　あそこまでは怒ってないですよ。もう、怒りを通り越しちゃってますから（冷笑）。

――あきれてるということですか？

秋山　あきれてるってことはないけど、あんまりカッカきても同じだからね。とりあえず様子を見てようかなっていう感じですかね。

――まず10月シリーズでノーフィアーと秋山さんが手を組んで、「三沢＆小橋＆田上と闘っていこう！」という流れになったのに、なぜか11月シリーズの開幕戦ですぐに別れてしまいましたよね。

秋山　タッグを組んでると、ボクとノーフィアーが闘う機会が減るからね。お互い、闘えばいいところを出せる人間が同じチームにいると、いいところが出ないわけだから。そうやって自分を奮い立たせる意味もありますね。

――三沢さんたちと秋山さん＆ノーフィアーが対立した方が、対立構造は見やすいと思うんですけどね。

秋山　見やすいけど、それが思ったよりも機能しなかったんですよ。打っても響かなかったですね（しみじみと）。

――誤算でしたか？

秋山　誤算といえば誤算だけど、見てる人達もその対立に興奮がなかったんじゃないかな？　それなら、ノーフィアーとやった方がいいのかなという感じはありますよね。

リアル最強タッグ開催決定！不沈艦、ドームで引退
週刊ゴング Weekly 12・7
突然、嵐のように…
熱風が吹く！ノアに

橋本参戦について、当初は中立的な立場だった秋山だが、橋本の一言で完全に態度を硬化。だが、11月26日のノア・吉見町で選手会と三沢社長の会談で、参戦の是非は社長に一任されることとなった。

『PRIDE』は興行的に意識しますよ 試合自体は意識することないけど

――その影響なんでしょうけど、ここ最近メインとセミの試合順が急に入れ代わったりしますよね。秋山さんやノーフィアーのカードが、セミからメインに昇格になることが多いですけど。

秋山　日頃の試合の盛り上がりは、僕らの方が三沢さんたちの試合よりも勝ってると思ってますから。

――直接、リング上で闘うというよりもリング外も含めて三沢さんたちと対決していこうということですね。

秋山　テーマを持ってやってる人間と、ただ単に目の前の人間と試合をやってる人間との違いははっきりしてると思うんですよ。やっぱり、お客さんもテーマ持って動いてる人間の方を見てる方が面白いし、わかり易いと思いますから。

――さらに、いま12月23日の有明大会に橋本選手が参戦するかどうかで三沢さんと意見をぶつけあってると思うんですが、それはのちほどじっくりうかがうとして……じつはその日は『PRIDE』のさいたまスーパーアリーナ大会とバッティングしてるんですよね。そちらの方は意識したりするんですか？

秋山　試合自体を意識することはないですけど。興行的には意識しますます（キッパリ）。今度、石澤さんに勝ったヤツと桜庭さんやるんでしょ？

――そうですね。ハイアン・グレイシーです。

秋山　石沢さんの試合も見たけどね……やっぱり難しいでしょう。プロレスってロープを掴んでブレイクがかかったら体をオープンにするでしょ？

――パッと両手を挙げますよね。

秋山　変なところでクセが出ると思いますよ。例えば、パンチがちょっと当たってフラッとした瞬間に、いつもの癖で防御を忘れて受けちゃったら、ボコボコにされちゃうでしょうね。それは体に染み付いたモノだから、抜くのは非常に難しいでしょう。

――まあ、『PRIDE』はそんなカードなんですけど、ノアは12月23日に橋本真也選手が参戦するかもしれない、という状況ですよね。『PRIDE』とバッティングしてるということを考えても、橋本選手が参戦した方がいいとは思うんですが……秋山さん的にはどうなんでしょうか？

秋山　まぁ、別に。（参戦が）あったらあったでいいし。

――小橋さんは、真っ向から「橋本選手は有明に来てほしくない」と発言してましたけど。

秋山　小橋さんだけじゃなくて選手全員がそう思ってるよ。そういうみんなの気持ちも分かるしね。まあ、ボクの場合はハッキリ言ってどっちでもよかったんですよ。あとは三沢さんがどういう結論を出すかだけど、それはそれでいいなとは思ってたからね。

――実際、橋本さんが来る来ないという話になり、来年1月の契約更改で新日本から武藤さん蝶野さんも含めてかなりの選手が抜けるんじゃないかと言われてますよね。その人達がノアに乗り込んできたら面白い闘いになると思うんですよ。『PRIDE』も霞むぐらい大きな話題は呼びますよね。

秋山　まあ、蝶野さんたちにしてみれば、噂を出してると新日との契約更改に有利だろうしね。

――あっ、その可能性も大いにありますね（笑）。こういうスキャンダラスな事件があると、少なからず話題は持ってかれますよね。

秋山　それは仕方ないでしょ（あっさりと）。例えば橋本さんが来たとすれば、いくらボクと小橋さんがやっても話題はそこにいくから。ただ、そのときに橋本さんや新日本のファンも会場に来るし、そこでボクらの試合で、他との違いを分かってもらえればいいっていう気持ちだよね。そこで、「なかなか面白いじゃねえか!!」って思ってもらえれば、ファンが増えるわけだから。ボクらに対して損はないよね。

――いい方向に転がりますよね。

秋山　ただ気持ち的にね、他の選手は「今年いっぱいは俺らがやってきたんだ」という自信があるから、話題がそこだけに集中すると引っ掛かるかもしれないけど。まあ、今年いっぱいは三沢さんも「ウチだけでやる」って言ってるし、来年からだと思いますよ。

――橋本さんに関してはどういう印象をお持ちですか？

秋山　う～ん、最近の橋本選手の発言を聞くと……自分が話題の中心になって来ているから、ちょっと前の苦労を忘れてんのかもしれないね。

――えっ!?　どんな発言ですか？

秋山　（急に表情が変わり）今週の『ゴング』（NO．844）で、橋本さんが「やりたければ実績あげて来い」（実際、誌面では「まあ色々と言うんであれば、実績を上げていくことですね」と発言している）とか言ってたんですよね。それを聞くと、「それじゃいいや」ってね。ハッキリ言って、あの人は小川（直也）戦でプロレスの地位を落とした人でしょ？

――プロレスが落ちましたか!?

秋山　いや、プロレス自体は落ちてないよ。ただ、本人が落ちただけでね、本人が！（怒）。本人が落ちて、引退ってことになって、何だかんだで、1から始めるつもりで第1試合で藤波（辰爾）さんとやってね。こうやって、話題の中心になったら、ボクに対して「実績上げてこい」と言う。どういうことだろうね!?（怒）。だって「ゼロからのスタート」って意味でZERO―ONEなんだよね？　そんな人間にいきなり「実績上げてこい」って言われても、俺はどうしたらいいかわからないよ。

――相手がゼロだけに（笑）。

秋山　引退してから復活するまでも、いろいろあったよね。折り鶴だっけ？　あれが茶番なんだなって思ったね。ホント、アホかっつーの！（怒）。

――ア、アホ！　そ、そこまで言いますか!!

秋山　お客さんとか見ている人達に媚び売ってきた、ここまでのプロセスが全部作ってるモノってことでしょ？　全然ゼロじゃない。作りモノをしょってる人達とはあまりやりたくないね。そんなんなら、もういいよ。もし、社長に「やれ！」って言われても、俺は結構！　別にやらなくてもいいし、実績上げる必要もないしね。今のこのボクとやるんだったらいいけど、「俺とやるために実績上げてこい」ってね。そこまで、大したモンじゃねえよ！（怒）

――い、いや～、そこまで言い切ると、じつに気持ちいいですね。いや、プロレスラーとして、その怒りは正しいと思います。で、橋本さんは対戦相手として三沢さんの名前を挙げてましたよね。

秋山　それなら二人でやってりゃいいじゃん（吐き捨てるように）。

――まあ、三沢さんもそのつもりなんでしょうけど。

秋山　（なおも怒りはおさまらず）だってね、蝶野さんとか他の選手にだって、「実績を上げて来い」なんて言われたこと一回もないよ。そんなこと言うヤツとは、オレやりたくないね！　ホント、もっと凄い人とやるよ。変な話ね、天龍（源一郎）さんとかに言われるなら、オレも多少は考えるかもしれないけど、橋本さんにはまったくピンと来ないね（怒）。辻ツマが合ってないにもほどがある。

――な、なるほど、橋本さんの印象はよくわかりましたので、ちょっと話題を変えましょうか……有明コロシアムでは、小橋さんとの旗揚げ2日目（8月6日）以来の再戦となりますね。

秋山　そうですね。小橋さんが、今いる選手の中で一番やってて面白いし、やりがいありますよ。

――最近の小橋さんはコスチュームもオレンジから黒に変わったんですけど、それ以上に以前にも増して怒りのオーラがビンビン伝わってきて、コメント聞いてても恐いなって感じますよ。

秋山　まあ、ボクはそれを仕向けた人間だ

大森ノア離脱も

ノーフィアーは三沢を徹底批発

秋山改めて橋本批判

過激な発言で連日、新聞紙上を占拠する機会も増えた。もちろん、原動力は秋山＆ノーフィアーだ！

コメントの中から怒りを拾え!!
三沢語録

三沢光晴は、嘘をつかない。今回のインタビューで、秋山は「毒」という言葉で表現した刺激的なコメントや挑発的なコメントも、まず口にしないタイプである。

だが、そんな三沢に対して秋山＆ノーフィアーは、あらゆる手段を使って揺さぶりをかけている。リング上では三沢はもちろん、小橋や田上やベイダーとも激しくやりあっているが、もうひとつの強力な武器〝言葉〟による攻撃の標的は完全に社長である三沢に絞られている。それはノアを活性化していくための手段であるのだが、彼らの言うことも一理ある。そんな「口撃」に三沢はどのように対応しているのだろうか？　ここ最近、三沢が残したコメントを拾い集めてみた。

ただ、三沢の場合「言葉ではプロレスしない」というポリシーの持ち主だけに、言葉だけですべてを伝えるのは不可能だ。リング上の三沢にこそ、秋山への回答が隠されているのだから。この発言を読んだ上で、観戦に行くことも本誌はお薦めしたい。

▼10・8　横浜文化体育館
大森が小橋を裏切ってノーフィアー再結成
（三沢さん自身が動く時期に来たということですか？）
「まあ、きたようなもんだね」
※秋山＆ノーフィアーのやりたい放題な立ち振る舞いに、クールな三沢もさすがに重い腰をあげた。かといって、「やってやる！」という直球勝負なコメントは出さないのが三沢流。

▼10・20　岩手県営体育館　初シリーズ終了後
「オレはいつも別に（世代は意識）しないからね。そういう余計なものに気を使ってるといい結果は出ないから。リングの中がすべてだから。（中略）いまの時代にそれが合ってるとは限らないけどね、彼らは彼らのやり方で突き進んでみればいい」
※三沢＆小橋＆田上vs秋山＆高山＆大森のノア頂

話題の中心になったら「実績あげろ」って？ どういうことだろうね!?（怒）

からね。

——はっきり言って秋山さんのプロデュースによるところは大きいですよね。

秋山　もちろんボクだけの力とは言いませんけど、「ボクがこうやれば、小橋さんはこうなるだろう」という考えはありましたからね。ボクの範疇からはまだ出てないですよ。

——若手選手の大きな変化も秋山さんが火を付けた形ですよね。

秋山　最近少しずつ芽が出てきたかなとは思いますよ。

——先シリーズは、特に変わった感じがしましたよね。

秋山　そうですね。若手もみんなから注目を浴びるようなところで試合をしていかないと。ボク、ノーフィアー、小橋さんとかその辺に絡ませていかないと、いくら頑張るといっても下の方でチョコチョコやったって、結局、誌面には載らないわけだから。

若手選手たちを積極的にメインイベントで起用して注目を集めることによって、レベルアップを図っていく秋山の方針は着実に実を結びつつある。

——11月シリーズでは力皇さんのシングルマッチ5番勝負が組まれてたわけですけど、図らずも対戦した上位の選手の個性が浮き彫りになりましたよね。秋山さんは、三沢さんや田上さんの試合を非常に辛口で評価してましたけど、あれはどういうことなんでしょうか？

秋山　リキ（力皇）はスゴいと思いますよ。普通の若手なら、あれでいいんですよ。例えば、リキが22歳で5番勝負をやるというならね。三沢さんや小橋さんがやってることはあれで十分だと思いますよ。でも、リキは28歳なんですよ！　ボクの3つ下ですよね。それなら、ボクは3年前の自分と同じレベルに設定してあげなければいけないと思うんです。

——3年前というと、バーニング結成して世界タッグのベルトを巻いた頃ですよね。

秋山　それぐらいに設定を置いてあげないと、リキの上がってくるスピードが落ちるんじゃないか、と。普通の若手と同じ扱いだと周りがそういう目で見るでしょ。

——たしかにそうですね。

秋山　例えば、三沢さんとの試合（11月16日後楽園ホール）を見て、お客さんは「力皇はあそこまでなんだ」って感じたと思う

上対決を制した直後のコメント。たしなめつつも、新世代の方向性を基本的に容認している。こうして価値観がぶつかり合うことを三沢は頭ごなしに否定しない。ノアの活気はこうした部分からも生まれている。

▼11・4　ディファ有明　秋山の「有明のメインはオレがもらう」要求に対して

「オレは別に1試合目でも2試合目でもいいんだから」

※「イナズマッ！とか遊んでる場合じゃねえだろう。ああいう遊ぶスタイルがWAVEのスタイルか？」「しらけた発言ばっかりしやがって」とこのあたりから高山もハードな突っ込みを入れまくる。それにしても、1試合目はさすがにないだろうという気はするが……試合順に関係なく観客を満足させてみせる、という自信の裏返しからきた発言だろう。

▼11・8　山形市総合スポーツセンター　秋山が試合後に乱闘をしかける

「秋山がやってることを悪いとは言わないけど、オレはオレの道。思うことは一緒でもやり方は違う」

※決して、秋山と三沢の対立構造が決定的に溝が深いものという印象を受けないのは、このような三沢の発言によるところは大きい。ならば、「思うこと」とはノアを盛り上げることに他ならないが、その「盛り上げる観」が衝突しているというわけだ。三沢自身は、一旦リングを離れるとラジオやテレビやイベントで、〝下ネタ大王〟ぶりをいかんなく発揮しているのは読者のみなさんもとっくにご存じだろう。決して、三沢はつまらないしらけた男ではないのだが、「プロレスはあくまでリング上でするもの」という哲学を貫いている。

▼11・12　愛知・豊田市体育館　ノーフィアーに試合後、襲われる

「カッカさせるにしてもやり方が違うよ。オレも言われっぱなしでいるほどバカじゃないから、言ったことを後悔させてやる」

※「テメーの居場所は社長室のイスだけだ」「ハワイ旅行なんて行ってる場合じゃねえだろ」と突っ込まれ続ける三沢。11月6日には「ノアがこのまま変わらないのなら、アメリカに行くぞ」と大森も爆弾発言。ここに来て、三沢の堪忍袋の緒も切れつつあるのがわかる。三沢の報復は当然、リング上であろう。こうして、三沢の怒りの導火線には火がついた。あとは爆発するだけだ！

んですよ。でも、そう見られた印象というのは、かなり残るものなんですよ。それも、会場は後楽園でしょ。

―「力皇、どーしたぁ！」って声も結構飛んでましたね。

秋山 試合をすぐ終わらせようと思えば出来ますよ。でも、あらゆる会社の状況をインプットすれば、そういう試合はできないと思うんですよ。

―具体的には、どういうふうにしたらいいんでしょうか？

秋山 （大会ポスターを指さしながら）ボクは、今のリキには、あのポスターに出てる選手のすぐ下の位置くらいに来てほしいんですよ（ポスターに登場しているのは三沢、小橋、秋山、田上、ベイダー、ノーフィアー、小川）多聞さんとかそのへんのポジションになると思うんですけど。ボクが多聞さんに勝とうと思ったらあれぐらいの技（秋山vs力皇のフィニッシュは必殺フロント・ネックロックだった）を繰り出さないと勝てないですよね。そのレベルの選手と同等の扱いをするには同じレベルの技を出せないといけないから。そうすれば「力皇は秋山にあそこまで出させるんだ」というイメージが、ファンに植え付けられるでしょ。実際、そこまでしなくても、他の技で大丈夫だとは思うんですよ。でも、そこまで出させたということでリキの評価が少しは上がるんですよ。

―同じ負けるにしても価値が違うということですよね。

秋山 その設定が、三沢さん達はできてなかったんじゃないかな。「若手の壁になる」ってよく言うじゃないですか。でもね、それが〝いい壁〟だったらいいんですけど、〝悪い壁〟というのもありますからね。

―その違いは何なんですか？

秋山 若手は何度も壁にブチ当たって行きますよね？ それを跳ね返しても、何度か闘っていくうちに段々とお互いの距離が縮まってくるような壁だったら、それは〝いい壁〟ですよ。ある程度、壁の側がそれを認識してて、やられた側も自信が付くように仕向けるような壁が〝いい壁〟。〝悪い壁〟というのは、先輩としての度量の問題ですね。

―度量ですか？

秋山 例えば、ボクと力皇が闘うとします。ボクだったら、力皇を中心に置いて試合を考えますよ。力皇がどうすれば注目を浴びるかって考えてね。その中で、力皇の周りをボクが考えるんです。

―なるほど、なるほど。

「三沢さんや田上さんは上の選手と、下の選手の扱いが全然違う」と秋山は厳しく指摘した。実際、両者とも余裕を感じさせる試合ぶりだった。三沢は試合後に「返す気持ちは伝わったけど」と語った上で、「基本の積み重ねを忘れてるね」と力皇評。もちろん、実力差もあるのだろうが、力皇5番勝負では結果的に上位選手のプロレス観の違いも浮き彫りになった。

JUN AKIYAMA

秋山 自分を中心に考えて、その周囲に若いヤツがいるような考え方だとダメですね。

―つまり自分中心か、若手中心かということですね。

秋山 もし、中心にボクが入って「俺はこうしたいから、リキはこうしろ！」という考え方では、あまりよくないよね。ハッキリ言って、ボクならあいつの動きなんかすべてコントロール出来ますからね。あいつがバテてたら、自分から場外に出て、あいつが回復するのを待ったりできるし。それでボクとの試合でリキは13分間、ダレずに動きまくった。それは本人にも自信になってると思いますよ。三沢さんの試合は、力の差は見えたけど……。

―つまり、三沢さんや田上さんが「悪い壁」だったと？

秋山 田上さんは、あんまり考えてないと思うんですよ。まあ、多少は考えてるとは思いますけど。三沢さんの場合は、できたけどやらなかったんだろうね。だから、見る人にも力皇の印象は何もなかっただろうし、本人の自信にもならなかったと。つまり、5番勝負の意味もなかったということ。ただ単にシングルマッチを5つ並べただけのものになってしまった感があるよね。それは、リキだけの問題じゃない。相手側がリキの5番勝負の意味をちゃんとインプットしないで前に立つとあんなふうになるんですよ。叩き潰すんなら叩き潰すなりのやり方があると思うんだけど、全部中途半端だった！（キッパリ）。

―き、今日の秋山さんのお話を聞いていると、ノアの問題点がたくさんが挙がってくるんで、ボクは正直言って「大丈夫かな」って不安になってきちゃいました。

秋山 いや！ ノアになっていいこともたくさんありますよ！ でも、ボクは悪いことしか言わないから（ニヤリ）。

―わ、悪いことだけですか!?

秋山 悪いことを言って、それを改善していかないと意味がないから。いいことは言わないですよ。そりゃ、いいことだっていっぱいありますけど。

―じゃあ、少しいいことも挙げていただけますか？

秋山 それは、試合のことですか？

―試合のことも、それ以外のことも両方お願いします。

秋山 試合に関しては、昔はできなかったことを若いヤツらが自分のスタイルに取り入れてできるようになったことですかね。

―具体的に言うと？

秋山 悪いことかもしれないけど、金的攻撃をやるとかね。金丸（義信）は、あいつのスタイルにうまく取り入れてやってますよ。それは昔にはなかったことだから。「絶対やっちゃダメ！」って。だいたい、昔はギブアップで勝つのもダメだったからね。

―「ダメ」だったんですか？

秋山 「ダメ！」とは言われてないけど、代々そうなってるからね。それは暗黙の了解だから。ワン・ツー・スリーの方がやっぱり

心より御冥福をお祈りいたします（編集部一同）

百田義浩氏死去

ノアの旗揚げに尽力した取締役でもあり、力道山の長男でもあった百田義浩氏が11月22日午後7時50分、東京の慶応病院で肝不全のため亡くなった。享年54歳。もともとリキ・エンタープライズの役員として手腕を振るった後、リングアナウンサーとして全日本プロレスに入団。昭和55年にはプロレスラー・デビューも遂げた。今年、三沢社長らとともにノアを設立し、取締役も兼任していた。27日には通夜、28日には告別式が父・力道山の眠る池上本門寺でしめやかに執り行われた。写真中央は、喪主の長女・百田玲美さん。葬儀委員長は三澤光晴社長が務めた。

いいこともたくさんありますよ！ただボクは悪いことしか言わないから

21st CENTURY WRESTLING

キレイでしょ？ それにサブミッションを狙うとお客さんが一瞬シーンとなるし。

―見えづらいという問題はありますよね。

秋山 ノアにそういうのはないから試合の幅は広くなったしね。

―会社としてはいかがですか？

秋山 グッズ、契約、待遇にしてもいちいち説明はできないけどいっぱい素晴らしいモノがあるから。契約書一つにしても全日本の頃とは全然違う！

―全日本って契約書はなくて信頼関係だけで成り立ってるようなイメージがありましたけど、契約書はあったんですね。

秋山 もちろん！ そりゃ契約書はありますよ（笑）。まあ、あんまり良くはなかったですけど（キッパリ）。でも、それもボクの考えていることだからね。三沢さんの考えは違うだろうし、小橋さんの考えもまた違うだろうしね。

―そういえば旗揚げ戦のとき、小橋さんの「プロレスの本質はリング上の闘いにある」という言葉を受ける形で、秋山さんが「リング上の闘いだけではなく、あらゆるモノに闘いを挑んでいきたい」とおっしゃってましたよね。現時点で、秋山さん自身は〝あらゆるモノとの闘い〟に手応えは感じてますか？

秋山 それはボクの場合、マスコミ使っていろいろ発言をするという部分ですね。そういうのは絶対必要だと思うんですよ。テレビ中継がないんで、それはなおさら重要でしょう。それしか武器がないっていうこともあるし。スポーツ選手としてリングの上だけでやってればいいってことは絶対ないと思うから（キッパリ）。

―それが三沢さんや小橋さんたちと、秋山さんの大きな違いですかね。

秋山 最近、三沢さんがボクにグチグチ言うところはそこなんだけどね。

―ずっと秋山さんに反論してますよね。

秋山 （また急に表情が変わり）「リングの上だけで見せればいい」「日本人は頑張ってるヤツが好きだ」とかね。それはそうかもしれないけど、それをやってたら全く新聞とか雑誌に載らねえって！ リング上だけでいいならその方がいいですよ、確かに楽だしね。でも、マスコミからノアの記事がなくなっちゃうよ。

―たしかに面白い発言がないと、ボクらマスコミも困りますね。

秋山 ある程度、毒というかキツいことを言わないと載らないでしょ？ 他の団体は、言葉を武器にバシバシ撃ってきてるのに、こっち両手を上げて「どうぞ撃ってください」なんてやってたらアホだよ！ 向こうがピストルできたら、こっちも撃ち返すぐらいの気持ちじゃないとかなわないよね。三沢さんが言ってた「スポーツ性重視」もいいけど、言葉も必要だと思うよ。できないならできないでいいから、やってる人間達を認めろって。

―いや～、認めていなくはないと思うんですが……。

秋山 （なおも怒りは収まらず）だったら、ノアになってからのすべての記事の中から、ボクやノーフィアーが載ってる記事を全て削除してくれ。それで、どれくらいノアの記事が残ってるか、重さで比べてみろって！ もう、答えは明確だよ（怒）。

―（ビビリながら）い、いや～、凄いですね、今日の秋山さんは。

秋山 ボクはね、プロレス的な運動神経では三沢さんにかなわないと思ってるよ。かなわない！ でもね、三沢さんは、ボクのやってることを「俺もやればできるんだよ」と思ってんだよ。ボクは、そこが腑に落ちない。できるんなら、やってみろよ！

―ここ最近の秋山さんの発言は、常に何かしらの対立構造が出来上がってるから聞いてて非常に面白いですよね。三沢さんたちが結成したWAVEって、何だか大人な感じの方が集まってる感じですよね。

秋山 大人な感じって、動けそうにない連中を集めてるだけじゃん!!

―いやいや（笑）。口では、プロレスをしない人達という意味なんですけど。だから、秋山さんはやりづらいだろうなと思います。

秋山 それほど、やりづらいことはないよね。試合やってるのに、「俺らを巻き込むな」って言われたらね（苦笑）。小川（良成）さんくらいですかね。WAVEで引っ掛かってくれるのは。小川さんがキーポイント。小川さんが動かない時は、もうダメだってことでしょう。

―三沢さんが超世代軍を結成した頃は、（ジャンボ）鶴田さんに「あの人は手を抜いてる」と言って闘いを仕掛けていきましたが、あの状況に似てるなとも思いましたよ。三沢さんが手を抜いてるというわけじゃなくて、鶴田さんも打ってもなかなか響かなかった人でしたもんね。

秋山 年とったら、誰でもそうなるんですかね？ ボクは年とっても、響くようにし

今後の大会スケジュール

今年最後のシリーズ、絶賛開催中！

『The Final Navigation2000』

12月7日（木）秋田・大館市民体育館（18：30）
12月8日（金）仙台・宮城県スポーツセンター（18：30）
12月10日（日）静岡・アクトシティ浜松（15：00）
12月12日（火）茨城・鹿島市立体育館（18：30）
12月13日（水）神奈川・伊勢原市体育館（18：30）
12月15日（金）新潟・新潟市体育館（18：30）

何かが起こるビッグマッチ前日大会！

『ONE NIGHT NAVIGATION』

12月22日（金）神奈川・川崎市体育館（18：00）

超ド級のカードで『PRIDE』をブッとばせ！

『GREAT VOYAGE』

12月23日（祝）東京・有明コロシアム（15：00）

聖なる夜に20世紀のノアを見納め！

『Millennium Holiday in DIFFER』

12月24日（日）東京・ディファ有明（17：00）

正月からノアは全力疾走します！

『First Navigation of 21st. Century』

1月6日（土）東京・ディファ有明（15：00）
1月7日（日）東京・ディファ有明（15：00）
1月8日（祝）静岡・ツインメッセ静岡（14：00）
1月11日（木）高知・高知県民体育館（18：30）
1月12日（金）香川・高松市民文化センター（18：30）
1月13日（土）大阪・大阪府立体育館（17：00）
1月14日（日）博多・博多スターレーン（17：00）
1月15日（月）山口・海峡メッセ下関（18：30）
1月16日（火）岐阜・岐阜産業会館（18：30）
1月18日（木）東京・後楽園ホール（18：30）
※カッコ内は試合開始時間です。

ノアのオフィシャルHPがスタート！

ノアのオフィシャル・ホームページが11月1日よりスタート！ 大会、イベント告知のほか、12月からはオリジナルグッズやチケットのオンラインショッピングの他、一部会場ではなんと！ 当日券の予約も可能となるのだ！ また、11月下旬からは、オリジナル壁紙やスクリーンセイバー等、デジタルコンテンツのダウンロードもスタート。特設チャットやメールマガジンも予定しています。さあ、急いでアクセスしよう！
http://www.noah.co.jp

ときますよ。

――わ、わかりました。じゃあ最後に、旗揚げからノアに点数をつけるとすると100点満点でどれくらいですか？

秋山 色んな要素があるからスゴく難しいですけどね。総合して、70点くらいじゃないですかね。

――マイナス30点が、今日語って下さった点ですね。

秋山 それは、いろんな部分があるよ。ただ、逆に、色々問題あった方がいいと思いますけどね。問題があった方が、その問題に対してみんな動くんでいいと思いますから。

【00年11月22日、東京・ノア事務所にて収録】

インタビュー後記■こうした秋山の激しい発言が、連日新聞紙上を占拠しているわけだが……秋山の挑発的な言葉の裏には「ノアのために」という姿勢は一貫して感じられる。対する三沢も、要所要所でキッチリと反論はしているだけに、三沢vs秋山という対立構造は引き続いていくに違いない。「ノアは全日本と大して変わってないんじゃないか？」という声を封印するには十分すぎるこの舌戦、今後の展開も見逃せそうにない。こうした姿勢は団体全体に刺激を与えており、若手選手も著しく意識が変化している。というわけで、最後に注目の若手選手をまとめて紹介します!!

JUN AKIYAMA

あきやま・じゅん■本名・秋山潤（あきやま・じゅん）。昭和44年10月9日、大阪府和泉市出身。学生時代は専修大学レスリング部で活躍。同期にはリングスの高阪ＴＫ剛（柔道部）、先輩には中西学、遡れば馳浩、長州力らがいる。全日本プロレス入団後、平成4年9月17日、vs小橋健太戦でデビュー。早くからメインに起用され、四天王に続く存在となり、一時は秋山を加えた五強時代とも言われた。ノアでは旗揚げ2連戦で三沢、小橋、田上を連破して一躍新時代のエースに名乗りを上げ、リング内外で大暴れ中。188センチ、110キロ、ＡＢ型。

成長著しい若手たちに注目せよ!!

秋山のリードによって若手選手たちはかなり変わった。だが、何がどう変わったのかは会場に行かないとわかりづらい部分もあるだろう。活字よりも会場で見る方がよいのだが、どーですか、この生き生きとした顔は？

※カッコ内は誰と組むことが多いかを書いたもの。こうして対立の図式が自然発生的に出来上がっている。ただし結局のところ全員がライバル意識を持ってしのぎを削っているのだ。

力皇猛（小橋派）

元・幕内力士が現在急成長中！　泉田と森嶋から白星をゲット。チョップやラリアットの破壊力は注目だ！　表情が抜群にいい！

森嶋猛（秋山派）

力皇に負けない立派な体格を誇る。先を越された力皇に激しく嫉妬。「会社は力皇にチャンスを与えるけど、フザケンナですよ！」

丸藤正道（三沢派）

天才的な飛び技とインターハイ出場のアマレス技術で才能を見せつける。三沢率いるＷＡＶＥ所属、秋山派とは一線を画す。現ＷＥＷタッグ王。

金丸義信（秋山派）

小憎らしいアピールと身軽な飛び技で相手を挑発して惑わす。秋山も信頼を置く。ジュニアの体格だが抜群の受けでヘビー級とも渡り合う！

志賀賢太郎（秋山派）

一時は秋山からは厳しい指摘を受けていたが、最近は感情が爆発して絶賛変身中。関節技を主体にしたスタイルはノアの中でも異彩を放つ。

橋誠（秋山派）

青柳館長や斉藤彰俊との絡みでは一歩も引かない気の強さを見せている。秋山とのシングル対決でも「今日は合格」と言わしめた！

小林健太（小橋派）

運動能力の高さは試合を見れば一目瞭然！　師匠・小橋とともに上位で闘う機会が増えてきた注目株。女性人気も高い。

12・23ノアvs『PRIDE』は
ノアが勝つ!!

プロレス・ファンの間では、「12・23はどっちに行く？」なんて話題で持ちきり……かどうかは知らないが、とにかく今月で最も注目なのは、ノアvs『PRIDE』の興行戦争である。10・9の新日本vsRINGSに続く「純プロレス」vs「新プロレス」の第2Rになるわけだが、すでに闘いのゴングは鳴っている。

まずはチケットの販売状況だが、『PRIDE.12』は2万5000枚のチケットがあっという間に完売した。凄すぎるぞ、DSE！ いま最も波に乗っている時期なのだろう。一方、ノアの有明大会も高い席から順に完売となっており、順調に売り上げは伸びているようだが、勢いだけなら『PRIDE』に軍配が上がる。

では、話題の面ではどうだろうか？『PRIDE』はヒクソン・グレイシーの『コロシアム2001』参戦が決定的となったり、大晦日の猪木イベントが話題をかっさらったりと周辺ばかりが騒がしく、思ったより『PRIDE』自体に話題は少ない。まあ、チケットが完売しているのに無理矢理に話題を作っても意味がないのもたしか。それにしても、不思議なほどにおとなしい。一方、ノアの話題は尽きることは知らない。新日本を解雇となった橋本真也の参戦問題で団体を挙げての大論争が勃発。そこに猪木や藤波が横槍を入れてきて、グチャグチャな人間模様を描き出している。話題の面では圧倒的にノアに軍配が上がる。

こうなると、あとは当日の勝負！ どちらが、どれだけクオリティの高い試合を提供してくれるのか、にかかってくる。

ここで賢明なる本誌読者にお聞きしたい。最近、いわゆる「新プロレス」にしか幻想を抱けなくなったファンもすっかり多くなったと聞くが、この状況でも「純プロレス」を楽しめないだろうか？ 橋本解雇までのゴタゴタや舞台裏のドロドロは下手なバーリ・トゥードよりも全然シュートだ。連日、新聞紙上を賑わせるノア―橋本―新日―猪木周辺の駆け引きは久々にハラハラした緊張感を与えてくれる。

「すべてがズサンだ！」と三沢社長を一刀両断する大森隆男。

「デブの入る隙間はねえ！」と吠える高山善廣。

「ノアはこのままでは潰れる」と失礼きわまりない予言をブッ放すアントニオ猪木。

「どこがゼロなんだ!?」と噛みつく秋山準。

「コメントはない！」と不機嫌そうに語る小橋建太。

「ノアにお願いなんて情けない」と余計な口を挟む藤波社長。

とにかく各自の思惑が、勝手に錯綜してとんでもない状態になっている。

渦中の破壊王は、今号のインタビューを読んでもらえればわかるとおり、相変わらずの呑気さ＆豪快さ。「一つ、人の生き血をすすり……」と桃太郎侍調に永島＆一部新日フロント批判を繰り広げる。

すべての決定を下すことになった三沢社長は熟考を重ね、意見調整にも気を使い、独断はせず、慎重にことを進めている。

もう大変なオールスターキャストである。こんなにいっぺんにマット界のオールスターが動き出した時期は、ここ10年間記憶にない。（はず）

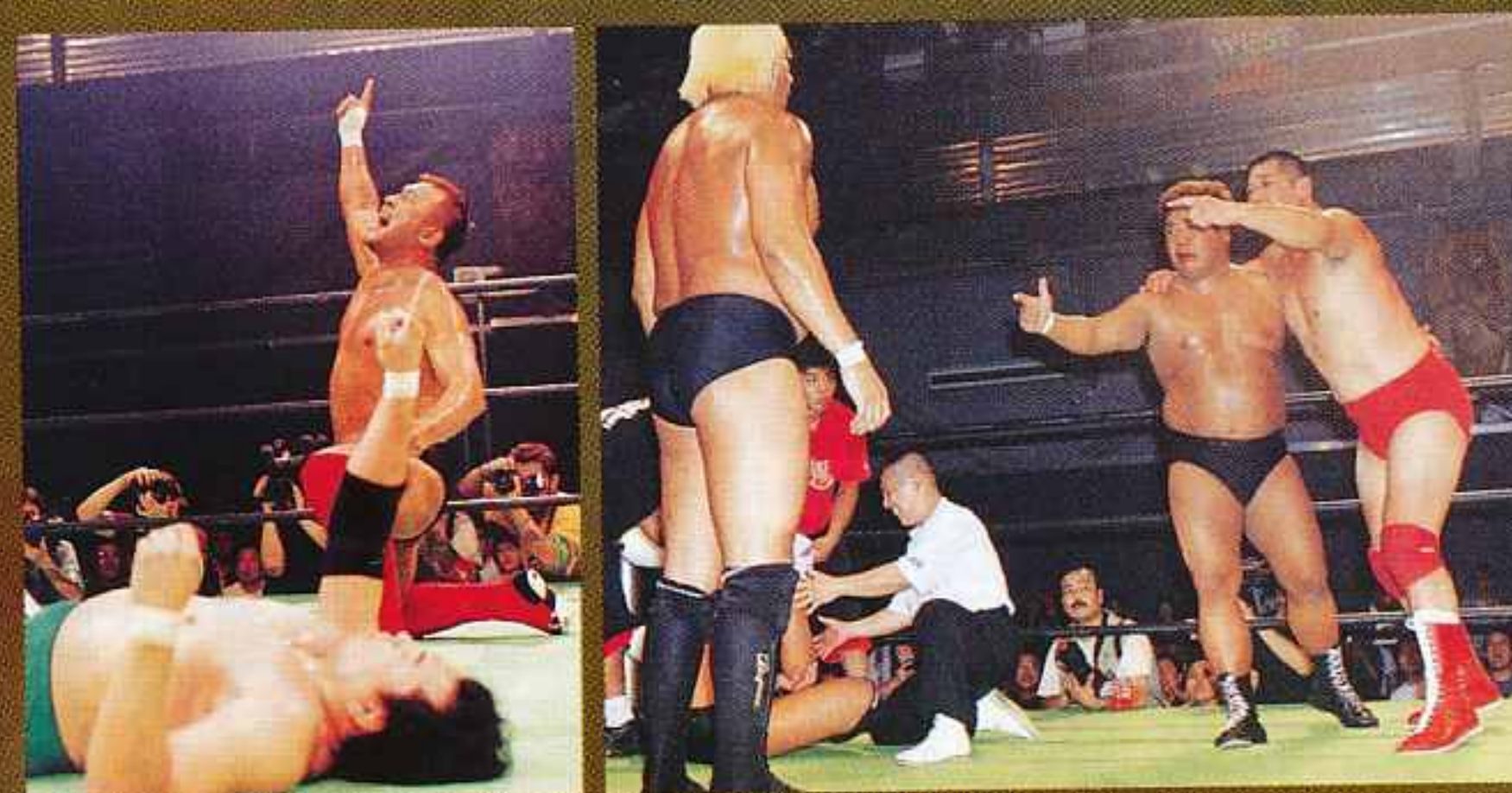
グレイシーの出現以降、ファンや業界関係者の中で「プロレスの危機」を叫ぶ声も少なくなかった。が、どうだろう？ ここにきてマット界全体が、再編に向けて急速に動きつつある。そのダイナミックな動きには、さすがの『PRIDE』の記事もすっかり霞んで見えるのは気のせいだろうか？

新日vs全日の対抗戦が「小結同士の闘い」（by武藤敬司）に終始している現在、ノアの有明大会（もしくは来年以降）に夢のリアル版新日vs全日を期待したい。が、現時点では橋本のノア参戦も未確定。プロレスファンが何よりも見届けなければならないのは、誰がこのカオスの中から飛び出すか、である。

12・23はノアか？

『PRIDE』か？

この日は、今後のマット界の趨勢を決する天下分け目の大決戦となるだろう。プロレスファンに届くのは「純プロレス」か？「新プロレス」か？

個人的には、再編に向けて大きく動き出したマット界のエネルギーが、すべて注ぎ込まれるであろうノアの有明大会を取材に行くつもりである。ここから何かが生まれる予感が、ノアにはあるからだ。三沢、小橋、秋山、ノーフィアー、そして橋本？ マット界の21世紀はここから始まる！……はずだ。（この原稿は、11月30日に書かれたものです。発売日頃には状況が変化している可能性大なのでご了承ください）

※FMWから冬木弘道＆黒田"最高"哲広も参戦予定！ 狙うはWEWタッグ王座だ！

■11月28日、ノア埼玉・吉見町大会で全選手が話しあい、橋本参戦の結論は三沢社長に一任されることとなった。怒り心頭だった秋山ももちろん同意!!（ノブ）

どうなる? 有明大決戦!

『GREAT VOYAGE』

12月23日（土・祝）

有明コロシアム（15:00開始）

［チケット料金（税込）］

アリーナS席　SOLD OUT／アリーナA席　SOLD OUT
スタンドS席　SOLD OUT／スタンドA席　￥7000
スタンドB席　￥5000／スタンド自由席　￥3000
スタンド自由席小中学生　￥2000

チケット絶賛発売中！　良い席はお早めに！

［お問い合せ］

プロレスリング・ノア　TEL.03-35273-5311

12・23ノア有明コロシアム大会　対戦カード決定！ ［メイン］小橋vs秋山 ［セミ］三沢vsベイダー、橋本vs大森、田上vs高山

レス初体験で大・爆・発！

の露払いではない!!

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／平工幸雄
text & photographs by Yukio Hiraku

松井が終盤、ロープに振ってからの矢のような打点の高いドロップキックを披露！　凄すぎる一発に観客も騒然！

試合は一方的に松井が押しまくった。マウントパンチが顔面に降り注ぐ！　ケンも一度だけマウント返しに成功

試合開始早々にアーバンの必殺技・スピアーが炸裂。これには松井も「効きましたよ」とコメント。

「森下社長〜、『PRIDE』のリングで再戦をやらせてください！」試合後、アフロデブが叫んだ。

オイオイオイ、冗談じゃね〜よ！　ジャイアント落合さ〜ん、目を覚ましてくださ〜い！　バトラーツは『PRIDE』の露払いですか〜？　そうじゃないだろう。バトラーツが展開している「格闘プロレス」は『PRIDE』で結果を出すのと同じくらい難しいのだ。単純に「プロレスが出来るから」「格闘技が出来るから」というだけで通用するものではない。

グレイシーが出現してからのマット界は〝グレーゾーン〟と呼ばれる「格闘プロレス」を排除する方向で流れてきた。そんな中で、バトラーツは時代の流れに逆らいながら「格闘プロレス」不毛の時代に〝グレーゾーン〟ならぬ感情がほとばしる〝レッドゾーン〟な格闘プロレスを作り上げてしまった！

ここ最近はその方向性を見失いつつあったが、今回、村上一成や松井大二郎が持ち込んだ〝ケンカ魂〟は、バトラーツの原点回帰を促しただけでなく、団体そのものを活性化した。

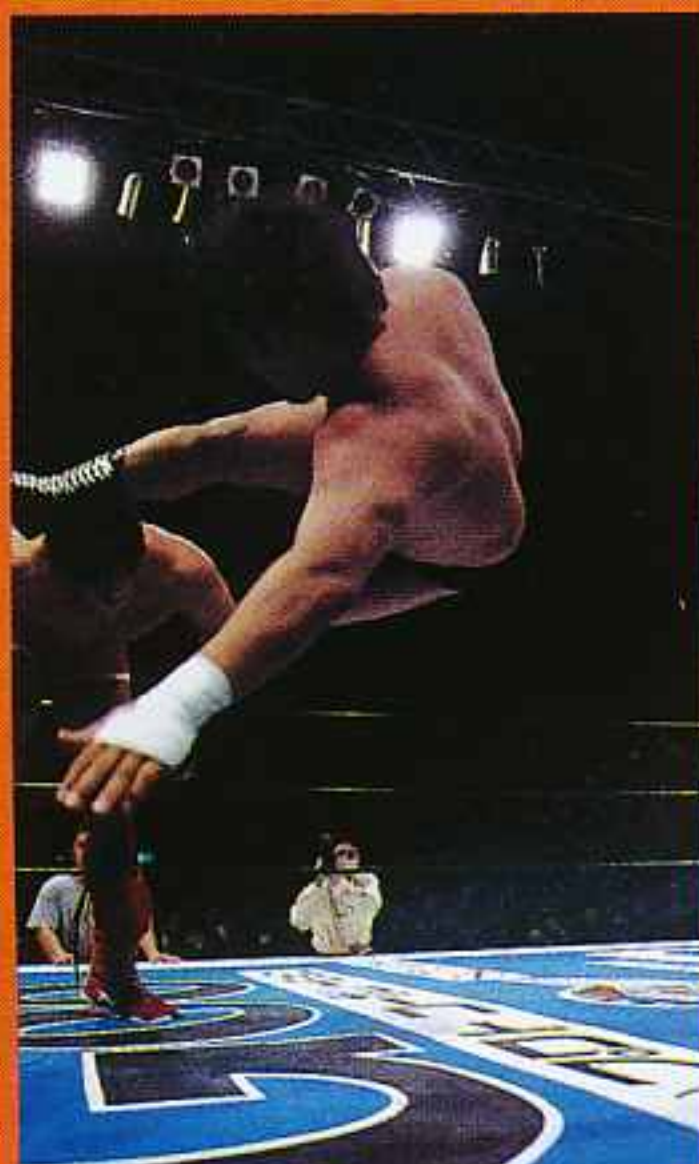
特にUインター末期にデビューした松井は、このようなスタイルの経験はほとんど皆無。されど、『PRIDE』同様前に出まくるファイトスタイルと、それに負けずに突撃するアーバン・ケンの闘いがじつに素晴らしかった。間違いなくこの大会のベストバウトである。もちろん、石川vs村上は過去最高級の凄絶さで申し分ないのだが。

ズバリ言ってしまおう。11・26駒沢大会は、98年の両国大会後に押しそこなったリセット・ボタンを押すことに成功した。いただけない部分もなきにしもあらずではあったが、バトラーツの原点である「格闘〟

松井、プロレ

格闘プロレスの金字塔!!

石川vs村上が残した功績はデカイ!!

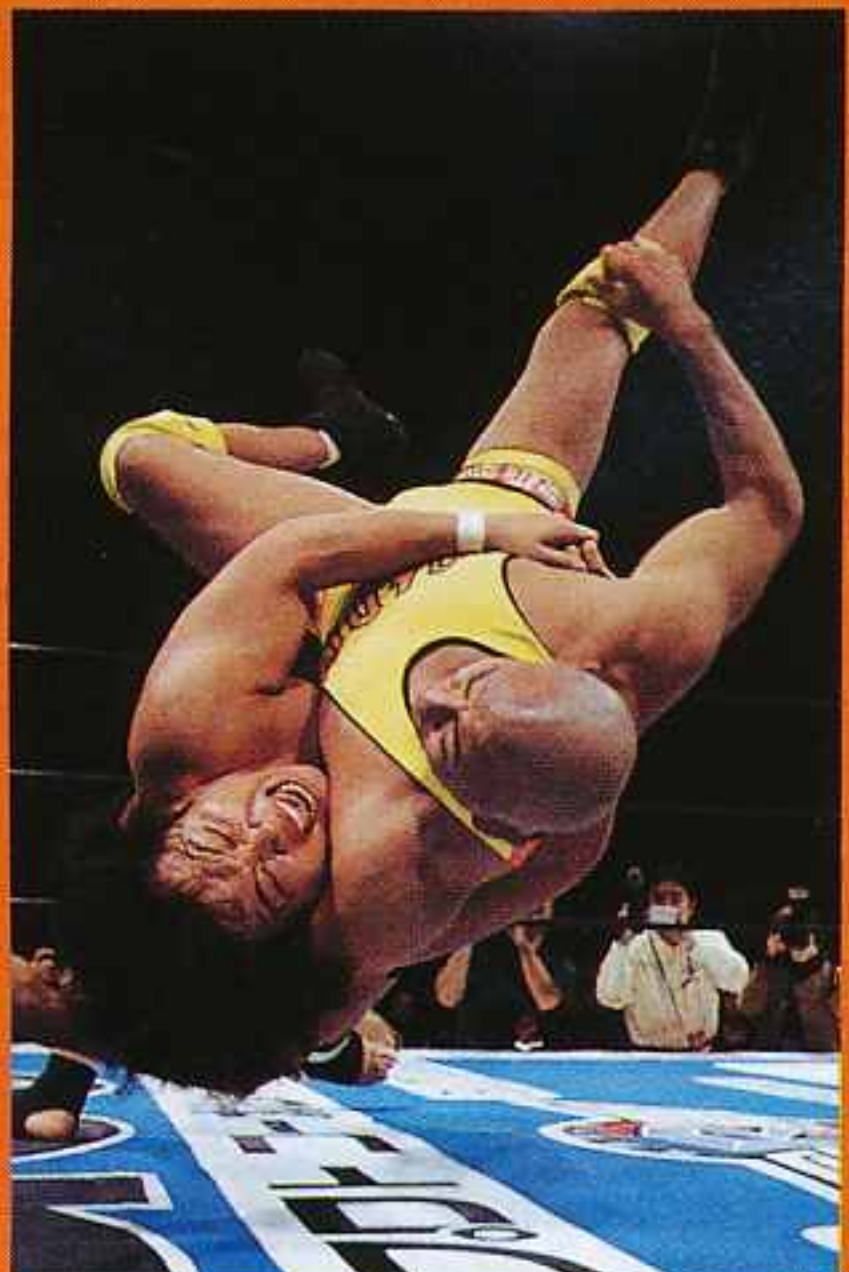
ナイフを持った少年vs受け止めるお父さん決着戦！
青山ちはる登場で村上、大いに動揺！
されど村上は凶暴性300%アップ！　石川、ピンチ！

いつもより厳しく石川の顔面をえぐる村上のパンチに、石川は口内から出血。顔面はボコボコに腫れていく。

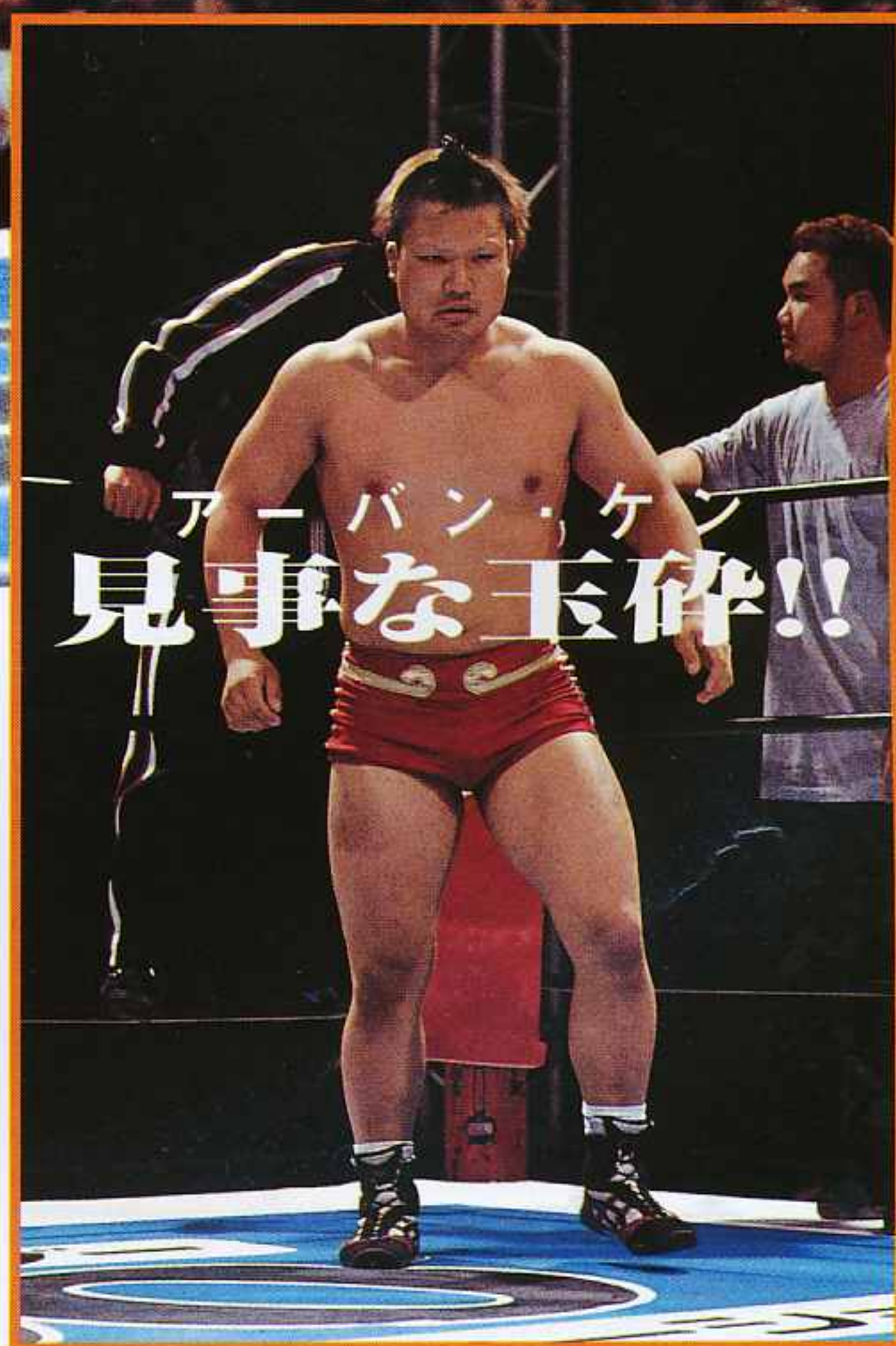
しかし受けるだけ受けた石川は、風車の理論で猛反撃！　延髄→胴絞めスリーパーで因縁に見事にケリをつけた！

アレクvsジャイ落、PRIDEで再戦？

じゃあ、なぜプロレスを……？

「ここはバトラーツなんだよ！」アレクの叫びにジャイ落が呼応！
試合後、プレゼンテーター森下社長に
「『PRIDE』でやらしてください！　みなさんどうですか～っ！」と絶叫！

落合をリードしきれなかったことを試合後に反省したアレクだったが、もっと「熱い闘い」が見たかったという声は多い。

落合も終盤、鋭いバックドロップを繰り出して会場をどよめかせたが、最後までアレクの掌の上で転がされていた

格闘プロレスは『PRIDE』

アーバン・ケン 見事な玉砕!!

モヒカンに眉剃りという後藤達俊よりも凶悪な出で立ちで登場してド肝を抜いたアーバン・ケン。パンクラスの美濃輪を彷彿とさせる精悍過ぎる面構えだ。これで堂々とメンチを切るから怖すぎ！

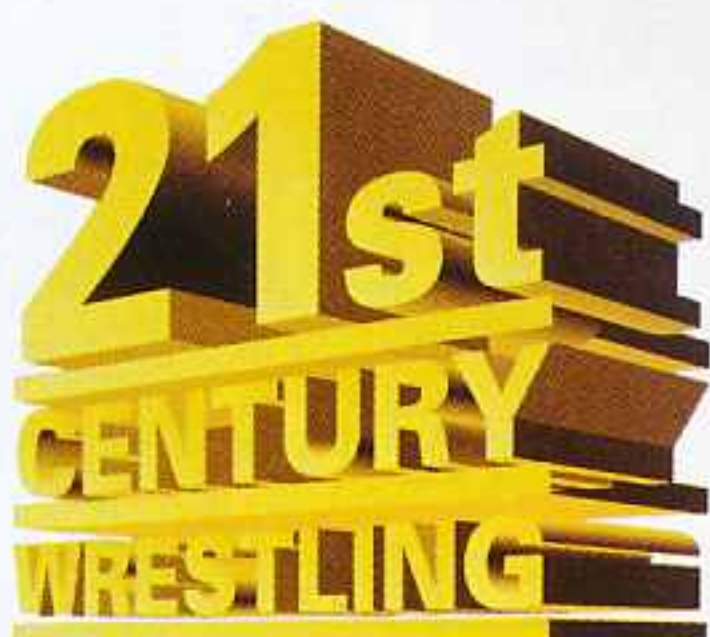
ケンカ〃プロレス」は、駒沢の観客のハートに突き刺さっていた。いくら選手が入れ替わろうとも、その原点さえ見失わなければ何度でもバトラーツは再生できる。〃ケンカ魂〃、つまり〃闘魂〃さえあれば、21世紀も「格闘プロレス」は輝きを失うことはないだろう。

12・31大阪ドームで『PRIDE』の常連選手がプロレス・ルールで試合をしようとも、そこに〃闘魂〃があるか、ないかなんてことはプロレスファンがすぐ見抜いてしまう。そんな厳しいファンの目にズッとさらされ、生き抜いてきたバトラーツは本当にタフだ。これからバトラーツは間違いなく息を吹き返す。

「格闘プロレス」は『PRIDE』の露払いなどではない。松井のような「ドロップキック一発で、観客が大いに沸かす」というレスラーがもっと出てくることを願いたい！（ノブ）

21st CENTURY WRESTLING

GCM
GREATEST COMMON MULTIPLE

C★★★★20001125 PROSPECTIVE

構成／チョロ
text by Choro
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

なりきりＴＥＡＭ2000で入場したわりに、Ｔ2000の指のポーズが思い出せなかった宇野薫は、難敵の三宅靖志から判定で勝利を収め、ルミナ戦に弾みをつけた。カオルコの皆さん、12月はＮＫホールに集合！　一方、矢野卓見は観客の期待通りに三角絞めで見事に一本勝ちし、これまた観客の期待通りに失神した相手に自ら蘇生術を施す、矢野卓見ムーブで観客を魅了した。努力型の宇野薫と天才型の矢野卓見、対照的な二人のこれからに目を離すな！

試合はもともと、宇野商店のＴシャツを買い求めに来るお客さんが多いことから、修斗の会場と同じようなイメージを抱かれがちな『コンテンダーズ』。しかし試合を見てみるとタッグマッチを始めたり、突如、第0試合が行われたり、宇野がなりきりＴＥＡＭ2000として入場したり、選手がプロレス的要素を自由に取り入れられるところも魅力のひとつとなっている。

自由とは言っても、〝ドゥ・スポーツ〟としての発展を念頭においた、打撃なし、組技限定という制約のあるルールのため、判定決着による試合が多く、やる側はともかく、見る側にとってはわかりにくい試合が多いのも事実。しかし、回を重ねるにつれ、試合内容だけでお客さんを魅了してしまう男が出現した。『コンテンダーズ』に舞い降りてきた、その男の名は矢野卓見。

それまでマニア間での評価が抜群に高かった男が、『コンテンダーズ3』で秘技センタク挟みでの見事な一本勝ちを披露。『格通』や『ゴン格』よりも『スマート』や『ａｓａｙａｎ』を欠かさず読んでいそうな若人にも注目されることとなった今回の試合でもきっちり一本勝ちし、飄々と周囲の期待に応えてしまうこの男を見るために『コンテンダーズ』に来るお客さんが今後ますます増えていくだろう。

その達人的な技量でお客さんに独特な風貌を認知させてしまった矢野卓見。

テレビや雑誌などのメディアに頻繁に登場し一般層にまで認知されると同時に、クオリティーの高い試合を続ける宇野薫。

お互いに対照的な存在でありながら、格

21st CENTURY WRESTLING

コンテンダーズは マット界を 背負えるのか？

闘技に興味のないお客さんを、リング上に引きつけることができるこの二人にこそ21世紀のマット界を背負ってほしい。二人が「コンテンダーズ」を盛り上げることが、底辺の拡大に繋がるはずだ。

（文・水戸泉）

宇野商店も大爆発！

ご覧の通りの混雑ぶりだった宇野商店。試合よりもNEWTシャツを目的に会場に来るお客さんも多い。ハッキリ言ってそんな奴は来るな！　と叫びたい気持ちの格闘技ファンもいるのだろうが、格闘技に興味を持つ取っかかりになるのであれば、こういうアプローチの仕方もノー問題！　かわいい子も多数！　下段の写真は某関係者の妹さん。

リングス上山龍紀とパンクラスのトーナメント優勝者である星野勇二の一戦が『コンテンダーズ』のリングで実現！　上山のセコンドには坂田が付き、対抗戦ならではの緊張感のある空気が流れた。試合は際どい判定で星野の勝利。

当日までシークレットだった第0試合で小路晃対西良典のエキシビジョンマッチが実現！　小路は『PRIDE』でも見せたことがない、全盛期の武藤を彷彿とさせるロープを掴んでの前転回転式のリングインを披露！

これぞコンテンダーズ！
21世紀型の闘いはここにある!!

格闘技の大会で、超実験的とも言えるタッグマッチが実現！　珍しさも手伝ってタッチワーク一つで会場が沸き明るいムードが漂う試合となった。なおレフェリーを務めたのは現在はプロレスラーとして活躍中の平直行。

慧舟会No.1の寝業師・高瀬大樹は早川光由と対戦。試合中に「腹へった！」と叫んだり、早川の足関節にも効いてないと両手を挙げてアピールしたりとふてぶてしさは十分見せたが、結果は引き分けに。

久々に登場！『PRIDE.0』二代目殿堂若奥様

こねればこねるほど おいしくなるうどんのように

真下純子

「ぼくらがご唱和しなかったら猪木はどんな顔するだろう」って考える方がきっと会場にひとりやふたりはいるんじゃないかな、などと思ったりする昨今、みなさまお久しぶりです真下です。

20世紀も残すところあとわずか。世紀末とか21世紀だとか言ったって主婦にとっちゃあ毎度同じの年末年始なんだよ！とやさぐれる前に少しお暇をいただき11／25コンテンダーズ4に行って参りました。

組み技の知識を微塵も持ち合わせていないわたくし、正直言いますと多少ある程度の覚悟をしており、それを踏まえて前日は睡眠を充分にとったり（眠くなったらどうしよう）と失礼な準備を整えておりました。らば。最後まであくびすることなく、とても楽しくそしてカニを食べる時のような真剣な姿勢で観戦しました。

幼稚な表現で恥ずかしいのですが、見ながら「こねる」という言葉をずっと頭に浮かべていました。組み技は、いろんな風にこねて、こねて、こねて、作っていくのだなあと。

激しくこねる選手・静かにしつこくこねる選手・びっくりするようなやりかたでこねる選手。しだいに汗みどろになってこねにくくなってもまだこねて。見ているわたしは「どういう風にしたら痛いのだろう」「どんな風な形になったら痛いのだろう」と脳みそをこねて考えながら目で追いかけました。脳みそをこねて考えながら見る、というのはとても疲れるのだけれど。

生でどうしても見たかった矢野卓見選手の芸術的なこね方、宇野選手の「どうしても・何が何でも・是が非でも」という真摯なこね方。

選手が動きや技術でこねまくり観客もこね考えて楽しむ。こねこじれて動けなくなったりする試合もあるけれど、前屈して手が床につかないわたしには「くっついてばかりでつまんない」なんて言う資格はないんです。

「今風」なんて言葉は口がかゆくなりそうで言いたくないけど、今回のコンテンダーズ4を見て、「新世紀がやって来るのだなぁ」と、うすらぼんやり思いました。

追伸＆近況●ディファの正面の飾り、田舎のゲーセンくさくてやるせないです。あと、スマップキムさんが工藤静香と結婚したのはとてもしんみりしました。何故ならわたしが中間試験でフジテレビ社屋（旧）まで行けなかったあの時のオーディションで選ばれたのが工藤静香だったからです。すべてのできちゃった婚に乾杯。

Fにも乗り遅れ、総合系にもピンとこない……

しか愛せない

構成／水戸泉
text by Izumi Mito

撮影／森鷹博
photographs by Takahiro Mori

21st CENTURY WRESTLING

猪木以降のメジャーに絶望し、UWFにも

もうデスマッチ

デスマッチしか愛せない

猪木さんが去ったあとのメジャーに絶望し、UWFにも乗り遅れ、K―1も単調に思え、PRIDEも殴り合いしか燃えられない。そんな俺の眼を力ずくでマット界に引き戻したのが、デスマッチだった。何の予備知識も必要とせず、サイドストーリーを理解していなくても全くかまわない世界。過激な仕掛けとインパクトだけで構成されるデスマッチこそが、いつしか俺の〝プロレス〟となった。

あからさまに世間からもプロレス村の住人からも差別を受けながら、デスマッチは死なず、デスマッチファンは生き残り続けてきた。一時のあだ花と言われ、すぐに飽きられるか、エスカレートして事故を起こして滅びてしまうと中傷されたデスマッチもデスマッチ団体も大方の予想とは裏腹に、いつのまにか歴史を語れる程の長い時間を過ごし、多くの試合を生んできてしまった。

それでは、なぜデスマッチはマット界の片隅で生き延びることができたのであろうか。実は、その答えは簡単なことで、人々が基本的にプロレスに求める衝撃と興奮を、そしてレスラーに要求する信じられない程のタフネスさをたとえ人工的に作られた空間の内とはいえ、わかりやすく体現しているからだ。

誰が見ても一眼で〝凄い〟と単純に感受できる試合を地道に継続してきた結果が現在までのサバイバルを生んだ理由なのだ。

マニアには勿論、一見さんにも地方の子供や老人にさえも一瞬にして痛みと感情を伝えることができるのがこの試合形式の特権。観客を選ばずに常識を超えたレスラーの怪物性を体現しきってしまうのだ。

だからこそ騙されたと思って、〝これから〟の大日本プロレスを観ておけ。

（文・三浦店長）

21st CENTURY WRESTLING

大日本プロレス

李 日韓（&登坂統括部長）

レフェリーだけが知っている表と裏

プロレス至近距離の真実（デスマッチ編）

女性でありながら大日本のリングでデスマッチを裁いている史上初の女性デスマッチレフェリーの李日韓さんを直撃！ 最も間近から見てきたデスマッチの感想を語って頂いた。

（大日本登坂統括部長のツッコミが素晴らしかったのでそのまま収録しました）

日韓 私は登坂さんのレフェリングに憧れて大日本に入ったんです。いずれはデスマッチを裁く日が来ると覚悟はしてたんですけど、それはかなり先のことだろうと思ってました。流血を間近で見ることの抵抗は最初から全く在りませんでしたね（キッパリ）。デスマッチを最初に裁いたのは、後楽園の山川vsザンディグ戦でした。

登坂 あれは本当はボクが裁くはずだったんだけど、選手のテーマ曲が流れる直前に『お前がやれ』って（笑）。

日韓 あのときは本気でこんな会社辞めようと思いましたね（笑）。

登坂 日韓はプレッシャーに弱いから、初めてデスマッチを裁かせるときには、直前になってから知らせようと思ってたんだよ。まあ、あそこで逃げなかったことは誉めて上げたいね。まあ、日韓にとってもいいデスマッチデビュー戦だったんじゃないでしょうかね。デスマッチが上手な選手同士の試合だったし。

日韓 私が試合が終わって安心してたら、登坂さんから『この試合にお前の存在理由はなかった』って言われたんですよ。

――登坂さんも厳しいですね（笑）。

登坂 いやいや、レフェリーにとっては、自分の存在を全く感じない試合がいい試合なんですよ。そこのところをわかってないところが、まだまだ甘い！

日韓 一番恐かったのは、本間vs小林の建設現場デスマッチですね。あの足場に実際に上ってみるとホントに恐いんですよ。高所恐怖症の私にはリングの上に置いたラダーに登るのは辛すぎました。けどレフェリーっていうのは一般の人間だから、デスマッチの試合だとビクビクしてた方がお客さんにはわかいやすいでしょ？ 高いところに上ってレフェリーがレスラーより堂々としてたらダメだと思うんで。

登坂 まあ、日韓はデスマッチの上手い選手の試合しかまだ裁いてないから。大変なのはこれからでしょう。

日韓 元気vs市来の女子同士のデスマッチはやりづらかったですね。あの試合はデスマッチが不慣れな人同士の試合だったから、選手同士もヤリづらそうでしたね。本当はやりたくなかったですね。

登坂 あの試合は日韓が中途半端な存在感を見せちゃって、レフェリングは最低だったね。まだまだ甘い！

日韓 これからは、部長も忙しくて私のレフェリングの試合が増えそうなんですけど、まだまだ勉強です。

登坂 ホントにいつでもどこでも裁く準備しておけよ！ お前は今日から四次元レフェリーだ！

あなたは大日本プロレスを直視できますか？

［12月］ 24日（土）東京・後楽園ホール（正午）

▶2001年新春シリーズツアー日程

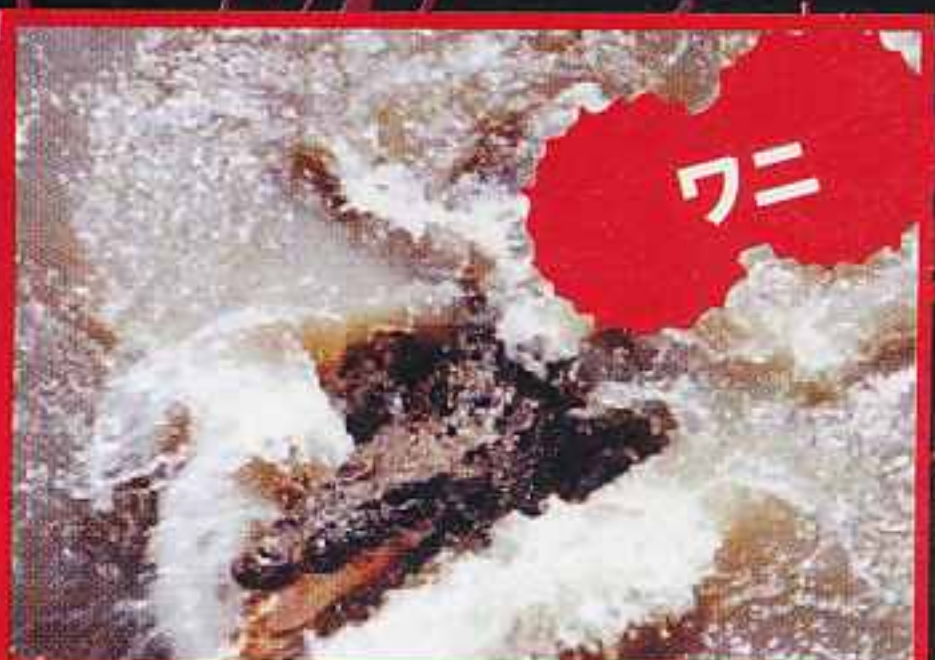
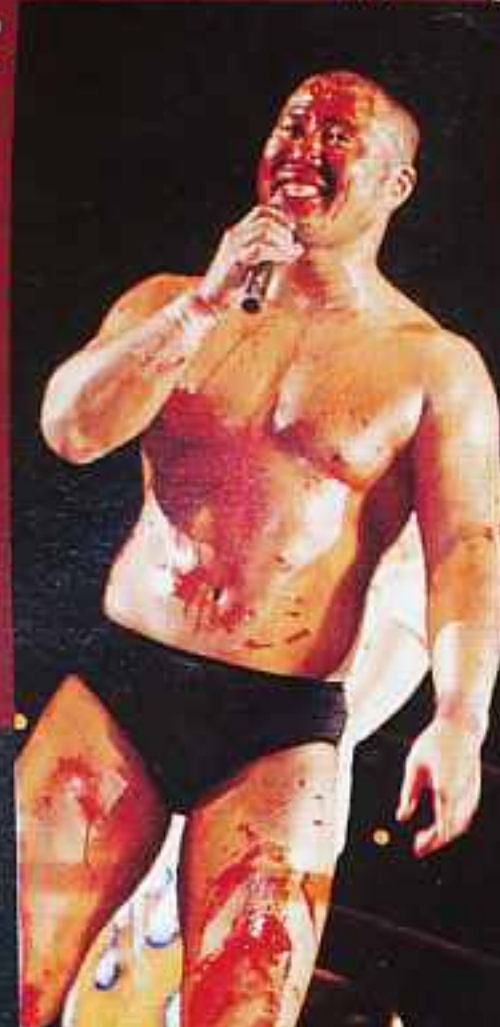
［1月］
2日（火）東京・後楽園ホール（18:30）
3日（水）三重・四日市オーストラリア記念館（18:30）
7日（日）神奈川・川崎市体育館（18:30）
8日（月）静岡・アクトシティ浜松（14:00）
11日（木）愛知・名古屋市体育館（18:30）
15日（月）大阪・大阪府立体育館第2競技場（18:30）
28日（日）東京・後楽園ホール（18:30）

※お問い合わせ先：大日本プロレス（TEL045・937・0811）

大日本のエース・本間朋晃の独断裁定による、これでもほんの一部だけ 大日本凶器カタログ

マスタード
【本間コメント】傷に塗りこめられると、息ができないんですよ。ソルトとレモンを組み合わせると痛さはマックス！
ダメージ度 ★★★★★

サボテン
【本間コメント】棘が体内に侵入して、痛い！ 本当に危険！
ダメージ度 ★★★★☆

ボウワイヤーボード
【本間コメント】これこそデスマッチの原点だ！
ダメージ度 ★★☆☆☆

ワニ
【本間コメント】経験が無いんで、ノーコメント。けど、なるべくなら動物っを使ったデスマッチはしたくないね。
ダメージ度 ？？？？？

有刺鉄線バット
【本間コメント】使い手によって威力はさまざま。 この凶器は、W☆INGの象徴だから、俺はけっして使わない
ダメージ度 ？？？？？

ガラス
【本間コメント】予測不能なデインジャラスアイテム！ ザックリ切れるんで大流血を覚悟してないとできないですね。
ダメージ度 ★★★★☆

画びょう
【本間コメント】俺には全く効かないぜ！ 逆に一番恐かったのはラダーだね。高所恐怖症なんで精神的に辛かった。
ダメージ度 ☆☆☆☆☆

"21世紀型プロレス"の急先鋒！

DDTの日本マット界改造計画!!

21st CENTURY WRESTLING

ほんの数年前までは、ちっぽけなインディー団体のひとつと思われていたDDTだったが、気がつけば、現在の日本マット界において、エンターテインメントプロレスの急先鋒と言われるまでに成長を遂げていた。

それは、たなぼたで転がってきたものではなく、DDTの戦略とプロレス頭を駆使した結果なのだ。「面白そうなことやってんなぁ」と、テレビや雑誌等でDDTを見て、そう感じている人達は多いと思うが、実際いまのDDTは面白いんです！

よく言われることだが、一見さんにも伝わるように、これまでの流れを映像で説明し、しかも、ただ流しっぱなしにするだけではなく、要所要所にオチも付く。最近は映像を取り入れるプロレス団体も増えてきているが、日本マット界ではDDTがトップレベルというのは間違いのないところだ。そして、こちらの想像を一歩先行く様々な仕掛けの連続も見る者を飽きさせない。「プロレスは見ないけどDDTは見てる」と言うファンが多いのも、そういうところが要因と言えるだろう。

もちろん、過去には、映像やスキットといったリング外の演出に対し、肝心のリング上での闘いが付いていかなかった時期も確かにあった。それが、クラブATOMでの週イチ興行が始まったぐらいからか、場所がクラブなだけに、映像や音響がこれまで以上に効果的になり、そして、いままで以上に試合数を積み重ねた結果、リング上の闘いは自然と研ぎ澄まされていったのだ。

DDTでは三四郎が入場すると、観客が一体となり両手を突き上げて「ファイアー！」。ジュリーが現れると観客はマラカスを「シャカシャカ」振ってこれに応えるという、レスラーと観客の間に一種独特の一体感がある。一歩間違うと、こういうノリに対して一見さんは引いてしまうものだが、DDTを一度でも体感すれば、それが「もう一丁！」と言いたくなる心地よい空間だということがわかるはずだ。

「ジャングルを守るよりも、ジャングルをつくりゃあいいじゃねえか！」と、アントンは言ったが、DDTは「プロレスを守るよりも、新しいプロレスをつくりゃあいいじゃねえか！」といった団体である。んなわけで、次のページから、現在のDDTマットを蛇色に染める（マムシ）男・ポイズン澤田ジュリーに"21世紀のプロレス"はどうあるべきか聞いてみた。お前らも改造してやる！

改造してやる！

聞き手／チョロ
interview by Choro
協力／エキサイティング幸田
helper by Exciting Koda
撮影／丸山剛史
photographs by Takeshi Maruyama

“マムシに噛まれた男”5年振りに『紙プロ』見参！

『蛇界転生』ポイズン澤田JULIE

俺の考える“21世紀型プロレス”がマット界を変える！

【ポイズン澤田ジュリー誕生の秘密】

俺は今年、ポイズン澤田ブラックからポイズン澤田ジュリーへと変身したわけだけど、ジュリーに変わるきっかけっていうのは、これはもう偶然としか言いようがないんだよ。

今のDDTで闘っていくんだったら、周りがみんな個性的だし、とにかく強烈な特徴がなくちゃいけない。それを突き破って、さらに超えたものじゃないと観客に受け入れられないから。それが十分にわかって、今までの概念を全部捨てようと思っていた矢先に、ちょうどタイミング良く“蛇神”が降臨したんだよ。

【格闘エンターテインメントとは？】

最近は「プロレスが総合格闘技に押されてる」って言われてるみたいだけど、俺としては格闘技云々じゃなくて、プロレスは格闘エンターテインメントだと思ってるんだよ。

昔は俺もそういう考えじゃなかったんだ。実は俺はストロングスタイルの新日本にいたんだよ。デビューはできなかったんだけど（苦笑）。

18の時に新日本に入門して、寮長が平田さんの時で、同期が後藤達俊だよ。今は彼も俺と同じようにMr．Tとか別の顔を持ってガンガンやってるよね（笑）。あの人は入門当時からデカくて強かったし、かなわないと思ってたけど、今は全然負けてないっていう自信もあるよ。

【キャラクターに成りきるということ】

いろいろあって、新日本はやめたんだけど（笑）、プロレスを諦めきれなかったんでUWFの後楽園大会に行って空中（レフェリー）さんに海外マットを紹介してもらったんだよ。土下座までして（苦笑）。

それで向こうに着いてすぐだよ、試合したのは。その時、ベトナム人のホーデス・ミンというキャラクターを与えられて、自分としてはベトナム人になりきってやってたつもりなんだけど、やっぱり、ポイズン澤田ブラックからポイズン澤田ジュリーへのチェンジとは全然違ったよ。アメリカでは初めからキャラクターが決められているか、嫌でもやらなくちゃいけない場合が多いからね。

今は自分は本気で「蛇界の人間だ」と思ってるし、そうしないとポイズン澤田ジュリーっていう人格はできないんだよ。たとえ街をボケっと歩いてても、誰かの視線を感じたら次の瞬間、ジュリーに変わるよ。

【JULIEの考える理想のプロレス】

俺の考えてるのは観客参加型のプロレスなんだ。三四郎もそうだけど、俺も観客にマラカスを振らせたり、一緒に踊らせたりしながら闘う。そういうのを、これからのマット界は少しづつやらないとダメになっていくよ。ただ試合をやって終わりじゃ、ドンドンこの世界はつまらなくなっていくと思うんだよ。

そういう意味では、俺はやりたいことやってるし、リングの上にいる時が一番充実してるし、マラカス振らせるのが快感なんだ。その快感を一緒に味わってくれって感じだよ。「そんなプロレスは見たくない」っていう奴には俺は別に見てもらわなくてもかまわない。だけど、興味がある、気になるっていう奴は一度見てくれ。見て感じて一緒にマラカス

真のエンターテインメントプロレスはここにある！

DDT キャラ図鑑（プチ）

1、2、3　ファイヤー！

三四郎集会

↑試合後に行われる平成の語り部、高木三四郎のトークタイム。クラブから商店街まで場所を選ばず開催し、ある意味、DDTのオオトリとも言える。三四郎集会の一番の特徴はマスコミ向けではなく、一般客に向けて行われている点であろう。ツッコミ役として美人マネジャー、ナオミ・スーザンとエキサイティング吉田の2人が脇を固める。

DDTマスコットガール

ノーブラー!?

↓うらん（左）とぼぼたん（右）のユニット。リング上からグッズ案内を行うDDTのマスコットガール的存在の彼女達。そのやる気のなさそうなアピールがやたら可愛く、ついついTシャツを買った人も少なくないはず……んなこたぁ、どーでもいいんだよ！　問題はホントにノーブラかどうかである。教えて、教えて、ノーブラーズ！

ゴージャス＆ホモ？

鴨居長太郎

←元ボクサーという強面キャラの鴨居だったがDDTマットでホモをカミングアウト？　その同性愛好者ぶりは『アイアンマンヘビーメタル級』（24時間挑戦可能）ベルトの奪取劇の場所が都内のとあるハッテン場だったほどの筋金入り。鴨居のキャラはエンターテインメントかマジなのか？　これは本当に難しい問題です。ゴージャスなコスチュームもウリの一つ。

を振ってくれってことだよ。もちろん見てもらったら振らせる自信はあるさ（ニヤリ）。俺様の蛇界パワーにかかれば、お前らを洗脳するのはたやすいことだよ！

【格闘アーティストとは？】

俺のメークをよぉ〜く見てみな。(恍惚の表情で）美しいだろう？　俺には、この業界では初めてらしいがヘアーメイクが付いてるんだよ。これからの時代、自分を表現する、個性を出すためには、そういうことを取り入れるのも必要だと思うんだ。

今までのマット界ではメイクっていうとペイント系がほとんどで、それも自分でやってるわけだよ。でもビジュアル系のメイクしてる人はいないでしょ？　俺が目指すものは綺麗で美しいヒール！　そう、アートなヒールだよ。俺は自分のことを格闘アーティストだと思ってるから。

【プロレスラーとアルバイト】

俺もかつては、「バイトしながらやっているレスラーはダメだ！」って言ってたけど、それは、もう昔のことだよね。今はメジャーもインディーもそれほど差がないし、これまでインディーと括られてきたような選手もかなり底上げしてるでしょ。今は働いてるからどうのこうのって言ってる時代じゃないよ。リング上で自分を表現して、それが観客に受け入れられれば立派なプロレスラーだよ。メジャー団体で、いくら実力があっても、リング上で自分を表現できない、観客の支持を得られないレスラーはいくらでもいるわけだから。

だからといって練習しないプロレスラーはダメだよ。練習して、努力して、自分で考えて、悩まなきゃダメさ。俺？　俺も他に仕事をしているよ。なぜって、食えないからだよ！（苦笑）。「他に仕事を持って一流のレスラーになれるわけがない」って言う人はいるけど、俺はそんなこと言われる筋合ない。それが俺の生活なんだよ（キッパリ）。

【マイクアピールの重要性】

これまで俺はマイクアピールは、あまりやってなかったんだけど、こういうキャラクターに生まれ変われば、やらざるをえない部分もあるからさ。でも、やってくうちに自分に合ってきたよ。我ながらうまく表現できるようになったと思うよ（笑）。

ただ、これも練習じゃないけど、イメージトレーニングが大事なんだよ。例えば、文章を書くんでも頭で考えてから書くでしょ。プロレスだって、マイクアピールだってそうだよ。1回、頭でイメージを広げてからやれば、そのとおりに体が動くんだよ！　喋れるんだよ！　伝わるんだよ！　そこまでできて初めて格闘アーティストと名乗れるわけだよ。これからの時代は肉体的な練習だけじゃなく、感性的な練習もしなければ生き残っていけないよ。

やっぱり、マイクアピールがないと客にはわかりづらいし、中途半端になってしまうからね。ましてや初めてプロレスを見る人には届かないわけだよ。この業界をもっともっと大きなモノにするにはそういうアピールも絶対に必要な部分だよ。

【JULIEの野望】

(急にマイクアピール口調になり）俺の野望は三四郎をマムシ人間にすることだ！　あいつを改造して必ずや毒蝮三四郎にしてやる！　俺の狙いはあくまでも三四郎の首だ！　あいつの首を取るってことはDDTを乗っ取るってことだからな。そして2001年は三四郎を『蛇界転生』のスポークスマンとして、あらゆる団体、TV、雑誌、音楽業界に俺達を売り込んでもらいドンドン世間に進出していくからな（ニヤリ）。

最後にお前らに一言言っておく！　お前らも改造して蛇界のしもべにしてやる！　ア〜ッハハッハッ！

雪崩式スク〜ルボ〜イ、奈落式スク〜ルボ〜イ、倒立式スク〜ルボ〜イ、スワンダイブ式スク〜ルボ〜イ等々、一瞬の丸め込み技スクールボーイを一撃必殺のフィニッシュ技"スク〜ルボ〜イ"へとして昇華させ、プロレス技でエンターテインメント化させた男・MIKAMIにスク〜ルボ〜イへのこだわり＆熱い想いを語ってもらった。いったい、それはどんな技なのか頭の中で想像しながら読め！

丸め込みの美学 MIKAMI プチ天狗インタビュー

スク〜ルボ〜イを必殺技に昇華させた男

——MIKAMI選手の必殺技「スク〜ルボ〜イ」って、いったい何種類あるんですか？

MIKAMI　順番に言うと、起き上がりこぼし式、ジャックナイフ式、スワンダイブ式、倒立式、雪崩式、奈落式、日本海式。これまで発表したのはこの7種類。7色のスク〜ルボ〜イです。それと、この間『大阪プロレス』に偵察に行った時に、ある人（その後、離脱）から敬礼式スク〜ルボ〜イの許可も得ましたんで（笑）。あとビクトル式とかもありますよ。まだ他にもストックはありますから。それでスク〜ルボ〜イにもルールがあるんですよ、ボクの中で。例えば雪崩式とか、元々の技に○○式って付いてないとダメなんです。例外でリバーススク〜ルボ〜イっていうのもあるんですよ。正面から向かい合ってスク〜ルボ〜イにいって、そのままリバースして逆エビみたいにギブアップを奪う荒技なんですけど（笑）。でも、スク〜ルボ〜イっていっても素人がマネすると大変なことになりますからね。ホントにバッランバランになっちゃいますよ！

——はぁ。スク〜ルボ〜イに関しては、世界中のレスラーの中で誰にも負けないっていう自負はあるんですか？

MIKAMI　（自信満々に）そうッスね。IWAのライトヘビー級のベルトをあの技で獲ったんで。特別な思い入れがあるというか。あとはいつまでも少年の心を持ち続けていたいッスね。学生の頃のピュアな気持ちを（笑）。

——スク〜ルボ〜イだけに学生ですか（笑）。

MIKAMI　あと、ボクのスク〜ルボ〜イは"〜"線でお願いします。一応オリジナルなんで。ボクはこれからも丸め込みの美学を追究していきます！　スク〜〜ルボ〜〜イ！

『NEVER MIND』
12月14日（木）
後楽園遊園地内ジオポリス大会
19:00開場　19:30試合開始
★第一試合　高井憲悟VSGENTARO
★第二試合　エキサイティング吉田&「昭和」&橋本友彦vs菊澤光信＆NOSAWA&蛇影
★セミファイナル　MIKAMI&タノムサク鳥羽vs佐々木貴&西野湧喜
ほかアイアンマンヘビーメタル級選手権を含む3〜4試合を予定。
●出場予定選手(五十音順)
加藤茂郎、鴨居長太郎、佐野直、スーパー宇宙パワー、高木三四郎、内藤恒仁、長瀬館長、藤沢一生、負死鳥カラス、ポイズン澤田JULIE、森谷俊之　他
【チケット発売所】
チケットぴあ☎03-5237-9999
ローソンチケット☎03-3569-9900

本格格闘技路線
スーパー宇宙パワーvs橋本友彦
DDT＝エンターテインメントなんて思ってる輩はまずこの二人を見てから言って欲しい。スーパー宇宙パワーこと木村浩一郎はかつて前田日明、ヒクソンと闘った程の強豪格闘家。橋本友彦も今風柔術家ルックでガチガチのファイトを得意とする猛者。ポイズン澤田ジュリーからヒクソン？まで振り幅の広さもDDTマットの魅力の一つだ

DDT生徒会長
佐々木貢
船木誠勝が引退した今、プロレス界一の白ラン野郎といえばDDT生徒会長佐々木貴であろう。中・高を通して生徒会長を勤め上げた（自称）佐々木が「DDTをハードヒット路線に戻す」をモットーに、「漢字が読めない」西野湧喜を副会長に、「一シャー懸命」がモットーの高井憲悟を書記に従え、日夜DDTの更正を目指す。得意技は生徒会長ロック！

ひとり新日本プロレス
藤沢一生
写真を見れば一目瞭然！　健介をリスペクトするあまり心身ともに健介になった男。あの"世界の荒鷲"坂口征二に自由が丘で遭遇し「よお！」と肩を叩かれるほどの酷似っぷり。最近は健介だけでは飽きたらず、中西のダチョウダンス＆アルゼンチン、破壊王の袈裟斬りチョップなども使い、"ひとり新日本プロレス"として重宝されている

社長連合
プレジデンツ
元NEO篠社長、JWP山本代表（その後、脱退）、そしてDDT三和社長が三四郎を追放するために作った悪の軍団。最近NEOの仲村由佳が女子高生ルックで仲間入り？　由佳ちゃんのいつもリング奥のテーブルにちょこんと座ってる姿は「今度リハウスしてきた仲村です」と時代的にはズレるが、そんなタイムラグもノー問題の可愛さだ！

FMWのレスラーは荒井社長を見習え！

プロ　レスを標榜するなら

エンターティナーとなれ！

FMW

21st CENTURY WRESTLING

1 11・12横浜文体で行われたFMW20世紀最後のビッグマッチ『〜匿名の内部告発者〜』。興行の中盤、スクリーンには荒井社長へ“匿名の内部告発者”からと思われる電話がかかってきたシーンが映し出された。しかし内部告発者は誰なのか最後までわからずじまい 2 メイン終了後、握手を交わす黒田とハヤブサだったが。次の瞬間、黒田がハヤブサを襲撃！　お楽しみはこれからなのか？ 3 UFOを呼ぶことに命を懸けている山崎直彦。UFOを呼ぶことに成功はしたが…… 4 冬木はメインでハヤブサを下すと「今までの相撲社会から来たプロレスとは違うからな。本来のアメリカから来たプロレスに戻すから。ショービジネスだからな」と発言 5 引退を懸け黒田に挑んだ雁之助だったが、敢えなく敗戦。「悔いはもの凄くありますけど、約束ですから。お世話になりました」と深々と頭を下げた。このままホントに引退してしまうのか？　それとも千羽雁？　ここからがエンターテイメントプロレスの腕の見せ所である。

構成／チョロ
text by Choro

試合写真／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku

撮影／タカシン
photographs by Takashin

現在プロレス団体が何団体あるかなんて考えたくもないが、確か50だかあるはずだ。その50何全団体に先駆けて「エンターテイメント宣言」をし、ある意味、21世紀のプロレスを先取りすることに成功したのがFMWである。これは「プロレスは決して真剣勝負じゃありません！」宣言以来、次々と常識を撃ち破った仕掛けを展開し、いまや世界的企業にまで成長したWWFという好例があるように、戦略としては実に正しい。しかし目指す方向が正しいにも関わらず、なぜかここに来てFMWのリング上は停滞ぎみに見えるのだ。

以前と比べて、FMWを取り巻く環境は間違いなく好転している。スカパーで毎月PPVが放映され、『コロッセオ』でも、FMWの番組かと思うほど、頻繁に取り上げられている。この日も『コロッセオ』効果か、横浜文体は予想以上の客入り。このようなビギナーが集まった大会ほど、団体にとっては大事なはずだが、この日は館内の盛り上がりからして、ファンの期待に応えたとは言いがたいものだった。

断っておくが、上3つ（ハヤブサvs冬木、田中vs金村、雁之助vs黒田）の試合内容には全く文句はない。文句はないどころか、練り上げられた攻防という点では、全日本、新日本とそん色ないといっていいだろう。

問題はそれ以外の試合と、肝心の「エンターテイメント」の部分である。

●荒井薫子争奪マッチ
●山崎直彦のXファイル「円盤」
●どっちが強いか男とおかま

この日は以上3試合の、いわゆる「エンターテイメント」の試合が組まれたが、これらの試合を見た感想をターザンチックに言うならば、「あれをエンターテイメントとい

ギャングスター中山香里 衝撃告白！

「今のFMWはなんか無理しすぎ！(笑)」

『匿名の内部告発者』はこの女なのか？

【“ぎゃんぐすたー” なかやまかおり】昭和53年3月14日、大阪府羽曳野市出身。150cm、53kg。得意技・竹刀攻撃。好きな食べ物・アボガド。好きなタレント・パフィー。好きなTV番組・「幸福の明日」「永遠の1／2」

中山　私は、プロレスラーっていうより……ギャングスターです！（笑）。

——そうですか（笑）。ギャングスター的に、最近一番腹が立ったことって何ですか？

中山　……（しばらく考え）扱いが悪い！　FMWの中で邪道さん、外道さんの扱いが悪いんです！　なんでへなちょこなレスラーとかを上の方で使って……。

——いったい誰なんですか、へなちょこレスラーって（笑）。

中山　へなちょこっていうか、「何で？ この人？」っていう選手の方が扱いが良かったりするし。実はお客さんを凄い沸かせてて、いい試合ができる邪道さん、外道さんをよく使ってない！　どういうことだ！って感じです（笑）。

私はプロレスラーっていうより……ギャングスターです！

——そのアピールは荒井社長に向けてのものなんですか、それとも冬木さん？（笑）。

中山　（首をひねり）冬木さんなのかなぁ？　とにかく上の人間に対してです。誰かわかんないですけど（笑）。

——アハハハ。今は荒井薫子ちゃんとか草凪純さんとか、プロレスラー以外の人がリングによく上がってますけど、それについてどう思います？

中山　いや、別に必要があれば、いいと思うんですよ。でも「それホントに必要なの？」ってこともありますからね。今のFMって余計なものが多すぎる！（笑）。そんなことするんだったらもっと試合で魅せた方がいいと思うし、今は試合より演出に力を入れてるって感じじゃないですか？　ちょっとおかしいんじゃないかいって思いますよ（笑）。

——そういう意味では、FMWはエンターテイメントプロレスって騒がれてますけど……。

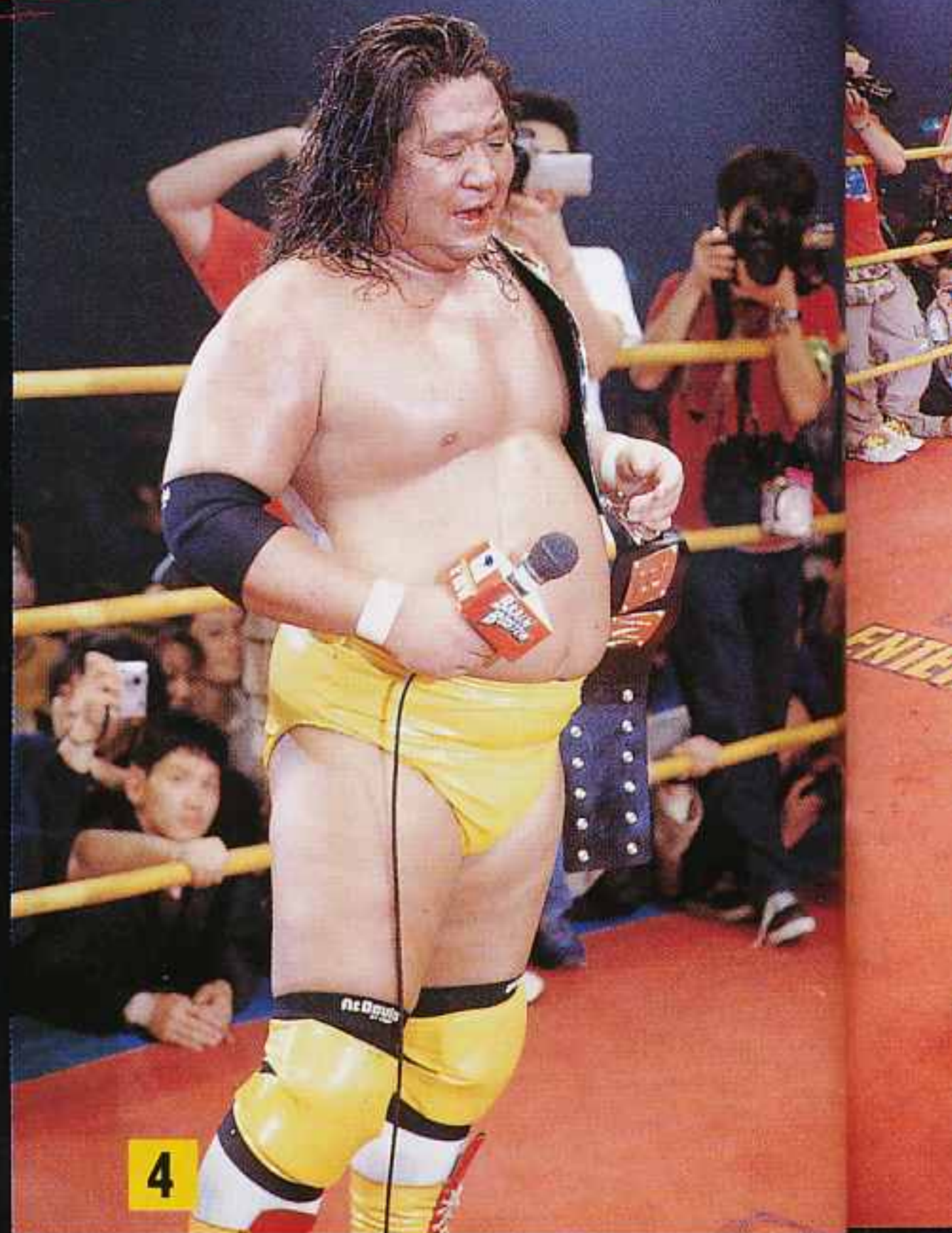
中山　（遮って）なんか無理しすぎ！（笑）。自分的に見てですけど。なんか誰を押したいのか身内でもわからないっていうか（笑）。私が言いたいのは「もっと扱いをよくしろ！」ってことです。それを強調して下さい！（笑）。（テレコに向かって）邪道、外道の扱いを良くしろ！（小声で）自分もそれに付いていきます（笑）。

「邪道さん、外道さんはキャリアもあるし、レスリングもうまいんで、今は日々勉強！　凄い充実してるし楽しいです！」とギャングスター

4

エンターテイメントプロレ

真のエン

5

うのは失礼ですよぉぉぉ！　チィープですよぉぉぉ〜!!」と、いうことでしかない。ズバリ言ってエンターテイメントを履き違えてるといるというか！

試合内容は別にして、これらの試合に共通していることは、キャストが全く持って自分のキャラクターを演じ切れていないということである。

映画『レスリング・ウィズ・シャドウズ』を見ても分かるとおり、WWFのスーパースターは、皆、身体を鍛えることと同じくらい、マイクアピールの練習に力を注いでいる。WWFだけでなく、アメリカン・プロレスは昔からそれが常識なのだ。FMWのレスラーも「エンターテイメント」を標榜するなら、それは必須条件だろう。

結局、キャラも立っていて、喋りもしっかりできるのが、荒井社長ただひとりというのが、FMW最大のアキレス腱である。この日は、その荒井社長の元に匿名の内部告発者からの電話が頻繁にかかってくる映像が、試合の合間に何度も流され、内部告発者の正体が誰なのか？　という興味を観客に抱かせたが、結局最後までそれは分からずじまい。

エンターテイメントなら観客をびっくりさせなければならないのに、サプライズが最後の黒田の乱入だけでは寂しすぎる。とにかく、スカパーのバックアップがあり、仕事の出来るレスラーが揃いながら、それが活かされていない現在のFMWには歯がゆさを感じてしかたがないのだ。

間違いなく21世紀のひとつのプロレスの形であるエンターテイメント・プロレス。それを確立させるためには、キャストがエンターテイナーになる必要が絶対にある。

FMWよ、もっと高度を上げろ！

（ガンツ）

ヤマケン『クラブファイト』& HIPHOPに圧勝！

……するも

更なる刺客“あの田村潔司”に苦敗を喫した

UFCライト級王者 パット・ミレティッチ見参！

FOOL ON THE RING 馬鹿になれ!! 21

これに勝たなければ ヤマケンに明日はない!!

構成／チョロ
text by Choro

撮影／丸山剛史
photographs by Takeshi Maruyama

協力／エキサイティング幸田
helper by Exciting koda

昨年11月、大激震の『UFC—J』以来、約1年振りの試合を行ったヤマケン。『タイタンファイト』に続き、ヤマケン構想・第二弾『クラブファイト』が遂に動き出した。格闘とヒップホップの融合、ヤマケンに勝ったら即50万円、真夜中のゴング等々、まさに21世紀型プロレスともいえる、従来のマット界の常識を二重三重にブチ壊すという、ある意味、ヤマケンらしい思いきったイベントをブッ放してきた。

ヤマケン久々の闘いは、リングス出場経験（『バトルジェネシス』）もあるコマンドサンボ&ボクサーの倉橋達也相手にクラブ中に鈍い音が響き渡る強烈なマウントパンチで圧勝！

試合と試合の合間にはヒップホップのライブが行われ、まさに〝格闘とヒップホップの融合〟が見られたのだが、1年振りのヤマケンのファイトが見たいというプロレス&格闘技ファンが大多数を占めていたため、その筋ではかなりのビッグネームのヒップホッパー達も本領発揮とはならなかった。ヤマケンは「どのプレイヤーが観客を一番熱狂させられるかというのも闘い」と語っていたが、この日に関して言えば、これまたヤマケンの圧勝という結果に。

今回はオールスタンディングでリングを取り囲むという形式を取ったため、クラブの中ほどにいる観客からは、グラウンドになると、かなりの長身でなければ、その攻防が見えないという難点もあったが、クラブという場を考えればある意味、致し方ないと言えるかもしれない。むしろ、人を押しのけて最前列まで押し寄せたくなるような試合をプレイヤー（ミュージシャンも含む）が披露すればいいだけの話である。

CLUB fight
11・12／渋谷WOMB

タイタン準優勝の市川直人（P．O．D）が体格的に勝る山本尚史（フリー）のパンチをもらいながらも、果敢にタックルしテイクダウンに成功。膠着状態が続くも、最後はフロントチョークで見事勝利。ただあえて苦言を言うなら、あまり格闘技を見慣れていないであろうクラブクッズにも伝わりやすい派手な試合をして欲しかった。次回はやっちゃってください。

第二試合はアマ修斗等で活躍中の金子真理（禅道会）とタイタン出場を直訴していた高橋洋子（J，dレフェリー）は身長で22センチ、体重で25キロという圧倒的に体格で勝る高橋がいきなり顔面蹴りで金子を蹴撃し、会場は一気にヒートアップ。最後は金子がヒールホールド、高橋がアキレス腱固めをかけあうという状況になったが高橋がパワーでタップを奪った。

本誌クラブ力士スモーノブの『クラブファイト』に一言申す！

「セイ・ホ～？」とラッパーさんが客席にマイクを向けたら、「ホ～！」と返すでごわす！　ヒップホップは知らずとも、ゲーム『パラッパラッパー』でもおなじみたい。それがこの日は全くなかった！　出演してたのはＳＵＩＫＥＮでごわす！　メジャーデビューしてるし、メチャうまだし、必死に盛り上げてたでごわす！　それが、自分の立ち位置を確保するためにリングサイドに張り付いた格闘キッズは無反応。いろんなことを考え直した方がいいばい。どっちにも良くないでごわす！　ラッパーさんも観客も可愛そうたい。むしろ試合の間はＤＪタイムにしてみたらどうでごわす？

10分1本勝負

○山本喧一（8分0秒TKO勝ち）倉橋達也●
［パワーオブドリーム］　［コマンドサンボ プロ化対策委員会］

試合前にヤマケンは「入場、試合、退場までの全てがオレの作品。アートだよ」と語っていたが今回の闘い（＝アート）にテーマがあるならば「生の喧嘩を見せたろか！」ではないだろうか？　ゴツイ男達の生の喧嘩を間近で見たキッズ達は暴力が持つ華の部分を感じたに違いない。また会場にはエンセン井上、柳澤龍志、桜井速人などの姿も見られた。

クラブファイト記念すべき第一回目のファイター・倉橋達也。コマンドサンボの他にボクシングのプロライセンスも持つ35歳。リングス後楽園大会で郷野聡寛との対戦経験もある。

ヤマケンは、日本コマンドサンボ連盟プロ化対策委員会所属の倉橋に対し、開始早々タックルからテイクダウンを奪うと倉橋にグラウンドで何もさせず終始試合をコントロールした。

渋谷のラブホテル街のド真ん中にあるクラブに800人を越す観客が集まったという事実が『クラブファイト』、そしてヤマケンに対する期待感の現れと言えるだろう。今後、数を重ねていけば『クラブファイト』で熱くなったカップルが、そのままホテルに直行し真夜中の『ラブファイト』（膠着OK）が繰り広げられる可能性も大いにある。『クラブファイト』が若者の新たなデートスポットになる日も近いか!?

当日はTBSの『ワンダフル』も収録に訪れていたので、ワンギャルがヤマケンのファイトを見て大盛り上がりのシーンをTVで目撃した人も多いと思う。これは『クラブファイト』のターゲットとして狙う若い世代に対し大きなアピールとなったはずで『クラブファイト』一発目は成功と言えるだろう。

しかし『クラブファイト』はそれだけでは終わらなかった。試合を終えたばかりのリング上で、ヤマケンの口からUFC のライト級タイトルマッチに挑戦することが発表されたのだ。

『タイタンファイト』そして『クラブファイト』という新機軸をスタートさせたばかりのヤマケンは、この世紀末に一気に勝負を掛けてきた！

確かに勝てば官軍ではあるが、負ければ思いっきり地獄というリスキーな道を選んだヤマケンの覚悟は相当なものと思われるし、十分に評価できる。

しかしながら、対戦相手のパット・ミレティッチはヤマケンが簡単に勝てる相手ではない。ミレティッチは試合数をメチャメチャこなしていながら、敗れたのは、中尾受太郎、マット・ヒューム、ペレ、そして田村潔司ぐらいなものである。正真正銘、世界トップク

21世紀のマット界を盛り上げるため、ヤマケン、ミレティッチを突破せよ！

ラスのバーリ・トゥーダーと言える。バーリ・トゥードの経験も桁違いな上に、契約体重は77キロというから、ベスト体重93キロのヤマケンにとっては厳しい条件が重なっており、しんどい闘いになるのは目に見えている。

一方で、ルールも体重も違うが、この試合を通して、因縁浅からぬヤマケンと田村の関係が再びクローズアップされることになるだろう。両者とも、最近はお互いの名前を積極的に口にはしないが、ヤマケンが田村に対し〝偽善者〟と叫び、挑発した事実は消えることはないのだ。ヤマケンがミレティッチの向こう側に田村潔司の姿を見ていることは想像に難くない。

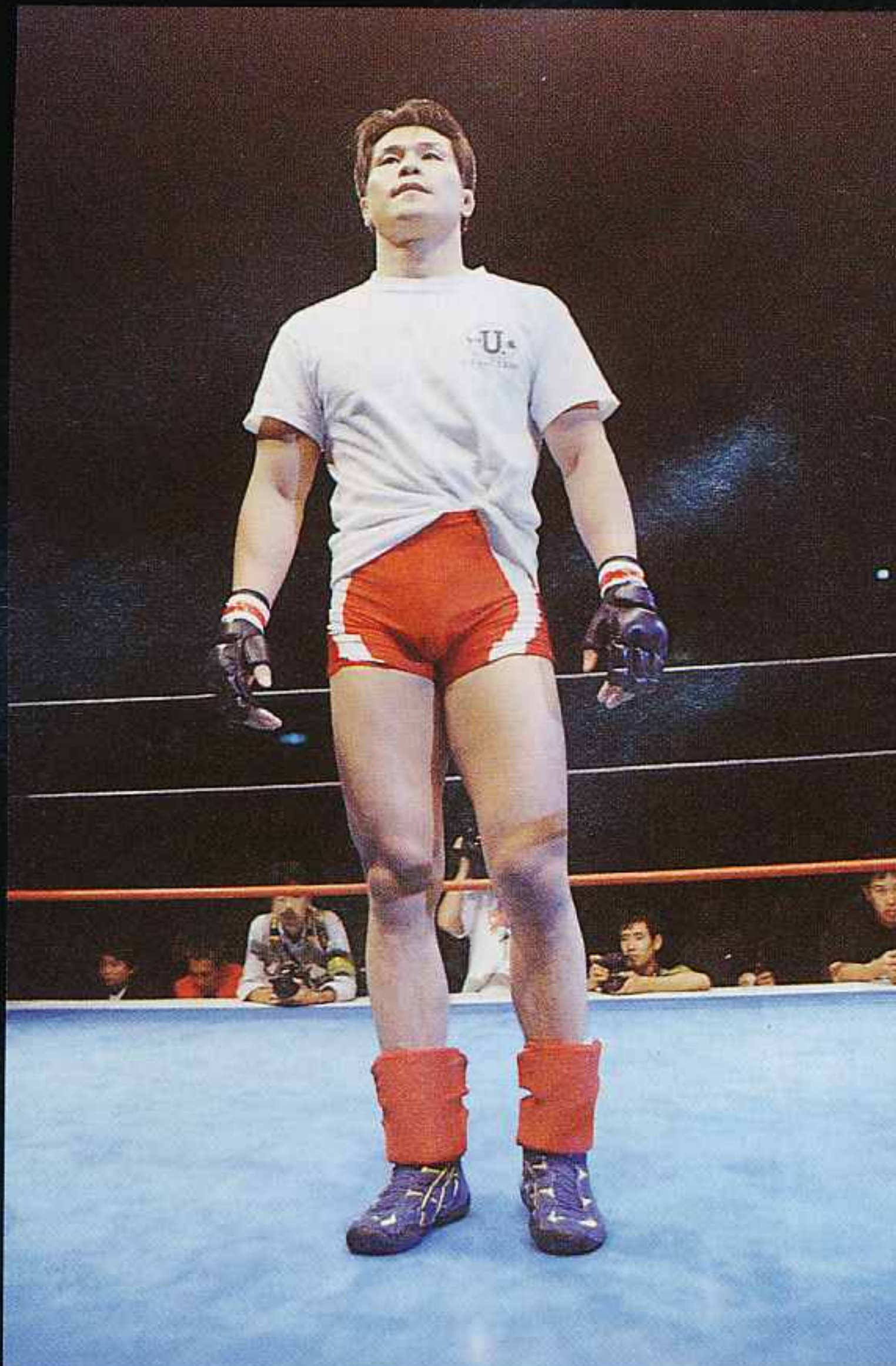
ヤマケンは会見で「田村さんは判定勝ちだったみたいなんで、ボクがKOか一本極めればいいんでしょ。もちろんそれを狙いますよ。ボクがベルトを獲ったら、『有言実行する男だ』ってわかるんで、これ以上言う必要はないんですよ」と、勝ったら貝になる宣言をしているが、かねてから目標としていたUFCのベルトを奪うようなことがあったら黙ってはいられないはず。いや、その時こそ声を大にして田村潔司に対戦表明すべきである。

「結果も出してないのに大きいことを言うな」とヤマケンに対し思っているファン、そして関係者は多い。今度の試合は、そういう人達を黙らせる絶好のチャンスでもあり、田村戦への近道でもあるのだ。もしヤマケンが世界のベルトを巻いたら、今度ばかりは田村も「チーターより早く逃げる」とは言えないはず。そして、その時こそ、山本喧一対田村潔司戦が真の意味でのドリームマッチへと昇華することだろう。

会見の最後に「この試合に勝ってボクが21世紀を盛り上げたいと思います」と意気込みを語ったヤマケン。今世紀最後のオクタゴンで勝利の雄叫びを上げ、21世紀のマット界を盛り上げろ！　そして田村戦を実現させるためにも、なにがなんでもミレティッチを突破せよ！　お楽しみはそれからだ!!

（チョロ）

FOOL ON THE RING 馬鹿になれ!! 21

記念すべき第1回「クラブファイト」のリングには、なんとUインターのロゴマークが。これはヤマケン流の謎かけか？　とにかく12・16のパット・ミレティッチ戦は注目だ！

今年のKOKで田村はザザを破り2回戦に進むも、ノゲイラに敗れ決勝大会進出ならず。田村の次の相手は誰だ？　そして21世紀、ヤマケンとの対戦は実現するのか？

山本喧一24歳「これが俺の生きる道」

12・16（土）UFC-J東京・ディファ有明

【UFCライト級タイトルマッチ】
パット・ミレティッチvs山本喧一
【UFCミドル級タイトルマッチ】
ティト・オーティズvs近藤有己
【ミドル級スーパーファイト】
安生洋二vsマット・リンドランド　その他

●開場　16:00　試合開始　17:00
●お問い合わせ：UFC-J事務局
電話：03-3498-1029

1・20（土）　大阪・MOTHER HALL CLUB FIGHT〜Round3〜 山本喧一vs秋山賢治

OPEN　21:00　FIGHT GONG　22:30

地元大阪でクラブプレイヤー・ヤマケンの試合はクラブキッズに届くのか？　対戦相手の秋山賢治は95、96北斗旗体力別重量級優勝の元大道塾のエースでVTでは9勝1分の強豪。たやすく勝てる相手ではないが、華のある勝利で大阪にもクラブファイトの刻印を焼きつけろ！　そして、12月3日に予定していた名古屋・CLUB OZONが、山本喧一欠場の為、延期となり、3月4日、同会場にて行われることとなった。

●チケット発売所：チケットぴあ
●会場アクセス：地下鉄御堂筋線難波駅より徒歩5分
●お問い合わせ：ヴァーサス・エンターテインメント
電話：03-5775-1668

1・21（日）東京・アールンホール 第2回TITAN FIGHT

タイタンファイトは「格闘技界のスター誕生の場」がコンセプトだが、これに優勝して2001年12月開催予定のグランドチャンピオンシップに勝てば優勝賞金1千万円!!　今すぐ申し込め!!

●試合開始：未定
●チケット発売所：チケットぴあ（予定）
●会場アクセス：東京モノレール東京物流センター駅より徒歩2分
●お問い合わせ：ホークエンターテインメント電話：03-5734-5354

マット界の1ヶ月半丸わかり

紙の新聞

KAMINO SHINBUN

（毎月22日発行）
発行所：（株）ダブルクロス

今年の流行語大賞は……

誰が何と言おうと「認めん」に決定!!

11・12月合併号

これを書いているのは、12月1日の午後3時。まさに締めきり「5秒前！（荒井社長の声で）」という状況なのだが、なんとこの期に及んで、ノアから「本日緊急記者会見」のリリースが！　もしや破壊王参戦決定か！　といったところで、1ヶ月前のニュースから呑気にお読み下さい。

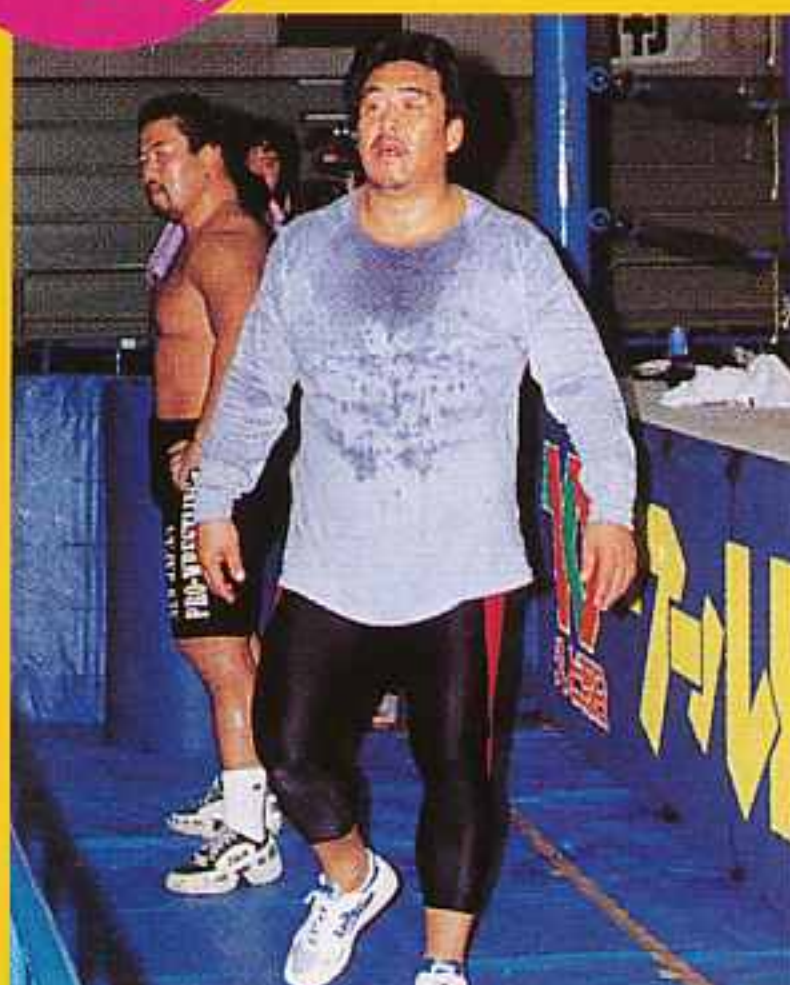
編集長／堀江ガンツ　　助手／水戸泉、マッハ、珍

10/18 【大仁田厚&XPW】ヴァンナイズ・エアテルプラザ・ホテル

大仁田、全米爆破マッチまた中止

年頭に大仁田が語った「2000年の目標」は「長州戦」と「全日本参戦」と「アメリカで電流爆破」だったが、長州戦実現、全日本参戦内定（延期）、に続いてアメリカでの電流爆破までも達成しようとしている（ちなみにドラゴンの目標である「国立競技場進出」「サミット開催」は実現する気配ナシ）。これまでWWF、ECW、CZWで実現寸前までいきながら、中止となっていた"全米爆破"だが、遂に新興エクストリーム団体XPWと正式契約。12月3日ロス近郊での開催が決定した。と、思ったらやっぱり中止の報。一体いつンなったら実現するん邪！

10/19 【新日本プロレス】

破壊王、新日シリーズ合流白紙

ドラゴンの提案で20日の福岡大会から内定していた破壊王のシリーズ合流が、現場サイド（っていうか現場監督？）の反発により白紙となった。またしても"ドラゴンプラン"がアッサリと却下されたわけだが、もはやそんなことは慣れっこ（想像）のドラゴンは開き直ったかのように、「いまこそ橋本は独立して部屋別制度を確立してほしい」と、自身がドラゴン・ボンバーズであえなく失敗した部屋別制度導入の夢を破壊王に託した。しかし、当の破壊王は「いままでの社内独立はホントに独立してたのか!?」とドラゴン・ボンバーズや無我を全面否定。またしてもドラゴンの想いは一方通行に終わりそうだ。嗚呼……。

10/20 【新日本プロレス】福岡国際センター

健悟の「イナズマ解説」スタート！

朗報！　我らがケンゴ（もちろんパンクラスの"ケンゴ"ではなく、"ムード歌謡の帝王"キムケンの方）がマサに代わって、この日から「ワールド・プロレスリング」の解説者を努めることとなった。本業の試合はともかく、写真集発売、フィギュア化、番組イメージキャラなど派手な話題を提供し続ける"謙吾"に対し、最近の本家・健悟はというと試合数はめっきり減り、新曲の発売ももちろんなく、政界進出（未遂）が話題に上る程度で全国の隠れ健悟ファン（別に隠れる必要はないが）は寂しい思いをしてきたが、それもこの日で解消。これからは毎週、お茶の間に健悟が美声が響き渡るのだ。伝説の一言「イナズマッ！」復活に期待したい。

【大仁田】成田空港　大仁田が全日本参戦を白紙撤回宣言&引退試合の相手にアントンを指名。

10/21 【サムライ2000】有明コロシアム

佐竹がジャイ落に「アフロ禁止令」。その真意は？

1Rキックルール、2R寝技アリ（30秒間）という新格闘技「サムライ」が団体の垣根を越えて多くの選手を集めて旗揚げした。注目は早くも正念場を迎えたジャイアント落合と西良典の一戦。そろそろ結果が欲しいジャイ落は、得意の「ジャンピングフック空振り」（「空振り」までが得意）を繰り出すなど「らしさ」を見せるが、結局決定打がなく時間切れドローとなり、またもや初勝利を逃がしてしまった。この不甲斐ない結果に"国王"こと佐竹が激怒。ジャイ落に「アフロ禁止」という厳罰を言い渡した。それにしてもジャイ落の命とも言うべきアフロを剥奪しようとする佐竹の真意は何なのか？　まさか、その体型、髪型など急激に"ジャイ落化"が進む佐竹がキャラが被るのを恐れての行動では……。

10/23 【全日本プロレス】全日本プロレス事務所

全日残留の馳が仰天要求

全日分裂、衆議院選当選で、その去就が注目されていた馳浩が、この日全日本残留を表明した。今、マット界で一番なにが起るかわからない団体・全日本に舞い戻った馳は会見でもノリノリ（というか悪ノリ）。「蝶野が上がった時点で従来の全日本は終わったんだから、誰とでもやってやる」と古巣・新日本との対抗戦出陣を表明しかと思えば、「1・28ドームでは渕さんとシングルでやりたい。俺のセコンドに元子社長、渕さんのセコンドにウチのかみさんでどうだ」と、掟破りのス◯ッピング・マッチ（？）を提案。持ち前の底意地の悪さをいよいよ発揮しはじめた馳には俄然注目である。

【ZERO新日本プロレスリング】ZERO仮道場

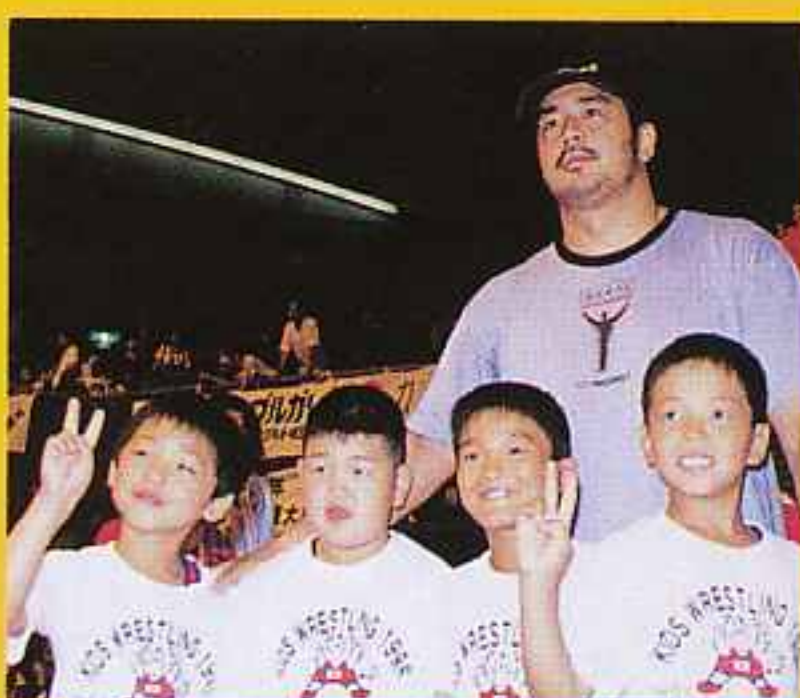
破壊王道場「ZERO」公開

新日本からの"社内独立"を宣言した破壊王が仮道場を公開、名称「ZERO」を発表した。ZEROといっても大仁田厚の「チーム・ゼロ」とは何の関係もなく、破壊王が赤いフンドシで大暴れする予定も残念ながらない（当たり前）。ここで破壊王は改めて新日本隊興行には出場せず、自主興行、他団体への出場など独自の活動を行うと宣し、「バックアップは受けないが、新日本の名前は使わせてもらう」と、なんだか都合がいい"完全（？）独立"をアピールした。こんな中途半端さからファンになにかと槍玉に上げられがちな破壊王だが、「（猪木のパネルが飾られる新日道場に対抗して）ここには星野勘太郎さんの写真を飾ろう（笑）」という実に破壊王らしい発言を聞くと、やはり応援せずにはいられないのであった。

10/24

【新日本プロレス】
ドラゴン、やっぱり「認めん!」

破壊王の独立問題が持ち上がって以来、「俺がやろうとした部屋別制度の先鞭をつけてくれ」と、あくまで自分の夢を託すという勝手な理由ながら、破壊王を支援してきたドラゴン。しかし、破壊王が「ノア参戦」表明すると、例によって「認めん!」と、その態度は豹変。遂には「あいつは1人じゃなにもできない」となぜか破壊王を罵倒する始末。

【高田道場】武蔵小山 高田道場
"品川の最終兵器"高田、キッズファイターに必勝誓う

現在、ちびっこアマレス界で屈指の勢力を誇るようになった高田道場。今年も優勝者を2名だすなど、まさに「キッズ元気!」状態だ。そんなキッズたちに刺激され、館長の高田も負けじと決起!「北の最終兵器」ボブチャンチンに対して「おれは品川の最終兵器。総合格闘技の進退をかけて戦う」と高田言語で不退転の決意を表明した。高田、もう一丁!

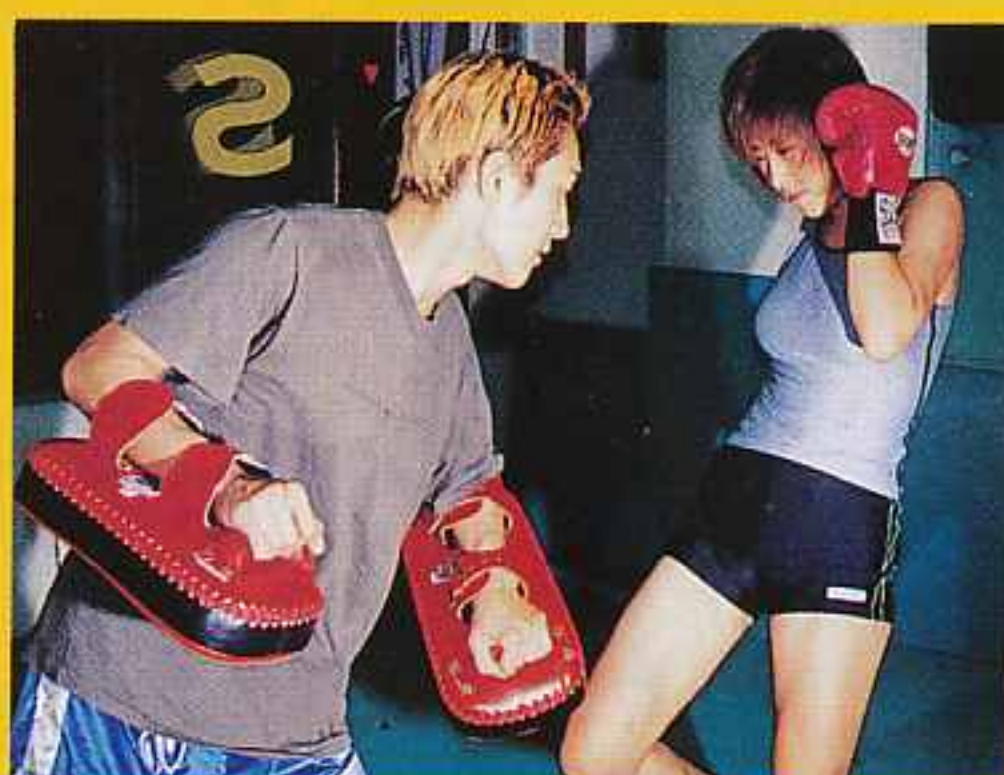
【オールスター・プロレスリング】
ヨコヅナ、急死

元WWF世界ヘビー級王者のヨコズナが、英国ロンドンの滞在中のホテルで心不全のため急死した。享年34歳。ヨコズナはWWF入りする前、88年にグレート・コキーナのリングネームで初来日。新日本の常連外人として日本でも活躍した。長くシリーズを一緒にサーキットしたベイダーは「あんなに気持ちの優しい奴はいなかった」とノアマットで涙を流した。合掌。

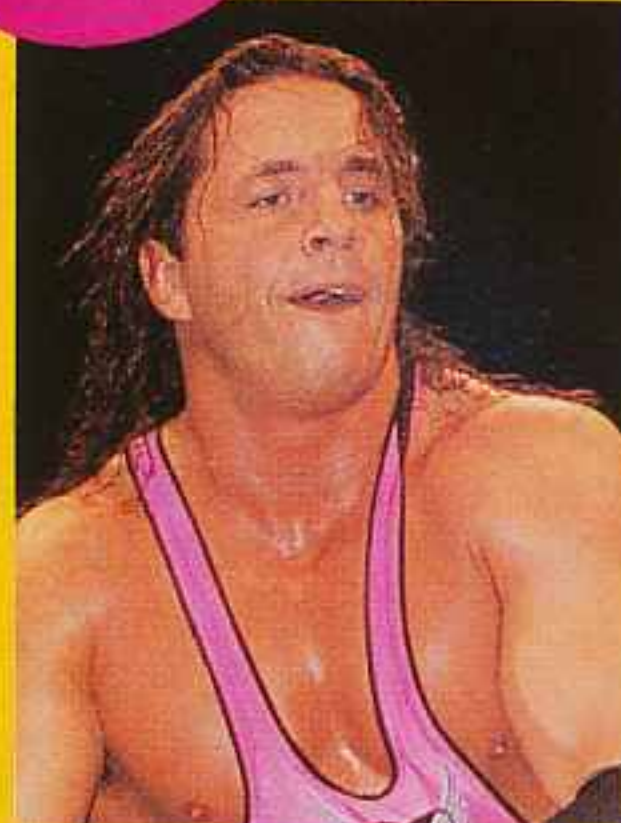
10/26

【ホークエンターテイメント】ホテル・ニューオータニ
タイタン・ファイトが巨大化!

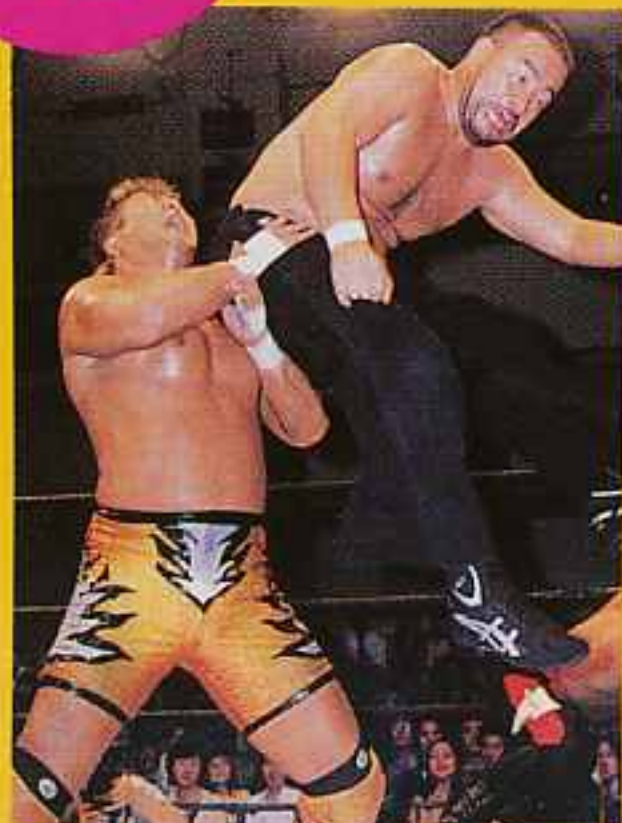
タイタンプロデューサー・ヤマケンが来年度の『タイタンファイト』の概要を発表した。それによると、タイタンを来年は最低5回は開催し、各大会の優勝、準優勝者が出場できる、グランドチャンピオンシップを12月に開催予定。そしてなんとその大会の優勝賞金は破格の一千万円! さらに気が早いことに2004年に世界大会を開くことも、すでに決定。とりあえず腕に自信がある方々は、締切が12・9なので今すぐ応募しましょう。

【Remix】水道橋SSS
桜庭あつこが公開練習

本誌が書店に並ぶ頃、格闘技デビュー戦を終えている桜庭あつこだが、ネット上で、とんでもない噂が飛び交っている。なんと桜庭とそのコーチを務めるタノムサク鳥羽が夜に濃密な寝技の特訓を行っているというモノだ。公開練習では鳥羽のミットもろともGカップバディも揺らし充実ぶりをアピールした2人だけに、是非を問うべく、鳥羽を直撃! 「全然ないっすよ。でも、どんどん載っけて下さいね」と売名クイーンを相手に逆売名行為宣言!ということで、鳥羽がサクを殺(犯)った!

10/27

【ワールド・レスリング・フェデレーション】
WWF、O・ハートの遺族と和解成立

99年5月23日に行われたWWFのミズーリ州のカンザスシティー大会の開催中にオーエン・ハート選手が転落し、死亡した事故に対し、妻のマーサーさんら遺族がWWFを訴えていたが、180万ドル(20億円)をWWFが払うことで和解が成立した。事故は宙づり状態で入場するはずだったO・ハート選手の突如ロープが切れ、15mの高さから墜落死した。ちなみに写真はなぜかブレッド。

10/28

【全日本プロレス】日本武道館
越中、アッサリ新日本Uターン宣言

メンバーが手薄になった全日本を救おう!という男気溢れる理由で古巣・全日本に参加していた越中が、この日を最後に早くも新日本へUターンを表明した。「対抗戦のための、一時的な出向だろ」という周囲の憶測といりの展開だが、当の越中は胸を張って「自分の出来る範囲のことはやったつもり」と発言。どう考えてもできる範囲が狭すぎるだろ。

10/29

ニュースぶち込み!

【PRIDE】
DSE事務所 大仁田がDSEに来社、森下社長に猪木への挑戦状を渡す。

【FMW】後楽園
FMWを追放中のミスター雁之助が黒田の試合に乱入。11・22横浜で「負けたら即引退」試合が決定。

【新日本】
神戸 田中稔が高岩を破り、悲願のJr.王座奪取。

【新日本】
神戸 マシンが続々増殖。

【アルシオン】後楽園
ソチ&文子の浜田シスターズがツインスター・オブ・アルシオン(タッグ・リーグ)に優勝。

【WCW】"ヒットマン"ブレッド・ハートが遂に引退を表明。

11/3

【格闘探偵団バトラーツ】TFM
田中稔がバトを卒業

田中稔のバトラーツ卒業マッチが行われた。この日は田中と石川社長との一戦のみのワンマッチ興行となったが、普段の同所のバト興行よりも明らかに大勢のファンが詰めかけ、祝福ムードで一杯の卒業マッチとなった。終始、間接を取り合い、初期の藤原組のスパーリングを彷彿とさせる一戦は石川社長の勝利となったが、バトから誕生した現IWGP2冠王の今後に期待したい。(珍)

10/31

【パンクラス】後楽園ホール
マッシブ・イチが引退

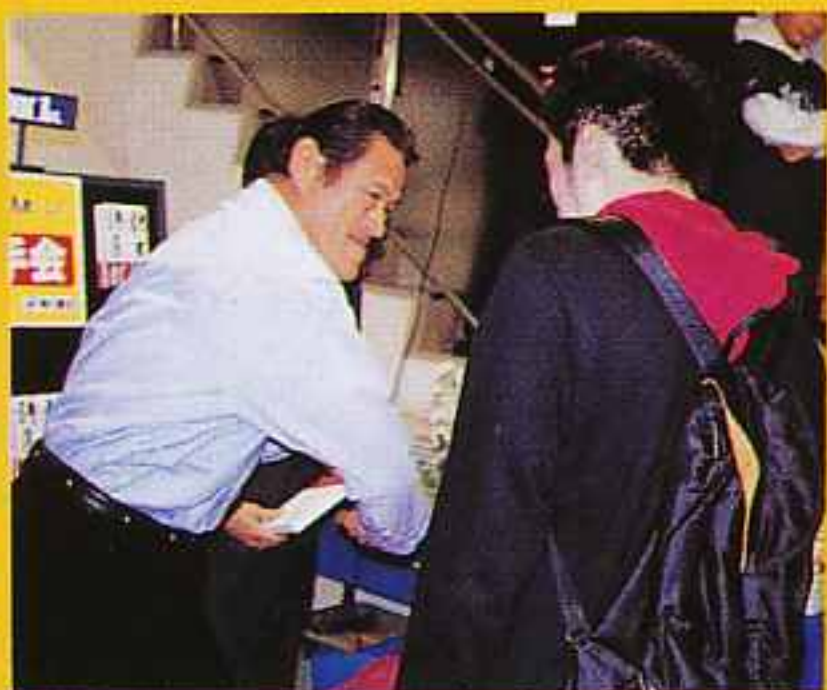
10・31後楽園大会の試合前に一人の若手レスラーの引退セレモニーが行われた。マッシブ・イチ選手は今年1月にデビューしたが、左ヒザに古傷(靭帯損傷)があり思うような練習・試合が出来ず、医師の診断の結果現役続行が不可能と診断され引退となった。今後は本名松原一雄に戻って第二の人生を歩むらしい。頑張ってください。マッシブ・イチ 通算成績 1勝5敗1引き分け。(幸田珍)

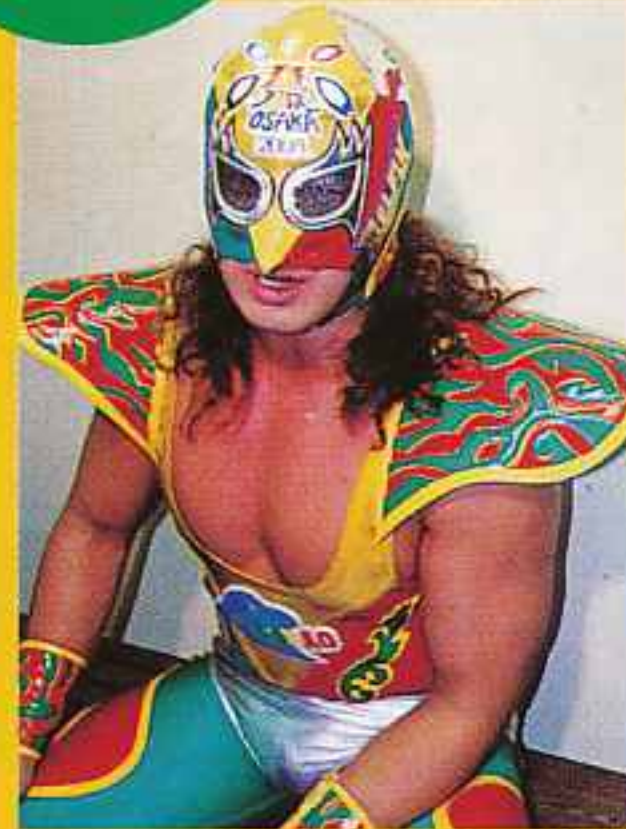
【PRIDE】大阪城ホール
桑田佳祐が『PRIDEの唄』をリング上で披露

小川vs佐竹の世紀の一戦の為に(つーか、オーちゃんの応援のために)あの桑田佳祐が登場! オリジナルの『PRIDEの唄』を熱唱した。桑田といえば「音楽はプロレスだ」がモットーというほどのプロレスファン。伝説の88年8月8日の猪木vs藤波のときも「旅姿6人衆」を生で歌うプランがあったが、流れた経歴がある。今回は12年越しのリング登場だったのだ。

11 3 【新日本プロレス】東京プリンスホテル
恋のアルゼンチンバックブリーカー

"野人"中西学がプロ野球・横浜ベイスターズ元監督、近藤昭仁氏の次女、近藤典子さん（33才=女優）との婚約を発表した。中西と言えば、その美しき野獣ダンスで大仁田劇場なきあとの『ワールド・プロレスリング』視聴者を楽しませてくれている、新日本の命綱。この結婚で丸くなることなく、さらにその野獣性に磨きをかけて欲しいものだ。

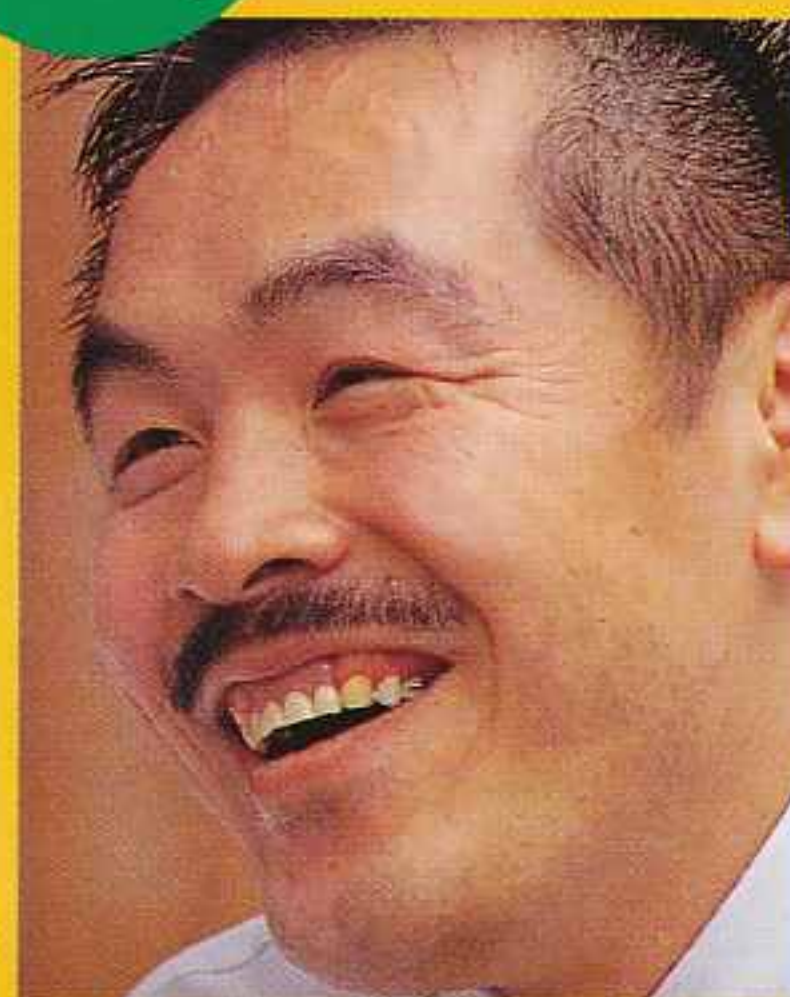
【猪木事務所】
闘魂詩人、デビュー記念サイン会

当初は、闘魂注入は禁止だったのだが、そんなことは意に介さずビンタを願い出るファン達を容赦なくビンタを見舞うアントン。進行が遅れまくり、困りはじめたそんな関係者を救ったのが百瀬さんの「ピアスをつけている奴が多くて危ないからビンタは禁止だ」との一言であった。さすがにアントンに詩集を書かせてしまうほどの男の声はさすがに重みが違う。

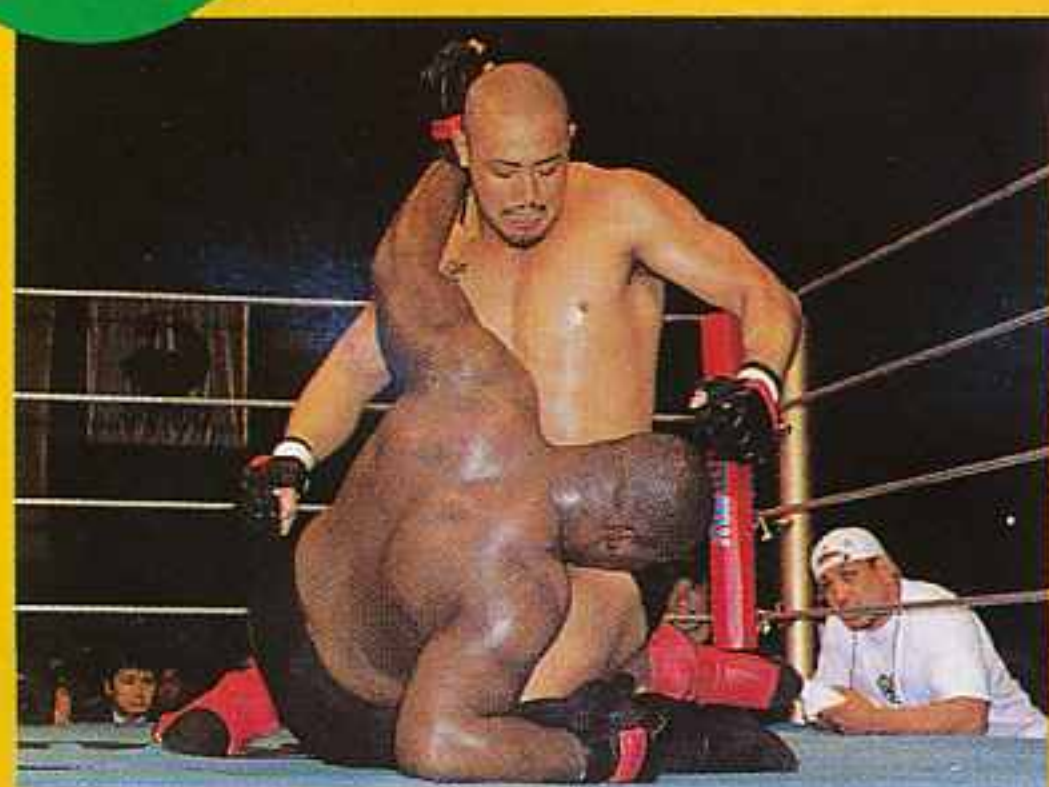
11 6 【大阪プロレス】
デルフィンが改めて「打倒・新日」宣言

久々の東京進出で村浜を下したデルフィンが、改めて「打倒・新日」「打倒・ライガー」「打倒・プロレス」（それは青柳館長）を宣言した。デルフィンは10・9ドームでライガーに敗れたあと、ボロクソに言われたのがよっぽど悔しかったのか、控え室で過激発言を連発。執拗に新日との対抗戦をアピールしたが、この路線こそがおそらく大阪分裂の原因だのだろう。

【JWP】JWPが後楽園を撤退することが発覚

11 8 【PRIDE】京王プラザホテル
サク、ハイアン戦は「ストレス解消」

『PRIDE・11』から1週間、早くも次回『PRIDE・12』（12・23）の第1弾カードとして、桜庭vsハイアン、ケアーvsボブチャンチンの2試合が発表された。会見に出席したサクは「前回の試合（シャノン"ザ・キャノン"リッチ戦）が僕は10分ぐらいやりたかったんですけど、早く終わってしまいストレスがあったので、次の試合で発散したいです」と、ハイアン戦は単なる「ストレス解消」と断言。「11」で対戦が噂されたときは「デビュー2戦目の相手とやってもつまんないじゃないですか」と"グレイシー最狂の男"をグリーンボーイ扱いして拒否しており、まさに「グレイシーをナメ腐った男」（辻アナ調）ぶりを全開。こうなるとハイアンに完敗を喫した石沢の立場は……。

11 9 【全日本プロレス】
馳、クイズ番組で全問正解。1000万獲得！

最高賞金1000万円のクイズ番組「クイズ$ミリオネア」（フジ木曜午後7時）の23日放送分に馳浩が出演。見事15問全問正解し、1000万円（！）を獲得した。これは今年4月の番組開始以来通算4人目、芸能人では初となる快挙。馳とクイズ番組というと、数年前に「クイズ・ヒントでピント」にゲスト出演。1問も答えられずに宮尾すすむら"男性軍"の足を引っ張りながら、ゲストの特権で象印ポットはもらって帰るという、誰も覚えていない苦い過去があるが、今回でその汚名返上に成功したといえるだろう。でも、レスラーのクイズ番組出場というと、やっぱり伝説の「ジョージ高野、ドレミファドン出場事件」には誰もかなわないと思う今日この頃なのであった。

11 9 【DEEP2001】ホテルアイビス
『DEEP』が1・8愛知で旗揚げ

『PRIDE』『コロシアム』に続く第3の総合格闘技イベント『DEEP2001』の開催が突如発表された。この大会はヘビー級中心の『PRIDE』とは一線を画し、軽・中量級のブラジル人選手とパンクラス勢が中心となる予定で、文字どおりディープなファンばかりが大喜びするイベントとなりそうだ。対戦カードはKEI山宮とハウフ・グレイシーなどが噂され、また、真っ先に参戦を表明した謙吾の対戦相手は、いまはまだ名前は発表できないが、『PRIDE』出場経験のある大型日本人ファイターとの対戦が予定されているでごわす。は～どすこ～い、どすこい！

【新日本プロレス】新宿　CODE
闘魂パチンコ遂に登場！

「脳なし社長！」「クビだ！」と果てしなき抗争を続けるT2000とドラゴンが、パチンコ実機『CR闘魂』の発表会で仲良く同席。ここでドラゴンは予想通り「これにハマっちゃって、試合時間に間に合わなかったらどうしよう？」などとドラゴンらしいほのぼのギャグを飛ばした。ところで、このパチンコで気になったのは、「自称・新日のトップ」佐々木健介の扱い。ポスターの顔写真も小さく、大当たり画面の4人のみならず確変キャラからも外されていた健介。やはりいくら「トップだ」と言い張っても、世間の評価はやはり小結だったようだ。

11 10 【新日本プロレス】新日本プロレス事務所
新日緊急役員会議、破壊王問題紛糾

この日、橋本の「ノア参戦」発言を機に新日本で緊急幹部会が開かれ、会議は四時間半にもおよんだ。参加メンバーは藤波社長、長州監督、永島取締役企画部長と選手からは越中、健介、蝶野。会議終了後、まず永島は「橋本発言は個人レベル」と全日を気にした発言を言い残し、全日事務所へ急行。長州監督、他の選手達はノーコメントに近い発言で上手くはぐらかす中、我らがドラゴンだけは苦渋に満ちた表情で「橋本離脱……考えたくない」と突然現実逃避。いま考えなくてどうする！　と、ツッコミたくなることこの上ないのであった。

11 11 【FMW】横浜文化体育館
ミスター雁之助、黒田に負けて即引退

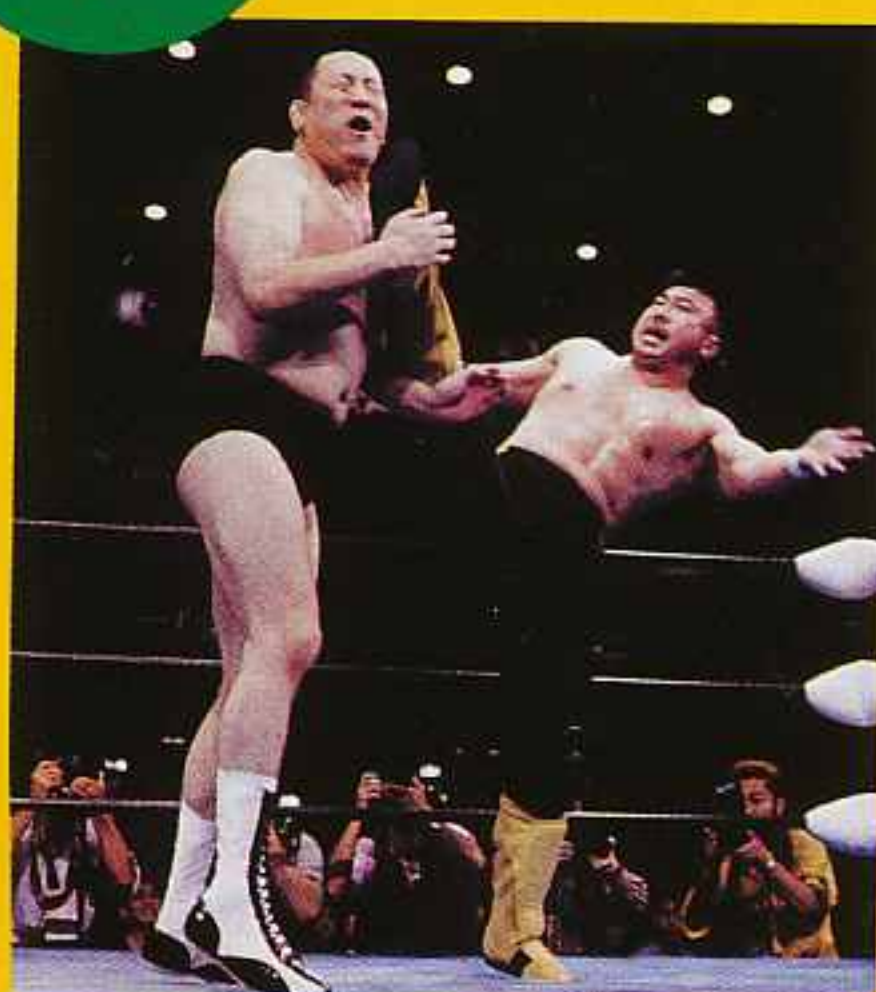
FMWのエンターテインメント路線を批判し続け、乱入・暴行を繰り返し出入り禁止となっていたミスター雁之助が10・29後楽園大会でも乱入し、業を煮やした荒井社長と黒田が11・12横浜大会での「ミスター雁之助負けたら即引退」を雁之助に要求。試合は観客の想像を裏切る雁之助の敗北。リング上から「悔いはもの凄くある。でも約束だから引退します」と涙&血まみれで語った。雁之助は32歳とまだ若く、またその実力は天龍も認める程のレスラーだっただけに、悔やまれる引退だ……。ところで復帰戦はいつですかね？
（幸田珍）

11/12 【みちのくプロレス】
タイガーエンジェル登場

またまたタイガーマスク増殖!? 「タイガーエンジェル」なる謎の覆面レスラーが12・15後楽園大会でデビューすることが明らかになった。約1年前にサスケ社長がスカウト、四代目タイガーマスク自ら鍛え上げた女虎戦士。年齢が21歳であること以外、正体は一切不明。マスクから伸びるブロンディな髪、21歳にしてこなれたメイクアップ術、覆面の下の素顔はいったい…。(戸高)

11/13 【新日本プロレス】新日本プロレス事務所
ドラゴン、破壊王解雇を正式発表

あるときは引退を勧告し、またあるときは辞表をを引き裂くなど、昨年の秋から続いたドラゴンと破壊王の、ドタバタ愛憎劇も遂にこの日、ひとつのピリオドを迎えてしまった。「一昨年から新日プロを預かって、一番言いたくない事を言わなければならない」と、ドラゴンが絵に書いたような鎮痛な面持ちで破壊王の解雇を発表。散々破壊王の独立を後押ししながら、「シリーズ中なのに参戦しないで道場を旗揚げしたり、会社として承認できない」と、はしごをはずす結果となった。それにしても、解雇する側の社長が沈痛な面持ちで、解雇された破壊王が満面の笑みなのだから、この解雇劇わけがわからない。

11/14 【全日本プロレス】横浜市・全日本プロレス道場
川田&渕、昔ながらの「公開練習」

歴史と伝統を誇るマット界のベストセラー「世界最強タッグ決定リーグ戦」。その開幕の直前に、これまた歴史と伝統がなぜか受け継がれている行事がある。それが「公開練習」である! 古くは馬場&鶴田組が開幕直前(写真撮影用に)「肩を組んでの30文キック」等を、普段はあまり通っていなさそうな全日本道場で公開していたりした、由緒正しい全日本の恒例行事。この日は、もちろん全日本(たなぼた)エースコンビ、川田&渕が、ストレッチ・プラムとフェース・ロックの二重奏を披露。牧歌的な全日イズムを見せつけた。

【Jd'】後楽園 アストレス2名プロテスト合格。デビューは11・26ディファに決定。

11/15 【全日本プロレス】
川田、天龍のわがまま「認めん!」

「最強タッグ」開幕直前に「パートナーを荒谷から、太陽ケアに変更したい」という天龍の理不尽要求に川田が激怒した。「決められた中で結果を出すのが王道スタイルじゃないのか」一見正論で天龍を糾弾したが、良く考えたら川田は三沢らが離脱した直後のシリーズでは、カードに対する文句を散々言っていたのだ。そんなことは棚に上げて、「認めん!」とはやはり川田とドラゴン、このふたりはどこか共通のものを持っている。それにしてもこのパートナー問題で、5時間もの会議を開く全日本。新日・永島が交渉に苦戦するのもわかる。

11/16 【UFC－J】都ホテル「嵯峨の間」
近藤vsティト、今度こそ正式決定!

9月のUFCで正式決定しながらも流れてしまった、近藤vsティト・オーティズが遂に正式決定した。近藤にとっては、その名を世界に轟かせるビッグチャンス。他にもヤマケンvsミレティッチ、安生の試合も組まれており、今回のUFCは見のがせない。

対戦カード

12月16日
東京・ディファ有明 17:00〜

●UFCミドル級タイトルマッチ
ティト・オーティズ vs 近藤有己

●UFCライト級タイトルマッチ
パット・ミレティッチ vs 山本喧一

安生洋二 vs マット・リンドランド
高瀬大樹 vs ファビアノ・イハ
エヴァン・ターナー vs ランス・ギブソン
マット・ヒューズ vs デニス・ホールマン
チャック・リデル vs ジェフ・モンソン

11/17 【リングス・オーストラリア】
上山龍紀、オーストラリアで快勝!

オーストラリア・ブリスベンで行われたリングス・オーストラリア大会『FREE FIGHT BATTLE NR5』にU－FILE CAMPの上山龍紀が出場。ティム・トーマスを足首固めで破った。外様の悲しさか、リングス本戦ではなかなか試合が組まれない上山だが、田村と毎日練習しているだけあって、その動きのよさとナルシストな肉体美やはり田村譲りである。

【テレビ朝日】
ヒャッホー! 辻アナがテレ朝を退社

ヒャッホー! 88年から12年間という必要以上長い間、『ワールド・プロレスリング』の実況を努め、ファンから絶大なるヒール人気を誇る辻アナが、この度「ツジ・プランニング・オフィス」という事務所を立ち上げ、身の程知らずにも……もとい。めでたくもテレ朝を退社独立することとなった。これによって、晴れて『ワー・プロ』からも卒業かと思いきや、独立後もプロレス中継は続けることが判明。それだけでなく、『やじうまワイド』『トゥナイト2』まで、引き続き出演することから、破壊王ばりに偽装退社の噂が一部で流れている。

11/19 【全日本プロレス】後楽園ホール
1・28ドームでハンセン引退決定!

「最強タッグ」開幕戦に衝撃! これまで天龍復帰を初めとするビッグサプライズを提供してきた、ミセス・ババのリング上からの発表。この日も元子社長がリングに上がると歓声が上がったが、いつもとようすが違う。そして元子社長が涙ながらにハンセンの1・28ドームでの引退を発表した。引退理由は両膝の悪化というハンセン。今後は全日特別広報という肩書きが与えられるという。引退は非常に残念であるが、強いハンセンのままで引退できたのは幸福である。

【全日本プロレス】後楽園ホール
「最強タッグ」盛大に(?)開幕

マット界の風物詩、プロレスファンのゆく年くる年と言われる「世界最強タッグ決定リーグ戦」が今年も「オリンピア」のテーマと共に開幕した。今年は「最強タッグ後」の新日とのリアルタッグ王決定戦が話題らしいが、ズバリ言って、んなこたぁどうでもいいんだよ! 今年はそのメンバーから一部では「最低タッグ」などという陰口も聞かれるが、ウインダム兄弟、マイク・ロトンド、ダニー・クロファットなど、プロレス者が見ていた古き良き全日チックでマニアにはなかなか好評。いいぞ、ウォーリー! この路線で行け!

11/20 【衆議院本会議】
ちょんまげ野郎、水ぶっかけてやる！

元アマレス王者であり、長州力の兄貴分としてプロレス界ともつながりが不快、もとい深い、保守党の松浪健四郎議員が衆議院本会議で野党議員の「ちょんまげ野郎！」という的確かつひねりのない野次に激怒！　長州イズムで「クソぶっかけてやる！」とばかりに、コップの水をぶちまた。その瞬間、野党議員がメイン終了後リングに駆け寄るFMWファンのごとく、演壇を取り囲み、議会は見事に空転。松浪議員はこの責任をとってちょんまげ断髪を迫られているが、ここは越中に髪きりマッチで負けたのに後ろ髪をちょっと切ってごまかした長州イズムを再び見せて欲しい。

【新日本プロレス】ロス郊外イーグルロック山頂
ドラゴン社長業、続行ッ！

破壊王解雇の責任を取って、社長辞任を決意していたドラゴンがロスのアントンのもとを訪れた。訪問したドラゴンに対しアントンは「とにかく山に登ろう」と闘魂棒を片手に登山開始。山頂に辿り着くと「小さなことでクヨクヨするな！山から見下ろせばそんなもんは吹っ飛ぶさ！」と、闘魂説法。これにはドラゴンも「吹っ切れた、俺はやるよ！」と俄然やる気回復（単純）。帰国したドラゴンは「師匠というものは絶対なもんだ」と語り、12・31猪木祭りへの全面協力を勝手に表明。まんまとアントンの術中にハマったのであった。

11/20 【アルシオン】代々木アニメーション学院原宿校
府川唯未、引退を表明

府川唯未（アルシオン）は都内・代々木アニメーション学院にて3・20後楽園大会で引退セレモニー行うことを発表をした。府川が引退を決意したのは、7・16の後楽園大会で負傷が原因で二週間入院、診断を受けた結果、急性硬膜下血腫とクモ膜下出血が判明したため。府川は会見でファンへのコメントを求められると「申し訳ない気持ちが強いです」と涙ながらに話した。今後はVIPマネージャーとして同行し、ファンとの交流は今まで以上に行う予定。（幸田珍）

11/22 【新日本プロレス】新日本プロレス事務所
ドラゴン引退ロードまさかの再開

破壊王の引退問題のどさくさで自らの引退問題をうやむやにし、ひそかに「生涯現役」企てていると噂されたドラゴンだが、破壊王解雇でとぼけきれなくなったのか、渋々(?)引退カウントダウンが再開されることになった。その舞台は12・14大阪。対戦相手は金本浩二に決定した。金本戦は以前一度発表されながら、ドラゴンが所用ためにドタキャンした経緯のあるカード。新旧Jr.王者同士の対決ということで、ドラゴンには是非ともJr.王者時代の得意技ドラゴン・スープレックスを仕掛けるふり、を発奮させて欲しい。

【ノア】故・力道山の長男でノア取締役の百田義浩さんが肝臓疾患で死去。享年54歳。

11/22 【ＬＬＰＷ】代々木第2体育館
神取vsレイラ・アリ実現か？

モハメド・アリの七女でプロボクサーのレイラ・アリが成田空港で記者会見を行う予定だったがアリ側の諸事情（シャワーを浴びたい）のため、翌21日に急遽延期された。アリは会見で異種格闘技戦について「ＮＯ！」とキッパリ拒否、「ボクシングなら」とコメントした。翌22日『Ｌ―１』を観戦していたアリに神取が「次はアリ、あんただよ！」と対戦要求し、アリもいったんは承諾するもファイトマネーは１億円。さすがアリの娘、血は争えない。（幸田珍）

11/28 【ＦＭＷ】後楽園ホール
冬木が黒田を引き連れてノア参戦を宣言！

冬木は試合後に黒田をパートナーに指名し、１２・２３ノア有明大会参戦を宣言した。ＦＭＷのＷＥＷタッグのベルトは丸藤・本田組が所有しており、冬木の目的はベルトの奪還だったが、同じように参戦を希望する橋本に話題を全て持っていかれていた。なんとか話題が欲しい冬木は以前にも１１・１９名古屋大会でも「ブタ同士仲良くタッグを組もう」と橋本にとっては迷惑以外の何物でもないエールを送るも完全に無視されていた。冬木は三沢社長に橋本と同様に冬木問題を選手会で取り上げるように訴えたが、多分実現はしないだろう。（幸田珍）

番外編 【リングス】
リングスもちつき大会開催！

12月29日13時から、前田道場で毎年恒例リングスのもちつき大会が今年も開催される。これはリングス・ジャパン全選手が一同に会する数少ない機会。もち食べ放題。サインもらい放題。必要以上にたくさんある、選手相用品ジャンケン大会アリという、実にぜいたくなイベントである。参加費は無料。参加希望者は代表者氏名・住所・参加人数を明記のうえ、渋谷区南平台13－1 サトウビル202　リングス「餅つき参加申込」係までハガキで申し込むこと。

11/29 【怪獣王国】成田空港
佐竹、イノキアイランドへ出稽古

佐竹は闘魂注入を求めて、猪木がいるパラオで4日間の特訓を行う予定で旅たった。『PRIDE』のリングで小川へのリベンジを望む佐竹は、猪木へ「炎のヤリ特訓」を志願すると宣言。また延髄斬りやアリキックから何かを学び、必殺技を開発したいと意欲満々。早ければ佐竹が出場予定の12・31『猪木ボンバイエ』で小川と再戦出来るように猪木へ直訴することも臭わせた。なお会見中おばさん達の団体にサインを求められての嫌な顔一つもせず快くサインを受けていたが、最後に「ところで何の人？」と強烈な言葉が！　失礼だぞ、空手王に！（幸田珍）

Merry Christmas & Happy New Year

2000年のMVPはサクに決定！

サクッとプレゼント

できることならサクにプレゼントしちゃいたい

元気ですかーっ！　闘魂の火種プレゼント敢行ーッ！

10名様

プレステソフトCR闘魂

元気ですかーッ！　この度、新日本のレスラー&アントンを題材にして作られたパチンコ台『CR闘魂』が全国のパチンコ店に超新台として登場&プレステで即ゲーム化決定ーッ！　リーチ場面では各選手の必殺技が飛び出し、お馴染みのテーマ曲も至るところでヘビーローテーション！　￥5800で絶賛発売中！　迷わず買えよ、買えばわかるさ！　お問い合わせ先：日本テレネット（03-5394-6600）

【日本テレネット提供】

3名様

キラー猪木 限定版DVD4枚組ボックスセット

大木金太郎戦、ペールワン戦、ウイリアムス戦などの初期のころから、巌流島決戦、長州戦などアントンのキラーぶりが存分に拝める選りすぐりの13試合を完全収録！　収録時間は実に645分！　完全限定販売だけにセットになったTシャツの方もプレミア化必至というか…。これは持っておかなければダメというか…。これまた家宝にするべき逸品というか…。　ズバリ言って￥31200なんて高くねえんです！

【ポニーキャニオン提供】

オーちゃん直筆 サイン入りゴジラ

前号の表紙&佐竹戦決定後の東スポにオーちゃんとともに登場し、ファンの間では気になることしきりだったゴジラをプレゼント！　オーちゃん本人がサインを記入してくれた、まさに家宝にするにふさわしい逸品だ！　今後のオーちゃんの活躍しだいで、とんでもないお宝になる可能性が大いにアリ！　凄まじい競争率になることが予想されるが、ハガキを送らなければ何も始まらないということで、迷わず応募！

【オーちゃん提供】

1名様

3名様

ぼくらのサクラバマシン

完全限定販売3900体！　髙田道場HP（http://www.takada-dojo.com）&SRS－DXの通販でのみ絶賛販売中！　これが真の桜庭和志フィギュアだ！（by　SRS－DX編集部）　凄まじい勢いで売れまくってる話題商品だけにこの号が出るころには完売してるかも…。

【井上きびだんご提供】

各2名様

アントンTシャツ

SRS－DXが送り出す、マット界の最後の切り札!!　とにかく凄ぇTシャツをということで、真のアントニオ猪木Tシャツを喰らえ！　￥3500（税込）でSRS－DXの通販で販売中！　"KING OF POEM"バージョンは『猪木詩集』出版記念パーティーで配られた非売品！

【井上きびだんご提供】

※『SRS－DX』通販専用NAVIダイヤル（0570-007800）
受付曜日・時間/月曜日～土曜日・AM10:00～PM6:00

サク ニューグッズ

1名様

サクニューグッズ4点セット

みんなが待ち望んでいたサクのニューグッズが遂に登場！　待ち望んでいた甲斐もあって、すばらしすぎるデザインのバーコードTシャツ&パーカー、キャップ、リストバンドをドーンとセットで！　ハイアン戦はこれできめてけ！　Tシャツは￥3800、パーカーは￥5800（ともにサイズはS～XL）、キャップは￥3500、リストバンドは￥3800で絶賛発売中！　商品に関するお問い合わせは、髙田道場（03-5749-5030）まで。

【髙田道場提供】

3名様

『PRIDE.12』ポスター&ポストカード

なかなか会場に行けない人のためにプレゼント！

【DSE提供】

3名様

『PRIDE.11』パンフ&うちわ

キングダムTシャツ

3名様

サイズM

最後のキングダイムTシャツ&Uのテーマ多数収録MD

新道場をオープンさせたキングダムから、今世紀最後のUWF系プレゼント!最後のキングダムTシャツと、UWFのテーマがギッシリ詰まった超貴重品MDをセットで!　なお、現在、大絶賛失踪中の入江選手を見かけた人はキングダムまで連絡を。【入江選手提供】

GCM Tシャツ

サイズM

3名様

コンテンダーズTシャツ&リストバンド

開催する度に確実に売り切れるコンテンダーズグッズの新作から、Tシャツとリストバンドをセットで!　Tシャツのバックプリントのさりげなさがいい!　これさえあれば君も"今風"なナイスガイになれるぞ!　お問い合わせ先:WK／Network(03-5200-3501)【WK／Network提供】

REVOLVER小橋健太Tシャツ

3名様

サイズS~2L

REVOLVER 小橋健太Tシャツ

ノアのジャージやTシャツを手掛けている原宿の超人気ストリートブランド『REVOLVER』が今度は小橋Tシャツをリリース!　巷では有名すぎるブランドの新作なだけに売り切れは必至!　¥4000で発売中!　お問い合わせ先:REVOLVER(03-5770-1487)【REVOLVER提供】

Subscads Tシャツ

サイズM/L

各色5名様

Subscads Tシャツ&ステッカー

LA発ブランドのSubscadsのTシャツは、畑山の世界戦が記憶に新しいボクサーの坂本モデルだ!　どこに貼ろうか迷っちゃうかっこいいステッカーもセット提供!　HP(http://www1/subscads)で購入可能です!　このブランドは今後も要チェック!【Subscads提供】

みちのくプロレス&スクワット限定Tシャツ

陸奥伊達男Tシャツ

サイズL

BACK

各2名様

みちのくケブラーダTシャツ

BACK

仙台の名門ショップ『スクワット』とみちのくプロレスが手を組んで、パンクドランカーズが制作した超限定Tシャツが新発売!　サスケ社長も大満足しているらしい秀逸なデザインが売り!　21世紀に持ってけ!　お問い合わせはスクワット(022-264-8160)まで。【スクワット提供】

ブロディパーカー

1名様

ブロディパーカー

前号の『世界のプロレス』特集のインタビューの際に、チョロが着ていたこのトレーナーをアーウィンが大絶賛!　その記事を読んで感激してくださった「グランドコブラ」さんからアーウィンとブロディに敬意を表して最後の1枚をプレゼント!　ホントにこれが最後のチャンス!　これさえあれば未来は僕らの手の中だ!【グランドコブラ提供】

ファイティングアーツTシャツ

各3名様

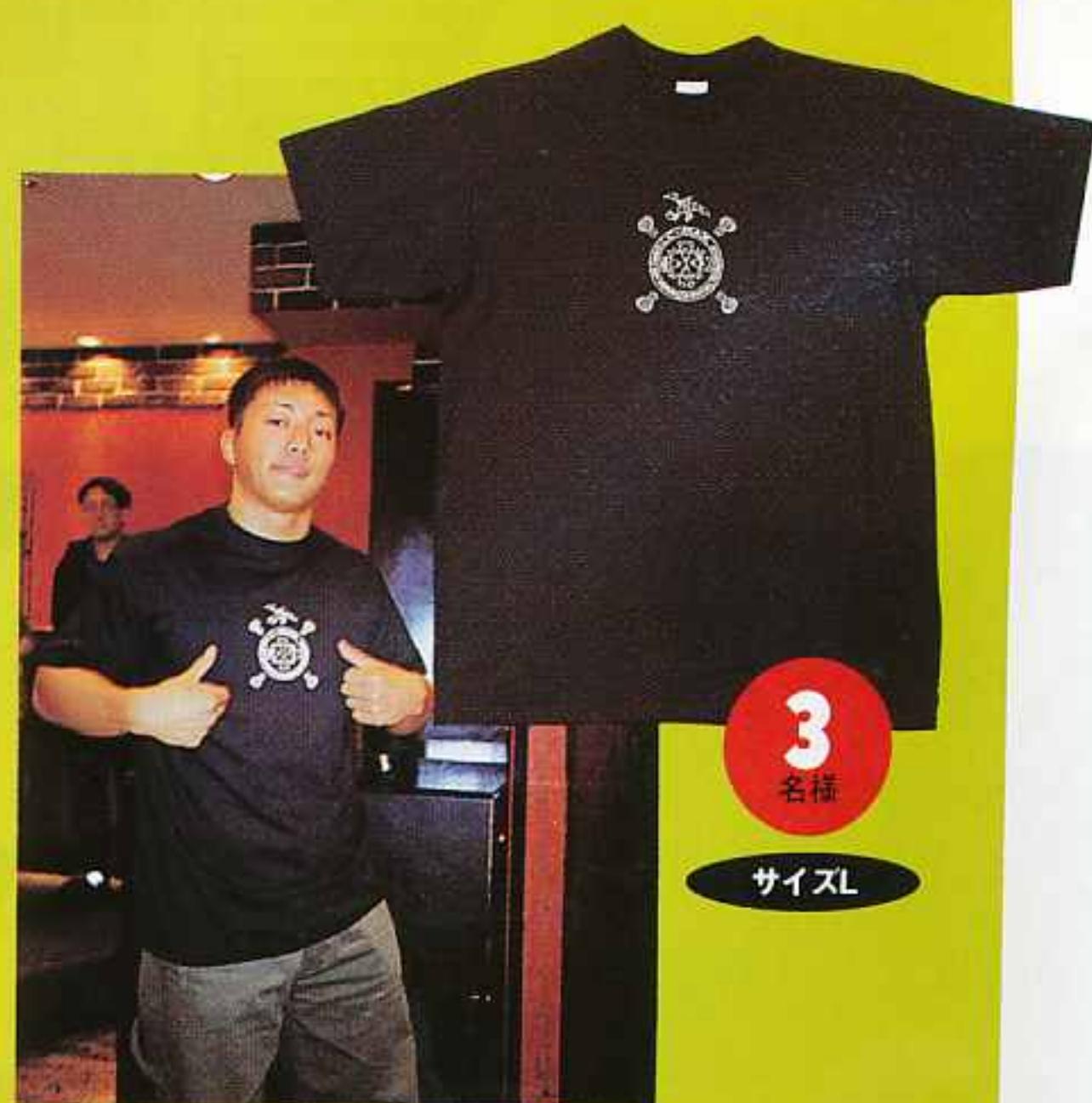
サイズM/L/XL

ファイティングアーツTシャツ&Wネームキーホルダー

福岡の人気ショップ「グランドコブラ」の新作Tシャツ。サイズはM~XLまで、各色限定20枚の超マストアイテム!　¥2900で発売中っす。ストリートブランド「AUTOMATIC」とのWネームキーホルダーはホテルのルームキータイプでかなりイカした感じっす。¥2300っす。【グランドコブラ(092-711-1021)提供】

CIMATシャツ

3名様

サイズL

CIMATシャツ

チャンピオンとC−MAXのコラボTシャツは、もちろん本人もご愛用の一品だ!　闘龍門を目指すちびっ子から、CIMAファンの女性まで、欲しがる人が続出中!【チャンピオン提供】

SIMPLE500シリーズ

THE ヘリコプター
SIMPLE 1500シリーズ Vol.53

THE プロレス 2
SIMPLE 1500シリーズ Vol.52

THE ビリヤード 2
SIMPLE 1500シリーズ Vol.50

5名様

毎日の暮らしに役立つソフトをリリースし続けるプレステの人気シリーズの新作の中からシンプルながらも豪華なラインアップから、ヘリコプター、プロレス、ビリヤードの3作品をプレゼント! お問い合わせ先:ディースリー・パブリッシャー(03-5464-1031)
【株式会社ディースリー・パブリッシャー提供】

ノアフィギュア

5名様

三沢光晴フィギュア&小橋健太フィギュア

プロレスファン待望の三沢と小橋のフィギュアが登場! ノアファンなら抱いて寝ろ! ノアファンでなくとも持っておきたい超必須アイテムだ! お問い合わせ先:キャラクタープロダクト(03-5828-5243)
【キャラクタープロダクト提供】

アレクフィギュア

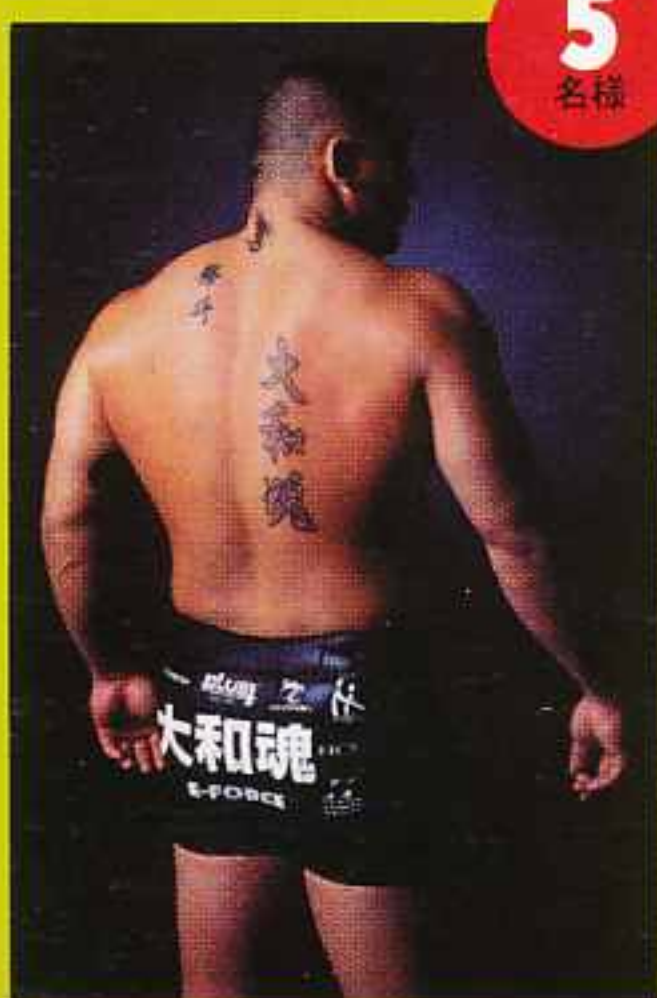
3名様

アレクサンダー大塚フィギュア

凝ったフィギュアをリリースすることに定評があるインスパイアから、サク、エンセンに続いてアレクのフィギュアが登場! もちろんGIジョーのボディを使用し、グローブ部分は着脱式の本格派! んむはぁ! お問い合わせ先:インスパイア(03-5670-9283)
【インスパイア提供】

大和魂カレンダー

5名様

エンセンカレンダー

エンセン井上のオフィシャルカレンダーが登場! 21世紀も、さらに進化した大和魂に期待しよう! 男で生きろ! お問い合わせ:イーフォース・ジャパン(0477-378-6403)
【イーフォース・ジャパン提供】

野獣降臨

10名様

野獣降臨

藤田の初の単行本が登場! 今年の藤田の活躍(全5試合)を振り返るインタビュー(全5本)に加えて親日時代からの全対戦成績、や船木誠勝との対談を収録! まさに紛れもない野獣の証明がここにある。必読!
【メディアワークス提供】

人間爆弾宣言

5名様

山本小鉄著 人間爆弾発言

山本小鉄が、またしても名著を発表! ここ最近のマット界を鬼軍曹がブッタ斬り! 藤原善明、前田日明、アレクとの対談も収録! 男なら読むべき一冊だと断言したい。 お問い合わせ先:勁文社(03-3372-5021)
【勁文社提供】

T・後藤サイン入りパンフ

ターザン後藤直筆サイン入り10・29道場マッチパンフレット

一冊一冊、丁寧に手書きされたインディー魂溢れるレアな逸品に、滅多にサインに応じないことで知られるターザン後藤がサインしてくれた超貴重品!
【ターザン後藤一派提供】

5名様

年末のお供にどうぞ! 今月のビデオ

コンテンダーズビデオ

2名様

大好評だったCONTENDERS(3)2000のビデオが登場! どの試合もハズレなしの全10試合を完全収録! CGにも注目! 【クエスト提供】

親日魂3

3名様

人気シリーズの第3弾! これさえ見れば新日本の根底に流れる"スピリット"が丸わかり! これで新日本スピリットを感じろ! 【ヴァリス提供】

新生! 橋本真也

3名様

ついにマットに帰ってくる破壊王のビデオが登場! ノーテレビバトルから「ZERO」道場での最新インタビューまでを網羅! 【ヴァリス提供】

NBM V スペシャル7

3名様

リリースされ続ける度に大反響! 武藤敬司のビデオシリーズの第七弾が登場! WCWでの活躍とアメリカ生活の密着映像は必見だ!
【ヴァリス提供】

獣神サンダー・ライガーミレニアム

3名様

ラリアットプロレスが主流となった今の親日本で異彩を放ち続けるスーパーJr.戦士ライガーのビデオが登場!
【ヴァリス提供】

STORY OF THE F V−STAGE

2名様

エンターテイメント路線になってからのFMWを完全網羅した究極の一本! チャンピオンのレンタルチャートでも1位を疾走中!
【東芝EMI提供】

応募要項

今月は年賀状がてらのお便りお待ちしてま〜す。2000年のMVPもまだまだ募集してま〜す。先月号で応募してくれた人には、2度目のチャンスということですいませんがもう一度応募してくださ〜い。お待ちしておりま〜す。

応募券

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名
❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼あなたの2000年のMVP、ベスト興行、ベストバウトを教えてください

【宛先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
「紙プロRADICAL」編集部
「紙プロボンバイエ」係まで

※締切は2001年1月20日です

紙のプロレス RADICAL
No.33
2001年1月10日発行
No.34は1月下旬発売予定
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

●編集兼発行人
山口日昇
●編集スタッフ
坂井"スモー"ノブ
松澤チョロ
堀江ガンツ
水戸泉
エキサイティング幸田
戸高11万円
八木賢太郎(トヨタカップ観戦のため非番)
●スーパーバイザー
吉田豪
●広告営業
佐藤恵美
●助っ人
中村愚乱
金田謙太郎
●アートディレクター
出田さん(TwoThree)
●デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
モリやん(以上TwoThree)
トメさん
はなえちゃん(以上さおとめの事務所)
●出前
出前持ち入江(TwoThree)
●カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
黒田史夫
戸成嘉則
松本崇
丸山剛
●試合写真
平工幸雄
乾晋也
●想像妊娠
ジャイ子
●お勘定
林ヘックション一枝
●フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所
●印刷
図書印刷株式会社
●印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元●株式会社ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地 TEL.03-3357-2911(販売・営業)
発行元●株式会社ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 TEL.03-3403-5188(編集・制作)

RADICAL No.33 応募券

プレミア化必至!?

完全限定品

残りわずか!!

冬でもTシャツ!!
そんな元気者に来てほしい!!

KIKAKU, SYUZAI & SATSUEI
U.M.F.
UNIVERSAL MAGAZINE FEDERATION
STARTING OVER
JANUARY.15th 1997

U.M.F.

U.M.F. Tシャツ
(黒×黄)
¥3.800
サイズ S or M or L

SS Tシャツ半ソデ〈赤〉

¥3,500 SorMorL

KING of MAGAZINE
KAMI-NO PRO-WRESTLING

すっかりおなじみになったプロレスTシャツのNEWスタンダード! 花くまゆうさく先生・画。

KING OF MAGAZINE
SS

SS Tシャツ半ソデ〈紺〉

¥3,500 SOLD OUT rMorL

KING of MAGAZINE
KAMI-NO PRO-WRESTLING

最近、某団体も似た色のTシャツを出しましたね。こっちもカッコいいゾ!同じく花くまゆうさく先生・画。

KING OF MAGAZINE
SS

SS Tシャツ長ソデ〈赤〉

¥4,500 Sor SOLD OUT SOLD OUT

KING of MAGAZINE
KAMI-NO PRO-WRESTLING

この春はこれを着てプロレス観戦に出掛けよう! 花くまゆうさく先生・画。お買いあげの方には、もれなく特製ネックピースもプレゼント!

KING OF MAGAZINE
SS

リングおじさんトレーナー

¥5,500 MorL

残りわずか

KING of MAGAZINE
KAMI-NO PRO-WRESTLING

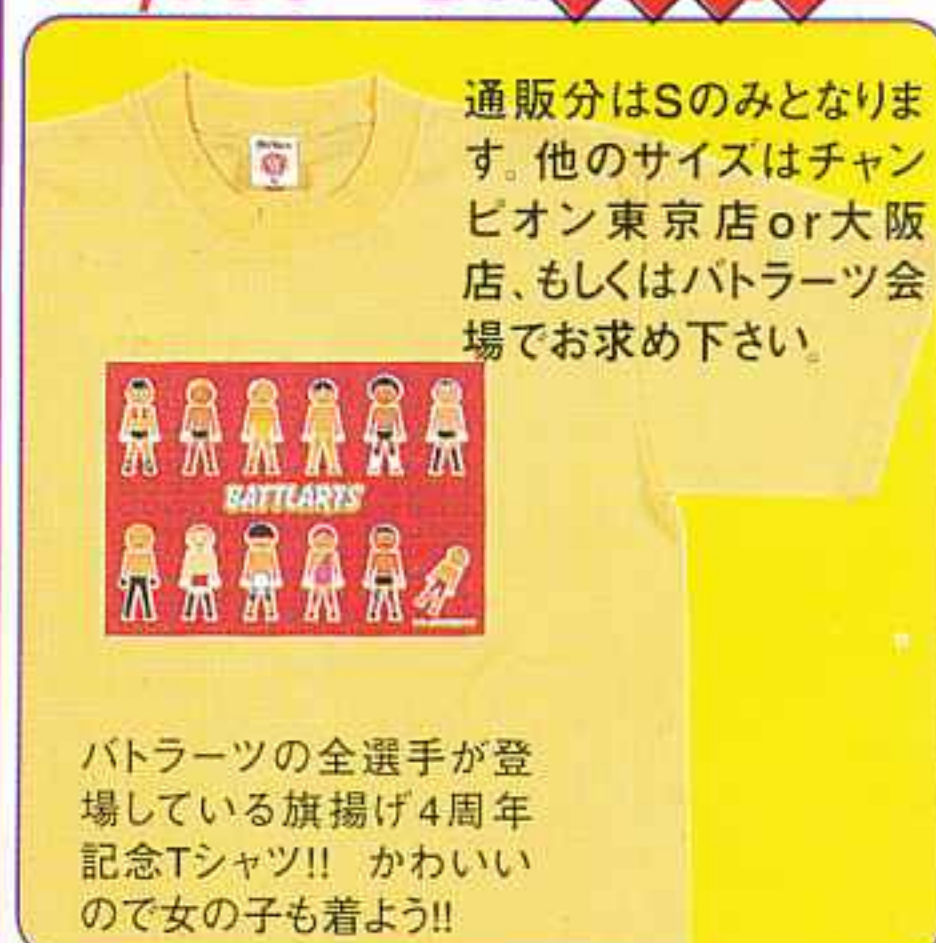
バックのロゴに見覚えが……!? これからの季節、熱く燃えたい人はトレーナーを着てみよう!

バトTシャツ

¥3,500 Sor SOLD OUT SOLD OUT

通販分はSのみとなります。他のサイズはチャンピオン東京店or大阪店、もしくはバトラーツ会場でお求め下さい。

BATTLARTS

バトラーツの全選手が登場している旗揚げ4周年記念Tシャツ!! かわいいので女の子も着よう!!

ジャイ子Tシャツ

¥3,000 SOLD OUT SOLD OUT
ホワイトorアッシュグレー

完売御礼

通販分は完売しました。チャンピオン東京店or大阪店でお求め下さい。

紙プロネックピース

¥1,200

首からブラ下げれば、みんなが振り向くこと間違いなし! こんなにカッコいいネックピースはどこを探しても見当たらないぞ! 長そでTシャツをお買いあげの方にはもれなくプレゼントします!

通販方法

望商品の代金十送料¥500(何枚でも:ネックピースだけなら¥300)を現金書留で、下記住所まで送ってください。あなたの郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品(サイズとカラーをちゃんと書いてね♥)を明記したメモを必ず同封すること! これがないと商品の発送が出来ないのであしからず。隣のページのU.M.F.Tシャツと一緒に申し込みもOKですよ。通販以外では『チャンピオン東京店&大阪店』、札幌『リングパレス』、新たに仙台『スクワット』と岐阜県大垣市『バンザイ商会』で販売中なので、こちらもヨロシク! こちらで買っても長ソデTシャツにネックピースがついてきますので、ご安心あれ。

〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷3-11-3-702
株式会社ダブルクロス
「買っていいとも!!」係まで

お問い合わせ先
(株)ダブルクロス
TEL03-3403-5188

●紙プロTシャツは通販以外だとチャンピオン東京店(TEL.03-3221-6237)、チャンピオン大阪店(TEL.06-6645-5186)、岐阜・バンザイ商会(TEL.0584-75-4966)、宮城・スクワット(TEL.022-264-8160)入手可能です!!

なんでもいいから凄工試合をやってくれ!!

平成13年1月10日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体838円＋税

9784898296387
1929476008381
雑誌 69862-57

印刷：図書印刷株式会社
ISBN4-89829-638-6
C9476 ¥838E

TLINDEX

団体名	住所	電話番号
全日本プロレス	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12	03-3403-7344
プロレスリング・ノア	〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25	03-3527-5311
新日本プロレス	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11	03-5468-3111
FMW	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15 ダヴィンチ下目黒6F	03-5496-0671
リングス	〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1 サトウビル202	03-3461-0257
WAR	〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23 萬豊ビル2F	03-5477-0461
みちのくプロレス	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8	019-626-1333
SPWF	〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4 クロサキビル	03-3814-6371
パンクラス	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25	03-5792-0815
IWAジャパン	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401	03-3352-3366
大日本プロレス	〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347	045-937-0811
バトラーツ	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43	0489-63-0005
DDT	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内	03-3356-8493
高田道場	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ワイルドパレス武蔵小山1F-B1	03-5749-5030
UFO	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5 OK白金台ビル7F	03-5447-2121
大阪プロレス	〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7 日宝東心斎橋ビル301	06-6243-5131
闘龍門JAPAN	〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り5-3-18	078-362-0707
ダイプロデュース(大仁田興行)	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-28-3 ハイラーク五反田505	03-5496-4900
世界のプロレス	〒807-0054 福岡県遠賀郡水巻町二東2-8-6	093-203-5170
掣圏道	〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14 恵比寿スカイハイツ607	03-5456-7333
レッスル夢ファクトリー	〒165-0032 東京都中野区鷺宮5-15-11	03-5828-8494
キングダム・エルガイツ	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305	0423-31-2797
キャプチャー	〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1 横山ビルB1	044-959-3333
国際プロレス	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14	0467-86-0197
メビウス	〒167-0034東京都杉並区桃井4-1-15	03-5382-6991
つぼプロモーション	〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1 アパルトマン青山2F−E	03-3498-4710
華☆激	〒810-0022 福岡市中央区薬院4-8-29 エステートピア薬院302	092-522-1901
喧嘩プロレス二瓶組	〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2 二瓶ビル	044-588-2438
ZIPANG	〒229-0002 神奈川県相模原市渕野辺本町2-37-19 コスモハイグランド106	0427-54-8851
T.A.M.A	〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5	042-572-6795
CMLL・JAPAN	〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151	075-601-7816
UNW	〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311	03-3362-3014
栗栖ジム	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7	06-6790-8896
ドリームステージエンターテインメント	〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4 ルーメリ赤坂103	03-5775-5700
K−1事務局	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14	03-3796-2977
修斗コミッション	〒173-0001 東京都板橋区本町34-4 石田コーポラス501	03-3961-2704
WK/Network(和術慧舟會、A3GYM、RJW)	〒103-0021 東京都中央区日本橋石町3-3-11 山田ビル5F	03-5200-3546
シュートボクシング協会	〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ1〜3F	03-3843-1212
UFC−J事務局	〒163-0430 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル30F	03-3343-2444
怪獣王国	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F	03-5952-1177
コロシアム事務局	〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12 テレビ東京事業部内	03-3432-1682
全日本女子プロレス	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17	03-3493-6541
JWP	〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10 大秀ビル502	03-3839-4161
LLPW	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4 ビクセル文京105	03-3945-7926
GAEA JAPAN	〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3 COVAMOC BUILDING 2F	03-3795-2555
Jd'	〒107-0052 東京都港区赤坂2-12-10 国際溜池ビル7F	03-5561-0522
アルシオン	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1 代官山島田ビル3F	03-5720-5217
NEO	〒153-0042 東京都目黒区青葉台4-2-22-101	03-5452-0344

胸いっぱいのセクシービーム発射!

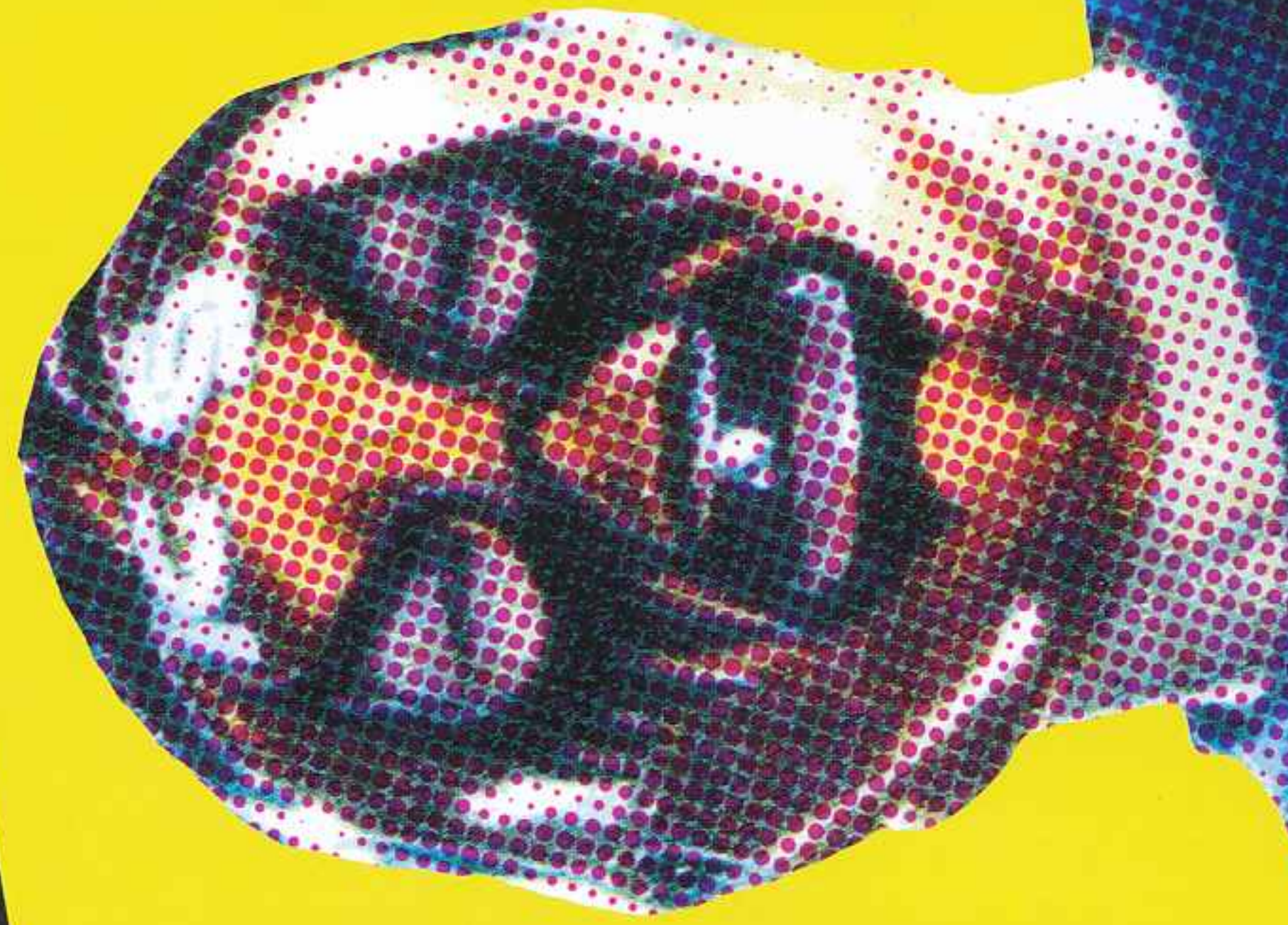
紙のプロレス RADICAL

2000 33

4周年だってな

"ギャングスター"中山香里からの"お祝い"だよ…

●紙のプロレスRADICAL No.33特別付録

ザ・カラスその華麗なる世界

CAL CALENDAR

1 January

2 TUE.

全日本■東京・後楽園ホール（12:30）
大日本■東京・後楽園ホール（18:30）

3 WED.

全日本■東京・後楽園ホール（12:30）
大日本■三重・四日市オーストラリア記念館（18:30）

4 THU.

新日本■東京・東京ドーム（16:00）●

5 FRI.

大仁田興行■東京・渋谷ONAIR　EAST（17:00）
アルシオン■東京・後楽園ホール（19:00）

6 SAT.

全日本■広島・広島市東区スポーツセンター（17:00）
大仁田興行■福岡・博多スターレーン（18:00）
ノア■東京・ディファ有明（15:00）
アルシオン■茨城・ひたちなか市松戸体育館（18:30）
Jd'■大阪・大阪ベイサイドジェニー

7 SUN.

全日本■福岡・小倉北体育館（17:00）
FMW■東京・後楽園ホール（12:30）
大日本■神奈川・川崎市体育館（18:30）
バトラーツ■東京・後楽園ホール（18:30）
大仁田興行■熊本・合志町総合センターウィーブル（19:00）
ノア■東京・ディファ有明（15:00）
JWP■東京・後楽園ホール（18:30）
アルシオン■新潟・新潟フェイズ（18:00）

8 MON.

全日本■大分・大分県立荷揚げ町体育館（17:00）
大日本■静岡・アクトシティ浜松（14:00）
ノア■静岡・ツインメッセ静岡（14:00）
DEEP2001■名古屋・愛知体育館（16:00）◆
アルシオン■新潟・上越市厚生南会館（13:00）
NEO■東京・北沢タウンホール（17:00）

10 WED.

全日本■埼玉・熊谷市立市民体育館（18:30）

11 THU.

大日本■愛知・名古屋市体育館（18:30）
ノア■高知・高知県民体育館（18:30）

12 FRI.

ノア■香川・高松市民文化センター（18:30）
アルシオン■静岡・キラメッセぬまづ（18:30）

13 SAT.

ノア■大阪・大阪府立体育館（17:00）
アルシオン■千葉・木更津市倉形イベントホール（18:30）

14 SUN.

全日本■東京・後楽園ホール（12:30）
みちのく■宮城・ニューワールド仙台テニスクラブ（14:00）
ノア■福岡・博多スターレーン（17:00）
GAEA■東京・後楽園ホール（18:30）
アルシオン■神奈川・小田原アリーナ（18:00）

15 MON.

大日本■大阪・大阪府立体育館第2競技場（18:30）
ノア■山口・海峡メッセ下関（18:30）

16 TUE.

FMW■東京・後楽園ホール（18:30）
ノア■岐阜・岐阜産業会館（18:30）

18 THU.

ノア■東京・後楽園ホール（18:30）
アルシオン■鳥取・倉吉体育文化会館（18:30）

19 FRI.

アルシオン■岡山・岡山卸センターオレンジホール（18:30）

20 SAT.

クラブファイト■大阪・MOTHER　HALL（21:00）
GAEA■静岡・アクトシティ浜松展示イベントホール（18:00）
アルシオン■岡山・岡山県立津山総合体育館（18:30）

21 SUN.

GAEA■大阪・梅田ステラホール（17:00）
Jd'■東京・後楽園ホール

22 MON.

タイタンファイト■東京・平和島東京流通センター内アールンホール♠

25 THU.

アルシオン■茨城・つくばカピオ（18:30）

26 FRI.

NEO■東京・板橋産文ホール（19:00）

27 SAT.

CMLL■愛知・名古屋CLUBオゾン（15:00）
GAEA■愛知・名古屋国際会議場（18:00）
アルシオン■東京・ディファ有明（18:00）

28 SUN.

全日本■東京・東京ドーム（15:00）●
CMLL■東京・後楽園ホール（12:00）

29 MON.

CMLL■京都・京都KBSホール（18:30）

31 WED.

CMLL■福岡・博多スターレーン（18:30）

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇
◎ スモーノフ
♠ 松澤チョロ記者
◆ ガンツ堀江
□ 水戸泉（仮）
♡ エキサイティング幸田
● 戸高11万円

RADICAL CA

●はイベント情報です。

12 December

7 THU.

DDT■東京・渋谷club　ATOM（19:00）
ノア■秋田・大館市民体育館（18:30）
アルシオン■長崎・ncc&スタジオ（18:30）

8 FRI.

ノア■仙台・宮城県スポーツセンター（18:30）
アルシオン■福岡・アクロス福岡（18:30）
NEO■東京・板橋産文ホール（19:00）

9 SAT.

全日本■東京・日本武道館（18:00）
パンクラス■青森・青森県武道館（18:30）
みちのく■山口・海峡メッセ下関（18:30）
大阪■大阪・NGKスタジオ（19:00）
WWS■埼玉・上里町民体育館（18:30）
アルシオン■佐賀・諸富町文化体育館（18:30）

10 SUN.

新日本■名古屋・愛知県体育館（16:00）
FMW■東京・後楽園ホール（18:30）
みちのく■京都・KBSホール（14:00）
大阪■大阪・NGKスタジオ（15:00）
ノア■静岡・アクトシティ浜松（15:00）
K−1■東京・東京ドーム（17:00）
Jd'■東京・ディファ有明（18:00）
アルシオン■熊本・グランメッセ熊本（15:00）

11 MON.

みちのく■富山・魚津市ありそドーム（18:30）

12 TUE.

ノア■茨城・鹿島市立体育館（18:30）
LLPW■東京・後楽園ホール（19:00）

13 WED.

みちのく■新潟・新潟フェイズ（19:00）
ノア■神奈川・伊勢原市体育館（18:30）
アルシオン■北海道・千歳スポーツセンター（18:30）

14 THU.

新日本■大阪・大阪府立体育会館（19:00）
みちのく■神奈川/・小田原アリーナサブアリーナ（18:30）
DDT■東京・後楽園ゆうえんち内ジオポリス（19:00）♠♥
アルシオン■北海道・余市町総合体育館（18:30）

15 FRI.

みちのく■東京・後楽園ホール（18:30）
闘龍門■神奈川・川崎市体育館（18:30）
ノア■新潟・新潟市体育館（18:30）

16 SAT.

FMW■静岡・アクトシティ浜松展示イベントホール（18:00）
みちのく■静岡・ツインメッセ静岡（18:30）
華☆激■愛知・名古屋市
UFC−J■東京・ディファ有明（17:00）□♥
アルシオン■北海道・札幌テイセンホール（18:30）

17 SUN.

みちのく■静岡・アクトシティ浜松（14:00）
掣圏道■東京・ディファ有明（18:00）
GAEA■東京・後楽園ホール（12:00）
アルシオン■北海道・札幌テイセンホール（13:00）

18 MON.

アルシオン■北海道・三笠スポーツセンター（18:30）

19 TUE.

新宿プロレス■大阪府立体育館第2競技場（18:00）
アルシオン■北海道・富良野スポーツセンター（18:30）

20 WED.

FMW■東京・後楽園ホール（18:30）
レッスル夢ファクトリー■東京・板橋産文ホール（17:00）
アルシオン■北海道・豊浦町ふるさとドーム（18:30）

21 THU.

DDT■東京・渋谷club　ATOM（19:00）
アルシオン■北海道・富良野スポーツセンター（18:30）

22 FRI.

リングス■大阪・大阪府立体育館（18:00）★◆
ノア■神奈川・川崎市立体育館（18:00）

23 SAT.

新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
大阪■大阪・ひらかたパークイベントホール（14:00）
ノア■東京・有明コロシアム（15:00）◎
DSE『PRIDE.12』■埼玉・さいたまスーパーアリーナ（17:00）★
全日本女子■東京・後楽園ホール（12:00）

24 SUN.

大日本■東京・後楽園ホール（12:00）
バトラーツ■東京・TOKYO　FMホール（18:00）
大阪■大阪・ひらかたパークイベントホール（14:00）
ノア■東京・ディファ有明（17:00）
イーグルプロ■栃木・小山市文化センター小ホール（13:00）
アルシオン■東京・後楽園ホール（18:30）

25 MON.

NEO■東京・葛飾区金町地区センター（17:00）

27 WED.

IWA■東京・後楽園ホール（18:30）
キングダム■東京・北沢タウンホール（18:30）

28 THU.

●今世紀最後の『紙プロ』主催イベント
世紀末ミレニアム『紙プロ』ボンバイエ■東京・新宿ロフトプラスワン（18:00予定）
ミレニアムゲスト有り

29 FRI.

新宿プロレス■新宿・東京大飯店（1部15:00　2部19:00）□
Jd'■東京・後楽園ホール（18:30）

31 SUN.

ミレニアムファイティングアーツ　猪木ボンバイエ■大阪・大阪ドーム（19:00）★
EWP■東京・ディファ有明（23:30）♠

1

2 TUE.

全日本■東京
大日本■東京

3 WED.

全日本■東京
大日本■三重

4 THU.

新日本■東京

5 FRI.

大仁田興行■
アルシオン■東

6 SAT.

全日本■広島・
大仁田興行■
ノア■東京・デ
アルシオン■茨
Jd'■大阪・大

7 SUN.

全日本■福岡・
FMW■東京・後
大日本■神奈川
バトラーツ■東京
大仁田興行■熊
ノア■東京・ディ
JWP■東京・後
アルシオン■新潟

8 MON.

全日本■大分・大
大日本■静岡・ア
ノア■静岡・ツイン
DEEP2001■名古
アルシオン■新潟
NEO■東京・北沢

10 WED.

全日本■埼玉・熊

11 THU.

大日本■愛知・名
ノア■高知・高知

12 FRI.

ノア■香川・高松
アルシオン■静岡

13 SAT.

ノア■大阪・大阪